新建築

SHINKENCHIKU 2021

1

※建築士試験合格実績において

総合資格学院は正真正銘の日本一

【正真正銘】しょうしん - しょうめい：全くうそいつわりのないこと。本物であること。〈広辞苑〉

合格実績 NO.1

おかげさまで
総合資格学院は「合格実績日本一」を達成しました。
これからも有資格者の育成を通じて、
業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院
学院長 岸 隆司

【重要】当学院の「日本一」の表記は民間の調査機関等による特定の方を対象とした調査によるものではありません。

※（公財）建築技術教育普及センター発表の数値に基づく当学院調べ

ストレート合格者占有率 64.6%

2019年度 1級建築士 学科＋設計製図試験
全国ストレート合格者1,696名中／当学院当年度受講生1,095名
（2020年2月5日現在）

全国ストレート合格者のおよそ3人に2人は当学院の当年度受講生!

合格者占有率 59.9%

2019年度 1級建築士 設計製図試験
全国合格者3,571名中／当学院当年度受講生2,138名
（2020年2月12日現在）

全国合格者のおよそ6割は当学院の当年度受講生!

合格者占有率 50.0%

2019~2015年度 1級建築士 学科試験
全国合格者合計24,436名中／当学院受講生12,228名
（2019年9月10日現在）

全国合格者の2人に1人以上は当学院の受講生!

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に沿って掲載しております。 ※当学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国合格者数・全国ストレート合格者数は、（公財）建築技術教育普及センター発表に基づきます。
※学科・製図ストレート合格者とは、2019年度の1級建築士学科試験に合格し、2019年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

総合資格学院なら 1級建築士試験に 1年で合格できる!

優れた実績を挙げ続ける講習システムをさらにチューンナップ

詳細はHPへ

令和の大改革 を進行中!

2020年度 1級建築士 学科試験

学習方法の選択で合格に大きな影響が!

当学院基準達成 当年度受講生 合格率 **51.0%**
8割出席・8割宿題提出
当年度受講生 3,973名中／合格者 2,028名 （2020年9月8日現在）

全国合格率 20.7% に対して

その差 3倍

独学者、他スクール利用者 合格率 **17.2%**
（当学院調べ）

2020年度 建築設備士 第二次試験（設計製図）

当学院当年度受講生合格率 **66.4%**
当年度受講生134名中／合格者89名
（2020年11月5日現在）

全国合格率 41.4% に対して

独学者、他スクール利用者合格率 **37.1%**
独学者、他スクール利用受験生782名中／合格者290名

その差 約30%

2020年度 2級建築士 学科試験

当学院基準達成当年度受講生合格率 **93.1%**
8割出席・8割宿題提出・総合模擬試験正答率6割達成
当年度受講生895名中／合格者833名

当学院当年度受講生合格者数 1,974名

その差 54.3%
当学院基準達成者以外の合格率 38.8%

（2020年8月25日現在）

2020年度 2級建築士 設計製図試験

当学院基準達成当年度受講生合格率 **82.6%**
8割出席・8割宿題提出・模試2ランクI達成
当年度受講生841名中／合格者695名

当学院当年度受講生合格者数 1,974名

その差 31.9%
当学院基準達成者以外の合格率 50.7%

（2020年12月10日現在）

2020年度 1級建築施工管理技術検定 学科試験

当学院基準達成当年度受講生合格率 **91.1%**
7割出席・7割宿題提出・模擬試験(2)正答率6割達成
当年度受講生304名中／合格者277名
（2020年11月20日現在）

2019年度 設備設計1級建築士講習 修了考査

当学院当年度受講生修了率 **84.8%**
当学院当年度受講生46名中／修了者39名
（2019年12月18日現在）

New! 人材紹介 はじめました。
許可番号 13ーユー306159

只今、オープニング特別価格でご案内中!
人材紹介のご希望・お問い合わせは下記にご連絡ください
人材センター 03-6304-5411 career-info@shikaku.co.jp

2021年度試験対策 受講生募集中!
1級・2級建築士講座

2021 合格セレクトショップ
教材プレゼント 各種ガイダンス 受験願書取り寄せ 全て¥0 詳しくはHPへ

総合資格学院
東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22階 TEL.03-3340-2810
スクールサイト www.shikaku.co.jp コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp
Twitter ⇒「@shikaku_sogo」 Facebook ⇒「総合資格 fb」 総合資格 検索

講座一覧

1級・2級 建築士	1級・2級 建築施工管理技士	1級・2級 土木施工管理技士	1級・2級 管工事施工管理技士	1級 造園施工管理技士
構造設計1級建築士 設備設計1級建築士	建築設備士	宅地建物取引士	賃貸不動産経営管理士	インテリアコーディネーター

法定講習

一級・二級・木造 建築士定期講習	第一種電気工事士定期講習	宅建登録講習
管理建築士講習	監理技術者講習	宅建登録実務講習

KMEW

グランネクスト

Simple

シンプル

GOOD DESIGN AWARD 2019
BEST 100

撮影　ヴィブラフォト／浅田美浩

小田原のイメージを具現化

小田原は江戸時代には関東の要衝として小田原藩が置かれ、東海道屈指の宿場町として繁栄しました。設計に当たっては、「宿場町のこころを、いまに再現する」をコンセプトに掲げ、駅東口ペデストリアンデッキからの小田原城への眺望を確保。小田原城との文化や歴史、伝統との調和を図り和風木造建築とすることで小田原のイメージを際立たせました。千鳥破風をモチーフに、瓦屋根や漆喰壁、下見板張りなどの和素材を用い、瓦は淡路瓦、外装材は神奈川産杉材を採用。城下町・宿場町として栄えたかつての小田原のイメージの具現化を目指しました。本建物が地域交流の拠点として、さらに発展していくことを願っています。

「ミナカ小田原」

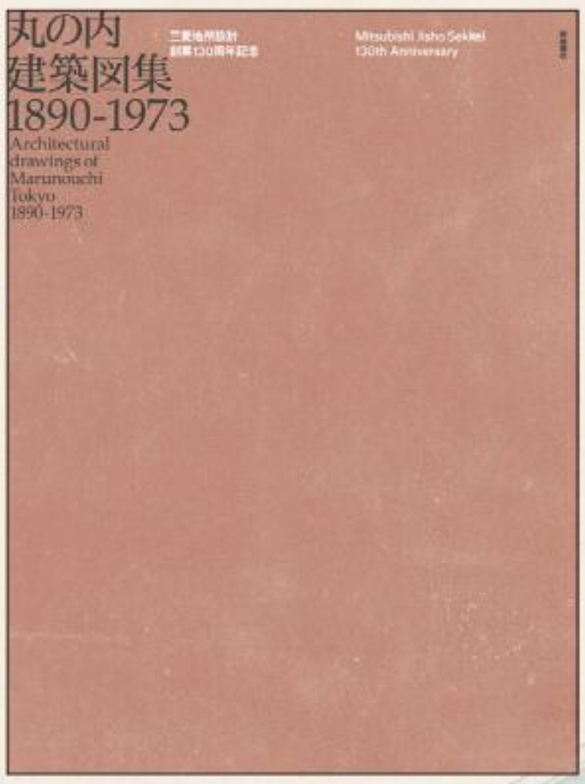
企画設計：万葉倶楽部株式会社 一級建築士事務所
実施設計：五洋建設株式会社 本社一級建築士事務所
木造設計：株式会社シェルター 建築設計事務所
環境デザイン：株式会社アンデザイン
施　　工：五洋建設株式会社
木造施工：株式会社石井工務店
敷地面積：　5,639.70 ㎡
建築面積：　4,054.00 ㎡
延床面積：31,419.40 ㎡
階　　数：地下 1 階、地上 14 階

Shelter®
木造都市のパイオニア　株式会社 シェルター
東京支社 ／ 港区芝5-13-15　tel.03-5418-8800
本　　社 ／ 山形市松栄1-5-13　tel.023-647-5200

都市（まち）に森をつくる。
木造建築を通して、都市をつくっています。建築・都市計画を通して、環境及び環境問題に関する調査・研究・情報の提供を行っています。

https://www.shelter.jp
@shelter.jp

明治中期～昭和の丸の内オフィス街の貴重な設計図面から、
都市建築の近代化の変遷が分かる!!



三菱地所設計創業130周年記念

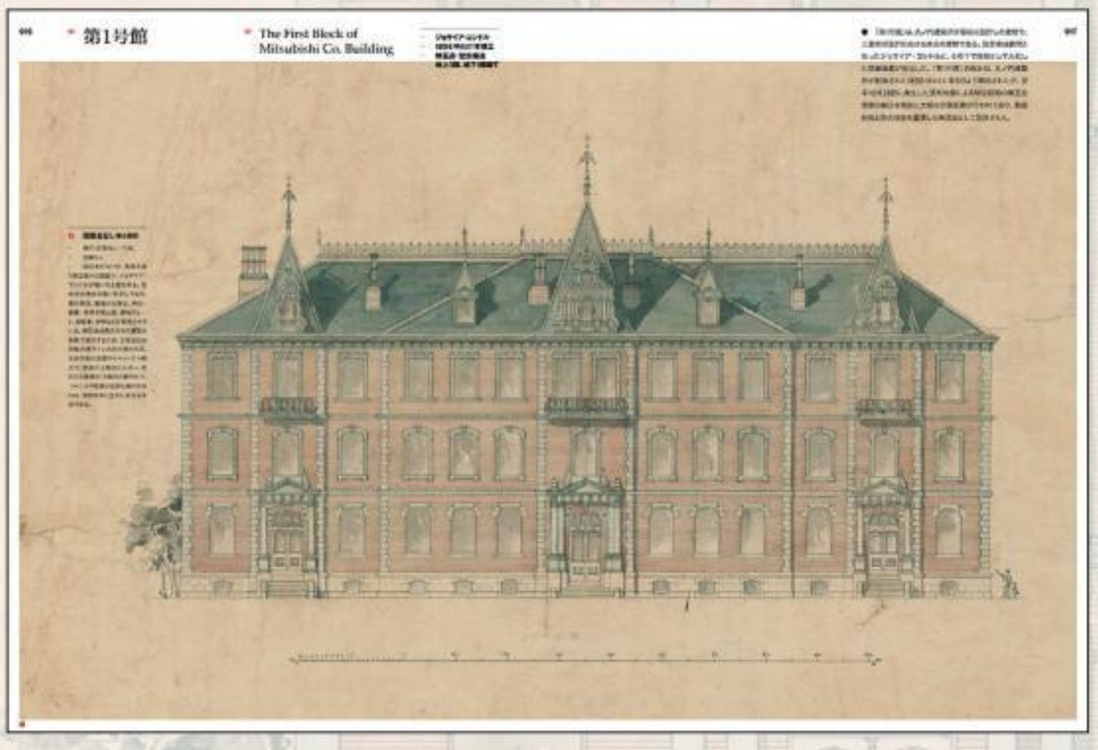
『丸の内建築図集　1890-1973』

Architectural drawings of Marunouchi Tokyo
1890−1973

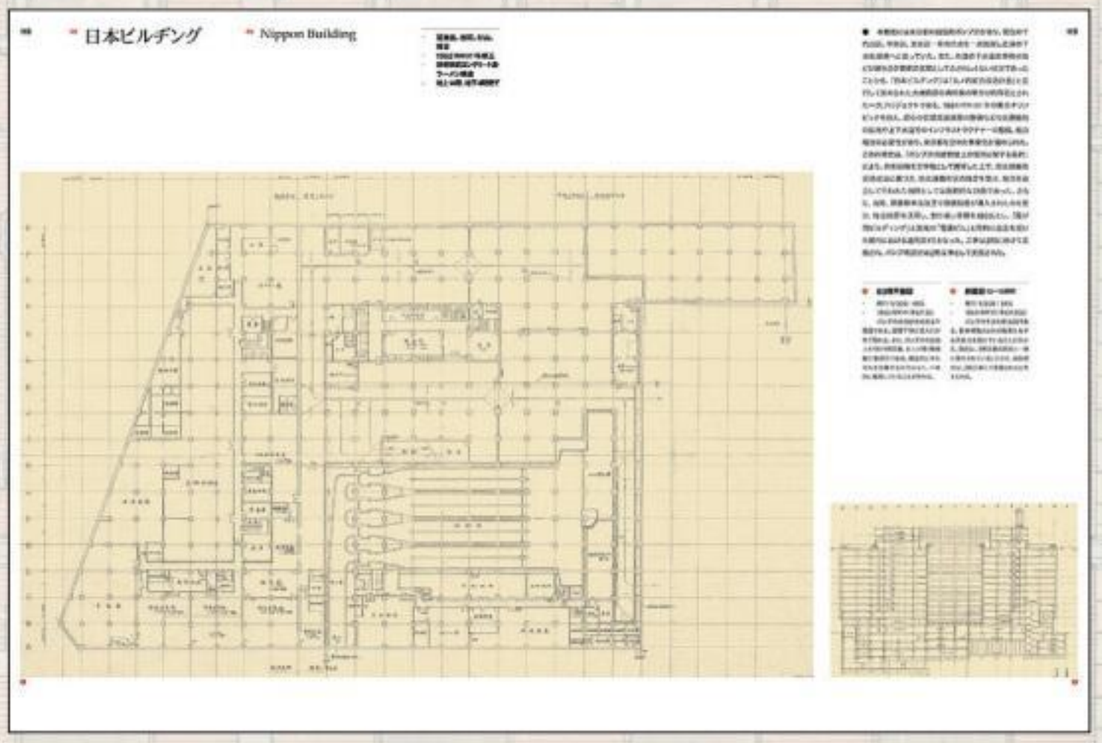
好評発売中！

A4変型判／160頁／日本語
定価：2,970円［本体価格：2,700円］

三菱地所設計は、1890年に東京・丸の内を初めてのオフィス街とするために三菱社に設けられた丸ノ内建築所をルーツとします。創業130周年を迎える2020年9月に、その特集号を2冊同時発行致しました。本書は「第1号館」（ジョサイア・コンドルを顧問建築家として迎え設計、1896年竣工）から丸ノ内総合改造計画（1959年）までの丸の内に建てられた建築の図面と、その調査分析した研究についてまとめました。三菱地所設計の長い歴史と、その価値を受け継ぎ未来の価値創造へと繋いでいく姿勢からは、これから縮小・成熟へと移行していく現代において、都市や建築への向き合い方の示唆を与えてくれるでしょう。



「第1号館」



「日本ビルディング」

もう1冊の
特集号も注目!!

『新建築』2020年9月別冊

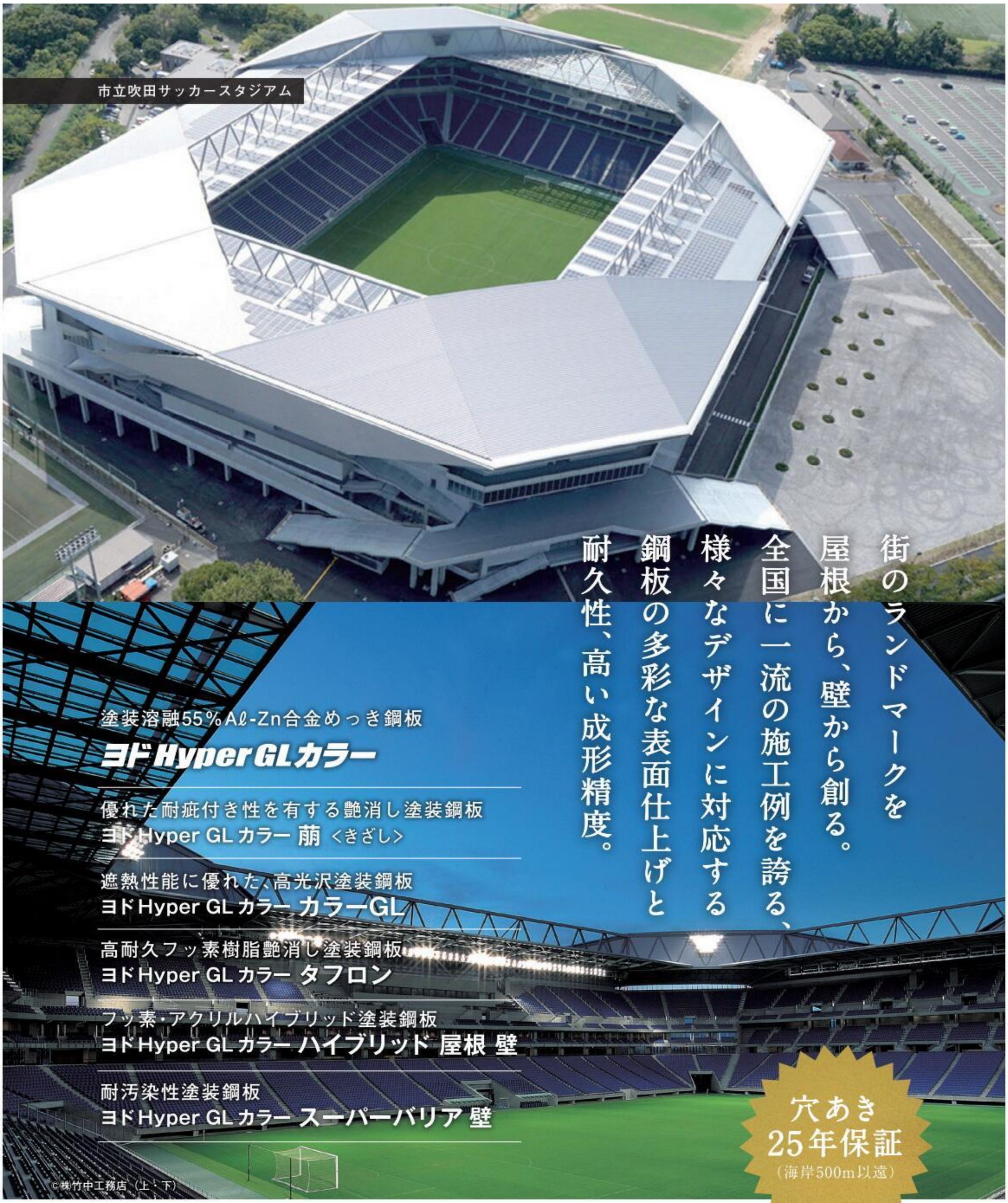
想う力　未来へつなぐ

Power of Imagination, Shaping the Future

現在の三菱地所設計の礎となっている「都市への洞察力」、「本質と品質の追求」と、そのベースにある「総合設計力」という3つの視点により、「第1号館」から進行中の「常盤橋プロジェクト」（2027年竣工予定）に至るまでの膨大なプロジェクトを、まとめた特集号。

定価：4,100円［本体価格：3,727円］　　**A4変型判／208頁／日本語・英語併記**

発行　株式会社新建築社　東京都千代田区霞が関3丁目2番5号　霞が関ビルディング17階　〒100-6017　TEL：03-6205-4380　FAX：03-6205-4386　https://shinkenchiku.online



株式会社 淀川製鋼所 https://www.yodoko.co.jp
本　社／〒541-0054 大阪市中央区南本町4丁目1番1号　営業二部 ☎(06)6245-1256

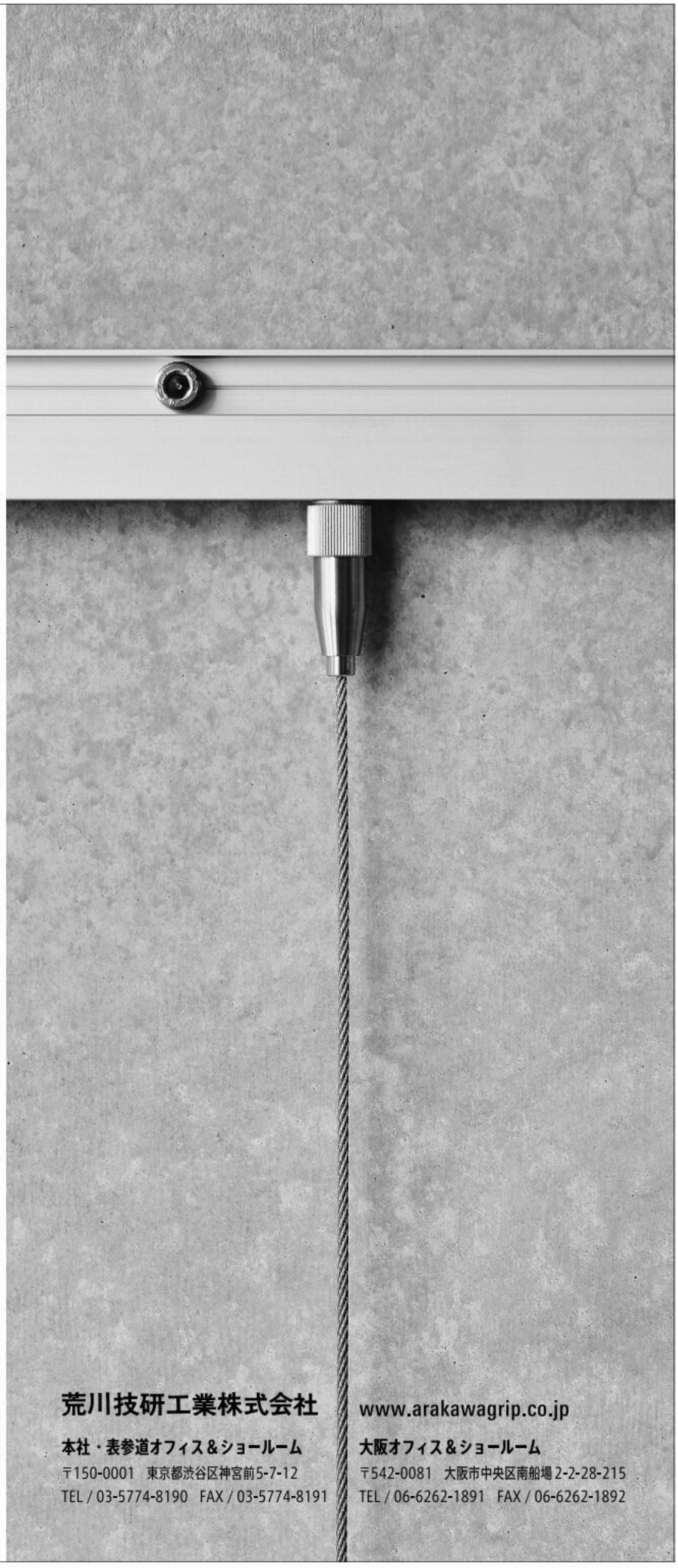
ARAKAWA

ワイヤーと奏でる 無限の可能性

アラカワハンギングシステム（アラカワグリップ）は、
1975年に世界で初めて弊社が開発しました。
ボールベアリングを利用し、ワンタッチでレベル調整ができ、
安全・確実にワイヤーを固定できる金具です。
様々なパーツの中から
適切な金具を選択し、応用することにより、
世界にひとつだけの空間演出が可能になります。
アラカワはオリジナル、安全、良いデザインを
追求しつづけます。

ARAKAWA GRIP

ワイヤーシステム・ワイヤー手すり・ピクチャーレール



荒川技研工業株式会社

本社・表参道オフィス＆ショールーム
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前5-7-12
TEL / 03-5774-8190　FAX / 03-5774-8191

www.arakawagrip.co.jp

大阪オフィス＆ショールーム
〒542-0081　大阪市中央区南船場2-2-28-215
TEL / 06-6262-1891　FAX / 06-6262-1892

天井漏水ストップ機能　特許取得済

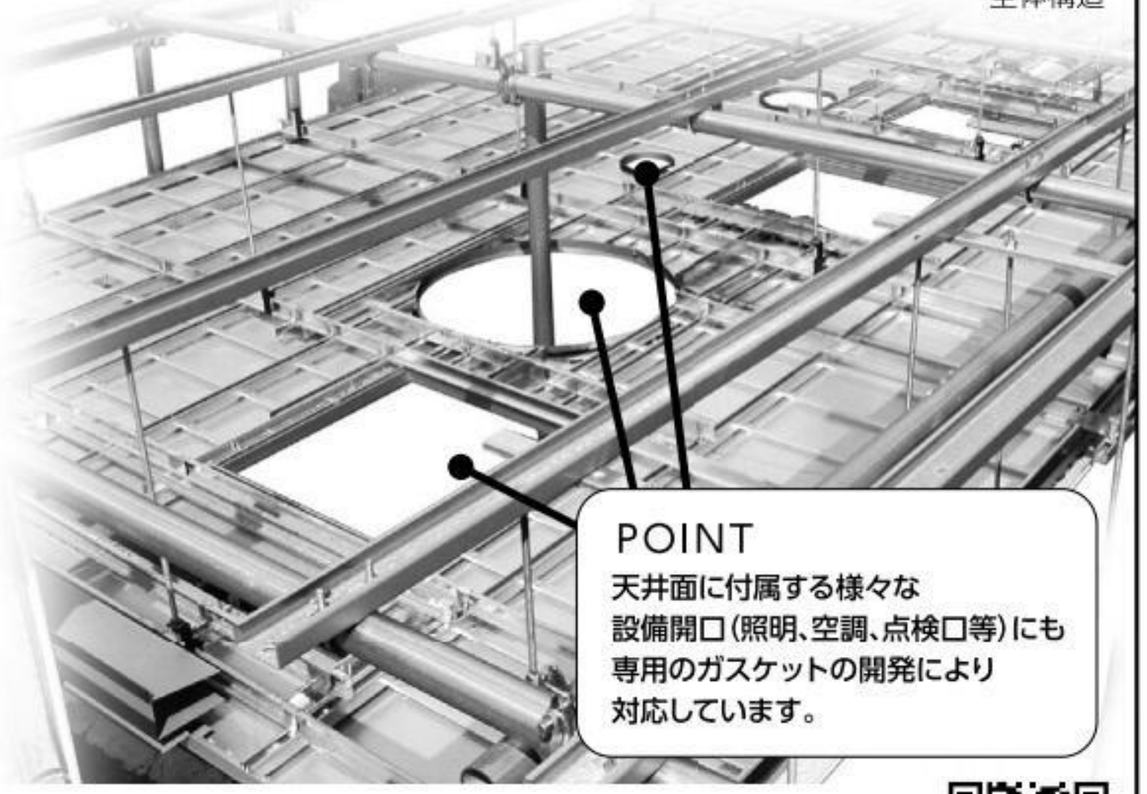
導水システム天井

専用の導水天井を用いて漏水を上手く導き排水する画期的なシステムです。

天井からの漏水！スペースの問題もあり二重天井を施す事もできない

仕上材=受桶にすることで、省スペース化し漏水問題を解決！

全体構造

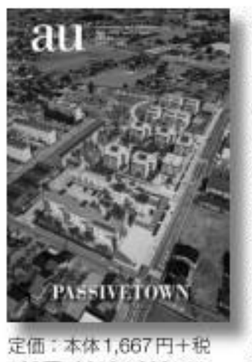


森村金属株式会社　【本社】〒578-0912 大阪府東大阪市角田1-8-1

製品のお問合わせ先▶大阪072-962-7321／東京03-3552-0191／名古屋052-453-2247／九州092-432-8619

製品の詳しい内容は
導水システム天井　で検索

新建築 au　別冊・臨時増刊 案内



定価：本体1,667円＋税
128頁／219×292mm

a+u 2018年4月別冊

PASSIVETOWN パッシブタウン

YKKグループが所有する富山県黒部市にある社宅跡地を活用して進めている「パッシブタウン」の特集号。地域に吹く「あいの風」や太陽熱、黒部川扇状地に流れる豊富な伏流水など自然のエネルギーを最大限に活用した全6街区のハウジング計画で、建築家がパッシブデザインを用いて各街区の建物を設計し、2017年6月までに第1〜3期街区が完成。本誌では、この地域の環境をどのように捉え、どのように自然エネルギーを活かしたか、各建物で実践されたパッシブデザインを詳細に紹介します。

定価：本体2,381円＋税
152頁／219×219mm

a+u 2018年7月臨時増刊

和紙のある空間／堀木エリ子作品集2

「建築空間に生きる和紙造形の創造」をテーマに、オリジナル和紙を用いた企画・制作から施工までを手掛ける堀木エリ子の作品集。2007年に出版した作品集に続く第2弾で、2008〜2018年の11年間で、堀木が手がけた数多くの作品の中から約30作品を厳選して紹介。伝統的な手漉き和紙の手法を用いつつ、燃える、汚れる、破れる、退色する、精度がないなどの難点を克服し、合わせガラス、コーティング、照明効果などの最新技術と融合することで、現代建築に合わせた和紙をつくり出しています。

定価：本体3,241円＋税
192頁／221×297mm

新建築 2018年8月別冊

ARCHITECTURAL DESIGN WORKS／大和ハウス工業 建築設計の仕事

大和ハウス工業は単なるハウスメーカーではありません！　創業期より社会が必要とする建物を探り、それを広く事業化することで新たな社会と建築の関係を構築してきた大和ハウス工業。今や建設業界第1位の売上高を記録し、建築系（商業施設・事業施設）の売上高だけでもスーパーゼネコンと肩を並べ、成長を続けています。本誌では、プレハブ住宅の原点となったミゼットハウス、時代のニーズに合わせて進化するシステム建築の数々など、建築設計の仕事をその時代背景と共に紹介します。

定価：本体2,593円＋税
164頁／221×297mm

新建築 2018年11月別冊

臨海住宅地の誕生／福岡市のシーサイドももちとアイランドシティを通じて考える

近代化の過程で臨海部の埋め立てが次々と行われた福岡。経済の発展に貢献した一方、住民から海を遠ざけてしまった反省から、住宅地を含む実験的な都市として開発されたシーサイドももちと、現在も開発が進められているアイランドシティ。福岡を代表する臨海住宅地はどのようにして生まれたのか。大規模で長期間にわたったプロジェクトを、福岡という都市の背景から、開発過程、今後に至るまでを、つぶさに見ていくことで、生きた住宅地づくりの手がかりを探ります。

定価：本体3,333円＋税
208頁／221×297mm

新建築 2018年12月別冊

臺北南山廣場 ARCHITECT'S DIARY 2012-2018 三菱地所設計

台湾の台北101に隣接する新たなランドマークとして、超高層オフィスタワー（高さ272m）と商業・文化施設からなる「臺北南山廣場」が完成しました。設計は、長年の超高層建築の実績（池袋サンシャイン60、横浜ランドマークタワーなど）と、丸の内で培われてきた複合都市開発の歴史を持つ三菱地所設計。本書は、台湾では近年稀に見る規模の市街地開発／建設プロジェクトと、その完成に至るまでのプロセスを「Architects' Diary」の名の通り1日単位で追っていきます。

詳細はウェブサイトをご覧ください。
https://shinkenchiku.online

株式会社新建築社
〒100-6017　東京都千代田区霞が関3-2-5　霞が関ビルディング17階
tel. 03-6205-4380　fax. 03-6205-4386

AUTO DOOR

寺岡は誰もが安心して出入りできる
空間づくりをサポート。

空港　スポーツ関連施設　公共交通　商業施設

MFS-2

多機能トイレ用自動ドアスイッチ

ユニバーサルデザインを意識した
視認性に優れた触知パネルスイッチで
快適性を追求します。

多言語音声案内システム対応
日本語 / 英語 / 中国語 / 韓国語
※ オプション

寺岡オートドア株式会社
http://www.teraoka-autodoor.co.jp/
寺岡自動ドア　検索

○札　幌 ☎011-231-4568 ○仙　台 ☎022-782-2411 ○水　戸 ☎029-251-8611
○東　京 ☎03-3493-3521 ○東　京 ☎03-5718-5111 ○甲　府 ☎055-241-8221
○新　潟 ☎025-268-3221 ○松　本 ☎0263-58-0777 ○名古屋 ☎052-911-2361
○金　沢 ☎076-265-5418 ○大　阪 ☎06-6372-6066 ○広　島 ☎082-873-3131
○高　松 ☎087-862-3828 ○福　岡 ☎092-626-8877 ○長　崎 ☎095-813-3821
○鹿児島 ☎099-210-1382 ○那　覇 ☎098-886-0946　ほか全 80 拠点

'20 CUD COLOR UNIVERSAL DESIGN

MFS-2多機能トイレ用自動ドアスイッチは、多彩な色覚を持つさまざまな人に配慮して、全ての人に、情報が正確に伝わるように配慮されたデザイン（カラーユニバーサルデザイン）に対応し、カラーユニバーサルデザイン機構からCUD認証を取得しました。

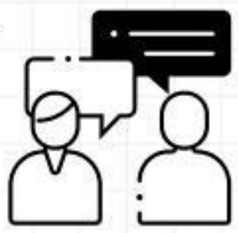
建築設計事務所の就職・転職情報サイト
a-worker.com/

建築人のための求人サイト A-worker新しくなったココがスゴイ!!

設計事務所の人とチャットができる！

「話がしたい」機能は、応募に進む前の段階で、
担当者に直接チャットで質問できます。

事務所見学に招待してもらったり、
選考に案内されたりと、
多くのチャンスがつかめるかも？！



建築への想いが伝わる web履歴書！

採用担当者が知りたいポイントを厳選した
建築専用の履歴書が作成できます！

さらに、設計実績や学校の設計課題など、
ポートフォリオも登録できます。

A-workerなら“あなたの想い”が伝わる
START

建築設計者のための求人サイト
A-worker

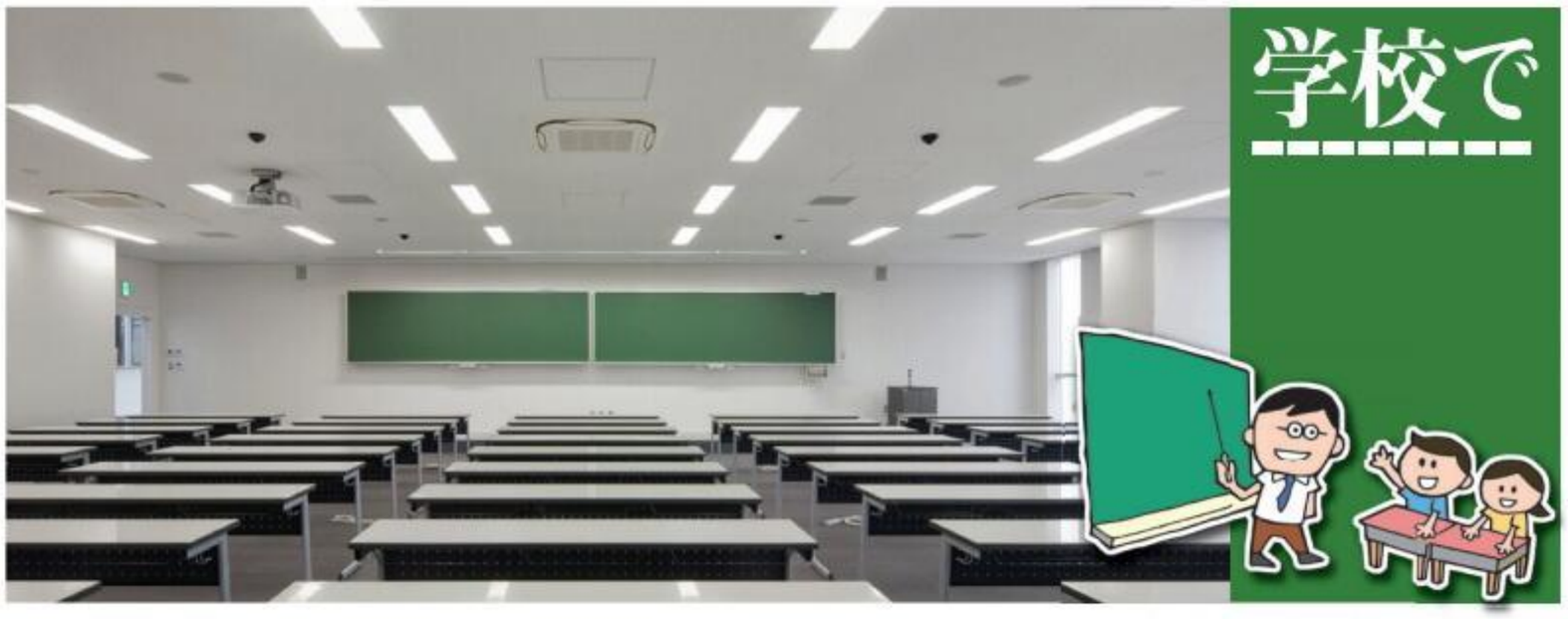
Tel.050-3733-3020
平日 10:00～12:00 / 13:00～17:00
運営会社：ユニオンシステム株式会社

@aworker55　@a_worker
@aworker_kenchiku
エーワーカー　＃建築が大好きだ＃建築求人

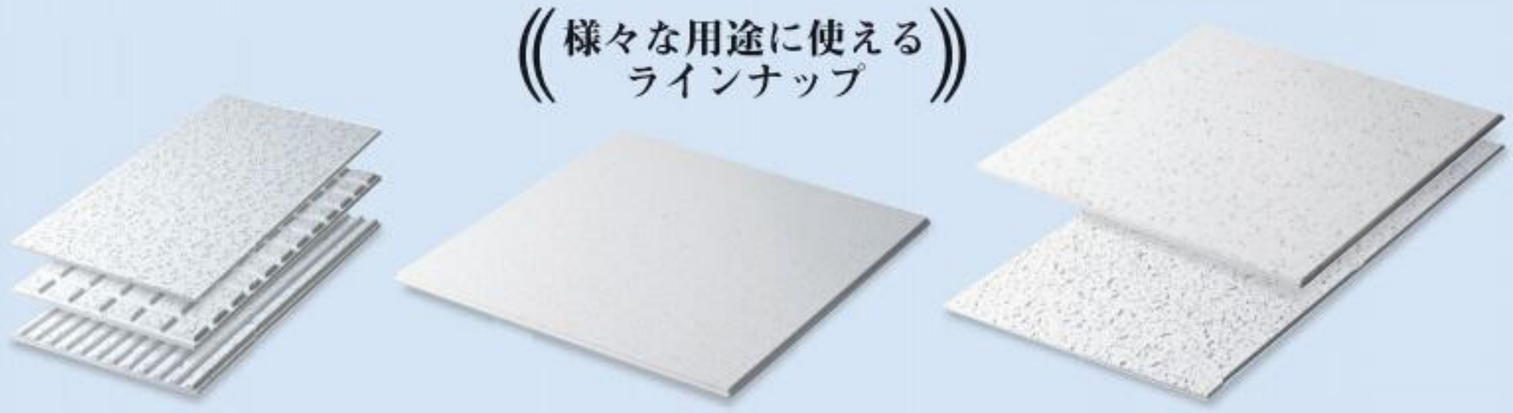
美しく、確実に吸音！

ざわめき音を抑えた空間を作ります。

ソーラトンは、耳障りな反響音を吸収して落ち着いた室内環境をつくります。
造形的なパターンの美しさでオフィスビルや、商業施設、病院、学校など幅広い建物に
使われています。



《様々な用途に使えるラインナップ》



捨て張り工法用　グリッド工法用　直張り工法用

ロックウール化粧吸音板　ソーラトン

- ◎吸音性
- ◎断熱性能
- ◎不燃材料（認定番号NM-8599）
- ◎ゼロアスベスト
- ◎ホルムアルデヒド規制対象外

エコマーク認定番号 第11123013号

YOSHINO
安全で快適な住空間を創る 吉野石膏
本社〒100-0005　東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル
ホームページ（URL）http://www.yoshino-gypsum.com/
●お問い合わせは：吉野石膏DDセンター 03-3284-1181

製造元
日本ソーラトン株式会社

建築論壇

054 **そとをたてる**
石上純也

060 **人びとのための場所** 都市と建築とランドスケープが融け合う先の社会像
藤本壮介

作品15題

064 **谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館** 谷口吉生／谷口建築設計研究所

082 **神奈川工科大学KAIT広場** 石上純也建築設計事務所

100 **白井屋ホテル** 藤本壮介建築設計事務所

112 **YUBUNE**（1階） 西沢立衛建築設計事務所

118 **三栄建設 鉄構事業本部新事務所** 竹中工務店

128 **HANEDA INNOVATION CITY I期**
KAJIMA DESIGN（全体計画・鹿島工区） 大和ハウス工業（大和工区）

138 **クアパーク長湯** 坂茂建築設計

146 **日貫一日**
dot architects＋アトリエ縁（安田邸） 加藤正基（一揖）
UMA / design farm（ディレクション）

154 **蒲郡園芸サポート施設** architecture WORKSHOP ／北山恒＋工藤徹＋江島史華

162 **WAKKA** 倉林貴彦建築設計事務所

168 **Yanagase PARK LINE 2020**
柳ヶ瀬を楽しいまちにする（総合プロデュース）
ミユキデザイン＋伊藤維建築設計事務所（会場構成）

172 **Hisaya-odori Park 久屋大通公園整備運営事業**
大成建設一級建築士事務所（公募対象公園施設） 日建設計・大成建設一級建築士事務所（特定公園施設）

178 **名古屋テレビ塔** 日建設計／若林亮＋石森秀一＋木村征也

184 **CO・MO・RE YOTSUYA（コモレ四谷）**
日本設計・三菱地所設計共同企業体（基本設計・デザインディレクション）
大成建設一級建築士事務所（実施設計）

192 **みずほ丸の内タワー・銀行会館・丸の内テラス**
三菱地所設計（全体共用部・丸の内テラス専有部） 日本設計（みずほ丸の内タワー専有部） 久米設計（銀行会館専有部）

CONTENTS

新建築2021年1月号　目次

NEWS

011 「仙台市役所本庁舎建替基本設計業務委託に係る受注候補者選定」で石本建築事務所・千葉学建築計画事務所設計共同企業体が受注候補者／「邑南町立石見中学校改築工事基本設計業務選定」でシーラカンスアンドアソシエイツが受託候補者／「藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理事業化検討」で三菱地所レジデンスら／「第6回茶山台団地リノベーションコンペ」でナノメートルアーキテクチャーが選定／森ビル，世界の都市総合力ランキング2020発表／第30回AACA賞，芦原義信賞発表――AACA賞に京都市美術館（通称・京都市京セラ美術館），芦原義信賞にCHRONOS DWELL／2020年度JIA環境建築賞発表――JIA環境大賞は「一宮のノコギリ屋根」／第6回ウッドデザイン賞発表――最優秀賞は「有明体操競技場」／2020年度日事連建築賞発表――国土交通大臣賞は「三好市地域交流拠点施設『真鍋屋』MINDE」／「伝統建築工匠の技」がユネスコ無形文化遺産に／長期優良住宅は住棟単位の認定制度へ

EXHIBITION

015 **生誕100年 石元泰博写真展 伝統と近代**
日本のたてもの―自然素材を活かす伝統の技と知恵
工匠と近代化―大工技術の継承と展開―
シン・マサキネンカン
住総研シンポジウム **それでも人は他者と空間をシェアする**
装飾をひもとく―日本橋の建築・再発見―

019 BOOKS

FOCUS-IN

021 機能とデザインを融合させた建築と照明
――「早稲田大学本庄高等学院体育館」を通して
ルイスポールセン

198 DATA SHEET ／ PROFILE
211 DESIGN PRODUCTS
212 TOPICS

220 月評　平田晃久＋藤原徹平　髙橋一平　松川昌平
青柳創（小野江綾＋佐藤達保＋吉川圭司）

224 編集後記

022 **第56回セントラル硝子国際建築設計競技応募要項**
025 **第55回セントラル硝子国際建築設計競技入賞発表**
033 **第47回日新工業建築設計競技結果発表**
046 **新建築住宅設計競技2020結果発表**

表紙の作品：神奈川工科大学KAIT広場
南東より見る.
撮影：新建築社写真部

新建築
SHINKENCHIKU:2021

1

新建築　第96巻1号
2021年1月1日発行　毎月1回1日発行
定価　2,420円　本体2,200円
振替　00150-6-30658
編集発行人　吉田信之
編集長　四方裕
副編集長　内藤麻美
発行所　株式会社新建築社
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
霞が関ビルディング17階　〒100-6017
tel:　(03)6205-4380　代表／総務部・出版部
(03)6205-4381　編集部・デジタル編集部
(03)6205-4382　広告部
(03)6205-4392　写真部
fax:　(03)6205-4386　総務部・出版部
(03)6205-4387　編集部・広告部・写真部
青山ハウス
東京都港区南青山二丁目19番14号　〒107-0062
tel:　(03)6455-5596
fax:　(03)6455-5583
e-mail: shinkenchiku@japan-architect.co.jp
URL: https://shinkenchiku.online
印刷所　大日本印刷株式会社
取次店　トーハン／日販／楽天ブックスネットワーク／
鍬谷／西村
©SHINKENCHIKU-SHA 2021　ISSN1342-5447
禁無断転載複写

新建築データ　株式会社新建築データ
e-mail: contact@shinkenchiku-data.com

元旦 屋根に夢と技術をのせて

伝統建築の華やかさを表現する
元旦チタン本瓦棒

建　物　名：**片瀬江ノ島駅**（神奈川県藤沢市）
基本設計：小田急エンジニアリング・菅野企画設計
実施設計・監理：小田急エンジニアリング・清水建設一級建築士事務所
施　　工：清水建設

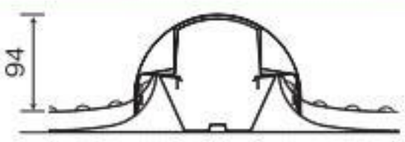
さらに詳しく、施工例を知りたい方は　元旦ビューティ　片瀬江ノ島駅

施工例を空中撮影でご紹介
空から見る美しい屋根
BIRD VIEW GANTAN
QRコードを読み取ってください。

芯木なし工法で腐食に強く　高耐久性の金属成型瓦

元旦の本瓦棒

本瓦棒 元旦'84



本瓦棒 元旦'17

製造・発売元　元旦ビューティ工業株式会社
本社／〒252-0804 神奈川県藤沢市湘南台1-1-21 TEL.0466-45-8771　FAX.0466-45-3031

フリーダイヤル　マルク　ヨク　サンキュー
0120-09-49-39
https://www.gantan.co.jp

全国約8,000人のネットワーク
施工元旦会
全国元旦会
信頼・安心・確かな技術で責任施工
全国約8000人の施工ネットワーク

「仙台市役所本庁舎建替基本設計業務委託に係る受注候補者選定」で石本建築事務所・千葉学建築計画事務所設計共同企業体が受注候補者

去る12月2日，仙台市は「仙台市役所本庁舎建替基本設計業務委託に係る受注候補者選定」公募型プロポーザルの結果を発表．石本建築事務所・千葉学建築計画事務所設計共同企業体を受注候補者とした．次点は久米・AL設計共同企業体．書類審査で選出された5者で公開プレゼンを行い，受注候補者を決定した．審査委員長は伊東豊雄，副委員長は佐藤滋，委員は乾久美子，小林光，佐々木睦朗，岩城利宏の6氏．受注候補案は，「街・杜・人の営みが集う庁舎」をコンセプトに低層部に周辺市街地から連続する立体的な街路空間を提案．日常的な散歩道，さまざまなイベント利用，災害時の防災拠点となる場所を計画．「仙台市のシンボルとして，長く市民に愛される建築」を目指し，街路空間の賑わい，小さな活動の活力，広場の活気，風や光の恵み，市民の杜の営みの5つの要素を取り入れることを意図した．2023年度に実施設計をまとめ，2024年度から本体工事着手，2027年度に完成，2030年度に外構を含む全体完成を予定．

提供：石本建築事務所・千葉学建築計画事務所設計共同企業体

イメージパース．

「邑南町立石見中学校改築工事基本設計業務選定」でシーラカンスアンドアソシエイツが受託候補者

去る12月7日，島根県邑智郡邑南町は「邑南町立石見中学校 改築工事 基本設計業務」公募型プロポーザルの結果を発表．シーラカンスアンドアソシエイツを受託候補者とした．

同計画は，1966～68年に竣工した石見中学校を改築するもの．時代に応じて整備・改装が実施されてきたが，老朽化などによる修繕が増加し，改築を行うこととなった．受託案は「地域と共に成長していく石見中学校をみんなでつくる」をコンセプトに周辺環境への配慮と安全性を徹底した配置計画，多様な交流創出を意図した「学びの並木道」などを提案．対話を大切にする空間提案になっている事，ラーニングセンター，教科ラボについて学習履歴を日常的に感じられる空間として設えられていることなどが評価された．履行期間は2021年5月末まで．

提供：シーラカンスアンドアソシエイツ

イメージパース．上：ラーニングセンター．左下：俯瞰．右下：南側外観．

「藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理事業化検討」で三菱地所レジデンスら

去る12月8日，藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理準備会は「藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理事業化検討」のパートナーに三菱地所レジデンスを代表とするグループを決定した（構成員：三菱地所，フジタ）．同計画は慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに隣接する小田急江ノ島線，相鉄いずみ野線，横浜市営地下鉄ブルーライン「湘南台駅」の西側約2.7kmに位置する地区に商業施設，中高層住宅，研究拠点などを整備するもの．提案は産業系，商業系，中高層住宅，低層住宅，農業系の5つのゾーンに分け，それぞれ整備を行う．2021年度に業務代行予定者を選定，2022年度以降に実施設計などを目指す．

「第6回茶山台団地リノベーションコンペ」でナノメートルアーキテクチャーが選定

去る12月11日，大阪府住宅供給公社は「令和2年度公社茶山台団地住戸改善事業」事業提案競技の結果を発表．ナノメートルアーキテクチャーを最優秀提案者として特定した．同計画は泉北ニュータウン内に若年夫婦・子育て世帯向けの魅力的な住宅を供給するためのアイデアを求めるもの．2戸1化リノベーションタイプを2住戸，1住戸リノベーションタイプ1住戸のプランが募集された．

選定案は「口の字壁がつくる，集いの間と小さな部屋が紡ぎ出すこれからの働き方とくらし」をコンセプトに家族人数や働き方の変化に柔軟に対応できるプランを提案．2021年1月中旬に着工し，2021年5月下旬に完成，7月下旬の入居者募集を目指す．

提供：ナノメートルアーキテクチャー

庭付き1住戸リノベーションの提案イメージパース．

森ビル，世界の都市総合力ランキング2020発表

去る12月8日，一般財団法人森記念財団都市戦略研究所は世界の都市総合力ランキング（Global Power City Index，以下GPCI）2020を発表．総合ランキングで東京は昨年と同じく3位となった．

GPCIは同財団が2008年から調査・発表している世界主要48都市を対象に都市の力を総合的に評価するもの．「経済」「研究・開発」「文化・交流」「居住」「環境」「交通・アクセス」の6分野から都市の力を総合的に評価を行う．東京は昨年と同じ順位ではあるものの，1位ロンドン，2位ニューヨークからさらにスコアを引き離された．

UNION

ArtWare® in history. 時に磨かれて、未来へ。

1958年創業。以来、半世紀以上にわたりこの国を代表する建築家たちからの厚い信頼のもと
数々の名建築を象徴する意匠として、採用されてきたユニオンのアートウェア。
今回のカタログでは、時を経て味わいを増し、今もなお、現役で活躍するドアハンドルの名品をシリーズでご紹介します。

建築家・吉田五十八によるドアハンドル｜リーガロイヤルホテル大阪 1965 年

new catalog www.artunion.co.jp

最新カタログ『アーキズムシリーズ』カタログ請求は www.artunion.co.jp よりお申し込みください。

本社:〒550-0015 大阪市西区南堀江2-13-22　東京支店:〒135-0021 東京都江東区白河2-9-5 tel 03-3630-2811 fax 03-3630-2816　大阪支店:〒550-0015 大阪市西区南堀江2-13-22 tel 06-6532-3731 fax 06-6533-2293　名古屋営業所:〒454-0805 名古屋市中川区舟戸町3-20 tel 052-363-5221 fax 052-363-5255

第30回AACA賞，芦原義信賞発表

── AACA賞に京都市美術館（通称・京都市京セラ美術館），芦原義信賞にCHRONOS DWELL

去る12月10日，日本建築美術工芸協会（aaca，岡本賢会長）は，第30回AACA賞・芦原義信賞の結果を発表した．AACA賞には青木淳氏（青木淳建築計画事務所），西澤徹夫氏（西澤徹夫建築事務所），森本貞一氏（松村組），久保岳氏（昭和設計），橋匡太氏の「京都市美術館（通称・京都市京セラ美術館）」（本誌2005），芦原義信賞（新人賞）に藤森雅彦氏の「CHRONOS DWELL」（同1902）が選出された．選考委員長は古谷誠章氏，AACA賞・芦原義信賞以外の受賞作品は以下の通り．

【優秀賞】▷のだのこども園（同2011）＝水上哲也（水上哲也建築設計事務所）　▷垂井町役場＝永廣正邦，日比淳，森一広，簾藤麻木（梓設計）　▷尼崎パーキングエリア（同1907）＝納谷学，納谷新（納谷建築設計事務所）

【奨励賞】▷松山大学文京キャンパス myu terrace＝勝山太郎，多喜茂，甲斐圭介（日建設計）　▷松原市民松原図書館（同2005）＝高野洋平，森田祥子　▷木頭の家（『新建築住宅特集』2006）＝坂東幸輔，藤野真史（坂東幸輔建築設計事務所），名和研二（なわけんジム）　▷すばる保育園（本誌1806）＝藤村龍至／RFA＋林田俊二／CFA

【特別賞】▷熊本城特別見学通路（同2006）＝塚川譲，堀駿（日本設計）

【美術工芸賞】▷HOTEL STRATA NAHA＝富山晃一（全体統括），中原典人，湯川ちひろ，友口理央，佐々木絢子，小泉智史，藤田はるひ（UDS），渡瀬育馬，内海大空（Dugout），長堂嘉範，伊波和哉（デザインスタジオ琉球楽団）

撮影：新建築社写真部

京都市美術館（通称・京都市京セラ美術館），

2020年度JIA環境建築賞発表

── JIA環境大賞は「一宮のノコギリ屋根」

去る12月12日，日本建築家協会（JIA，六鹿正治会長）は「2020年度JIA環境建築賞」のオンライン形式の最終審査会を開催し，川島範久氏（川島範久建築設計事務所）の「一宮のノコギリ屋根」（『新建築住宅特集』1804）をJIA環境大賞に選出した．

同賞は優秀な環境建築や活動を選定し，社会に伝えることで地球環境に対する建築家の視野を広めることを目的としたもの．今回から「環境建築とは何か」という建築家の強いメッセージとなる作品や活動を評価する「JIA環境大賞」が創設された．審査委員長は小堀哲夫氏．そのほかの受賞作品は以下の通り．

【優秀賞】▷クールツリー＝日建設計（水出喜太郎氏）　▷港南区総合庁舎（本誌1705）＝小泉アトリエ（小泉雅生氏）　▷大きな地形を背負う環境住宅（『新建築住宅特集』1812）＝都市建築設計集団・UAPP（手島浩之氏）

撮影：新建築社写真部

一宮のノコギリ屋根．

第6回ウッドデザイン賞発表

──最優秀賞は「有明体操競技場」

去る12月10日，ウッドデザイン賞運営事務局（活木活木森ネットワーク，国土緑化推進機構、ユニバーサルデザイン総合研究所）は第6回「ウッドデザイン賞2020」の受賞作品を発表．

最優秀賞に「有明体操競技場」（日建設計，清水建設ら）（本誌1909）が選出された．同賞は「木」に関するあらゆるモノ・コト（「建築・空間・建材・部材」「木製品」「コミュニケーション」「技術・研究」の4分野）を対象に3つの消費者視点（「暮らしを豊かにする」「人を健やかにする」「社会を豊かにする」）から優れた製品・取り組み等を表彰するもの．

2020年度日事連建築賞発表

──国土交通大臣賞は「三好市地域交流拠点施設『真鍋屋』MINDE」

優れた建築作品を設計した建築士事務所の表彰により，建築士事務所の資質向上に資することを目的とした「日事連建築賞」の2020年度受賞作品が発表された．国土交通大臣賞に「三好市地域交流拠点施設『真鍋屋』MINDE（y+M design office・カイトアーキテクツ）」，日事連会長賞に「新潟の集合住宅Ⅲ（細海拓也一級建築士事務所）」が選ばれた．

優秀賞は奈良公園バスターミナル（アール・アイ・エー大阪支社）／など6作品

奨励賞は東京藝術大学国際藝術リソースセンター（IRCA）1期（日建設計）など9作品．

「伝統建築工匠の技」がユネスコ無形文化遺産に

去る12月17日，文化庁は「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを発表．同内容は自然素材を建築空間に生かす知恵，周期的な保存修理を見据えた材料の採取や再利用など古代から途絶えることなく伝統を受け継いで，工夫を重ねて発展して来た伝統建築技術を対象とする．

「建造物修理」「建造物木工」「檜皮葺・柿葺」「茅採取」「建造物漆塗」「建具製作」「装潢修理技術」「日本産漆生産・精製」など国の選定保存技術のうちの17件からなる．

長期優良住宅は住棟単位の認定制度へ

去る12月14日，国土交通省は「既存住宅流通市場活性化のための優良な住宅ストックの形成及び消費者保護の充実に関する小委員会」第2回会合を開催．長期優良住宅制度について分譲マンションを対象に管理組合が住棟単位で認定を受けることができるよう見直すべきとした．従来は区分所有者ごとに住戸単位で認定する仕組みだったが，共同住宅の新築に占める認定割合が0.2％に留まり，十分に活用されていなかった．そのほか，一定の性能を有する良質な既存住宅は建築行為を伴わなくても認定を取得できるようにすべきと議論された．

東西アス協組建築講演会
ONLINE オンライン 2021

建築CPDプログラム
認定申請中（２単位）

「コロナに負けるな——
生きる力をたくわえる」

photo by 閑野欣次

講師：建築家 **TADAO ANDO**

安藤忠雄

こども本の森 中之島（photo by 安藤忠雄）

Bourse de Commerce（photo by Patric Tournboeuf）

日時　2021.2.3 水　開演18:00▶19:40

オンライン開催　**安藤忠雄建築研究所よりライブ中継**
※聴講には事前の申込みが必要です。（参加費無料）

申込みフォーム

申込み方法　**https://tajima.jp（田島ルーフィング Webサイト）の特設バナー**
または、右記QRコードから申込みフォームにアクセスしてください。

申込み締切　**2021.1.22 金**

本講演会は、開催日時のライブ配信のみであり、開催後の録画配信はありません。
聴講には、事前の申込みが必要です。視聴方法については、申込み時に入力いただいたメールアドレスへご案内いたします。

※本講演会の録画・録音・撮影および、詳細内容のSNSへの投稿は固くお断りいたします。

主催　東西アスファルト事業協同組合 https://www.tozai-as.or.jp ／ 田島ルーフィング株式会社 https://tajima.jp

お問い合わせ e-mail
tozaias-event@tajima.co.jp

生誕100年 石元泰博写真展 伝統と近代

@東京オペラシティ アートギャラリー／東京
2020.10.10～12.20

下段提供：国立近現代建築資料館

左：「桂離宮 中書院東の庭から中書院，楽器の間，新御殿を望む」（1953，54年）．　中：「東京　街」（1953～57年）．
右：「シカゴ建築　860-880レイク・ショア・ドライブ・アパートメント（ミース・ファン・デル・ローエ）」（1966年）．

本展は写真家・石元泰博（1921～2012年）の生誕100年を契機とした，東京都写真美術館（2020年9月29日～11月23日），高知県立美術館（2021年1月16日～3月14日）との共同企画による展覧会シリーズの一環．東京オペラシティ アートギャラリーでは「伝統と近代」をテーマに幅広く展示作品を選定した．

石元泰博は対象の構造，空間的特性を鋭く捉え，写真界だけでなく戦後日本の建築，デザイン，美術分野に大きな影響を与えた．伝統建築を撮影した桂離宮や伊勢神宮シリーズ，同時代の建築家による建築写真，シカゴと東京の人と街を捉えた作品など，全16章構成，約500点の展示は過去最大規模となる．デジタルが一般化した今日，緻密な暗室作業による厳格な写真は一層の輝きを放つ．

日本のたてもの —自然素材を活かす伝統の技と知恵
工匠と近代化—大工技術の継承と展開—

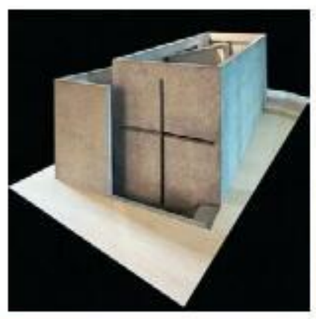
開催中

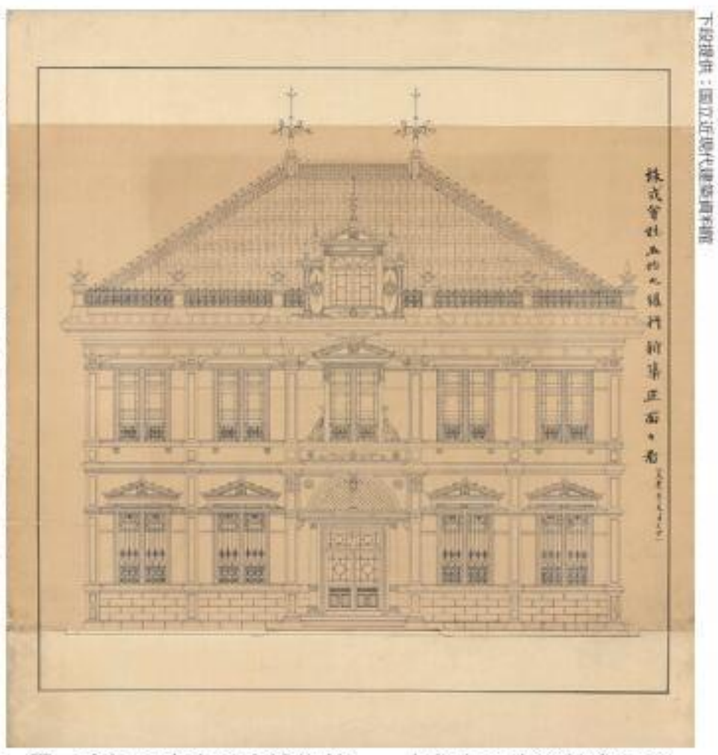
@東京国立博物館，国立近現代建築資料館，国立科学博物館／東京
2020.12.10～2021.2.21（国立近現代建築資料館）

「日本のたてもの —自然素材を活かす伝統の技と知恵」が，東京国立博物館（2020年12月24日～2021年2月21日），国立近現代建築資料館（2020年12月10日～2021年2月21日），国立科学博物館（2020年12月8日～2021年1月11日）の3館で開催中．本展は，日本の木造建造物を受け継ぐための宮大工や左官職人などの技術「伝統建築工匠の技」の，ユネスコ無形文化遺産登録に合わせて企画された．

古代から近世（東京国立博物館「古代から近世，日本建築の成り立ち」），近世から近代（国立近現代建築資料館「工匠と近代化—大工技術の継承と展開—」），近代から現代（国立科学博物館「近代の日本，様式と技術の多様化」）を扱い，各館がそれぞれ特色を出し日本建築の通史を俯瞰できる構成となっている．国立近現代建築資料館では，明治期から昭和初期の寺社や学校，銀行などの図面を時系列に並べ，工匠の職能が変化する様子を読み解く．

第1章「工匠の近世と近代」では，図面の変化によって近世の工匠の技術が近代に繋がったことを紹介，第2章「技能の継承」で，近世からの技術と西洋から持ち込まれた新しい技術が，近代化で整備された学校教育の中で共に教授されていたことを文書や教本





下段提供：国立近現代建築資料館

上段左：東福寺三門1/10模型，1979年，国立歴史民俗博物館蔵，展示会場：東京国立博物館．　上段右：光の教会1/10模型，安藤忠雄建築研究所蔵，展示会場：国立科学博物館．　下段：国立近現代建築資料館会場風景．　右：五十九銀行新築正面之図，1900年頃，青森銀行本店蔵，展示会場：国立近現代建築資料館．堀江組による五十九銀行の図面からは，請負会社として組織化した工匠たちが学校教育を受けた建築家を取り込み，高い精度の洋館をつくったことが分かる．

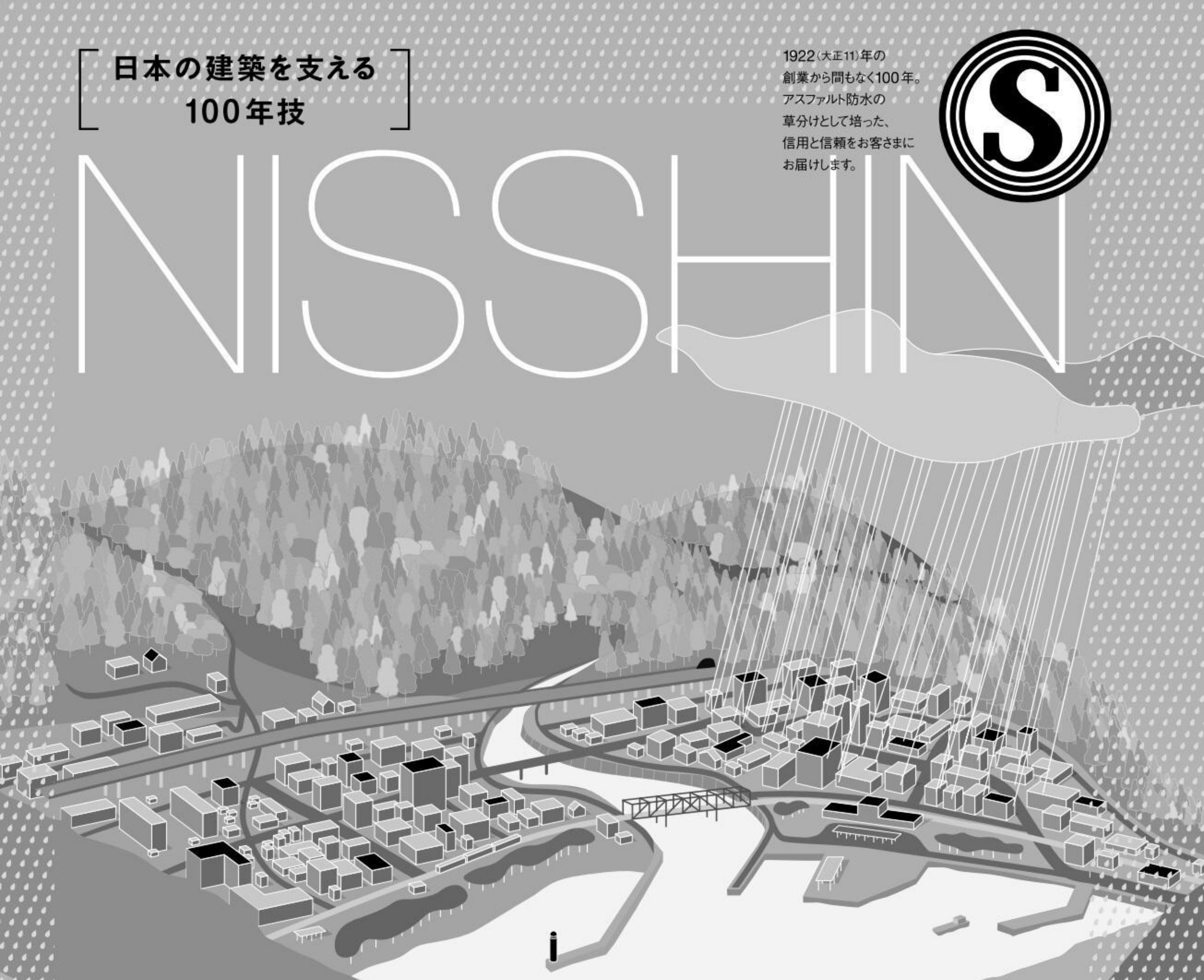
などと共に示す．第3章「在野の大工」では，学校教育の導入や西洋の建築家の指導が遅れた地方に焦点を当て，立石清重や松木輝殷ら地方の工匠たちがつくった擬洋風建築を紹介．第4章「新たなる挑戦」では，近代以降工匠たちが職能を拡大し，請負会社として組織化する様子を，第5章「伝統技術の記録と再興」では，明治政府が主導した古社寺建造物の調査と保存修理により，建築史研究の基盤が整備された様子を紹介．

工匠の近代化に伴い，建築技術の継承，大学の建築教育，建設会社，建築史学研究など，現在の日本建築界の礎がかたちづくられたことが読み取れる．

［日本の建築を支える
100年技］

1922（大正11）年の
創業から間もなく100年。
アスファルト防水の
草分けとして培った、
信用と信頼をお客さまに
お届けします。

NISSHIN



防水のスペシャリスト、日新工業。

www.nisshinkogyo.co.jp Specialist for Waterproofing, NISSHIN KOGYO

KOGYO

MIZUTARO

総合防水材料メーカー
日新工業株式会社
NISSHIN KOGYO CO., LTD.

〒120-0025 東京都足立区千住東2-23-4
2-23-4 Senju-Azuma, Adachi-ku,
Tokyo 120-0025, Japan
Tel: 03-3882-2571

□札幌 | Sapporo
□仙台 | Sendai
□東京 | Tokyo
□横浜 | Yokohama
□名古屋 | Nagoya
□大阪 | Osaka
□広島 | Hiroshima
□福岡 | Fukuoka

シン・マサキキネンカン

@東京藝術大学・正木記念館／東京
2020.12.5～2021.12.13

青木淳氏が，東京藝術大学大学院青木淳研究室の1期生と共に，同大学上野キャンパスに建つ正木記念館（1935年）で企画した本展．同館は近代和風様式の鉄筋コンクリート造建築で，2階には書院造の和室が設けられている．そこに現状復帰が可能な10の操作を加え，新たな風景がつくり出された．
青木氏は本展に寄せたテキストの中で，既に存在している場所のオブジェクトに手を加えることで，もともとの場所とは異なる空間をつくるという点で，すべての建築はリノベーションであると述べた．それはテンポラリーなかたちであっても同様であることを本展は体現している．

撮影：Takahiro Otsuka

左：和室の入口に斜めに設置した木製の台と襖の配置によって，和室の対角線を新たな軸線にしている．　中：もともとソファなどが置かれていた側廊の柱の間に大きなスクリーンを設け，外部の物体や窓の影を和室に引き込んでいる．　右：ゴザを移動し板を敷くことで，ふたつの和室を雁行配置のプランとした．

住総研シンポジウム

それでも人は他者と空間をシェアする

@建築会館ホール＋オンライン／東京
2020.12.3

一般財団法人 住総研（以下，住総研）は，去る12月3日に，シンポジウム「それでも人は他者と空間をシェアする」を開催した．住総研は，2010年度より年度ごとに重点テーマを設定しており，2020年度のテーマは「シェアが描く住まいの未来」．委員長の岡部明子氏（東京大学大学院教授）をはじめ，門脇耕三氏（明治大学准教授），前田昌弘氏（京都府立大学大学院准教授），山道拓人氏（ツバメアーキテクツ），鈴木亮平氏（urban design partners balloon），小川さやか氏（立命館大学教授）の6名が活動を続けてきた．本シンポジウムは，同研究会のメンバーによる研究の総括として，ゲストに猪熊純氏（成瀬・猪熊建築設計事務所）を迎え行われた．
岡部氏は，「近年，豊かさを与える手段としてシェアが盛んに議論されているが，それは付加価値をつくって共有する手段であることが多く，不要になるとシェアされない脆さがあった」と指摘．文化人類学を専門とする小川氏は，大学院時代に体験したタンザニアでの生活を例に挙げ，「共存を共存として認識せず，支援する者とされる者の境界が曖昧で，なぜ自分がそれを享受できるか考えなくても自然に手にできる自由が実現していた．そうでないと外的要因によって揺らいでしまい，真にシェアを基盤とした社会にならないのではないか」と述べた．
これに対し門脇氏は，「環境問題のように，狩猟採集社会モデルでは解決できない問題を現代社会は抱えている」と指摘．本シンポジウムの議論から新たな生活モデルの必要性が見えてきた．

撮影：小川さやか

タンザニア・ムワンザ市の路上空間．

装飾をひもとく―日本橋の建築・再発見―

開催中

@髙島屋史料館TOKYO／東京
2020.9.2～2021.2.21

五十嵐太郎氏（東北大学大学院教授）が，日本橋に建つ様式建築の装飾を撮影し，ルネサンスの建築書などと照らし合わせて観察することで，建築の独自性を再発見する本展．五十嵐氏は，かたち（装飾）に込められた設計者の声を聞く必要性を説く．
展示前半は，日本銀行本店本館（1896年）や三井本館（1929年），日本橋高島屋S.C.本館（1933年）など19世紀末から20世紀初頭の建築を紹介．これらは古典主義様式という大きな括りで捉えられることが多いが，装飾をひとつひとつ見ていくと，西洋の様式との差異や日本の寺社建築との類似性が浮かび上がる．後半は，日本橋三井タワー（本誌0601，1912）やCOREDO室町（同1012，1404）など，近代建築のデザインを継承して計画された現代建築を紹介．スクラップ・アンド・ビルドが選択されることの多い日本において，現存する近代建築をまちの核としながら景観を継承してきた日本橋の開発の特異性が伺える．
会場ではA2判のパンフレットを配布．表面は，会場で紹介している建築の場所を示した地図，裏面は，細部の装飾のイラスト付き解説となっている．本館学芸員で，パンフレットの編集も担当した海老名熱実氏は，「展示を見た後，このパンフレットを手に日本橋を歩いて，建築や街をより深く楽しむきっかけにしてもらいたい」と語る．過去の建築の装飾（かたち）をひもとくことで，日本橋の景観をつくってきた人びとの設計意図を，未来へ繋ぐ展覧会となっている．

撮影：編集部

日本橋髙島屋S.C.本館の装飾を解説したパネル．

a+u

Architecture aand Urbanism
January, 2021
No. 604
建築と都市　2021年1月号

エー・アンド・ユー
2021年1月号
発売：2020年12月27日
予価：2,852円（税込）
発行：（株）エー・アンド・ユー

〒100-6017　東京都千代田区霞が関三丁目
2番5号　霞が関ビルディング17階
TEL：03-6205-4384
FAX：03-6205-4387
振替：00130-5-98119

Bicycle Urbanism
– Re-mobility and Transforming cities
San Francisco, New York, Zurich, Tokyo

バイシクル・アーバニズム
――新しいモビリティと変化する都市
サンフランシスコ、ニューヨーク、チューリッヒ、東京

City planning centered around the movement of people and cars are starting to change.
Especially in recent years, transportation means such as small mobility are diversifying. However, there are many challenges to incorporating them into the urban structure of the 20th century.
This issue focuses on bicycles. Bicycles are truly representative of small mobility as a means of transportation, and are deeply rooted in people's lives around the world. Yet, it has not been incorporated into city planning and its potential has never been fully realized. In the introduction, guest editor Manabu Chiba shared that by thinking about the "niche" of bicycles (the role to fill the gap), it opens up an opportunity to reinterpret the traditional urban structure. "Bicycle urbanism" may be the start to thinking about cities and mobility in the future.
5 offices from 4 cities participated in this issue, each proposing the concept of "bicycle urbanism" in their city. In addition, records of cities where such progress have been made, such as Copenhagen, are featured at the beginning of this issue.　(*a+u*)

人と車の移動を中心に計画された都市がいま、変わりはじめている。
特に近年、スモール・モビリティをはじめ移動手段は多様化しつつある。一方で、20世紀的な都市構造へ組み込むには、多くの課題も抱えている。
本号では自転車に着目する。自転車はまさにスモール・モビリティを代表する移動手段で、世界中で人の生活に深く根づいている。そしてやはり、これまでの都市計画に組み込まれず、十分にその可能性が発揮されていない。ゲスト・エディターの千葉学氏は、イントロダクションで、自転車の「ニッチ」（隙間を埋める役割）を考えることは、これまでの都市構造を読み換えるきっかけになると述べている。
「バイシクル・アーバニズム」はこれからの都市とモビリティを考える端緒になるのではないだろうか。
今回、4都市から5事務所が参画し、各都市での「バイシクル・アーバニズム」について提案しているほか、冒頭ではコペンハーゲンなどすでに導入が進んでいる都市の事例も収録している。　（編）

Image by Manabu Chiba Laboratory, Tokyo University.

香山壽夫の炉辺談話　建築は人の心の共同の喜び

香山壽夫 著

50年以上にわたって建築設計に携わり続けてきた香山壽夫氏が建築家会館で開催した全6回の講演会を記録した本書．「大空の下，大地の上に立つ――屋根と床の話」「私とあなたを共に包む――部屋と壁の話」など建築を構成する要素に焦点を当て，それが古代からどのように扱われてきたか，さまざまな実例を交えながら解説する．最新の計画理論や技術ではなく，煉瓦を積み上げることなど建築をつくる基本を教えることが重要だと香山氏は説く．さまざまな技術が発展する中で改めて建築の原理を考えさせてくれる1冊．　（fkd）

四六判／256頁
2,000円＋税
建築ジャーナル

ドットアーキテクツ｜山で木を切り舟にして海に乗る

家成俊勝 著

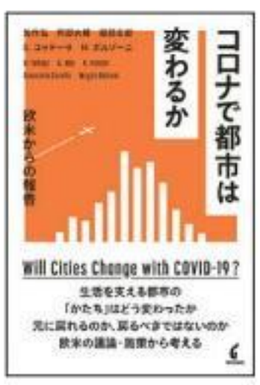
ドットアーキテクツ共同代表である著者の単著．私的な経験をきっかけに世界を想像し，自ら施工し生み出してきたこれまでのプロジェクトが，時にユーモアを交えて綴られる短編集のような1冊．トイレ故障の出来事から展開される自らの身体やアイデアを持って「つくる」ことと芸術祭で製作した舟の話，事務所のある大阪市北加賀屋で出会った老人をきっかけにした地域の緩やかな交流を生む家以外の拠点の重要性と自らバーテンダーも行う「千鳥文化」（本誌1804）の話など，さまざまな人が関わり得る動的な状態を楽しみながら設計する姿勢が伝わってくる．　（n）

A5判／160頁
1,800円＋税
LIXIL出版

コロナで都市は変わるか　欧米からの報告

矢作弘　阿部大輔　服部圭郎 他 著

新型コロナウイルス感染拡大に伴う欧米諸国の最初のロックダウンから半年が経ち，これまでに人びとの働き方，暮らし方も巻き込んだ「都市のかたち」が多様に研究，議論，施策が提起された．本書はそれらの動向を紹介し，コロナ禍とアフターコロナに向けた都市政策・都市計画のアイデアに繋げることをねらいとするもの．イタリアの研究者の現地報告も取り入れながら，高密度と過密の違い，テレワーク，公共交通，小売飲食店，ツーリズム，コンパクトシティなどをキーワードに，コロナと都市の関係とこれからの見通しを記している．（fuu）



四六判／272頁
2,200円＋税
学芸出版社

実況｜比較西洋建築史講義

中谷礼仁 著

歴史とはふたつ以上の事物の比較によって類推された物語であるという視点から，時代や構法が異なるふたつの建物や事象の比較を通して，古代ギリシアからルネサンス初期までの西洋建築史をひもとく．たとえば，旧サン・ピエトロ寺院と法隆寺伝法堂の断面の比較では，木造小屋組・柱梁構造建築で間口を広げるために，前者は側廊を，後者は庇を設けるという類似した構法を採用していたことなどを指摘．著者の大学での講義をもとにしたやわらかい語り口は，一見難しそうな「比較」を，建築の考え方や見方，想像力を広げる手法にまで高めている．　（hsn）

A5判／208頁
2,200円＋税
インスクリプト

コンパクトシティはどうつくる？　暮らしてみたいまちづくり

竹村登 著

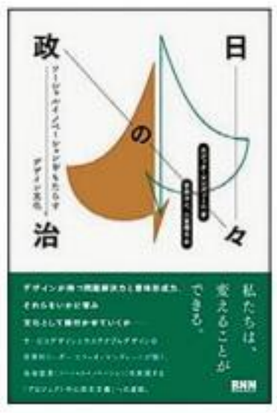
日本の現代社会は人口減少や自然災害など多くの問題を抱えているが，これらはコンパクトシティが生活利便性や地域コミュニティを強化することでリスクを低減できると期待されている．たとえば，まちの活力が低下していた兵庫県姫路駅周辺では，駅前広場や展望デッキ，トランジットモールなどさまざまな機能を集約し，現在は多くの人を引き寄せている．1990年代から始まった日本のコンパクトシティへの取り組みをまとめた本書では，官民連携や空き家の活用方法など，コンパクトシティをつくるための多くのポイントが紹介されている．　（ab）

B6変型判／174頁
1,200円＋税
工作舎

日々の政治　ソーシャルイノベーションをもたらすデザイン文化

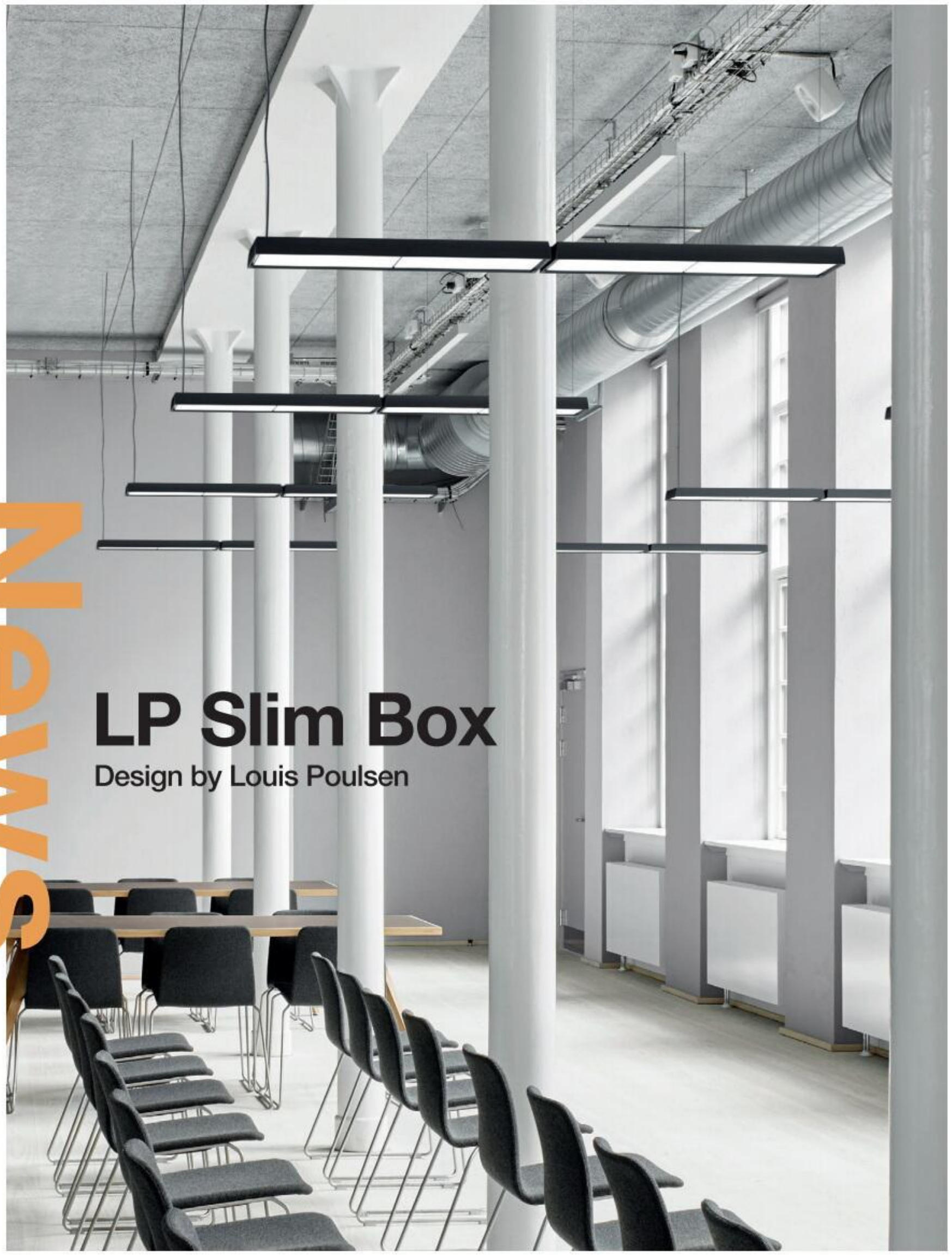
エツィオ・マンズィーニ 著　安西洋之　八重樫文 訳

持続可能性のためのデザイン領域に20年以上携わる著者が，「プロジェクト中心民主主義」により政治家や行政ではなく生活者の手に政治を取り戻す必要性を論じる．「プロジェクト中心民主主義」とは，民主的な議論の場に参加型プロジェクトのアイデアを持ち込み，人びとにコラボレーションする機会を与えること．プロジェクトをデザインする市民とそれを承認する自治体との間に生まれる好循環により，生活の中に選択肢が生まれる．この選択肢をつくり出す力は誰もが生まれながらに持つデザイン能力だとし，「プロジェクト中心民主主義」文化醸成のための指針を語る．（ls）



A5変型判／228頁
2,400円＋税
ビー・エヌ・エヌ新社

louis
poulsen



Revitファイルや3Dデータ(DXF)など各種データもご用意しています
お問合せ:コントラクト営業 pro@louis-poulsen.co.jp

Design to Shape Light

louispoulsen.com

機能とデザインを融合させた建築と照明
――「早稲田大学本庄高等学院体育館」を通して

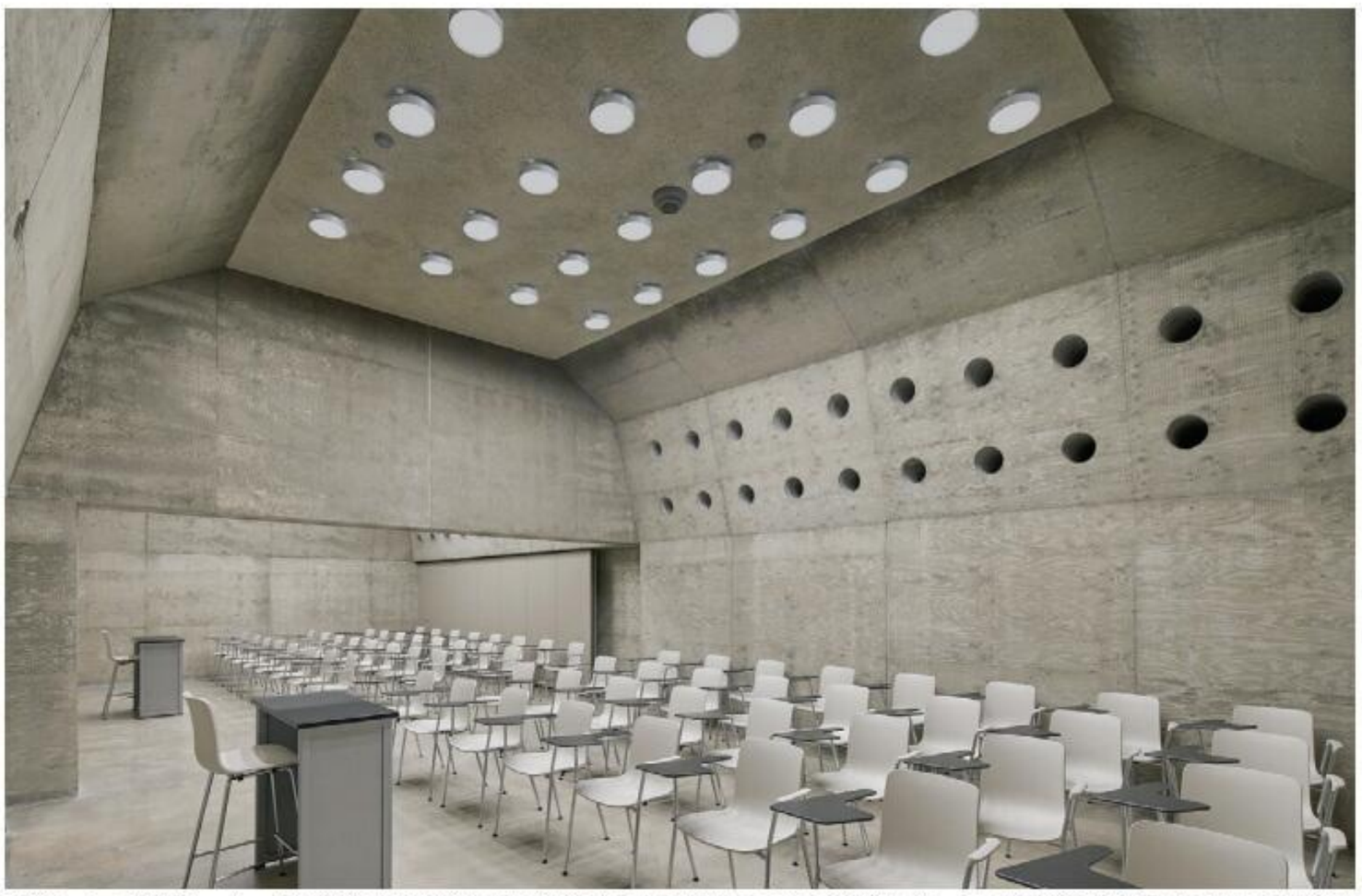
ルイスポールセン

撮影：新建築社写真部

体育館のランニングコースにて．左が飯島敦義氏，右が半田亨学院長．

形態は機能に従うというスカンディナヴィア・デザインの伝統にもとづき製品づくりを実践しているデンマークの照明メーカー「ルイスポールセン」．同社の「LPスリムラウンド」を採用した「早稲田大学本庄高等学院体育館」が2020年2月に完成した．今回は早稲田大学本庄高等学院の半田亨学院長と設計者である日建設計の飯島敦義氏に，建築の概要とルイスポールセンを採用した経緯についてお伺いした．

（編）


1階ミーティングルーム．壁面の丸穴は空調に使われていて上部がサプライ，下部がレターン．天井の照明は「LP スリムラウンド」．高効率なアクリル製ディフューザーが下方に向けて拡散光を発している．＊

＊印撮影：Fumito Suzuki

工学的観点からデザインする

――体育館の概要をお聞かせください．

飯島　屋根以外はほぼRCでつくられた建築です．クライアントからの要望もありましたが，サステイナビリティという観点からもRCを選びました．日本の気候風土を生かし，高校の体育館なので丈夫で壊れにくいディテール（＝余計な素材を使わない）が必要で，下足入れさえもRCでできています．素材の数を絞ったことで，すべて水拭き清掃できるのも特徴です．堅牢でメンテナンスも最小限にとどめ，かつ環境的負荷を抑えることを考えました．また，現代建築でありながら，特定の時代やスタイルに属さない，機能とデザインが融合した建築を目指しました．特に光環境は，無理にガラス張りとして直射光を入れるのではなく，薄い光で包まれているようにしました．メインアリーナ周囲のランニングコース部分がダブルスキンの役割になり，さらに，内外両方の壁に大小の丸穴を開けて換気と採光をとっています．内外両方の窓を通して直射光が入らないようにシミュレーションで窓配置を決めました．そのほか，構造・設備・音響なども工学的な観点からデザインに落としています．

半田　この建築は一回では理解できないデザインだと思います．長く使っていくと建築家の気持ちがわかってくる建物で，それが結局，高校生活の思い出に残るのだと思います．画一的な建築ではなく，機能とデザインを融合しつつも，自由な発想から生まれているので，それを理解して建築を好きになってもらえればと思います．

「小さな建築」のような照明器具

――「LPスリムラウンド」の採用についてお聞かせください．

1階教員室．照明には「LP スリムラウンド」の ペンダントが選ばれている．＊

飯島　壁面の丸い穴のデザインとも共鳴するような丸い照明器具を探していました．「LPスリムラウンド」を選んだ理由は，器具がアルミ素地でできていて，RCと相性がよく，しかも長持ちします．それから，器具内のLEDの配置や光の反射に必要なエッジの処理などが工学的に考えられていて，機能とデザインの融合が感じられたからです．照明器具ですが，小さな建築といえるほど緻密に設計されています．私が目指す余計なものがそぎ落とされた建築とルイスポールセンの美学が通じていると感じました．

南東側外観．競技者の立場から，直射光を取り入れるのではなく丸い穴から間接的に自然光を取り入れている．＊

2階メインアリーナ．南北のスリットから自然光が入るのと同時に壁面の丸い穴から間接的に自然光を取り入れている．＊

半田　この体育館では建築や照明の素材がそのまま使われています．学校は物事の本質も学び取る場であるので，ぜひ，高校生活の中で機能やデザインなどについても学んでほしいと思います．

（2020年11月9日，早稲田大学本庄高等学院にて，文責：本誌編集部）

問い合わせ
ルイスポールセン ジャパン
louispoulsen.com

第56回セントラル硝子国際建築設計競技

課題:

交感する空間

デジタル技術の発達により，人びとの生活は変化しました．コンピュータの登場，インターネットの構築，スマホの普及で，デジタルに触れない日はないといっても過言ではありません．さらに，VR（バーチャル・リアリティ）が開発されたことで，現実のように感じられる環境を人工的につくり出すことができるようになりました．VRにより人間の感覚器官は刺激され，没入感のある新たな体験がもたらされます．

一方，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で，暮らしは一変しました．「ソーシャルディスタンス」，「三密を避ける」，「ニューノーマル＝新しい生活様式」という言葉が生まれているように，われわれの行動は制約され，日常は大きく変わりつつあります．

このような，デジタルの発達とコロナ禍という時代において，われわれはどのように生活をすればよいでしょうか．コロナ禍でも，日々の暮らしは営まれ，そこには実際の建築と都市があり，そして人と人のコミュニケーションがあります．VRの精度が高められても，人と人が出会うこと，人が移動すること，生身の人間が実際の空間を感じることは大切な行為となるでしょう．VRやコロナ禍を体感したからこそ，人間が本来持っている感じる力を導くことが必要になっています．

そこで，実際に体感できる「交感する空間」を提案してください．交感とは，互いに感じ合うこと，心が通じ合うことで，自身の体感だけではなく，相手を思いやることが必要です．設定やプログラムは自由です．デジタルではできない，人間の感性に訴えかける現実の空間を考えてください．みなさまの応募をお待ちしています．

○1次審査

提出図面：平面図，断面図，配置図（縮尺は自由），透視図もしくは模型写真，その他設計意図を表現する図あるいは説明文なども加えることは自由ですが，説明文は200字以内とします．

用紙：中判ケント紙またはそれに類する厚紙（600mm×840mm）1枚に図面および説明文を収めてください．表現方法は自由ですが，パネル化しないこと．

登録方法：本コンペに参加するためには，事前に当ウェブサイトの登録フォームから登録を行ってください．必要事項を入力し送信すると，e-mail で登録番号が交付されます．この登録番号は応募にあたって必要となりますので，紛失しないよう，記録・保存してください．

- 交付後の，登録番号に関するお問い合わせには応じることができません．
- 複数案応募する場合は，作品ごとに登録が必要です．
- 応募登録は当ウェブサイト以外からはできません．
- 登録後，内容に変更があった場合は再度登録をし直してください．
- 携帯のメールアドレスでは登録通知の返信メールを受け取れない場合があります．

登録番号の記載：提出用紙の表面右下に35ポイントの文字サイズで登録番号を明記してください．登録番号以外の応募者を特定できる内容は記載しないでください．裏面は白紙としてください．

提出先：株式会社新建築社「セントラル硝子国際建築設計競技」係
〒100-6017　東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング17階
tel.03-6205-4382

登録・応募締切：2021年8月31日（火）　日本国内からの送付は当日消印有効．送付のみ受け付けます．持込み，バイク便は不可．日本国外からの送付は当日必着．

○1次審査結果発表

2021年9月下旬

通過者に通知すると共に，当設計競技ウェブサイト（https://www.cgco.co.jp/kyougi）上で発表します．

○2次審査

1次審査通過作品となる上位7点について，2次審査を行い，各賞を決定します．この2次審査では，応募作品の提案内容に基づき，プレゼンテーションをしていただきます．

2次審査はオンライン審査を予定しています．

○2次審査結果発表

審査の結果は『新建築』2022年1月号、『a+u』2022年2月号に発表します．

CENTRAL GLASS INTERNATIONAL ARCHITECTURAL DESIGN COMPETITION 2021

審査委員長　**内藤廣**（内藤廣建築設計事務所）
審査委員　**隈研吾**（隈研吾建築都市設計事務所）
亀井忠夫（日建設計）
青木淳（青木淳建築計画事務所）
賀持剛一（大林組）
塚本由晴（アトリエ・ワン）
巻幡良忠（セントラル硝子常務執行役員）
（敬称略・順不同）

賞金　**最優秀賞**（1点）　**200万円**（税込）及び記念品
優秀賞（2点）　**各30万円**（税込）及び記念品
入選（4点）　**各10万円**（税込）及び記念品
（以上，1次審査通過作品）
佳作（10点）　**各5万円**（税込）

主催　**セントラル硝子株式会社**
後援　**株式会社新建築社**

登録・応募締切　2021年8月31日（火）
日本国内からの送付は当日消印有効，持込み，バイク便は不可．日本国外からの送付は当日必着．

1次審査結果発表　2021年9月下旬
設計競技ウェブサイト　https://www.cgco.co.jp/kyougi

2次審査　2021年10月23日（土），オンライン審査

○その他
・応募作品は未発表のものに限ります．
・同一作品の他設計競技との二重応募はご遠慮ください．
・応募要項に関する質問は受け付けません．規定外の問題は応募者の自由決定を可とします．
・本設計競技応募作品の著作権は応募者に帰属しますが，応募作品の掲載など発表に関わる権利は主催側が保有します．
・応募作品の一部あるいは全部が，他者の著作権を侵害するものであってはなりません．また，雑誌や書籍，ウェブサイトなどの著作物から複写した画像を使用しないこと．著作権侵害のおそれがある場合は主催者の判断により入賞を取り消すことがあります．
・応募作品は返却しませんので，必要なものはあらかじめ複製しておいてください．
・提出のルールを遵守くださいますよう，お願いいたします．
・本設計競技において取得した個人情報は，主催者・後援者が共有しますが，本設計競技の運営以外には使用いたしません．また，第三者に譲渡や転売はいたしません．

設計競技ウェブサイト
https://www.cgco.co.jp/kyougi

住宅特集

新建築

417

2021
SHINKENCHIKU
JUTAKUTOKUSHU

1

新年
特別号

定価 2,420円
（本体 2,200円）

2021年 住宅のこれから
家をめぐる建築家の挑戦

巻頭対談
建築の想像力　青木淳×西沢立衛

最新住宅プロジェクト
増田信吾＋大坪克亘　西沢立衛
妹島和世　秋吉浩気
平田晃久　村山徹＋加藤亜矢子
大西麻貴＋百田有希　萬代基介
長坂常　武田清明
西澤俊理＋ヨバン・ミニッチ
渡辺菊眞　佐藤研吾

作品／十二題
西沢立衛
青木淳
竹口健太郎＋山本麻子
島田陽
大石雅之
宮崎晃吉
彌田徹＋辻琢磨＋福本健史
藤原徹平
横内敏人
スガショウタロウ
服部信康
吉村理

第55回セントラル硝子国際建築設計競技入賞発表

主催／セントラル硝子株式会社
後援／株式会社新建築社

審査委員長　**内藤廣**（内藤廣建築設計事務所）
審査委員　**隈研吾**（隈研吾建築都市設計事務所）
亀井忠夫（日建設計）
青木淳（青木淳建築計画事務所）
賀持剛一（大林組）
塚本由晴（アトリエ・ワン）
巻幡良忠（セントラル硝子常務執行役員）
（敬称略・順不同）

課題：ボディ・カルチャー・クラブ

今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます．トップ・アスリートによるしのぎを削る戦いに，多くの人が魅了されることでしょう．また，その刺激を受けてスポーツをはじめる人も出てくると思います．
スポーツという言葉から最初に思い浮かぶのは，上記のようなトップ・アスリートによる競技スポーツだと思いますが，現在では，老若男女，だれもが楽しめる，人生100年時代に向けた健康維持のための生涯スポーツも増えてきました．そのほか，リハビリと関連したスポーツや障害者スポーツなども広がっています．
このように，さまざまなスポーツがある中で，他人と競わず，自身と向き合い，文化として高めたスポーツを，「ボディ・カルチャー」と呼びます．この「ボディ・カルチャー」を実践する場，交流する場である「ボディ・カルチャー・クラブ」が今回のテーマです．
「クラブ」は，学校や会社のように義務化されたものではなく，自主性があり，当事者によってつくられ，組織されるもので，共通の趣味や興味を持つ人びとが集まる団体です．文芸クラブ，歴史クラブ，スポーツクラブなどがありますが，現代では，まちづくりに影響を及ぼすものや，非常時に活躍するクラブもあり，メッセージ性があります．
この「クラブ」という意味を踏まえて，「ボディ・カルチャー」による空間を考えてください．「ボディ・カルチャー」の捉え方を示し，できるだけ具体的な建築を提案してください．
（課題主旨文より）

「ボディ・カルチャー・クラブ」をテーマに開催された第55回セントラル硝子国際建築設計競技は，昨年に引き続き1次審査と2次審査での2段階方式で行われた．応募作品の総数は180作品（国内：123，海外：57）．1次審査の結果，7点が2次審査に進み，10点が佳作として選出された．2次審査は新型コロナウイルス感染拡大に配慮して，10月24日に東京国際フォーラムで予定していた公開形式のプレゼンテーションおよび審査は中止し，審査委員のみでオンラインにて審査が行われ，海外4組を含む7組によるプレゼンテーション，審査委員の議論を経て，最優秀賞1作品，優秀賞2作品，入選4作品が決定した．（編）

最優秀賞を受賞したリン氏，アウンスー氏．

最優秀賞（1作品・賞金200万円）

ブーン・ハウ・リン（フリーランス，日本）
ピャエゾーン・アウンスー（フリーランス，日本）

優秀賞（2作品・賞金各30万円）

アリエル・ジャンセン・ビンタン（イエール大学建築大学院，米国）
アンダーソン・ワン（メルボルン大学，オーストラリア）

クォ・オン・フィリップ・ファン（Else design，香港）
ジャジュン・エイドリアン・ハン（シンガポール国立大学，シンガポール）

入選（4作品・賞金各10万円）

チェン・ユェ（同済大学浙江学院，中国）

岸野佑哉（東京理科大学大学院）
佐伯雅子（東京理科大学大学院）
上山駿介（東京理科大学大学院）

中谷哲也（Go A do）

頼安礼市（金沢美術工芸大学大学院）
梅田裕介（金沢美術工芸大学）
渡部ありさ（金沢美術工芸大学）

佳作（10作品・賞金各5万円）

グー・タン（Gutelier，中国）

ティエンユー・ワン（AIR Architects，米国）
スー・ジー（AIR Architects，米国）
リウ・シン（AIR Architects，米国）

ジェヴィ・キング・チャン・クォ
（フリーランス，香港）

高小涵（東京工業大学大学院）
呉則希（東京工業大学大学院）

ジョンウン・チョウ（亜洲大学校大学院，韓国）
グァンホ・リー（亜洲大学校）

高桑江理（長岡造形大学）
伊藤碧（長岡造形大学）
金子優希（長岡造形大学）
須田瑞希（長岡造形大学）
永田里帆（長岡造形大学）
安原茜（長岡造形大学）

李斯奇（日建設計）
陳子嘉（名古屋大学大学院）
陳暁婷（BYREDO，スウェーデン）

草原直樹（横浜国立大学大学院）
藤田一摩（横浜国立大学大学院）

吉田育未（フリーランス，日本）
近藤有希子（フリーランス，日本）

田淵隆一（大成建設）
毛塚順次（大成建設）

最優秀賞　ブーン・ハウ・リン　ピャエゾーン・アウンスー（2名，フリーランス，日本）

Neo-Ergonomic Culture

●タクティカル・アーバニズムのように都市をカスタマイズしていく提案．公共財の中に自分たちの身体を活性化するための要素を見出し，シェアするのは新しいコモンズのあり方であり，これをクラブと呼んでいるのが面白い．（塚本）

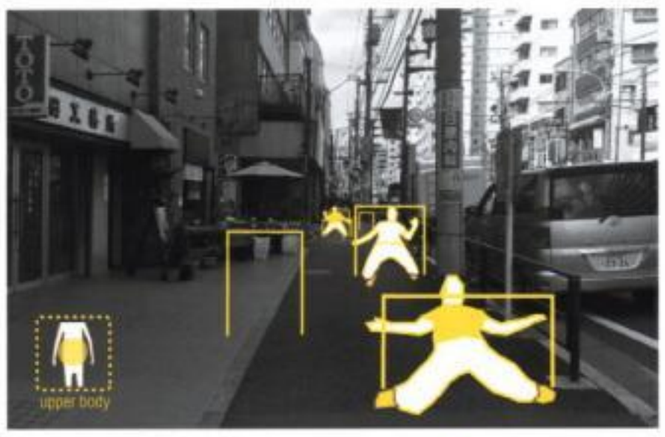
●ボディカルチャーというテーマを，狭義のスポーツから日常生活の活動と捉え，それを究極まで解釈を広げて一種のアイロニーにまで拡張したところが面白い．またクラブがメンバーシップや空間的な括りではなく，ユビキタス的に取り扱われているのが面白い．（隈）

●昨今では都市空間のバリアフリーが謳われているが，逆に身体に負荷をかける仕掛けをつくるというのは新鮮だと感じた．（亀井）

●街全体に渡る仕掛けで，簡単に実現できそうな提案．コミュニティ全体をクラブととらえている点が面白い．（賀持）

Minimum Speed Lane
A lane drawn on the existing street dedicated for those who would walk or run at a minimum speed of 10 kilometers per hour. [Legs, whole body exercise]

Before → After



Limbo on the Street
Guardrails are installed on the pedestrian lane as limbo rail, encouraging people to do limbo when walking along the street. [back exercise].

Before → After

Ankle Rings
Ankle rings are added at bus stops. While queuing and waiting for the bus, people can use these rings as an anchor to stretch. [lower body exercise].

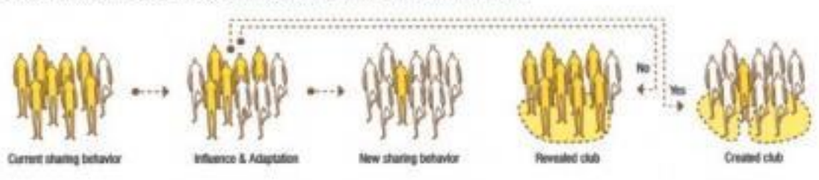
Before → After

Neo - Ergonomic Culture

Sports were a product of necessity. Ancient civilizations used sports as a preparation for events such as hunting or warfare. It challenges the typical human body and pushes the human's limit by making people go through discomfort. Ancient people who lived by hunting practiced sports during their whole life.

However, in modern civilization, sports has become an auxiliary aspect of life. Most people do not want challenges for the body and thus refrain from participating in sports. We live in places of utmost comfort. Every product or item follows an ergonomic function to make us comfortable. We try to challenge this ultra-comfortability of human lifestyle by the introduction of non-ergonomic elements into existing infrastructures. By making the human body uncomfortable in certain areas, we aim to induce semi-sport activities and exercises in everyday life of individuals.

These non-ergonomic interventions are all voluntary. Some people might choose to do it and some won't. When people start doing it, they will experience a change in their body behaviour. With time, this behavior will influence other people to join and it will become a culture in itself and then more and more people will join in. Thus, a culture where both the human population and the human body will go through a change in behaviour, "a body culture", will form. Therefore, all these people, who follow the same culture of changing their body behavior will become a "body culture club".



High-Stairs
By adding additional blocks at the existing stair steps, people are encouraged to take a longer stride when they go up a stairs. [legs, lower body exercise].

Before → After

Jumping over the Bush
Bushes used in urban settings are arranged in a zig-zag manner and pedestrians are encouraged to jump over the bushes while walking. [lower body exercise]

Before → After

Over-the-head Handrails
New sets of handrails are installed at a higher place on the stairs. [hand stretching exercise]

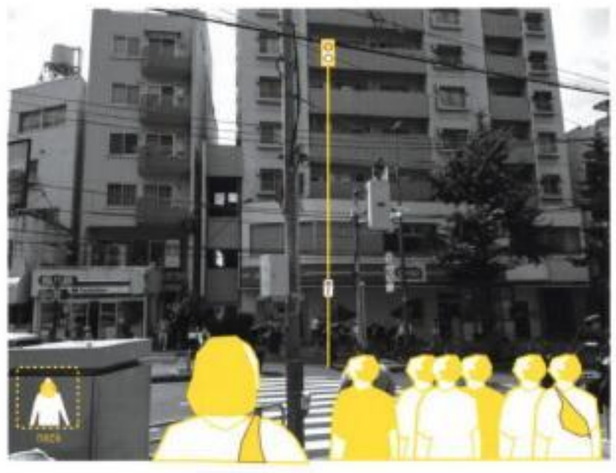
Before → After

Stretching Straps
New straps which are higher or lower than originals are installed inside the subway and metro. [hand stretching, upper body balancing exercise]

Before → After

Hi-five Signposts
The signs of signposts are replaced with rubber cushions and passersby can jump and hit for a hi-five with the signposts while walking. [hands, legs stretching exercise]

Before → After



Over-the-top Traffi
Traffic lights are placed at a higher position and pedestrian have to look higher to see the light. [neck exercise

Before → After

Balance Lane
Lane blocks are added at a pedestrian working lane to encourage them to walk along the line of the block. [whole body balance exercise].

Before → After

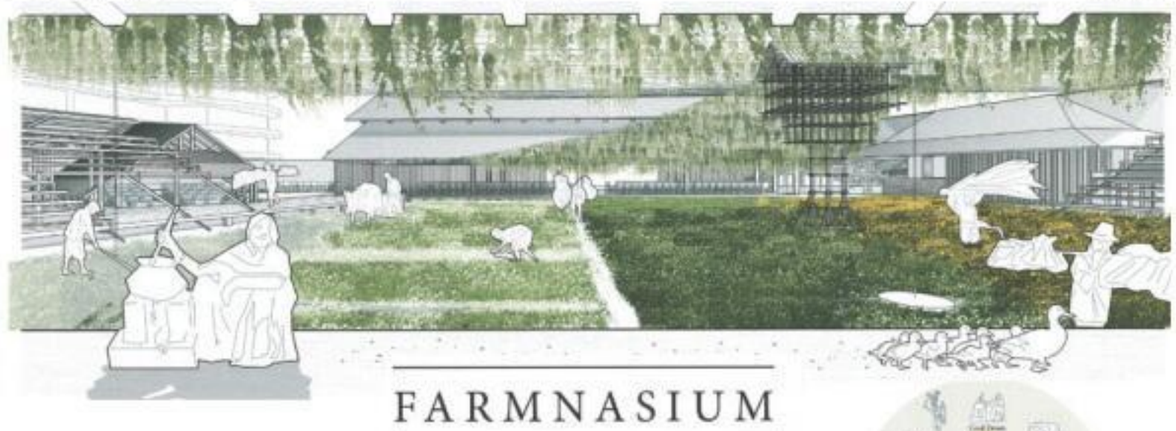
Hop, Jump and Stride Crossing
People tend to follow blocks when they are walking and by adding rectangular blocks in zebra crossing, people will stride, hop or jump during crossing. [leg exercise]

Before → After

優秀賞　アリエル・ジャンセン・ビンタン（イエール大学建築大学院，米国）
アンダーソン・ワン（メルボルン大学，オーストラリア）

FARMNASIUM

●農業が健康増進に役立っていたという前提の発見が面白い．やりたいことが明確に伝わってくる表現も素晴らしかった．（内藤）
●農業を過去まで遡って再定義することで空間のつくり方にも関係しそうなきっかけとなっている点が面白い．（青木）
●アジアの風景を農業的なものに置き換えるという発想が政治性を持っていて興味深い．（隈）
●好きな時に行くことができる場所があれば農村と都市の人の障壁を溶かす方法のひとつになるかもしれない．ただメンテナンスなどの部分をもう少し考えるべきだと感じた．（塚本）
●農業と健康維持を結び付け，ボディカルチャーから収穫儀式まで文化，伝統というストーリーをつくっている．（賀持）



FARMNASIUM

Farmnasium rediscovers the lost authentic 'body culture' concept of South-East-Asia by rekindling rooted agricultural heritage in contemporary society's fitness.

South-east-asian 'body culture' was an invisible concept when agriculture activities was used to keep fitness. Members of community would keep their health by actively engaging with the farm. Unfortunately, this healthy lifestyle was lost when south-east-asians dwells in the 9-5 lifestyle and look for mechanical gymnasiums instead.

Located adjacent to suburban shopping centers, Farmnasium exposes itself to modern society, advancing 'body culture' while celebrating heritage with its agricultural identity. In Farmnasium, people exercise through agricultural movements and take home local produce for fruit by consumption.

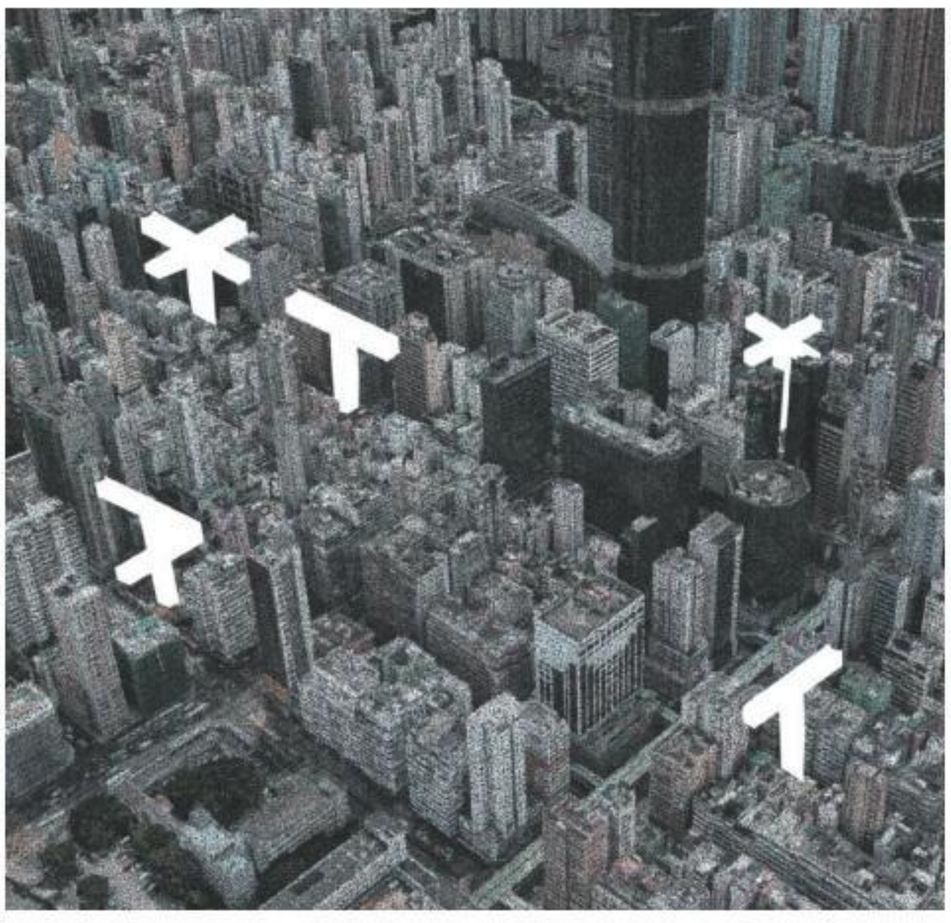
Farmnasium blurs the boundary between traditional and modern concepts of body culture, cultivating a new community which celebrates traditional 'body culture'.

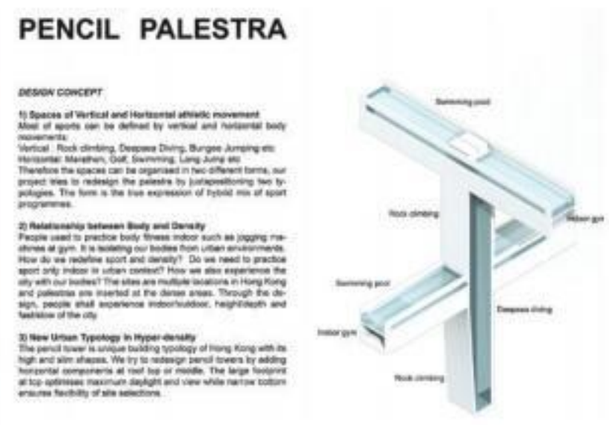
2020-0206

優秀賞　クォ・オン・フィリップ・ファン（Else design，香港）
ジャジュン・エイドリアン・ハン（シンガポール国立大学，シンガポール）

PENCIL PALESTRA

●フィジカルエクササイズを水平・垂直運動と捉え，それをペンシルビルが特徴的な香港の都市空間にコラージュし，新しい風景をつくり出している点が魅力的．（亀井）
●街の中に建築物ではなく大きな遊具が建ち，人が集まることで街の景色を変えていく要素になり得ると感じたが，もうひとつその点に踏み込んだ展開がほしかった．（青木）
●都市空間の新たな提案．ビルと人の新しい関わり方が見えた．（巻幡）
●既存の都市の文脈に対して，ドラマチックすぎる気がした．もう少し小さなスケールに目を向けたほうがよいのではないか．（隈）





PENCIL PALESTRA

DESIGN CONCEPT

1) Spaces of Vertical and Horizontal athletic movement
Most of sports can be defined by vertical and horizontal body movements:
Vertical : Rock climbing, Deepsea Diving, Bungee Jumping etc
Horizontal: Marathon, Golf, Swimming, Long Jump etc
Therefore the spaces can be organised in two different forms, our project tries to redesign the palestra by juxtapositioning two typologies. The form is the true expression of hybrid mix of sport programmes.

2) Relationship between Body and Density
People used to practice body fitness indoor such as jogging machines at gym. It is isolating our bodies from urban environments. How do we redefine sport and density? Do we need to practice sport only indoor in urban context? How we also experience the city with our bodies? The sites are multiple locations in Hong Kong and palestras are inserted at the dense areas. Through the design, people shall experience indoor/outdoor, height/depth and fast/slow of the city.

3) New Urban Typology in Hyper-density
The pencil tower is unique building typology of Hong Kong with its high and slim shapes. We try to redesign pencil towers by adding horizontal components at roof top or middle. The large footprint at top optimises maximum daylight and view while narrow bottom ensures flexibility of site selections.

2020-0225

入選　チェン・ユエ（同济大学浙江学院，中国）

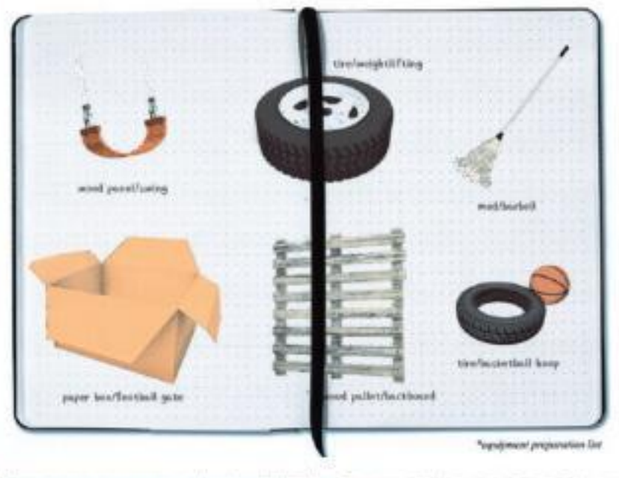
FORKLIFT WORKERS SPORTS CLUB

●このコロナ禍において，閉塞感のある場所でコミュニティ内の身近にあるツールを使い何かを起こそうというメッセージ性を感じた．（賀持）
●誠実な提案．昔の子どもたちがストリートで遊んでいたように，箱やタイヤさえあればボディ・カルチャーが生まれるんだという主張がある．（内藤）
●閉塞感のある場所に対してのサジェスチョンはされていて興味深い．もう一歩踏み込んで，さらに社会的な意味を込めた提案が欲しかった．（亀井）
●フォークリフトを使ったアクティビティが表現されているが，フォークリフトに乗る人たちはどうするのかが気になった．（塚本）
●クローズドでそこから出られない状況設定で生まれたボディ・カルチャーの具体的な提案までできていればもっと面白くなった．（青木）

FORKLIFT WORKERS SPORTS CLUB

——SELF-ORGANIZED SPORTS BEHAVIOR IN CLOSED COMMUNITIES

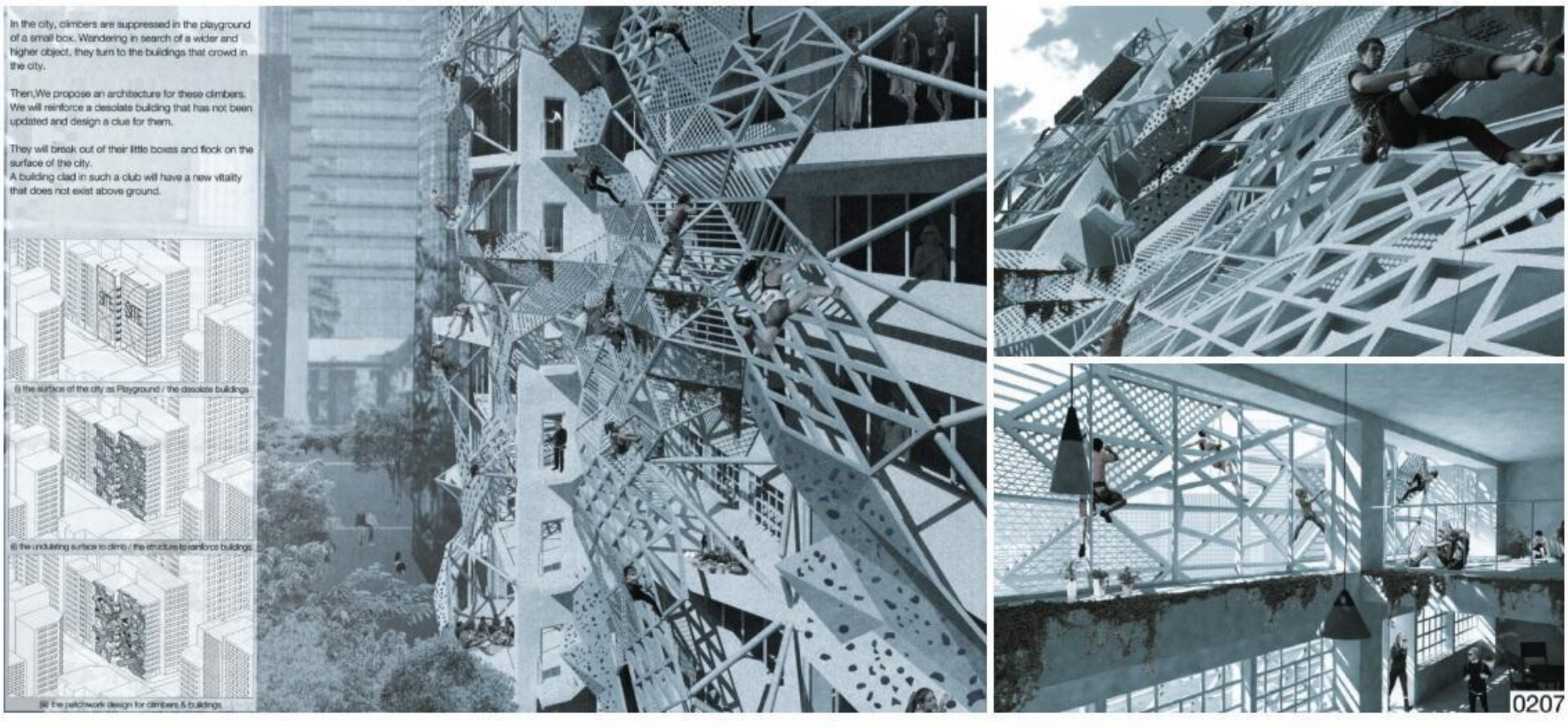
Under the influence of COVID-19, more and more residential communities have implemented closed management, causing most residents to lose the original sports environment in society. In this case, I envisage how in a community of forklift workers and their families, people can use the existing tools and materials around them to realize a self-organized sports club in the existing spaces and streets. So that all residents can still feel the power and hope brought by sports in this particular period.



入選　岸野佑哉　佐伯雅子　上山駿介（3名，東京理科大学大学院）

Climbers Live in Urban Buildings

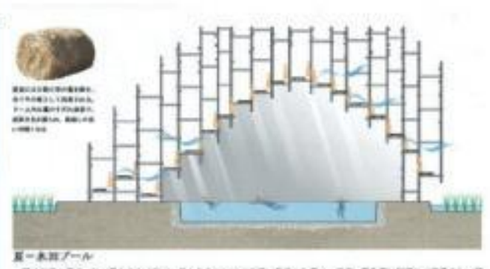
●提案として耐震補強が組み込まれているが，クライミングを組み込むアイデアとどっちが先なのか．耐震補強のコンペにクライミングを組み込む提案としてはよいが，今回のテーマとはずれている印象．（塚本）
●扱われているスポーツそのものに関しては疑問があるが，これまでの都市構造物と明らかに違うものが生まれてくるのではないかという可能性を感じた．それが街にどう還元され，風景が生まれるかに興味がある．（青木）
●既視感がある．単一的，平面的な目的にしか使えないクラブではないかと感じた．（巻幡）



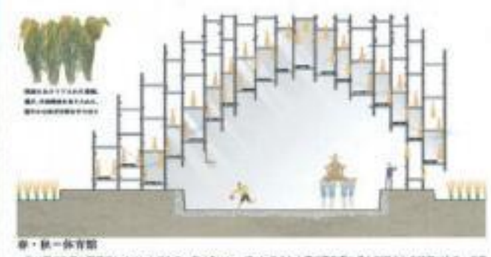
入選　中谷哲也（Go A do）

天日干しドーム　Body & Agri Culture Club

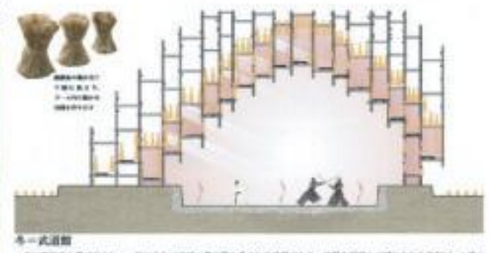
●農村の共同体を再構築して，誠実に建築化している提案として評価できる．（亀井）
●50年くらい前には存在していた風景を蘇らせるため，過去と現在を結んでボディ・カルチャー・クラブをつくる提案．もっとゆったりした生活をしてはどうかと問いを投げかけられているように感じた．（巻幡）
●稲掛けをドーム状につくって人が集まる場をつくるという，新しい屋外空間の提案だと感じた．（内藤）



夏ー水泳プール



春・秋ー体育館

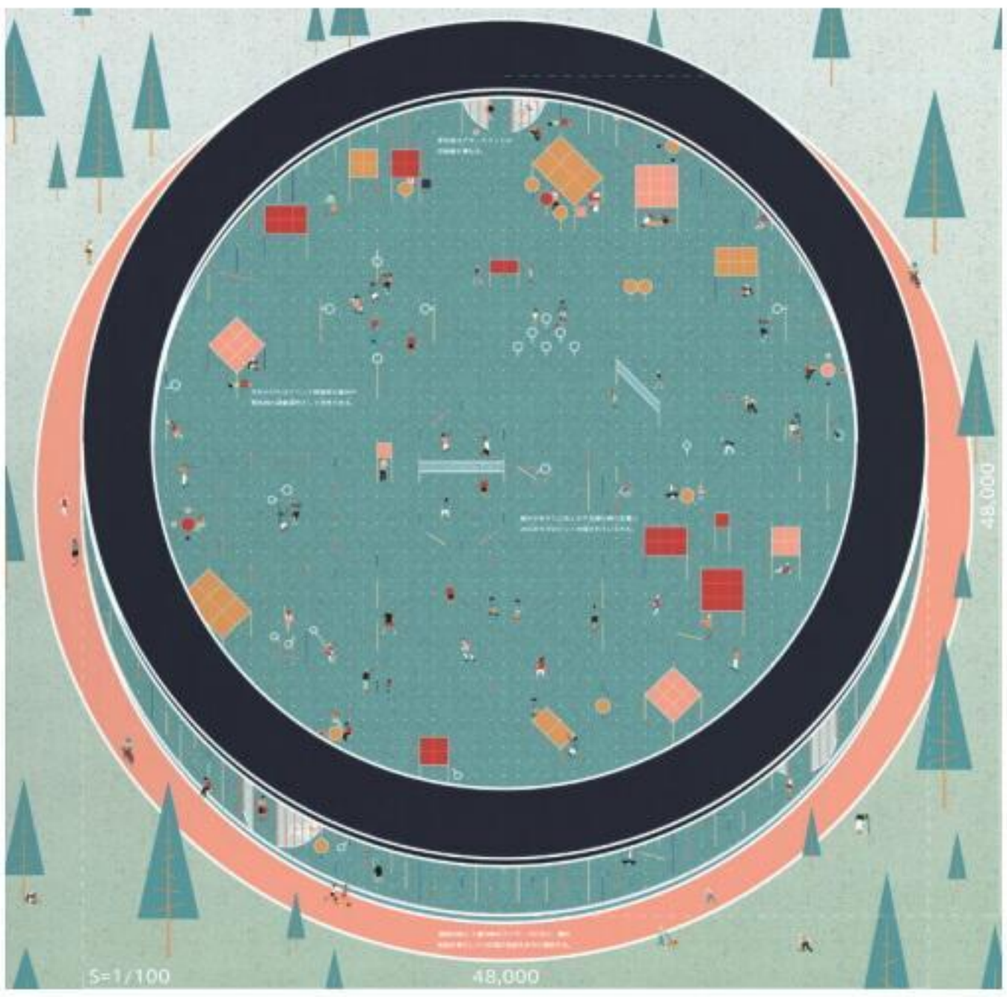


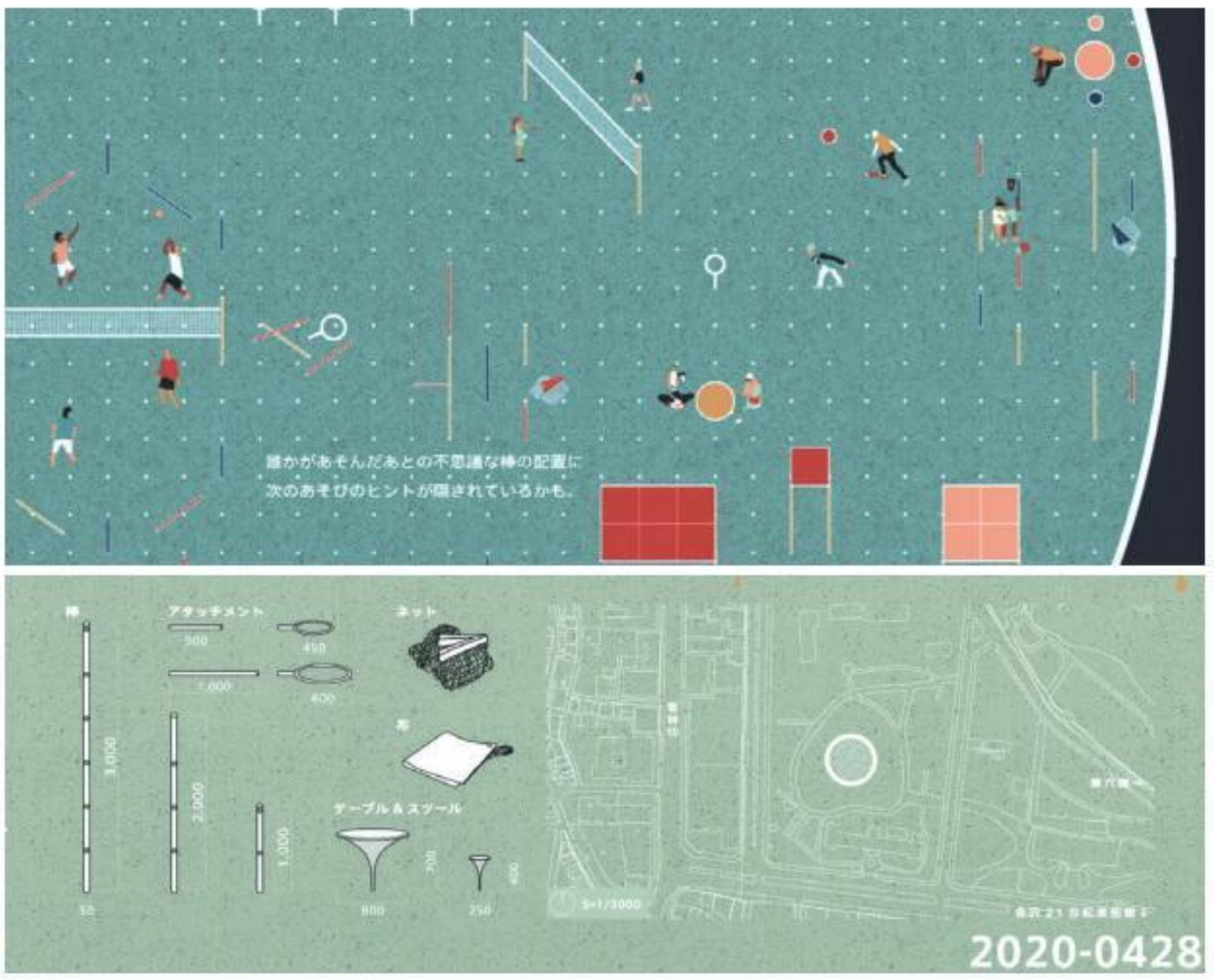
冬ー武道館

入選　頼安礼市（金沢美術工芸大学大学院）　梅田裕介　渡部ありさ（2名，金沢美術工芸大学）

PLAY!

●優等生的な提案だが，社会が抱えざるを得ないものに対してデザインで回答を出していることに共感を持った．（隈）
●どこでもできそうな提案でいろいろなアクティビティの可能性を感じる．日常・非日常の両面を提案することはこれからの建築に必要だと思う．（亀井）
●道具が非常に限られていく中でさまざまな遊びができ，それを面白がる人たちが集まってクラブができるのではないかと感じた．都市空間や住宅地にも溶け込めるアイデアであり，防災都市機能があるのが評価できる．（巻幡）
●誰かが与えるものとして広場が提示されているのが疑問を感じる．クラブは自然発生的なものと繋がって欲しいという気持ちがある．（内藤）
●避難所になるという提案だが，そもそも避難所に人を集めるのがどうかや，人が集まる必要があるのかなどいくつか疑問を感じた．（青木）

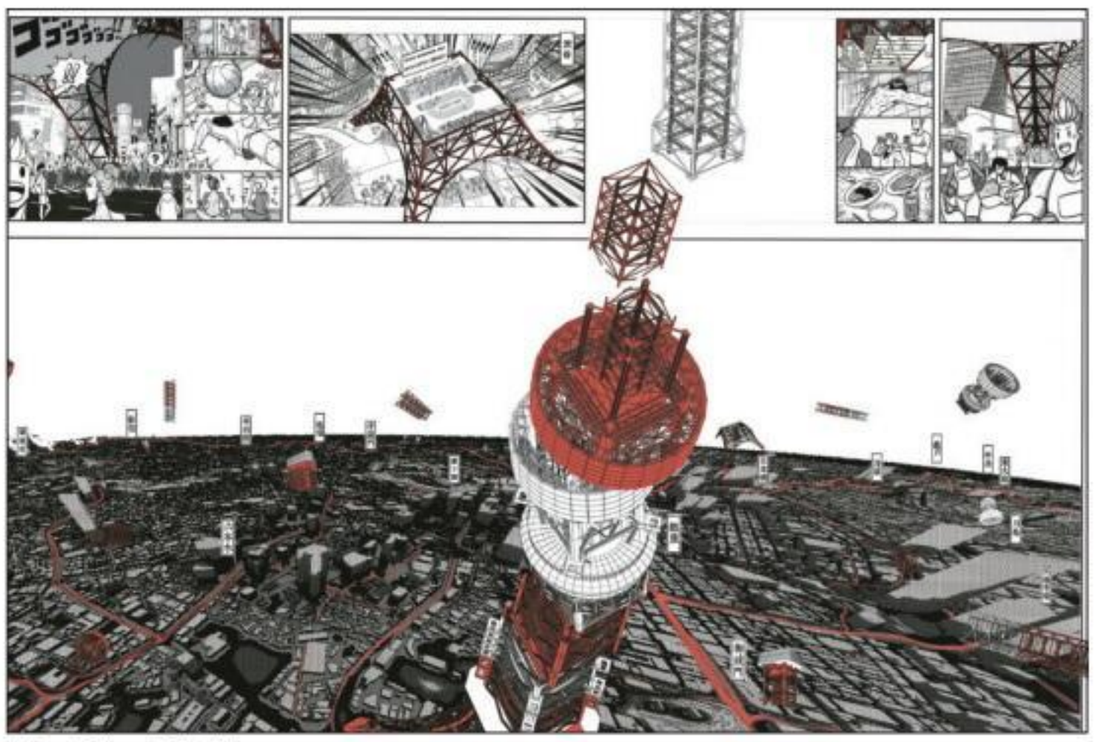


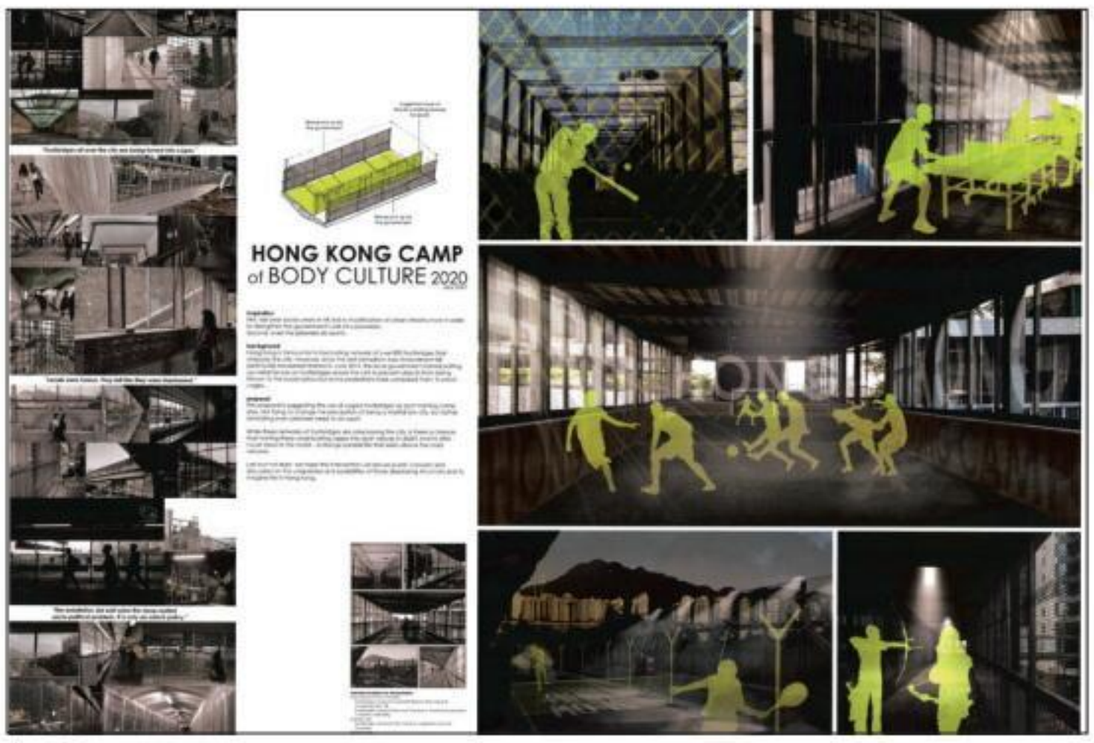


佳作10作品

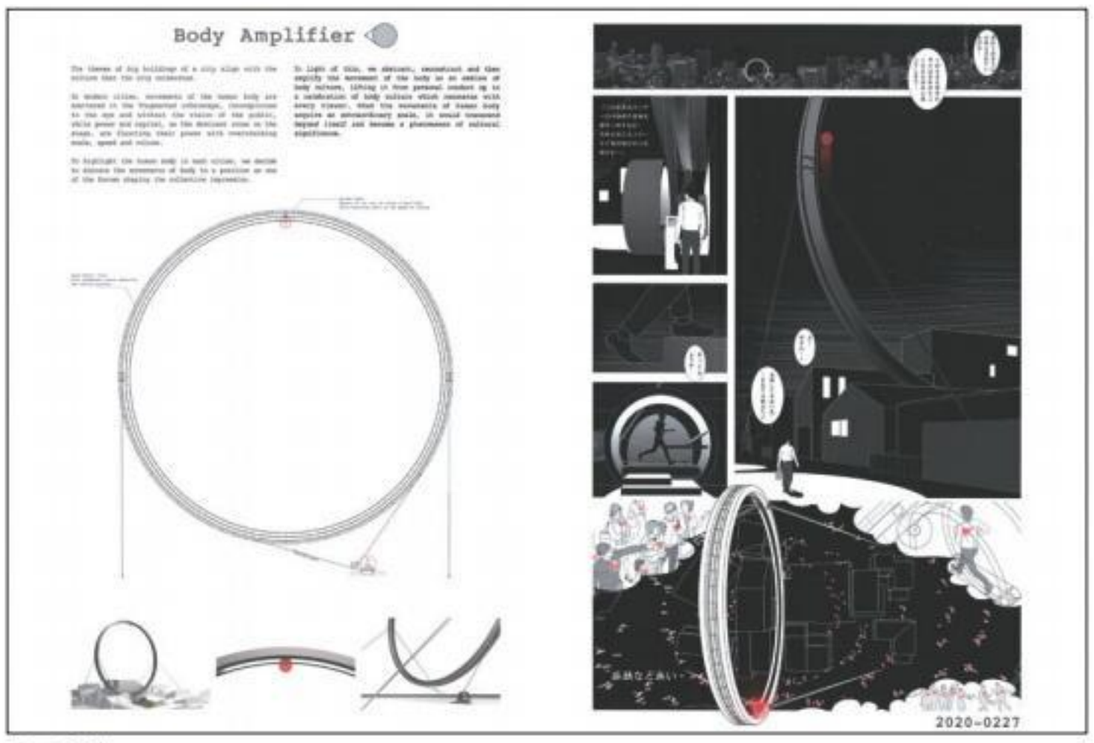
グー・タン（Gutelier，中国）／**ティエンユー・ワン　スー・ジー　リウ・シン**（3名，AIR Architects，米国）／**ジェヴィ・キング・チャン・クォ**（フリーランス，香港）／**高小涵　呉則希**（2名，東京工業大学大学院）／**ジョンウン・チョウ**（亜洲大学校大学院，韓国）　**グァンホ・リー**（亜洲大学校，韓国）／**高桑江理　伊藤碧　金子優希　須田瑞希　永田里帆　安原茜**（6名，長岡造形大学）／**李斯奇**（日建設計）　**陳子嘉**（名古屋大学大学院）　**陳暁婷**（BYREDO，スウェーデン）／**草原直樹　藤田一摩**（2名，横浜国立大学大学院）／**吉田育未　近藤有希子**（2名，フリーランス）／**田淵隆一　毛塚順次**（2名，大成建設）

タン案


ワン+ジー+シン案

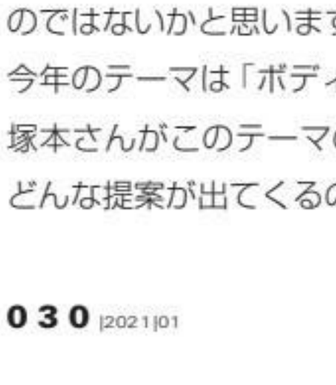


クォ案



高+呉案

内藤廣（審査委員長）



今回が55回なのでこのコンペも半世紀余りの歳月を過ごしてきたわけですが，おそらく何十年かしたら，今回のことを思い出して語られることになるでしょう．コロナ禍で開催すら危ぶまれる状況下で，主催者と新建築社との決断でソーシャルディスタンスを確保した1次審査と，プレゼンテーションビデオを送ってもらった上でのネット会議での2次審査となりました．例年は東京国際フォーラムでの公開2次審査をするのですが，今年はインターネット上の審査，これはこれで例年とは違った密度のある審査ができたのではないかと思います．

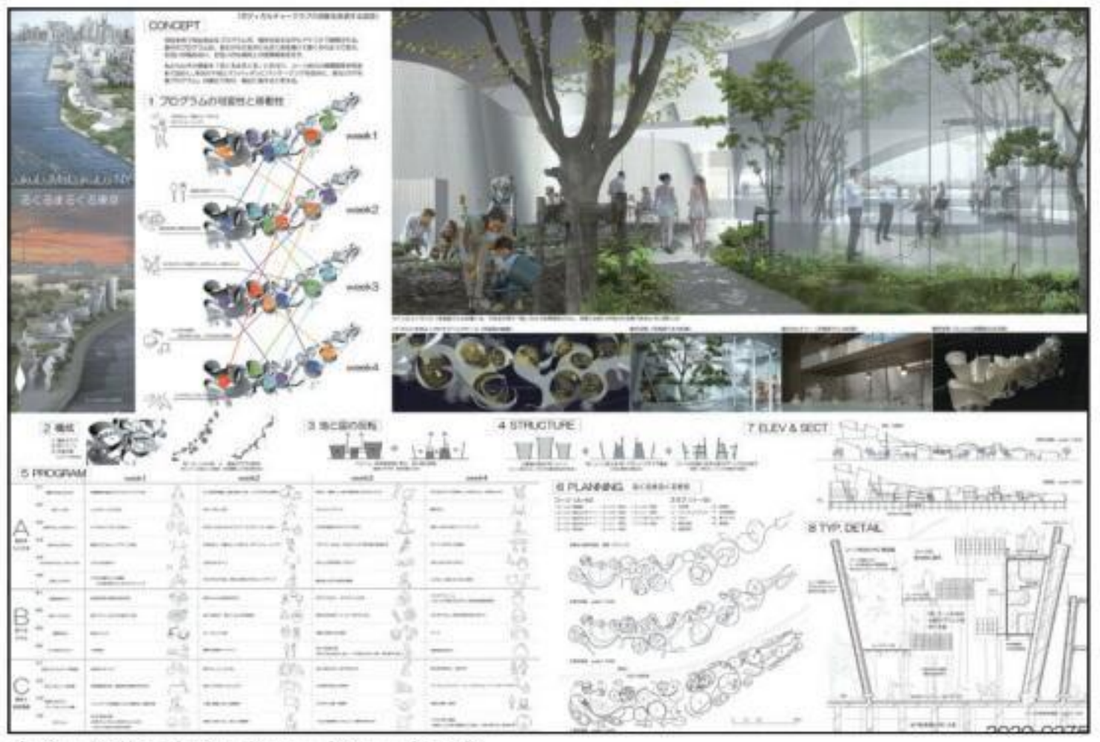
今年のテーマは「ボディ・カルチャー・クラブ」．塚本さんがこのテーマの首謀者です．私自身は，どんな提案が出てくるのかまったく予想できませんでした．「ボディ」が「カルチャー」になること，さらにそれが人びとの集まりである「クラブ」になること，コロナ禍の状況を前提に考えれば，どの要素も矛盾しているように見えます．

最優秀賞になったリン+アウンスー案は，日常慣れ親しんだ都市に，さまざまな記号的操作を加えて身体に掛かる負荷を意図的に増やす，という提案です．それがクラブになるのかどうか，審査では議論になりましたが，総じて，分かりやすく鮮やかなプレゼンテーションでした．誌面では共有できなくて残念なのですが，ビデオのプレゼンがよかった．優秀賞のビンタン+ワン案は，農業を身体的な負荷と考えて，それをクラブ化した提案．これも新しくて新鮮なよい案でした．ビデオのプレゼンが秀逸で，パネルより遙かに説得力がありました．同じく優秀賞のファン+ハン案は，水槽を縦と横にT字型につくってスウィミングプールをつくる，というかなり荒唐無稽な案に思われましたが，青木さんが，これはこれで新しい都市のビルディングタイプを提案している，と評価して上位に食い込みました．

ユェ案は，フォークリフトの作業員のコミュニティが，フォークリフトを使ったDIY的な遊びをつくり出すという案．暖かみのある提案でした．岸野+佐伯+上山案は，都市のビルを絶壁に見立てて，それをよじ登るクライマーのためのファサードの提案．現実にあり得る話だと思いました．中谷案は，稲を乾燥させる稲掛けをドーム状につくり，そこに人が集まる場をつくろうという案．新しい屋外空間の提案でした．頼安+梅田+渡部案は，地方都市の郊外にわずかな仕組みでさまざまなアクティビティが生まれるような広場の案．ややシステム化し過ぎた印象です．

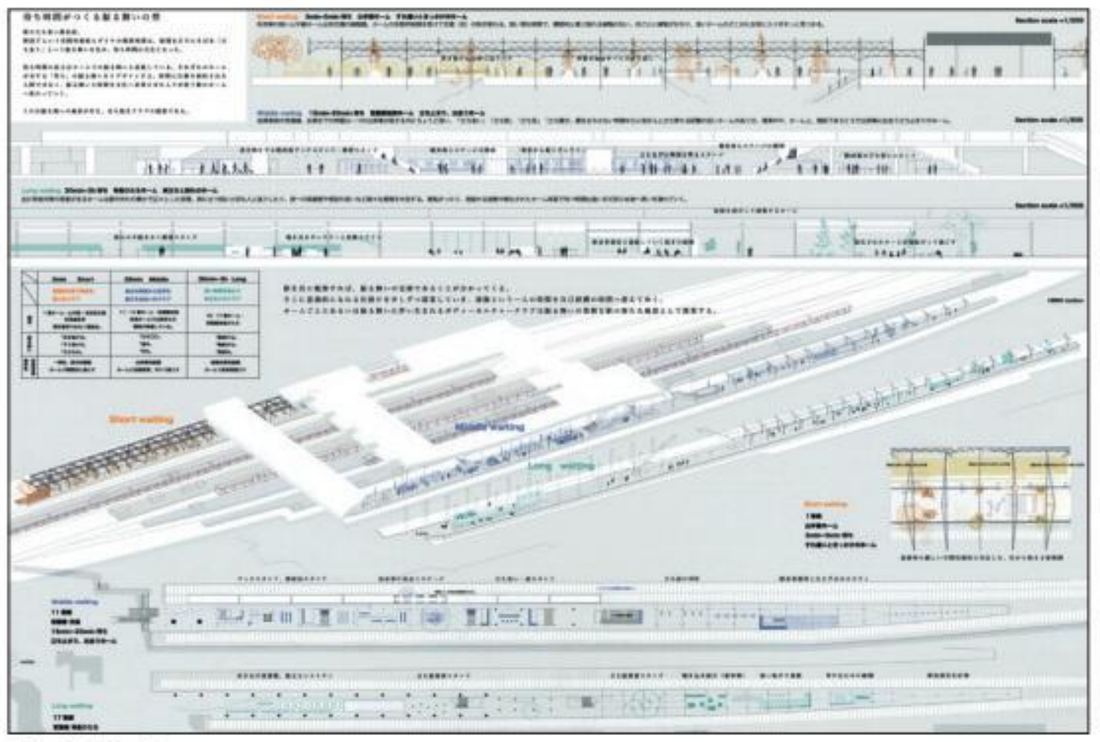
この状況下でたくさんの応募をいただき，みなさまに感謝したいと思います．

チョウ+リー案

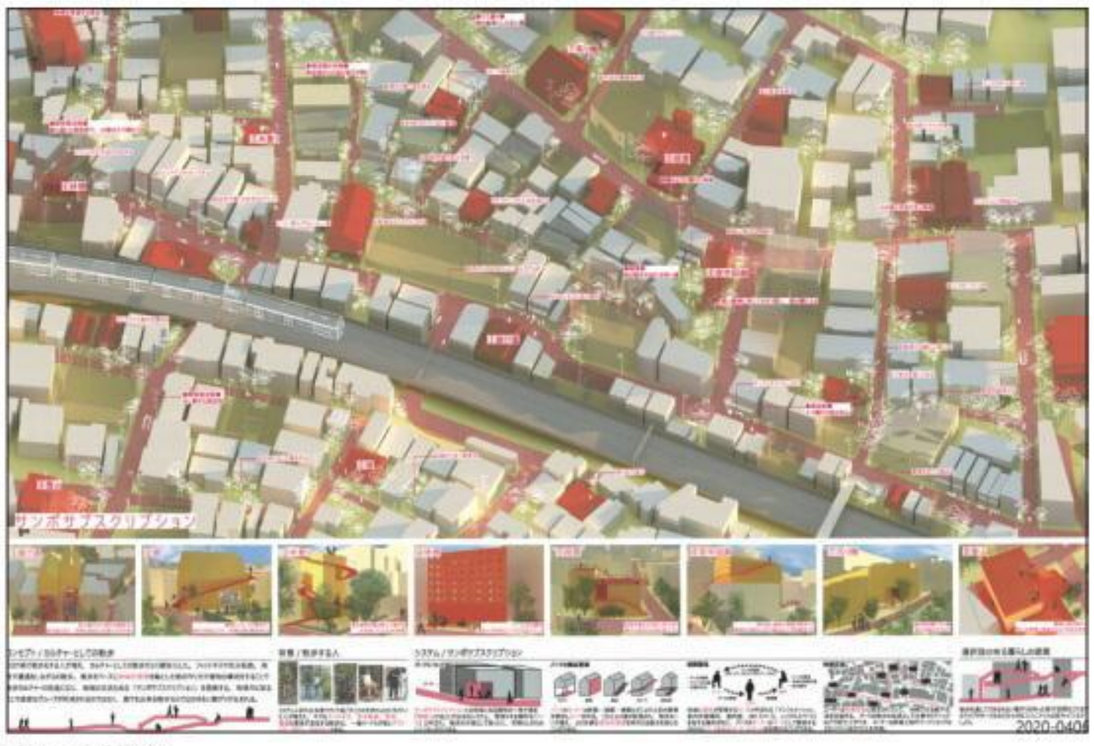


高桑+伊藤+金子+須田+永田+安原案

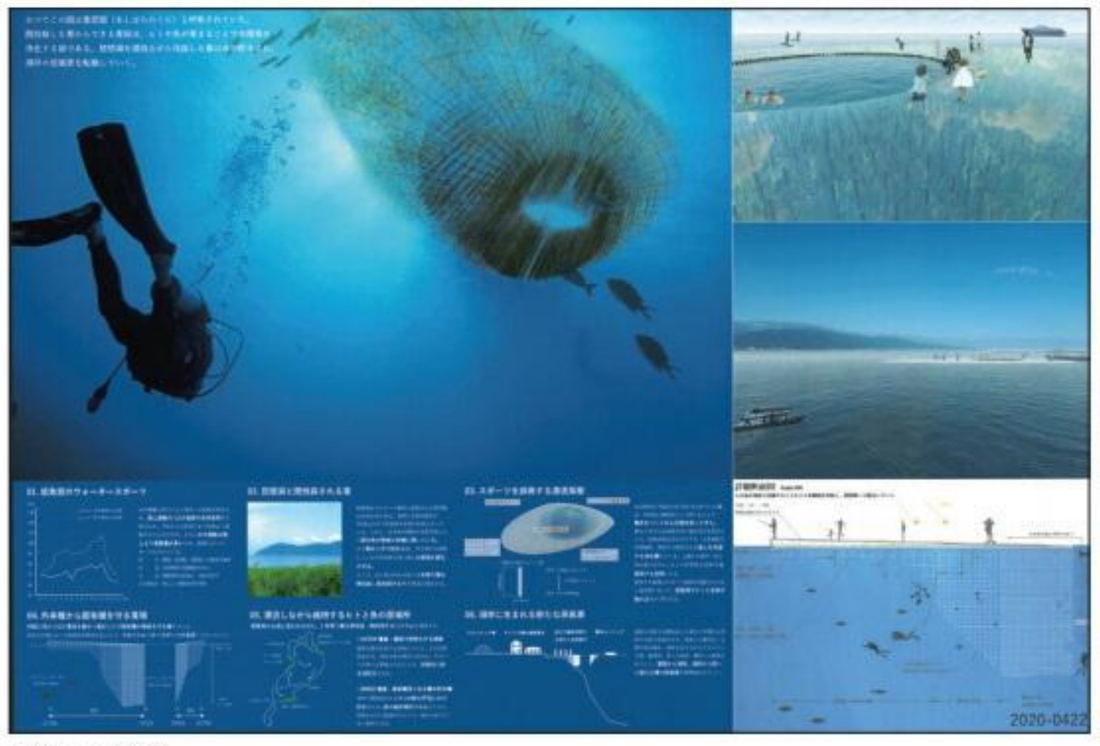
李+陳+陳案



草原+藤田案



吉田+近藤案



田淵+毛塚案

巻幡良忠（セントラル硝子常務執行役員）

私どもの主催するこの「セントラル硝子国際建築設計競技」も今回で第55回を迎えました．新型コロナの影響により，日常生活がいろいろな制約を受ける中で，無事に終えることができました．応募者の皆様はもちろん，審査委員の先生方，ご後援をいただいている新建築社様には，主催者として深く感謝申し上げます．

今回のテーマは，今年開催されるはずであった東京オリンピック・パラリンピックに刺激を受けてスポーツをはじめる人も出てくるのではないか．との思いより「ボディ・カルチャー・クラブ」となりました．

1次審査では，ソーシャルディスタンスの確保のため，審査委員の先生方に午前と午後に分かれていただき，それぞれ個室で審査をしていただきました．私も審査委員としてはじめて作品を拝見させていただきましたが，新しい遊びの提案，都市空間の提案，農業とカルチャークラブを融合させた提案など，その着想に興味をひかれる作品が多くありました．2次審査は，従来の公開式の審査会を取りやめ，リモートによる審査員のみでの審査と致しました．また審査の模様はYouTubeでライブ配信するなど，はじめての試みでしたが，関係者の皆様方のお陰で無事終了できました．

入賞された17作品は，それぞれ素晴らしい作品でした．コロナ禍の中で，海外，国内，180点の作品を応募いただきましたことを改めて感謝申し上げます．「セントラル硝子国際建築設計競技」の伝統を守りながら，今後も世界中の若手建築家の皆様のご活躍や，明日の建築界の発展にさらなる貢献ができますよう努めてまいりますので，引き続き皆様方の御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます．

新建築
2020年11月別冊

EVIDENCE BASED DESIGN + NEXT

戸田建設
創業140周年記念
建築設計統轄部

『新建築』2020年11月別冊は、戸田建設の創立140周年を記念した建築設計統轄部の特集号「EVIDENCE BASED DESIGN + NEXT」です。
多様化・複雑化する社会やクライアントのニーズに応答し、新しい建築を生み出すため、戸田建設建築設計統轄部では、シミュレーションやリサーチ、実験等といったエビデンス（証拠）に基づいた提案による設計アプローチがとられるようになってきました。
本号では、そうした設計アプローチに着目し、戸田建設の作品を紹介します。これからの激動の時代において、社会やクライアントと共有できる建築の価値をどのようにつくり出していくか、参照できるポイントが詰まっています。

好評発売中!!

定価 3,740円
［本体価格 3,400円］

A4変型判／264頁

発行　株式会社新建築社
東京都千代田区霞が関3丁目2番5号
霞が関ビルディング17階　〒100-6017
TEL：03-6205-4380
FAX：03-6205-4386

第47回 日新工業建築設計競技 結果発表

NISSHIN KOGYO ARCHITECTURAL DESIGN COMPETITION 2020

遊びのうえに暮らす

LIVING UPON THE PLAY

テーマ：遊びのうえに暮らす

第47回日新工業建築設計競技は，「遊びのうえに暮らす」をテーマに，2020年10月1日に締め切られ，応募登録1,355件，応募作品は396点を数えた．10月28日に行われた審査会において，ここに紹介する11作品が選ばれた．表彰式は12月2日，東京都千代田区丸の内のパレスホテル東京にて行われた．なお，入賞作品は，2021年2月15日（月）～ 18日（木），建築会館1階ギャラリー（東京都港区芝5-26-20）において展示される．

審査委員長

西沢立衛
（横浜国立大学大学院Y-GSA教授・SANAA ／西沢立衛建築設計事務所代表）

審査委員

平田晃久（京都大学教授・平田晃久建築設計事務所）

吉村靖孝（早稲田大学教授・吉村靖孝建築設計事務所代表）

羽鳥達也（日建設計設計部門ダイレクター）

藤村龍至（東京藝術大学准教授・RFA主宰）

相臺志浩（日新工業代表取締役社長）

課題文

「遊び」には，幼児のように戯れること，仲間と楽しく過ごすこと，酒や賭博などに耽ること，仕事や勉強の合間，物事にゆとりのあること，文学や芸術など世間から遊離した美を求めること，機械などの部品の結合にゆとりをもたせることなど，さまざまな意味があります．

ただ，いずれにしても，機能性や合理性を追い求めることとはうらはらの，人間味あふれる行為で，生きるための根源のようなものと言えるでしょう．

ヨハン・ホイジンガが著した『ホモ・ルーデンス』(中公文庫, 1973年)では，「文化は遊びのなかにおいて，遊びとして発生し，展開してきた」「遊びが生活のなかで大きな意味を持っていること，それがある必然的な使命を負っていること」「自然は……(中略)……緊張，歓び，面白さというものをもった遊びを与えてくれた」と書かれています．

この人間活動の本質とも言える「遊び」から暮らしを考えてください．

「遊び」を考えることで住むことの可能性が広がるでしょうし，これからの暮らしにヒントを与えてくれるでしょう．みなさんの提案をお待ちしています．

1等（1点・賞金100万円｜税込）

福留 愛（横浜国立大学大学院・iii architects）

2等（1点・賞金50万円｜税込）

菊池 凌平・小林 友哉（フリーランス）

3等（1点・賞金30万円｜税込）

髙橋 雅人（齋藤和哉建築設計事務所）

佳作（8点・賞金各10万円｜税込）

白鳥 恵理（白鳥建築設計研究室）・**山口 一紀**（フリーランス）

市倉 隆平（Massachusetts Institute of Technology）

TOM COUTANT・ELISE DALMASSO（ENSAS）

和久 正義（早稲田大学大学院）・**髙橋 まり**（Studio Mark Randel）

ARDY HARTONO KURNIAWAN・ADWITYA DIMAS SATRIA・WILUSTY TENGARA・ELLYSHIA CANDRA・NADYA WINAGA（dua studio）

杉山 翔太（信州大学大学院）・**酒向 正都**（信州大学）

中谷 哲也（Go A do）

HASEEF RAFIEI（Veritas Architects）

総合防水材料メーカー
主催　日新工業株式会社　　**後援　株式会社新建築社**

1等

福留 愛
（横浜国立大学大学院・iii architects）

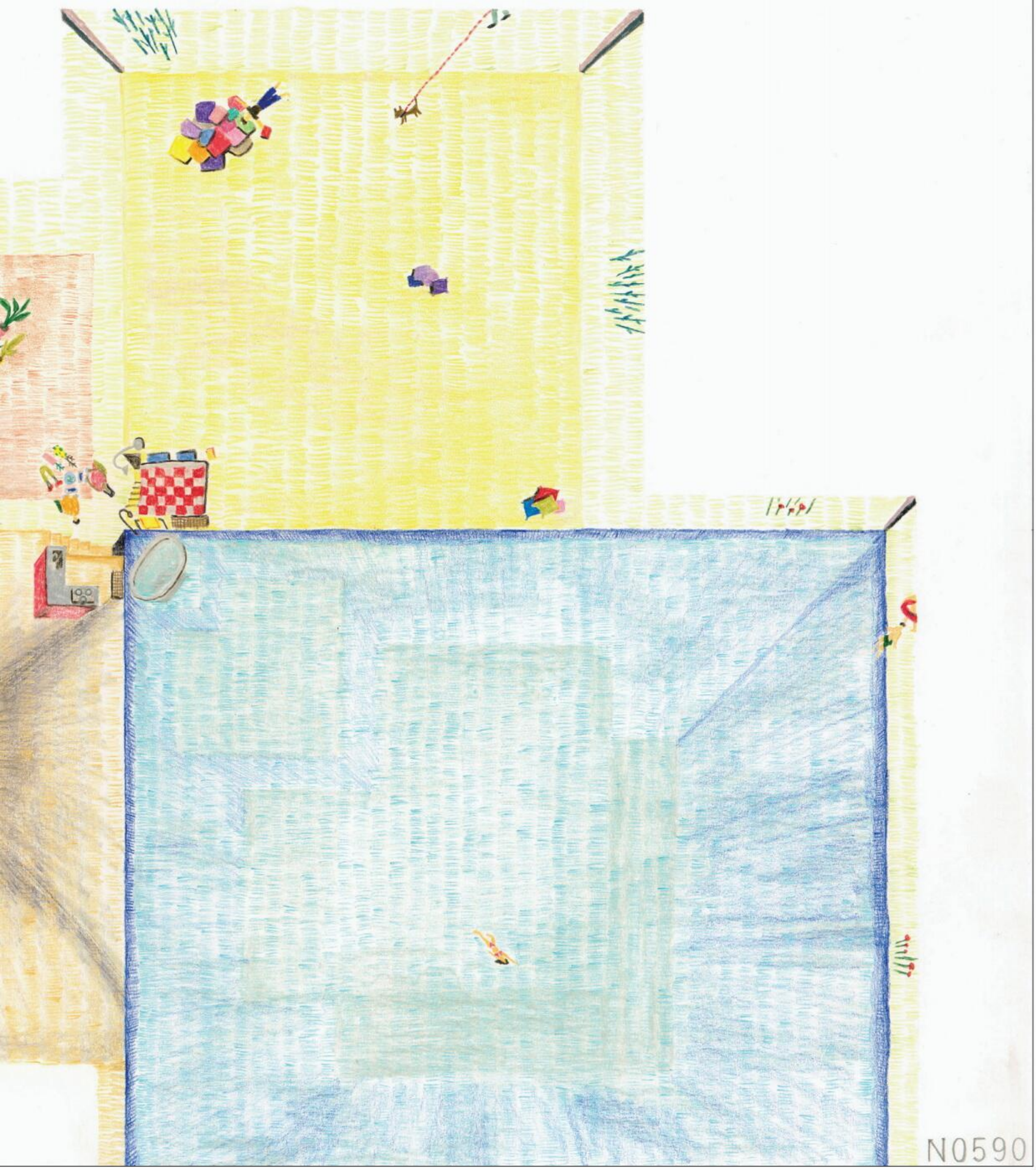
大きさに遊ばれる家

公園での遊びは制限され、画面上でできる遊びは増えていく。
身体を自由に動かす場所は徐々に施設化していき、
自然と起こる身体の動きを伴う遊びはこの先減っていくのかもしれない。

小さい頃お風呂は、遊び場だった。
潜ったりお湯を掛け合ったり泳いだりして、手がしわしわになるまでそこにいた。
体が大きくなった今、入浴は行為になった。
しかしそんな私たちでも、プールや海に行ったら、無性に体を動かしたくなる。
そのような“大きさ”のある暮らしを提案したい。

この家の中心には、いままで通りの大きさの生活があり、
その少し外側には、走り回れるようなテーブル、
晴れた日は外の芝生までごろごろと転がっていける柔らかな床、
水の中で踊り出したくなるようなプール、焚き火の煙も吸い込んでいく煙突がある。

毎日は遊ばないけど、いつだって遊びは起こるかもしれない。
日常の大きさの延長にある、非日常の大きさ。
この二つの大きさの往復の中に人々は遊ばれる。

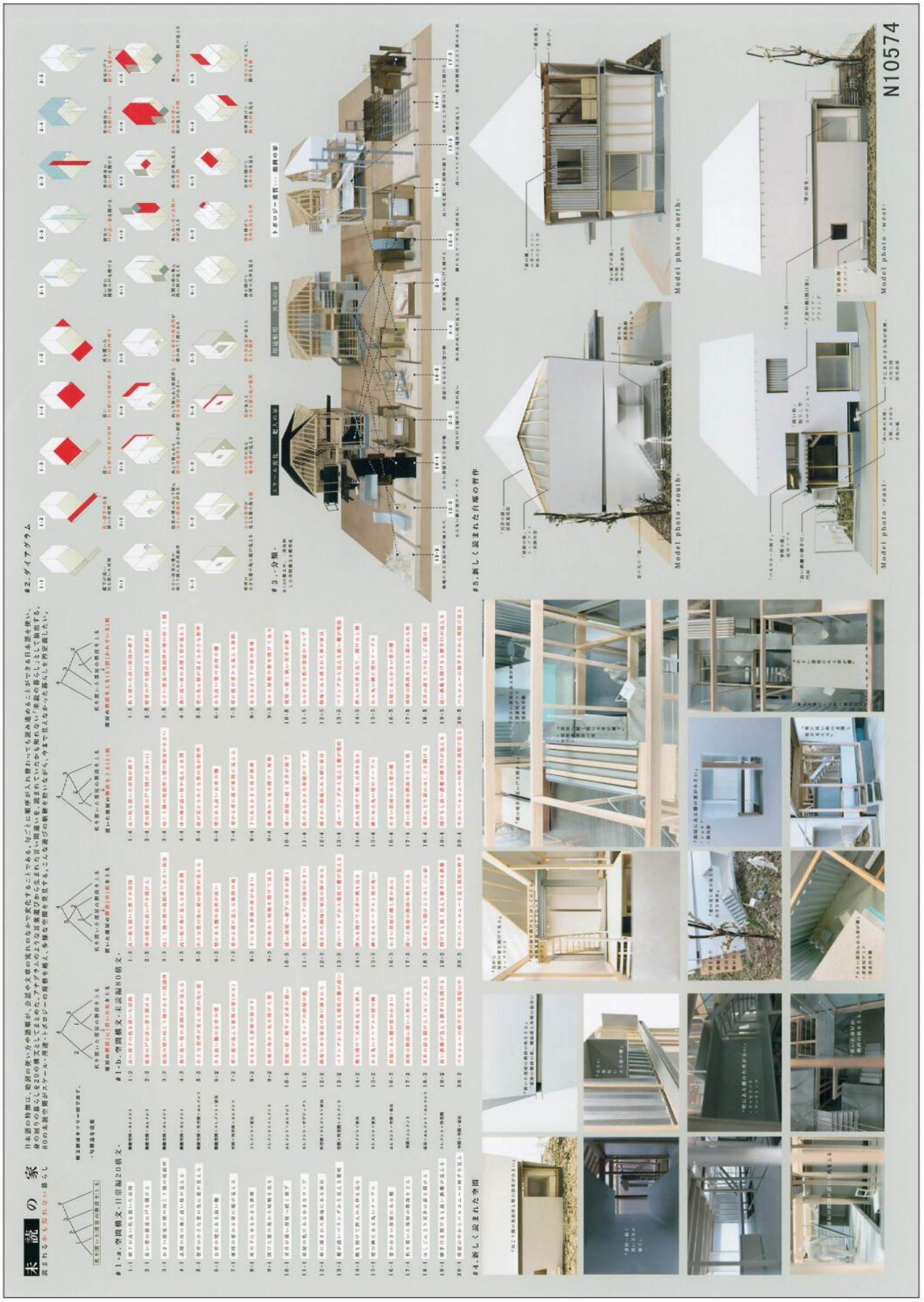

N0590

2等

菊池 凌平・小林 友哉（フリーランス）

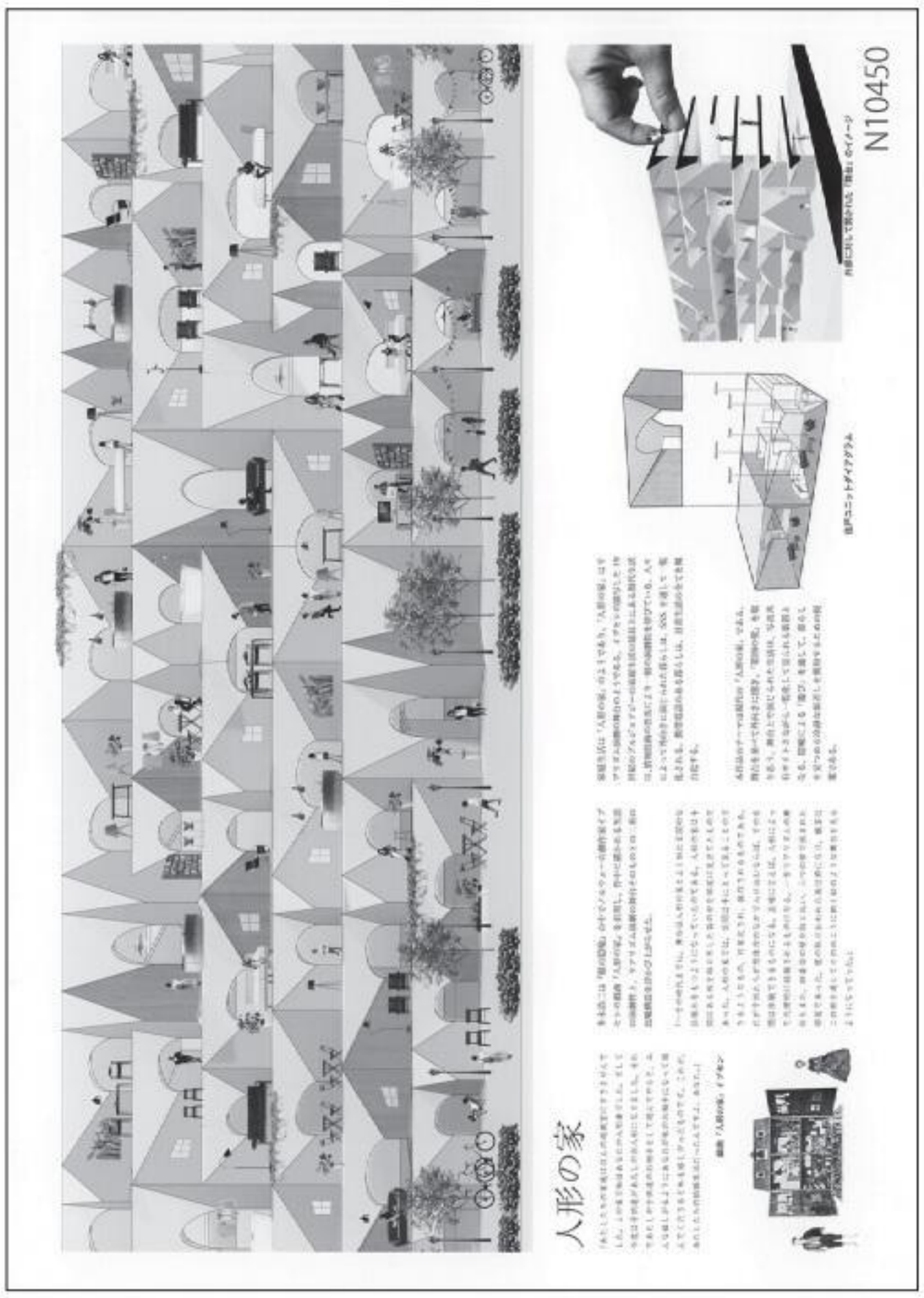
3等

髙橋 雅人（齋藤和哉建築設計事務所）

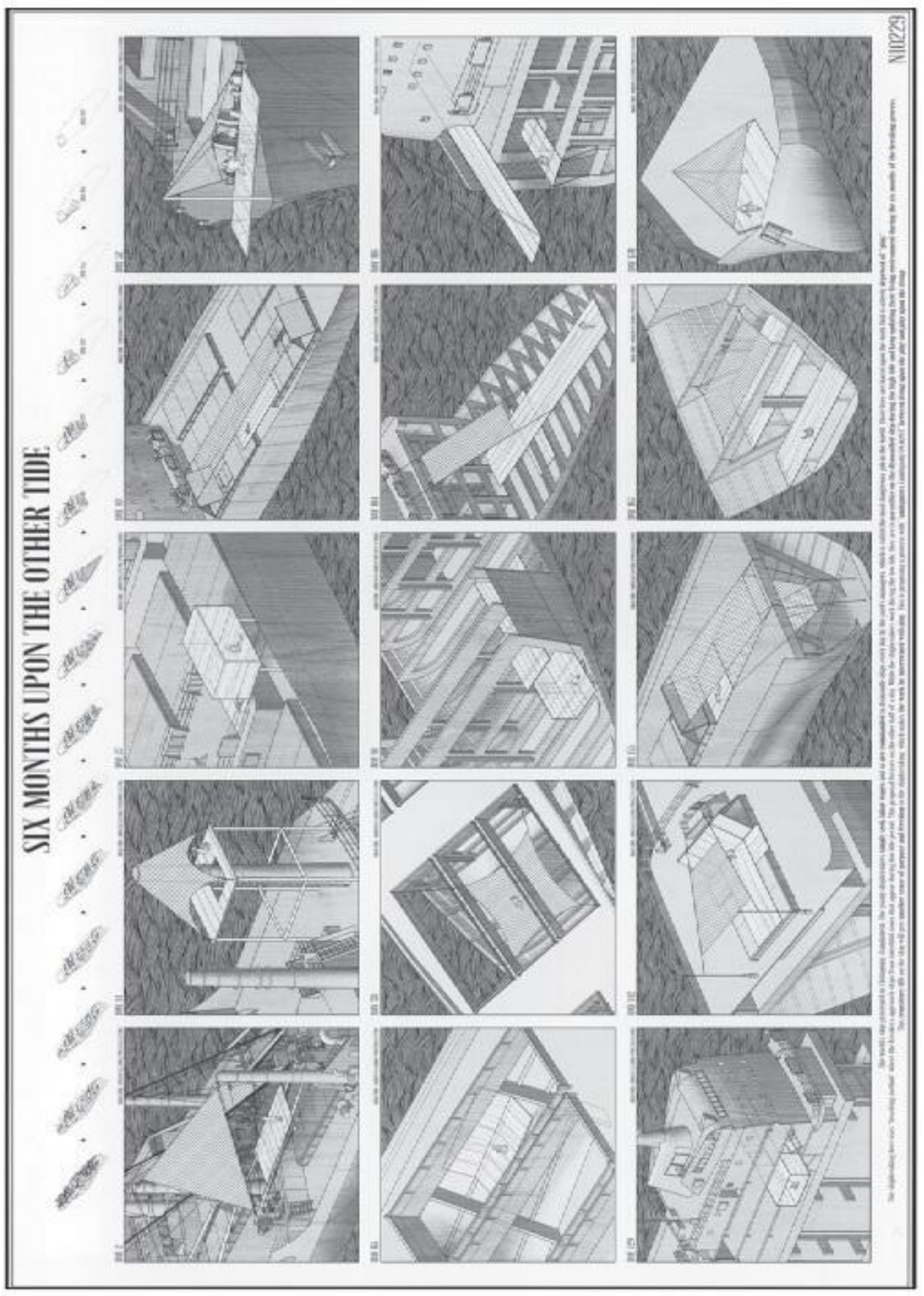


佳作

白鳥 恵理（白鳥建築設計研究室）・山口 一紀（フリーランス）

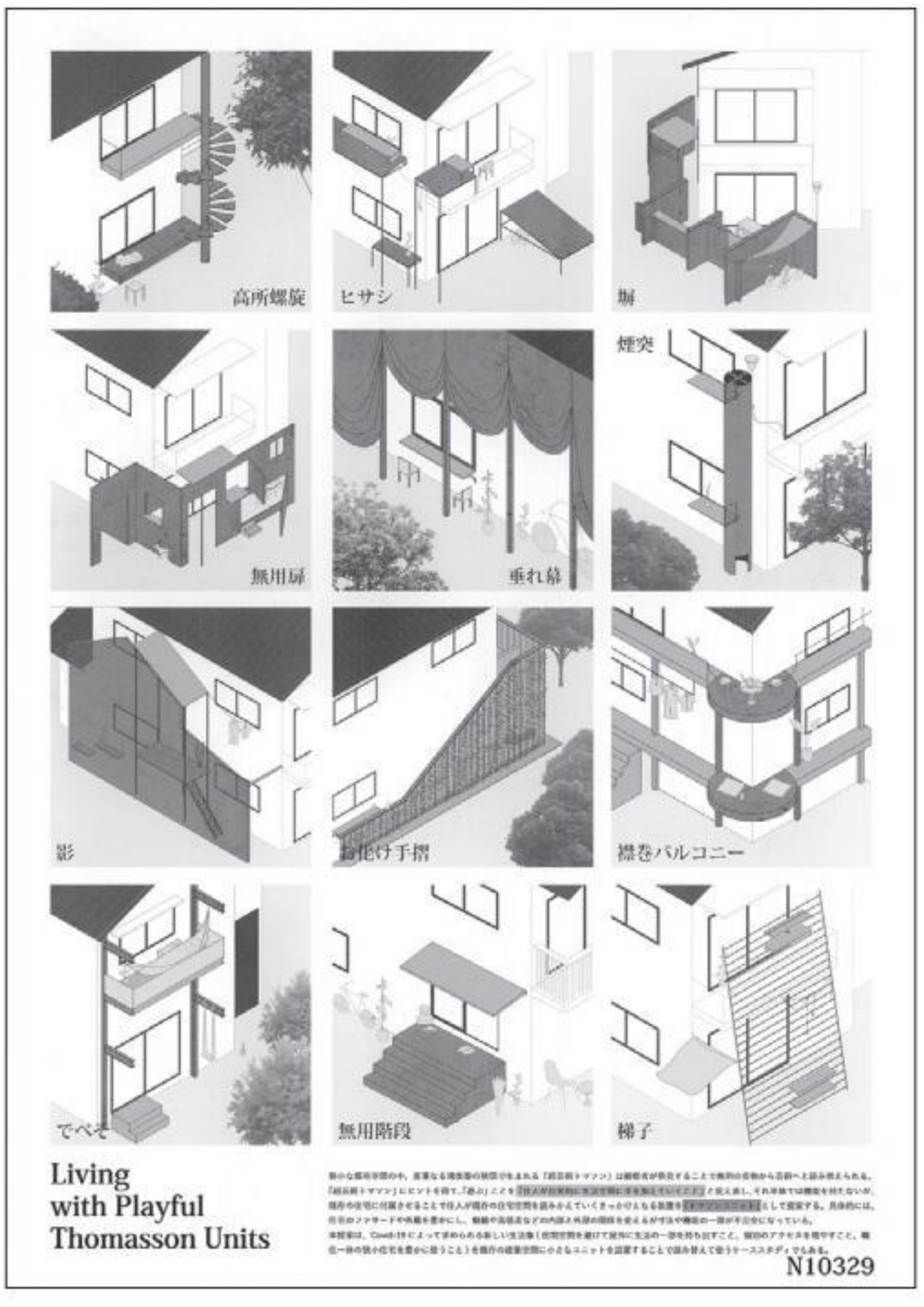


市倉 隆平（Massachusetts Institute of Technology）



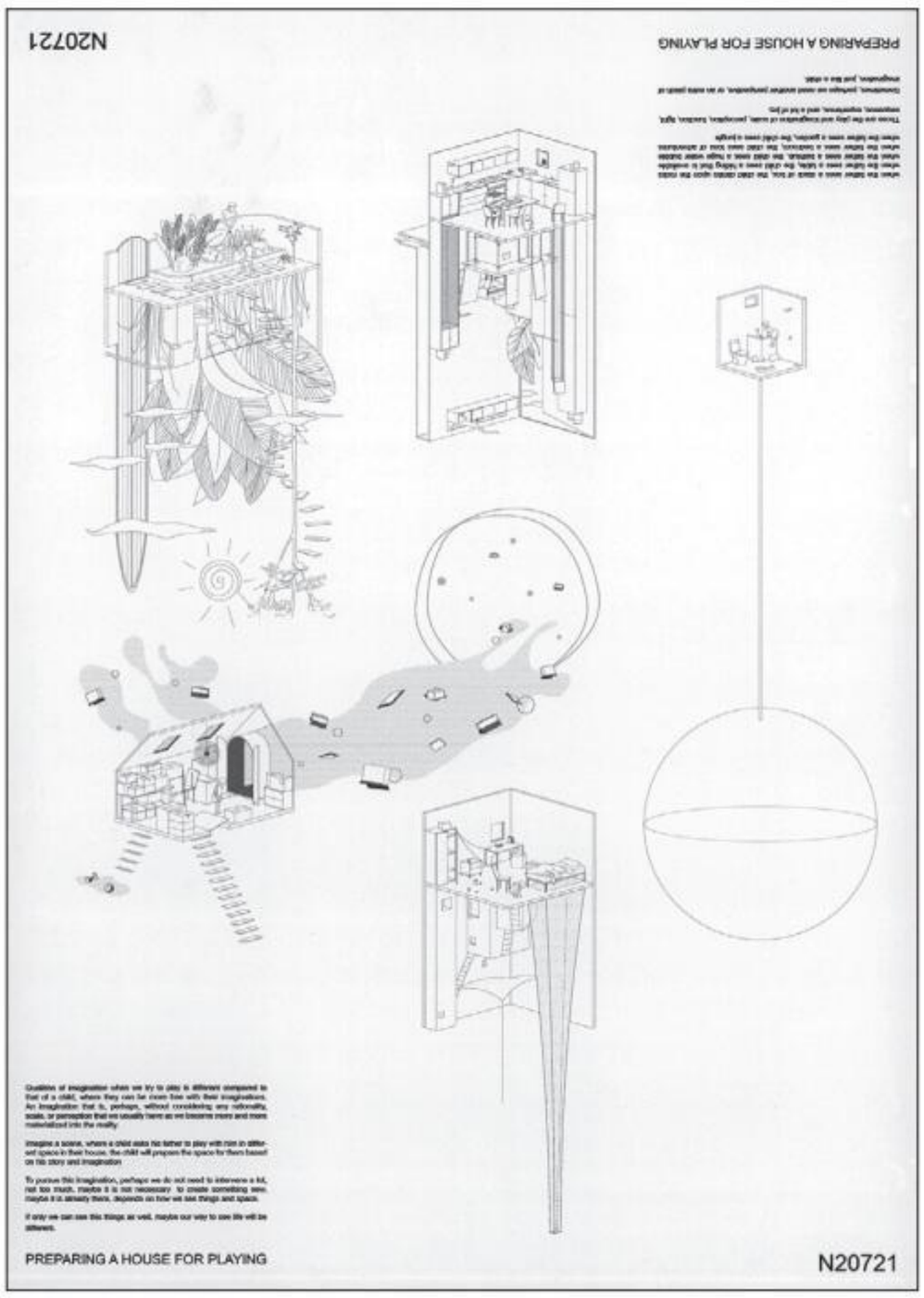
TOM COUTANT・ELISE DALMASSO（ENSAS）

和久 正義（早稲田大学大学院）・髙橋 まり（Studio Mark Randel）

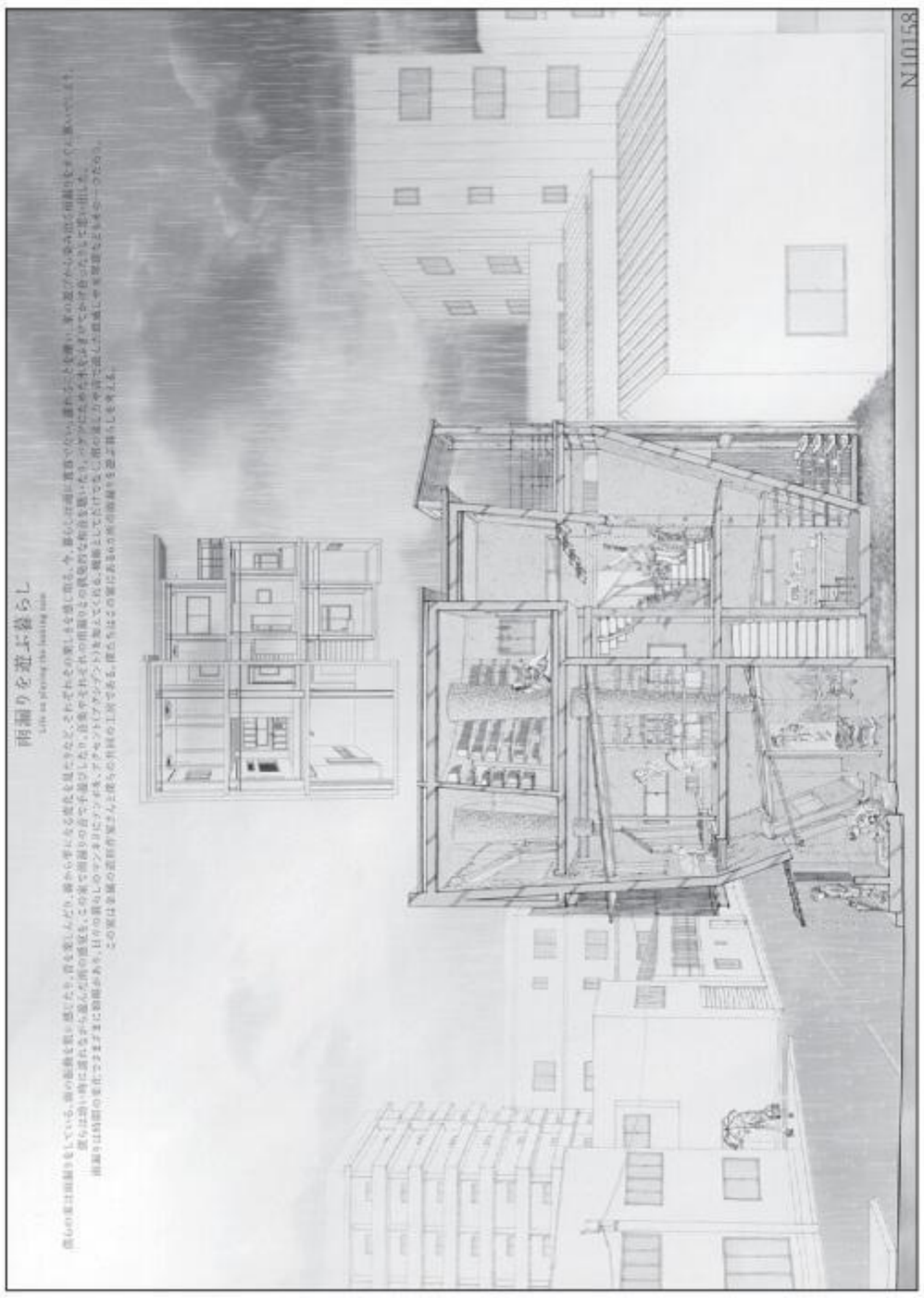


佳作

ARDY HARTONO KURNIAWAN・ADWITYA DIMAS SATRIA・WILUSTY TENGARA・ELLYSHIA CANDRA・NADYA WINAGA（dua studio）

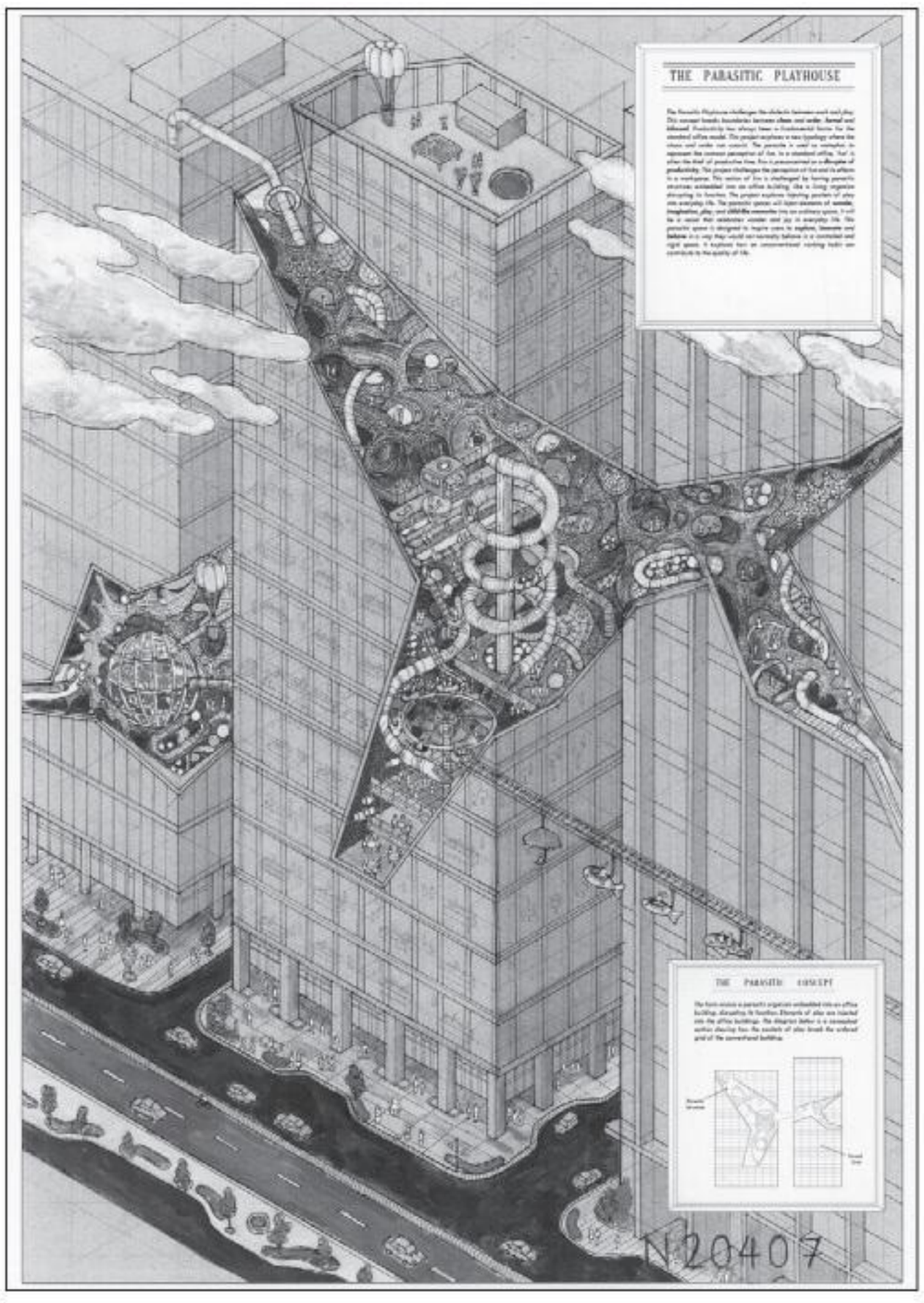


杉山 翔太（信州大学大学院）・酒向 正都（信州大学）



中谷 哲也（Go A do）

HASEEF RAFIEI（Veritas Architects）



審査講評

西沢立衛

今回のテーマ「遊び」は，難しかったかもしれない．応募数は例年より多かったが，驚くような提案は少なかった．その中でも1等を獲得した**福留案**は，非日常的な大きさを住居の中に持ち込むことで，機能を超えた建築を示すという案で，ドローイングの魅力と共に評価された．**菊池・小林案**（2等）は，街なかに○○ボックスを置く案で，その乾いた現代性と日本的想像力が特徴と感じた．**髙橋案**（3等）は，日本語文章の順列組み合わせのバリエーションから，さまざまな可能性の空間を見出すという案で，機能や意味を超えた空間の提示が新鮮だった．**白鳥・山口案**（佳作）は，遊び＝プレイ＝演劇という連想から，第四の壁を取り払った集合住宅を提案した．アイデアが面白く，現実と虚構の一体感が面白い案だったが，多少暗かった．もう少し明るく力強くやってほしい．**COUTANT・DALMASSO案**（佳作）は「未確認遊び物体」の提案で，ほとんどナンセンスかもしれないが，暴力的というかなんというか，明るくユーモアがあった．**和久・髙橋案**（佳作）はトマソンユニットの提案で，もう少し鋭い展開があればさらに高く評価されたはずだ．**杉山・酒向案**（佳作）は，雨漏り住宅の提案で，あちこちから漏れてくる水を室内で楽しむという，現実なのかフィクションなのか，どちらとも取れるブラックさがあった．**中谷案**（佳作）は，今回の入選作の中では珍しく造形で勝負する案で，自由な形づくりにセンスを感じた．**RAFIEI案**（佳作）は，街の表面と中身のギャップをエッシャー的図法で鋭く示した．

平田晃久

遊びという言葉の外延は広く，応募者も思いのほか手こずったのかもしれない．応募数はとても多く素晴らしかったのだが，お，そう来たか，という意外性を持った案は，多くはなかった．言葉の意味に過度に引っ張られてしまったのかもしれない．建築には概念を押し広げ，変化させるようなところがあり，単に言葉の解釈を空間化する以上のことが，可能なはずなのだ．

その点，1等の**福留案**は空間の大きさを少しだけずらすことによって，ありそうでなかった，ものと人のプレイフルな関係をつくり出している．初見では，大きさの設定がやや中途半端に見えたのだが，よく見てみると，その微妙な大きさの拡張が「余白」を意味する遊びの外延とも共鳴し，案全体が遊びの概念を拡張させるように見えはじめたから不思議だ．3等の**髙橋案**は，通常の空間を記述する言葉の組み合わせをシャッフルすることで生成されてしまう，謎の空間を提示する．ルルスやライプニッツの結合術（アルス・コンビナトリア）にも通じる発見のための方法が，大真面目な中に笑いを生み出す．

市倉案（佳作）は舟を解体するプロセスを建築的に遊ぶアイデアである．構築物の消滅を建築化するという遊びに満ちた発想に好感を持った（この舟は解体途中で沈みはしないのか，などの疑問もあるが）．

中谷案（佳作）は躯体の素材感が画一的だったり，幾何学が強く見えすぎて表現は少し硬いが，興味深い空間だと感じた．久々にリアルで集まった審査過程は単純に楽しく，言葉と建築的想像力の関係を考えるよい機会となった．

吉村靖孝

福留案（1等）には，見れば見るほど引き込まれた．応募案の大多数が壮大な建築的遊戯の創出に没頭するのを尻目に，「大きさ」という，建築にとってもっとも根源的なパラメーターのチューニングとは，拍子抜けするくらい単純な操作である．描画の素朴さも相まって，はじめは見落としていたほどだ．しかし，その素朴さに潜む洗練と狂気は，彼女が日常生活の裏側に潜ませた「非日常の大きさ」にちょうど重なる．建築に「遊ばれる」という言葉の選び方も秀逸で，出題側の視点を裏返すようなふてぶてしさがよい．**菊池・小林案**（2等）は，ウィズ・コロナ時代のひとり遊びを映し出しているように見えた．作者自身は○○ボックスを「人間味の溢れた遊びの場」と呼んでしまっているので，実のところどこまで皮肉を込めたのかは不明だが，戯画化したイラストはどこかものがなしく，近未来のディストピアを描いたようにも見えた．また，**白鳥・山口案**（佳作）は，日常生活の演劇性を縁取るプロセニアムの提案で，つまり，すでに暮らしの中に潜んでいる「遊び」を炙り出している．「遊びのうえに暮らす」という課題そのものは，この重々しいコロナ禍に不釣り合いなほど軽々しく響くのだが，入賞を果たした案はどれも，鋭い批評を宿しているように見えた．ギリシア喜劇が必ずしも単に楽しい笑いを意味しないのと同様，「遊び」も単なる余暇や娯楽を意味しないことを再確認することができた．

羽鳥達也

「遊び」を考えることで生活や暮らしが新しく解釈されたり，逆に生活や暮らしを捉え直すことで新たな視座をもたらすような「遊び」が見出されたりと，そうした試みが集まることを期待したが，建築自体の再解釈に迫る提案は少なかったように感じた．上位には「遊び」とは何か，そしてそれを契機として建築とは何なのかを問う意義を持ったものが選ばれたように思う．これまで建築家たちが寸法や比と人の感覚との神秘的な関係を追求してきたように，選んだ材料に位置と寸法を与えることが設計でできることだし，それこそが設計の本質だと思う．

こうした点で1等の**福留案**は，空間の寸法を操作すること，ほぼそれだけで「遊び」につながることを示した点が強い．建築と「遊び」の間に不純物がなく，生活そのものが空間によって遊びに転じうることを示したドローイングと，その解釈に繋がった気づきを記した短い文章は，抽象的で虚構的だからこそ，見る人それぞれの解釈を許す．それが各々に普遍性やリアリティを感じさせ，高い評価に繋がったと思う．その大きさや表現が，とても今日的だとも感じた．

対照的に，ひとりで行うことを小さな箱にそれぞれ割り当てた**菊池・小林案**（2等）が扱ったのは，決まりに従わせる力が強い「ルドゥス」寄りの遊びであろう．絵も作者の意図を追認させるような具体的な表現で，生々しく現代的で愉快であるが，率直に言えばあだ花のような提案にも見えた．こうした発想が街の風景として現れたときにそれは幸せな「遊び」になり得るのか．そのあたりに疑問が残った．

藤村龍至

2019年の台風15・19号に続き，2020年は新型コロナウイルスが私たちの日常を全球的に襲った．「遊びのうえに暮らす」は昨年にも増す緊張感のなかで審査が行われた．1等の**福留案**は空間の「大きさ」を扱う．一見，建築計画学が探求してきた人間の規模・寸法・動線などの近代主義的な設計の原理を否定し，篠原一男の「住まいは広ければ広いほどよい」を肯定するものにも見える．ただ，この案の見どころは今さら計画学批判でも，最小限住宅への皮肉でもないだろう．コロナ禍で大都市の密集を避け，普及したリモートワークを前提に地方へ移住する若者らが長らく使われていなかった広々とした空き家にダイブした瞬間や，狭い空間に隔離された不自由な生活者が延々と仮想空間をサーフィンして時間を潰したあとに「大きさに遊ばれる」ような経験をするかもしれない．2等の**菊池・小林案**の多くの行動を内包した電話ボックス群や，**白鳥・山口案**（佳作）のバルコニーの舞台性が強調された集合住宅のような提案もまた，一見するとコロナ禍で人類が全球的に体験した個人と個人が隔離された生活を描いているように見える．だが福留案の「大きさ」や菊池・小林案の「ボックス」も，災禍を乗り越えたあとの新しい社会空間を描こうとしているように感じられた．それは個人と個人が離れているようで繋がり，存在は感じるけれども必要に応じて互いの距離を取れるような，ゲオルク・ジンメルの「橋と扉」のような空間原理がさらに鮮やかに見えてくる世界像かもしれない．

ブックマーク・フォルダ公開機能を12月に実装！

新建築データからのお知らせ
アンケートで多くのご要望をいただいたブックマーク・フォルダ公開機能を、
2020年12月15日に実装します！

Q_ 必要と思われる追加機能があれば教えてください（第2回アンケート）

ブックマーク機能
閲覧履歴
誌面などへのマーカー機能
共同作業画面
作品ごとのコメント投稿欄
誌面画像の見やすさ、めくりやすさ
その他

ブックマークをユーザが設定したフォルダごとに整理

フォルダを公開してほかのユーザと共有

THE JAPAN ARCHITECT

ja

WINTER
2020
118

好評発売中!

定価：

Place+Urbanism

City : Designed by Crisis

危機がデザインする都市

Place+Urbanism シリーズ第2弾となる ja118 号は、「City : Designed by Crisis 危機がデザインする都市」を発行いたします。
今、COVID-19 のパンデミックによって、まさに危機に直面している世界の都市は、これからどのように変わるのでしょうか?
世界の都市はこれまでも、さまざまな危機に直面してきました。しかし、危機をきっかけに変化を遂げ、現在も魅力的であり続けています。
都市がこれまで経験してきた危機を振り返り、これからの都市について考える手がかりとなる17の都市を紹介します。

【お知らせ】
2021 年から『ja』は「新建築データ」による情報発信と『a+u』の増刊からの刊行に移行いたします。
詳細は https://shinkenchiku.online/information/ をご覧ください。

発行　株式会社 新建築社　〒100-6017
東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 5 号 霞が関ビルディング 17 階
tel.03-6205-4380　fax.03-6205-4386
URL: https://shinkenchiku.online/

第27回 空間デザイン・コンペティション

結果発表

課題

幸せな空間をつくるガラス

審査委員長　千葉　学 (建築家/千葉学建築計画事務所 主宰、東京大学大学院教授)

審査委員　芝田 義治 (建築家/久米設計 設計本部)
西澤 徹夫 (建築家/西澤徹夫建築事務所 主宰)
岸本　暁 (日本電気硝子 常務執行役員 コンシューマーガラス事業本部 本部長)

コーディネーター　五十嵐 太郎 (建築批評家/東北大学大学院教授)

(敬称略)

応募登録数 349件　応募作品数 237点

[最優秀賞] 1点 賞金100万円

門田 健嗣
髙濱史子建築設計事務所

[優秀賞] 1点 賞金30万円

莱 恩立
中國美術學院上海設計學院

[入　選] 8点 賞金各5万円

笹本 佳史
greap株式会社

久保 亜津子　佐治 仁之
田中 稔郎　山崎 雅人
株式会社 グリッドフレーム

稲垣 竜也
フリー

杉本 晴香　阪上 雄斗　島田 真希
中村 圭佑　宮崎 彩那　吉本 尚世
株式会社 JR東日本建築設計

上田 友美子
佐賀大学大学院

間﨑 紀稀
東京大学大学院

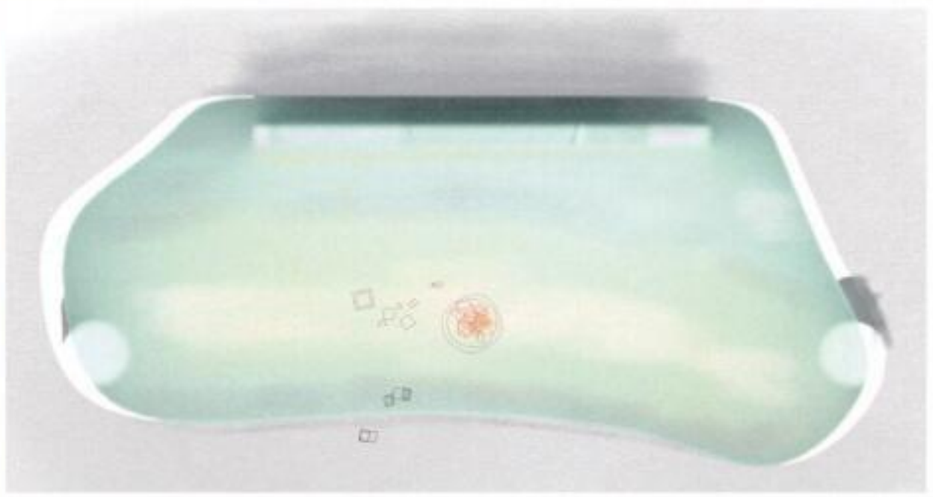
福岡 優　北條 太一
京都工芸繊維大学大学院

ヨコヤマ ミワ
アーティスト／アルチザン

日本電気硝子の建材製品情報 ＞ https://www.negb.co.jp/をご覧ください。

主催：日本電気硝子株式会社　共催：電気硝子建材株式会社　協賛：株式会社 新建築社

最優秀賞



空と光の野生

野性とともに暮らす
古くから人間は空の制御できない野性的な側面とともに暮らしてきたが、現代の都市では空と人のつながりは希薄に感じられる。
テレワークやリモートが一般的になった時代。
都会に定住する必要はなく、地方に暮らせって生活を営むことができる。地方などの人が少ない地域は空を自然に感じることのできる環境なのではないか。
そうした情報時代の暮らしの中に、空と人間の関係から生まれるやさしな野性を盛り込む。
ガラスを通じて生成される光の形とそれに付与される意味が、暮らす人に断面的な知性作用を与える。
それは自分なりの生活様式を再考するきっかけになる。

春分・秋分の日は朝日の光が当たる。

一日の時間が光の位置で示される。

昼になると太陽光がガラスに集まり、火が灯される。

あらかじめ光の入射角を計算し、どこにどのような光を落としたいかを決めておく。3Dプリンタで厚み、形状を変えながらガラスを出力することで、ガラスに入射した太陽光を意図した形に変換する。
高度なテクノロジーによって作られたひとつながりのガラスの塊は、火を灯したり、日時計のように時間を知らせたりする。そうしたシンプルな機能はどこか野性的な原始の文明を感じさせる。

作品名
空と光の野生

門田　健嗣
髙濱史子建築設計事務所

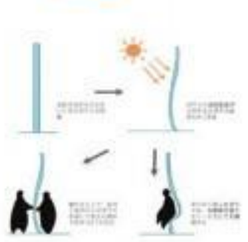
優秀賞

やわらかいガラス

concept

流行後、人々は家で仕事をする傾向が強くなり、流行の原因で交際も少なくなった。長時間家にいることは、心理状態に悪影響を及ぼす。
社会の発展に従って人々の居住空間はますます快適になり、人々はますます怠惰し、ますます外出したくない。しかし、人間である私たちは、インターネットと自分だけの生活の中でをさではならない。平等な空間は平等な社会であるべきだ。

これはざらかくなったガラスですが、気温の変化に伴って、太陽の高度が15度以上になると、ガラスが柔らかくなってきて、柔らかい質感が触れる印象を与します。興味深いことに、室内の人が柔らかいガラスに触れると透明度が変化（透明度の低下）するためには、外部に到達するか、外部の人がこのガラスに触れることで透明度が復元される。屋外の人や室内の人は、この硬度のあるソフトガラスを通して、相手に触れることができます。



ガラスの格子

もちろんこのガラスはおの格子としてもあかい。柔らかくなったガラスは格子のように固れてしまった。ガラスはその間、人と人との間の保護やお切りをすることなく、人と人との間の保護を強めていった。

隔離室のガラス

このガラスは生きを制御するのにも使われています。なぜなら、会気はのたいガラス越しに会者を立っているだけですが、この柔らかいガラスは絵のようなものに触れています。相手の温度も感じられる。

作品名
やわらかいガラス

萊　恩立
中國美術學院上海設計學院

審査風景

2020年11月6日に、審査会が行われました。左から岸本氏、千葉氏、五十嵐氏、芝田氏、西澤氏。

審査委員長

千葉　学

建築家/千葉学建築計画事務所 主宰、東京大学大学院教授

「空と光の野生」は、意表を突く提案だった。ガラスによる光の屈折や集光を利用して火を起こし、日時計を作る。
この原始的な光のあり様を人の集う場にするものだ。人類がコロナという「自然」に翻弄される中で、自然を生活の原点として炙り出す。柔らかな絵だが、人類と自然との関わりに対する痛烈な批評でもある。
他の多くの提案も、人間の本能でもある「繋がること」に対する解像度の高さが印象深かった。たくさんの気づきを与えてくれる審査だった。

審査委員

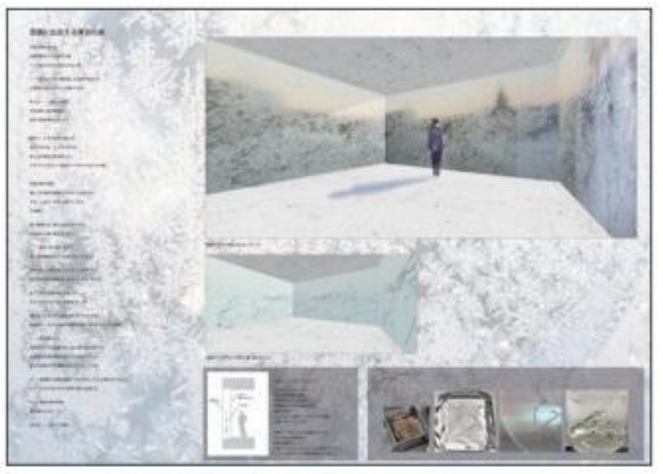
芝田　義治

建築家/株式会社久米設計 設計本部

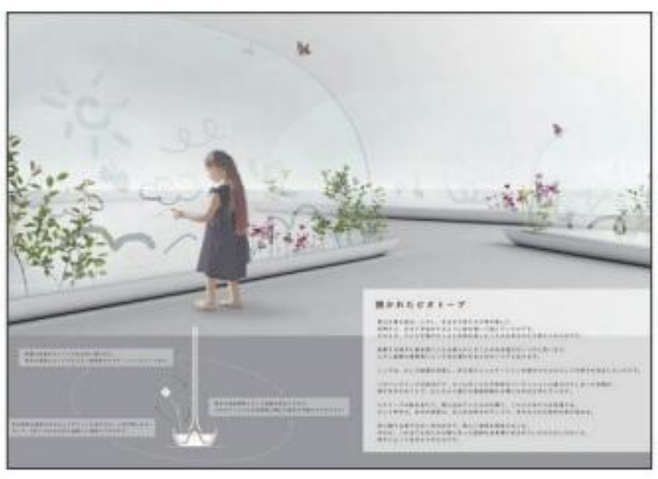
パックキャスティング的アプローチによる作品が、より大きく僕たちの心を掴んだと思います。とくに、COVID-19によって否応なしに生活や認識を変えなくてはならなくなった中での、ガラスへの「願い」の様なものを読み取れた作品に強く惹かれました。
例えば門田さんの作品からは、その下で集う大家族を想像し、萊さんの作品からは、今生の別れの時、遮断されながらも互いの体温を確かめ合う老夫婦を想いました。
なお、入選作以外にも、僕たちの心にふれた力作が少なからずありました。それらをご紹介できないことが些か残念です。

入選
8点

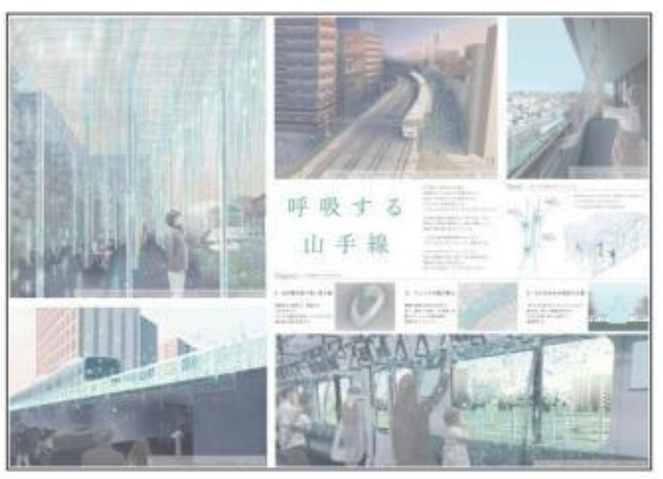
作品名
Raindrops
笹本 佳史
greap株式会社



作品名
窓霜に出会える東京の家
久保 亜津子
佐治 仁之
田中 稔郎
山崎 雅人
株式会社グリッドフレーム

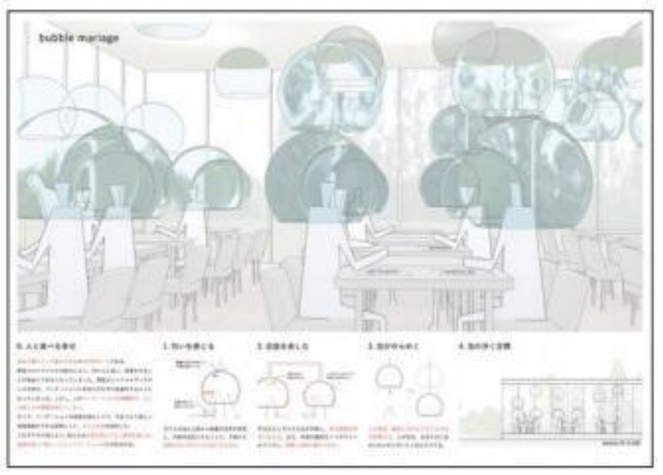


作品名
開かれたビオトープ
稲垣 竜也
フリー



作品名
呼吸する山手線
杉本 晴香
阪上 雄斗
島田 真希
中村 圭佑
宮崎 彩那
吉本 尚世
株式会社JR東日本建築設計

作品名
それでも私は感じたい
上田 友美子
佐賀大学大学院



作品名
bubble mariage
間﨑 紀稀
東京大学大学院

作品名
Build the "Realization" on the Border
Build tha "Border" on the Realization
福岡 優
北條 太一
京都工芸繊維大学大学院

作品名
あおのせかい
ヨコヤマ ミワ
アーティスト／アルチザン

審査委員
西澤　徹夫
建築家/西澤徹夫建築事務所 主宰

わたしたちは常にモノに残された痕跡や配置などから間接的に人の存在や時間を感じとっています。
そこから、ときに幸せを感じることがあるかも知れません。直接的な人どうしの接触が制限されたなかで、ガラスがわたしたちの生きること、楽しむことを媒介してくれるとしたらそれはどんなかたちを持っているのか、とても示唆に富んだ提案が寄せられました。「空と光の野生」は、場所の固有性と新しい生活スタイルとの関係をうまく繋いでくれる建築だと思いました。

審査委員
岸本 暁
日本電気硝子株式会社
常務執行役員 コンシューマーガラス事業本部 本部長

今回のテーマ“幸せな空間をつくるガラス“で、コロナ禍で今までの日常を変えざるを得なくなった中、ガラスを通して安らぎやときめきを感じる作品に接することができました。まだ感染が終息する気配がありませんが、この困難を克服した先に明るい未来が広がることを願っています。
弊社は、今後もガラスの可能性を引き出す新しい発見を期待するとともに、受賞者の皆様方がこの受賞を足掛かりにご活躍されることを祈念いたします。

コーディネーター
五十嵐 太郎
建築批評家/東北大学大学院教授

今回、コロナを契機としたテーマを設定したが、ややひねりを加えて「幸せな空間をつくるガラス」としたので、ポジティブな提案が多く集まった。
またコロナに関連したコンペはほかにも登場したが、ガラスという切り口ゆえに、ほとんどかぶりはなかったように思う。
二次審査において最後は2案に絞り込まれ、建築の可能性に対するイメージの喚起力が強い方が最優秀賞に選ばれた。
なお、佳作は提案のいくつかの類型を代表するものを拾いながら、バリエーションが生まれるように選出されている。

新建築住宅設計競技2020　結果発表
SHINKENCHIKU RESIDENTIAL DESIGN COMPETITION 2020 ANNOUNCEMENT OF THE RESULTS

主催　一般財団法人吉岡文庫育英会　株式会社新建築社

課題：
サステイナビリティと都市――これからの住宅と暮らし

Sustainability and Urbanism

審査委員
Christoph Ingenhoven

入選（賞金200,000円）

Dawei Xia + Jun Yin + Sitong Chen + Yuening Cao + Qiru Zhong（中国）

田村航一（日本）

羽場航希（日本）

Osama Iqab（アメリカ）

Miao Wang（アメリカ）

佳作
横山隼也 + 内倉悠（日本）

Competition website:
http://www.japan-architect.co.jp/skc/

総評：サステイナビリティと都市――これからの住宅と暮らし

Christoph Ingenhoven（クリストフ・インゲンホーフェン：審査委員）

21世紀の建築がすべきこととは？世界人口は2050年までに93億人に達すると推測されています．その予測を信じるとすれば，人口の大部分が大都市に集中し，中には人口1億人にもなる巨大都市も現れると考えられます．同時に，二酸化炭素排出量の80％は都市部が占めているという事実があります．そこで将来的に必要になってくるのが，超高密度の中での暮らしを可能にする新しい都市型建築です．東京，上海，ニューヨークは上手く機能している例と言えるでしょう．

しかし最近の出来事の中で，巨大都市の脆弱性が浮き彫りとなっています．コロナ危機やそれに伴うソーシャルディスタンス（社会的距離）を受けて，都市についての新しい考え方も求められるでしょう．これらが，このコンペティションに参加した78名の応募者への問い掛けです．

私はこの危機によって生じた重大な社会問題に対応し，それに対する答えや解決策をもたらす優れたアプローチを持つ作品を選出しました．最初の審査で主に3つのコンセプト，未来の住宅，未来の都市，そしてユートピア／SFに取り組む12作品を候補作としました．複数の応募作品が，サステイナビリティあるいは社会的利益に能動的に寄与するデザイン要素を取り入れていました．受賞作に選ばれたすべての応募作品が問い掛けに対する独自のアプローチと異なる答えをもっていたことから，5つの作品には序列をつけることなく，等しく入選とすることにしました．
応募作品に込められた素晴らしいアイデアと努力のすべてに心から感謝しています．そして未来への問い掛けに対する答えを創造していくために，共にこのコンセプトに取り組み続けることを希望しています．

［124］**Ark the shelter for living + working + supply**（箱舟　生活と仕事と供給のシェルター）は，コロナの感染爆発やそのほかの疾病が流行した際に遭遇する，複雑な問題に取り組んでいます．この提案は高密度の都市のネットワークの一部なのですが，同時に必要があれば広域のコミュニティから独立して機能する，複合的な多目的のマイクロ・コミュニティを提供しています．人の集中によって引き起こされる潜在的な公衆衛生上の問題に対応する，人口密度の高い都市における新しい生活＋労働＋供給のあり方についての的確な構成を評価しました．

［204］**House with Growth**（成長と共にある家）は，膨張する人口に対する空想上の未来の答えです．応募者は自律的に成長する住宅という問題に取り組んでいます．プロジェクトは，公共空間と住宅が建てられた区画をコミュニティに還元するプラットフォーム化された農場を，モデュラー・システムに組み込んでいます．

［146］**Artificial invasion of nature**（自然の人為的な侵略）は，建築の緑化は必須であり，都市の再緑化というかたちで既存の建物にも緑を付加できることを明らかにしています．

未来を見据えた［220］**URBAN RESOURCE HOUSE**（都市資源住宅）は，所定の区域の居住者に彼らのための物資を生産する，アーバン・リソース・ハウス（都市資源住宅）を提案しています．彼らは自然環境を損なうことなく，高密度化する都市の人びとにどのように物資を供給するかという困難な問題に答えています．そのコンセプトを通じて彼らは，気候変動とサステイナビリティに大きなインパクトをもたらす，コミュニティと交通のあり方に一石を投じています．

［111］**VERTICAL URBAN VILLAGE**（垂直の都市集落）の独創的な住宅ユニットは，活動的なコミュニティとサステイナビリティの相互作用です．ユニットのモデュラー・システムは4つの重要なコンセプト，構造，生活，栽培，公共空間で組み立てられています．このコンセプトは資源の再利用とエネルギーの効率化を促すことでしょう．それは仕事の空間を統合することでさらに拡張することができる，優れた提案です．

［241］**Void-Volume**（虚と実――ごみのダイナミズムから都市のサステイナビリティを再考する――）は，私たちが抱える問題（その源は私たちの消費です）と共に社会に向き合う創造的なアイデアのゆえに，特に取り上げておきたい提案です．興味深く目を引くこの作品は問い掛けに対する答えではありませんが，その発想とアイデアは評価されるべきものです．

（本頁，48頁，51～52頁　翻訳：中田雅章）

Christoph Ingenhoven（クリストフ・インゲンホーフェン）は，サステイナブルな建築に取り組む国際的な建築家．1960年ドイツ，デュッセルドルフに生まれる．1978～1984年アーヘン工科大学で学び，1980～1981年デュッセルドルフ芸術アカデミーでハンス・ホライン教授に師事し建築を学ぶ．1984年ウォルフガング・デーリング教授のもとで学位を取得する．ドイツサステイナブル建築協会（DGNB），建築文化のための連邦基金（Federal Foundation for Building Culture）などの建築協会・連盟の創設メンバーである．1985年よりデュッセルドルフの建築事務所であるインゲンホーフェン・アーキテクツを率いる．サステイナブル，利便性，施工性のほか，光や空間に対しても深く配慮した建築を多く設計している．事務所の仕事のほか，さまざまなコンペの審査員，世界中での講演活動を行なっている．

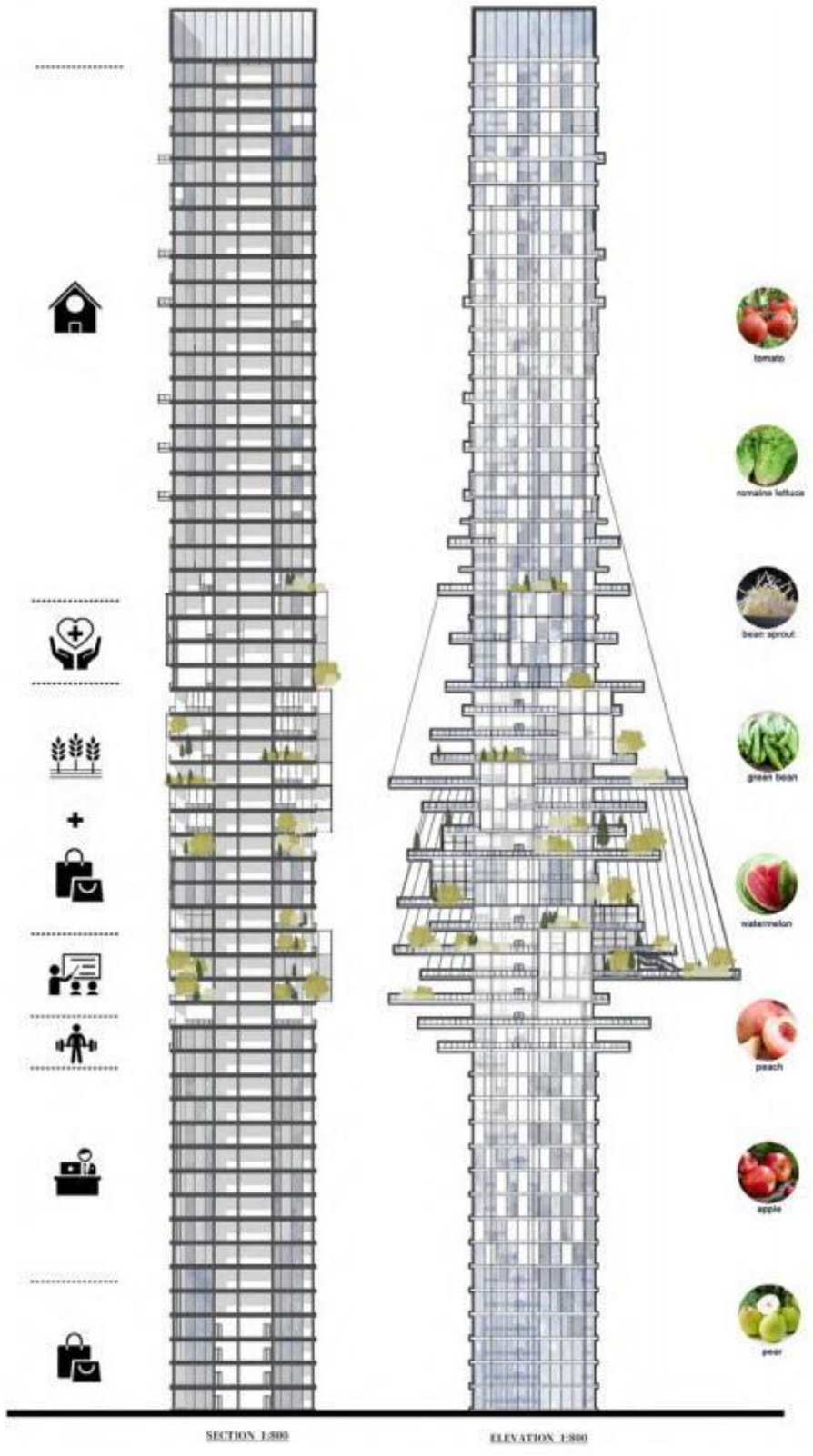
[124] Dawei Xia + Jun Yin + Sitong Chen + Yuening Cao + Qiru Zhong (中国)
「Ark the shelter for living + working + supply」

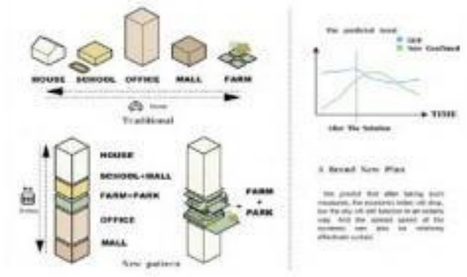
Ark the shelter for living + working + supply

（箱舟　生活と仕事と供給のシェルター）

2050年，メガ・シティの誕生と共に，都市の人口は最大で1億人に達する．人口の集積はウイルスが種の違いを越え，急速に変異する“培地”をかつてない規模でもたらす．高い人口密度が大都市の脆弱性を生みだしていることは明らかで，香港におけるSARSやコロナウイルスなどの公衆衛生上の出来事もその証左であるように思われる．この脆弱な状況は，都市内の交通ネットワークの高密度の移動と同様，都市の機能空間を明確に区分する以上，避けられないものである．30年後には世界中の高密度の都市で感染症がさらに頻繁に流行する可能性があり，われわれはそうした危機を無視すべきではない．

そこで我々は香港を舞台に，多くの人口が集中することによって引き起こされる潜在的な公衆衛生上の問題に取り組むために，高密度に人が集まる都市での生活＋仕事＋供給の新たなあり方の構築を目指した．我々は超高層ビルの中に仕事の場とそれに対応した複数の形式の住まいを用意し，共有の大きな空間を提供した．同時にその空間は，特殊な状況のもとでは一定の野菜を供給することができる．グリーン・ファームのデザインは，都市の居住者が生存のためのもっとも困難な14日間を切り抜ける助けとなる．構成方法は仕事と居住に対応しており，都市部の通勤による感染リスクとエネルギー消費を効果的に低減し，一方で都市封鎖という極限的な状況下で一定の都市経済活動を維持することができる．





Dawei Xia（ダイウェー・シャ）

1984年中国，湖南省生まれ／2015年華南理工大学建築学院博士課程卒業／2016年～広州大学講師

Jun Yin（ジュン・イン）

1999年中国，湖南省生まれ／2017年より広州大学建築学部在学中

Sitong Chen（ストォン・チェン）

1999年中国，広東省生まれ／2017年より広州大学建築学部在学中

Yuening Cao（ユェニィン・ゾウ）

1999年中国，広東省生まれ／2017年より広州大学建築学部在学中

Qiru Zhong（チィルゥー・ヂョン）

1999年中国，広東省生まれ／2017年より広州大学建築学部在学中

［204］田村航一（日本）
「House with Growth」

House with Growth（成長と共にある家）

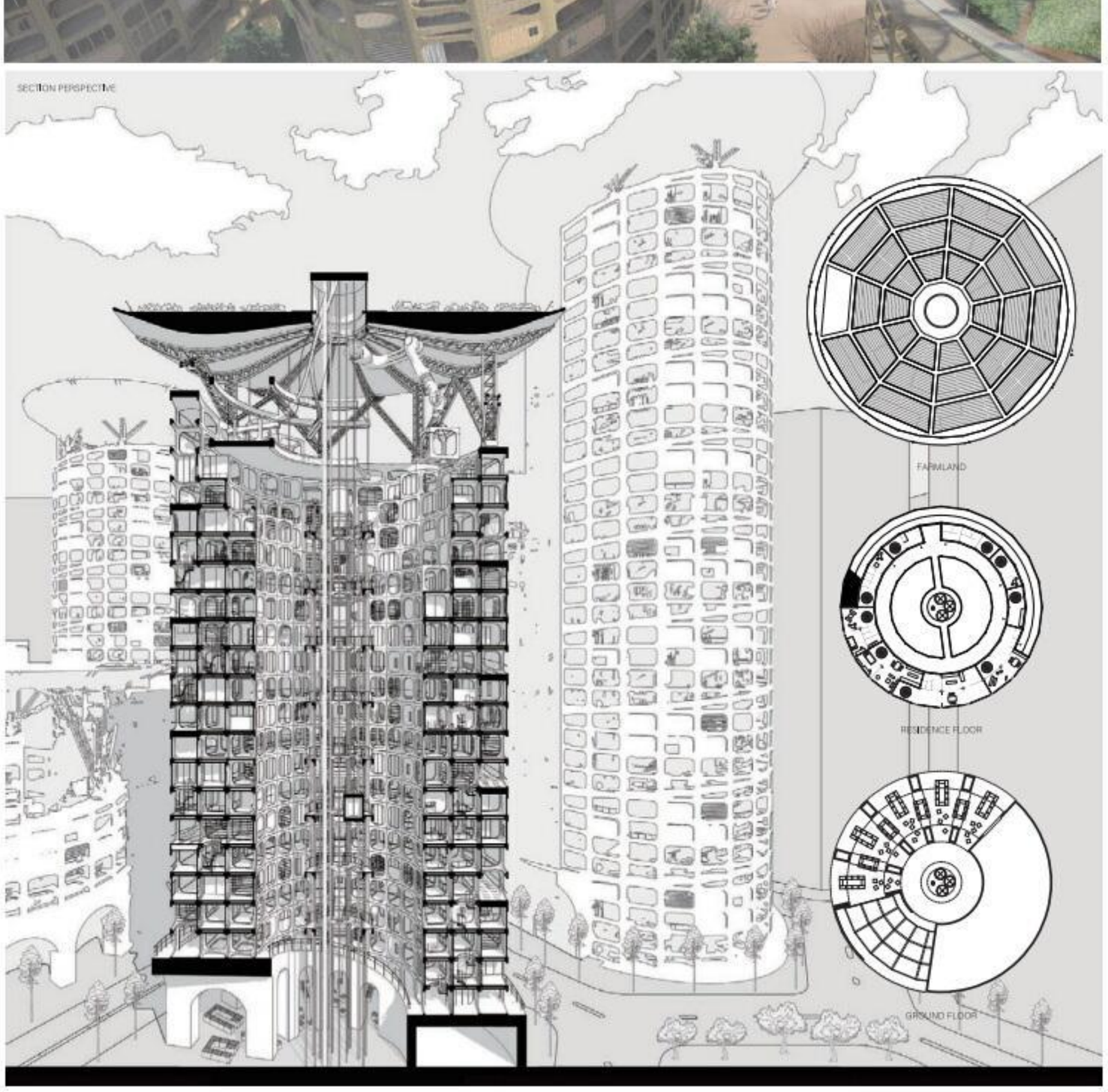
サハラ以南のアフリカでは食料自給が喫緊の課題として迫っている．2050年までに人口が2倍に増加し，その半数以上が都市部に居住すると推定されており，現在の食料生産の成長率では対応できないことが分かっている．

この急激な変化に伴い，より広大な農地が必要とされるが，未耕地の更なる開拓は生物多様性の損失や温室効果ガスの排出増加のリスクをもたらす．かたや現実では，農地の破壊を含む一方的な開発が都市に多くのスラムを生み出し，今では難民キャンプよりも多くの難民を都市部が抱えている．

この提案は，食料供給を補い，急速に変化する都市人口に対応することを目指している．プラットフォーム化され自走する農地と，地産の土壌を材料とした3Dプリントにより自己成長する住居モジュール群で構成されるこの建築は，集落のように逐次的な拡張性と輸送コストの削減を可能にしている．

それら2つの動的なエレメントは，建設のために損なわれる土地を，将来の空間需要に対応し，高層化の可能性も秘めた「農地」に転換する．スラム解消のための最小限の空間から始め，都市化が進むにつれそれを数倍にすることもできる．その間も頭上の農地は食料を生産し続ける．また，土壌をベースにした建設は解体を容易にし，建設廃材による環境負荷を軽減する．

高度な適応性を備えたこのシステムは，信頼できる住環境と食料自給，その上に広がる生活の選択肢を支えるものである．



田村航一（たむら・こういち）

1996年大阪府生まれ／2019年京都工芸繊維大学卒業／2019年より京都工芸繊維大学大学院在学／2019年アアルト大学大学院交換留学

［146］羽場航希（日本）
「Artificial invasion of nature」

The plants inside and outside the building grow by the rainwater that flows through the pipes and the soil that connects to the earth, gradually forming an ecosystem. Eventually, it spreads throughout the city and forms a network through birds and insects.

Artificial invasion of nature（自然の人為的な侵略）

古来より神社は地面と繋がり存在していた．そのため，日本の中規模ビルの上にある神社は，土を詰めた配管で地面と繋がっている．この配管は水道，ガス，電気と並ぶ神社にとってのインフラとして存在している．一方で，地球との関わり方を見直そうという動きが世界中で起きている．中でも人口密度の高い都市では，植物を中心とした生態系を形成することが重要である．そのような動きの中で，建築物の緑化は必須と言えるものとなった．この家では，緑化を第四の生活インフラと捉え，配管によって建築内外を巡る．その配管を流れる雨水と地面に繋がる土によって植物が少しずつ成長し，生態系を形成していく．そして新たなインフラは街に広がり，鳥や虫を介したネットワークを構築する．これは，植物による建築への侵略を助ける設計行為である．

羽場航希（はば・こうき）

1997年山口県生まれ／
2015～2019年 東京理科大学理工学部建築学科卒業／
2019年～東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻
山名研究室在籍

[220] Osama Iqab (アメリカ)
「URBAN RESOURCE HOUSE」

URBAN RESOURCE HOUSE（都市資源住宅）

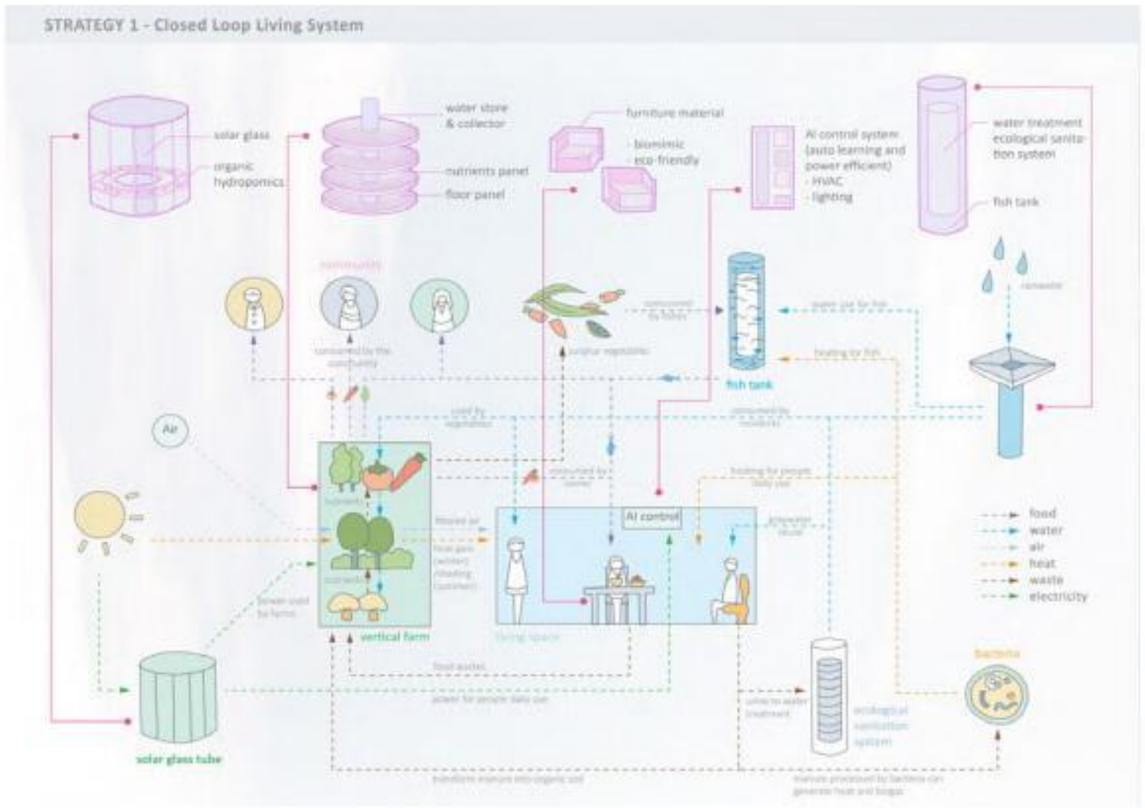
世界で生産された食品の1/3が廃棄される．地球上の肺癌患者の15%は大気汚染が原因で，2050年までに世界のエネルギー使用量は50%増加する．難しい問題は，自然環境と資源を損なうことなく，高密度化する都市の人びとにどのように物資を供給するかということである．

この応募案は，所定の区域の居住者に彼らのための物資を生産する，都市資源住宅を提示している．指定された区域の人びとを支える都市資源住宅は，都市全域の空地に分散して置かれる．都市資源住宅は以下のシステムで構成される．保水のためのルーフ・ガーデンと必要なエネルギーのための太陽光発電．水道と散水のための雨水槽と地区に生産物を供給するための水耕栽培．地区の人びとが残った生産物を廃棄し，金銭と交換できるコンポスト収集交換システム．コンポストは水耕栽培の養分となる“コンポスト水”として使われる．都市の空気を取り入れモス・ウォール（苔の壁）で濾過し，紫外線とHEPAフィルターでさらに清浄化する，モス・ウォール・フィルターを備えた空気清浄チャンバー．濾過された空気は屋内の空調にも使えるほどクリーンなものとなり，大気中に戻され都市の空気を浄化する．人びとが一時的なワークスペースとして使うデータおよびワーキング・センター．そして最後に，環境を汚染しない車両の使用をさらに促すため，電気自動車や電動自転車などの充電専用に割り当てられる既存の駐車スペース．

Osama Iqab（オサマ・イカブ）

1988年アメリカ，バージニア州生まれ／2013年南カリフォルニア大学建築学部卒業／2020年Design-Precedent設立

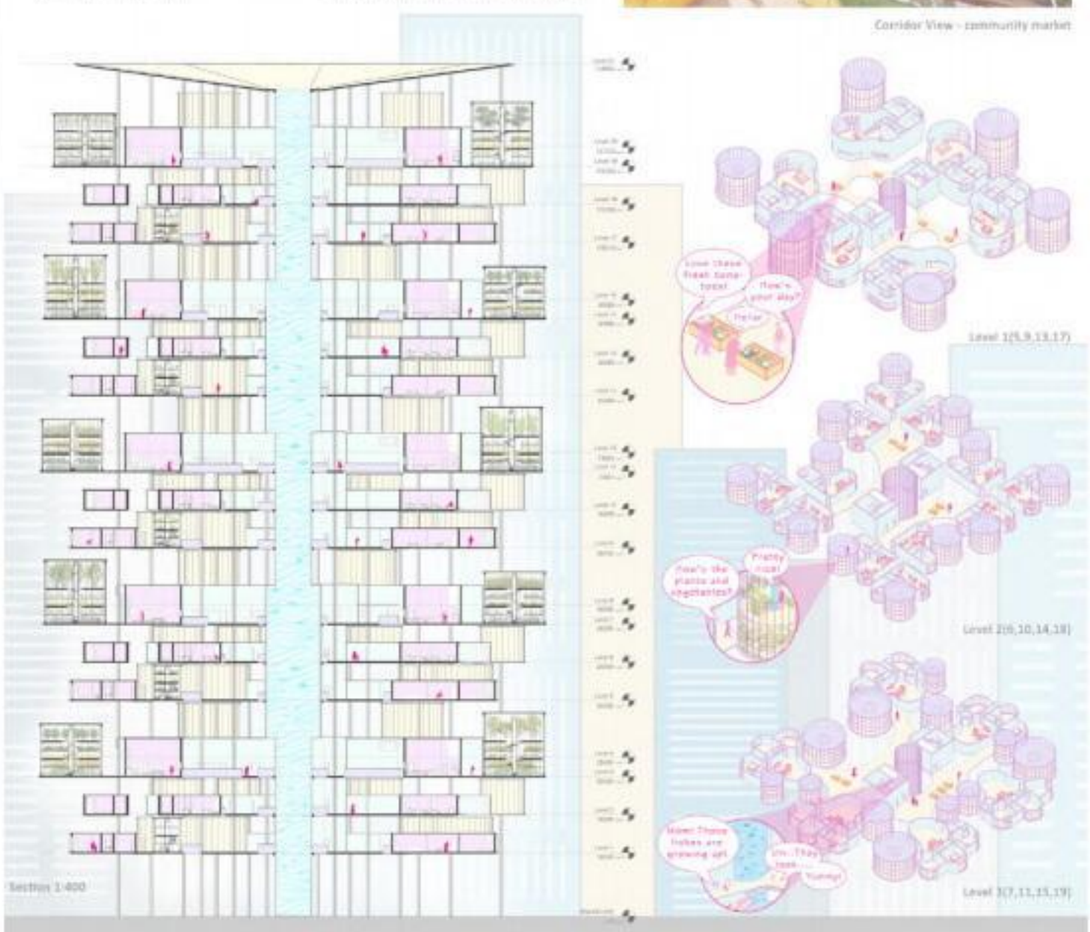
[111] Miao Wang（アメリカ）
「VERTICAL URBAN VILLAGE」

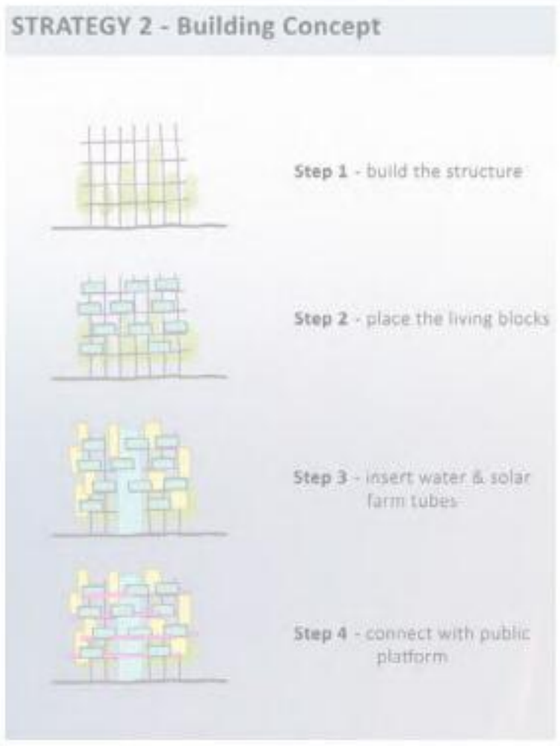


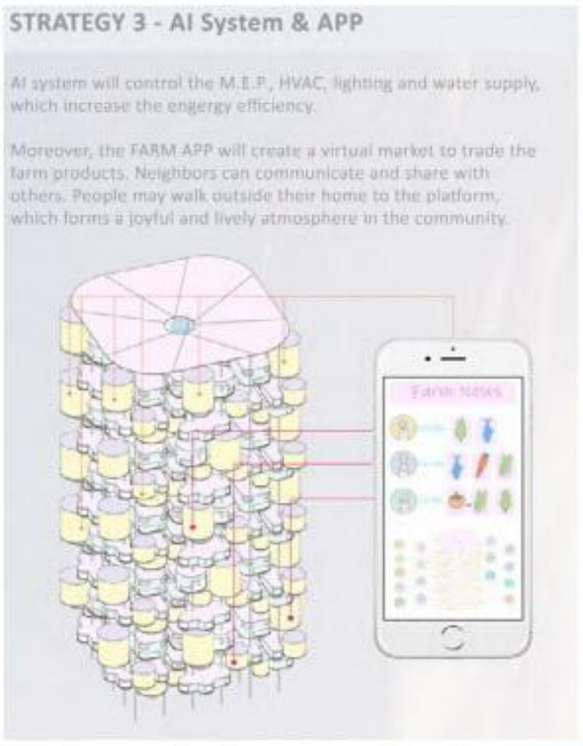
Platform & Fish Tube View

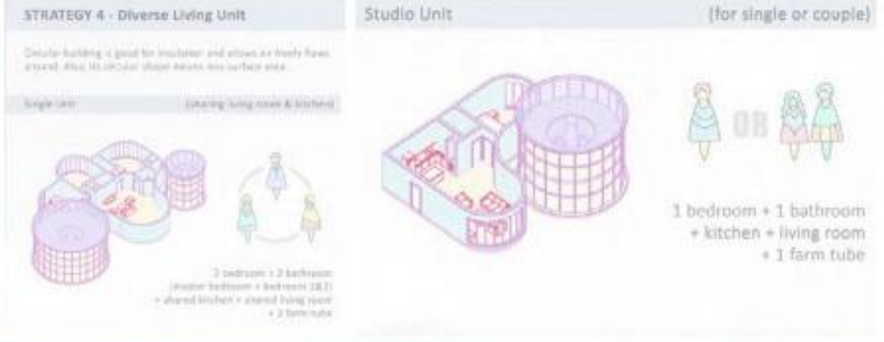
Solar Farm View - check your own "farm land"

Corridor View - community market









VERTICAL URBAN VILLAGE（垂直の都市集落）

このデザインは人びとに地方での暮らしを思い起こさせるだけでなく，現代のテクノロジーとグリーン・ストラテジーの相乗効果をもたらす，活動的なコミュニティをつくりだすことを目指している．建物内の閉じられた循環システムが資源の再利用とエネルギーの効率化を促す一方で，人びとはそれぞれの“農場”で過ごし，完全循環型のシステムに参加することができる．ここでは共有空間で農作物を販売する人びとや，野菜の残りが餌として魚に与えられる様子を目にするであろう．すべてのコンポーネントが，全体のシステムを安定させより豊かなものとするための大切な役割を果たしている．そして会話と笑顔が自然にこの場所に満ちていく．かくしてこの都市集落の住民は，現代の生活の冷たさから抜け出していく．

Miao Wang（ミィオウ・ウァン）

1995年中国，湖南省生まれ
／2018年武漢大学卒業／
2019年カリフォルニア大学
ロサンゼルス校（UCLA）
Master in Architecture II
卒業／ BKBC Architects（アメリカ）勤務

佳作

[241] 横山隼也 + 内倉悠 (日本)
「Void-Volume」

Void-Volume（虚と実――ごみのダイナミズムから都市のサステナビリティを再考する――）

家の中の空っぽのゴミ箱――中身の行方を誰が知っているのでしょうか．世界中から綺麗と称賛される街――ゴミはどこへ行ったのでしょうか．

東京湾では，江戸時代からゴミの埋め立てが行われ，新たな土地が造られてきました．しかし，多くの土地がアスファルトやコンクリートに覆われてきたため，私たちのほとんどはその存在すら知り得なかったのです．私たちはこの“無知さ”について考え直さなければいけません．

東京都が策定した平面的な埋立計画は約50年後に物理的な限界を迎え，その後の目処は立っていません．では，建築はどのような未来を提示することができるのでしょうか．

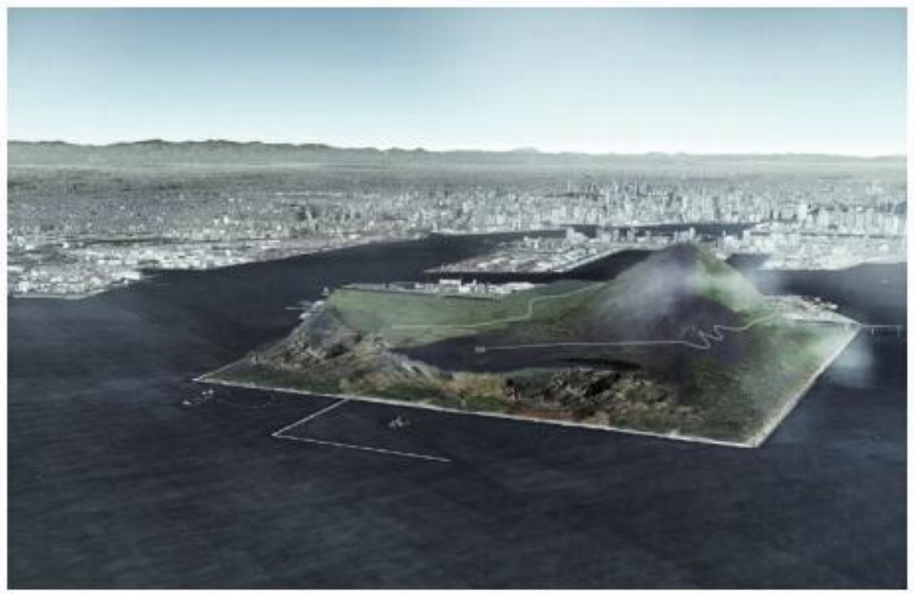
本提案では，成熟期を迎え人口減少に転じた東京において，平面をつくるのではなく，すべてのゴミを積み上げて山という「風景」をデザインします．それは，都市におけるゴミのダイナミズムを可視化し，私たちに“暮らす”ということを再考させます．これもまた建築であるとわれわれは考えます．

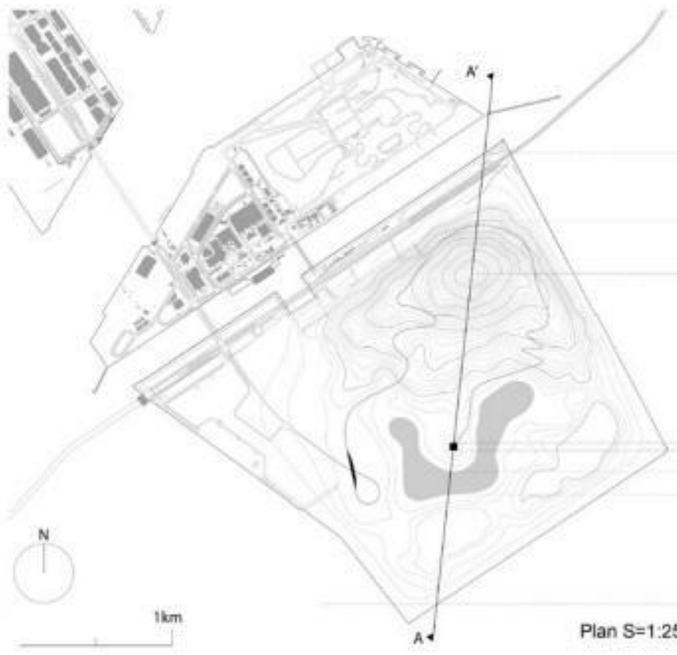
横山隼也（よこやま・じゅんや，右）

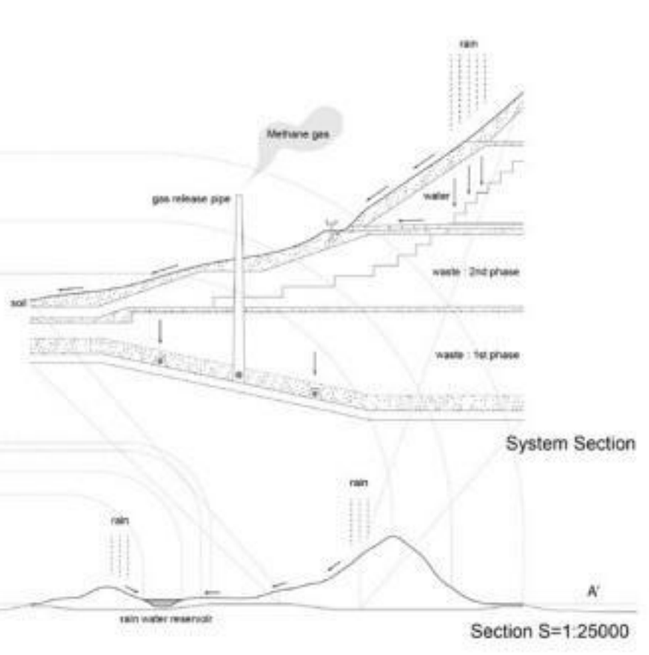
1994年日本，東京都生まれ／東京大学大学院工学系研究科建築学専攻在籍

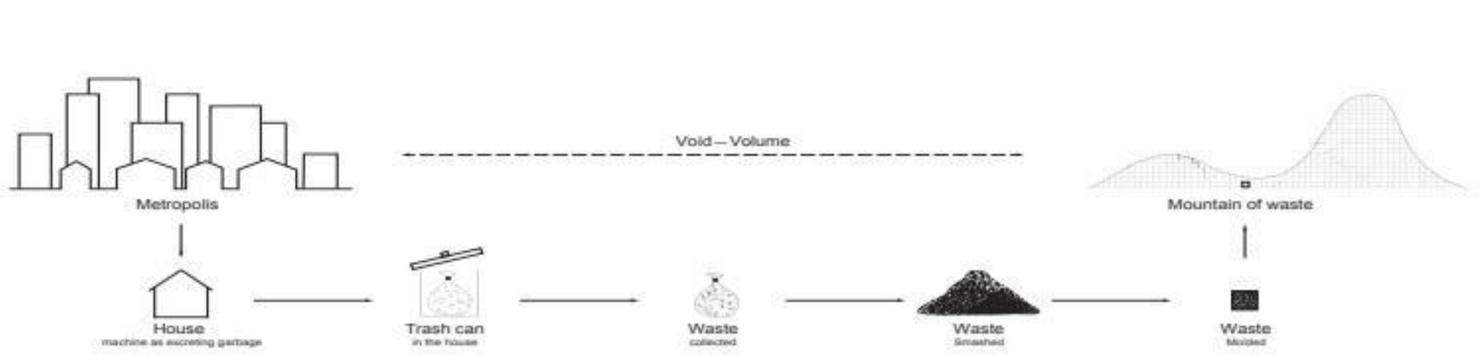
内倉悠（うちくら・ゆう，左）

1995年日本，東京都生まれ／東京大学大学院学際情報学府 DLX Design Lab在籍









COMPETITION DATA

登録総数：244（国内108，海外136） **応募総数**：78[*1]

海外内訳（25の国と地域[*2]）：中国：64　アメリカ：15　韓国：8　インドネシア：6　オーストラリア：5　イタリア：5シンガポール：4　バングラデシュ：3　カナダ：3　フランス：3　クロアチア：2　香港：3　イラン：2　ポルトガル：2　デンマーク：1　ドイツ：1　ギリシャ：1　リトアニア：1　マレーシア：1　ニュージーランド：1　北マケドニア：1　ノルウェー：1　スウェーデン：1　台湾：1　イギリス：1

[*1] 本コンペはPDF形式による電子投稿審査で行われた．データが添付されていない，または破損しているものについては無効としている．
[*2] 登録総数からカウント．

すべての応募案をウェブサイトにて公開中!!

https://shinkenchiku.online/competition/skcmp2020proposals/

そとをたてる

石上純也
（建築家）

人と建築。

人がどういうふうに集まることができるかを考える.
そのためには安全でなければならない.
人間を自然から守るために,
建築が生まれる.
建築が増える.
建築が集まる.
都市が生まれる.
都市が膨らむ.
都市が都市を呑み込む.
都市が都市に呑み込まれる.
より安全に人が集えるように,
都市が自然を排除する運動体になる.
人間も自然である.
このように仮定した時,
建築とは一体何なのだろうか.

森。

森のなかでは不思議と動物に出会うことは少ない．深々と生い茂る薄暗く湿った空気のなかに，さまざまな鳴き声が交互に響きわたり，確かな気配は感じる．でも姿は見えない．赤外線カメラを定点で設置する．すると，実に数多くのさまざまな動物たちがそこに姿を現す．その状況を多重露光し1枚の写真に収めたものを見たことがある．とても高密度に，本当に，たくさんの動物がそこに存在し，そこで生活をし，さまざまな活動を行っていることが分かるのである．ある小動物は，倒れた老木と地面との間にできたトンネルをいつも潜り，別のある動物は，その同じ大木の幹の上を歩いて渡っていく．毎日同じ時間に．それぞれの動物がそれぞれの空間をひとつの森のなかに構造として構築しているのである．

その写真のなかでは無数の空間が重ね合わせられたとても不思議な光景を眺めることができる．しかしながら，実際には，森のなかではそのような空間が同時に存在することはない．動物たちが，森のなかでお互いに遭遇するということは，被食される側の動物にとっては，死を意味するからである．だから，それぞれの動物は時間をずらし，他の動物に出合わないようにして，生活している．森のなかは，いつも一見何もいないかのように見える．気配はたくさん感じるのに．森という環境の深淵の中で，巨大な空洞を余白として保ちながら，高密度に存在する動物たちが共存している.
そこには，空洞を空洞のままに保つための空間的構造が存在している.

都市。

僕たちが日常生活を営む人間の社会では，みんなが規則性のあるリズムのなかで生活をしている．もちろん，人それぞれ，また，職種によって，年齢層によって異なることはあるけれど，大きく見れば，同じような行動を同じ時間帯に規則的に行うことが多い．それは当たり前と言えば当たり前だ．都市という環境は人間に特化し，自然を排除してきた場所だからだ．自然が排除された環境の中で同じ種としての人間が同じ時間帯に行動を共にすることは当然とも言える．異物としての自然を排除しその環境を純化していく運動，それ自体が都市である．そこではヒトやモノが加速度的に高密度化していく．それが人間にとって安全で便利で快適だからである.

1年前。

1年ほど前から状況が変わった．感染症の拡大によって，都市が安全で便利で快適な場所ではなくなった．とても危険な場所となった．本当に危険かどうかは分からない．でも，社会的には危険だと定義される場所となった．感染症という自然現象が都市を占拠したとも言えるかもしれな

い．その結果，今までと同じように，都市自身が危険だと感じる自然を排除する動きを取ることになる．常に自然を排除してきた都市が，今度は人間という自然を排除する方向に傾いた．それは何を意味するのだろう．

1年前まで。

現代における社会の繋がりは地球規模である．
物理空間を介さなくとも，世界のさまざまな地域のさまざまな文化のさまざまな人びとと複雑に繋がり合う環境が広がっている．これは，ITなどに代表される現代テクノロジーの恩恵だ．それだけではなく，世界のさまざまな場所に移動しながら活動することが，ある種，日常的に行われていた．ひとつの都市で生活が完結しているわけではなく，いろいろな交通手段を利用し，とても長い距離を常態的に移動し生活していた．その移動の過程で，都市を離れ，都市ではない場所を通り過ぎ，森を抜け，山や海や砂漠を越え，また，都市になる．星座のように繋がる世界の都市をジャンプするようにして生活していた．物理空間としても，僕たちは，地球規模で繋がっていた．
仮想的にも物理的にも地球規模で関係し合う社会のなかで，多元的な時間軸と多元的な価値観と多元的な場所を共有し生活していることが，1年前までは，世界そのものだと思っていた．

現在。

依然として感染が拡大するこの状況の中で，今までと同じように地球規模のスケールの社会を保ちつつ，どのように適応していくことができるか．世界中の人たちが試行錯誤し，生活を続けている．少しずつ改善されてきてはいるものの，家の外に出ることも友だちと集まることも簡単ではなく，ましてや，遠くまで，特に海外に自由に移動することなどは，事実上，不可能に近いくらい難しい．かろうじて，ITなどを利用し，以前のコミュニケーションの規模を維持しているのが現状だ．それは遠い国とのコミュニケーションだけではなく，同じ都市のなかでのコミュニケーションですら，多かれ少なかれ，同様の状況にある．現代テクノロジーの便利さを以前にもまして実感したのは，確かに事実だ．
しかしながら，同時に，みんなが今のこの状況を息苦しく感じ，不満に思っていることも事実なのだ．それはある意味，現代テクノロジーのみでは，新しい生活様式を前提とした社会を成立させることの難しさの裏返しではないか．

不満。

その不満の原因のひとつは，今僕たちがこの状況のなかで生活している物理的環境の不快さからくる．ライフスタイルは大きく変わりつつある．それは先に述べた通り，今の状況を乗り切る手段としてITなどに支えられたものである．しかしながら，物理的空間は今まで同様，何の変化もなく，その既存の空間のなかでなんとか新しい生活様式を試みている状況である．そこに無理があるから，不満が生じる．事実として，都市は僕たち人間を排除しようとしているかのようにも感じる．仮に，都市の外に追い出されなかったとしても，都市にいながらにして，家のなかに閉じ込められている．家という建築の内側が都市の外側であるかのような錯覚さえ生まれる．

未来。

この先，この世界的な惨事がいつまで続くかは不明である．しかしながら，少なくとも，変わりつつある価値観や生活のスタイルはもう完全には元に戻らないだろう．一方で，この先，この状況が収束した時には，再び，世界各地との往来が再開されることは，みんなが分かっている．そう考えると，今僕たちが感じている不満は今だけの問題ではない．地球規模で繋がる社会を前提としつつ，僕たちが，今不満と感じること．つまり，新しい生活様式の中で，毎日，どのように人と交わるか，どのように人

と集まるか，どのようにひとりになるか，どのように移動するかなど，物理的空間への不満．それらを解決することを考えるべきではないか．

事実。

今のこの状況に陥る前から，僕たちが生活する物理的な環境は，既に，現代的ではなかったのかもしれない．建築の進歩は，ITなどの最先端技術の進歩に比べるととても遅い．だから，目まぐるしく高速に変化していく世の中に付いていくためには，既存の都市や建築は，最先端技術を機械として装着し，擬似的に，仮想的に空間を刷新し，社会的欲求を満たすしかなかった．それがいちばん，手っ取り早い方法であったのかもしれない．だから，いつの時代からか，建築自体が未来を提案することをやめ，どちらかというと，インフラとして空間やフロアを量産していくか，既存の建築の内装を変えたり，たまに，モニュメントとしてアイコニックな存在になればよいと考えられるようになっていった．それが現代社会に適合した建築であるかのように思っていた．

しかし新しい生活様式のなかでは，ただ単に，現代テクノロジーを装置として機械的に既存の物理空間に装着するだけでは，快適性は満たされなくなりつつある．不謹慎な言い方かもしれないけれど，このような時代になって，ようやく，物理的に空間のあり方を捉え直す必要が，みんなの共通認識のもと生まれてきたように思うのである．

たとえば，今この状況下で住宅を考えることはとても興味深いことだ．今住環境を考えることは，住まいを考えるだけではなく，働き方を考えることにもなるし，そこに住む人の生き方を考えることにもなり，また，社会との繋がりを考えるという意味で都市との関係性を新しく考えることにもなる．これは本来の建築のあり方だ．物理的生活空間としての建築を考えることの必要性がとても重要だとみんなが認識するようになりつつある．

世界の見方。

建築にはその時代の世界観が反映されるべきである．その時初めて，生きた社会が物理空間と結び付く．人間の生活は常に時代と共にあり，その時代のあり方はみんなが社会を俯瞰する世界観そのものだ．先述の通り，現代の僕たちの生活は地球規模の価値観と共にある．そういう観点から考えると，現代的な建築の姿とは，世界観として地球の概念が含まれるべきではないだろうか．建築の集合体である都市も，当然，地球の概念が織り込まれるべきだ．そのことを考えるのが，現代の建築家に与えられた新しい可能性のようにも思うのである．

それはモダニズムにおいての世界観とは大きく異なる．当時の社会の世界観は都市のスケールと一致していた．だから，20世紀に提案された都市は建築のようでもあるし，建築は都市のようでもある．当時の世界観として都市を捉え，その概念を建築に取り込もうと考えていた．それはみんなが知っている．でも，もう過去のことだ．

そと。

それでも，世界がこのような状況に陥るまでの長い期間，いまだに，都市のことを，やはり大きな建築のように捉えていた側面があったのかもしれない．建築の延長に都市があり，都市の延長に建築があるかのように思っていた．だから，世界中の都市で盛んに行われていた大きな再開発も僕たちの生活が便利に発展していくためには必要不可欠であり，また，その結果として巨大な建物が生まれることも建築の進化にとっては重要なフェーズだと，多かれ少なかれ感じ，俯瞰していたように思う．しかしながら，一方で，それらがもう僕たち建築家が目指すべき本来の意味での建築ではないことも心のどこかでは思っていたことではないか．建築のなかに都市がものすごい勢いで流れ込んできて肥大化していき，建築が建築でなくなり，建築が都市そのものとなっていくような感覚さえ覚える．その時，都市が自然を排除する運動だとの仮定に基づくと，建築のなかにいる僕たち人間はどうなってしまうのか．自然の一部である僕たち人間の居場所は一体どこになるのだろう．現在のこの状況の中では，オフィスビルにある職場に出勤することさえも難しい人が多いだろう．それは，オフィスビルが都市の一部だからだ．オフィスビルのなかでさえも，都市だからだ．だから，この惨事の根源である人間という自然を排除する．僕たちは，唯一の居場所となった家という建築のなかに閉じ込められることになる．家の内側は都市の外側である．都市に居づらくなった状況で，都市の住人たちにとっての都市の「そと」は，家の内側となった．

でも狭すぎる．窮屈で不快で退屈だ．まるで牢獄だ．だから，都市から離れて，遠くに家を持ちそこを職場とする人も少なからず現れてきた．居場所としての「そと」を広げるために，都市の外部に住居を求める．今は「そと」を広げるためには都市を離れる以外に方法は少ない．でも，本当の意味で都市を捨てることなど僕たちにできるのだろうか．

庭。

人間が過ごしやすい「そと」を考えることが，僕たちの生活の場としての物理空間を現代的に快適に具体的に変えていくことにも繋がるのではないか．地球という概念を考えることにも繋がるのかもしれない．とはいえ，

人間が過ごしやすい外部的環境を都市のなかに見出していくことは，特に新しいことではなく，そのこと自体は，とても昔からさまざまなかたちで考え，実現されてきたように思う．公園や広場．公の場としての都市の外部空間と言ったら，まずこれらを想像する．でも，今となっては，それらもとても居づらい場所になってしまった．もちろん，他の都市空間に比べるとだいぶよい方ではあるけれど，それでも，以前と比べたら過ごしづらい．それらはやはり都市の内側としての外部なのである．都市の外側としての「そと」とは何であろうか．そのひとつの可能性としては，今僕たちが都市の外側だと感じる家とも通じる何かであるべきだ．たとえば，庭である．生活空間の延長としての「そと」だ．昔は，民家などで土間のことを「にわ」とも呼ぶことがあったし，今でも自分たちのテリトリーのことを「にわ」と呼ぶこともある．その意味においても庭とは生活空間の一部としての「そと」なのである．それだけではない．庭とは，概念としての世界を表す場として存在することもある．世界中に今でも残る庭園などは，その類のものも多い．実用的な生活空間の延長であると共に世界を概念的に示すところまで幅広く存在している「にわ」とは何なのだろうか．

庭とインテリア。

誤解を恐れずに言うと，驚くべきことに，モダニズムにおいて，庭について語られたことはほとんどない．ル・コルビジュエも屋上庭園などは提案をしているけれども，それ自体に理論があるわけではない．屋上に庭をつくろうということをみんなに勧め，自分でも実行はしている．でも，それは，ピロティや水平連続窓などと同様，建築の要素の一部であり，それ自体が単体で建築となるわけではない．もちろんランドスケープアーキテクトもランドスケープデザイナーもいる．また，20世紀においても都市公園の提案などはあったけれど，どちらかというとそれ以前の西洋庭園の延長であるか，広場の延長であるかのような印象を受けるし，それも19世紀までには型のようなものはある程度でき上がっていた．近代から現代に至るまでの間に，モダニズム以降に，今僕たちが必要としているような外部空間としての庭を建築や都市と同じレベルで考えたことはあっただろうか．つまり，社会を大きく変えていくために必要な外部空間を建築や都市と同じレベルで提案されたことはあっただろうか．先に述べたように，都市や建築の要素としての庭はあったのかもしれない．それは外構であり建築や都市の付属物としての扱いが強かったように思う．モダニズム以降現代に至るまで，庭には，建築や都市と同レベルの思想が存在しなかったように感じるのである．それはなぜか．おそらく，庭と呼ばれる外部環境が，都市計画や建築計画のなかでは，インテリアなどと同じ概念で捉えられていたからではないか．つまり，ある領域を内部と定め，ある領域を外部と定める．そのフレームを計画する方法には理論を与えるけれど，そのなかで起こることは，コントロールするべきではないという考えがあったからではないか．つまり理論がない．その意味において，モダニズムの都市と建築においては，極端に言うと，外部空間の計画は，インテリアの計画と同次元であったように思うのである．インテリアに家具を並べ装置を取り付け，住みやすくしていくように，外部空間に植物を植え，池をつくり，ベンチを置き，街灯を設置し，過ごしやすくする．それらは今後の利用の仕方や状況などによって，変わっていく要素であり，予測不能なものとして，都市や建築と同じ次元では触れてはならないものと考えていた．

そととしての庭。

庭を建築と同レベルで語るべきだと思う．今，そのことを強く実感する．ではなぜモダニズムにおいては，庭はそのようには語られなかったのか．なぜインテリアと同次元の位置付けであったのだろうか．それは先に述べた理由と共に，庭にもインテリアにも，その当時のテクノロジーの先端がなかったからではないか．モダニズムと機械は密接に結び付いている．建築は，飛行機や船や車と同様，その当時の最先端テクノロジーの結晶としての機械であるべきだった．それらの総体として都市があった．だから，最先端技術の直接的な結晶ではなかった庭やインテリアは，次元としては下位だとみなされた．

現代ではどうか．テクノロジーの最先端はもはや建築や都市にはない．それらの受け皿のようなものだ．そのように考えると，現代においては，都市も建築もインテリアも庭も，捉えようによっては同じ次元である．だからその理由で昔のように未来が求められなくなったとも言える．それでも，それらが同次元で捉えられるようになったこと自体は，ある意味では進歩ではないか．今，新しいライフスタイルを成立させるために物理空間そのものを変化させる必要性がある．それはみんなの気持ちだ．その中でも，都市の「そと」の概念として，庭を考えることは重要だと思う．建築と同次元に庭の可能性を考える．そうすることで，既存の庭の成り立ちを超え，僕たちが求める「そと」のあり方を考えるきっかけにもなるように思う．

都市のなかに地球を。

都市のなかに，地球という概念を取り込むこと．このことは，僕たち現代人が，地球のスケールで社会を感じていることを考えると自然な成り行きなのかもしれない．その時に，都市の「そと」の概念をどのように扱

うかが鍵となる.
事実として，人類の「文明圏」を人間が社会や経済などの活動を行う範囲であると定義するならば，人類文明圏は既に地球のスケールである．また，一方で，「生態圏」を太陽エネルギーをもとに引き起こされる生物と非生物の活動に起因する循環が行われる範囲だと定義すると，その範囲も当然，地球規模となる．つまり，人類文明圏はスケールとしては生態圏と等価になりつつある．一方で，それらをシステムのヒエラルキーで考えるならば，人類文明圏は，生態圏の下位システムであることは明確だ．文明圏が生態圏の下位システムでありながら，スケールとしてはほぼ重なり合っている．それは奇妙なことであると共に興味深いことである.
仮定として，文明圏が生態圏に比べて十分に小さな範囲のスケールに限られる場合，その対比としては，生態圏という大きな平面上の小さな点のようなものが文明圏だと見ることもでき，そうすると，文明圏の内側の活動がどうであれ，その点からの出力として外側に現れてくる影響のみが生態圏という平面に関わり合うものとして捉えてもいいのかもしれない．しかしながら，別の仮定として，生態圏という大きな平面に対して文明圏もそれと等規模の平面として重なり合っていると考えると，前の仮定のように単純化して考えることは難しくなるだろう．当然，文明圏のなかに生態圏の概念も含まれてこなければならなくなる.
前の仮定は過去の都市と地球との関係である．けれども，後の仮定はこれからの都市と地球との関係ではない．なぜなら，モダニズムで仮定されていた段階では，人間の活動の日常的なスケールと都市のスケールが等規模であったから，「文明圏＝都市」であるとも言えていたけれど，現代では，人間の活動の日常的なスケールは都市の規模をとうに超えているからだ．「文明圏＝都市」ではない．都市の概念のみで，人間の活動を全体として捉えることはもう難しく，都市は人間の世界のすべてではない．文明圏のスケールが都市のスケールを超えているという意味で，都市は人工的産物の唯一の集合場所ではないのである.
文明圏と生態圏を重ね合わせて考えると，文明圏にも自然の概念が含まれ，生態圏にも人工の概念が含まれるようになる．依然として文明圏のなかで大きな役割を果たすそれぞれの都市にも，自然の概念が含まれるべきである．「そと」が都市の概念の一部になるべきだ.

地球，自然，庭，そと。

たとえば，次のように仮に定義してみる.
「地球」とは，自然や人間，生態圏や文明圏，すべてを含む無数の多次元世界の総体である.
「自然」とは，人間の意思がない，もしくは，より少ない現象や産物である.
「庭」とは，人間の意思で生み出される自然である．人間の意思によって人間の意思から自由になる現象や産物になる．人間の意思によって人間の意思を超えた概念世界を描く風景ともなる.
「そと」とは，既存のある世界（環境）を前提に，そこから切断される，あるいは，そこから距離を保つ異なる世界（環境）である．短絡的に外部環境のみを意味するのではない.
このように考えると，地球には無数の世界が多元的に存在するのだから，そこには無数の異なる世界があり，それぞれの世界は常に無数の「そと」を併せ持っていることになる．また，自然と庭を個別に観察すれば，自然の「そと」に庭が生まれ，庭の「そと」に自然があるというふうになるけれど，別の視点として，人間の意思によって強くコントロールされた人工環境としての都市の「そと」を考えると，そこには，自然も庭も同じ次元で存在することになる．人為のないもの（自然），人為を持って人為をなくしたもの（庭）は裏表ではなくなり，都市を起点に考えた時には，同じように「そと」に属するようになるのである．だから，都市の「そと」を考察していくことは，人為と天為をハイブリッドに考えることになり，地球という多次元世界を考えることにも繋がるように思う．その結果，人為から天為までがグラデーション状に変化するやわらかな環境を考えるきっかけにもなるのではないだろうか．そうすることで，今まで自然を排除する運動体として完全なる人為を求めていた都市は異なる姿になるはずだ.

そとと建築。

では，都市に「そと」を取り込むにはどうしたらいいのか.
それには，都市の構成要素である建築を考えるべきである．建築によってどのように「そと」をつくることができるかを考えるべきである．庭と建築を同次元で考察することもその方法のひとつだ．建築をつくると，そこにはたくさんの建築理論が生まれることになる．だから，建築の大きな役割のひとつを，その都度，異なる「そと」をつくることだと考えるようになれば，無数の「そと」の理論や思想が生まれることになり，その結果，人為と天為のハイブリッドとしての多種多様な自然が都市のなかに現れてくることになるのである．そのバリエーションが増えていけば，多元的な「そと」の概念を併せ持つ地球の価値観が都市のなかにも生まれてくることになるのではないだろうか.
その時には，都市という建築の集合形式ではなく，もっと異なる建築の集まり方が出現するはずだ．それはつまり，僕たちが，心地よく受け入れられる新しい人の集まり方にも繋がるのかもしれない.

人と建築。

もう一度最初の問いに戻る.

人がどういうふうに集まることができるかを考える.
そのためには安全でなければならない.
人間を自然から守るために,
建築が生まれる.
建築が増える.
建築が集まる.
都市が生まれる.
都市が膨らむ.
都市が都市を呑み込む.
都市が都市に呑み込まれる.
より安全に人が集えるように,
都市が自然を排除する運動体になる.
人間も自然である.
このように仮定した時,
建築とは一体何なのだろうか.

今ならこう言えるのかもしれない.
そもそも建築とは，人間のために快適な「そと」をその内側につくり出す魔法の箱だったのだ.
元来，建築にはいろいろな環境がいろいろな工夫によって備わっていた.
それはそれぞれの地域のなかで，また，それぞれ異なる文化のなかで，その都度，その場に適した「そと」を計画してきたからだ.
建築の内側の環境が都市化され，また，機械装置によって均質化された時に建築の内側に「そと」がなくなった.「そと」のない均質な環境は，頑丈で重々しい物質で満たされた躯体のようなものである. 建築から空洞がなくなり，人間はその中で埋もれ苦しむことになる. だから，建築の内側に「そと」を取り戻すことが必要なのだ. 建築の内側に「そと」を取り戻すことができるのならば，建築が都市に地球を取り戻す原動力となる.
その時，僕たちが今，日常生活の中で感じている，窮屈な不快感が開放されると思うのである. 都市の本質が，変わる. 少なくとも自然を排除する運動体ではなくなる.

これから先，どのように人が集まることができるのか. 先述したように，建築が無数の「そと」になっていった時には，都市というかたちを取らずとも，建築同士の密接な関係を保てるような新しい集合のあり方を考えられるようになるかもしれない. たとえば，建築の集合の密度が高いところが都会で，低いところが田舎というような単純な構図にはならないだろう. あるいは，密度の高いところが便利で，低いところが不便だというようにはならないだろう. なぜなら，その場所の「そと」をつくることが建築の大きな目的になるならば，今，都市であると捉えられている領域の「そと」であっても，それだからこそ，都市的ではない都市の「そと」側こそが，今，僕たちが都市だと認識しているような文明圏の重要な領域ともなり得るのである. また，今，都市である領域であっても，その考えから先に進むと，重要な生態圏ともなり得るのである. もちろん，それらを成立させるためには，物理空間を生み出すための建築のみならず，最先端のテクノロジーも必要になるだろう. それらが共存して初めて成立するはずだ. 自由に，多元的に，多種多様な「そと」をその都度選択できる世界では，人が集う方法も多次元で多様であり，とても自由だ. 集まっているのに離れているような，離れているのに一体感を覚えるような，さまざまな距離感や密度をつくり出すことができるようになる. それは，開放性と快適さに自由を与えることである.

そとのもり。

森は，無数の環境が，それらの無数の「そと」と共にある世界である.
その世界では，ある環境は対称としての「そと」と裏表で原理を共有しつつ異なるそれぞれ事象を導き出す. それらの対称性は多次元的に絡み合い，重なり合わされ，複雑な世界が形成される. ある環境には必ず「そと」があり，その「そと」にもさらに「そと」があり，それら複数の「そと」を包含する環境の「そと」もあり，さらにその「そと」もあるというような感じだ. ひとつの「そと」を取り出し，独立した理論を組み立てたとしても，その理論によってすべての「そと」を説明できるわけではない. また，統合的に説明しようとしても，すべての「そと」はその他の「そと」との無限の関係性と無限の絡み合いでできているのだから，全体を把握することはできず，それも失敗に終わるだろう.
「そと」のあり方は，並行して存在することにこそ意味があり，そのことが世界をかたちづくる. 把握できない世界をそのままのかたちで，巨大な空洞として残しておくことに意味がある. だから，同じ環境を複製し続けて，ひとつの環境で世界が満たされてしまうと，対称としての「そと」が生まれなくなり，空洞が失われ世界全体の関係性が崩れていく. 異なる価値観で「そと」を多様に考え，他の「そと」との関係を築きながら常に「そと」を生み出していくことが重要だ. その手段のひとつは，「そと」を建築として考え計画し建てていくことである. そうしてでき上がる建築の集合体は森のような意味合いを帯びてくる. それは，地球の遠く「そと」まで続き，宇宙をかたちづくる環境の縮図である.
秘密に満ちた森の広がりは，僕たちの住処の未来なのかもしれない.

人びとのための場所

都市と建築とランドスケープが溶け合う先の社会像

藤本壮介
（建築家）

都市と建築とランドスケープが融合した何かを模索する

3年前からハーバードGSDのTokyoStudioとして，藤本スタジオを持っている．10人前後のさまざまな国籍の学生たちが3カ月間日本に滞在してスタジオ課題を行うのだ．その最初の年に「都市と建築，ランドスケープが溶け合う何か」を皆で考えよう，という課題を出した．その時意図したのは，学生のスタジオ課題という場を借りて，現実社会ではまだ実現が難しいかもしれないが，建築のこれからの可能性を切り開くような思考を皆で進めてみたい，という思いがあった．建築設計をしていると，どうしても自分が敷地に縛られて，その外側の道や広場や公園なども含めた総体を制度として取り込むことの難しさにフラストラーションがあったのかもしれない．また僕自身，人間が行き交い過ごす場所としての道空間というものにとても魅力を感じていて，それが今のところ，建築家の仕事の外側に位置付けられていることが，もったいないと思っていたということもあった．

自分たちのプロジェクトで言うと，2011年にコンペで1等を取ったセルビア，ベオグラードの「ベトンハラ・ウォーターフロント・センター」が，規模的にも，立地としても，プログラムとしても，都市的でランドスケープ的であり，同時に建築的なものになっており，そのような興味が徐々に明確になっていたのだろう．

課題の敷地は，当時の僕の事務所にほど近い神楽坂のエリアを選定した．道のアイデンティティがしっかりしていて，そのスケール感も，都市でありながら建築に近いものを感じる場所である．また中央の神楽坂通りと裏道の曲がりくねった路地の関係も面白く，歴史背景も含めて，学生が思考するための手掛かりが豊富にある．さらにその地形が坂道であるだけではない複雑な起伏を持っていて，ランドスケープという視点からもさまざまな思考を誘発しそうであった．もちろんここでは，ランドスケープ＝地形・起伏，という風には限定しなかった．そして樹木という直接的な緑だけでもなく，建築とも都市とも違う，しかし人間の生活環境にまつわるすべてのもの，というくらいの緩やかな定義から始めていった．課題の成果としては，正直に言うとあまり深くは掘り下げられなかったと思う．しかしそれでも，建築という枠組みから視野を広げて，人びとのための場所という総体を捉えたいという意識が明確になったことは確かである．

同じ頃，パリに事務所を開いたこともあって，フランスで都市計画的なプロジェクトに呼ばれることが少しずつ増えてきた．もちろん僕には都市計画の経験はなかったが，それでも少しずつ学びながら続けていると，その魅力に気が付き始める．中国や中東でも，フランスとは規模も意味合いも異なるが，やはり都市のマスタープランを求められることが増えてきた．そうして都市の側から見ていくと，そこには，建築の側から都市に広がっていけない不自由さを反転したかのような，都市の側から個別の建築に繋がっていけない不満のようなものがあることが分かってきた．すごく大雑把に言うと，ゾーニングと道と街区と公園をつくっていくという都市計画と，その街区の中にある建築たちが，両方を同時に計画しながら，でもそれぞれが分断されてしまう，という不満である．それはもったいないことだと思いながらも，既存の制度と僕たちが持っている建築や都市計画の言語の中では，なかなかその両者の間を本質的に関係付けることが難しいと実感したのだった．

ところがここ最近，そのような街と建築とランドスケープの分断を超えて，豊かな関係を構築することができるような，希望の兆しのような現実のプロジェクトがいくつか起こってきた．実際の社会の中で，都市と建築とランドスケープの境界が溶け始め，融合した新しい場を求める動きが起こっているのだ．

UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店

たとえば2020年の春に横浜にオープンした「UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店」（本誌2007）の場合，建物は通常通り敷地の中に建つ独立した建築だが，そのパブリックに開放された段々状の階段広場＝遊び場が地上レベルに着地する部分は歩行者専用の道空間なので，道空間と階段広場が完全に連続している．さらに3階建ての店舗の各階エントランス

左上：ベトンハラ・ウォーターフロント・センター．城壁と隣り合い，公園や川に囲まれた敷地に渦巻き状の空中ブリッジを置き，中央は広場や展示スペースとなる．フェリーターミナル，トラムなどの都市交通のハブにもなる．
左下：UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店（本誌2007）．*
右：東京駅近くの常盤橋に計画されている「TOKYO TORCH」プロジェクトの敷地に建つ「Torch Tower」．頂部のスリット部分が半屋外の空中広場．

60–63頁特記なき建築設計／藤本壮介建築設計事務所，＊撮影／新建築社写真部，本頁右図提供／三菱地所設計

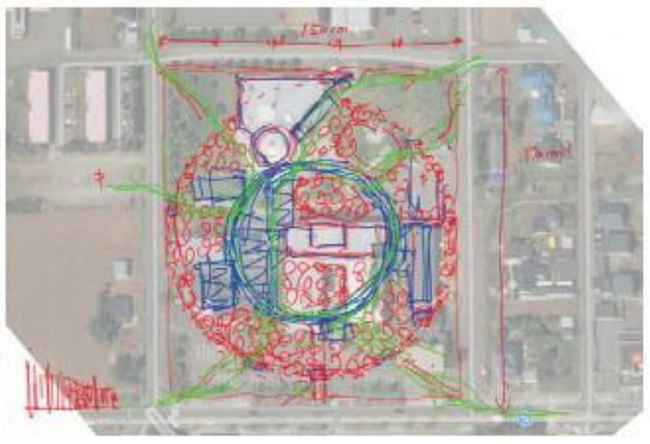
が階段広場にそれぞれ面しているので，正面の道から階段広場を登ってそのまま3階のキッズコーナーにアクセスできたりもする．こうなると，坂を登って坂の上のお店に行くことになるわけで，この階段全体は広がりを持った道空間でもあり，同時に広場でもあり，同時に道のネットワークが遊具でもあり，その傾斜ゆえにランドスケープ的な意味合いもあり，その総体が建築として立ち上がっているのである．ユニクロの柳井正さんによる「今までにない店舗を考えてください」という要望から始まったこのプロジェクトは，結果としてパブリックとプライベート，店舗と道，地形と遊具と都市と建築の垣根を超えた新しい人びとのための場をつくり出すことになった．

白井屋ホテル

先日竣工した群馬県前橋市の白井屋ホテルでは，たまたま既存の建物が，正面の国道と背後の馬場川通りという小川の流れるヒューマンスケールの道の両方に接道していて，既存建物の1階部分にはピロティ状に両者を繋ぐ道が内包されていた．以前の建物ではこのピロティはエントランスへ至る通路と背後の裏方の搬入駐車場が機能的に結ばれていただけだったが，最初に敷地を見た時から，このプロジェクトは道を内包した，つまり建物と道を一体的に考えることが可能だし，その方が豊かであることが理解できた．さらにプロジェクトが進むにつれて，施主がこのホテルだけでなく前橋の街全体の活性化に積極的に関わるようになると，個別の建築やリノベーションとしてのデザインだけではなく，街の中でのこの場所の都市的な意味を皆で考えるようになった．最終的にでき上がった建物では，既存棟の4層吹き抜けの開かれたラウンジ空間と，馬場川通りに面した土手のような緑の丘状の建物が敷地内の道によって繋がれた内外新旧の反転した「都市ー建築空間」となっている．既存棟では吹き抜けは内部化された都市広場であり，背後の土手においては道が面的に拡張されて街路空間を囲い込むことで，逆に都市の中に囲まれた街の部屋のような空間をつくり出している．そしてそのどちらもが建築的・立体的な回遊性をつくり出し，それが都市の街路のあり方を拡張している．都市と建築とランドスケープが幾重にも入り交じりながら複雑な総体を形づくっている．

Torch Tower

先日概要が発表された東京駅隣接の「TOKYO TORCH」プロジェクトの中でも，日本一の高さとなる超高層ビル「Torch Tower」の頂部デザインは，約300mという高さに都市的な場所を拡張するという新しい試みである．このプロジェクトでは，僕たちは次世代アーキテクトチームの一員として，三菱地所設計らと協働し，Torch Towerの頂部デザインを担当している．
ここで提案しているのは「人びとのための場所」としての超高層の新しいタイポロジーである．従来の超高層が，多かれ少なかれ巨大なオブジェクトであり，内部のプログラムが多様になった現代においても，やはり閉じた箱としてその形状を競ってきたのに対して，これからは，拡張された都市ー建築空間として，人びとが集い出会う新しい空中広場を建築的につくり出す試みだ．300m上空の超高層上部に大きな水平スリット状の半屋外空間をつくり出す．ホテルや展望エリア，オフィスのロビーなどのプログラムが複数階にわたって集積する場所であり，それらを繋ぐように，巨大な丘状の半屋外の広場が広がっている．この超高層のフットプリントはほぼ100×100mという，ある意味では都市スケールの大きさであり，それらが基準階ではオフィス空間やコアとしていわば不可視の状態なのに対して，この丘のスリットの存在によって，突如広大な都市広場的なスケールが上空300mに出現するのだ．丘状の傾斜は眺望の確保だけではなく，さまざまなレベルのプログラムを繋ぎ合わせ，また人の身体スケールや所作とも連動する居場所の創出を促す．そして何より直下の東京駅前から見上げた時に，この空中広場が，たしかに地上の都市空間の拡張として，都市と連続して体感されることを意図している．地上から見上げて，あそこに行ってみたい，と思えるような視覚と体感による都市空間の連続性をつくり出す．
ここでは，地上の道との連続性がなくてもなお，都市的なるものをつく



2点：東神楽町役場複合施設.
左：既存の役場庁舎と図書館，新設する文化ホールと診療所はそれぞれが幅3mの回廊でリング状に繋がる.周囲を樹木のリングが囲う.
右：敷地のアクセスを示すスケッチ.

り出せることが示唆されている．それは建築の一部でありながらそれを超えた巨大な都市の開かれた丘であり，空中につくられた坂道であると同時に，家具的な場所の広がりでもあるのだ.

東神楽町役場複合施設

都市と建築とランドスケープと言った時に，それはいわゆる市街地のみに適用できる考え方ではなく，たとえば美しい田舎の景観の中でも有効である．僕の故郷である北海道上川郡東神楽町で進めている役場複合施設（2024年竣工予定）は，美しい田園の中の住宅地に囲まれている．170×150mほどの敷地なので，周囲の住宅地に住む人びとは，いろいろな方角からこの施設にやってくることが想定された．必然的に，1カ所に正面をつくるとその他の方角からはぐるっと回ってこなければならず，それは冬の寒さも厳しい北海道では難しいだろうと考えた．結果として，森に囲まれた施設にどの方角からやって来たとしても，回廊に設けられた複数のエントランスのどこからでもアクセスできる計画となった．これはエントランスの話を超えて，複合文化施設全体をさまざまに通り抜け，また滞在できる道空間として再定義することなのである．さらにその道は，外観である森の中を抜けていく道である．街の道と森の道と点在する建築的プログラムが重なり合って連動する．ここでは高密な都市部とはまた別の仕方で，都市的なものとランドスケープ，そして建築が溶け合った新しい場がつくられているのだ.

人びとの多様性を受け止める場

これらのプロジェクトは，そのほんの一例に過ぎないと思うが，今，社会の中で，来たるべき未来における新しい「人びとのための場所」を広い視野で模索する動きが生まれていると言えるのではないだろうか．今までのように道をつくって街区を囲い，建物は建物で建て，道は道で整備する，その間に植栽などのランドスケープを入れていくという方法だと，何かを掬い取れていないという感覚が，事業者や人びとの間に意識され始めているに違いない．それはよい意味での社会の多様化と関連しているのだろう．多様な人びとが多様に関係し合う現代という時代に，かつての建築や道，公園や広場という個別の枠組みは，もはやそれらの多様性を受け止めきれずにいる．その閉塞感や堅苦しさに人びとが気が付き始めている．今まで通りの建築や都市をつくっていては，もはやこれからの人びとの活動にはそぐわない，窮屈なものになってしまうのではないか，という大きな危機感の現れでもあるのだ．その多様性を受け止めることができるものとして，都市と建築，建築とランドスケープの間に新たに発見されるべき，今までは名前すらなかった無数の新しい場に期待が寄せられているに違いない．それは素晴らしい兆候である．社会の中での建築の位置付けが，大きく動き出す予感がする.

それは建築関係者にとっても大きな機会である一方，それ以上に大きな責任でもある．新たに開拓することができる領域が，目の前に開けつつあるのである．さまざまなことが試みられるだろうが，そこには本質的な誠実さが求められる．今までにも，建築を街に開いたり，街の活動が建築の中に入ってきたり，庭と建築が連動したり，という試みが重ねられてきた．それらは誠実に，この新しい動きの助走となっているはずだ．一方で，道のような建築，広場のような建築，街のような建築，（そして自省を込めて）森のような建築というふうに，メタファーとして都市やランドスケープを建築に取り入れながらも，本質的には建築の枠内にとどまって，一風変わった「作品」や少し珍しい場所をつくることで終わってしまっている建築もある．それは一見越境を志しているように見えて，実際には建築の旧来の枠の中にとどまって「作品」を面白くつくるということに終始しているだけなのかもしれない．それを続けていては，建築家は社会の真の信頼を失ってしまうだろう.

今，社会で起こっている本質的な変化とは，そういう建築家的な建築の枠内の変化ではなく，建築と都市の両方を扱うことができる時に，あるいはランドスケープも含めた総体として扱うことができるとした時に，その今まで触れられなかった，踏み入ることができなかったこの領域に，どんな新しい「人びとのための場所」を見出せるのか，という問いなのである.

ところで，都市や街というと，ある程度以上の大きさを持ったプロジェクトにしか関係しない話だと受け止められるかもしれない．しかしここでいう街と建築とランドスケープの間というのは，何も都市計画的なスケールや，大きな建物だけに限った話ではない．それこそ，住宅において

左：「daita2019」設計：山田紗子建築設計事務所（『新建築住宅特集』1908）.*
右：「BONUS TRACK」設計：ツバメアーキテクツ（本誌2005）.*

さえ，それは可能なのである.

たとえば2020年の吉岡賞を受賞した山田紗子さん設計の住宅「daita2019」（新建築住宅特集1908）は，それ自体は敷地の中に建つ戸建て住宅だが，その本質は，都市の中のオープンスペースでもあり，ランドスケープの中の住処でもあり，街と建築とランドスケープの混ざり合う領域に人間の住む場所を真摯に再構築している事例だろう.

またツバメアーキテクツによる下北沢のBONUS TRACK（本誌2005）も，街と建築とランドスケープが融合した新しい都市環境をつくる試みの萌芽と見ることができる．残念ながら最終的にでき上がったものは，どちらかというと旧来の「道と建物」というタイポロジーを援用したことで，その両者の間に現れ得たかもしれない新しい場の創造までには至らなかったかもしれない．しかしこのような事例を少しずつ重ねることで，建築家も事業者側も，また利用する人びとの間にも，少しずつ新しい都市―建築―ランドスケープのあり方が浸透してくるのではないか，という期待が持てるプロジェクトだった.

一方で，都市と建築とランドスケープが融合するとした時に，建築が都市的な巨大さという暴力性を持ち始めてしまう懸念もあるだろう．実際に，近年つくられた都市施設のいくつかには，そのような残念な事例があることも確かである．それはおそらく，建築と都市とランドスケープを一体的に捉えた先を見据える中での，過渡期ならではの悲劇なのではないだろうか．都市と建築とランドスケープを横断して統合的に思考する言葉が成熟していないまま，一方で社会そのものは，その予感としての「都市ー建築ーランドスケープ」の統合体を求め始めている．そのズレが解消しないまま，建築に都市的な暴力性が重なって，ランドスケープも唐突に載せられただけ，というようなものが建ち上がってしまった.

ここから僕たちが学ぶべき教訓は，それは常に「人びとのための場所」であるべきだ，ということだろう．都市と建築とランドスケープの間に現れたこの新しい領域は，先ほども述べたように，社会の中での人びとの多様な活動を受け止めるための新しい場の要請から生まれてきている．つまり多様な人びとのためにこそ，それは生まれてきているのだ．都市，と聞くとそれはなにか巨大なものを想像してしまうが，巨大さとは異なる都市の持つ力，複雑さなのか，寛容さなのか（そこはいろいろと展開しそうだが），その都市ならではの魅力を，建築やランドスケープとの関係の中で発酵させて，人間の場所として新たに再発明することこそが今求められているのである．建築を都市の巨大さに拡張して暴力装置を生み出すこととは正反対の方向性なのだ.

それは翻って，建築スケールであればそれでよい，無批判に人びとのための場所なのだ，ということではない．そうではなくて，今までの都市・建築・ランドスケープの前提を問い直し，そのどれでもありながらどれでもないような，新しい「人間のための開かれた場所」をつくり出すことが，われわれ建築家の責任なのである.

白井屋ホテルで経験したことは，建築―都市―ランドスケープの垣根を超えてつくられた開かれた場所というものは，単に物理的に開いているということだけではなく，その横断性ゆえに，さまざまな人びとを巻き込んでつくられる総体のようなものの現れとなり得ることだった．誰がどこをデザインした，ということが意味をなさなくなるくらいに多様なものが溶け合い，無数の個が響き合いながら，緩やかにひとつの統合体となっている．それゆえに，竣工後においても，さまざまな人びとの関わりに開いていくだろう．それは本質的な意味でのコラボレーション，CO-CREATIONと言えるのではないだろうか．先に挙げたTorch Towerにおいても建築家と組織設計事務所が有機的に協働している．その先にデザイナーやアート，食，そしてその地域の特色なども大きく含み込んでいくことができる開かれた場の創出が期待できる.

この都市と建築とランドスケープの間に広がる領域は，それがまさに「間」であるという意味において，とてもアジア的な捉え方なのではないかと思う．都市は都市，建築は建築，ランドスケープはランドスケープ，と明確に区切るのではなく，そのどちらでもあるような曖昧な領域にこそ多様な場を見出すことができる，というのは，内部と外部の間に豊かな「間」の領域を見出し，物理的なもの以上にさまざまな概念においても，磯崎新さんが数十年も昔に示したように「間」の多様さを見出した伝統に繋がっている.

これからの時代が，多様化の時代になることは間違いないだろう．近い将来，それら多様な人びとの多様な関係を受け止める場所が新しい社会像として，グローバルに求められるに違いない．都市と建築とランドスケープの溶け合う場所というのは，この先の世界へと向けた大きな提案になるのではないかと期待している.

谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館

設計　谷口吉生／谷口建築設計研究所
施工　清水・豊蔵・双建特定建設工事共同企業体
所在地　石川県金沢市

YOSHIRO AND YOSHIO TANIGUCHI MUSEUM OF ARCHITECTURE, KANAZAWA
architects: TANIGUCHI AND ASSOCIATES

金沢の名誉市民第一号の建築家・谷口吉郎の住居跡地に建てられた建築・都市についてのミュージアム.

寺町通り側外観．鉄筋コンクリートの構造体を石で覆った壁面と鉄骨構造体をガラスで覆った外観で構成される．

建築の設計

金沢市の寺町，崖下に犀川を見下ろす一画に建てられた，建築と都市のためのミュージアムである．敷地は，私の父，谷口吉郎が建築家を志し，東京の大学で学ぶまで両親と暮らした家の跡地を，父の遺志をついで市に寄贈した場所である．

父は生涯，建築の設計を手掛けると同時に，「博物館 明治村」を創設するなど，文化財としての建築の保存に非常に熱心であった．金沢では，歴史的建造物が失われるのを憂い，「金沢診断」を実施，保存と開発の調和をまちづくりの基本とする方針を市に提言し，それが契機となって日本で最初の「伝統環境保存条例」が制定された．市はそのような父の功績に対して，名誉市民第1号を与えている．

金沢市は，かつて父が住んだ寺町の家の跡地に，建築に関わる美術館であり，父の功績を顕彰する施設でもある「建築文化拠点施設」を計画した．私は設計者の立場で計画に携わっていたため，竣工を控えて施設の正式名称を決定する際，館名に父の名前に加えて私の名前も付されると聞いた時は，大変驚くと同時に名誉なこととして感謝した．

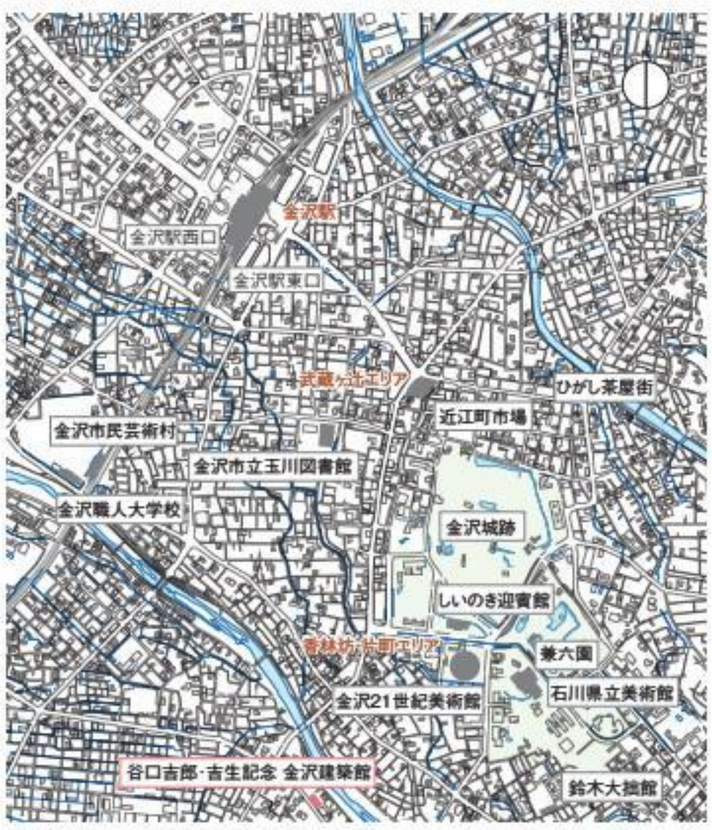
建築の外部は，鉄筋コンクリート構造を石で覆った閉鎖的な部分と鉄骨構造をガラスで覆った開放的な部分によって構成した．風致地区の環境にふさわしい暖色系の石で仕上げた閉鎖的な部分は，内部の展示室や収蔵庫を外の温度変化の影響などから護っている．一方のガラスによる明るい開放的な部分は，「寺町通り」に賑わいを加えるラウンジ空間となっている．前面に金属製の格子を取り付けたこの部分は，軒高を低く抑え周辺の街並みと揃えた．また，北側には敷地内を自由に通り抜けることができる通路を設け，崖下の犀川岸の道と「寺町通り」を結ぶ歩行者のための新しい回遊路としている．

建築の内部は崖地の傾斜を利用した3層で構成されている．出入口がある1階には，ミュージアムショップやカフェを配して，歩道を通る人に気軽に入館できる雰囲気を与えている．常設展示室がある2階は，展示されている和風建築と犀川へ向けた眺望を，「水庭」を介して組み合わせ，金沢らしい特徴ある空間を演出した．また，「内庭」に面する地下階には企画展示室があり，市民や金沢を訪れる人を対象に，建築や都市に関わる企画展示を行い，講演会や会議などさまざまな活動にも利用される．内部全体の意匠としては，常設展示が予定されていた父の数寄屋建築と対比させるために，私の設計は極端に抽象的で簡潔な造形を心がけた．

建築内に常設展示されている「迎賓館赤坂離宮 和風別館」（本誌7406）のオリジナルは，日本建築が持つ美的特性によって外国からの賓客をもてなすために，1974年，国によって建てられたものである．現存する和風別館の「広間」と「茶室」を，ミュージアム内に忠実に再現する方針には，谷口吉郎の代表作を，故郷の金沢に展示する象徴的な意味と，貴重な存在となった日本の伝統的な建築美と優れた職人の手仕事を，建築の美術館として収蔵する目的が込められている．また，地下階の企画展示室では，建築や都市に関わることをテーマに企画展を催す方針に沿って，開館以来，すでに2回の展覧会が開催されている．初回は開館記念特別展として「清らかな意匠―金沢が育んだ建築家・谷口吉郎の世界―」展（会期：2019年7月26日～2020年2月16日），第2回企画展は「日本を超えた日本建築―Beyond Japan－」展（会期：2020年3月20日～11月29日）であり，現在，第3回企画展「金沢のチカラ－重層する建築文化―」が来年初めの開催に向けて準備されている．

金沢には，藩政期の歴史的建造物や明治期の煉瓦造建築，世界が注目する現代建築など各時代を象徴する建築が重層的に存在する．また武家屋敷や茶屋街など，趣きがある城下町の街並みが保存されていて，見学に訪れる人も多い．そんな「建築の町」に暮らす市民や金沢を訪れる人びとにとって，この新しいミュージアムが，建築についてさらに理解を深め，親しみを覚える場として貢献することを期待している．

（谷口吉生）



広域配置　縮尺1/50,000

エントランスアプローチ．周辺は仏教寺院が多く集まり，重要伝統的建造物群保存地区となっている．その街並みに合わせて軒高を低く抑えた．

ラウンジから寺町通りを見る。無垢鉄骨による方立・耐風梁により簾状のスクリーンやカーテンウォールを支持．西日対策を兼ねるスクリーンはアルミパイプ製．耐風梁下に電動ロールスクリーン．

ラウンジ、天井高は7,410mm、軒高7,700mmにして低く抑え、周辺の街並みと揃えている。道路に面して総合案内、ミュージアムショップ、カフェが配され、通りから内部の賑わいが見える。

ホール．地下企画展示室と2階常設展示室が吹き抜けを介して繋がる．天井高は最大6,600mm.

水庭．迎賓館赤坂離宮の和風別館の水盤は庭園の水景であるが，犀川を借景として，水面や樹木が連続する広がりのある眺望を強調する水庭とした．

ホール．スリット状のトップライトを設け，採光．

谷口吉郎氏が設計した「迎賓館赤坂離宮 和風別館」の「広間」と「茶室」を再現した常設展示.

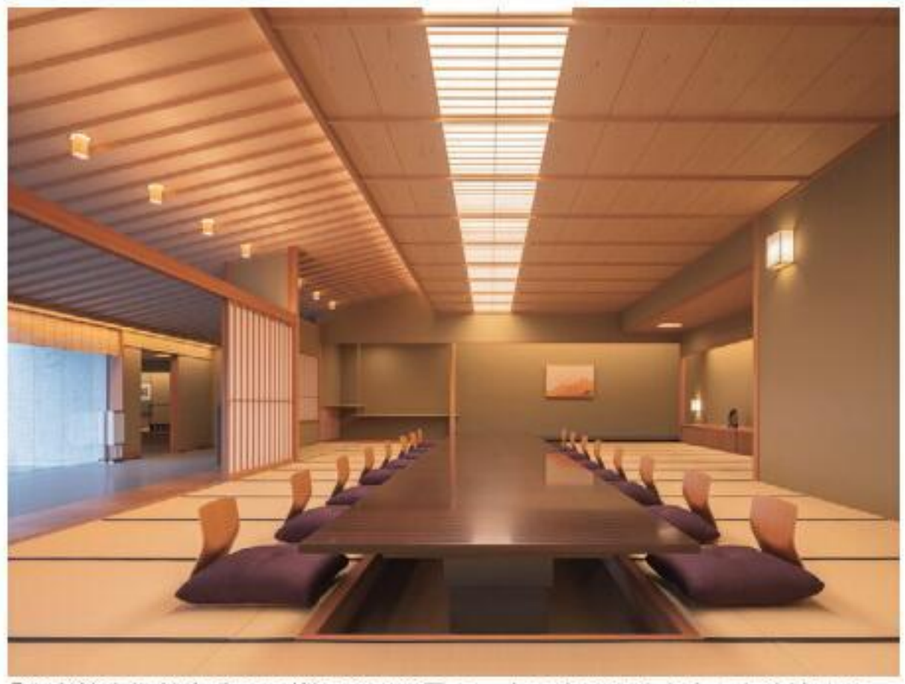
茶室について

中央に配された四畳半の畳席と，その外側の二辺を囲う椅子席からなる谷口吉郎創案の「茶室」である．能舞台のように設えられた畳席での点前（てまえ）を，周りの椅子席から鑑賞しながら，茶会を楽しむことができる．畳席と椅子席の間には，季節や催事に関わる花や美術品を飾る「床の間」を設け，ふたつの空間を連続させている．天井には平天井と傾斜天井を組み合わせた掛込（かけこみ）天井や木を編んだ網代（あじろ）天井などを組み合わせて配し，茶室の空間に変化を加えている．（谷口吉生）

「迎賓館赤坂離宮 和風別館」の「茶室」再現展示．

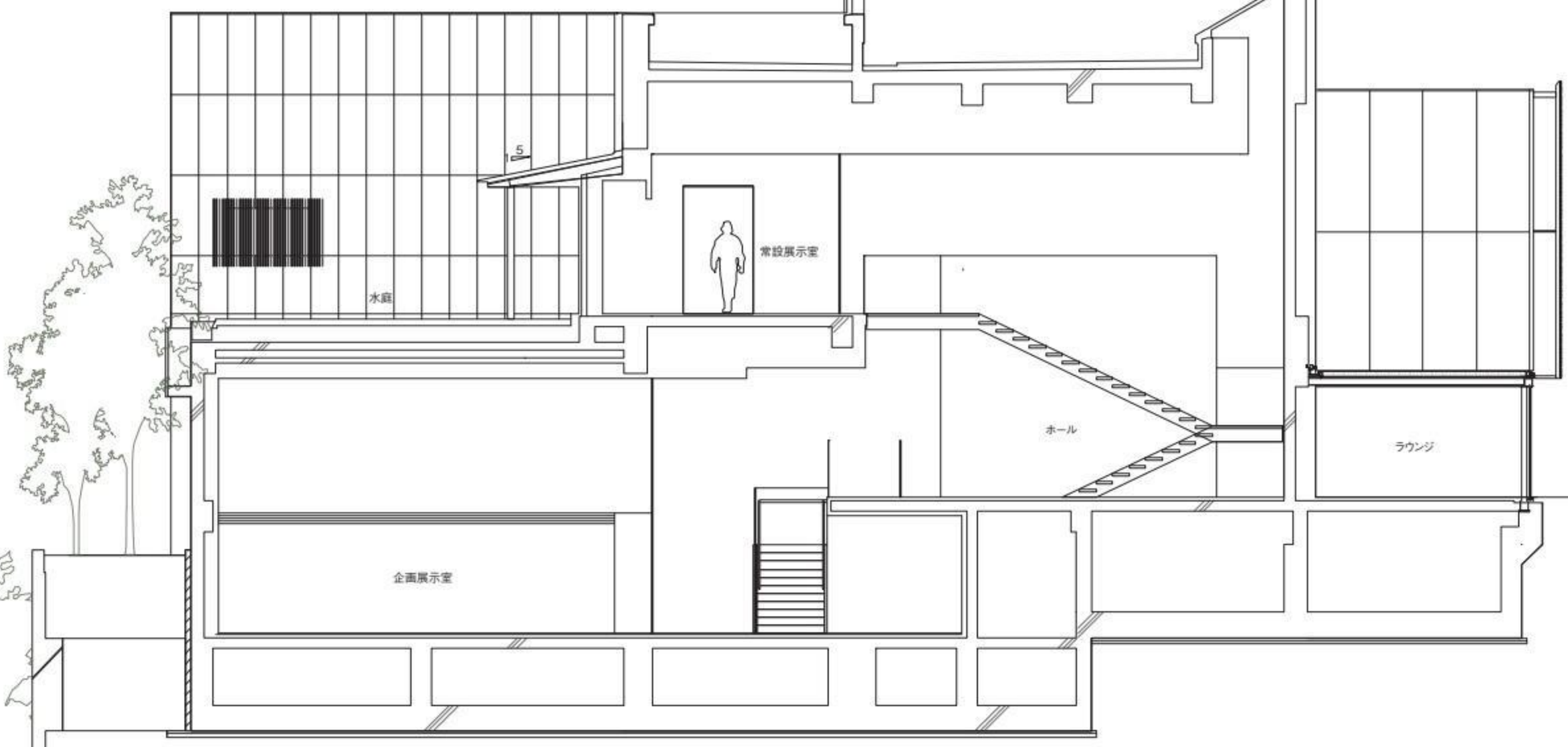
椅子席の方を見る.

寺町通り側外観.



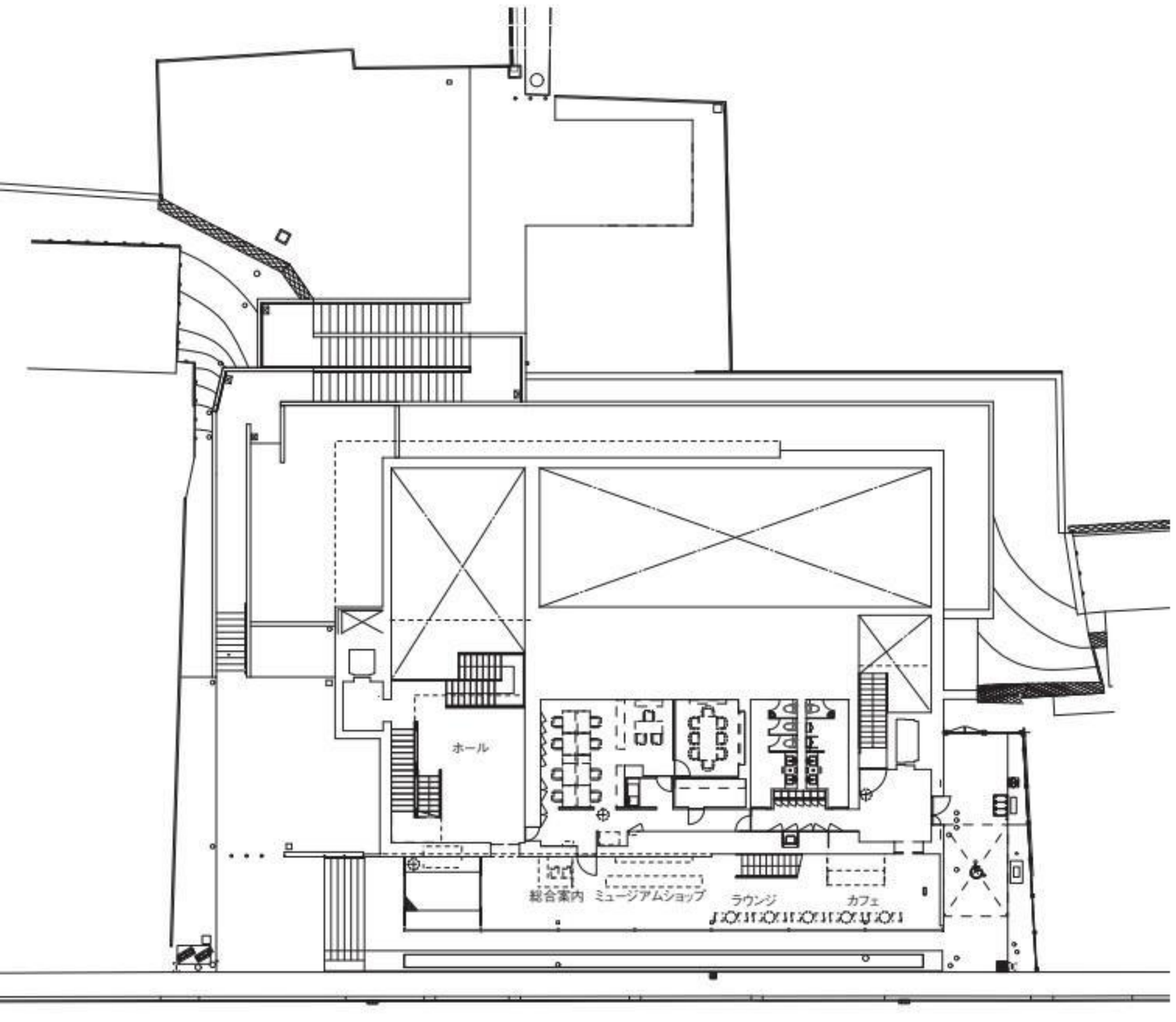
「迎賓館赤坂離宮 和風別館」の再現展示. 上：広間から水庭へと連続する. 下：広間. 主要な材料は，水澤工務店の倉庫に保管されていた当時の材料の予備材から1点ずつ確認して使用した.

配置　縮尺1/1,500

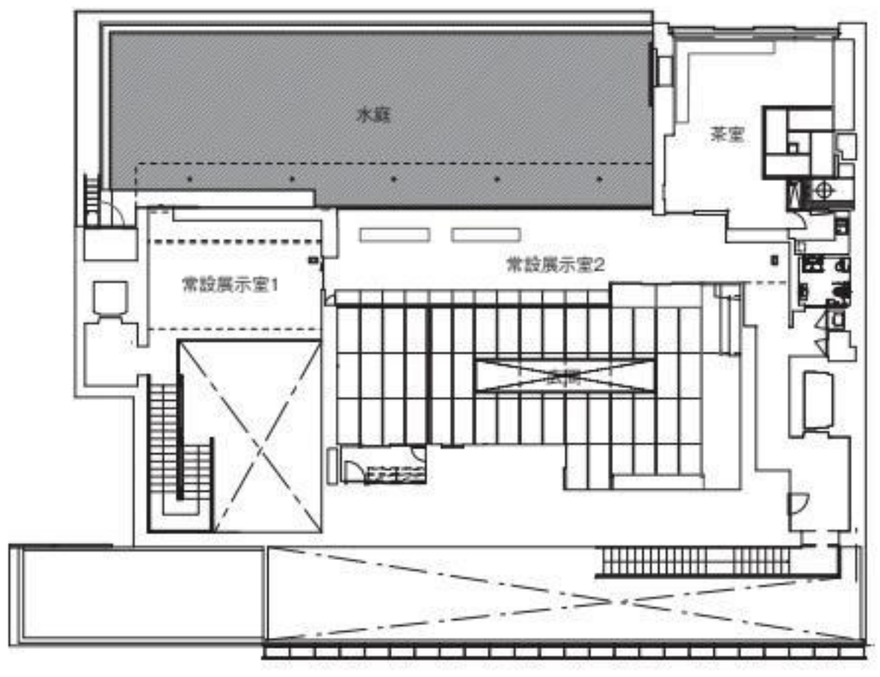


断面　縮尺1/150

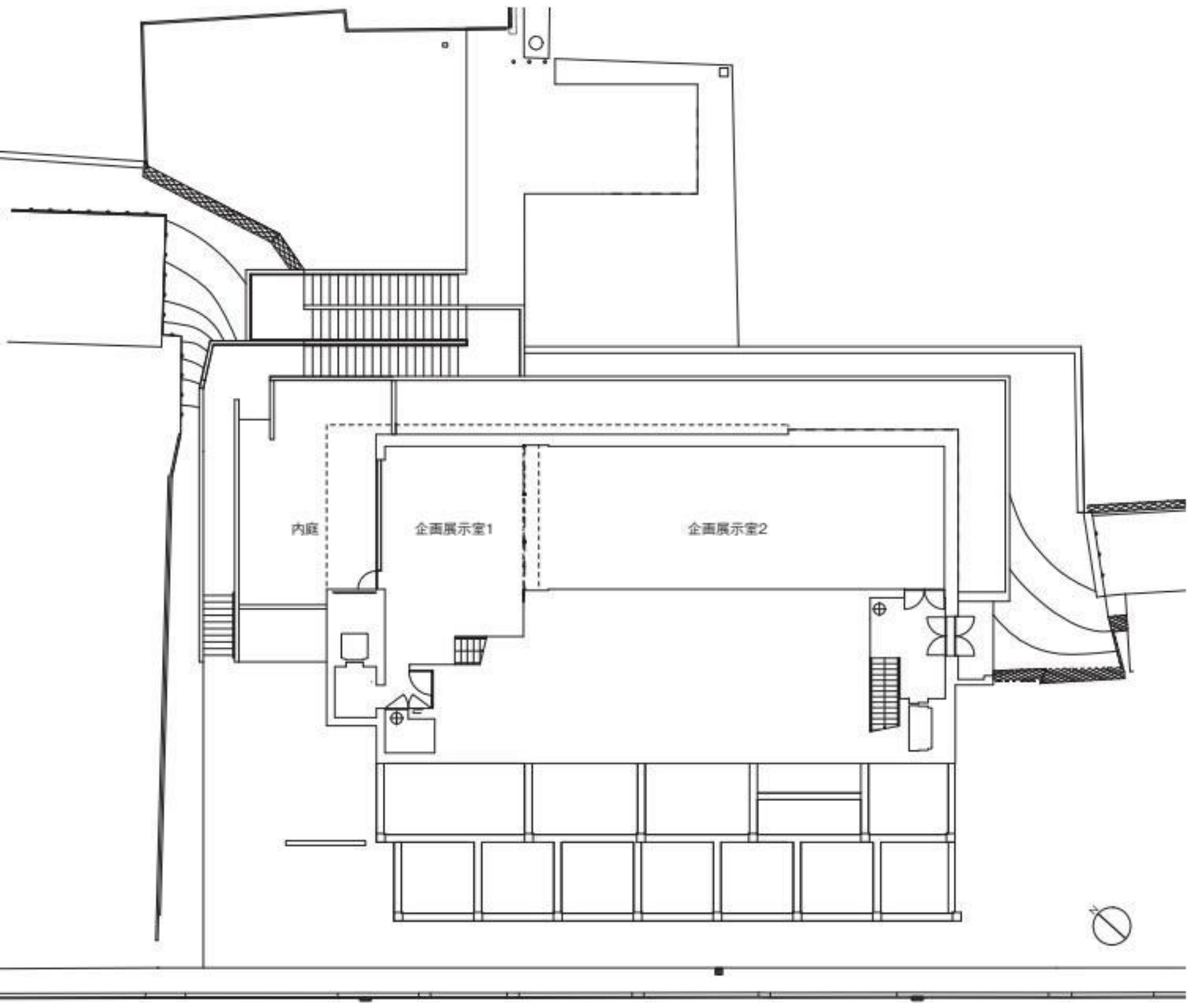
設計　建築　谷口吉生／谷口建築設計研究所
　　構造　構造計画プラス・ワン
　　設備　森村設計
施工　清水・豊蔵・双建特定建設工事共同企業体
敷地面積　2,032.64m²
建築面積　823.58m²
延床面積　1,570.39m²
階数　地下1階　地上2階　塔屋1階
構造　鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
工期　2017年6月～2019年5月
撮影　新建築社写真部
（データシート198頁）



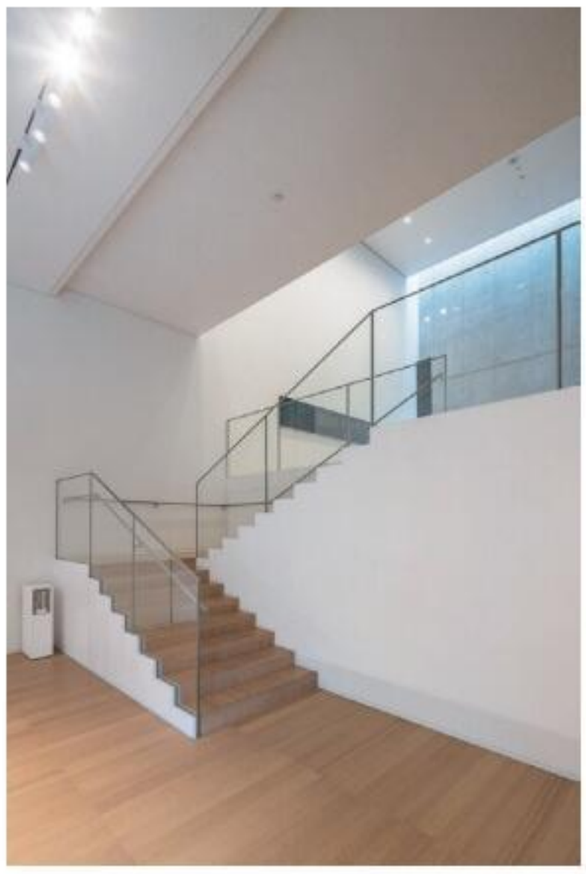
1階平面



2階平面



地下1階平面　縮尺1/500



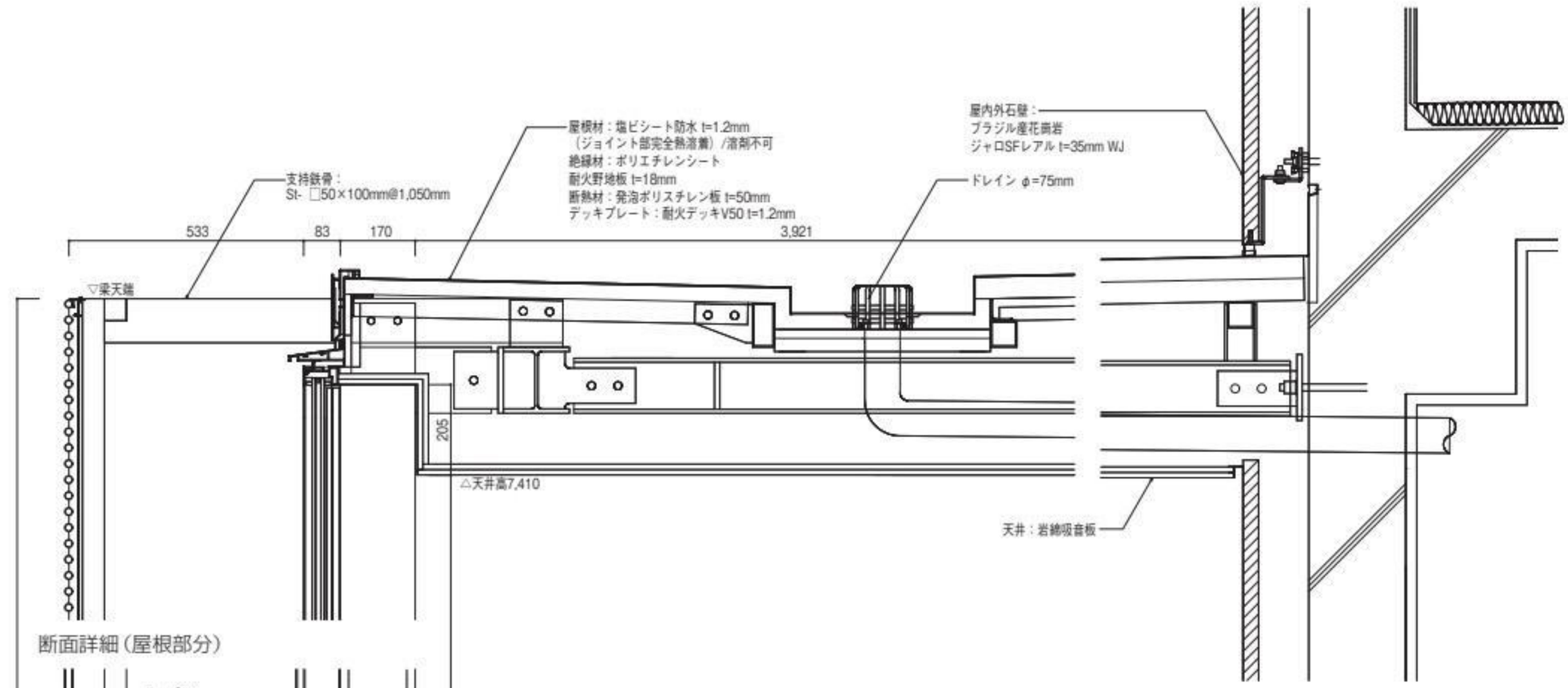
上：企画展示室からホールを見る.
中：地下1階企画展示室．右は内庭.
下：地下1階企画展示室.

迎賓館赤坂離宮 和風別館断面詳細　縮尺1/60（設計：谷口吉郎）

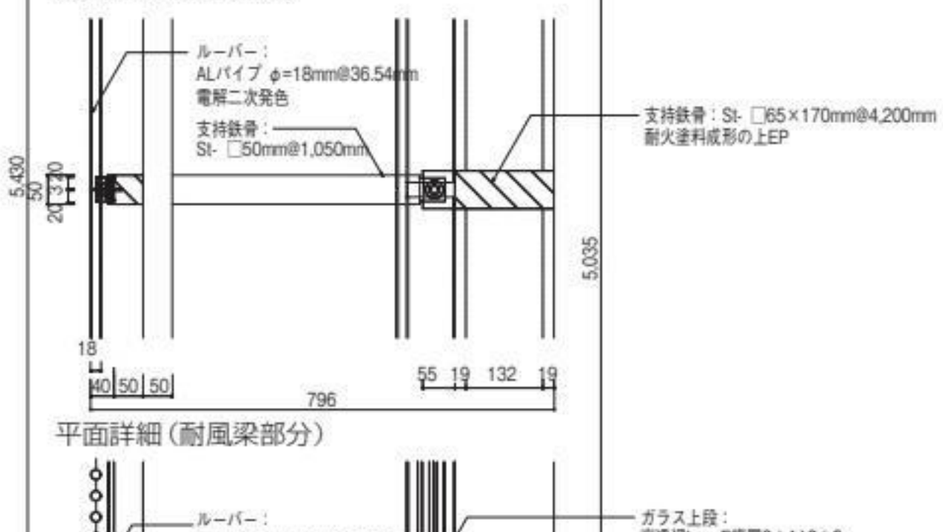
広間について

「広間」は一の間（47畳）と二の間（12畳）で構成されていて，二の間は襖（ふすま）を全開にして，歌舞音曲などの舞台としても使用可能である．「広間」と「広縁」の上に広がる天井は，平天井と傾斜天井の組み合わせによる独創的な設計で，障子を開けると「広間」，「広縁」，そして外部の「水庭」の先までが一体的な空間となる．一の間奥全幅に配された床（とこ）と棚（たな），縦長を強調した障子の桟（さん）の割り付け，細い垂木（たるき）と天井の棹縁（さおぶち）の組み合わせなどは，洗練された和と現代的な意匠の融合を図ったものである．（谷口吉生）

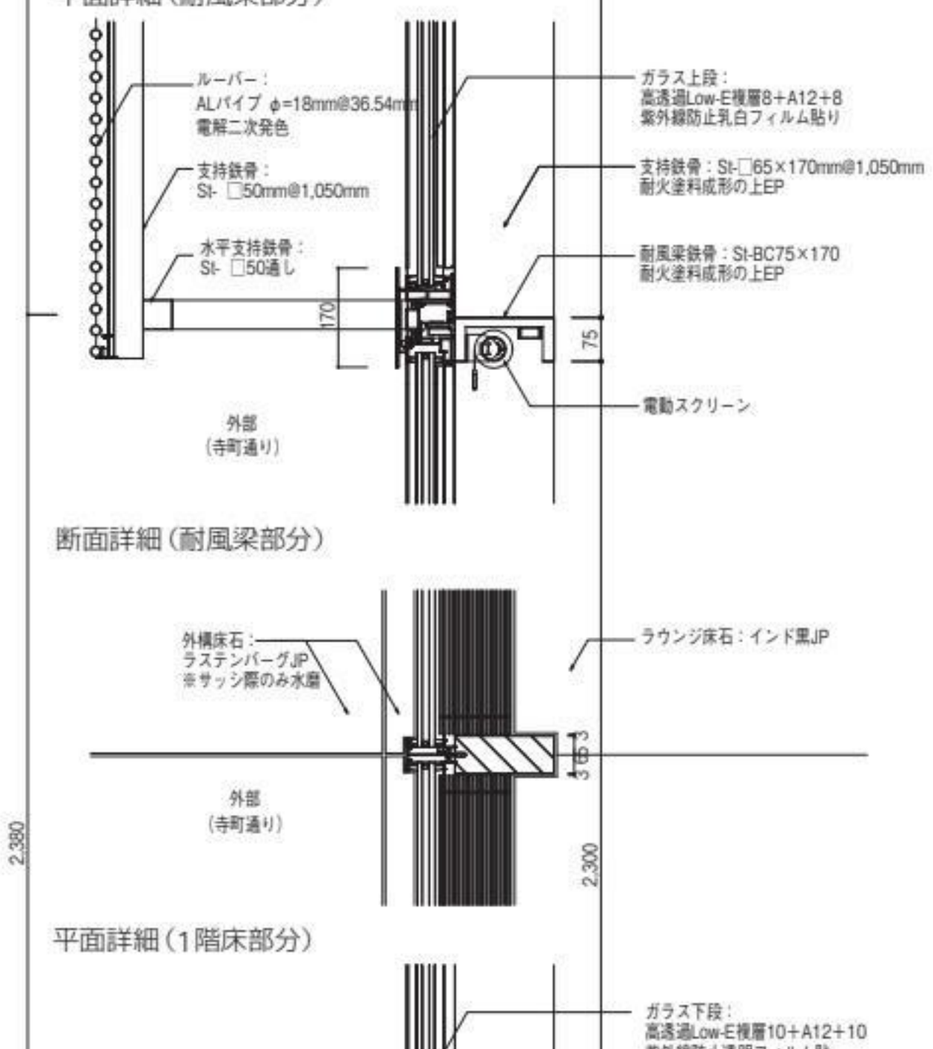
広間断面詳細　縮尺1/60



断面詳細（屋根部分）

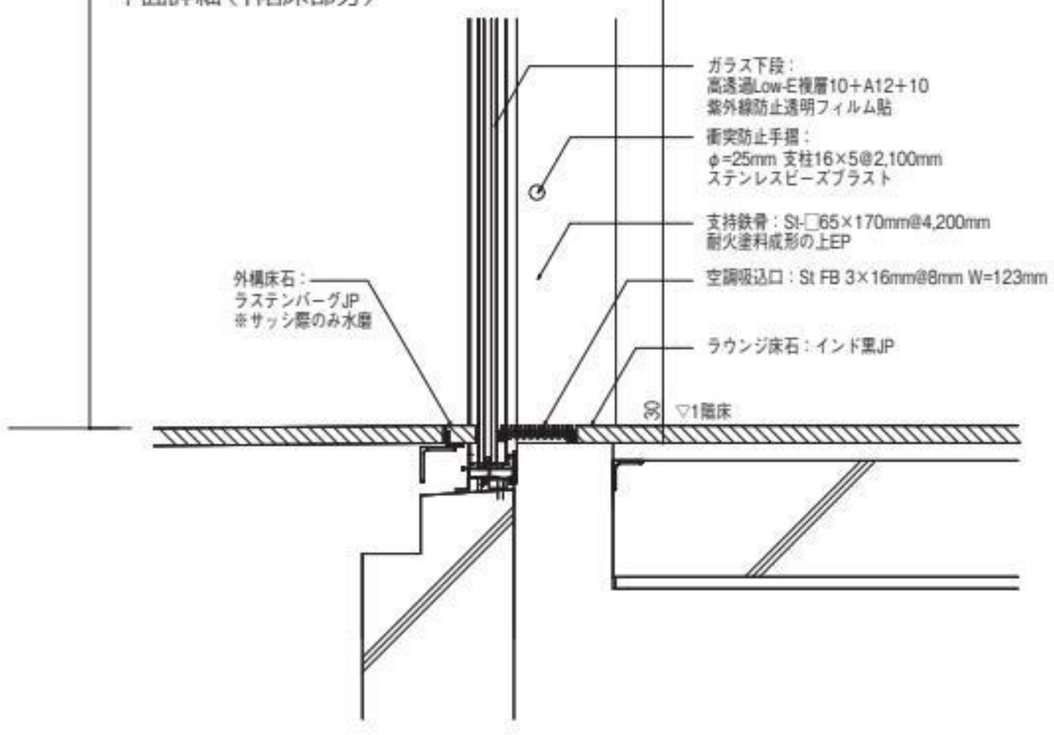


平面詳細（耐風梁部分）



断面詳細（耐風梁部分）

平面詳細（1階床部分）



アルミルーバー断面詳細（1階床部分）　縮尺1/20

寺町通り側外観．アルミルーバーの外壁．

神奈川工科大学KAIT広場

設計　石上純也建築設計事務所

施工　鹿島建設　高砂熱学工業　きんでん

所在地　神奈川県厚木市

PLAZA OF KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
architects: JUNYA.ISHIGAMI＋ASSOCIATES

北より見る.神奈川工科大学のKAIT工房（本誌0803）に隣接する敷地に建てられた 広場. 約4,000m²の空間に開口があるすり鉢状の勾配屋根（鉄板 t=12mm＋透水性アスファルト t=30mm）が架かる. 写真正面の部分は地面から屋根面まで高さ約680mm.

北西角エントランス付近より見る一室空間からなる広場．床の最大高低差は5,151mm，屋根の最大高低差は4,694mm.

床がもっとも下がったあたりから北西方向を見る.
床は透水性アスファルトをライトグレーに塗装.

南東より見る．開口部は，厚さ12mmの屋根鉄板の上に同厚の屋根補強材を周囲に設置し，透水性アスファルトで仕上げている．開口部端部小口は厚さ15mm.

北からの俯瞰．屋根には1辺1,800～3,000mmの59個の開口がある．屋根面は，日射反射率を上げて鉄板の熱収縮を抑えるために透水性アスファルトを白に塗装．

始まり.

神奈川工科大学にKAIT工房が2008年冬に完成し，同じ年の秋，東側に隣接する校庭の一角でこの計画が始まった．プログラムは多目的な半屋外の広場だ．多目的性とは何か，半屋外性とは何か．それらが最初の問いであった．

多目的性.

いわゆる均質な空間ではない．大学には多目的な用途の場所は既に多くあり，そのような機能上の多目的性ではなく，ここでは過ごし方の多様性が求められた．学生たちが，のんびりと過ごすための居場所が学内には少なかったからだ．用途の曖昧さが多く含まれ，それが魅力になる多目的性が必要であった．たとえば，床に座って談話やランチを楽しんだり，寝転びながら考えごとをしたり，昼寝をしたり，雨天時に運動部がストレッチをしたり，イベント時に車や機械を展示したり，学祭の時にお店などが並び市場のようになったりなど．「どのように使うか」よりも「どのように過ごすか」ということに重心がある，そういう場所である．使い方に重きがあると目的を果たすことが主眼になるけれど，過ごし方に重きが置かれる場合，緩やかな目的はあるものの，時間の経過を伴う身体経験に重点が置かれる．

半屋外性.

この場所に必要な半屋外性を考えた時，たとえば，既存の環境的特質はそのままで，単に雨や日射を避けるなどの目的で吹きさらしの場所を設けるようなことは適さない．前提となる既存の環境そのものに問題があるからだ．大学内の屋外空間は基本的に高い校舎に囲まれ，それらの間にある．そこはとても人工的で，風景としての多様性に乏しく，自然現象の変化に心を奪われる場面は少ない．どのように過ごすかを主眼に考えた場合，ここで求められるべき半屋外性とは，既存の環境的特質を半分残し，そこに半分建築的要素を加え，結果として，建築によって新しい「そと」をこの場所につくり出すことだと考えた．それは，「そと」を建築として計画し，建築の内側に，心に響く風景を出現させることである．

地平線.

風景とは，季節や天気などの自然現象によって変化し，地形と共に時間の経過を伴い，都度その場に現れる環境である．それは，ある時は主観的身体経験として，ある時は客観的象徴として現れる．ここに現れるべき風景は，建物に囲まれているような窮屈さがなく，長い時間その場所に留まりたくなるような，心地よくどこまでも広がる開放性と繊細な移ろいを伴う環境である．

ここでは，地平線を望むような壮大な広がりを時間と共に感じる風景を考えた．空と大地の巨大な湾曲面が遠くで結び付き，1本の境界線をつくる風景である．地平線の向こうにどこまでも続く世界を感じる風景だ．

建築のなかの風景.

まず，KAIT工房からの景色を考えた．平面は敷地いっぱいに広げ，他のキャンパスレベルより2mほど低い既存の高低差を生かして建物の高さをできるだけ抑え，地形と一体化する新しい地面となるようなヴォリュームを目指した．周囲の4つの壁から1枚の巨大な鉄板を吊り下げるようにして支える構造を考える．鉄板はゆったりと撓み壮大な湾曲した面がつくり出される．内部に柱はない．その湾曲面に平行するようなかたちで，窪んだ床面を計画する．地球の断面を

北からの全景．西側（右）にKAIT工房が建つ．

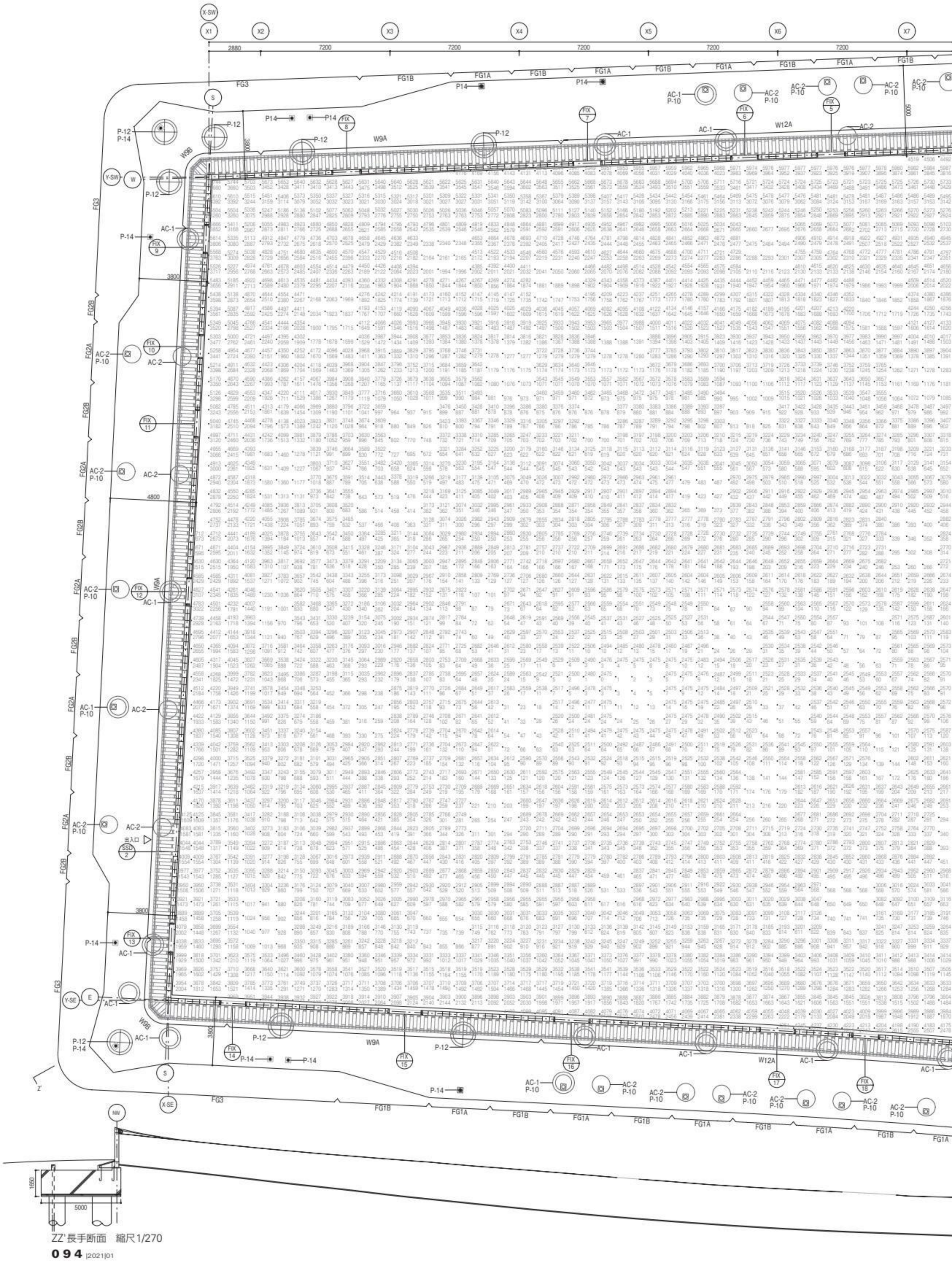
見た時の空と大地の間にできる空間のプロポーションを参考にし，天井高は平面の大きさに対して，できるだけ低く設定する．撓んだ空のような天井面と，窪んだ大地のような床面が，湾曲して遠くで結び付き，建物の中に地平線が現れる．地平線の彼方から人が現れ，地平線の彼方に消えていく．屋根には59個の開口が計画される．低く抑えられた天井が光の回り込みを抑制し，開口の周囲のみが明るくなり，それ以外のところはほどよい暗さを保つ．地球規模で考えれば，晴れと曇りの場所で明暗が生まれるのと同様の現象だ．光の濃淡の空間的むらが時間や天気と共に変化していく．開口にはガラスはなく，風雨は室内に流れ込む．雨の日には，開口からの雨滴がたくさんの雨の柱を内部につくり，霞む風景が出現する．屋内に響く雨音と眼の前の雨粒を感じる．身体経験としての自然の変化が風景として現れる．

身体と土木．

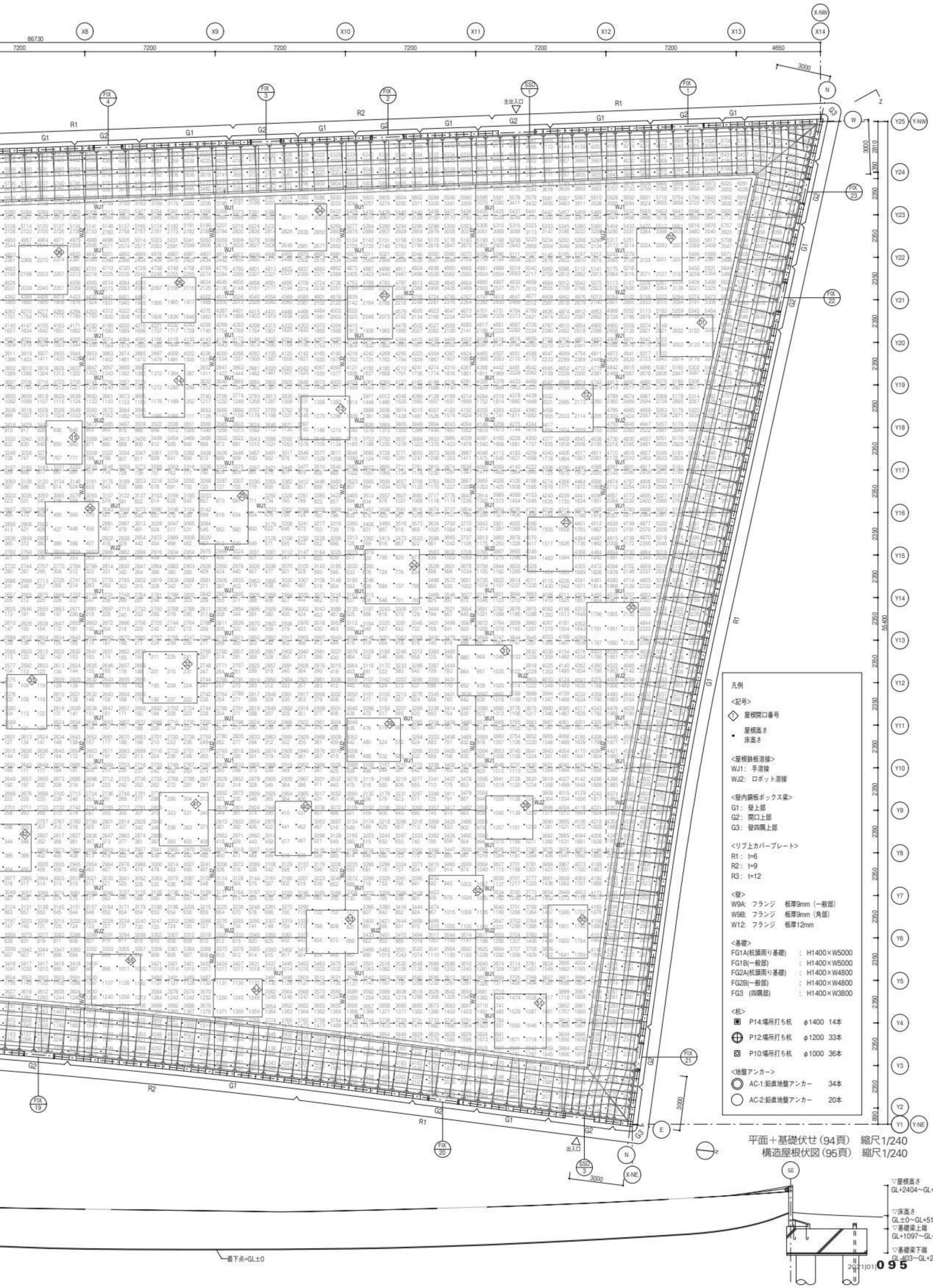
構造のスケールも技術も材料も土木的である．巨大な鉄筋コンクリート地中梁基礎には杭が83本，アースアンカーが54本計画され，床の斜面の高低差は5mほど，構造も吊橋を360度回転させたような成り立ちである．最大スパンは90mほどで，鉄板の熱収縮で天井高が30cmほど変化する．季節によって空の高さが変わるかのようだ．メガストラクチャー的構造スケールである．しかしながら，同時に身体的スケールが共存するように考えた．天井高は2.2～2.8mほどで住宅のスケールとし，屋根鉄板の厚さも12mmで家具スケールとした．屋根鉄板の外周3mの範囲には圧縮リングとしてのリブを計画し，壁への張力の負担を軽減し，壁の厚さを250mmとし一般的な建築のスケールを維持している．床面には車道の舗装に使う透水性アスファルトを敷き詰め，高圧洗浄で油分を完全に取り去り塗装を施す．雨水は瞬時に吸収され床の下を流れ，床面はドライな状態が保たれる．人間の肌に接しても不快でないような状態にしている．

身体と環境．

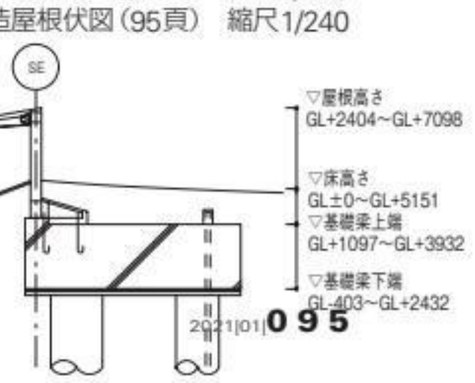
人間と環境ができる限り近い関係になるように考えた．地面に座った時に自然を強く感じ，床に座った時に建築に親密さを覚えるような，身体と環境が直接的関係を築くようにしたい．現代建築における人間の動作は立っている状態を起点としてその延長で，座ったり寝転んだり，さまざまな動作が考えられる．その場合，身体と環境との距離を椅子やベッドなど家具が繋ぎ合わせることが多い．ここでは座っている状態を起点として計画する．室内は上足とし斜面の床に自由に座り，その延長で寝転んだり立ち上がったりできるようにする．巨大なベッドとも感じる心地のよい丘陵のような斜面で，身体と環境が直接関係し合い，一体的な風景となる．風が肌を撫で，雲が陽の移ろいを誘い，陽の動きが光を彩り，雨が響きをつくり，雪の静けさが奥行を与える．時間の変化の中に身を置き，緩やかな目的と共にゆったりと過ごす場所になる．また，都市の中で坂がモニュメントになるように，この斜面がキャンパスの象徴的な場所にもなる．地平線が，空間的分節と広がりを同時に生み出し，その風景の中で，集まっているのに離れているような，離れているのに一体感を感じるような，たくさんいるのに少ないような，少ないのにたくさんいるような，さまざまな距離感と密度が生み出され，人が集まることと環境に溶け込むことが同義になる．それは，開放性と快適さに自由を与えることである．キャンパス内にみんなが集う新しい「そと」を新しい広場としてつくり出す．　（石上純也）



ZZ'長手断面　縮尺1/270

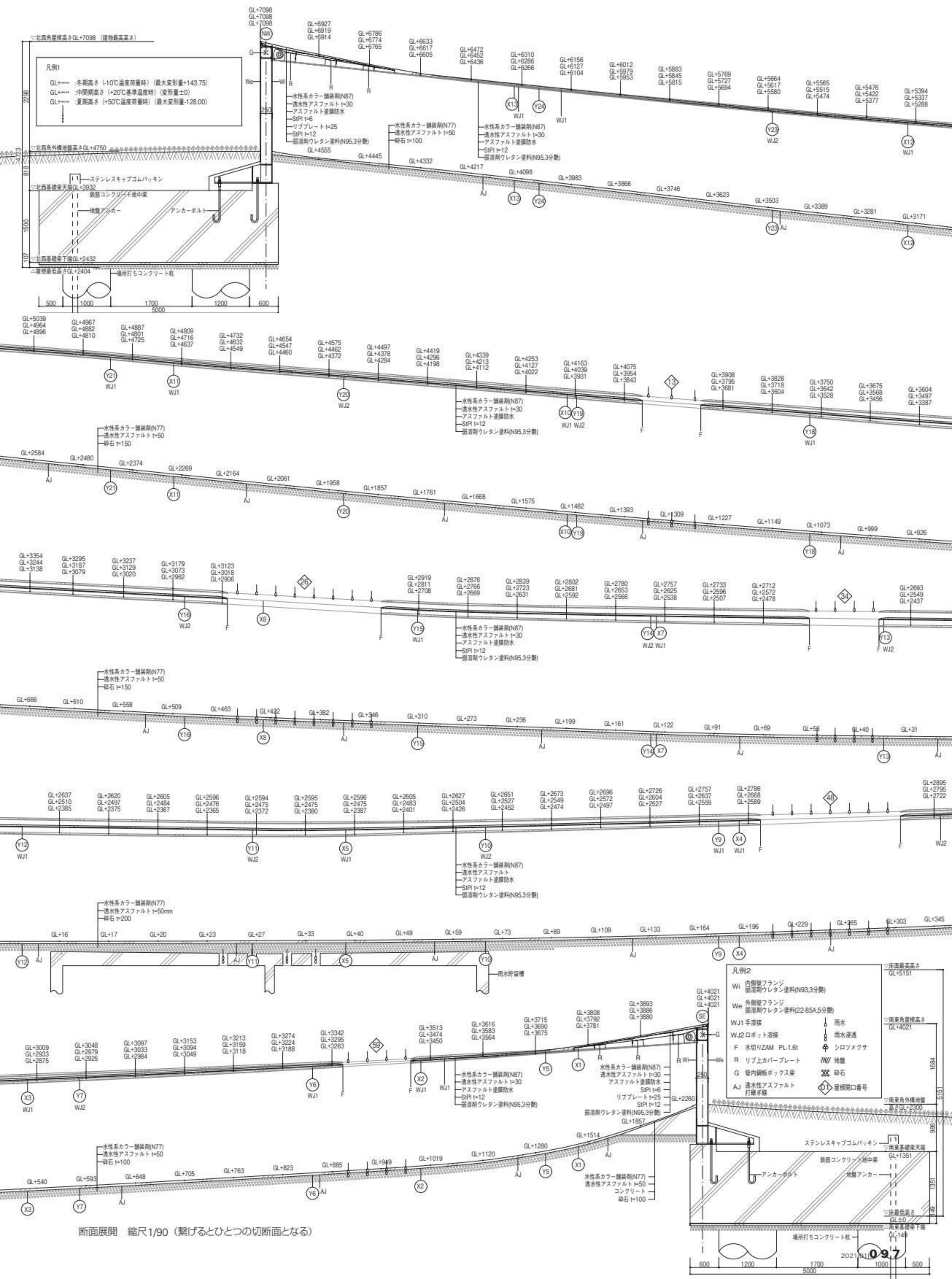


平面＋基礎伏せ（94頁） 縮尺1/240
構造屋根伏図（95頁） 縮尺1/240



設計　建築　石上純也建築設計事務所
　　構造　佐藤淳構造設計事務所
　　構造基本計画　小西泰孝建築構造設計
　　設備　高砂熱学工業横浜支店
　　電気　きんでん横浜支社
施工　鹿島建設横浜支店
敷地面積　129,335.04m²
建築面積　4,109.78m²
延床面積　1,376.42m²
階数　地上1階／構造　鉄骨造
工期　2019年4月～2020年12月
撮影　新建築社写真部（データシート198頁）

北面開口部より広場を見る．幅3,800～5,000mm，高さ1,400mmの地中梁に厚さ250mmの鋼製壁を固定．地中梁は場所打ち杭と地盤アンカーで支持地盤に達する．壁と屋根はピン接合のため，温度変化による屋根鉄板の熱収縮はピンが回転することにより追従をする．



断面展開　縮尺1/90（繋げるとひとつの切断面となる）

広場夕景．光のうつろいで内部の風景が変化する．

白井屋ホテル

設計　藤本壮介建築設計事務所

施工　冬木工業

所在地　群馬県前橋市

SHIROIYA HOTEL
architects: SOU FUJIMOTO ARCHITECTS

群馬県前橋市に建つ創業300年の旅館を，本館の改修と新館の建設により，客室25室のホテルとして再生した．馬場川通りに面した新館は緑の丘状で，施設の一部のヴォリュームが立ち上がる．

新館と本館は敷地の高低差を生かしたスロープと階段で繋ぎ，回遊性を高めた．新館頂上の小屋には，宮島達男氏の作品が展示される．

本館2階より南を見る．既存の柱梁はそのまま残し，壁や床，窓の一部を減築・増設した．吹き抜けには，空間を縫うようにレアンドロ・エルリッヒ氏による「Lighting Pipes」や安東陽子氏デザインのカーテンを設置．本館の客室は17室で，すべての部屋にアート作品が設えられる．

1階の階段より見る．最大4層の吹き抜けが連なり，トップライトから採光する．

1階ラウンジ．植栽は高木と低木を入り混ぜて配置．1階の階高は4,720mm.

4階より見下ろす.

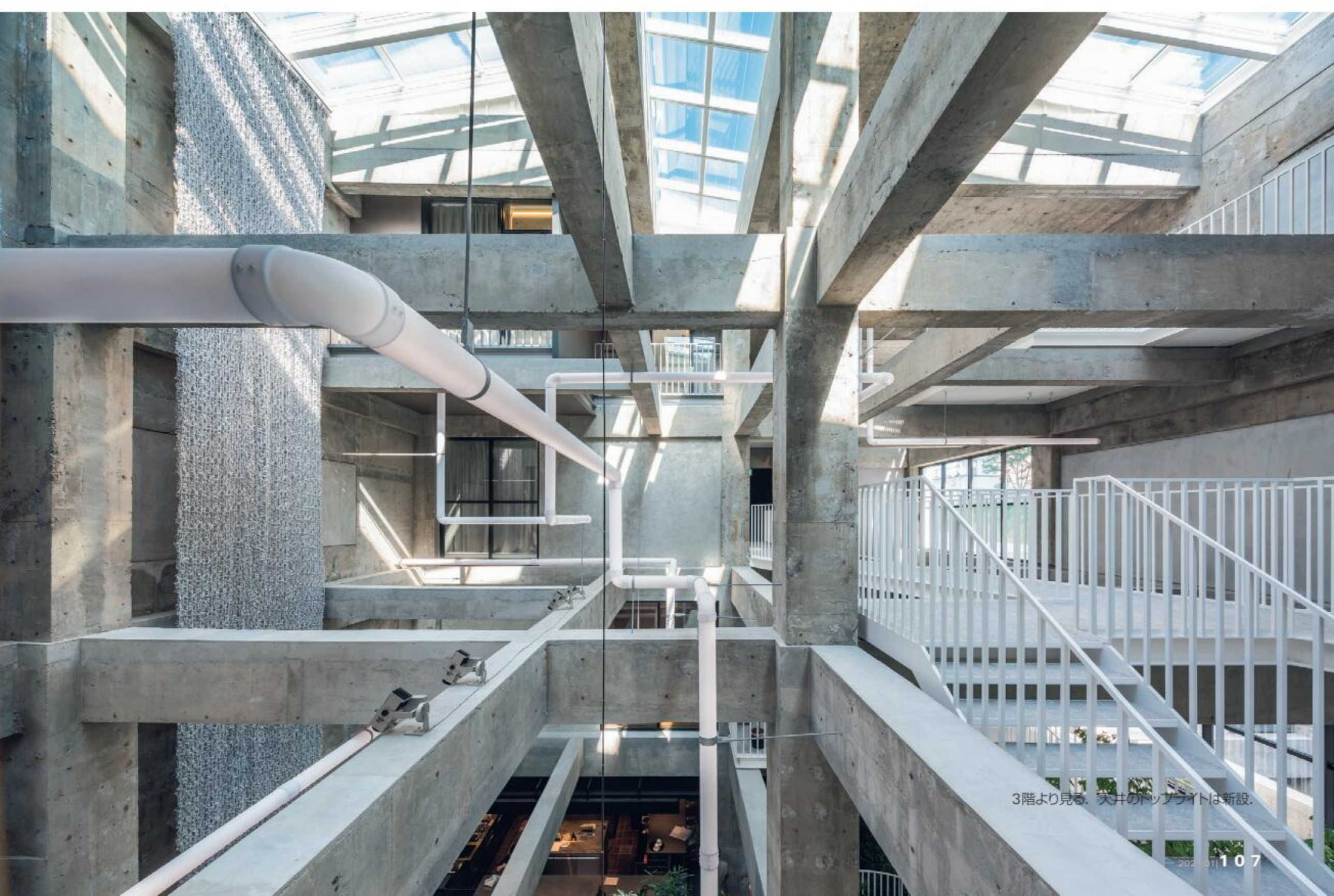
1階にはレセプション，レストラン，ラウンジを設置.

2階吹き抜けに面するジャスパー・モリソン氏設計の客室.

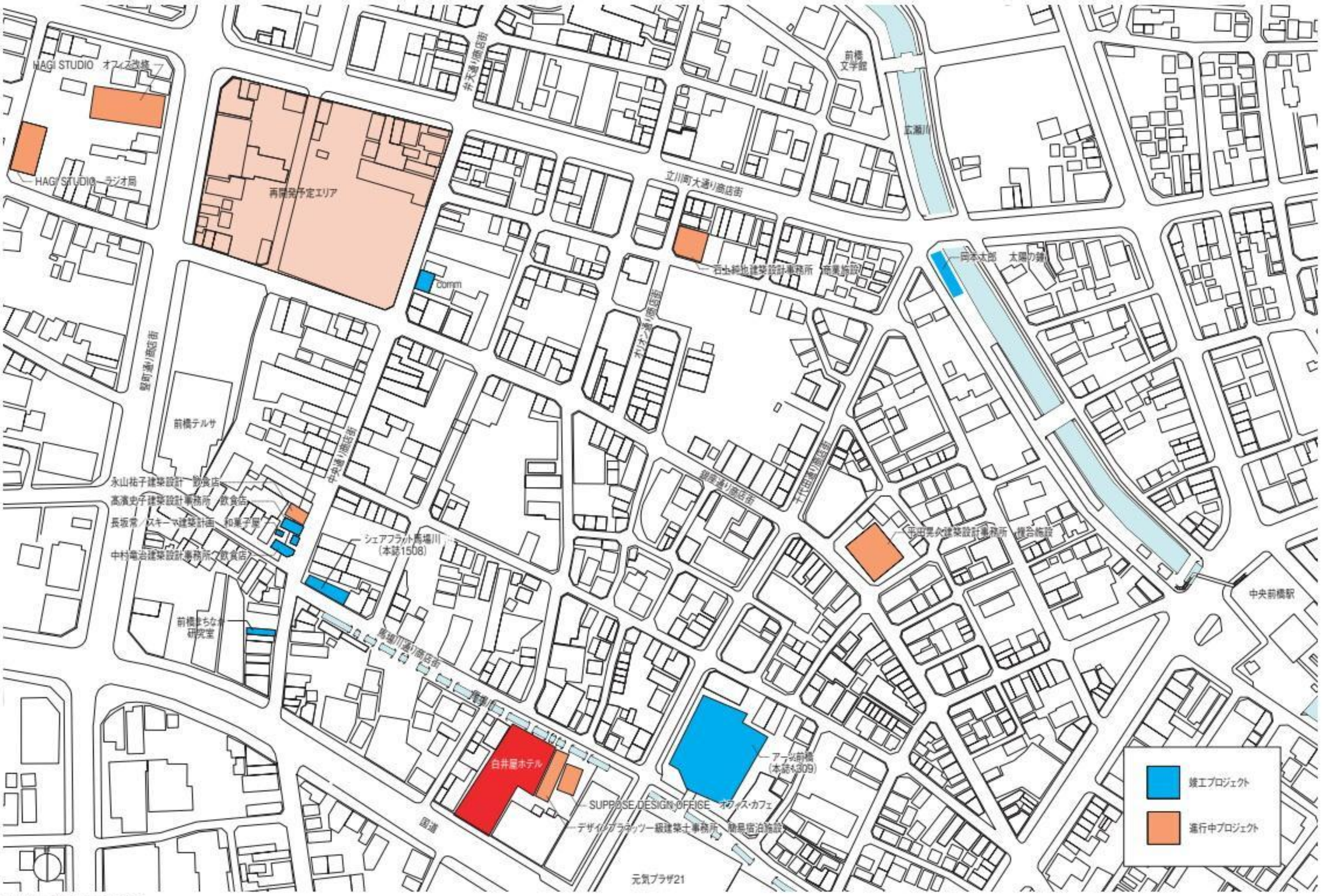
藤本壮介氏設計の客室.

ミケーレ・デ・ルッキ氏設計の客室. 壁は約3,000枚の板葺き仕上げ.

アンドロ・エルリッヒ氏設計の客室. 吹き抜けに設置した作品と同様に、水道管を模したパイプが部屋中に張り巡らされる.



3階より見る. 天井のトップライトは新設.

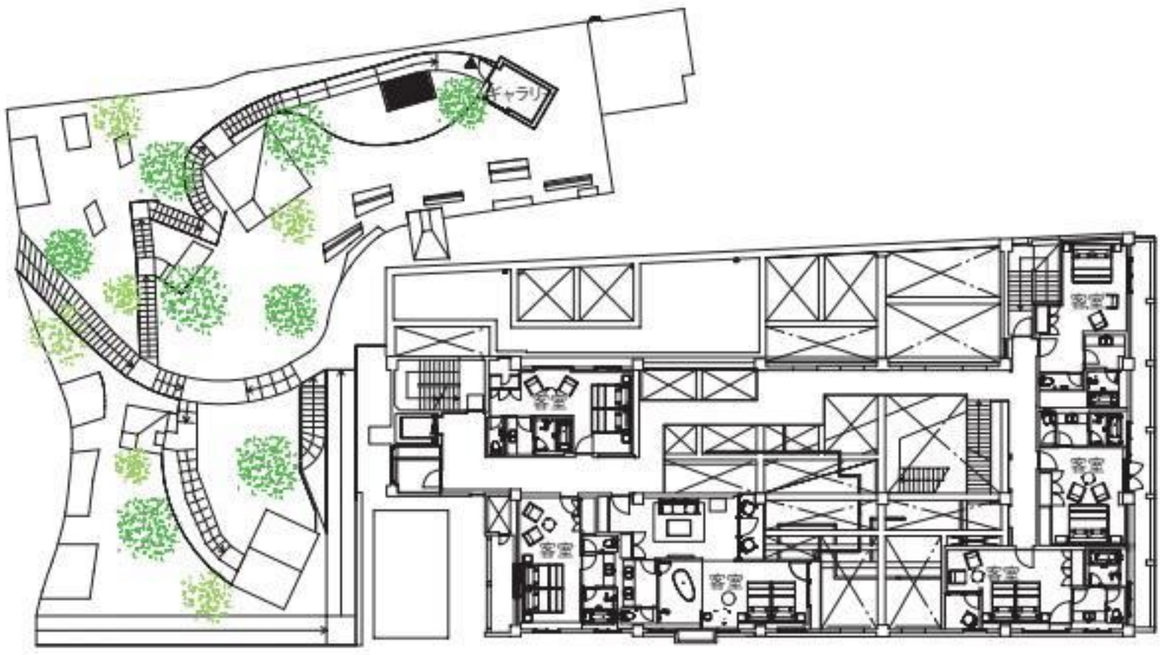


配置　縮尺1/3,500

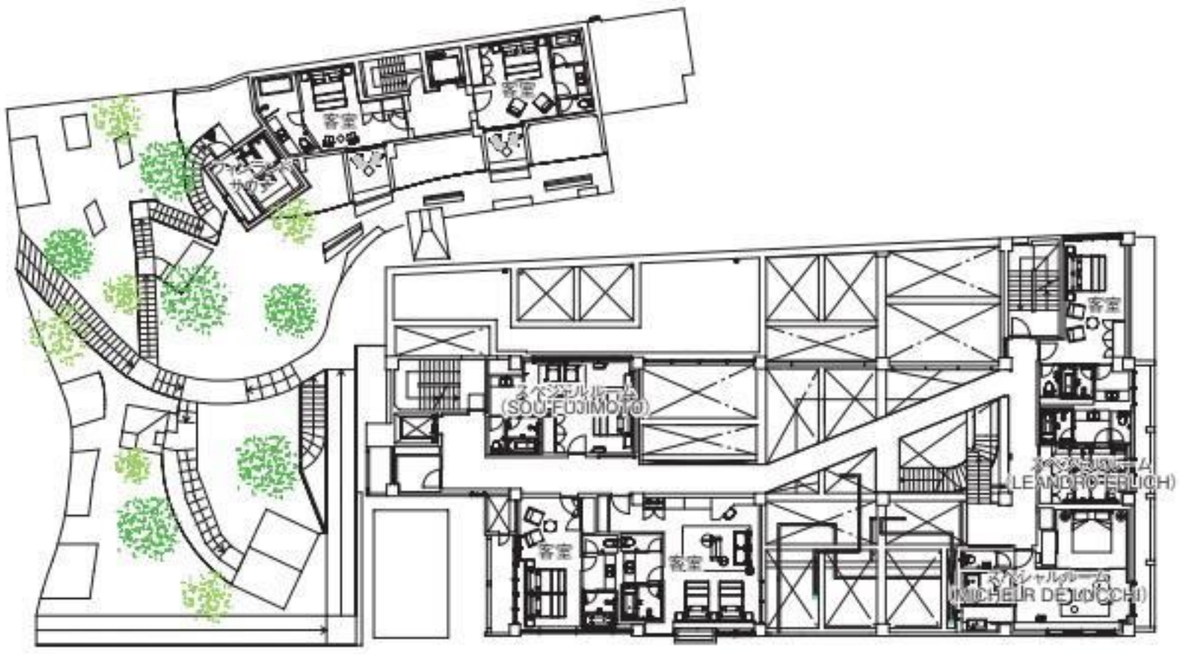
馬場川通りより見る新館外観.

北西より見る.

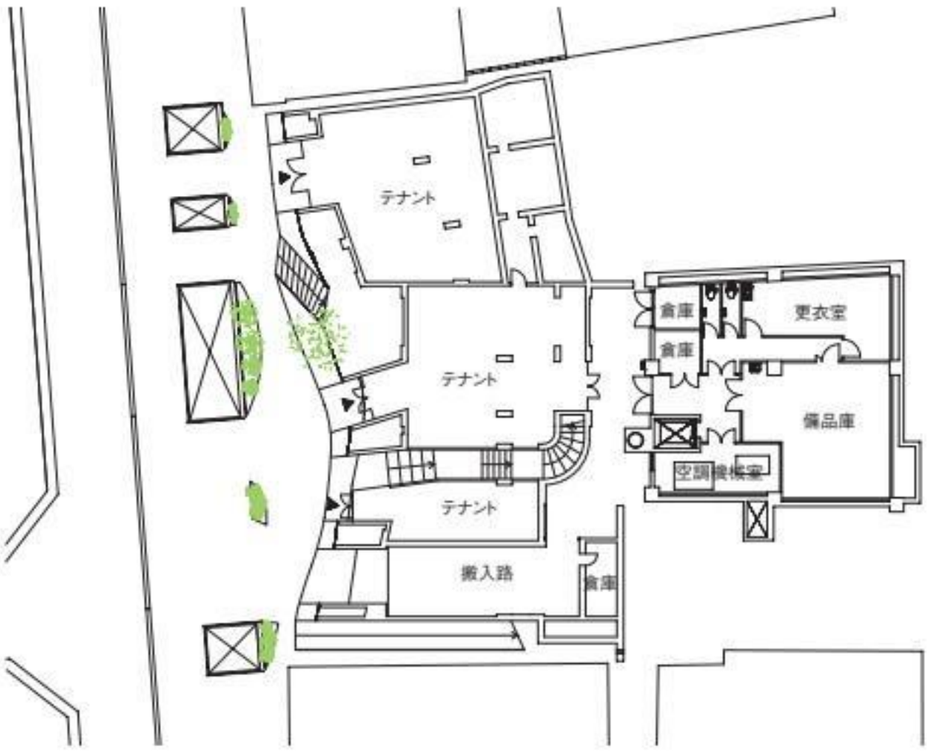
馬場川通りより見る改修前外観.



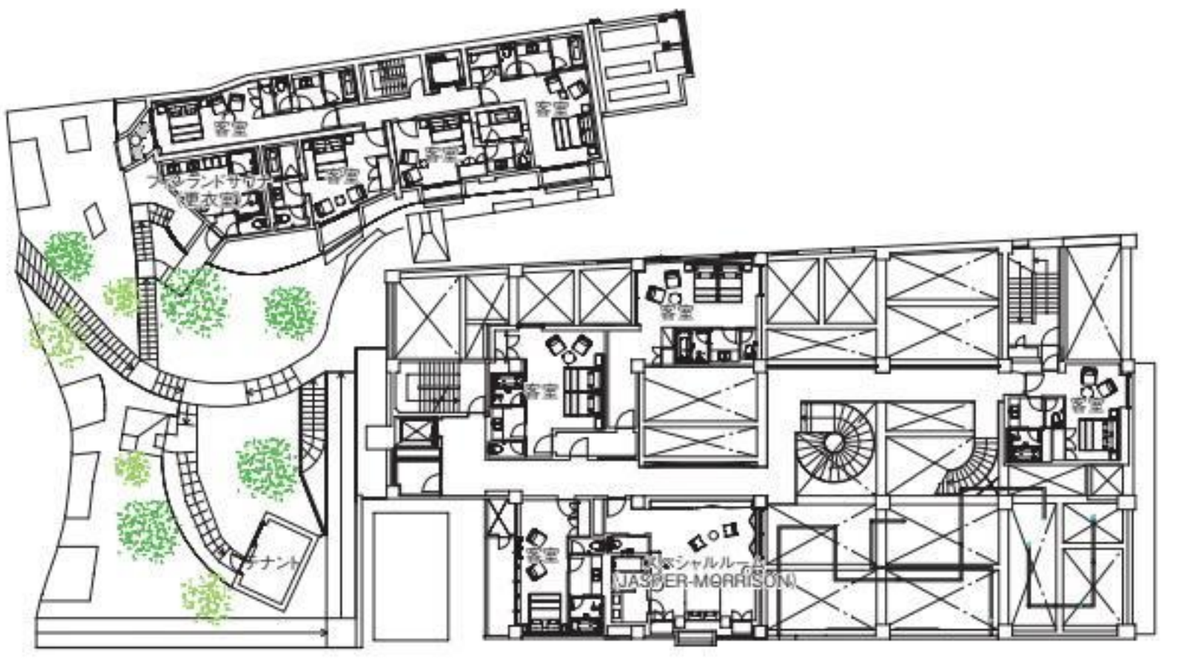
4階平面



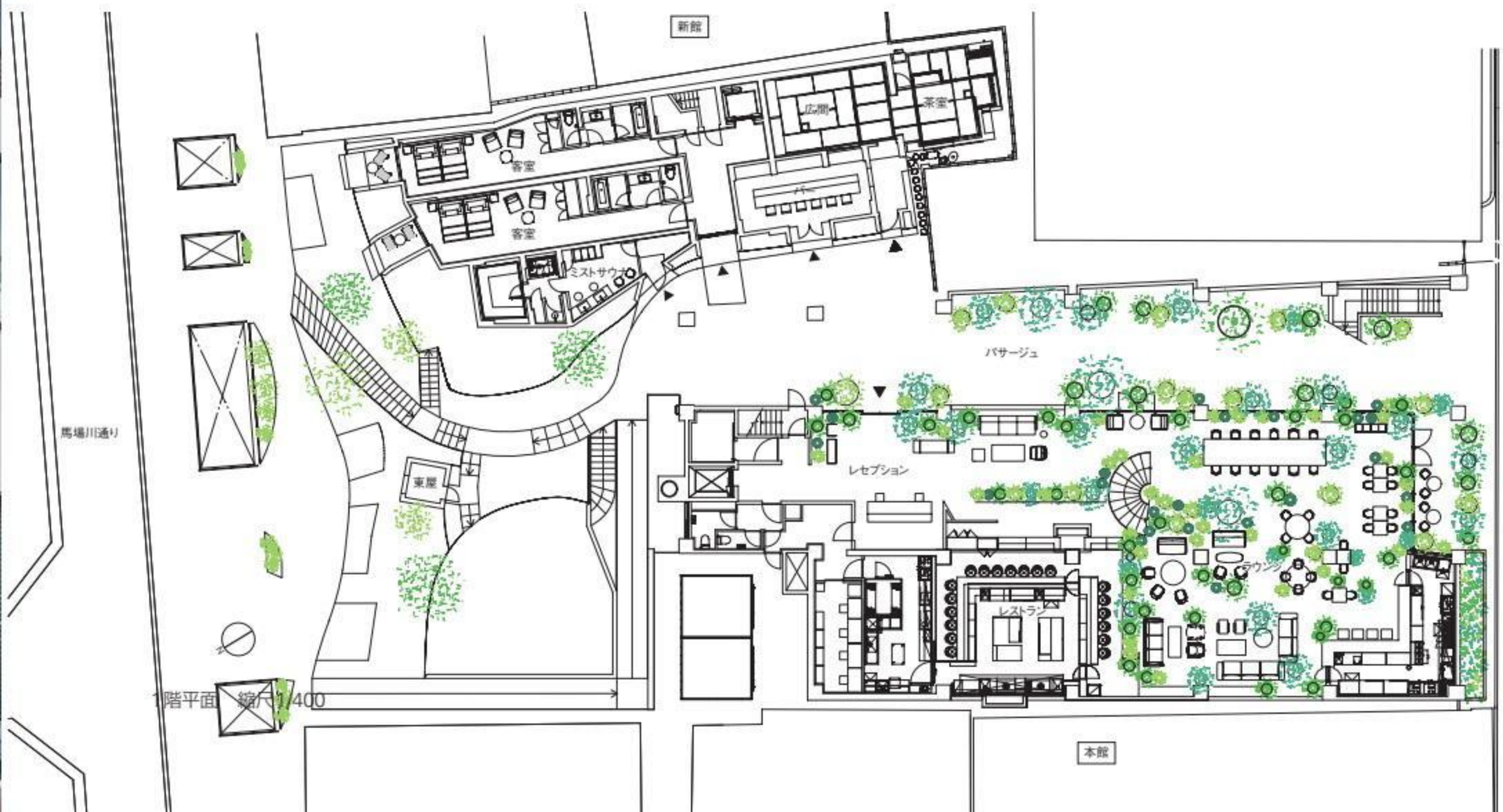
3階平面



地下1階平面　縮尺1/600



2階平面



1階平面　縮尺1/400

国道より見る本館外観．外壁には，ローレンス・ウィナー氏による作品を配置．

元もと裏動線として使われていた，新館と本館の間のパサージュ．本館のレセプションや新館のバーが面する．

立体的な道空間を内包させてつくる場所

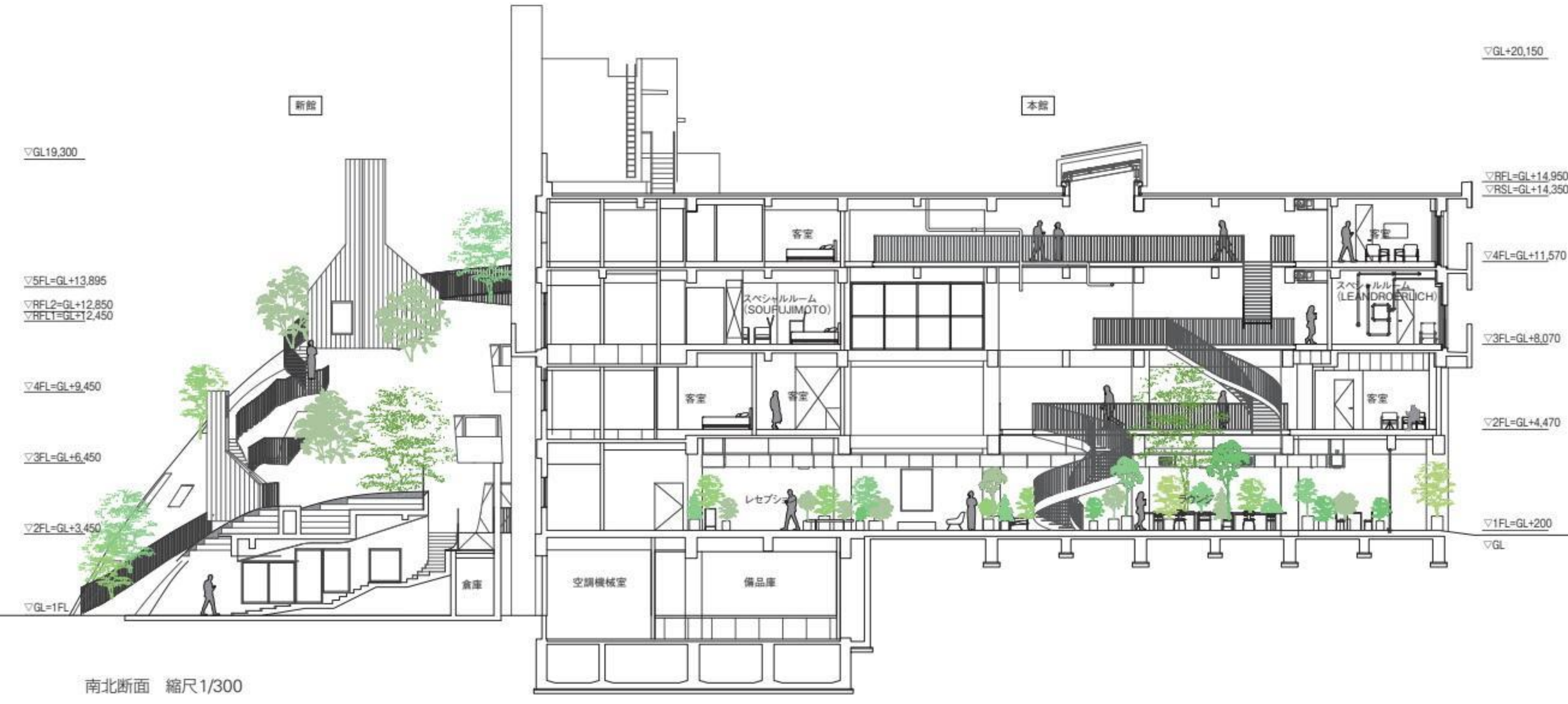
群馬県前橋市の中心市街地に建つ，かつて老舗旅館だった建物を再生して街の活性化に繋げるプロジェクト．鉄筋コンクリート造4階建ての本館の改修と，隣地に新館の新築を行った．

本館の改修では，既存の建物の床を4層にわたって解体し，内部に巨大な吹き抜けをつくっている．吹き抜け1階のラウンジは，正面の国道側から背後の馬場川通り側へ通り抜けできる外部通路に面しており，街路空間と連続した誰もが気軽に入ることができる街のリビングのような場所である．そこでは，アート，植栽，家具，カーテン，階段といった多種多様なものが共存しており，さまざまな人びとが出会い，集うことのできる場が生まれている．吹き抜け内部の階段，ブリッジを登っていけば，視点の高さや体の向きによってさまざまに空間が変化，伸縮し，さらに四方八方に重なり合い，都市を巡る道空間の体験が連続的かつ立体的に吹き抜け上部まで繋がっていく．この吹き抜け空間は，街と連続する道空間が内包された立体的な都市空間であると同時に，多様な人やモノ，活動を受け入れることのできる都市的なスケールを持つ内部化された「街の部屋」のような広場である．

本館の隣に建つ新館の敷地は，かつて利根川の支流の河岸段丘だったところで，正面の国道側とはちょうど1層分ほどの高低差があった．そこで，前橋のまちのビジョン「めぶく．」にも共鳴するような緑化された土手をつくることで，高低差を解消して国道側から背後の馬場川通り側へ誰でも通り抜けできるようにしている．土手は，道空間が立体的かつ面的に拡張された新たな都市空間であり，街路の拡張でありながら曲面によって包まれるような空間性も併せ持ち，本館と新旧・内外・都市建築といった反転を伴って対をなす．

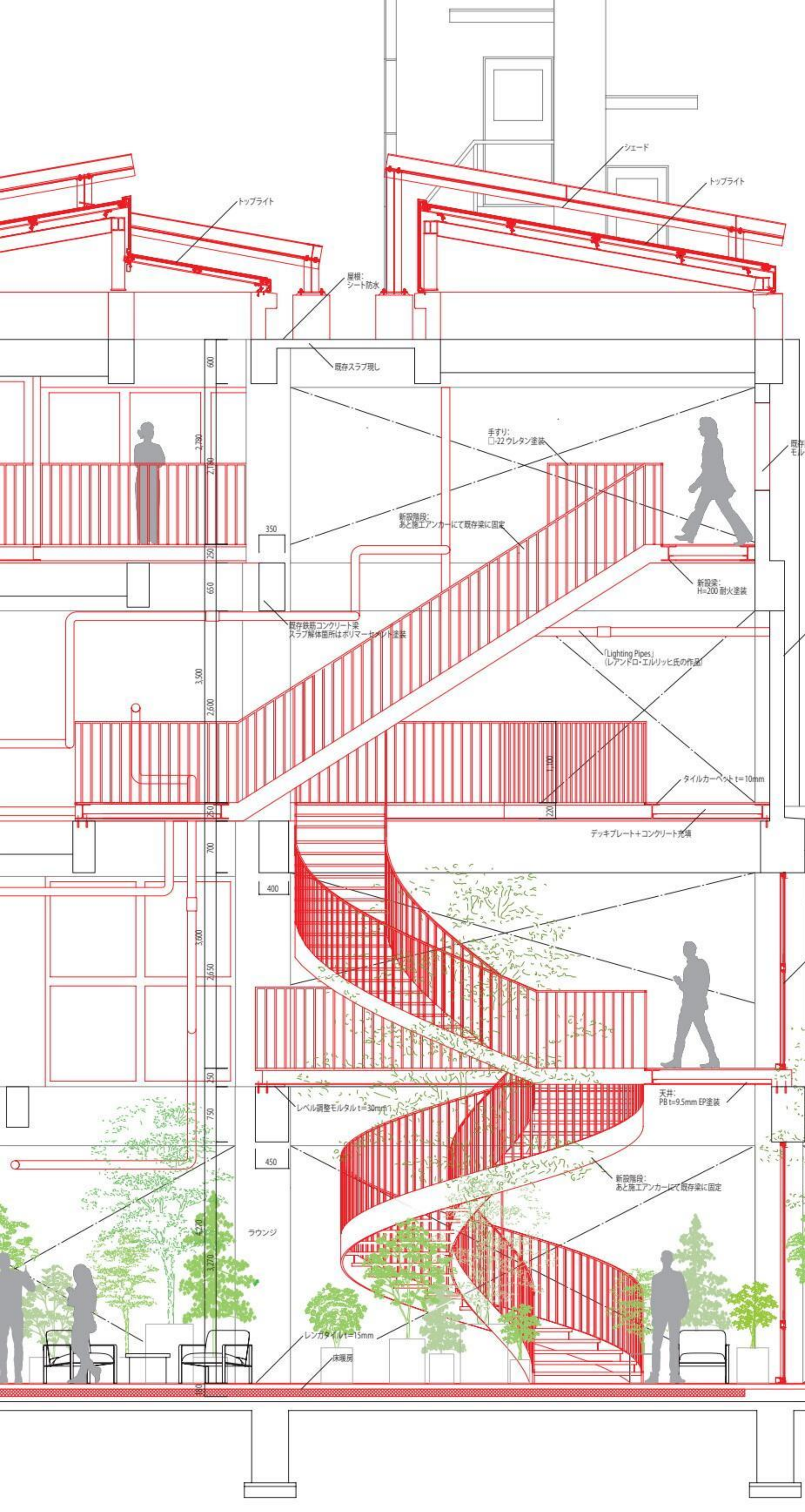
白井屋のプロジェクトが進むにつれ，少しずつ前橋の街が変わり始め，街の変化に巻き込まれるように白井屋も変化していった．都市と建築とランドスケープが混ざり合って生まれたこの場所が，これからも前橋の街とともに変化し，互いに影響を与え合いながら，街の未来をつくっていくことを願っている．

（藤本壮介）



南北断面　縮尺1/300

設計　建築　藤本壮介建築設計事務所
　　構造・設備　石井設計
施工　冬木工業
敷地面積　本館：　812.98m^2　新館：778.08m^2
建築面積　本館：　713.53m^2　新館：610.86m^2
延床面積　本館：1,744.52m^2　新館：820.94m^2
階数　本館：地下1階　地上4階　新館：地上5階
構造　鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
工期　2017年8月～ 2020年5月
撮影　新建築社写真部（特記を除く）
（データシート200頁）



断面詳細　縮尺1/70

YUBUNE（1階）

設計　西沢立衛建築設計事務所
施工　ルーツ
所在地　東京都新宿区
YUBUNE（1F）
architects: OFFICE OF RYUE NISHIZAWA

アクリル越しに南側エントランス、商品棚方向を見る．1968年に建てられた第二スカイビル（設計：渡邊洋治）に入居する店舗1階の内装．以前の内装を剥がして現れた壁や床の仕上げを生かし，透明フィルムを貼ったアクリルのパーティションを設置した．

エントランス越しに見る．1階の天井高は4,900mm．アクリルの高さは2,900mm．光を虹色に反射する透明フィルムを貼っている．

アクリル越しに地下1階に下りる階段方向を見る．展示台とスツールも西沢立衛建築設計事務所によるデザイン．

既存の躯体や手摺り，設備は白く塗装．

インテリアと都市への現れ

化粧品ブランド「YUBUNE」のカフェ兼店舗の1階部分の内装プロジェクトである．計画するのは渡邊洋治氏（1923～83年）設計の第二スカイビルの一室であった．約52年前に建てられたこの建物は，新宿の靖国通りに面した賑やかな場所にあり，耐震改修や修繕工事をしながら大切に維持されていた．

私たちは，建築の特徴を活かしながらも，新しい雰囲気を持った空間となることを目指した．また，インテリア空間を考えると同時に，大通りからどう見えるか，という都市の中での現れ方を考えた．

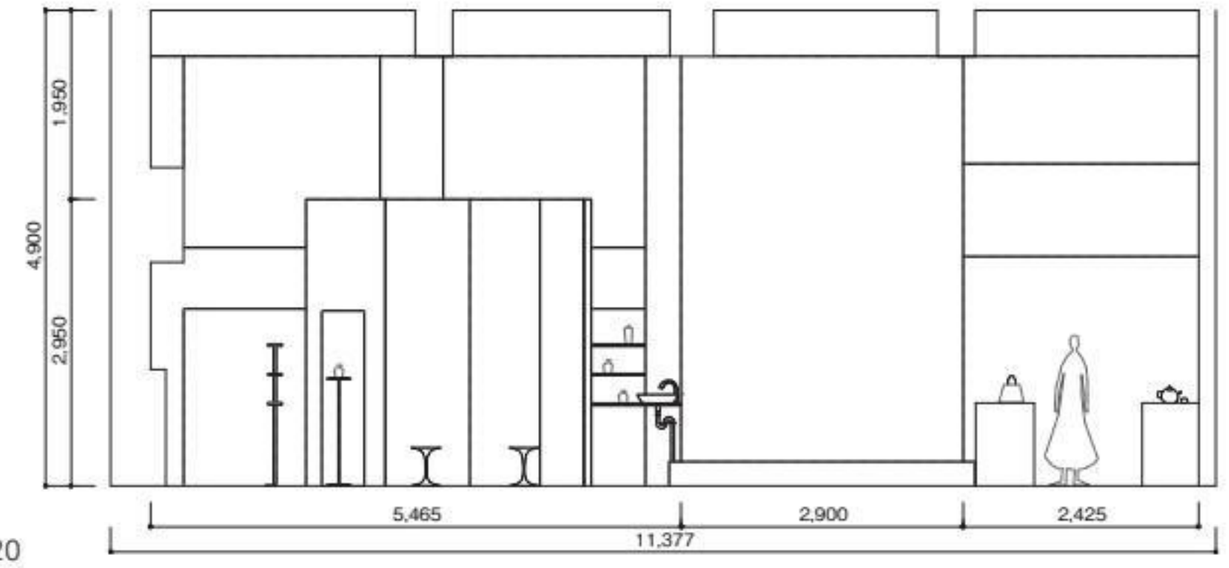
1階の一室空間は天井高が約5mあり，雁行した南向きの3つの大きな窓から光が差す明るい空間であった．また平面の中心には螺旋階段のコアがあり，そのカーブした壁が特徴的であった．部屋の仕上げは，壁には躯体が現しの箇所や以前の仕上げを剥がした跡があり，その質感を残しながら白く塗装した．床は設計当時のテラゾー仕上げを補修して活かすこととした．

店舗空間には高さ約3mのカーブした透明のアクリルパーティションをおいて，動線・展示スペース・休憩スペースといった緩やかな秩序をつくった．用途に合わせた大きさのカーブが店舗空間いっぱいに広がり，また通り抜けられる穴が空いていることで，全体を巡ることができる．アクリルにはブランドの商品ラベルに使われている透明なフィルムが貼ってあり，光を虹色に反射する．朝夕の時間の変化や，アクリルの層の重なりによって，色・透明感・反射・ゆがみなどの見え方が変化する．

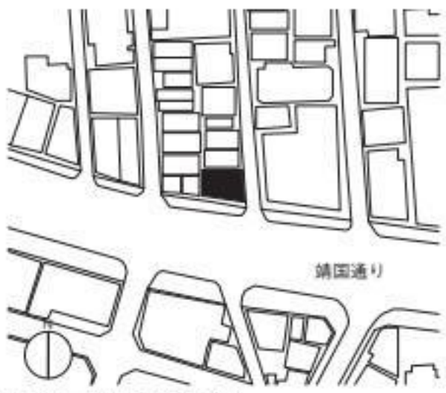
背の高いパーティションは，小さいながらも開放的で回遊性のある店舗空間をつくり，人びとは商品を眺めたり，座って休んだり，自由に過ごすことができる．また，透明なカーブするアクリルは，大通りに対して，店舗内の白い壁に沿って並ぶカラフルな商品やそこで過ごす人びとの様子をにじみ出すように現し，同時に室内にも外の風景が映り込んでくる．内装設計でありながらも，それ自体にとどまらず，都市の中で魅力的に存在できるものを目指している．

（植田有紗／西沢立衛建築設計事務所）

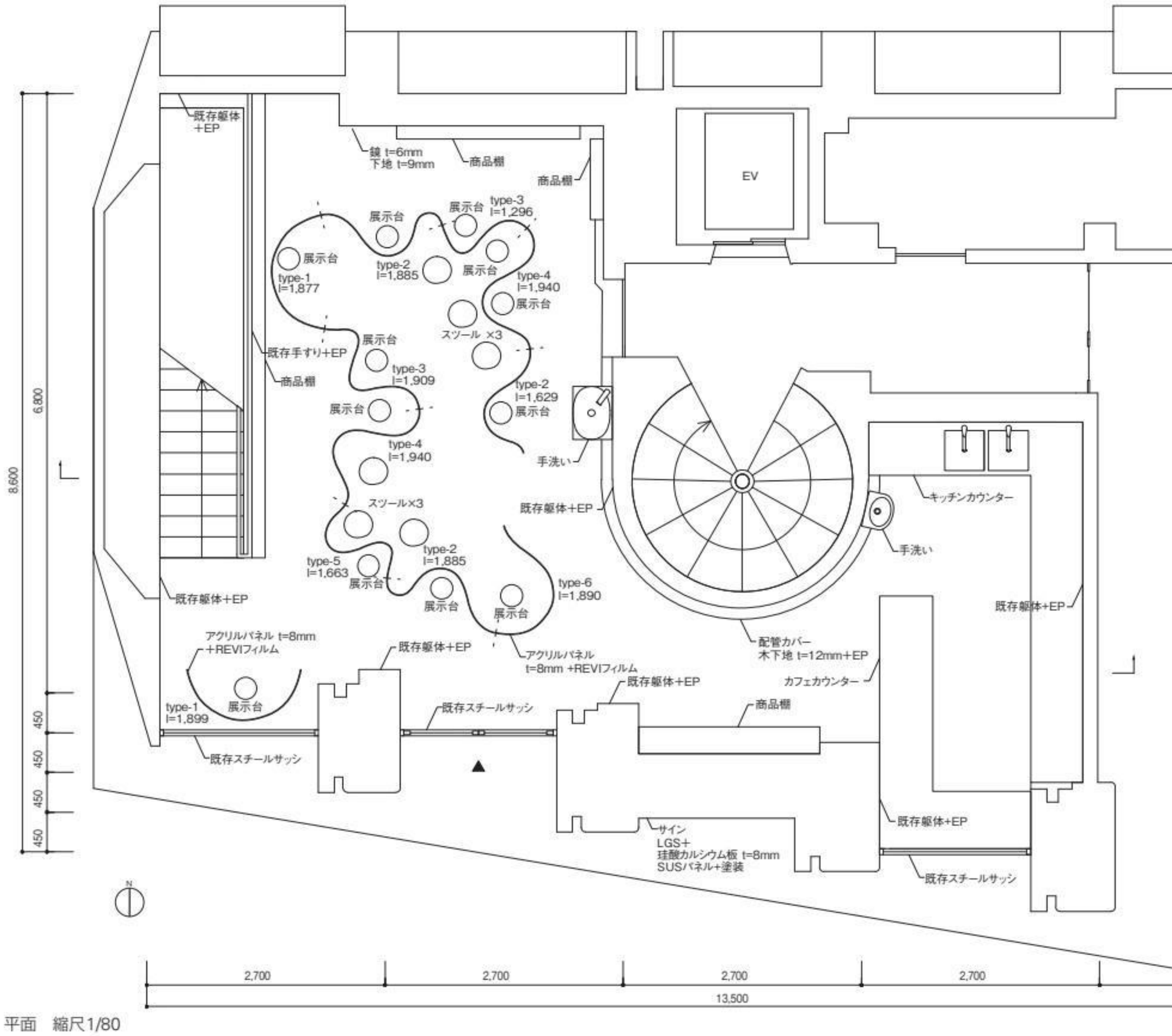
靖国通り沿いの南外観．



東西断面　縮尺1/120



配置　縮尺1/4,000



平面　縮尺1/80

設計　建築　西沢立衛建築設計事務所
　　構造協力　小山内博樹
施工　ルーツ
延床面積　50.3m²
階数　地上1階
　　（建物全体：地下1階　地下10階）
構造　鉄筋コンクリート造
工期　2020年7月～ 2020年9月
撮影　新建築社写真部
（データシート200頁）

階段上部より見る．中心にある既存階段の円弧状の壁面を手掛かりにアクリルや通り抜けの穴の配置を決定．既存階段の裏にはキッチンを配置．

通りから見る店舗夕景．サッシは既存．

三栄建設 鉄構事業本部新事務所

設計施工　竹中工務店

所在地　大阪府大阪市大正区

"STEEL NEST" SANEI CONSTRUCTION STEEL STRUCTURE DIVISION NEW OFFICE
architects: TAKENAKA CORPORATION

立体ボロノイを採用することで室同士の立体的，多面的な関係性をつくり，部署ごとのコミュニケーションの活性化が起こる空間を目指した．立体ボロノイはφ=318.5mmの鉄のフレームで構成することで，鉄骨ファブリケーターであるクライアントの技術を見せる「鉄のショールーム」となることが意図された．

設計施工　竹中工務店
敷地面積　95,156.50m²
建築面積　2,103.10m²（今回計画分）
延床面積　4,710.55m²（今回計画分）
階数　地上3階
構造　鉄骨造
工期　2018年11月～2020年4月（I期：建屋）
　　2020年4月～ 10月（II期：外構（既存解体含む））
撮影　新建築社写真部
（データシート200頁）

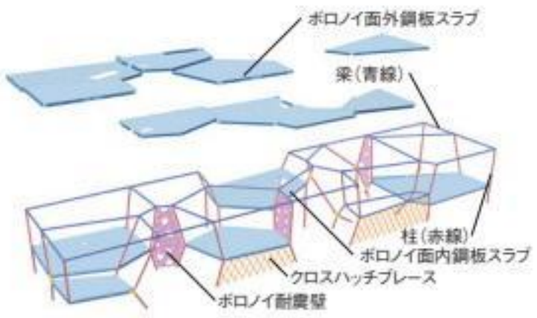
従業員エントランス西側夜景．接合部にピン接合と剛接合が混在することを感じさせないようシームレスな柱梁フレームとし，400mmせいのH形鋼を内蔵した鋼板スラブを支持．正面3階のスタジオ床は吊られており，TMD（制振装置）を併用して最大約20mスパンを飛ばす．

2階コミュニケーションエリア.

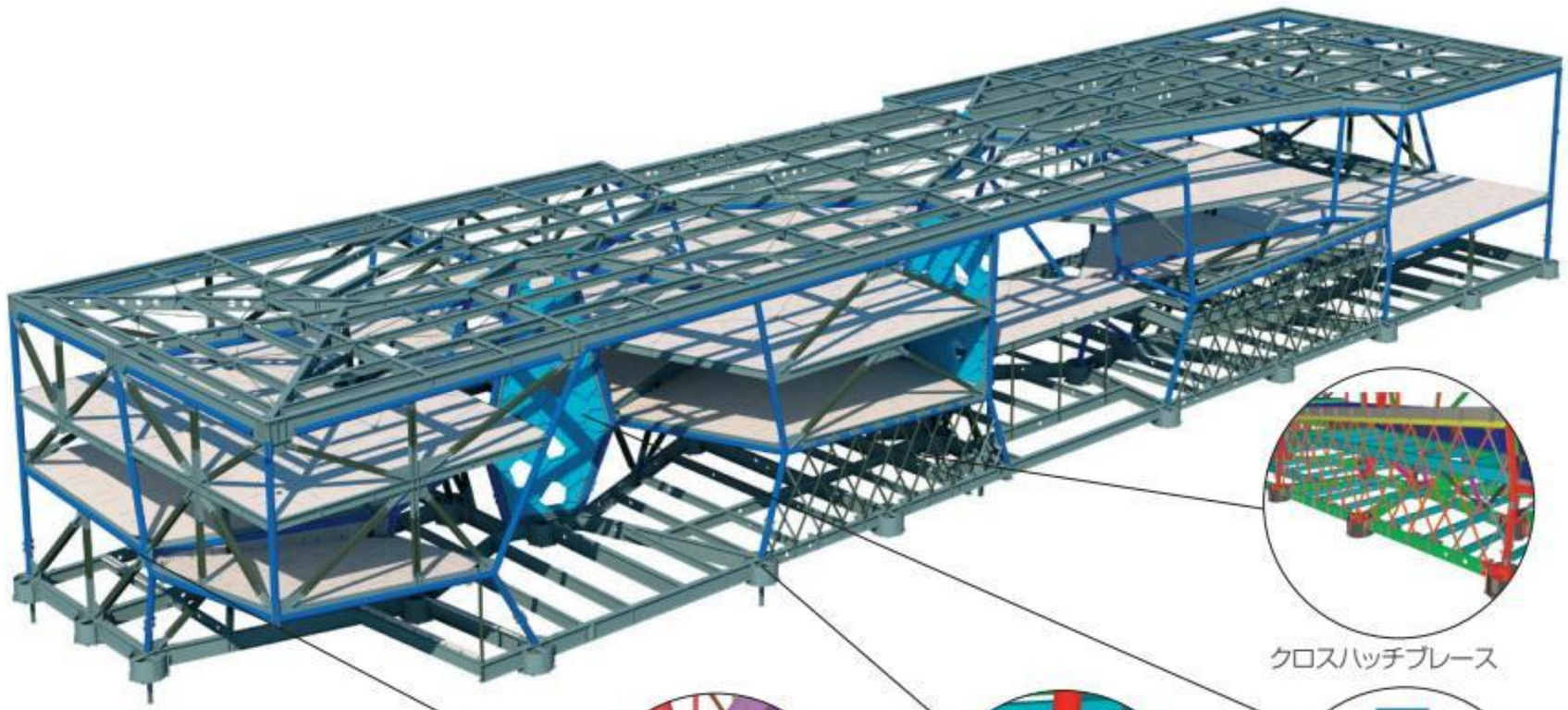
1階従業員エントランス.

コミュニケーションエリアを見下ろす.

■コンピュテーショルデザインによる最適化検証



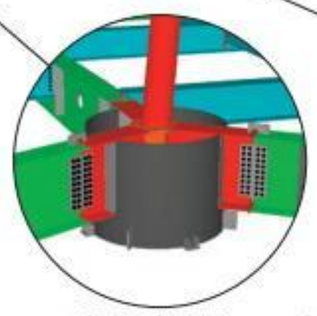
構造概略図



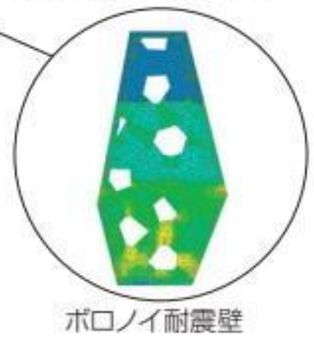
構造モデル
敷地内に工場があることを活かして部材を大型化し，部材角度を高い精度で実現した．

クロスハッチブレース

柱・梁接合部 鋳鋼



コンパクトパイルキャップ
＋鉄骨基礎

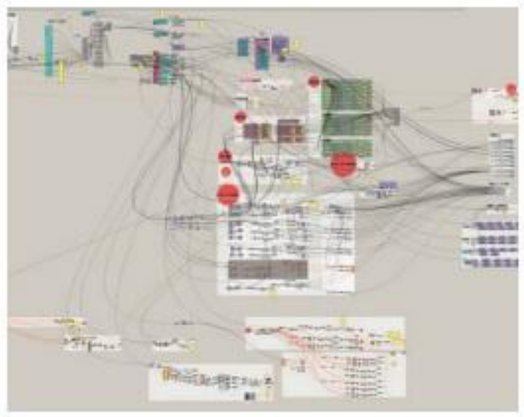


ボロノイ耐震壁

立体ボロノイで魅せる架構を

立体ボロノイをϕ=318.5mmの鉄のフレームで構築する合理的な架構システムを創出した．架構の構成要素は，ボロノイ空間の分割線を構築する「ボロノイフレーム」となる柱・梁，その面内に配置される「ボロノイ面要素」の鋼板スラブ・ボロノイ耐震壁，そのどちらでもない「その他要素」であるボロノイ面外スラブの3種類に分類される．柱梁の接合には主にピン接合を採用し，鋳鋼による剛接合箇所を限定して繊細なフレームを実現した．設計段階からBIMモデルを共有し，プランニングや構造解析に利用することはもちろん，設計，作業所，そして建築主である鉄骨ファブが協業し，施工性も含めた詳細をつくり込み，その結果をモデルに反映し製作に活用した．データを活用することでフレーム小口の複雑な曲線加工を自動切断で行うなど，容易かつ高精度な部材加工が可能となるが，部材の組立過程においては職人の手作業が必要となる．その高い技術力と，立地を活かした部材の大型化などの工夫により，円滑で精度の高い鉄骨架構が実現した．

（大野正人＋田中盛志）

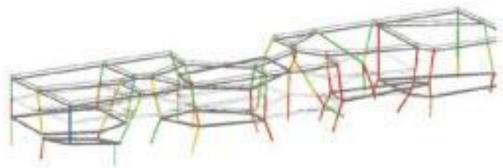


アルゴリズムを用いたパラメトリックスタディ

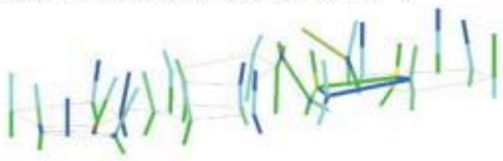
ボロノイ基準点の座標を変数，構造の最大スパンや階高，室面積を制約条件，評価軸とし，Rhinoceros＋Grasshopperにて10,000通りの形状を検討し最適な形状を創出．

基準3Dモデルの作成

基本設計中に各所の納まりを検討し設計密度をあげた標準となる3Dモデルを作成．パース，3Dプリンター模型，VRなどクライアントとの情報共有にも活用．



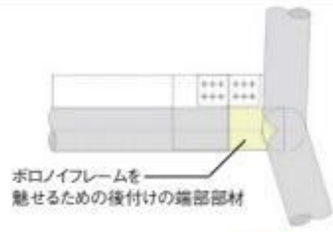
柱梁接合部を剛接合からピン接合へ



構造解析検定比図

BIMモデルから構造計算・解析へ

基準3Dモデルのデータを構造解析ソフトに展開し構造計算・設計を実施．設計結果より梁端部のピン接合と剛接合を配置した．

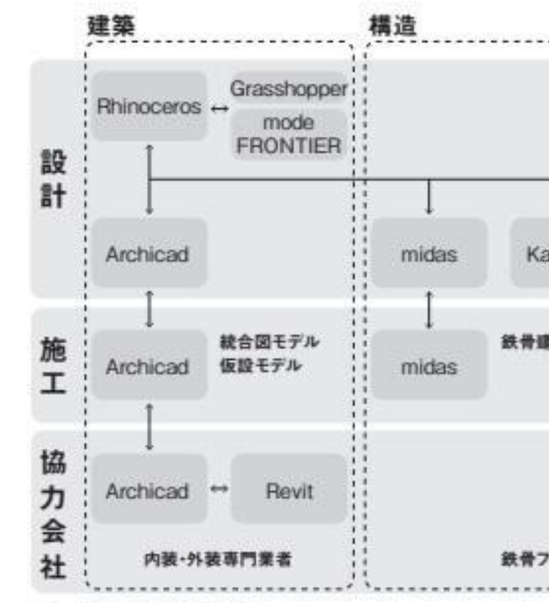


基準3Dモデルから詳細納まりへ

基準3Dモデルデータを展開して，TeklaでBIMモデルを作成．詳細治まりをモデル化した．

基本設計 → 詳細設計 → 施工計画 → 施工図作成 → 工場製作 → 現場建方

プロセスの中でのデータ活用について

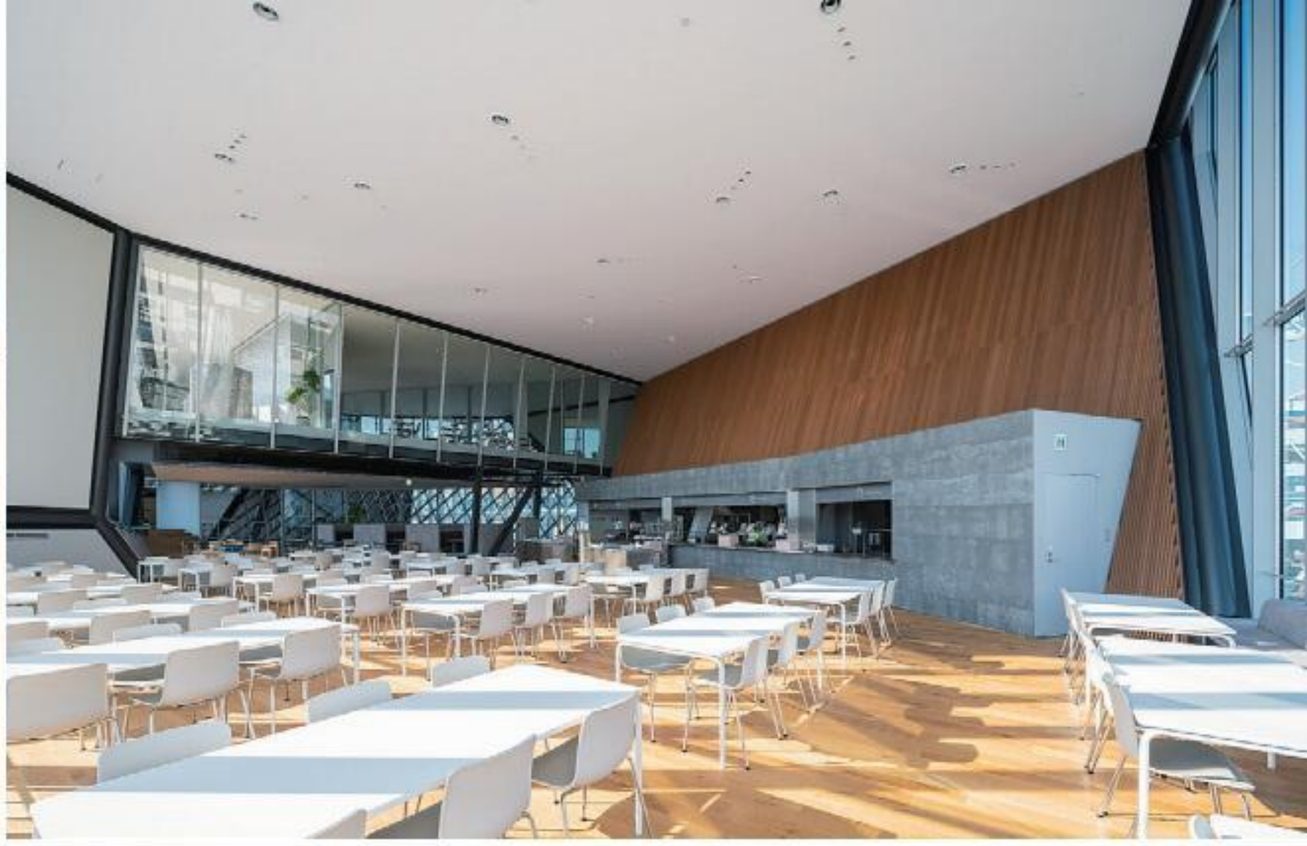


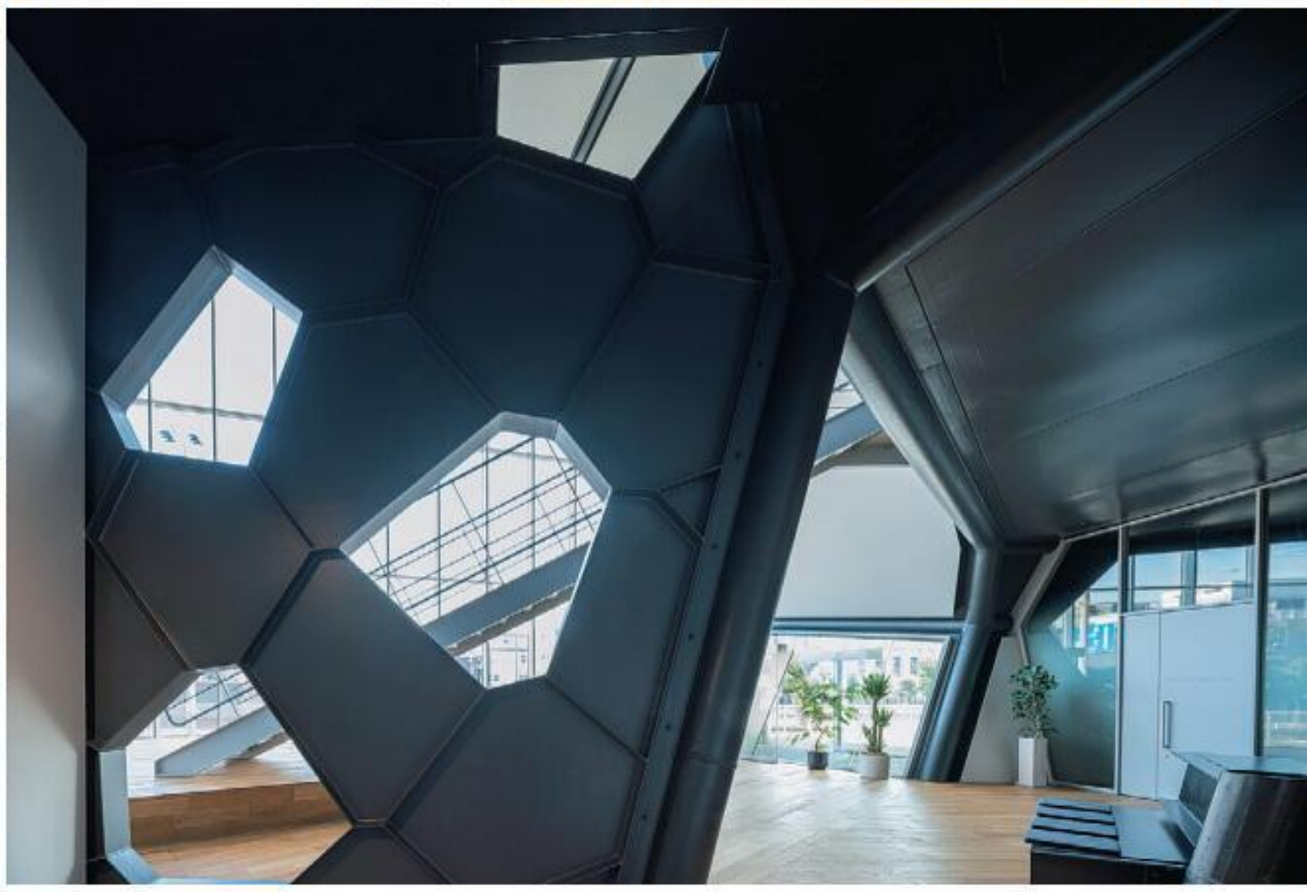
データ連携について

BIMモデルの鉄骨ファブ・施工利用

基準3Dモデルを活用し，3次元曲線の切断小口をデジタルファブリケーションにて実現．また，CAMデータとしてロボット加工にも活用．BIMモデルから管理点を抽出し建方精度管理に活用．

3階から従業員エントランスを見下ろす.

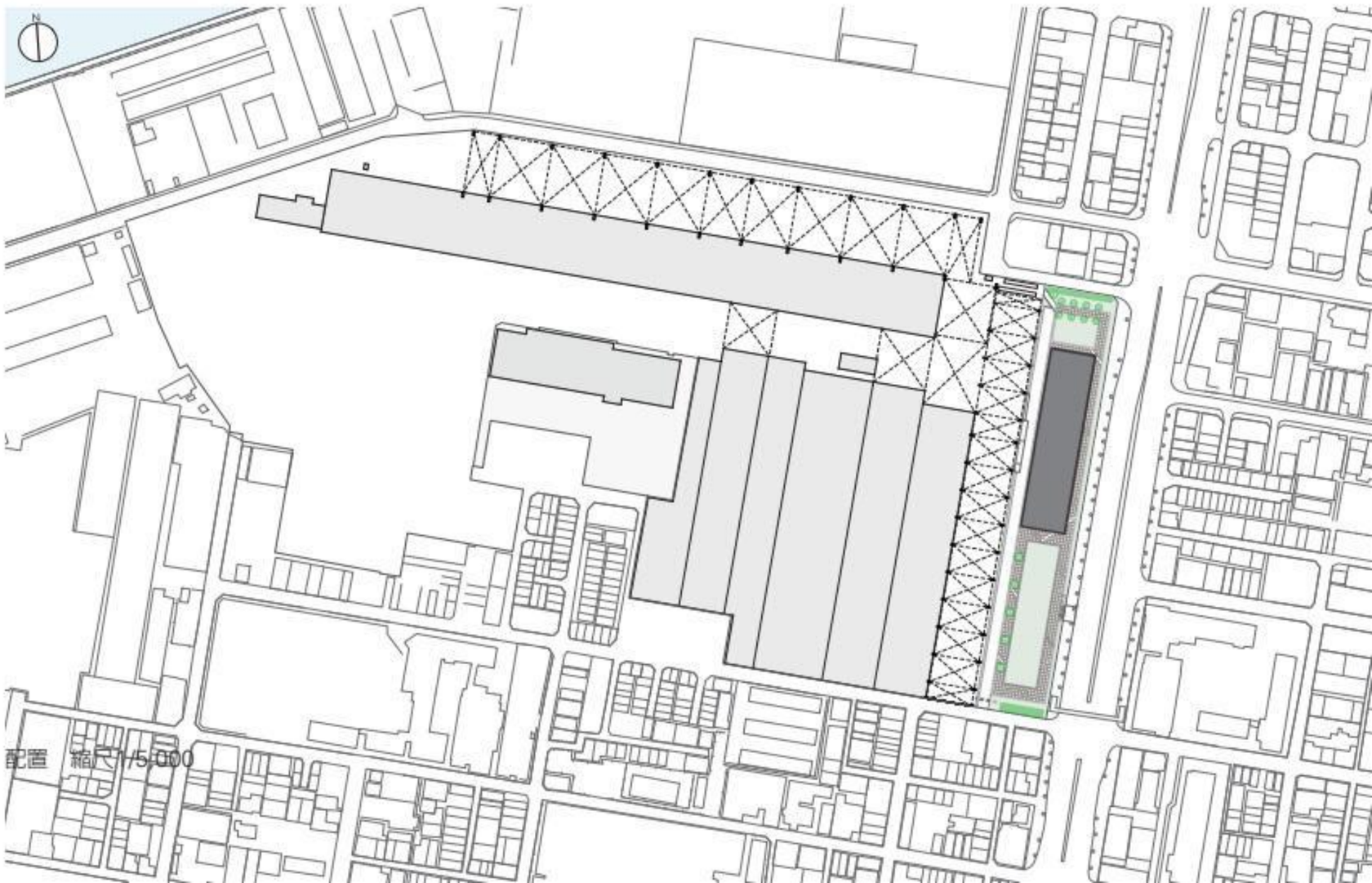


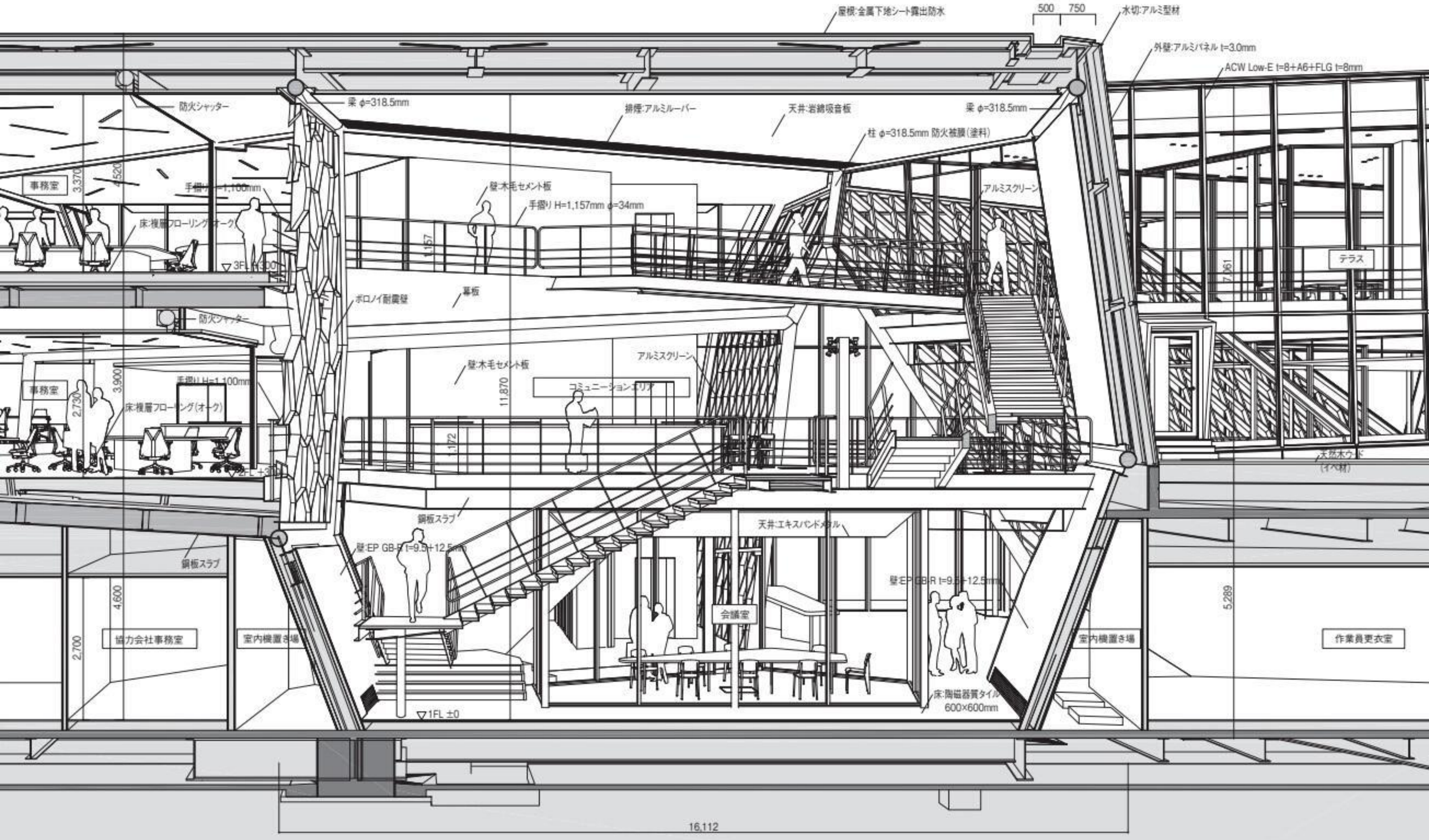


左：2階コミュニケーションエリア．右上：2階食堂．右下：1階エントランスホール．

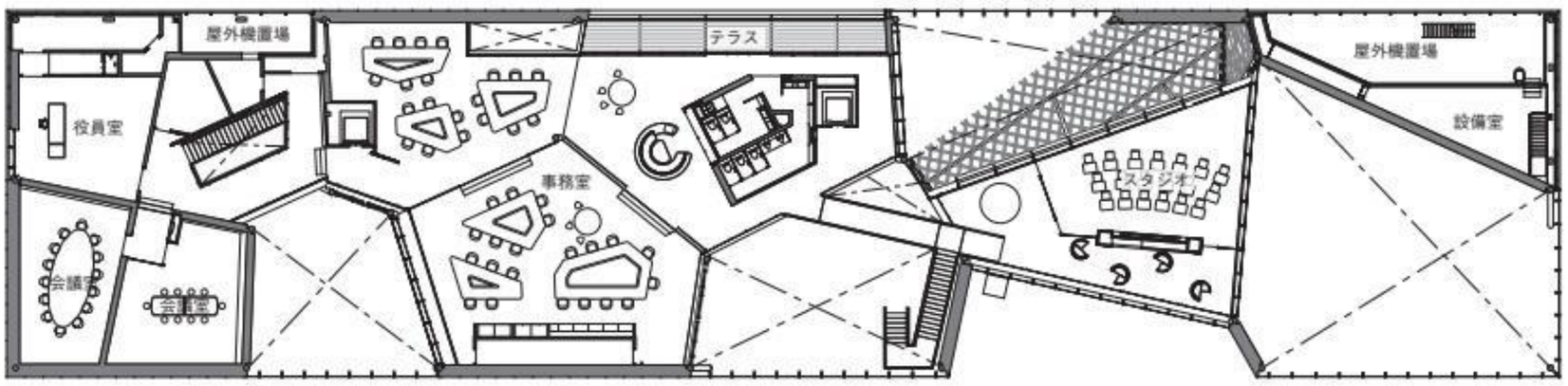
繋がりを生むジオメトリーによる新しい関係性

このプロジェクトは，鉄骨ファブリケーターである建築主が事業拡大に伴い，居抜きで新たな用地（工場と事務所）を取得し，さらなる発展を実現するために事務所を建て替え，その第一歩をつくるというものであった．新しい場所で働く従業員の方々にとって自らの技術力に対する矜持や誇りを持て，拡大した規模にあわせた働き方ができる，魅力ある拠り代をつくり出したいと考えた．われわれが選択したのは，自然界に存在する立体ボロノイというジオメトリーがかたちづくる関係性をそのまま鉄でつくることだった．立体ボロノイは泡がある領域に充填されて拮抗した状態で発生するジオメトリーである．その最大限のボリュームを獲得しようとする性質を利用し，さまざまな職能の人びとが集い，強い繋がり・弱い繋がりが同居する中，行為により分類したボロノイ領域でせめぎあい，共に働くのだけれど，それぞれに従属関係のないような，これまでの小さい規模では当たり前だった風通しのよい関係性を，この新しい場所で構築することを試みた．内観では表しとなった鋼管ボロノイフレームが，この関係性を顕在化させる．外観においてはフレームを隠蔽して抽象的に表現し，整形の芝生広場という虚のボリュームを配したランドスケープと共に，背景となる工場クレーンの柱群と呼応させた．ガラス越しに中が透けてボリュームとヴォイドの関係が溶け，直方体で切り取られたボロノイが，逆に外部へと広がりを持って，周辺に関係づけられることで，事業所全体の関係性の一新を図った．実現する過程においてはコンピューテーショナルデザインやBIM，デジファブといった最新技術を活用し設計施工上のさまざまな工夫を凝らした．しかし，それは何より，高い技術力を持つ職人の手によって支えられている．新しい仕口の検討，梁先行の鉄骨建て方，部材の大型化による精度確保，高い溶接技術など，表しとなったボロノイフレームやスラブ，耐震壁には見る人が見ればわかる，そんな技がつまっている．それがファブリケーターとしての矜持をのぞかせる．使い手が自らつくり出した「鉄のショールーム」が生まれた．この新しい場所から，三栄建設の新しい物語が紡ぎ出されていくことを期待している．　（小幡剛也＋瀬山充博／竹中工務店）

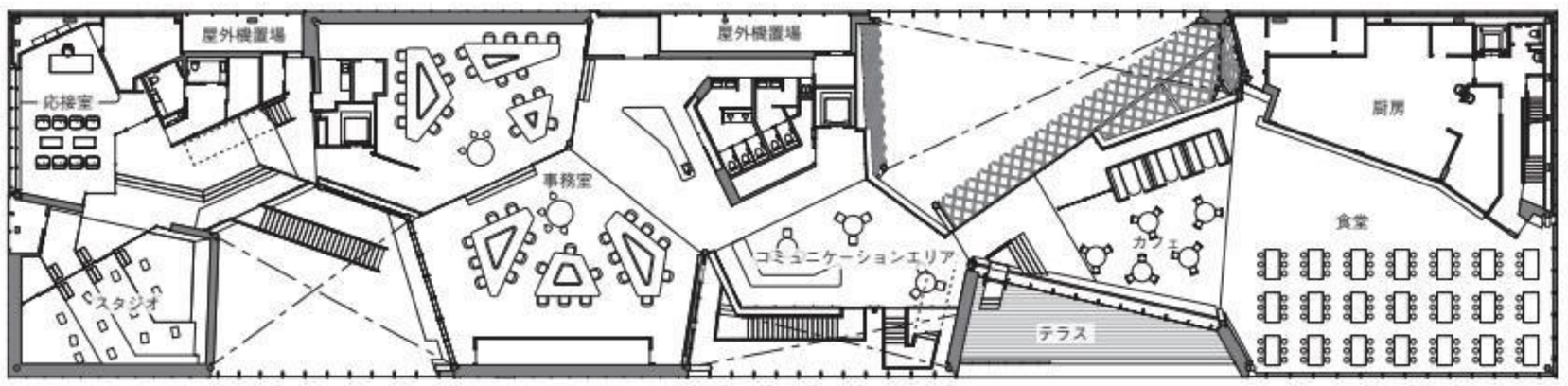




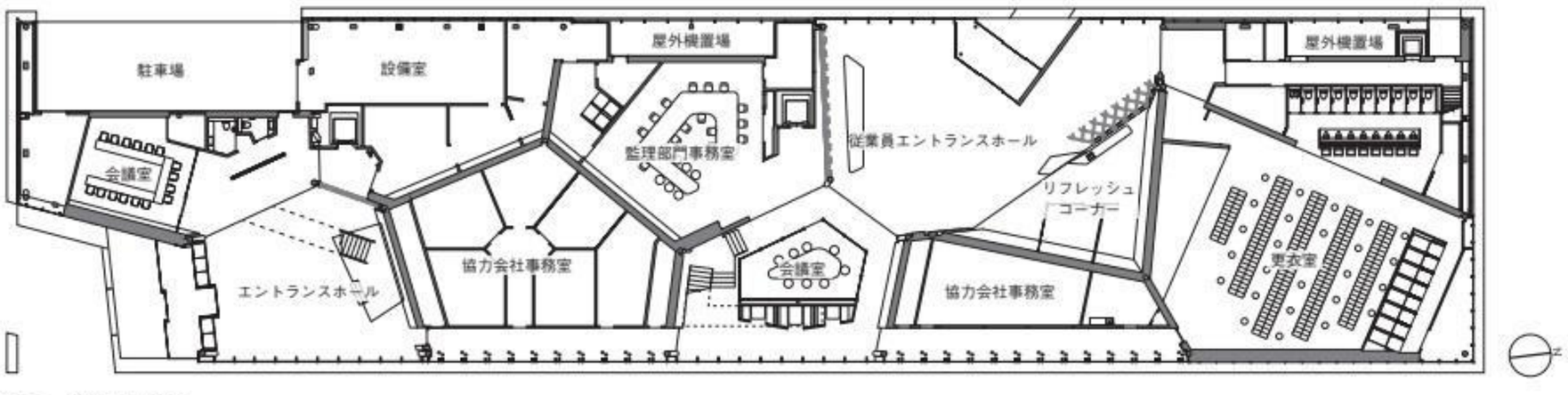
断面パース　縮尺1/120



3階平面



2階平面



1階平面　縮尺1/700

HANEDA INNOVATION CITY I期

設計　KAJIMA DESIGN（全体計画・鹿島工区）　**大和ハウス工業**（大和工区）
施工　鹿島建設　大和ハウス工業
所在地　東京都大田区
HANEDA INNOVATION CITY PHASE I
architects: KAJIMA DESIGN　DAIWA HOUSE INDUSTRY

羽田空港に隣接する，先端産業の構築や日本の文化発信を支援する9つのゾーンからなる複合開発プロジェクト．研究開発施設，会議場，ホール，ホテル，飲食店，水素ステーションなどの機能を持つ．2023年にはさらに3つのゾーンが竣工予定．

「街」をつくり世界と繋がる

羽田空港の沖合展開・再拡張事業に伴い，空港島南西端，天空橋駅周辺が国から区へ返還された．その内南北約200m，東西約500mの敷地に計画された複合施設が，HANEDA INNOVATION CITYである．

多摩川堤と環八に挟まれたこの場所は，日本の玄関口に隣接し，自動運転開発の国家戦略特区内でもある．また敷地の西方，海老取川以西の住宅街には大田区の製造業を特徴付ける中小工場が点在している．ものづくりのまちが羽田を通じて世界と繋がるように，区はこの場所の整備方針を先端的技術分野と既成の基盤技術分野のゲートウェイと設定し，さらに世界に向けたショールームとするために「先端産業」と「文化産業」の融合による「新産業創造・発信拠点」とした．そして2017年春，整備事業者として，鹿島を代表企業とする9社の共同事業体が公募を経て選定された．

整備方針に沿って事業設定された施設のラインナップは多種多様である．国際的企業誘致のための研究開発オフィス，ものづくりのためのラボやベンチャー・オフィス，それらの交流を促進する区施策活用スペース，そして自動走行車の開発拠点と整備場・テストコース，水素ステーションがあり，宿泊施設を併設する会議研修センターが加えられている．一方，多様な日本文化を発信しつつ，来訪者が憩い，楽しみ，交流を図るために，体験型商業施設，コンセプトフードコート，イベントホール，アーティストビレッジが連なる．さまざまなプログラムが有機的に交差し，さらなる価値の創造を誘発するため，動線の結節や溜まりが幾重にも連なるような「街」をつくることを企図した．

歩車分離の人工地盤上，2階に「イノベーション・コリドー」が長手方向を貫いている．この屋外のコリドーは，かつてこの地に存在した羽田三町の村道をオマージュに，その跡をなぞって大きく湾曲した街路状の空間となっている．コリドーの左右には機能ごとに独立した低層棟が並び建つ．コリドーに直接面する部分は雁行しながら街角を形成し，各棟のエントランスが設けられ，そこから路地状にサブ動線が続いている．

空港と多摩川を結ぶ南北軸とコリドーの結節点上部に，各棟を結び交流の核となる「イノベーション・フォーラム」を配置した．その周りには，街路空間での立体的な交感が得られるようにバルコニーのある共創・交流スペースを連ねた．

また来訪者にコリドーの道行きの楽しみをもたらすよう，緑陰を与える盆栽風のベンチや花灯篭を点在させている．さらにコリドーの突き当りには眺望デッキを配し，上空間近を飛行する機体を見上げながら足湯を楽しむ場所とした．コリドー全体をジャパン・プレゼンテーションの場とすることが意図されている．

この多棟の複合施設の外観は，水平に広がる空港島の景観特性に対し，ボリュームの分節と縦連窓を採用し，垂直を強調した．コリドー側のファサードは圧迫感のないヒューマンな表情としたのに対し，敷地の外へ向くファサードは一変して，遠距離からも統一感のある群造形とし，新しい街が立ち上がる躍動感を表現した．

今後着工するII期工事は2023年に完了となる．予定された全ての機能が整い，日本発の創造・発信の拠点として先導事例となることが大いに期待される．

（仙波武士／ KAJIMA DESIGN）

雁行配置されたそれぞれの棟間を，湾曲しつつ繋ぐイノベーション・コリドー（2階歩行者用デッキ）．人流検証や温熱検証・シーケンシャル分析をもとに計画された．点在する植栽や行燈，庇がさまざまなシークエンスと奥行きを与える．3階の屋上緑化やデッキがコリドーを囲み，立体的な繋がりを与える．

ベンチャーオフィス4階バルコニー．右は羽田空港．

会議研修センター3階デッキ．イノベーション・コリドーから直接アクセスできる．コリドーを挟み，研究開発オフィス共用部と対面する．

多様な用途に応える「可変性」と街を統一する「連続性」

「可変性」「連続性」等をコンセプトに研究開発ゾーン（ラボ・オフィス），文化産業ゾーン（会議研修センター・飲食店舗），外構エリアを設計した．

「可変性」として，研究開発のゾーンでは，将来更新用の設備スペースや，ゆとりある階高・構造・搬入経路を設定．区施設活用スペースは大田区の要望もふまえ，幅広いテナントに対応できる計画とした．会議研修センターは，多様な規模，演出にも対応可能な設備仕様としており，上階の宿泊エリアと会議研修エリアの繋がりについて，運用面も含め動線等に配慮した空間構成とした．「連続性」として，縦ストライプの外観モチーフや，コリドーのモジュール，ディテールなどのデザインコードを各ゾーンで共有することで，用途・ヴォリュームが異なりながらも，景観や街並み的にも，統一感のある印象の醸成に寄与している．　（羽毛田貴也／大和ハウス工業）

先端モビリティセンター 1階の自動車整備場．デンソーによる自動運転技術等の研究開発および実証を行う拠点．車両ピットに面してデスク及びプロジェクタースクリーンが設けられ，企画・開発・実証を加速させる計画となっている．*

自動車整備場には自動運転等の実車評価用テスト路が隣接する．逆梁により中2階のオフィスと車両ピットの連続性を高め，一体感のある空間で研究開発から実車実証まで一貫して行われる（内装設計：成瀬・猪熊建築設計事務所）．*

研究開発オフィス3階．奥にある共創ゾーンからイノベーション・フォーラムにアクセスできる．

研究開発オフィス2階事務室．ANAグループのデジタル変革を担う．

先端モビリティセンター 3階足湯デッキ．羽田空港の滑走路が眺望できる屋外ワーキングの場としても活用される．

ベンチャーオフィス3階．城南信用金庫のサテライトオフィス．中小企業診断士や公認会計士，税理士，弁護士などの専門家を交えて，金庫との取引に関係なく中小企業や個人事業者の経営相談を行う（内装及び什器設計・施工：秀光）．

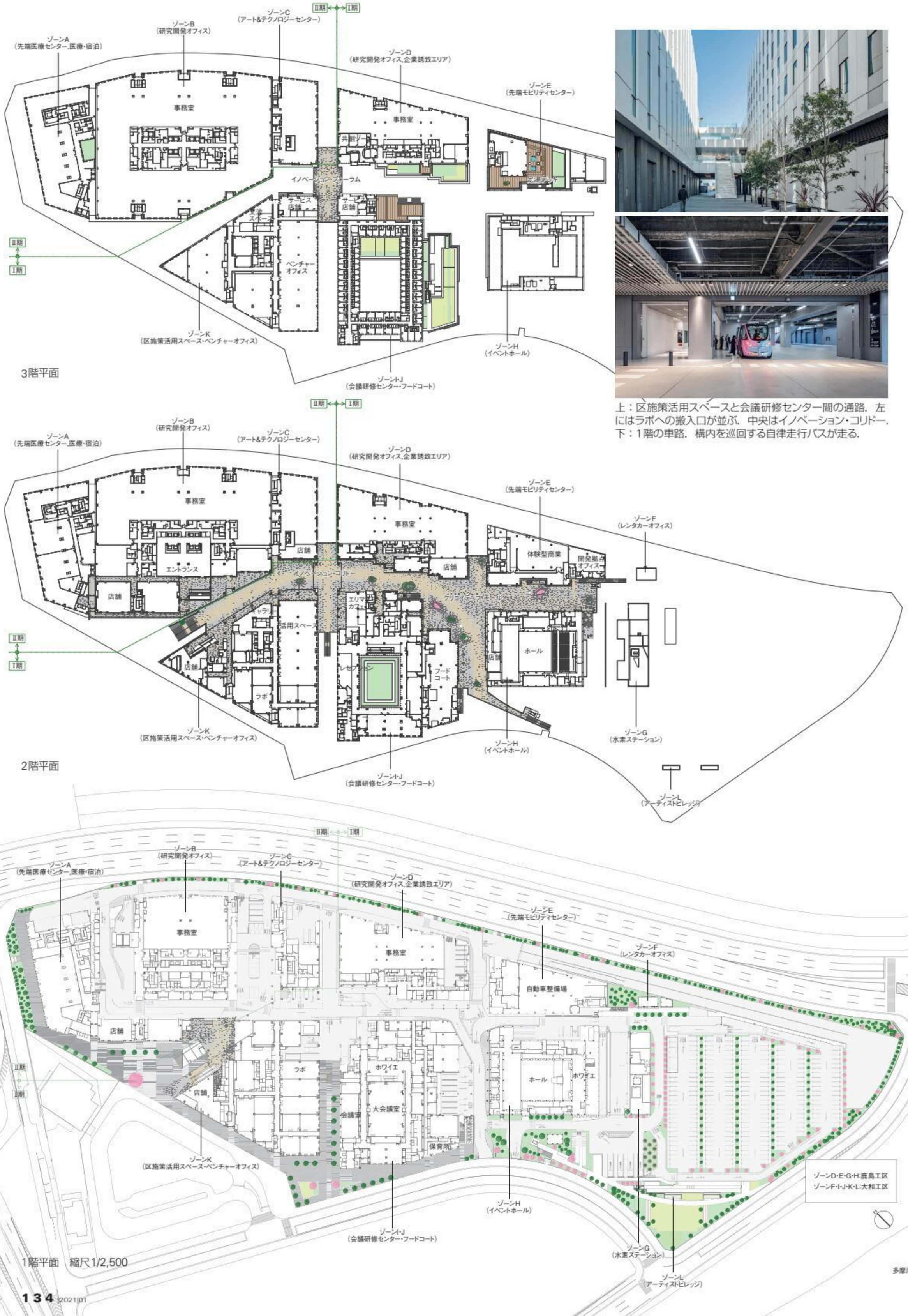
区施策活用スペース1階交流サロン．大田区内企業，国内外企業，大学・研究機関，団体，起業家・スタートアップが集結する拠点となる．

区施策活用スペース2階．イノベーション・コリドーに面する．

会議研修センター1階ホワイエ．

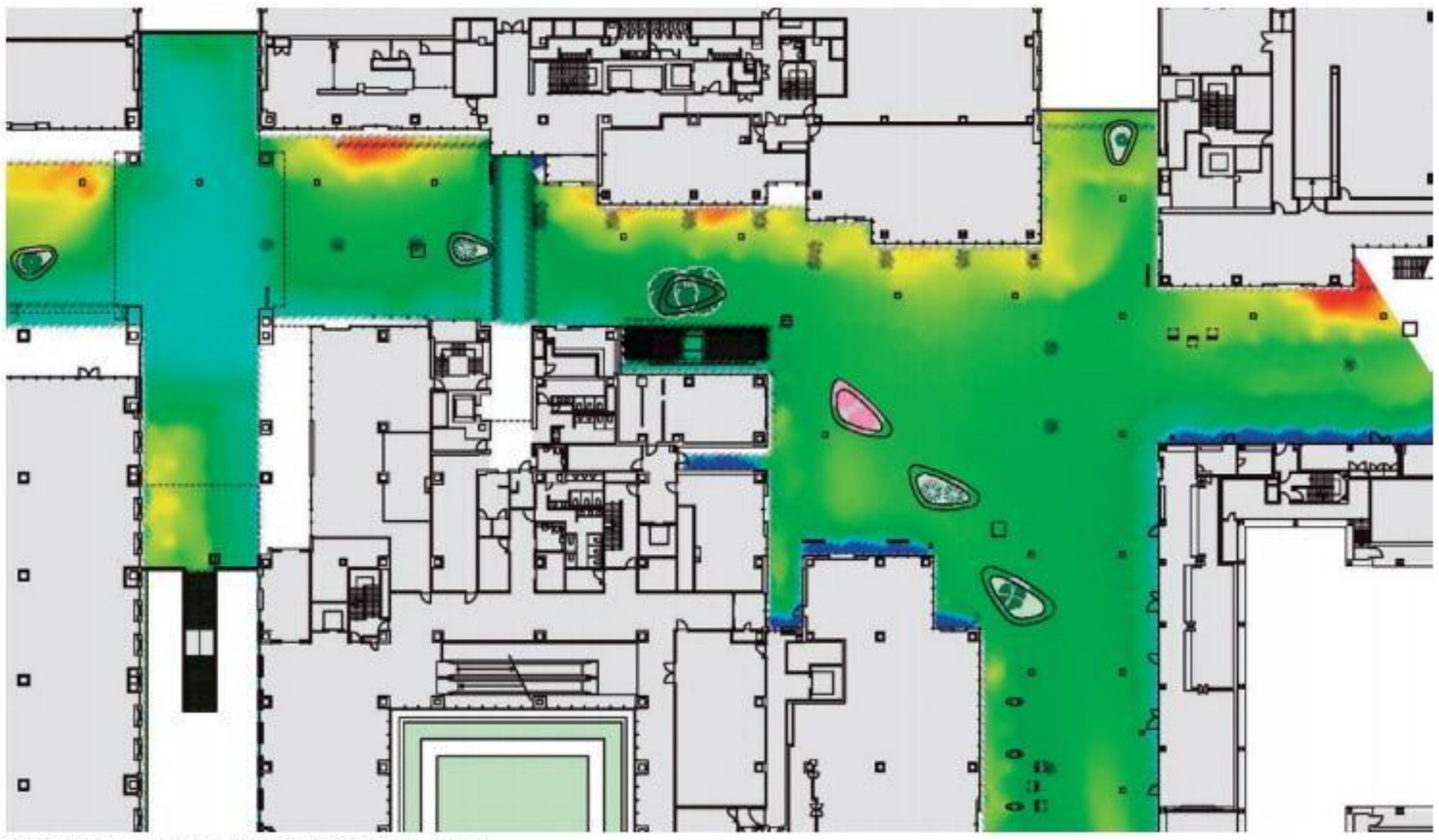
区施策活用スペース吹抜け部．

ベンチャーオフィス3階交流スペース．

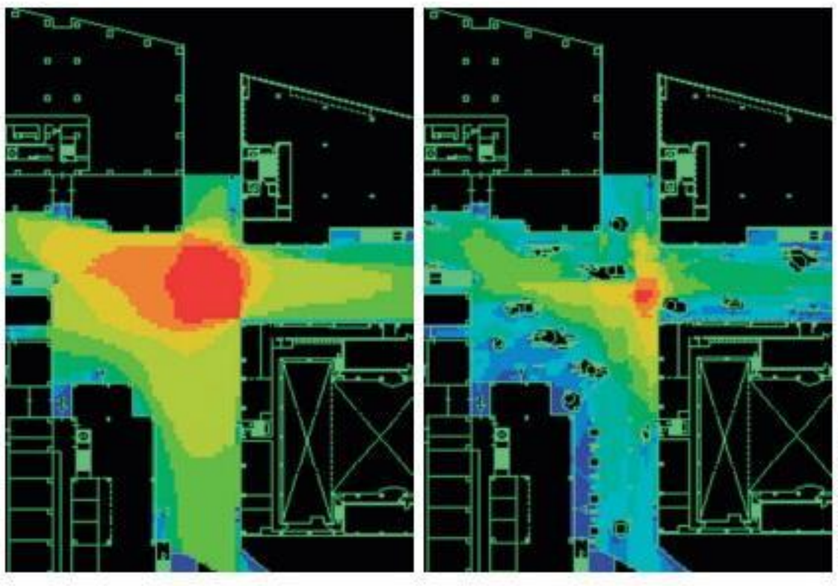


上：区施策活用スペースと会議研修センター間の通路．左にはラボへの搬入口が並ぶ．中央はイノベーション・コリドー．
下：1階の車路．構内を巡回する自律走行バスが走る．

クリエイティブ・モールよりイベントホール方向を見る．日本文化のアイコンとしての「花灯篭」や盆栽状植栽が足元を照らす．



SET*による快適性分布の検証（夏季12時）
日射と輻射の熱環境に加え，卓越風による風環境と緑陰の効果をシミュレーションで確認した．



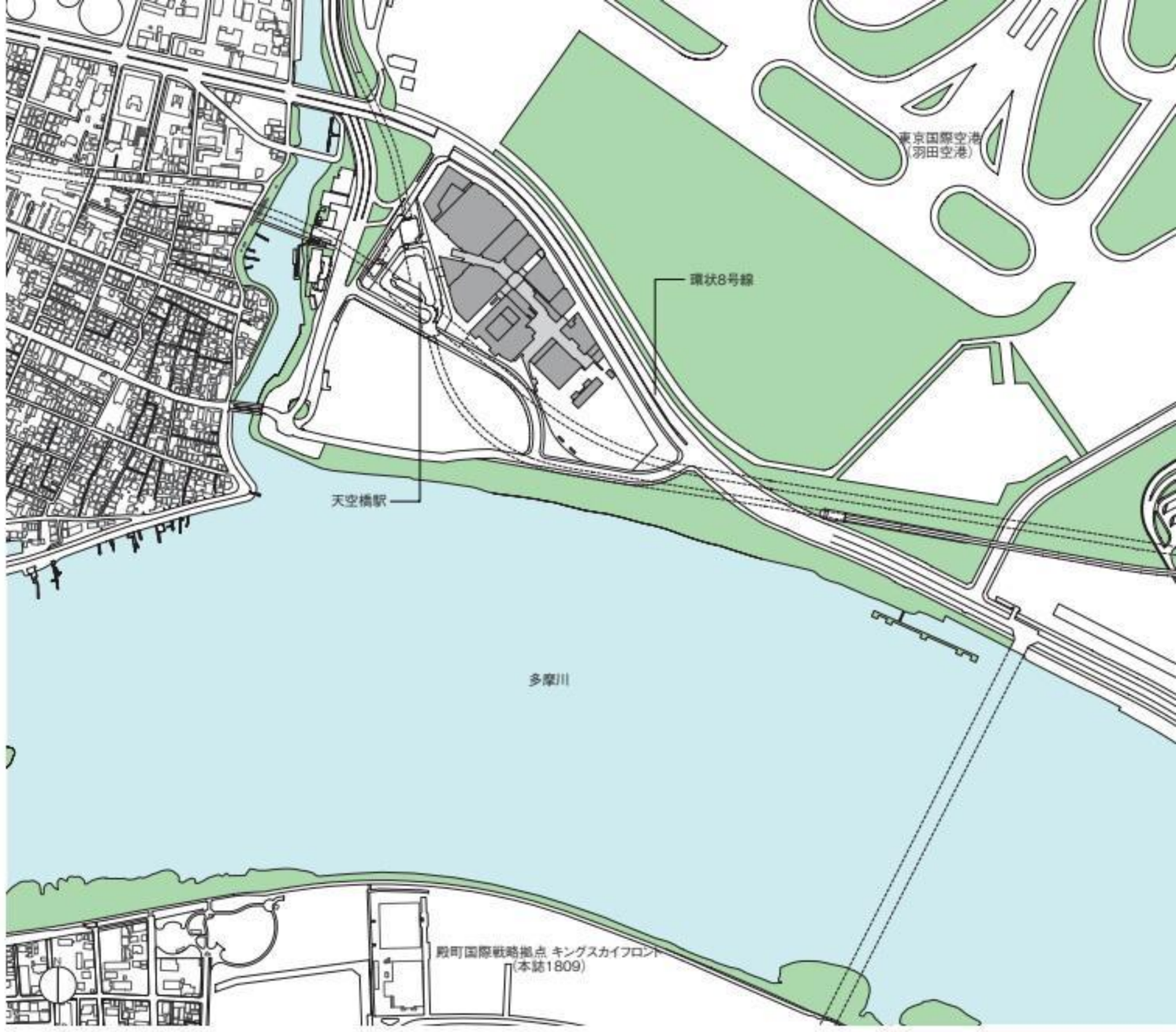
VGAによる空間特性の調整
左：景物がない場合，空間の「開け方」が極端で，色のコントラストが強い．
右：景物配置により行動の選択性を高めることで，色の分布が細やかになる．

街の生成／体験の豊かさをつくり込む

「イノベーションの場」という抽象的なプログラムに対し，直観的仮説と客観的評価を折り重ね，新たな街の生成を目指した．この場を訪れる多様な人びとの感覚や関心が，視線や声，身振りとなって交錯すべく，親近感と公共性を両立する寸法と距離感が慎重に与えられた．歩みの分岐点はVGA手法で評価され，植栽やサイン等の景物を配することで，人びとの溜まりをつくり出し，多様な繋がりを潜在させる．緑陰やベンチ配置の計画にはSET*による屋外空間の快適性予測を活用し，効果的な分布が検証された．模型やCGを駆使してつくり込んだ立体の効果は，目線の軌跡検証により動的に確かめられた．実現したイノベーション・コリドーでは，雁行するファサードがシークエンスを刻み，突出するバルコニーや白庇の影がアクセントを与え，ジェット機が上る雄大な空の風景が奥に広がる．地を成すタイルのランダム・パターンは，上階のフォーラムから眺めると，道の活気を象徴的に反復する．　（須都信義／ KAJIMA DESIGN）

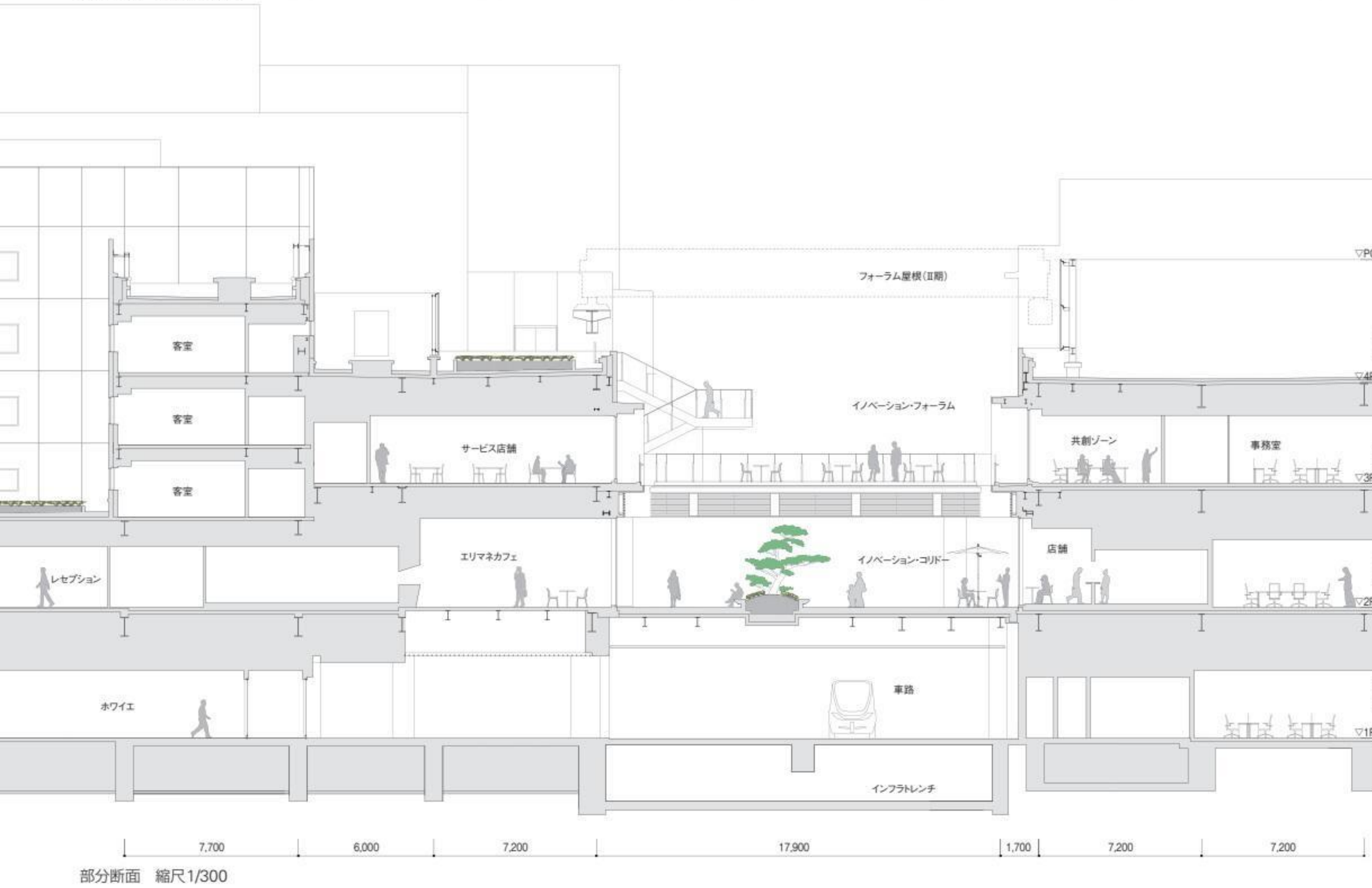
設計　KAJIMA DESIGN（全体計画，ゾーンD・E・G・H）
　　大和ハウス工業（ゾーンF・I・J・K・L）
施工　鹿島建設　大和ハウス工業
敷地面積　58,947.32m²
建築面積　21,140.42m²
延床面積　57,746.28m²
階数　地下1階　地上7階
構造　鉄骨造　一部鉄筋コンクリート造
工期　2018年12月～2020年5月
撮影　新建築社写真部　*西川公朗
（データシート201頁）

上：南側遠景．航空法上の高さ制限から建物のヴォリュームを決定した．
下：西より見る．同敷地内に3つの建物が竣工予定．



配置　縮尺1/12,000

東西断面　縮尺1/1,800



部分断面　縮尺1/300

社会課題の解決に向けたテストベッドとしてのスマートシティ

（本頁解説：加藤篤史＋田中宏幸＋忽那知輝／鹿島建設）

スマートシティ構想

HANEDA INNOVATION CITYは日本の玄関口である羽田空港に隣接する．国内外への情報発信に有意な立地を最大限に活かし，大田区との官民連携も加え新たな価値を創造・発信する「スマートエアポートシティ」の形成を進めている．2020年7月にまち開き，9月に施設の本格稼働を迎えた．まちづくりにあたっては，大田区ひいては日本社会が直面する課題4つを定め，これらの解決に資する技術を抽出し，区内へ還元するサイクルを形成する．

施設では，現実空間で収集したデータを空間情報データ連携基盤「3D K-Field」と連携させながら，データ分析・活用や，提供サービスの高度化の実証実験を行う．スマートシティ化を通して課題解決のためのハブとして活用することを目的とした．

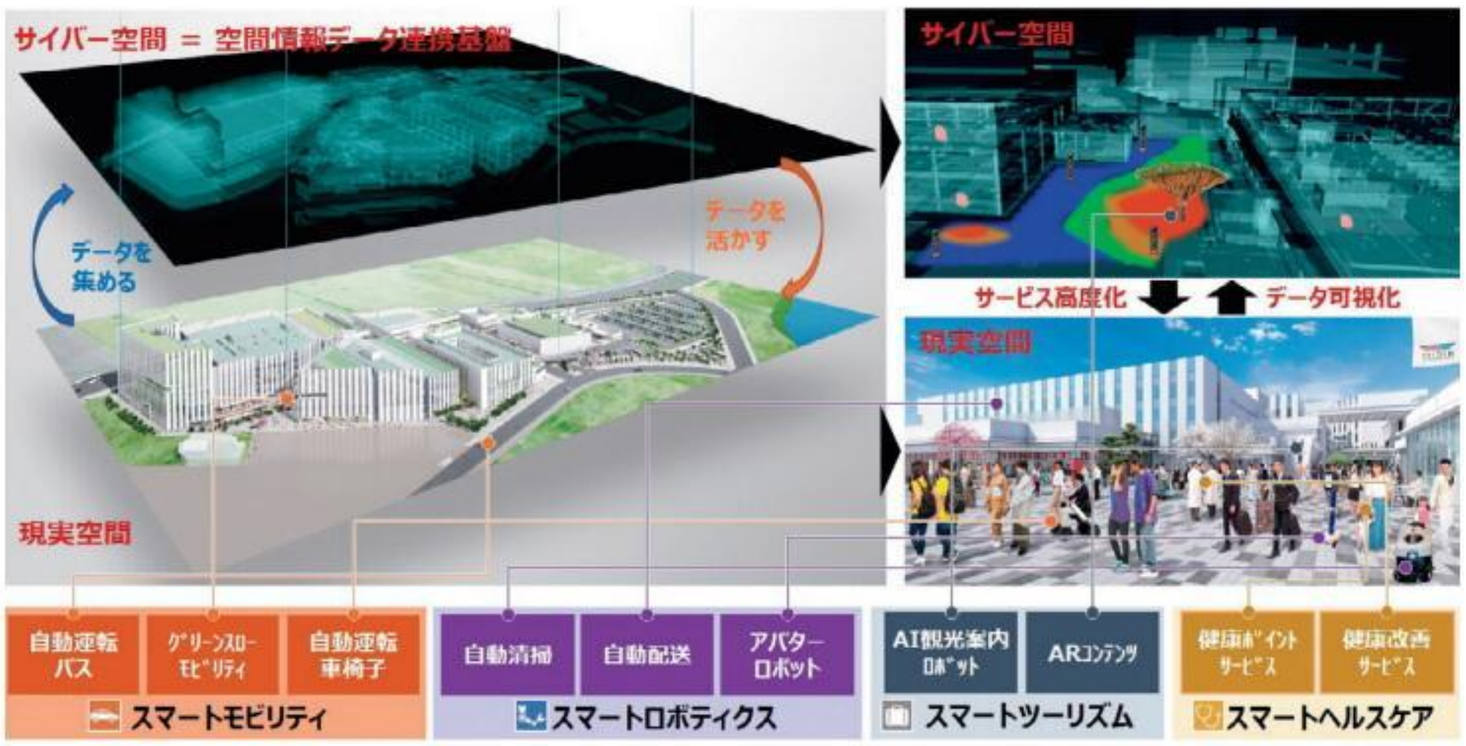
本プロジェクトは，国土交通省が実施するスマートシティモデル事業「先行モデルプロジェクト」や総務省が実施する「データ利活用型スマートシティ推進事業」に採択されている．

1. 交通

敷地内を巡回する自動運転車やグリーンスローモビリティ（時速20km未満で公道を走る，4人乗り以上の電動モビリティ），自動運転車椅子などスマートモビリティの研究開発により，木造密集地等における交通弱者への交通手段提供と，自動運転システムによる運営費削減を目指す．

2. 生産性向上

自動清掃ロボットや自動配送ロボット，アバターロボットなどスマートロボティクスの開発により，生産人口の減少や人手不足に対応できるロボティクス導入環境を整備する．



スマートシティ化に向けた取り組みの全体像．

3. 都市観光推進

AI観光案内ロボットやARコンテンツなどスマートツーリズムの導入により，来訪者データ分析を活用した効果的な賑わい創出施策を展開する．

4. 健康

スマートヘルスケアの研究開発により，健康アプリ×データ活用による未病対策の誘導と，健康寿命の延伸を図る．

空間情報データ連携基盤「3D K-Field」の構築

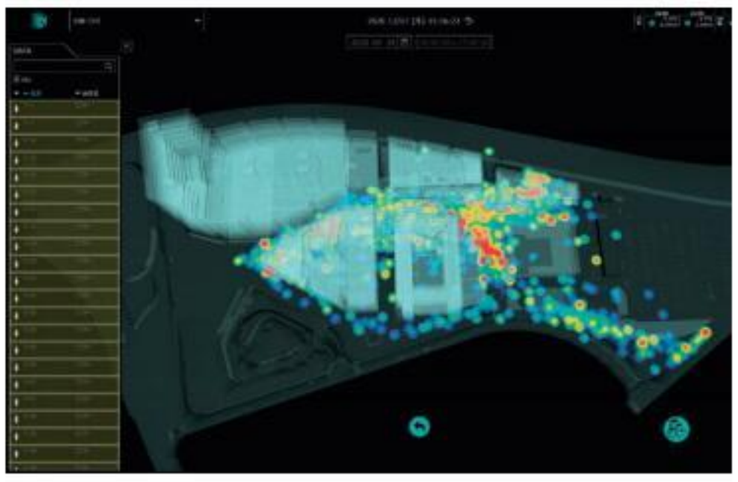
本プロジェクトでは，BIM等の空間情報を基盤とした鹿島建設が開発した「3D K-Field」を活用し，データの統合・可視化・分析が可能な「空間情報データ連携基盤」を構築するとともに，先端的技術の協調領域としての活用を進めている．

主な機能は都市活動データの「収集・統合」，「蓄積」，「可視化」，「分析」，「公開」の5つである．

施設には約400個のビーコンを設置しており，スマートデバイスを通じて施設や自律走行バスの混雑状況ならびに施設管理スタッフやイベント来街者，サービスロボットの位置や稼働状況をリアルタイムに可視化・収集する．本基盤を施設のデジタルツインや都市OSとして活用することで，来場者の満足度の向上や施設管理・運営の効率化を目指す．

今後は，専用アプリで来場者に施設の混雑情報，自身の移動情報等を提供することで，利便性・回遊性の向上を図るとともに，行政や民間企業が持つオープンデータと分野横断的なデータ連携を図り，地域のさまざまな課題の解決や新たな価値・サービスの創出に取り組み，収集した情報をビックデータとして蓄積し，AIで解析することで合理的な施設運営を実現していく．

また，この技術は「リアルタイム現場管理システム」として，施工中の現場での活用が進められている．



「3D K-Field」のヒートマップ表示画面
2020年9月の実証実験では，一般来街者の人流を取得し，滞留度合をヒートマップで表示した．施設中央では出店が多くあり，滞留度合が高いことが可視化されている．イベント施策の効果測定や感染症対策検討に活用が期待されている．

自律走行バスの表示画面
モビリティやロボットの複数実装にともなう一元管理ツールとしての活用を進めている．

施設全体のデジタルツイン表示画面
施設管理者をはじめとした在館・来館者のリアルタイム情報を一元的に可視化している．

人に寄り添う先端機器

2020年9月から10月にかけて，先端技術の実装に向けた10種の実験を実施．モビリティとロボットをテーマに，38種類，計60機以上が集まった．実証実験は，「先端モビリティ提供」「配送・移動」「警備」「観光・案内」「複数制御」に分かれて展開された．一般来訪者向けのイベントも同時期に開催され，実装に向けたハード面とソフト面での課題抽出や社会受容性の検証を実施した．

隣接する羽田空港内と施設間の公道では，ANA主導の大型自動運転バス実用化に向けた実証実験が行われており，スマートモビリティ研究開発が活発に行われているエリアである．

遠隔警備や遠隔地からの観光に活用を進めているアバターロボット（遠隔操作ロボット）．

敷地内ルートの定常走行を開始した自律走行バス．ハンドルやブレーキペダルなどの装置はなく，操作は車内のタッチパネルやゲーム用コントローラーで行う．現在は有人での走行だが，将来的には無人での走行や敷地外での走行を目指す．

クアパーク長湯

設計　坂茂建築設計

施工　森田建設（クアハウス）　ベネッツ（クアホテル）　藤和建設（クアレストラン）

所在地　大分県竹田市

KUR PARK NAGAYU

architects: SHIGERU BAN ARCHITECTS

西側全景．大分県竹田市長湯温泉の西端に位置する温泉利用型健康増進施設．温泉の中で運動するクアハウスと歩き湯のほか，クアレストラン（レストラン棟）とクアホテル（14棟の宿泊コテージ）で構成され，景観を楽しみながら温泉を利用できるように設計されている．

湯中運動スペース内観．長さ1.8m，直径9cmの短い丸太を組み合わせたレシプロカル構造（相互依存構造）の屋根が建物全体を覆う．湯中運動スペースは水着を着て温泉の中で運動でき，外へと続く歩き湯の起点となる．逆三角形の木の壁面は三角格子の構造材で支えられ，中央部に換気ファンが内蔵されている．天井から吊るされた樋は，凹面の屋根から雨水を受け止めると同時に照明機能も担っている．

竹田の景色を楽しむレシプロカル構造の温泉施設

この細長い敷地は，とても美しい芹川に沿って風光明媚な丘と畑に挟まれ，長湯温泉のはずれに位置する．そこに日本一の炭酸泉を利用した，ドイツの温泉保養地「クアオルト」を原型とした温泉療養複合施設として，温泉棟（温泉浴，飲泉所，歩行湯，ジャグジー，サウナ，ジム，医務室），レストラン棟（クアレストラン）と14棟の宿泊用コテージ（クアホテル）によって構成されている．

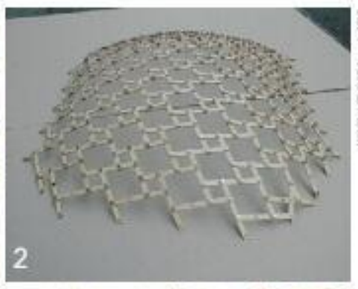
この施設の中でも歩行湯は中心となるべきプログラムだが，一般の歩行湯は温泉を張った屋内プールをぐるぐる歩いて回るだけの退屈な空間である．そこで，それを半屋外の歩き湯として，美しい川とその周囲のランドスケープを見ながら川に沿って往復100m歩き，その途中に露天風呂や寝湯，飲泉所によって四季折々の自然を楽しめるようにした．

歩き湯の起点となる温泉棟の屋根の構造は，長さ1.8m，直径9cmのヒノキの丸太を井桁状に組んだレシプロカル構造とした．レシプロカル状に重ねる順番を逆転することにより，屋根の凹凸をつくり，その中間はレシプロカル状にせず平行な2本ずつを上下に重ねて，ほぼ平らなエリアをつくった．この構造の元になったのは，Arupの元エンジニアであるセシル・バルモンドと2002年に開発した，アメリカ・セントルイスの公園のパビリオンでの，竹の集成材を使ったレシプロカル構造の屋根である（写真1・2）．

コテージは，開発中のPHP（Paper Honeycomb Panel）を使った（写真3）．PHPは，60mm厚の紙のハニカムパネルを9mm厚の構造用合板で挟み，柱梁一体のフレームを工場で加工することで，現場での施工期間の短縮を可能にした．

レストラン棟の柱には紙管を使ったが，1995年に取得した紙管構造の建築基準法38条認定が法規改正（悪）で使えなくなり，外周は木の柱としたが，最小限の断面とし，木と紙管を接合することで紙管を座屈抑えとした．

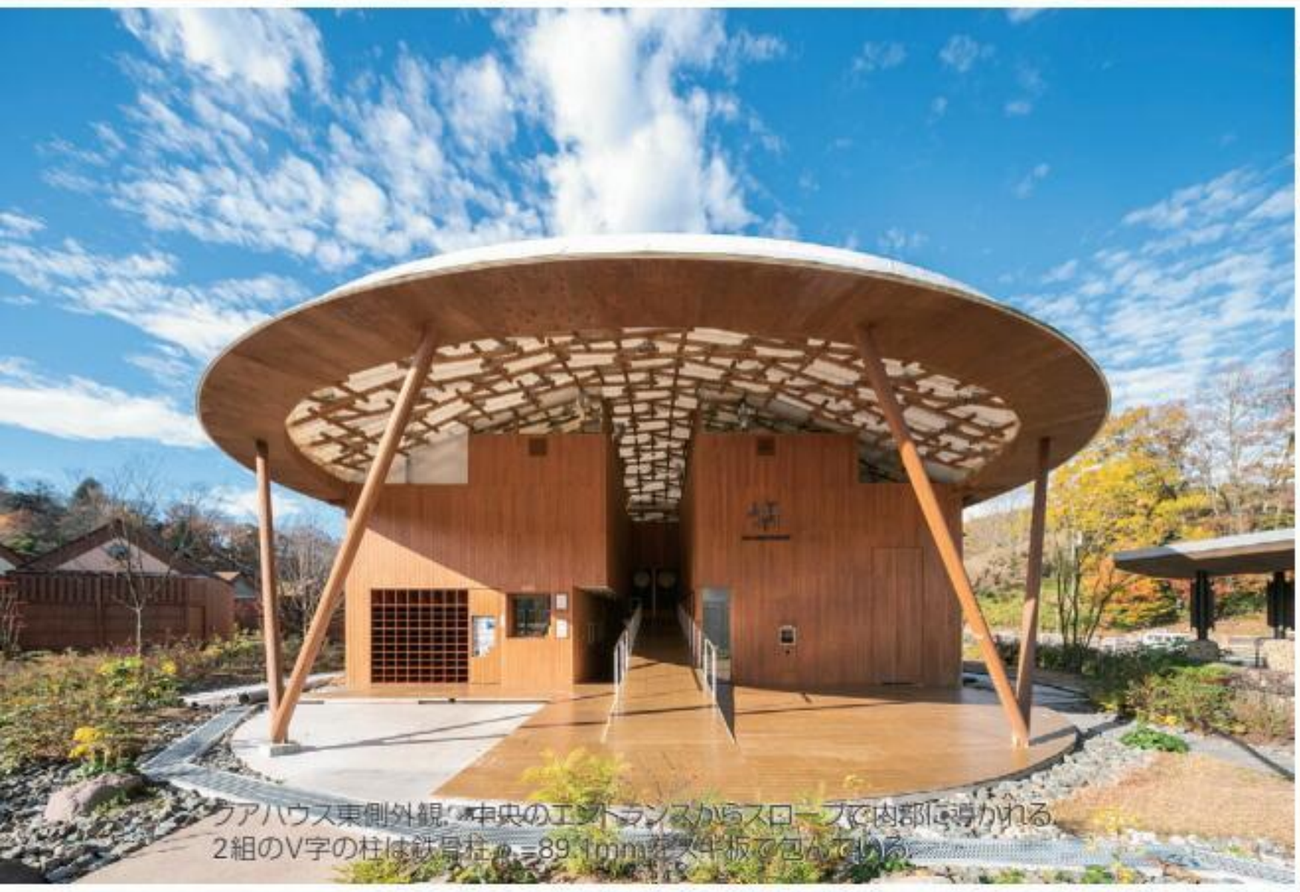
竹田市長湯温泉には，1998年に象設計集団設計による温泉療養文化館「御前湯」がオープンし，2005年には藤森照信氏による「ラムネ温泉館」（本誌0601）が開館した．長湯温泉エリアは温泉施設建築激戦区となっている．　（坂 茂）



提供：坂茂建築設計

写真1：フォレストパーク・パビリオン．竹の集成材を用いたレシプロカル構造を持つグリッドシェルの屋根．
写真2：フォレストパーク・パビリオンのスタディ模型．
写真3：PHPのモックアップ．

歩き湯を見る．歩き湯は長さ50mにわたって蛇行しながら伸びており，その縁は腰掛けられたり，脇に露天風呂が設けられたりと，休息したりランドスケープを楽しみながら温泉で歩行できる．



クアハウス東側外観．中央のエントランスからスロープで内部に導かれる．
2組のV字の柱は鉄骨柱φ=89.1mmを木板で包んでいる．

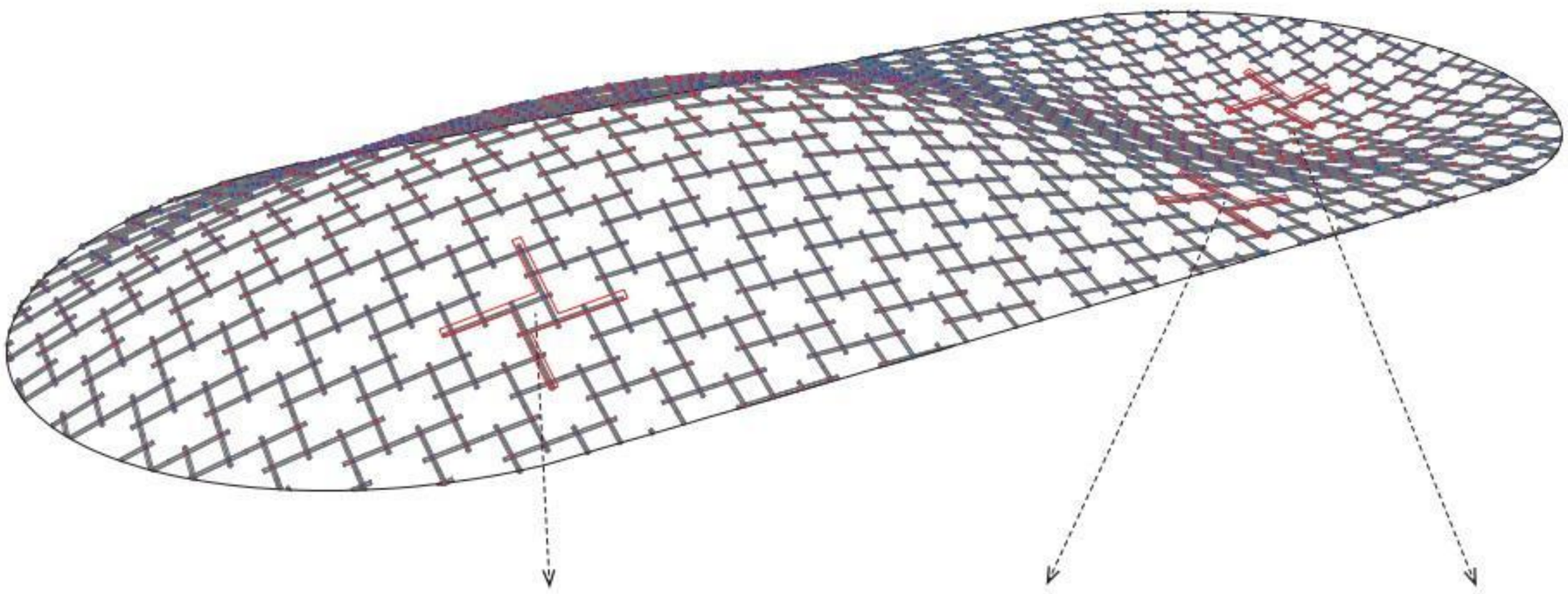
2階浴室1．スロープを経て脱衣所から半階上がった先に広がる温泉ゾーン．

クアレストランタ景．奥にクアハウスを見る．レストラン棟は施設全体の受付にもなる．

クアレストラン内観．紙管の列柱がレストランとエントランスを緩やかに区切る．

西側からの俯瞰．芹川沿いに位置し，近景の草木から芹川，遠くの山並みまでが感じられるよう設計された．

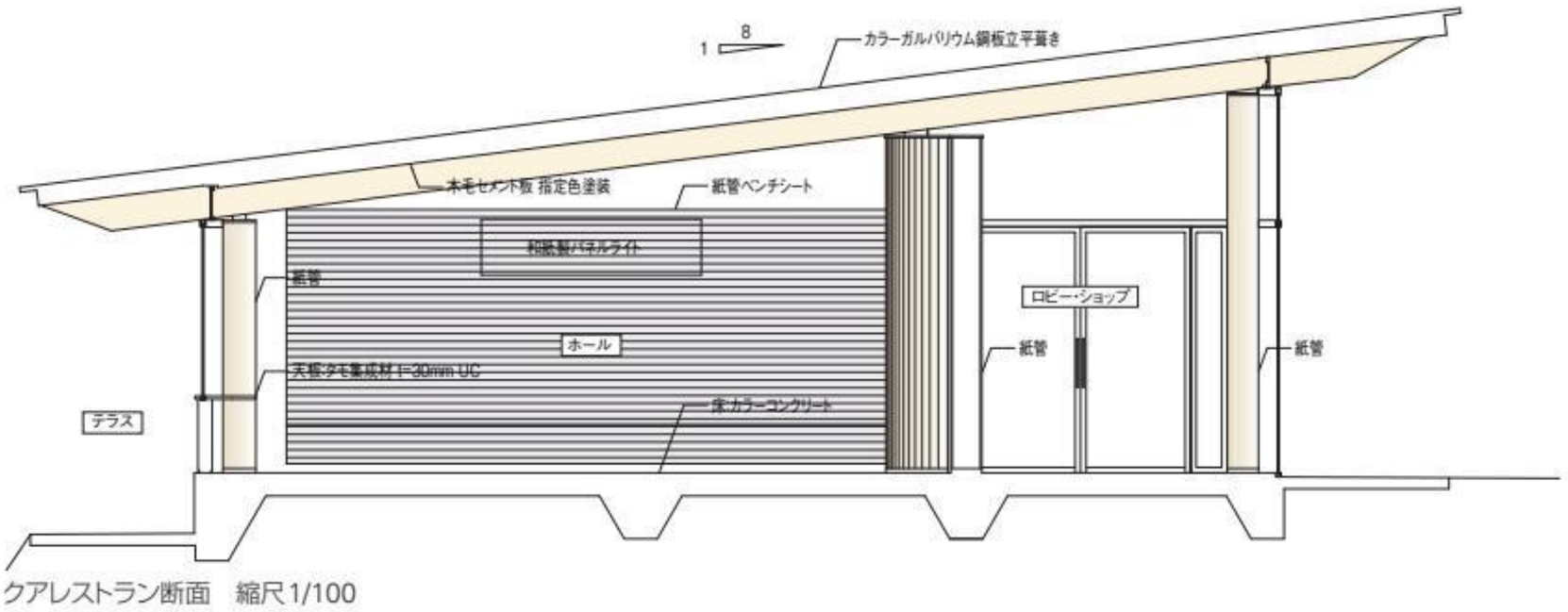
設計　建築　坂茂建築設計
　　構造　星野建築構造設計事務所
　　（クアハウス，クアレストラン）
　　陶器浩一＋高橋俊也構造建築研究所
　　（クアハウス屋根）
　　ホルツストラ（クアホテル）
　　設備　知久設備計画研究所
　　（クアハウス，クアレストラン）
施工　森田建設（クアハウス）　ベネッツ（クアホテル）
　　藤和建設（クアレストラン）
敷地面積　2,441.62m^2，2,178.97m^2，551.08m^2
建築面積　559.64m^2，411.10m^2，333.00m^2
延床面積　668.60m^2，439.58m^2，243.03m^2
（面積はすべてクアハウス，クアホテル，クアレストランの順）
階数　地上2階（クアハウス，クアホテル）
　　地上1階（クアレストラン）
構造　鉄骨造　一部木造（クアハウス）
　　PHPパネル造（クアホテル）　木造（クアレストラン）
工期　2017年9月～2018年10月（クアハウス）
　　2018年11月～ 2019年5月
　　（クアレストラン，クアホテル）
撮影　新建築社写真部
（データシート203頁）



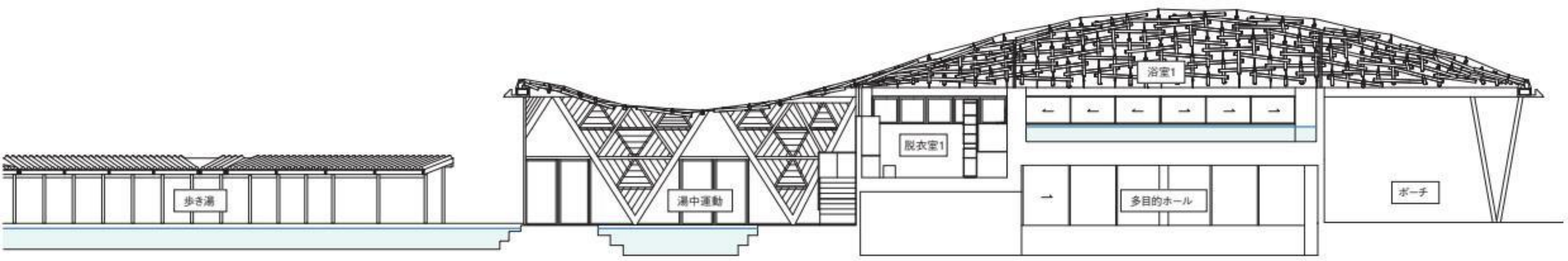
大屋根のレシプロカル構造の仕組み

短材を使った起伏を持つレシプロカル構造の大屋根
短手方向13m，長手方向32mの大屋根は，長さ1.8m，直径9cmのヒノキの丸太を4本1ユニットとしたレシプロカル（相互依存）構造で構成されている．
ユニットは時計回りに重ねていくと凸面，反時計回りに重ねていくと凹面，単純に重ねるとフラットな面をつくる仕組みを組み合わせ，下部の必要天井高に合わせて屋根を起伏させている．
この屋根の実現にあたり，アンズスタジオで材の重なり具合や施工精度などをパラメーターとしたプログラムをつくり，屋根勾配の変化に合わせて材の組み方，切り欠き量を調整し，この形状を導き出している．
（菅井啓太／坂茂建築設計）

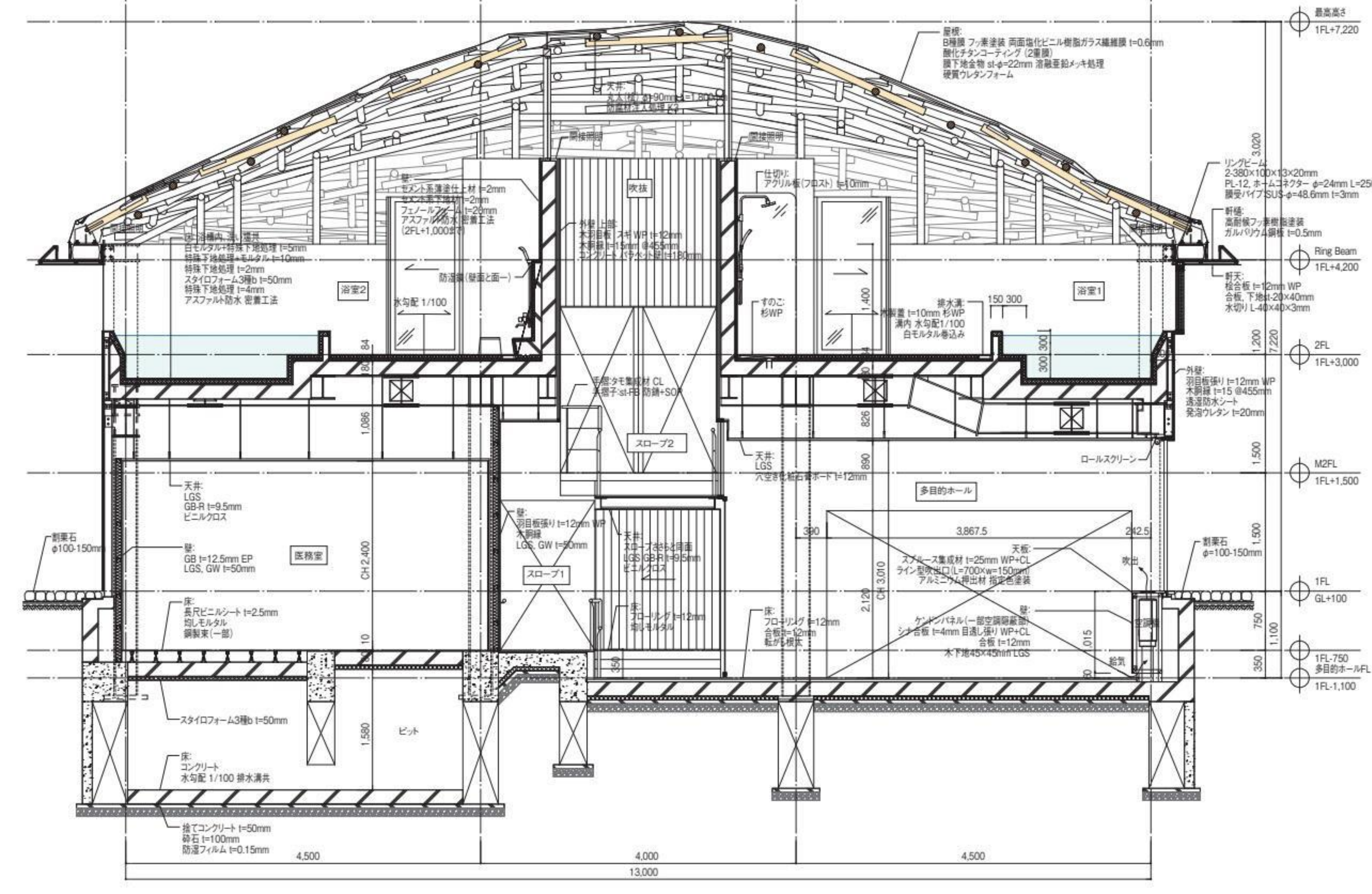
クアハウス，エントランスのスロープを見返す．



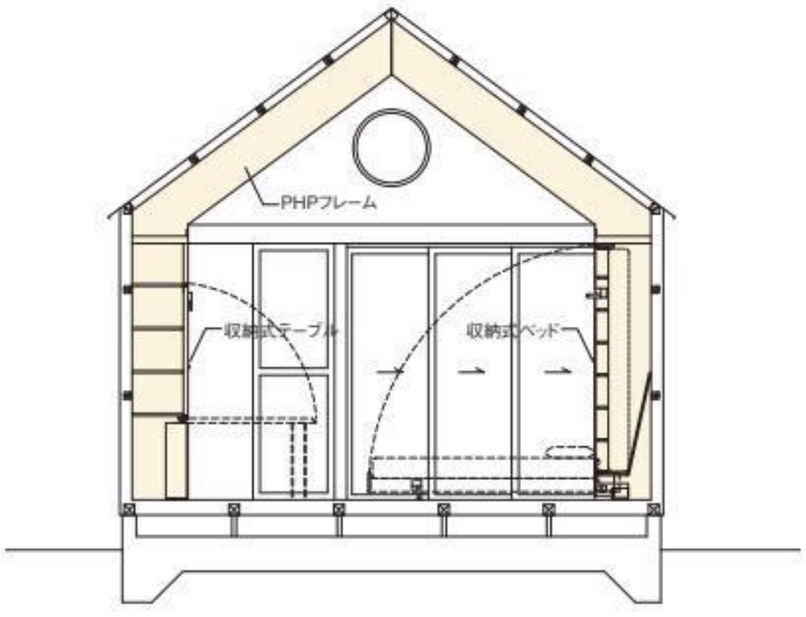
クアレストラン断面　縮尺1/100



クアハウス長手断面　縮尺1/250



クアハウス短手断面詳細　縮尺1/80



クアホテル断面　縮尺1/100

左2点：クアホテル内観．フレーム間の壁面に収納可能なベッドや机が取り付けられている．
右：クアホテルのテラスから見る．露天の浴室とテラスが設けられており，室内と屋外が繋がる風景が現れる．

日貫一日

設計　dot architects＋アトリエ縁（安田邸）　加藤正基（一揖）
　　UMA / design farm（ディレクション）
施工　井野下建築
所在地　島根県邑智郡邑南町
HINUI HITOHI
architects: DOT ARCHITECTS + ATELIER-ENN, MASAKI KATO, UMA / DESIGN FARM

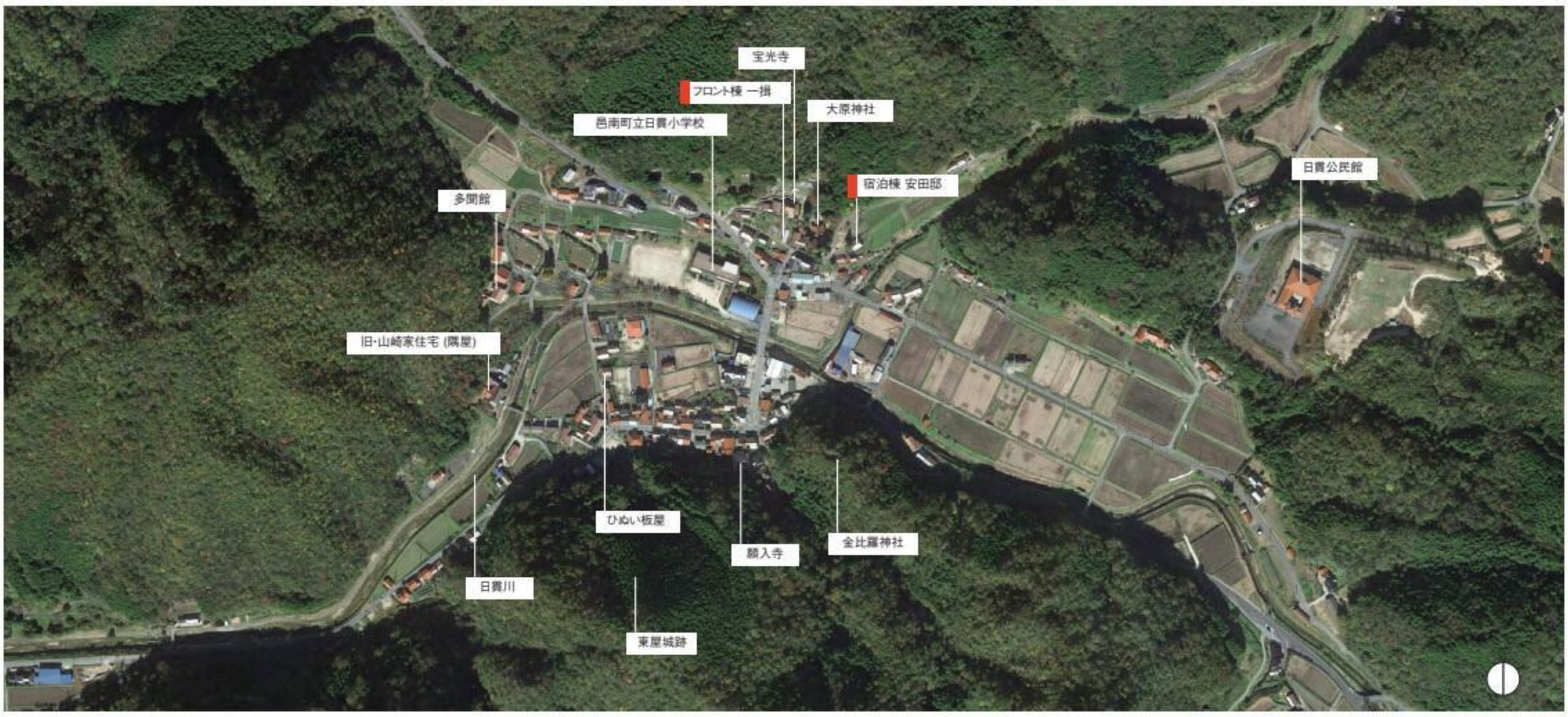
地域と来訪者を繋ぎ，小さな経済圏をつくる

日貫一日プロジェクトの日貫というのは島根県中部の邑南町の地区の名前である．日貫は山と山の谷筋に沿って形成され，農業を主たる生産業とし，昔ながらの間取りを残す民家が点在する約1,000年続く集落である．世帯数は約200，高齢者率は52％，高齢化と人口減が進んでおり衰亡の危機にある集落である．日貫の現状に危機感を持っていた地元建設業に勤める徳田秀嗣さんを中心に町役場職員，大工さんや地域おこし協力隊など地元の方々で一般社団法人弥禮（みらい）をたち上げ，交流拠点整備の一環として宿を整備することを目的に本プロジェクトが始まった．弥禮のキーパーソンとして邑南町役場職員の湯浅孝史さんがいるが，彼は大学で建築を学んだ後，建築設計事務所に勤務した経験があり，建築やデザインが果たす役割の重要性を知っていることから，UMA / design farm に本プロジェクトを依頼して本格的にプロジェクトが始動した．UMAはディレクションとグラフィックデザインを行い，このプロジェクトにマッチするメンバーを集め，皆のアイデアをまとめる先導役を果たした．宿を一軒だけつくるのではなく，宿やフロントを集落内に分散配置し，宿泊者に日貫の集落そのものを体験してもらえる仕組みづくりを目指しているが，まずはその第一歩として安田邸とフロント棟を整備した．カフェ機能を備え，地元の方々と来訪者の交流の場であるフロント棟でチェックインし，少し集落を散策しながら宿に入り，地元の食を地元でつくられた器で楽しむ．神楽観賞体験など宿以外での体験も用意されており，日貫で1日をかけてゆっくりと過ごしてほしいという思いから「日貫一日（ひぬいひとひ）」と名付けられた．宿が始動した後は，地元の方々をはじめ，ゆるやかなネットワークによって宿の運営が行われ，小さな地域経済活動を生み出している．

ここには都市生活に慣らされた人びとが求める新しさは一切ない．何があるのかと問われれば，昔から変わらない美しい山と田畑と川があり，それらを手入れする人たちがいると自信を持って答えたい．常にイノベーションがもたらす驚きを求められる現在において，日貫は革新や刷新からほど遠く，そのことが功を奏して歴史の連続性を強く感じることができる場所になっている．常に新しさを求めること自体が都市のケチな近視眼的センスである．

歴史を振り返れば，農村部は都市部に食材，資材，人，エネルギーを常に供給してきた．都市はそれを消費し，ゴミは都市の外に戻してきた．こちらがなければあちらは成り立たないのである．都市生活の感覚を前提にするのではなく，私たちの生活にとって本当に必要なものは何か，農村と都市の関係を捉え直していきたいと，このプロジェクトを通して考えさせられた．（家成俊勝／ dot architects）

西側鳥瞰．宿泊棟の安田邸を見る．中山間地域の集落において，民家と倉庫を改修して宿泊棟とフロント棟が整備され，この場所ならではの風景や交流，食や体験などを楽しみながら宿泊できる施設として地域の経済活動に寄与するような仕組みで運営される．建築は地域交流や体験の一端を担うことを前提に改修された．安田邸の赤瓦の屋根は葺き替えず，修復して残している．



広域配置　縮尺1/10,000

画像提供：Google マップ / Google Earth

田舎が求める建築

島根県の中央部，中国山地の中程にある邑南町では2016年度から町全域にわたり「地区別戦略」という地域づくり事業を実施しました．公民館エリアを基にした全12の地区ごとに人口減少を課題とした企画・実践を行うもので，そのうちのひとつ，人口およそ440人200世帯の日貫地区の取り組みのなかで，地域の資源を活かしてより効果的に地域に人を招きたい，という考えから企画されたのが，古民家をリノベーションした一棟貸しの宿による日貫一日プロジェクトです．

プロジェクトは中心人物の徳田秀嗣さんが地区内外の「面白そう」と思う人に声をかけることから始まりました．ある日突然「宿をはじめたいから一緒にやらないか」とぐいぐい声をかけられた記憶があります．日貫生まれ・日貫育ちの地元建設業を営む徳田さんから「これからの日貫は収益を上げ自立していかないといけないんだ」という考えを聞いたのは，それから大分たってからのことでした．その後プロジェクトの推進に伴い，収益性への考慮や財産取得の必要から一般社団法人弥禮（みらい）を設立し，運営を開始しています．

プロジェクトの立ち上げから企画・改修・運営に携わってみて実感したのは，宿という建築をきっかけとした「仲間づくり」による地域の成長です．弥禮のメンバーだけでは宿の運営はできないと考えていましたが，清掃を行う70代が中心となるお姉さん方をはじめとし，地域の方からの食材の提供，宿の畑や門松など季節の飾りをつくってくれる近所のお父さん，看板犬のモチくんなど，宿はたくさんの方に好かれてだんだん繋がりが大きくなり，想像以上のネットワークを生み出しました．

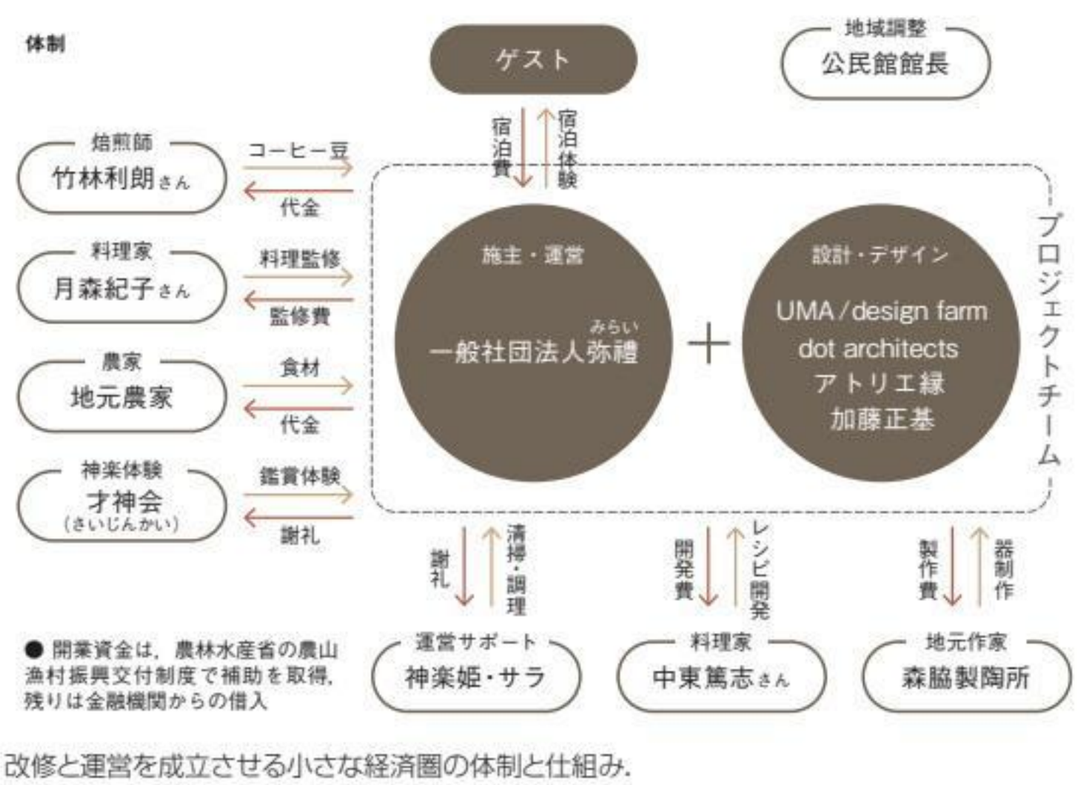
一方で，宿の基盤となる建築やグラフィック，写真，食，什器などの意味や価値も，宿泊客と地域住民の関わりを目の当たりにすることで実感してきました．当初，普段関わることのない建築家やデザイナーとのやりとりでは自分たちの気持ちをうまく伝えられているか，汲んでもらえそうかといったことで緊張していました．起業への緊張もありますし，地域からの注目もあります．そのため，改修中は実感のないなかでのコミュニケーションのため十分でない部分があったと思います．しかし改修後も，終わると思っていたやりとりは続き，今では少し，ぐいぐい話せるようにもなりました．

4年前，徳田さんの第一歩で始まった日貫一日ですが，その過程においては，地域でのネットワークづくり，建築家やデザイナーとの関係性づくりと，さまざまな場面での仲間づくりがありました．持続可能性を高めることに必要だったのは，建築家やデザイナーに頼りきらない，弥禮のメンバーによる地域の関係性を生み出す第一歩の集積でした．そして，ありきたりですが，たくさんの繋がりによって宿という建築も（本当に）魅力を増しています．新参者として地域から浮いていた建築も，噂をされ，中身を見られ，だんだんと認知されて地域に溶け込んでいます．奇しくも，コロナ禍における日貫一日は地域だけでなく，建築家・デザイナー・作家との繋がりにより魅力を大きくすることができています．

（湯浅孝史／一般社団法人弥禮（みらい）＋邑南町役場地域みらい課）

撮影：井藤悠紀子（中段）

安田邸前に集まった，運営に携わっている地域の人びと．



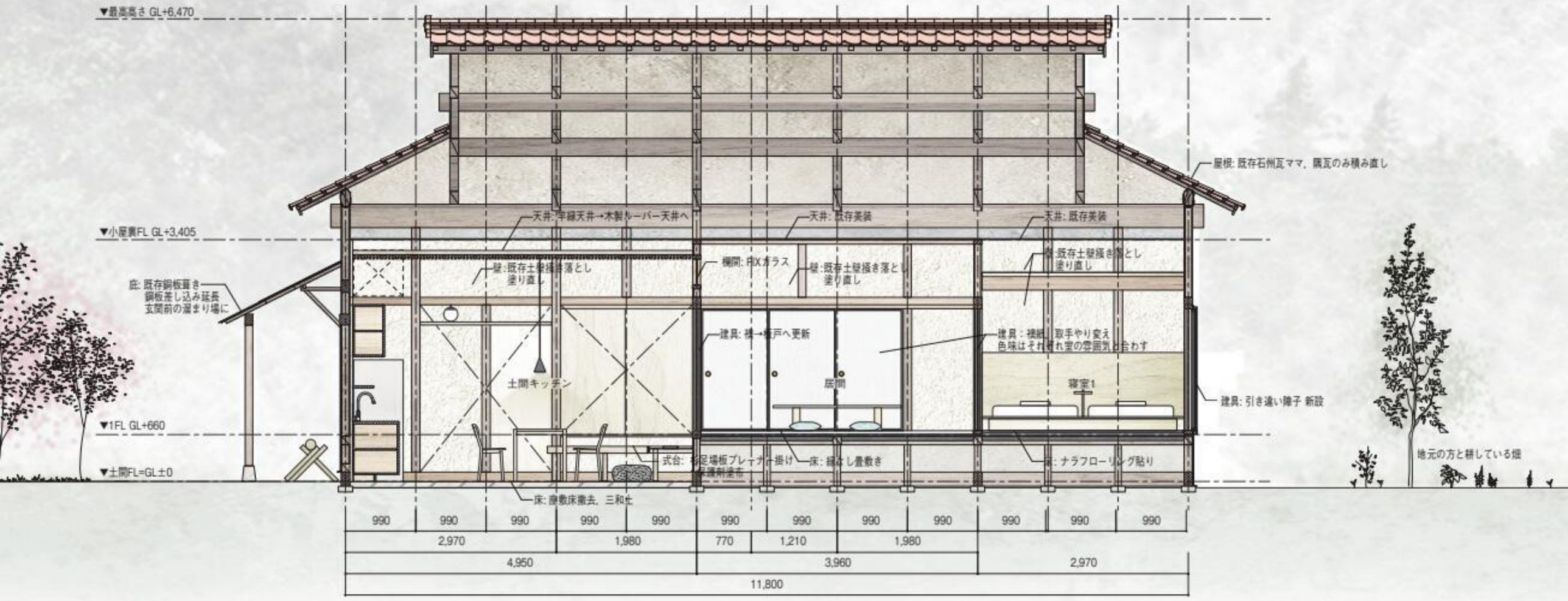
改修と運営を成立させる小さな経済圏の体制と仕組み．

一揖の南側外観．今回のプロジェクトの設計デザインに関わった人びとと一般社団法人弘益のメンバー．倉庫をフロント棟として設備機器の更新を中心に改修した．

一揖内観．改修に伴う清掃作業の合間に談笑する地域の人びと．正面の1,800×1,900mmのFIXガラスは，エントランスだった箇所に今回の改修にあたり新設された．
一揖はフロント棟であると同時に，カフェとして地域の人びとの交流の場であり，宿泊者への朝食提供やさまざまな体験の場ともなる．***

安田邸デッキから見る．築100年を超えた木造住宅で，外装は補修のみで，デッキを新設．
自然の気配を感じながら暮らすように滞在できるように意図されている．

安田邸キッチンダイニング．床を撤去し土間キッチンとすることで，料理をつくること，食べること，
くつろぐことが連続するように構成されている．この地域の民家に倣いルーバー天井を再編した．



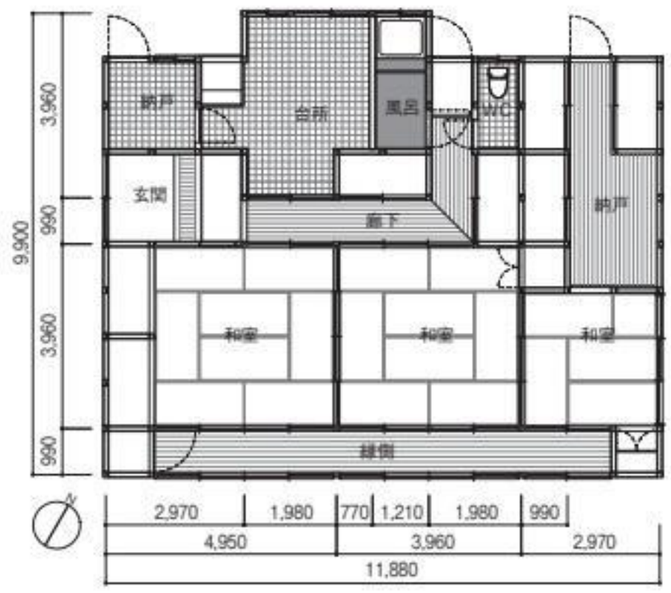
安田邸断面　縮尺1/100

民家を改修した宿泊棟「安田邸」

安田邸を改修する際に大切にしたことは，その建物単体を扱うのではなく，集落に立っている他の建物との歴史の繋がりの中で見るということだ．安田邸は，大分県庁舎，島根県庁舎及び周辺計画で日本建築学会賞を受賞した建築家．安田臣が両親のために設計した典型的な昭和初期の中廊下型の平屋の住宅であり，廊下を挟んで北側に水回り，南側に3間続きの座敷があるという構成であった．それ自体に特段の価値があるというものではないが，同じ集落にある田の字型プランの民家，有形文化財である旧山崎邸，現在は自治会館として使われている多聞館など，他の建物と合わせて見ていくと，江戸時代から昭和にかけての住宅の平面計画の変遷を追うことができる．

古いものは廊下がなく間や座敷が直接連続しており，次に2畳敷きの畳廊下と言われる前室のよう間が座敷の間に挟まる．そして最後に中廊下型の住宅に発展していく．

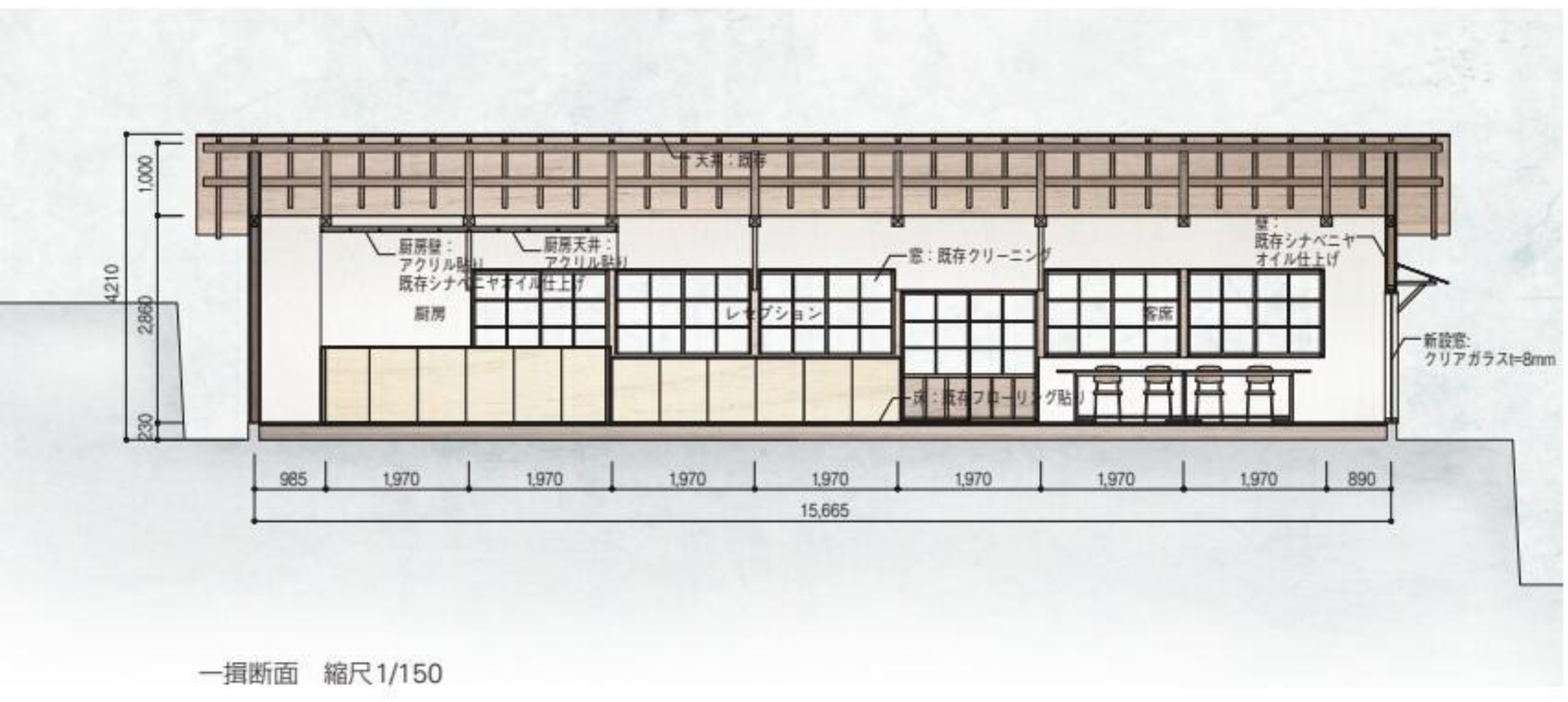
集落の歴史と接続し建築的に読み解くことで安田邸の存在が浮かび上がる．その存在感を大切にするために，中廊下を残しつつ改修を試みた．中廊下型のプランの弱点は，廊下を挟んで南の座敷と北の台所を分けてしまうことにある．安田邸では宿泊客自身で地元の美味しい食材を料理して食べて楽しむのがコンセプトなので，南にある一間をキッチンのある土間とすることで，料理すること，くつろぐこと，寝ることを連続させている．また，もともと座敷であった場所を土間に改修するにあたり，歴史的建造物の調査・修復設計・企画を行うアトリエ縁の清水徹さんと共に設計を行い，制振ダンパーで耐震性を高めつつ，座敷を土間に改修することで襖を板戸に変え，竿縁天井を木製ルーバーに変えるなど，土間に改修することで付随する民家のルールを丁寧に読み解き，無理のない最低限の改修とした．　（家成俊勝／ dot architects）



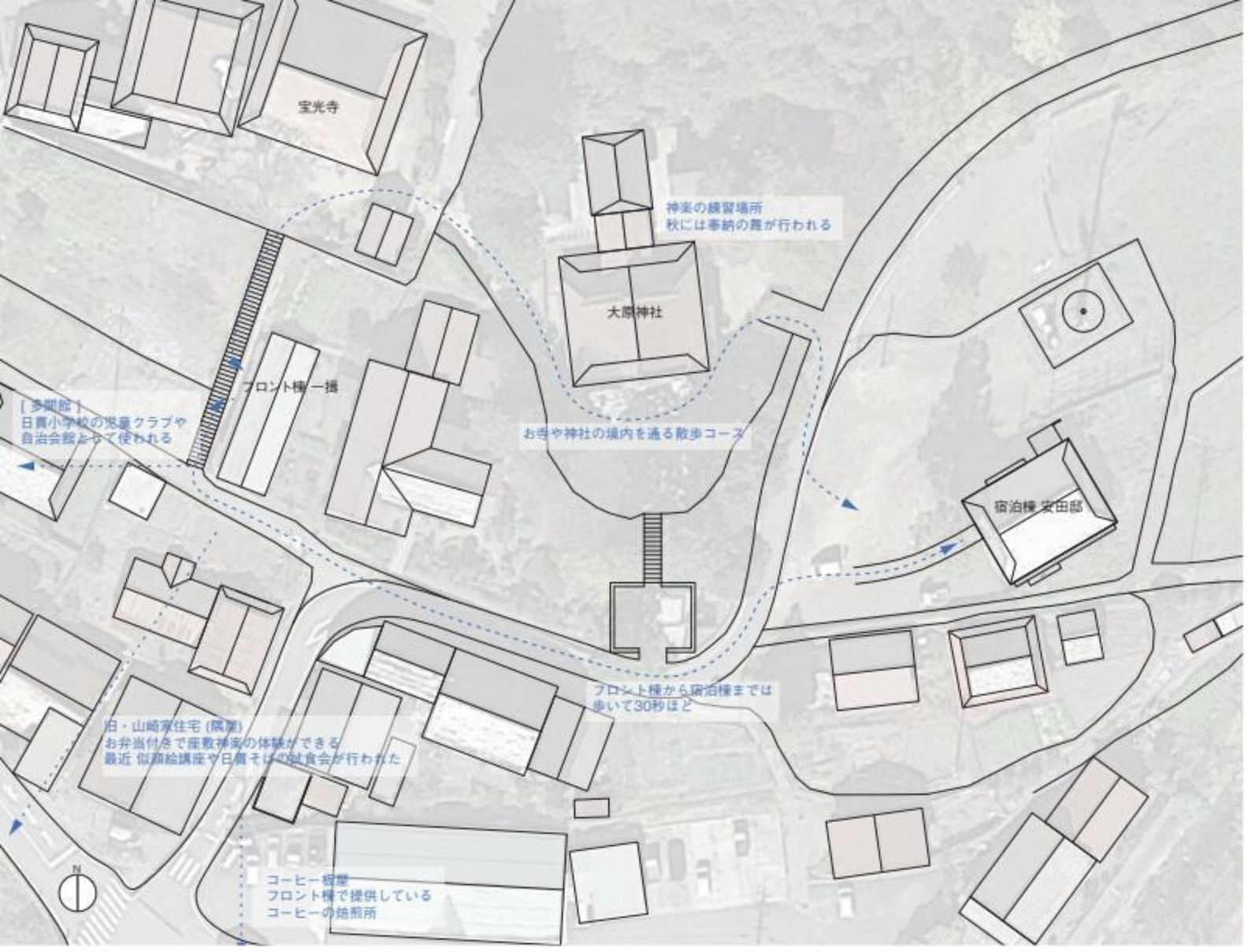
安田邸既存平面　縮尺1/250

住民の交流拠点を目指すフロント棟「一揖（いちゆう）」

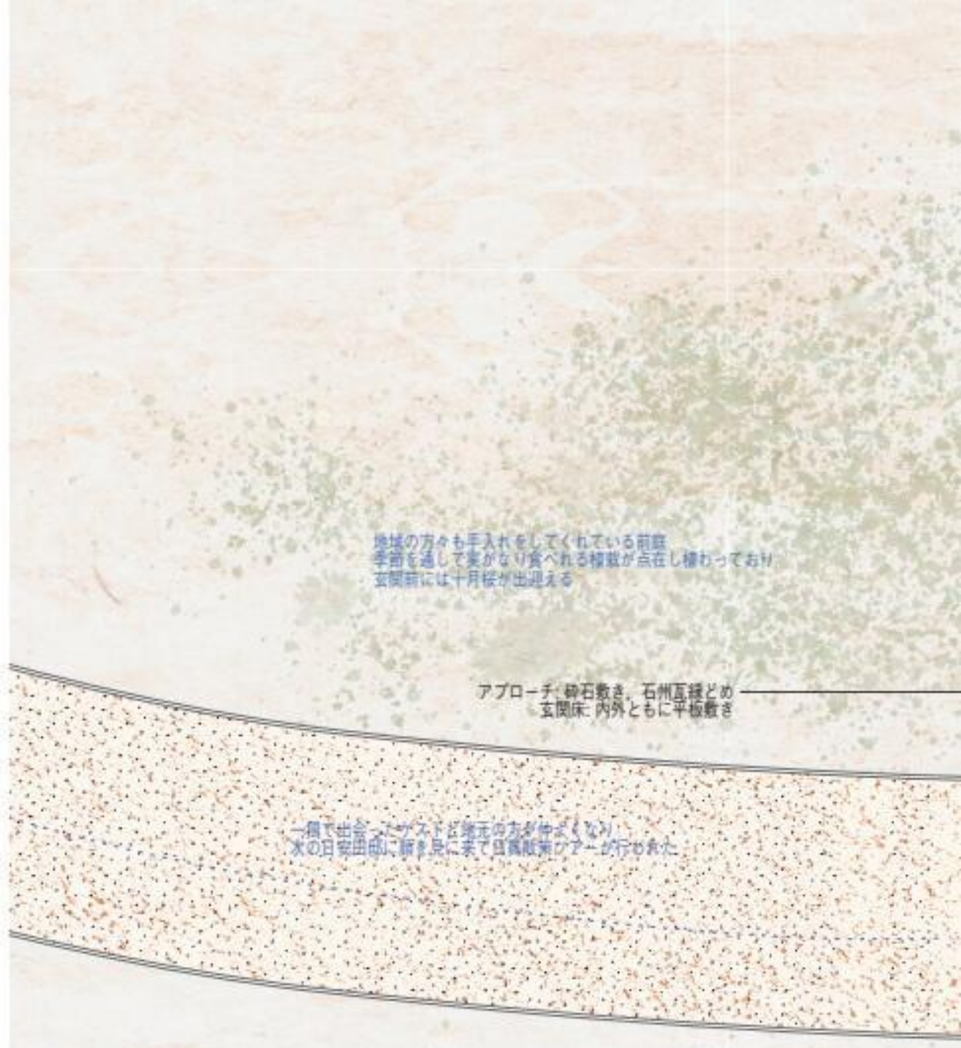
約30年前に電子部品を組み立てる小さな工場として建てられたこの場所は，その後倉庫となり，少し忘れられた存在になっていた．しかし部材に古い小学校の廃材が使われていたりと地域の方がたにとって思い入れがあるということから，日貫一日のフロント棟として再生することになった．主に，カフェ機能や宿泊者への朝食提供ができるよう，また地域活動の拠点となるための整備を行った．具体的には，地域の方と大掃除をするところから始まり，水回りをはじめとする設備更新のほか，かつてこの場所で使われていたローラーコンベア台をテーブルに転用するなど，もとの状態を肯定しながら，計画を行った．　（加藤正基）



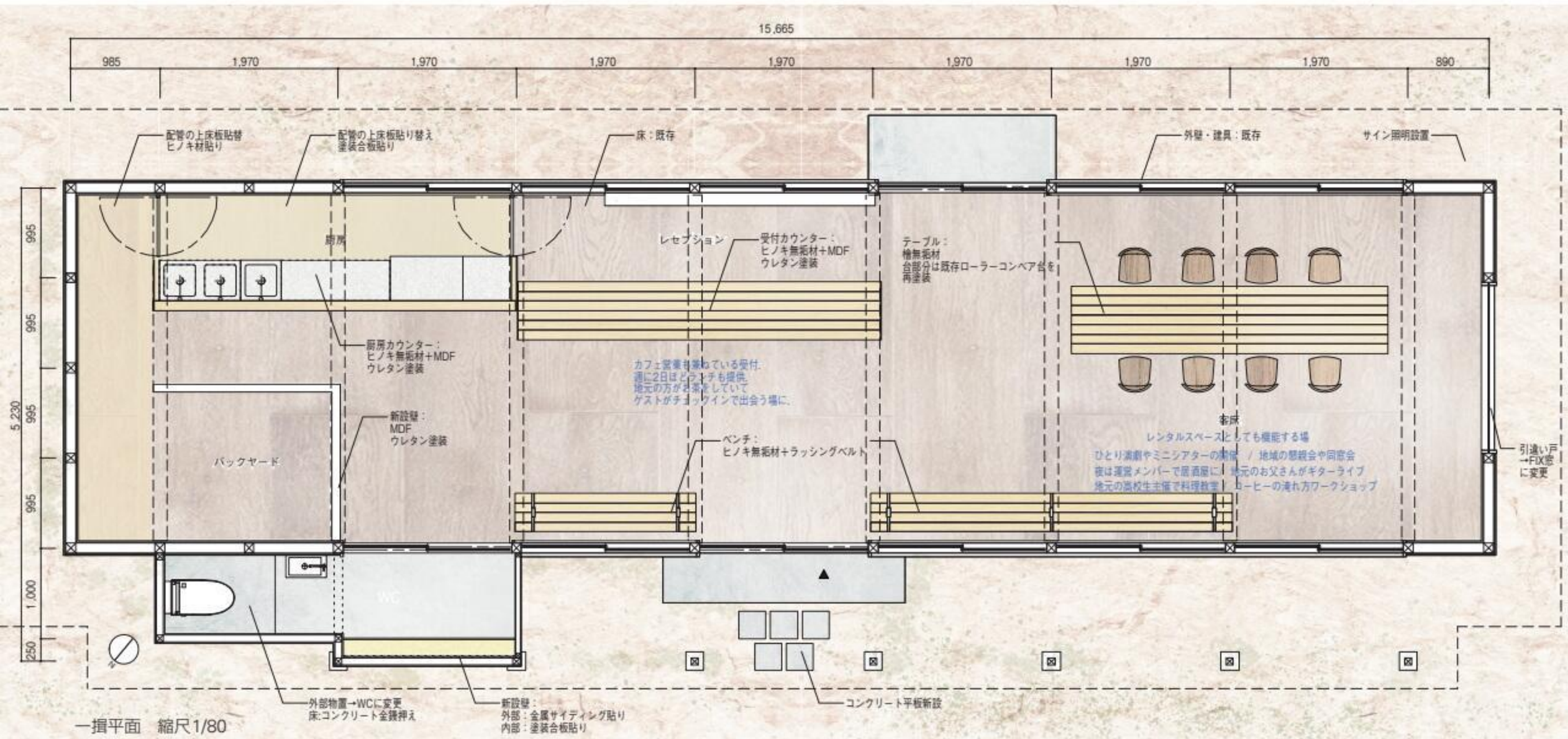
一揖断面　縮尺1/150



配置　縮尺1/1,000



設計　dot architects＋アトリエ縁（安田邸）
　　加藤正基（一揖）
　　UMA / design farm（ディレクション）
施工　井野下建築
敷地面積　1,139.22m²（安田邸）　233.39m²（一揖）
建築面積　112.67m²（安田邸）　66.78m²（一揖）
延床面積　103.92m²（安田邸）　66.78m²（一揖）
階数　地上1階
構造　木造
工期　2018年3月～8月（安田邸）　2018年1月～3月（一揖）
撮影　太田拓実　*撮影　衣笠名津美　**撮影　川瀬一絵
　　***撮影　UMA / design farm
（データシート204頁）



一揖平面　縮尺1/80

1：地域の方による一揖改修時の清掃．＊＊＊　2：安田邸の改修前調査．生き字引の公民館館長から貴重な証言の数々を得る．＊＊＊　3：一揖エントランス．階段の先は宝光寺．＊
4：赤瓦屋根の民家が残る日貫の集落．＊＊　5：日貫で体験できる，神楽青年隊による神楽鑑賞．＊　6：一揖で体験できる，地域の方による宿泊者への朝食提供．地域の食材を味わえる．＊

蒲郡園芸サポート施設

設計　architecture WORKSHOP／北山恒＋工藤徹＋江島史華
施工　丸七建設興業　タカミハウス工業　小池商事
所在地　愛知県蒲郡市
GAMAGORI GARDENING SUPPORT CENTER
architects: ARCHITECTURE WORKSHOP

既存温室，改修温室，新築温室・屋根架構，移築温室からなる園芸サポート施設．花の栽培から出荷までの機能をひと筆書きの動線上に配置．

北西側俯瞰．屋根や壁には農業用資材を用いている．新築の屋根付き作業場（緑化プラント）は，200mm・250mm角のスチール製柱と75㎜×120mmのスギ材梁によって構成されており，屋根には温室用ビニルを使用．大型トラックによる搬出入のため，5,500mmの高さとした．

西より見る．周囲にはさまざまな屋根型が連なる．

「出来事」からつくる「構造」

農業関連の産業施設である．建築の「デザイン」が介在する必要のない施設なので，余剰の予算はない．農業用資材は安価でタフなのでこれまでも建築に転用してきたが，今回は本当の農業施設なので，極限のコストで一体何ができるのかやってみようと思って作業を始めた．

敷地は既存農地で，そこにある温室などの既設の農業工作物は活用し，さらに近くに所有する流通施設の構築物は移設して再利用する．ということなので，その実測調査を丹念に行った．それは「持ち合わせ」の構築物・工作物を「まだ何かの役に立つ」という原則で集めて吟味することから始まる．何もない更地に計画するのとは異なり，まずはこのような「後ろ向きの行為」から始まる．すでにその場所にあるものはできるだけそのままで利用し，新しく設けるレディーメイドの温室も「持ち合わせ」のひとつとして再利用や転用を行う．2棟だけ新設の温室を建設した他は，既設の温室や，近くの流通施設で使っていた工作物を移設して全体をアッセンブルしている．既設の温室フレームを使って作業空間にする棟は最小限の資材と設備によって生活環境を整えた．将来的には，今回は予算の都合上断念した果樹園や中央通路の延伸を計画している．

そして，既存温室，改修温室，移設温室に囲まれる場所に，新設で屋根付き屋外作業場を設けた．大型の車両が入るという条件があったのでまともに計画すると予算を大幅に超えてしまう．そこで小径の木材を組み合わせて大架構をつくることにし，構造家の佐藤淳さんに設計を依頼した．スタディ模型をいくつもつくって検討を重ね予算内に納まる架構体にたどり着いた．それは田園風景の中でモニュメントとなり，そこで働く人たちに愛されている．

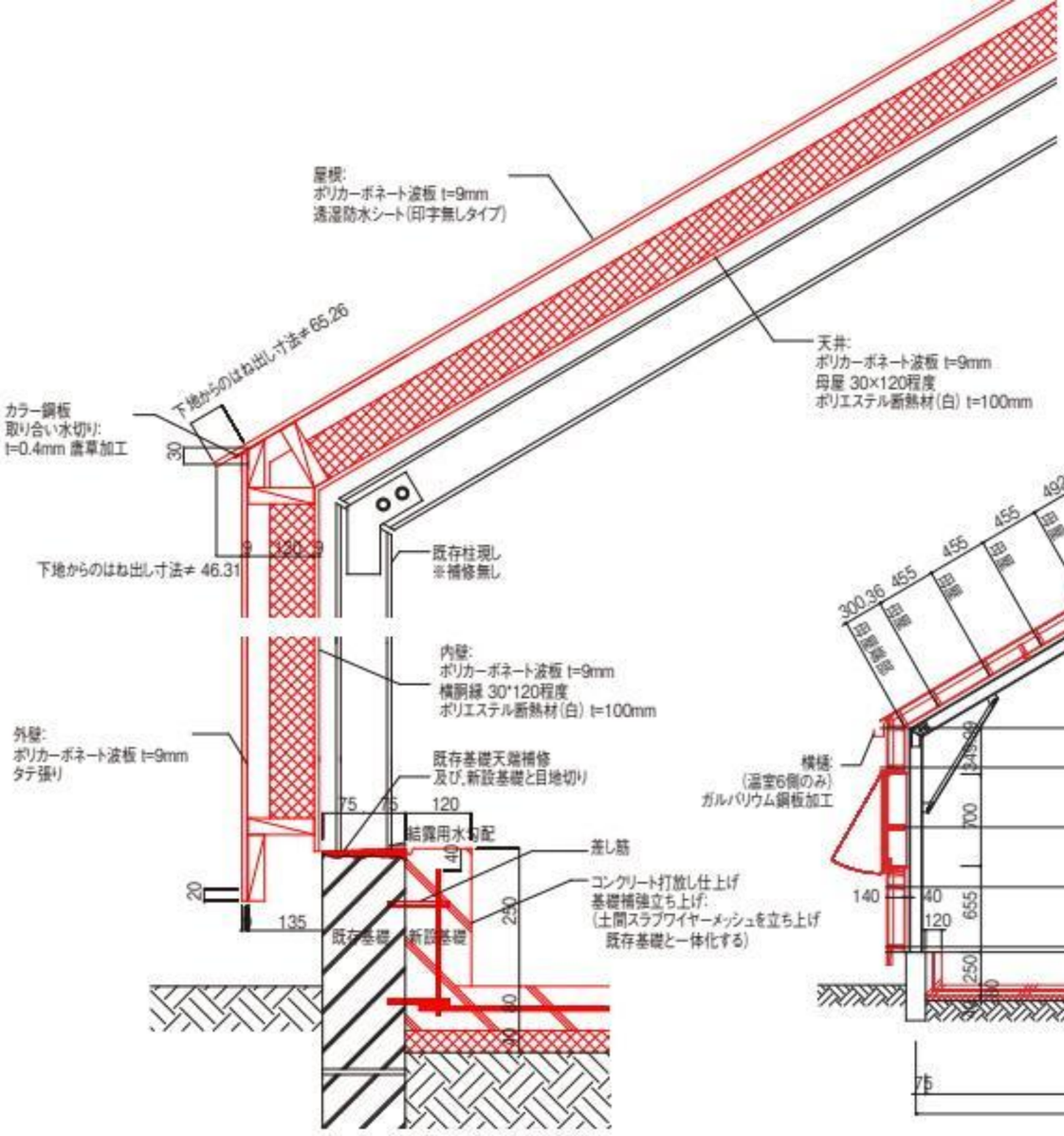
ここで検討された建設行為は「ブリコラージュ」という概念であるが，作品ではないので完成という時間概念がない．場当たり的な出来事に小さな最適解が与えられ，新たな空間構造がその都度現れる．そしてさらに出来事は継続する．再利用や転用という手順はすでに私たちの都市の中に始まり，そこに，これからの建築や都市の手順が開かれている．そしてそれが，豊かな社会をつくるのだ．　（北山恒）

温室7（梱包所，改修）から，左に温室6（出荷場，改修），右に温室4（主動線，既存）を見る．温室を連結する動線と主動線が並行に並ぶ．

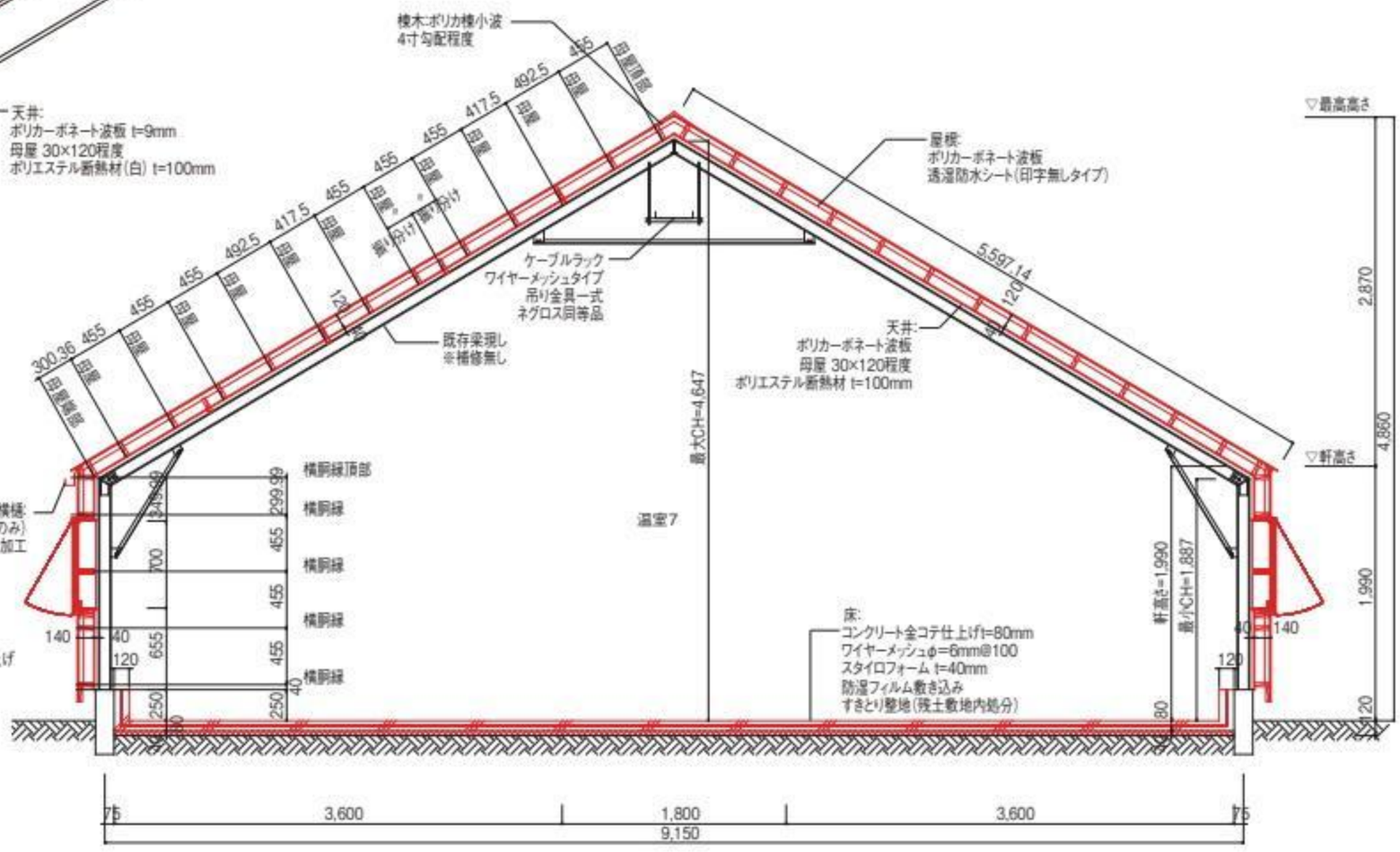
温室6（出荷場，改修）から緑化プラント（新築）を見る．

設計　建築　architecture WORKSHOP
　　構造　佐藤淳構造設計事務所
　　設備　ピロティ
施工　丸七建設興業　タカミハウス工業　小池商事
敷地面積　4,941m²
施設面積　1,805m²
構造　緑化プラント：木造　一般倉庫：鉄骨造
　　その他の温室：木造
工期　2020年3月－9月
撮影　新建築社写真部（特記を除く）
（データシート204頁）

温室7から温室4方向を見る．施設の利用者が自らで工夫しながら使用できるよう，完成しない建築を目指した．



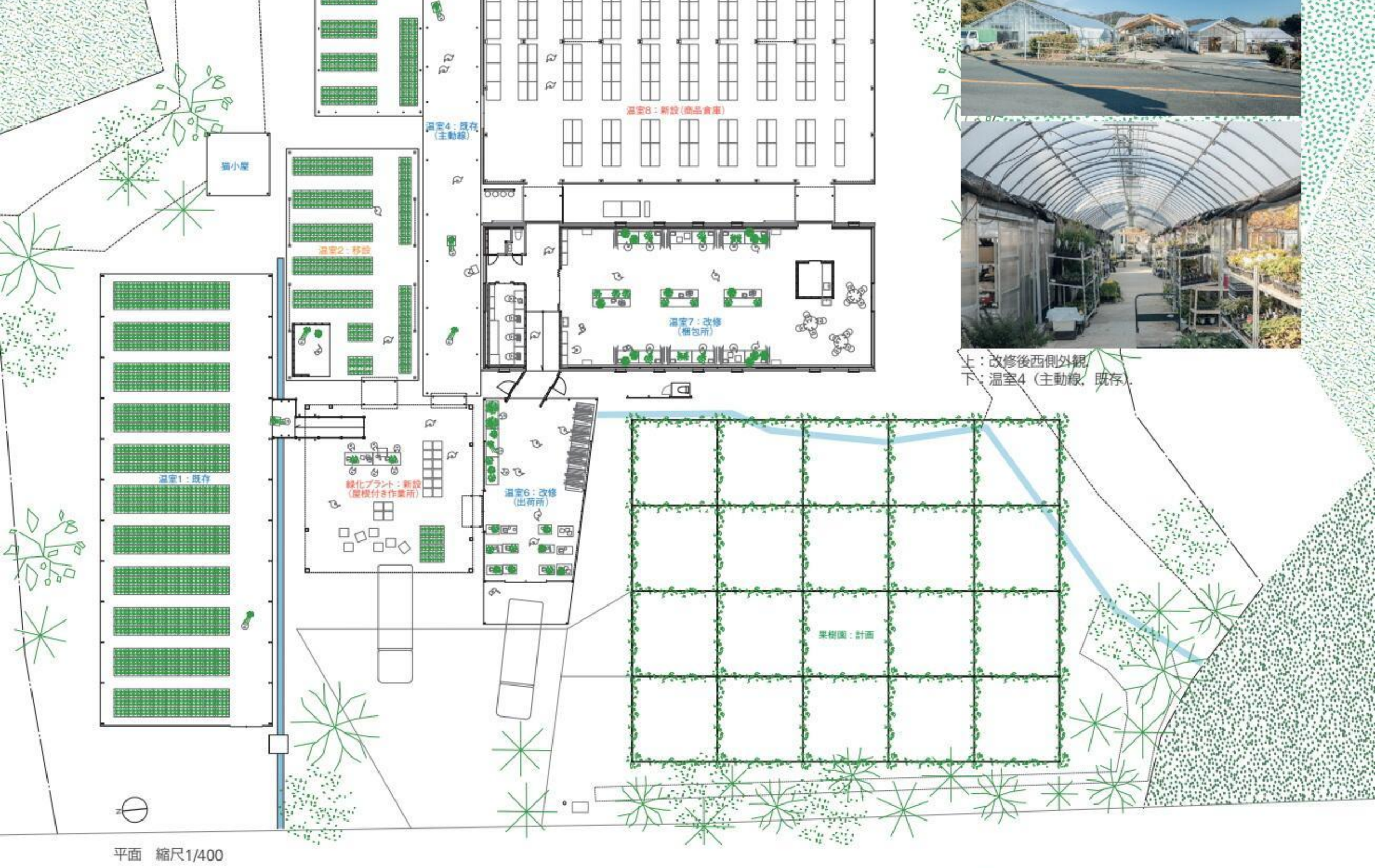
温室7断面詳細　縮尺1/20


検木:ポリカ棟小波
4寸勾配程度
455
母屋間隔
492.5
417.5
母屋
455
455
455
455
455
492.5
455
455
300.36
455
母屋
母屋
母屋

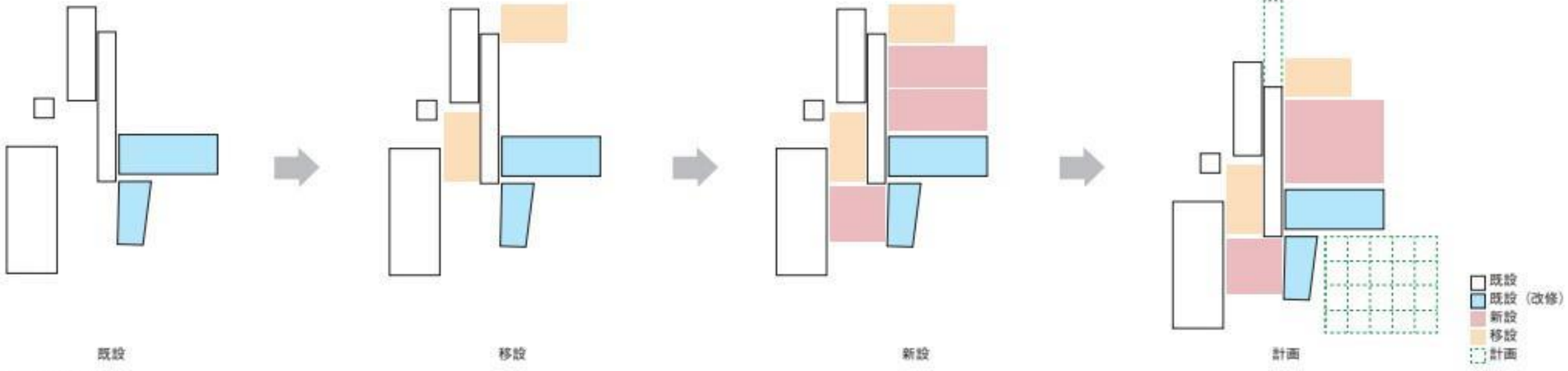
提供：architecture WORK SHOP

改修前西側外観.

上：改修後西側外観
下：温室4（主動線，既存）.



平面　縮尺1/400



計画の流れ

断面　縮尺1/300

WAKKA

設計　倉林貴彦建築設計事務所
施工　丸馬銘木
所在地　愛媛県今治市
WAKKA
architects: KURABAYASHI ARCHITECTS

しまなみ海道が通る大三島に計画された．宿泊，飲食，休憩機能を持つ観光拠点施設．L字型の敷地内にレベル差を付けながら各棟を配置し，海への眺望とシークエンスを確保した．敷地の最も奥に位置するカフェの前面には海に面した庭が広がる．海辺のコンクリート護岸の立ち上がりを隠しながら緩やかに敷地境界をつくるため，高さ約1.2mの緑の丘を設けた．

瀬戸内へのシークエンス

瀬戸内海に浮かぶ6つの島々を経由して尾道と今治を結ぶしまなみ海道は，海と島々の美しい景観や走りやすいコースにより，国内外から多くの人びとがサイクリングに訪れ，サイクリストの聖地とも呼ばれている．自身もサイクリストであり，瀬戸内にルーツを持つ建主は，この素晴らしい環境をより多くの人に楽しんでもらうため，サイクリストのみならず，一般観光客や地元の人びとの憩いの場となるカフェや宿泊施設，そしてサイクリングをはじめとするさまざまなアクティビティをサポートする拠点をつくろうと決意．全長70kmに及ぶしまなみ海道のちょうど真ん中に位置する大三島をその地と定め，東京から移住した．

敷地は海に面し，向かいの生口島と多々羅大橋の壮大な景色を望む好立地．この景色と瀬戸内特有の穏やかな気候を存分に楽しんでもらうため，室内は最小限として，床面積の半分以上を半屋外空間とすることとした．

その一方で，国道に面する間口は狭く，海までは100mあり，隣地も海側はコンクリートの護岸，北側は荒涼とした砂利敷の空地，南側の民家へはプライバシーの配慮を要するなど，シークエンスを主軸とした丁寧な設計が求められた．

そこで，敷地近くの大山祇神社にも見られる回廊を参照．管理棟，回廊・水まわり棟，カフェ棟と各機能に応じて平面，断面を変えながら細長い半分外部空間を南側敷地境界に沿って繋げていき，植栽帯を挟んだ敷地北側には，コテージとドミトリーが多々羅大橋への軸線に合わせて雁行して並ぶ，柔らかく囲いながら海へと開く配置とした．

これによって，隣地への視線を限定しながら，海への期待感を高めるアプローチとし，また，カフェのような不特定多数のための場と宿泊の場を海側に集約して配置しつつも，カフェのひな壇状の床レベルや，コテージを高床にして盛土のスロープで地上レベルと連続させるなど，海との距離感を縮めながら，人と人との距離感は適度に生まれるような断面計画とした．

さらに自転車を傍らに置いておけるような設えと空間的に余裕を持たせることによって，敷地内の至るところが人と自転車，両者の居場所となり，サイクリストもそうでない人も思い思いにゆったりとした時間を過ごせる場となるよう意図している．（倉林貴彦）

設計　建築　倉林貴彦建築設計事務所
　　構造　KKSエンジニア
施工　丸馬銘木
敷地面積　3,995.67m²
建築面積　765.74m²
延床面積　498.09m²
階数　地上1階　一部地上2階
構造　木造
工期　2019年2月～2020年3月
撮影　新建築社写真部
（データシート204頁）

回廊・水回り棟より海方向を見る．幅2m，長さ約60mの回廊は敷地の南側に寄せることで南隣地への視線を遮り，北隣地との距離を取りながら海まで繋がる．

管理棟．東西両面には2×8材を2×10材で挟み込んだ大梁を用い，雨風や強い日射を遮る大きな庇を張り出すことで，間口幅10.9mのガラス引戸を全開にすることができる．

管理棟の西側外観．軒下にはサイクリストが自由に使用できるツールボックスやメンテナンススタンドが置かれる．

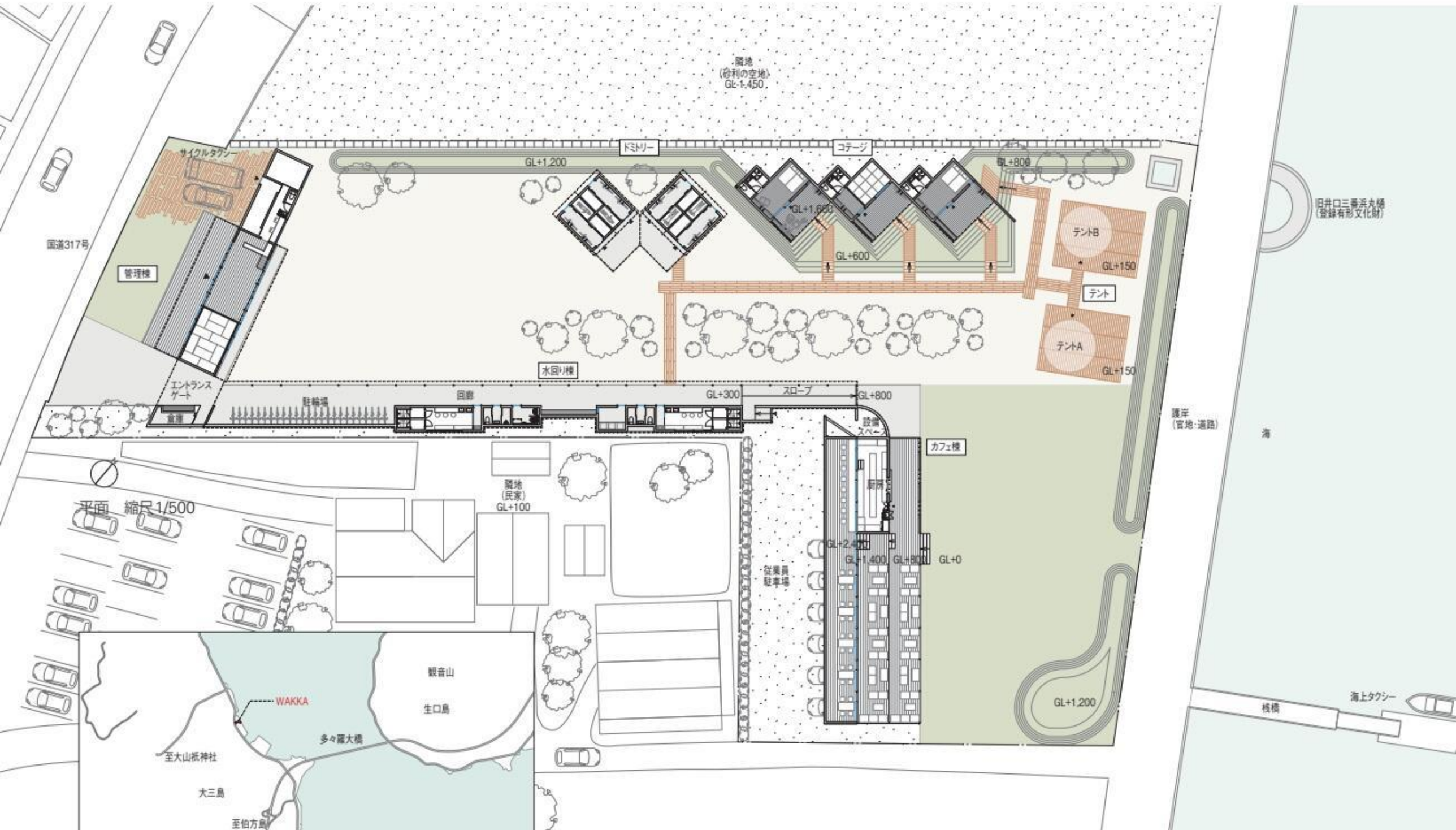
回廊・水回り棟を北より見る．駐輪場，ベンチ，水回り機能を回廊に沿って細長く配置．

コテージテラス．奥にカフェ棟が見える．

管理棟．スタッフルームなどの管理機能と，フロント，ラウンジ，エントランスゲートを兼ねる．室内の小上がりは，誰でも利用できる休憩スペース．

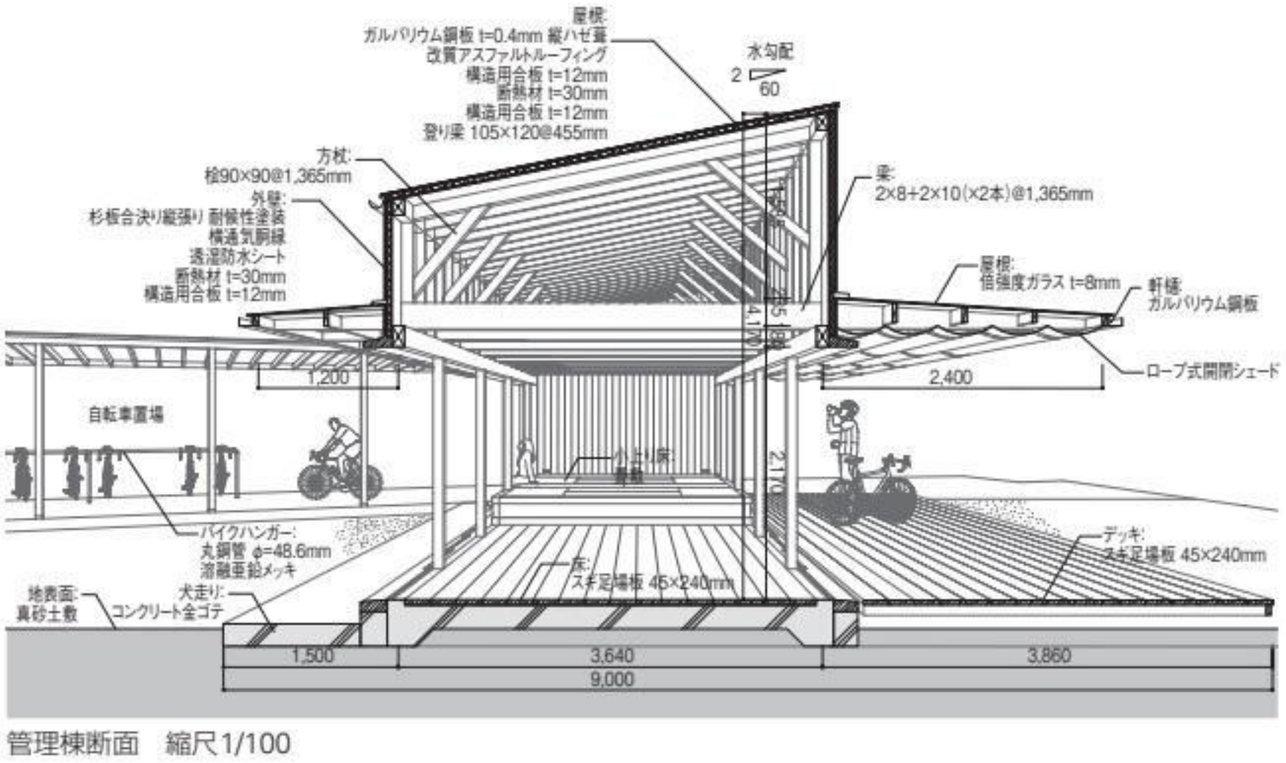
南東より見るコテージ．多々羅大橋への軸線に合わせ，45度角度を振って雁行配置．盛り土で設けたレベル差により，動線を行き来する利用者との距離を保ちながら，より広い眺望を得ることができる．

カフェ．床にレベル差をつけ，どの席でも視線を遮られることなく眺望を楽しめる断面計画とした．3×3mの余裕あるグリッドとし，自転車は席まで持ち込みが可能．屋外の屋根には水平剛性を取るブレースを45度の角度で全グリッドに入れることで，多々羅大橋への軸線が強調されている．



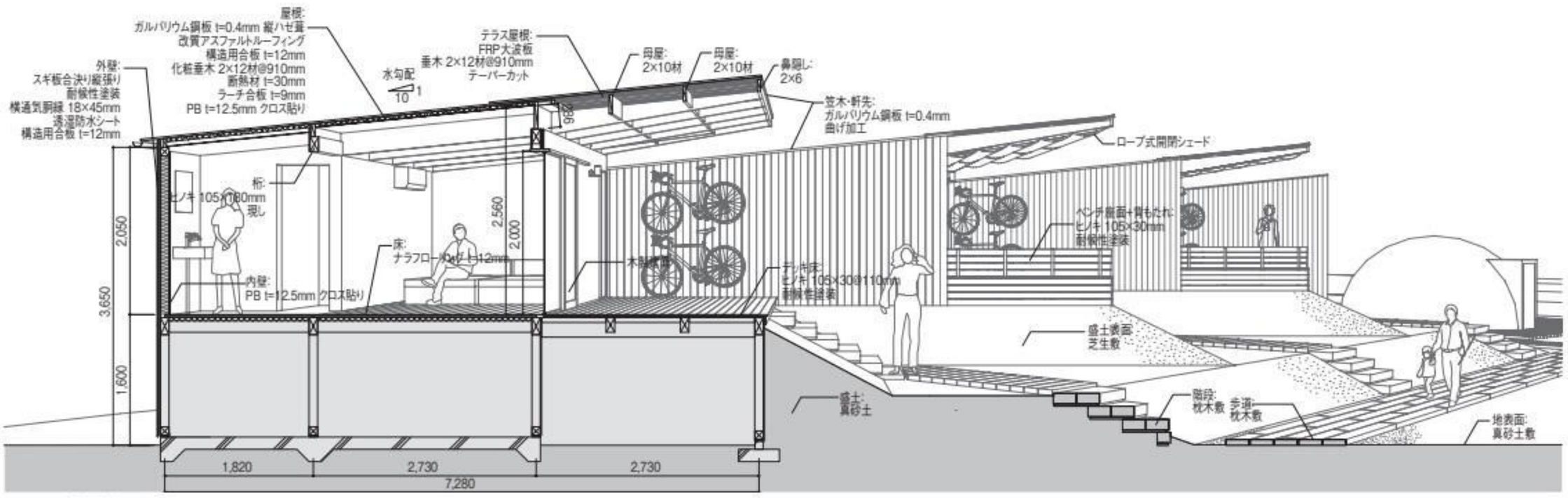
平面　縮尺1/500

配置　縮尺1/10,000



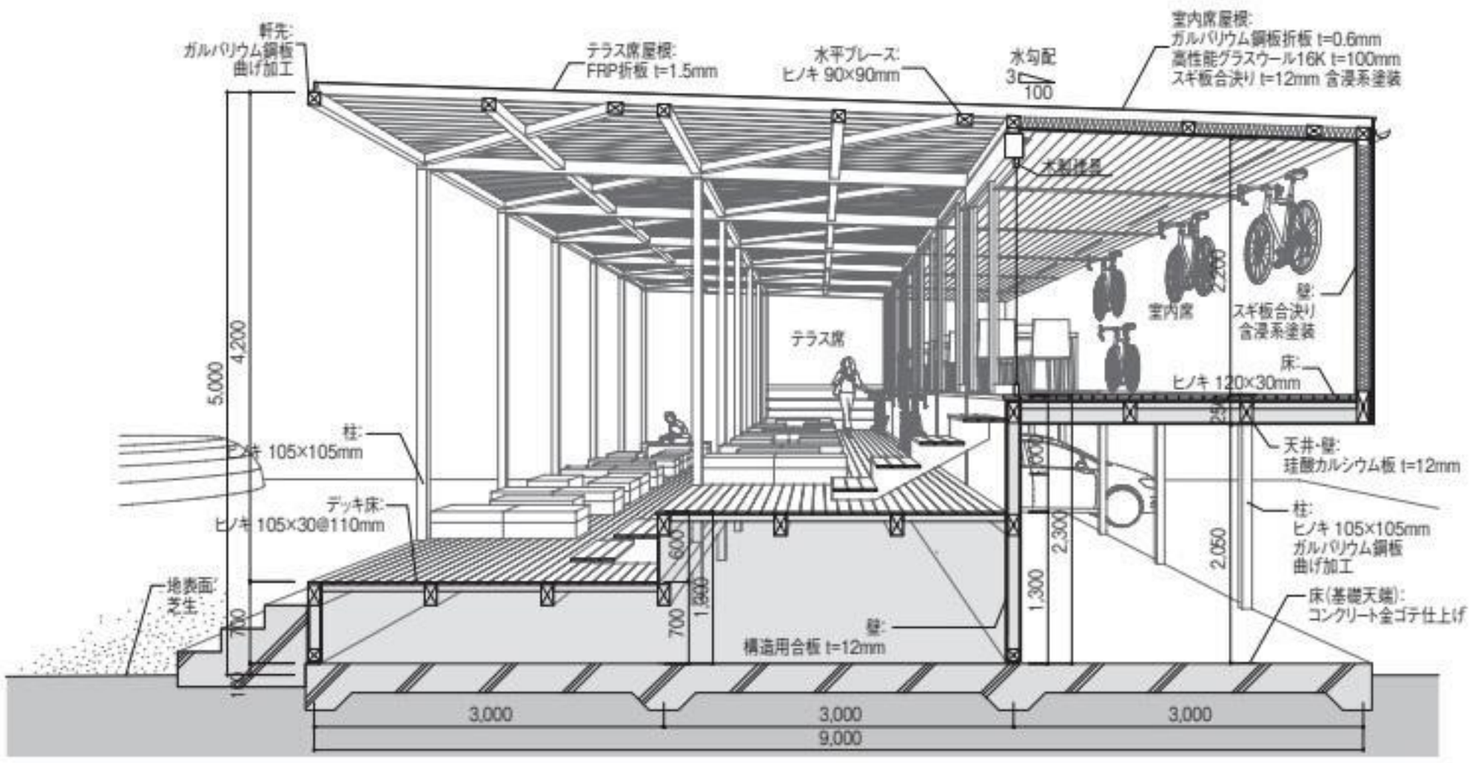
管理棟断面　縮尺1/100

南東から見る俯瞰．桟橋は海上タクシーやツアー・アクティビティでの船利用の際に活用されている．



コテージ棟断面　縮尺1/100

上：コテージ内観．自分の自転車と海への眺望を同時に楽しむための窓を設けた．
下：ドミトリー内観．



カフェ棟断面　縮尺1/100

カフェ棟東側外観．

Yanagase PARK LINE 2020

設計　柳ヶ瀬を楽しいまちにする（総合プロデュース）
　　ミユキデザイン＋伊藤維建築設計事務所（会場構成）
施工　セルフビルド
所在地　岐阜県岐阜市

YANAGASE PARK LINE 2020
architects: YANAGASE AWESOME TOWN, MIYUKIDESIGN + TAMOTSU ITO ARCHITECTURE OFFICE

俯瞰．公共空間活用の実験として，岐阜市中心市街地の大通りである金華橋通りの車道に柳ヶ瀬商店街と連続するかたちで「あそべる道路」の公園を出現させるプロジェクト．平日・土日の5日間にわたり開催された．

かいだんの島から北側を見通す．出展者・活動エリアのゾーニングに加え，パレットと木材でさまざまな空間の手がかりとなる「島」（パレット列島）を配置．来訪者はそれぞれのゾーニングに合わせて遊んだり休んだり飲食したりできる．

商店街と共にある「公園」の風景

岐阜市は，交通社会実験「トランジットモール」とあわせて，中心市街地の目抜き通りを一部封鎖した公共空間活用の実験を年に一度試みてきた．Yanagase PARK LINEはその一環として，柳ヶ瀬商店街に隣接する金華橋通りの区間を「あそべる道路」の公園に設えるもので，市と「柳ヶ瀬を楽しいまちにする（通称：まち会社）」との協働で2019年から行われている．市が歩車のゾーニングを行い，2020年11月11日（水）～15日（日）の5日間，約6車線ぶんの道路上の敷地に約300m×15mの「公園」が出現することとなった．まち会社の総合プロデュースのもと，今回私たちはまち会社の中心メンバーでもあるミユキデザインと共に，この「公園」の会場構成に携わった．

まち会社が着実に育んできた内外の店・人のネットワークを活かした出展者，そして週末に同時開催のサンデービルヂングマーケットといったコンテンツは十分魅力的だった．フードトラック・ワーキングエリア・休憩エリア・スポーツ・パフォーマンスなどがよいまとまりで共存するためのゾーニングを行うと共に，それらを束ねて空間化する際に大切にしたのは，全体を「商店街と共にある公園」として仕立てることである．レンタルパレット160枚と，私たちがストックしていた廃材，新規購入材などを組み合わせ，いくつかの「島」を構成した．商店街の形態を引用したり，既存歩道側の樹木やベンチと関係付けたり，中央分離帯をハックしたりすることで，敷地を超えた広がりの手がかりとなる，大きめの要素を点在させている．また岐阜大学出村嘉史研究室の学生が商店街を巡り，借りたお店の家具を寄せ集めてつくる「まち家具広場」を提案した．商店街の空気を公園に持ち込むと同時に，家具に店の位置・情報などを付したタグを取り付け，訪れた人びとの興味を商店街に繋ぐ．全体として，既にある人・活動のネットワーク（と，その将来の可能性）が，形・モノと結びつき，より確かで共有可能な空間・風景として立ち現れることを期待した．

岐阜市の都市計画の経緯を紐解くと，この「公園」は恒久化できるとも想像される．戦前からの計画で車交通の要として8車線に整備された金華橋通りだが，交通量が想定外に増大した昭和40年代以降は，主要幹線は追加整備した外側の環状線にシフトしたため，今やこの幅広の中心軸はむしろ歩行者中心の都市の象徴として成立するはずである．そんな中，平日・休日それぞれのかたちで「公園」と「商店街」が連続する幸せな風景を見られたのは，近未来への大きな希望になったと思う．

（伊藤維）

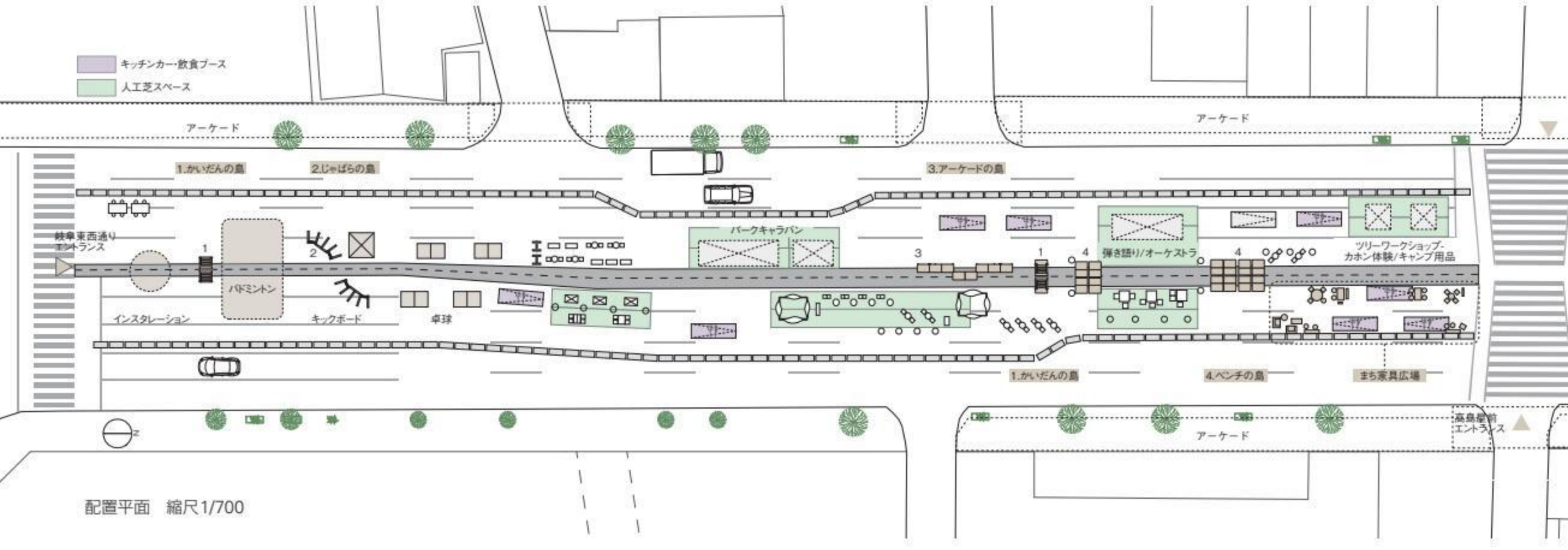
Yanagase PARK LINEを見下ろす．設計者で設えた要素に加え，出展者が持ち込んだブース・屋台・テントなどが並ぶ．8車線のうち中央分離帯を挟んだ3車線を公園化し，残りの車線は路線バスをはじめ普段通り運用された．

かいだんの島．登り降りで中央分離帯を越え，頂上から通りを見渡す設えで活動を誘発．

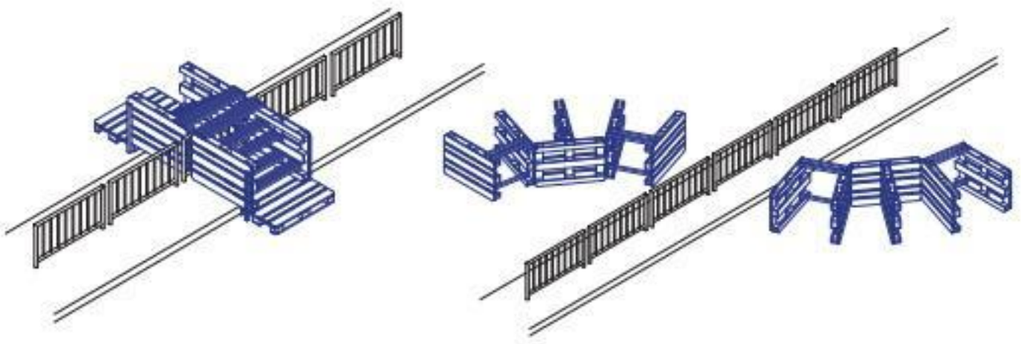
中央分離帯を挟んでバドミントンするエリアなど，さまざまなゾーニングを行っている．

じゃばらの島．キックボードのスタンドとしてパレットを使っている．

まち家具広場．商店街の店から室内家具を借りて飲食・休憩ゾーンとして設えている．

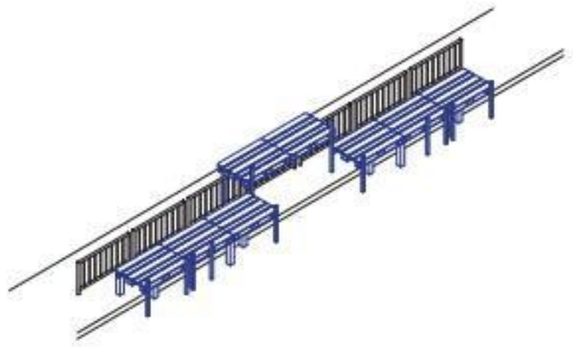


配置平面　縮尺1/700

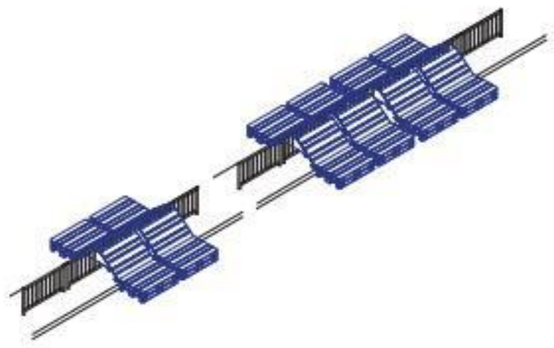


1.かいだんの島．中央分離帯を越える設えとして，パレットに角材を挿し込み固定して製作．パレット6枚と30×40mm角材を使用．

2.じゃばらの島．通り沿いのアーケードにある模様から引き出した曲線を，角材などで繋いだパレット12枚で表現．



3.アーケードの島．通り沿いのアーケードの形状・ハシゴを模して，パレット8枚・45mm角材・柱材で構成．カウンターは中央分離帯でも支持を取っている．



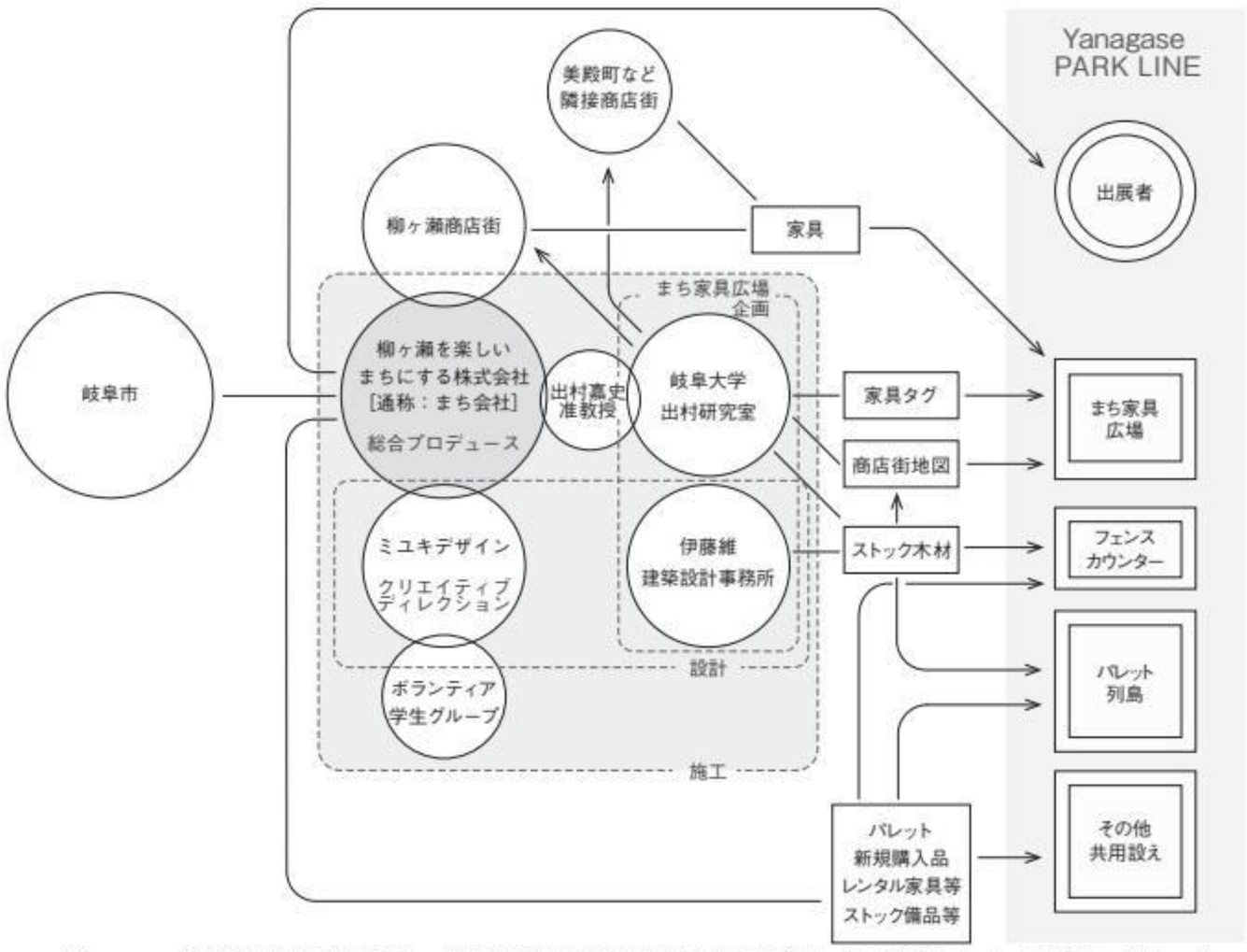
4.ベンチの島．分離帯にもたれるように背中合わせに設置．斜めのパレットは側面から合板で固定している．寝転がった際には商店街を仰ぎ見る視点が得られる．

市の中心部におけるパブリックスペースを活用した取り組みとしてのトランジットモール

岐阜市では，人口減少や少子高齢化，交通環境の変化，市民ニーズの多様化などさまざまな課題に対応して，道路，公園などの公共空間や民間の敷地を含めたパブリックスペースを，より有効に活用することが求められる．特に街の中心部では，より活きた空間，魅力的な空間にしていくことが重要である．

こうした中，平日も含めた5日間にわたって，本市の都市の軸となる金華橋通りをフィールドに，公共交通の利用促進や賑わい創出を目的とした交通施策である「トランジットモール」交通社会実験を実施した．今回の実験では，南進・北進の両方向で，片側4車線から片側1車線に車線を減少する交通規制を昼夜連続して行い，周辺交通への影響を調査すると共に，「Yanagase PARK LINE」をはじめ日常的な道路空間の新たな使い方についても検証した．この結果を今後のパブリックスペースの活用に繋げていく．

（木股雅仁／岐阜市都市建設部交通政策課主査）



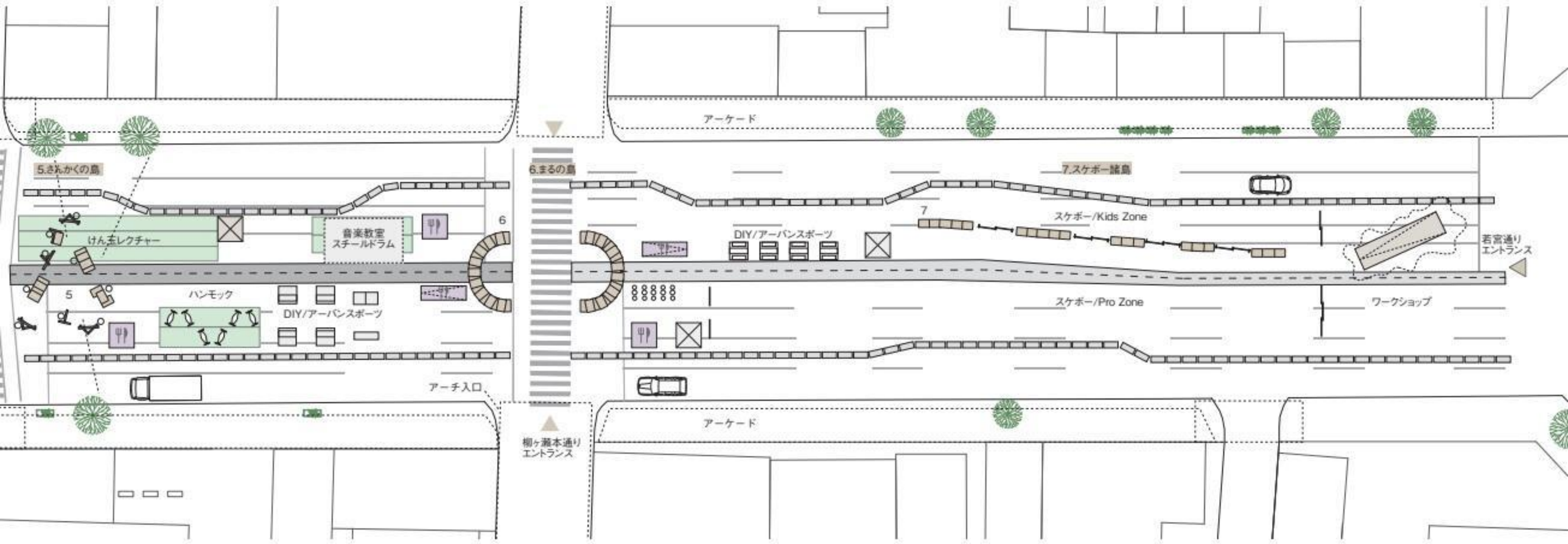
Yanagase PARK LINEの仕組み．岐阜市から委託を受けた「まち会社」を中心とした人・店のネットワークと，レンタル品・ストック木材などのモノのネットワークで構成される．

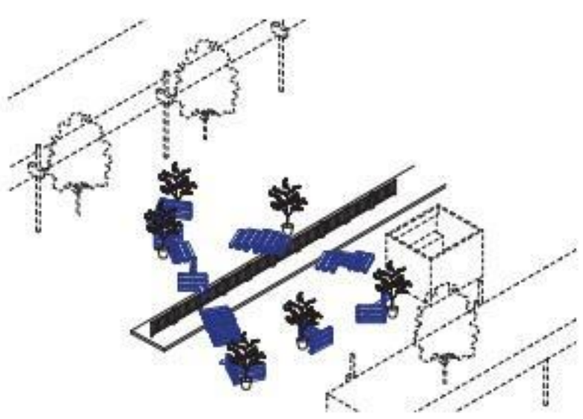
アーケードの島．アーケードの形を模したテーブルやカウンターとしている．

ベンチの島．道路に寝転がるようにしてリラックスできる場となる．

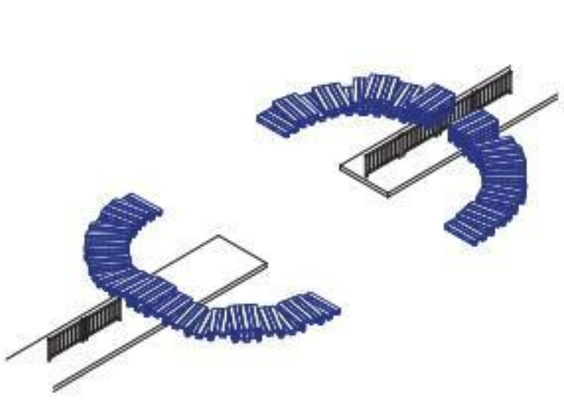
さんかくの島．ベンチなどで構成され，鉢植えも配置した，休憩できる植栽の領域．

スケボー諸島．スケートボードエリアの境界線としたスケボー諸島は子どもの遊具にもなった．

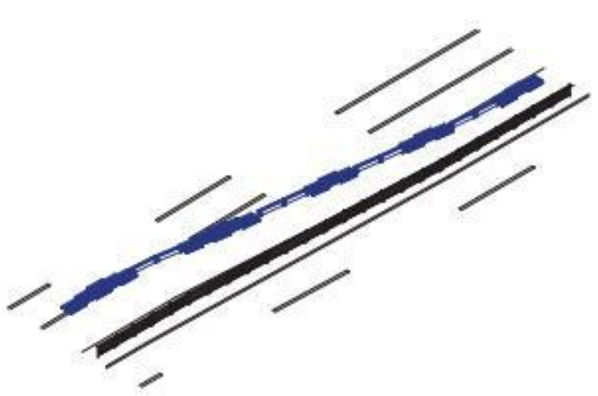




5.さんかくの島．3本の大きな既存樹木を手がかりに要素を三角形状に配置し，「公園」と都市の緑を繋ぐ．ベンチはマツの板材をパレットの隙間に通してつくる．



6.まるの島．柳ヶ瀬本通りのアーケード形状を平面に落とし込んだ島．ベンチになると同時に，パレードやパフォーマンスの舞台になる．



7.スケボー諸島．スケートボードのゾーンを歩行者動線と共存させながら，観客席としても機能する．前年に使用した仕切りと合わせて機能する．

設計　柳ヶ瀬を楽しいまちにする
（総合プロデュース）
ミユキデザイン＋伊藤維建築設計事務所（会場構成）
施工　セルフビルド
敷地面積　約4,500m^2（道路：8車線中6車線　最大幅約16m）
工期　2020年11月10日～13日
開催期間　2020年11月11日～15日
撮影　伊藤維建築設計事務所
*撮影　ミユキデザイン
（データシート206頁）

広域配置　縮尺1/30,000　金華橋通りは岐阜駅から北上する三大通りのひとつで，柳ケ瀬商店街を含む中心市街地を貫き岐阜市民会館・ぎふメディアコスモスへと繋がる．

「まるの島」で行われた演奏の様子．正面にまるの島の形状のもととなった柳ヶ瀬商店街アーケード入口のアーチが見える．

Hisaya-odori Park

久屋大通公園整備運営事業

設計　**大成建設一級建築士事務所**（公募対象公園施設）　**日建設計・大成建設一級建築士事務所**（特定公園施設）

施工　大成建設

所在地　愛知県名古屋市中区

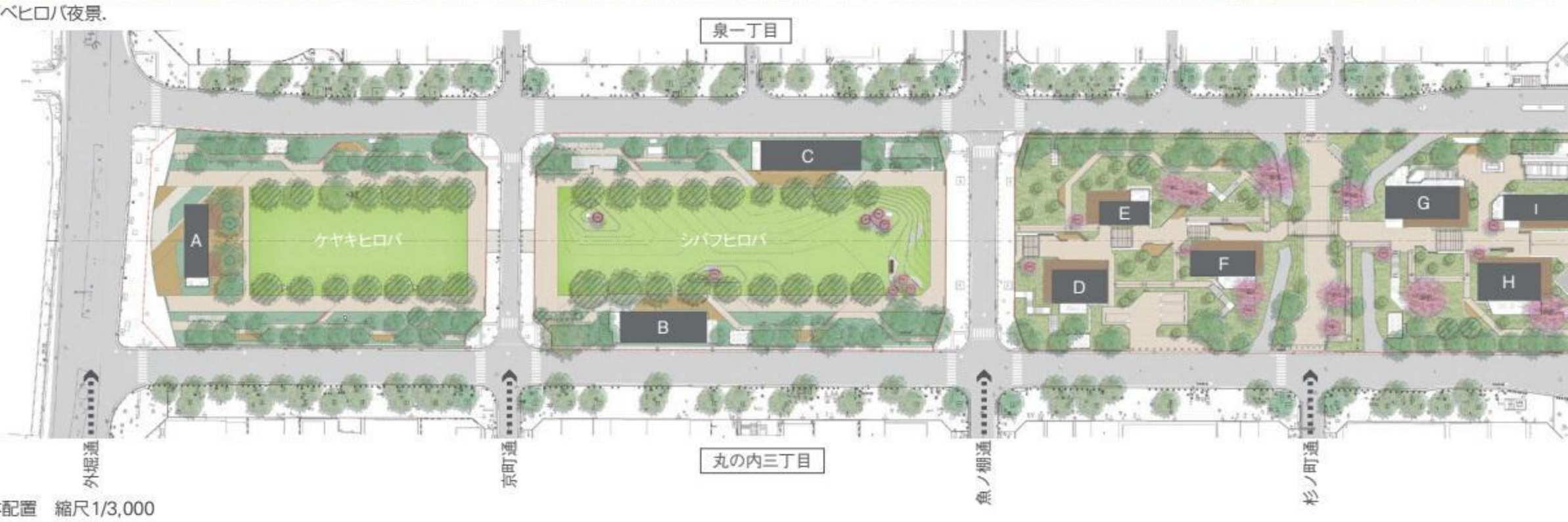
HISAYA-ODORI PARK

architects: TAISEI DESIGN PLANNERS ARCHITECTS&ENGINEERS, NIKKEN SEKKEI

名古屋市の全長約1kmの公園をPark-PFI制度と指定管理者制度を用いた運営が行われる公園となった．名古屋市が策定した「栄地区グランドビジョン」に基づいて実施された事業者公募で三井不動産が選定され，約20年事業を行う．

名古屋テレビ塔から南側を見る．名古屋テレビ塔を中心として南北の軸線をまとめる配置計画としている．

ミズベヒロバ夜景.



全体配置　縮尺1/3,000

賑わいと豊かなシーンにあふれた新たな公園

本計画は，名古屋市が策定した「栄グランドビジョン」に基づき，Park-PFI制度を活用して久屋大通公園の活性化を目指したプロジェクトである．南北全長1kmにわたる公園整備にあわせて24棟の店舗施設を2層にわたって構成し，それぞれの建物間をデッキやパサージュのような通路で繋ぎ合わせ，シークエンスを意識した配置とすることで，散策する楽しさと思い思いの時間を過ごす場の創出を目指した計画としている．

また，栄の繁華街から閑静な名古屋城外堀通りまでの多様な都市の様相を横断する計画地のため，隣接する都市の文脈に，建物の密度感や，誘致したテナントの種類，広場の計画などにより呼応している．

建物間から垣間見えるテレビ塔，水盤を中心に建物群を展開しており，どこにいてもテレビ塔を感じられるように南北軸に明快なビスタラインを設定し構成した．

ビスタラインと広場，そぞろ歩きを楽しめる店舗空間，地下鉄・地下街との垂直の繋がり，栄地区全体との水平の広がり，などのさまざまな要素を「重ね合わせる」ことで，賑わいと豊かなシーンにあふれた新たな公園のあり方を目指した．

また，南側からのシーン，北側シーンの見え方にそれぞれ特徴をつけるために，テレビ塔の南側のエリアは水盤中心とした展開，テレビ塔の北側は地盤に起伏を与え建物を入り組ませ独特なシーンが感じられるようにした．

店舗施設としては，公園との調和，周辺環境との調和を意識しテラスやパーゴラの中間領域を設け，店舗の賑わいが公園へと滲み出すような配慮に加え，外壁の凹凸・陰影・彩色により，公園や店舗の間を歩くシーンの中で，多彩な表情を生み出すような工夫を行っている．　（網干和／大成建設）

ミズベヒロバ．商業施設の外装は白やグレー系をベースとしている．

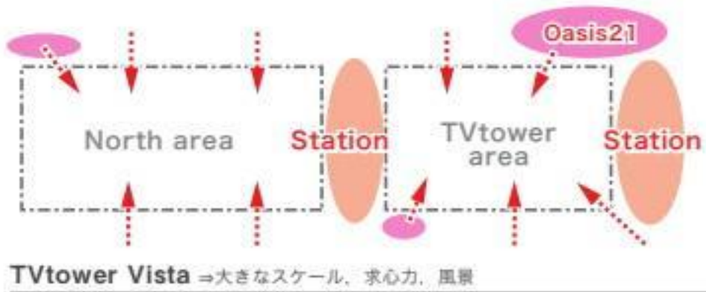
Nagoya Grid

設計　公募対象公園施設（商業施設）：大成建設一級建築士事務所
　　特定公園施設（ランドスケープ）：日建設計・大成建設一級建築士事務所
施工　大成建設
敷地面積　48,752.79m²
建築面積　5,407.38m²
延床面積　8,136.29m²
階数　地上2階
構造　鉄骨造　一部鉄筋コンクリート造
工期　2019年6月～2020年9月
撮影　新建築社写真部
（データシート207頁）

Nagoya Grid ⇒名古屋の文脈，碁盤割（約 100m）

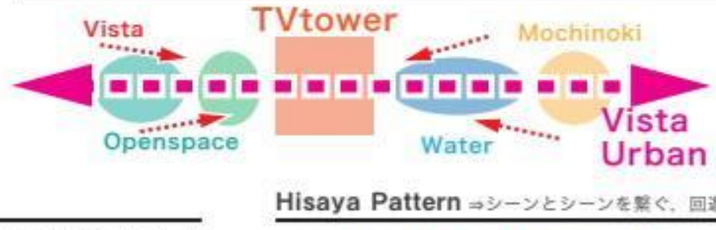
・名古屋の既存の文脈
・ホリゾンタルな人の流れ（ゆったりとした時間滞在型）
　⇔駅前のバーティカルな流れ（ショートストップ型）
・久屋公園を取り巻く賑わい

Transportation ⇒交通インフラ，周辺環境との接続，既存の人の流れ



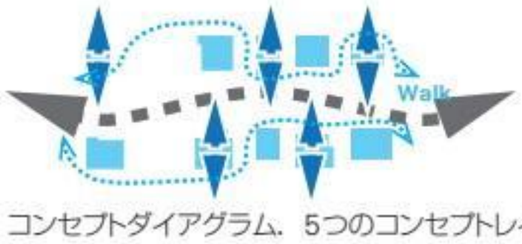
・既存の町のポテンシャルを引き出す計画
・人の流れをつくる計画
・周辺環境との関係性を意識した計画

TVtower Vista ⇒大きなスケール，求心力，風景



・求心力のあるテレビ塔を軸にしたシンボリックな空間のシーンづくり
・大きなスケールの空間をまとめる軸
・アイコンを強調した空間構成
・ビュースポット／レストスペース

Architecture ⇒賑わいの拠点



・両側町を踏襲した賑わい空間づくり
・賑わいの密度感（建物配置のメリハリ）
・アクティビティの拠点
・店舗と公園の間をそぞろ歩きするメイン動線
・建物間のヒューマンスケールな路地空間（サブ動線）

Hisaya Pattern ⇒シーンとシーンを繋ぐ，回遊・滞在の工夫

・グリッドと軸に溜りをつくるパターン
・シーンとシーンを結び，人を歩かせる工夫
・アートを結ぶ
・ビューポイントを結ぶ

コンセプトダイアグラム．5つのコンセプトレイヤーを重ね合わせて計画を検討した．

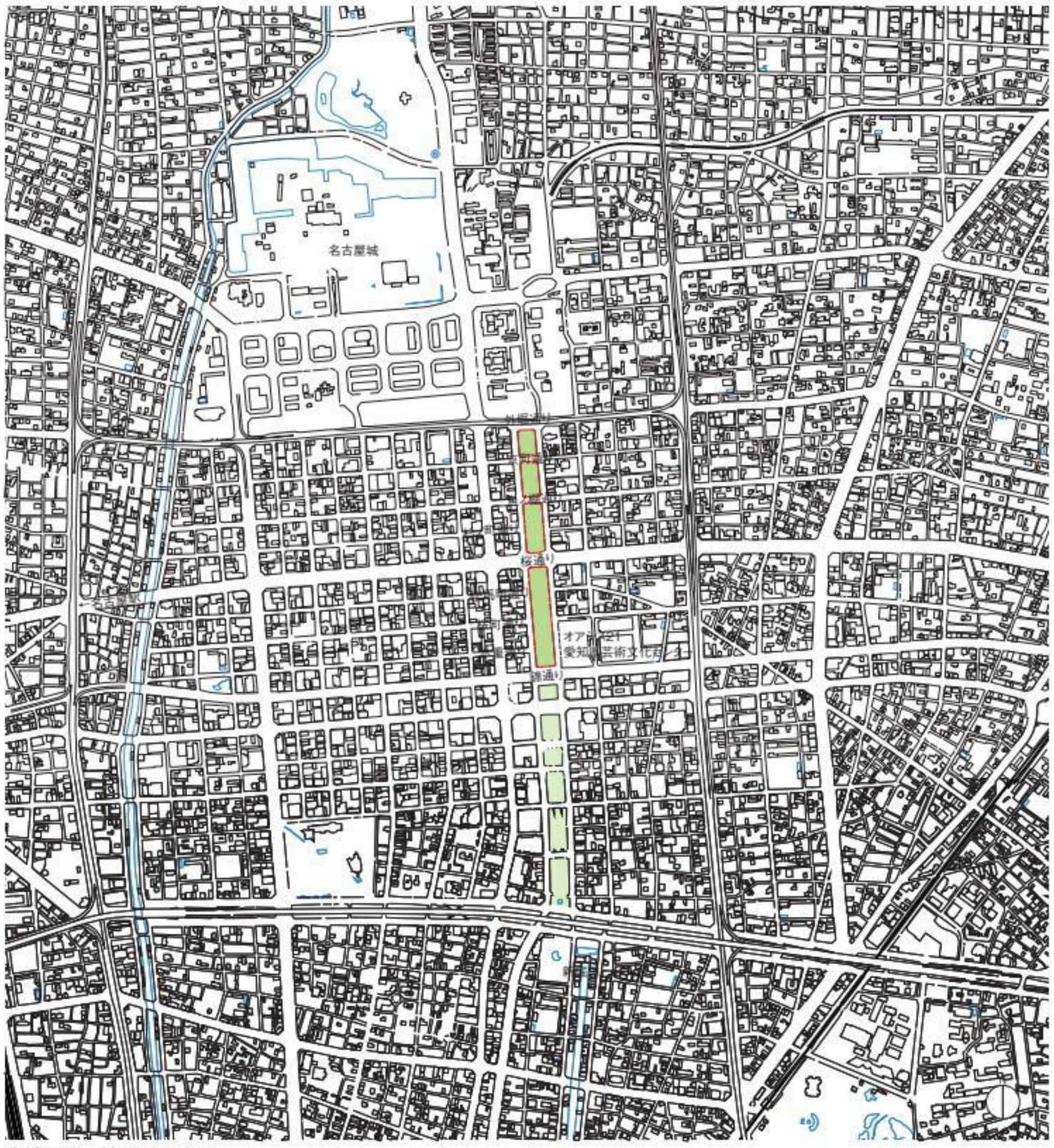
3つのグリーンインフラ

本計画の公園は，名古屋城から新堀川を経て名古屋港にいたる水と緑のネットワークを意識した，3つのグリーンインフラから成り立っている．

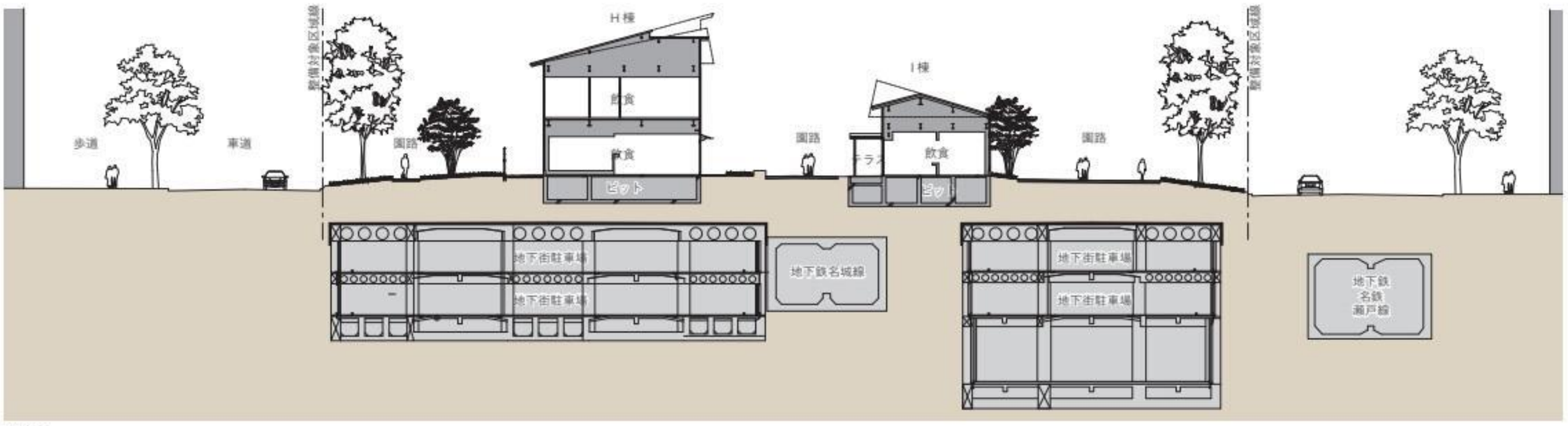
ひとつ目は「都心の環境インフラ」である．広域生態ネットワークの一部を形づくる久屋大通公園は，既存のポテンシャルを十分に継承するとともに，さらなる生物多様性拡充に寄与する環境インフラとして整備を行った．健全な樹木環境再編に向けた既存樹木の密度調整や積極的な移植により，現状の生態系を崩さない地域性を活かした植栽構成となっている．

ふたつ目は「交流のインフラ」である．公園内は，豊かなパークライフを実現する特徴ある「5つの広場」と「ひとつの大きなテラス」で構成されている．中でも，水盤に映し込んだテレビ塔の姿を楽しむことができる「ミズベヒロバ」は，観光ディスティネーションとしての引力を有すると共に，名古屋の新たなシンボル空間を目指した．また，北エリアでは，既存樹木のケヤキ並木に囲まれた芝生広場を創出し，多世代が多目的かつ自由に活用できる広々とした憩いの空間を目指した．

3つ目が「防災・減災のインフラ」である．広域避難場所を常に身近に感じることが減災へと繋がるステップアップだと考え，従来の閉鎖的な公園から街に開かれた公園とすることで，周辺から公園内のアクティビティを通して広域避難場所を視認できるよう計画を行った．（西大輔＋小嶋咲紀／日建設計）



広域配置　縮尺1/30,000
「基盤地図情報データ」（国土地理院）（https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php）をもとに編集部作成



断面

断面　縮尺1/600

シバフ広場から南側を見る．既存の東西の生活動線を維持しつつ，その上を立体交差するような公園動線を計画．両脇には高低差を活かして建物を配置．

地下には既存の駐車場が入る．

ミズベヒロバ．

テレビ塔から北側を見る．

メディアヒロバ．

名古屋テレビ塔

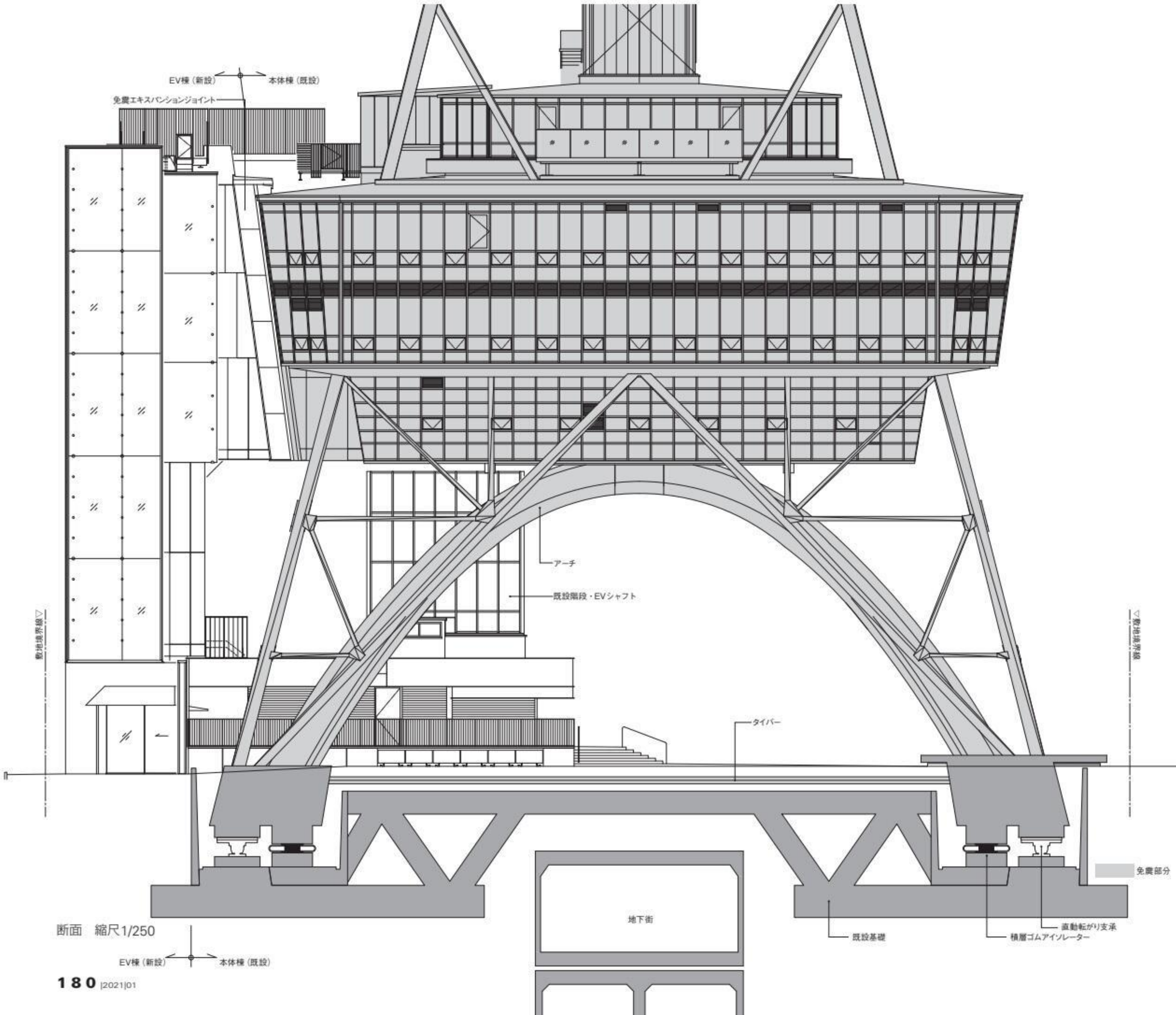
設計　日建設計／若林亮＋石森秀一＋木村征也
施工　竹中工務店
所在地　愛知県名古屋市
NAGOYA TV TOWER
architects: NIKKEN SEKKEI

1954年に内藤多仲によって設計された日本初の集約テレビ電波鉄塔．2011年のアナログ放送終了後は観光事業が続けられていた．安全性の確保，南北への抜けを確保するため，レトロフィット工法による基礎下の免震，避難階段の確保などを行い，安全性の向上，工作物から建築物への用途転換を図った．

名古屋のシンボルと大通公園の南北のビスタを守る

名古屋の栄，南北2kmにわたる久屋大通公園に建つ名古屋テレビ塔は，戦後，震災時の無線情報の重要性から日本初の集約テレビ電波鉄塔として1954年に建設された．当時から展望台を備え，戦災で大きな被害を受けた野原に建ち上がった姿は市民を勇気づける復興のシンボルとなった．設計は後に東京タワーも手掛けた塔博士・内藤多仲．足元に交差アーチを持つ重心の低い構造が特徴で，公園の南北に抜けるビスタを大切する設計がなされ，2005年には登録有形文化財に指定された．デジタル放送化により電波鉄塔の役割を終え，新たに観光・商業による魅力を加えて収益性を高め，一方，今後起きるであろう東海東南海地震で重大な損傷を受けることがわかり，耐震改修の必要が生じた．改修にあたり文化財として塔のシルエットを守ること，塔足元空間の広がりと南北に抜けるビスタを守ること，これを経済的に実現することが大きなテーマであった．耐震化は，塔体の鋼材がリベット接合により構築されていて，補強材の溶接は耐力が低下することから，基礎免震レトロフィットを選択．経済性から大きな地下免震ピットを設けず，塔体を支える四隅の柱脚部のみに最小限の免震ピットを設け，基礎の中段を解体して4,000tもの塔体をジャッキアップし，一柱脚につきそれぞれふたつの積層ゴムアイソレーターと直動転がり支承をセットした後に基礎を再構築した．免震化により柱脚には外に広がるスラスト力が働くため，4本の脚をタイバーで拘束し，そのタイバーは地表面近くの溝状のピットに納めた．また，遵法化のための避難階段とエレベータを別棟で塔西に集約し，塔内2階，3階にあった元放送用機械室や展望台受付，管理事務室のスペースは，レストランやバンケット，ショップに．また，4，5階はホテルへと機能を新たにした．塔足元に再整備された「Hisaya-odori Park」もテレビ塔への景観を活かすランドスケープがなされ，多くの市民が賑わう名古屋テレビ塔は，次世代に繋がる新たなシンボルとなった．　（若林亮＋石森秀一＋木村征也／日建設計）

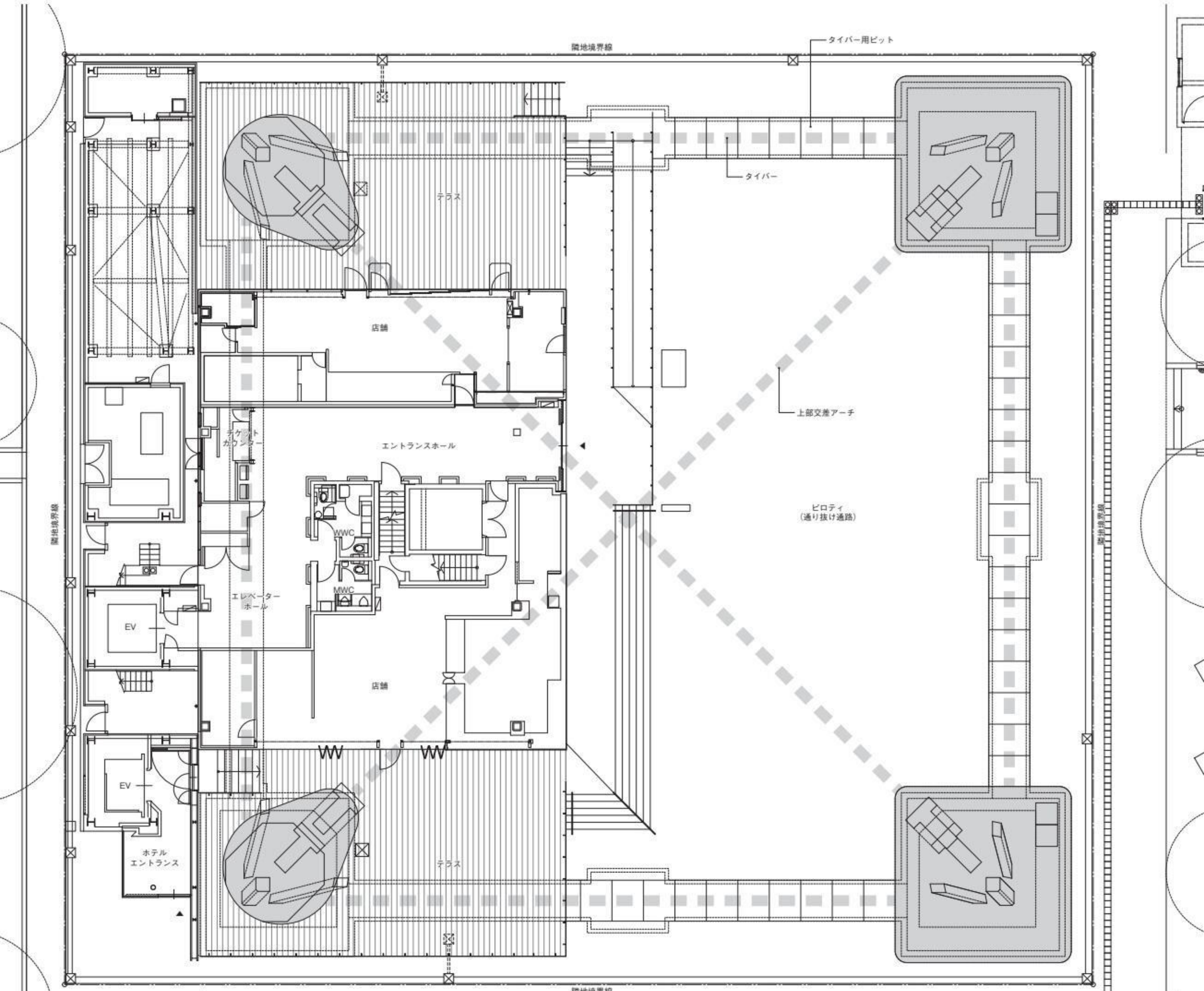
オアシス21（本誌0211）から見る．



断面　縮尺1/250

設計　日建設計／若林亮＋石森秀一＋木村征也
施工　竹中工務店
敷地面積　2,015.44m²
建築面積　1,226.48m²
延床面積　3,765.31m²
階数　地下1階　地上5階
構造　鉄骨造　一部鉄骨鉄筋コンクリート造
工期　2019年2月～2020年8月
撮影　新建築社写真部
＊撮影　エスエス
（データシート206頁）

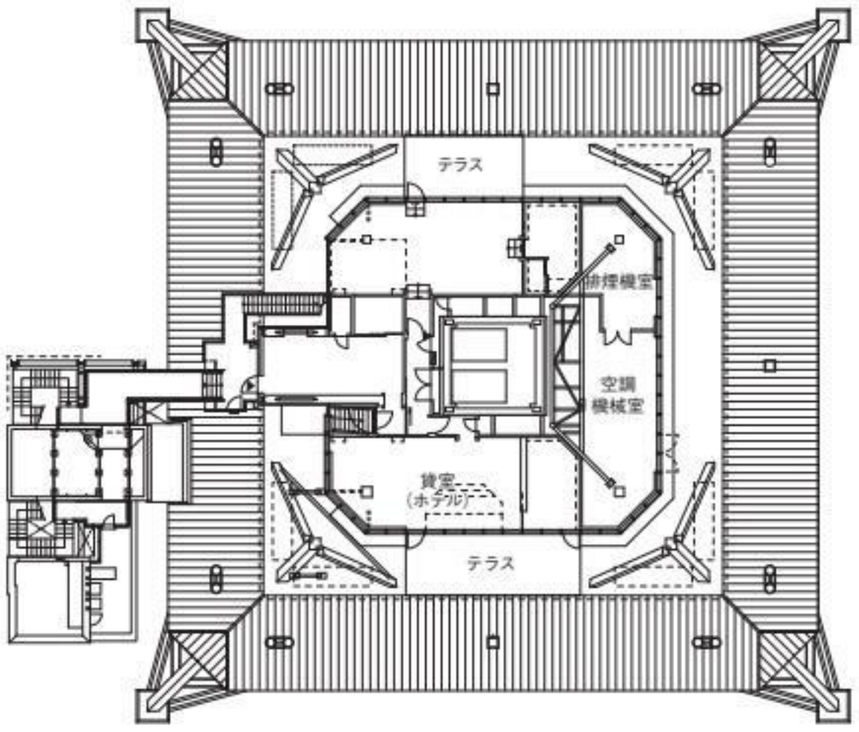
北側からの俯瞰. ＊



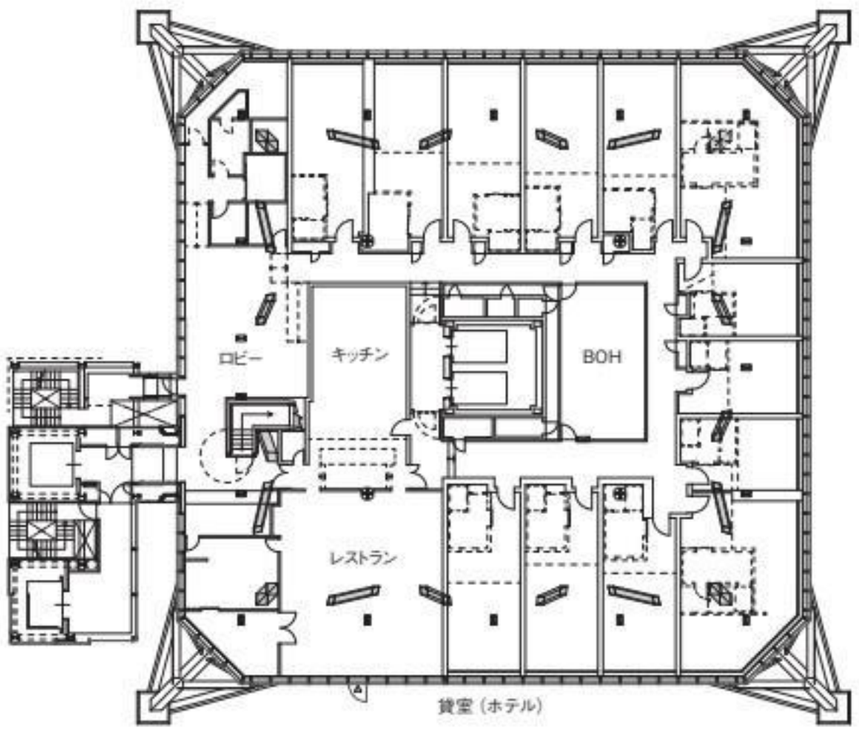
1階平面　縮尺1/250

4階ホテル客室．既存の構造体が内部に貫入する.

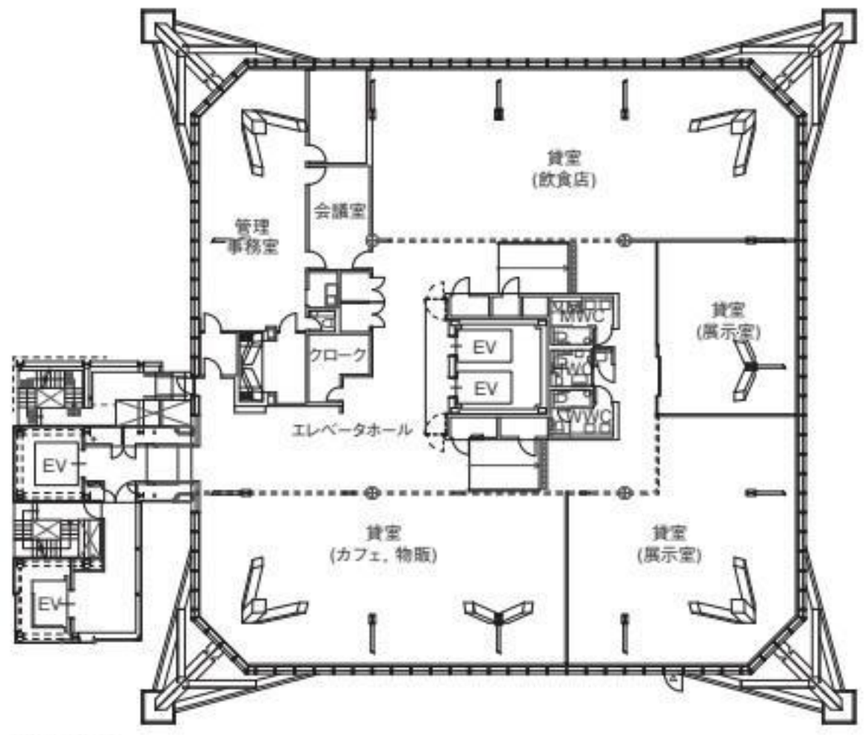
4階ホテル客室.



5階平面



4階平面



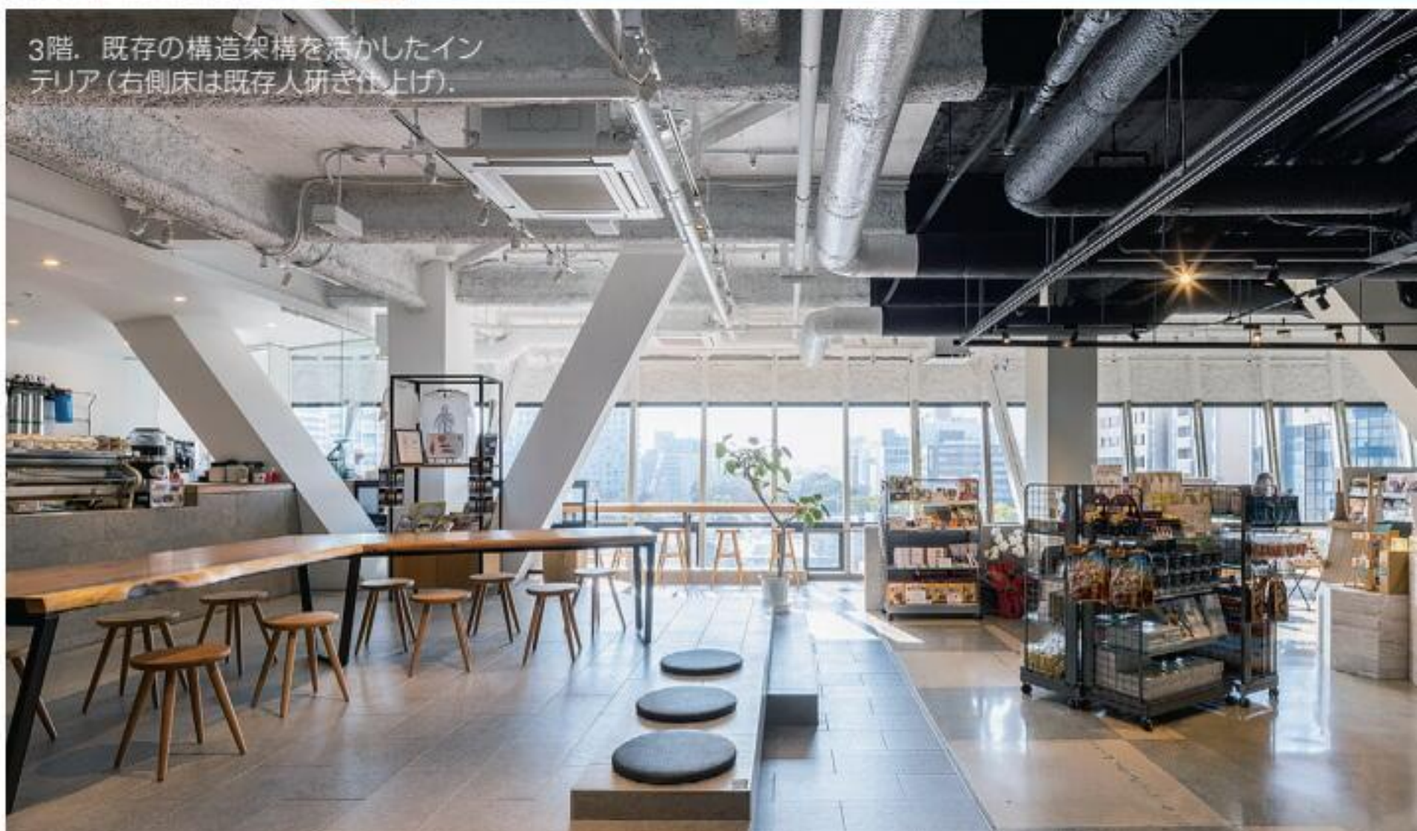
3階平面

2階平面　縮尺1/600

5階テラス.

スカイバルコニー（展望台）.

4階ホテルロビー.



3階．既存の構造架構を活かしたインテリア（右側床は既存人研ぎ仕上げ）.

共用部には既存の備品などを展示.

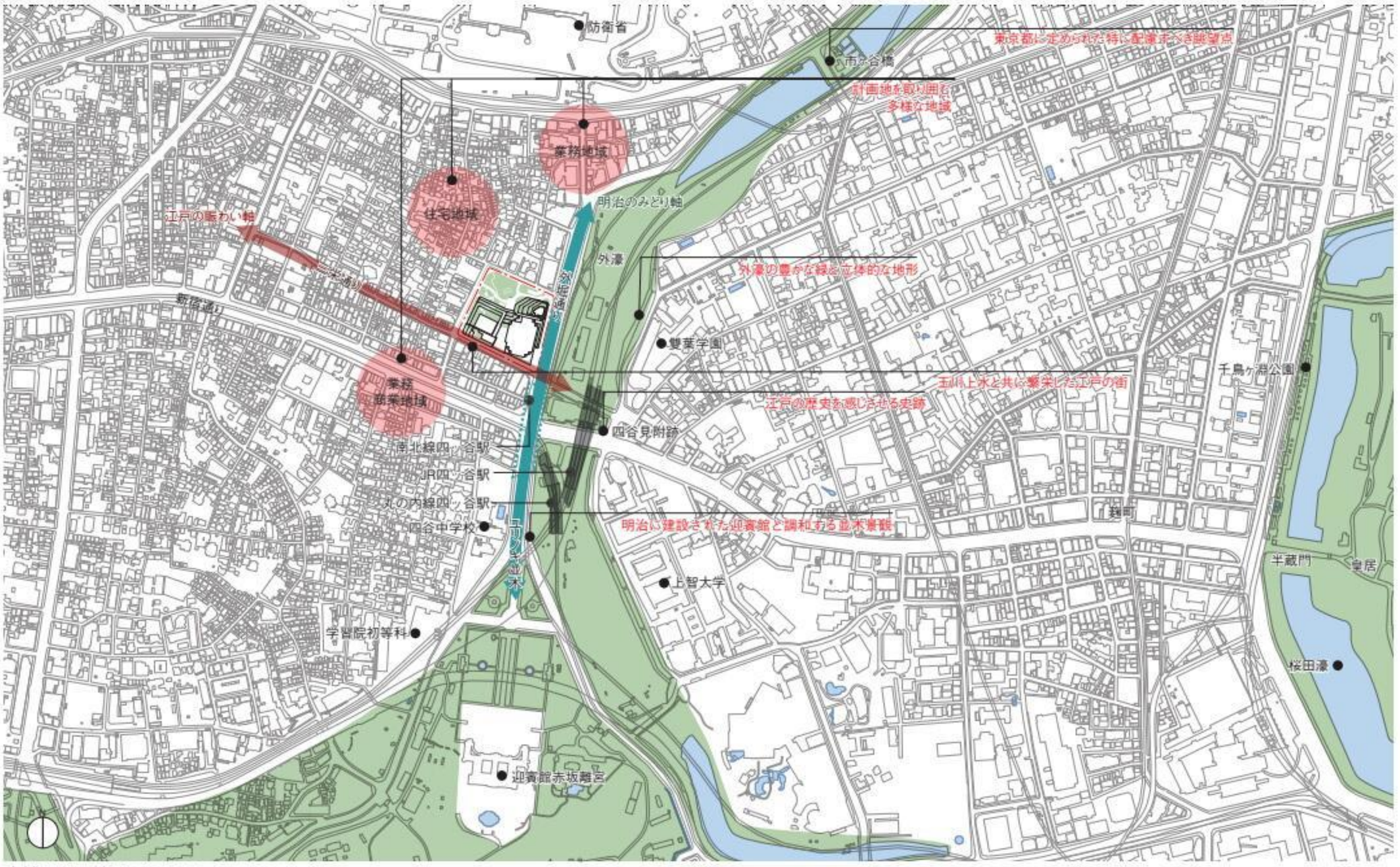
CO・MO・RE YOTSUYA（コモレ四谷）

設計　日本設計・三菱地所設計共同企業体（基本設計・デザインディレクション）　大成建設一級建築士事務所（実施設計）
施工　大成建設
所在地　東京都新宿区
CO・MO・RE YOTSUYA
architects: NIHON SEKKEI ／ MITSUBISHI JISHO SEKKEI JV ／ TAISEI DESIGN PLANNERS ARCHITECTS & ENGINEERS

北東側敷地、財務省公務員宿舎の廃止や小学校の廃校に伴い、都市再生機構が再開発協議会事務局となり計画された再開発。高さ145mの超高層ビルを中心に、その両翼に4～7階の事務所、共同住宅、商業施設、大学、文化交流施設等が入る低層部が建つ。外濠の大地の起伏と緑を連続させるように、低層部は段状とし、屋上緑化をした。

外濠越しに見る北東外観.
低層部には外濠の緑を連続させた.

四ツ谷駅側の南角に設けた出迎えの広場．3階にも緑を設置．外濠通り沿いにはタブノキを植樹.



広域配置　縮尺1/15,000

上：西側外観．右手に共同住宅，左手に国際交流基金などが入る文化交流施設．地下にはスポーツ施設がある．
下：三栄通りを見る．かつて敷地を流れていた玉川上水の記憶を継承した水景．多様な樹種やベンチを配置し憩いのスペースを創出．

地区面積：約2.4ha
（従前宅地面積：約1.8ha）

土地所有者 土地・建物所有者	44（33）名
借地権者	28（22）名
借家人	104（11）名
合計	176（66）名

（）内は権利変換または借家継続で内数

従前の敷地状況　縮尺1/6,000

歴史的文脈を紐解き，街区の魅力啓発を行う歴史サインの例．写真は工事中に発掘された江戸時代の麹室．その他，四谷一丁目遺跡として数多くの建物跡や生活用具が出土した．

地形と都市の融合

東京都心に近い駅前立地でありながら，未利用の公共用地も含む敷地に，オフィス・住宅・商業・学校·公益施設等からなる複合用途建築による再開発を行う計画である．

いまだに低密度な都市景観を有する四谷に145mの超高層ビルを含む複合用途建築を計画するにあたり，私たちは隣接する外濠の起伏に富んだ地形から着想を得た「地形と都市の融合」というデザインコンセプトを設定した．低層部のステップガーデンと，そこから隆起する高層棟というデザインイメージは，日影規制や風環境等の要因から導き出した建築ヴォリュームを，四谷独自の歴史的・地形的文脈と組み合わせることで具体化したものである．

また玉川上水の記憶を継承した水路，江戸の園芸種に触発された多様な樹種が配置される三栄通り側の設え，駅前や住宅地といった四周の表情の異なる街並みから建物の内外へと人の流れを育むパサージュやウォークの設定，賑わいのみならず地域防災力向上にも寄与する広場の計画など，建物利用者のみならず地域社会との調和を重視した．

基本設計後，実施設計から施工へと本プロジェクトは進んでいったが，基本設計コンセプトを多くの関係者とあまねく共有し建物へと実現化するためのデザインディレクションを行う役割を私たちは担った．定期的なデザイン勉強会や確認会を通じて，多くの関係者の合意形成とデザインの方向付けを行い，基本設計コンセプトを適切に発展させ，建物へと具現化していった．公民が連携する長期間にわたる複雑な事業スキームである本プロジェクトにおいて，一貫性のあるコンセプトを実現した点で，このデザインディレクションの役割は特筆すべき点である．

（小坂幹＋常盤純代／日本設計）

南外観．北側の住宅地への日影や風環境を考慮し，
南角に高層棟を配置．面の角度を微妙に変化させた
アルミ製の縦フィンは，光によって表情が変化する．

築山とすり鉢状の円形広場からなるコモレビの広場から見る北側外観．コモレビの広場は地域防災倉庫やマンホールトイレなど，災害対応機能も設置．

低層部に設けられた段状の屋上テラスから見る.

大地と緑の環境建築

基本設計コンセプトである「地形と都市の融合」を受け継いで，異なる機能・規模・構造の建物群を，外濠の大地の起伏と豊かな緑を敷地内に取り込んだ，ひとつの新しい環境となるよう設計を進めた．個々別々の建物でもなく，単一の建物でもなく，ひとつの環境とすることが命題だった．

大地たる低層部は地層を表現した有機的な外観とし，屋上緑化により外濠から連続する緑を頂く．地中深く地核から隆起してきたかのように，ガラスとアルミの無機的な外装の高層棟がスカイラインを刻む．すべての局面で，それは有機的であるべきか無機的であるべきかを意識してデザインを決定していった．四谷にふさわしい，四谷だからこその，新しい環境を創造できたと思う．

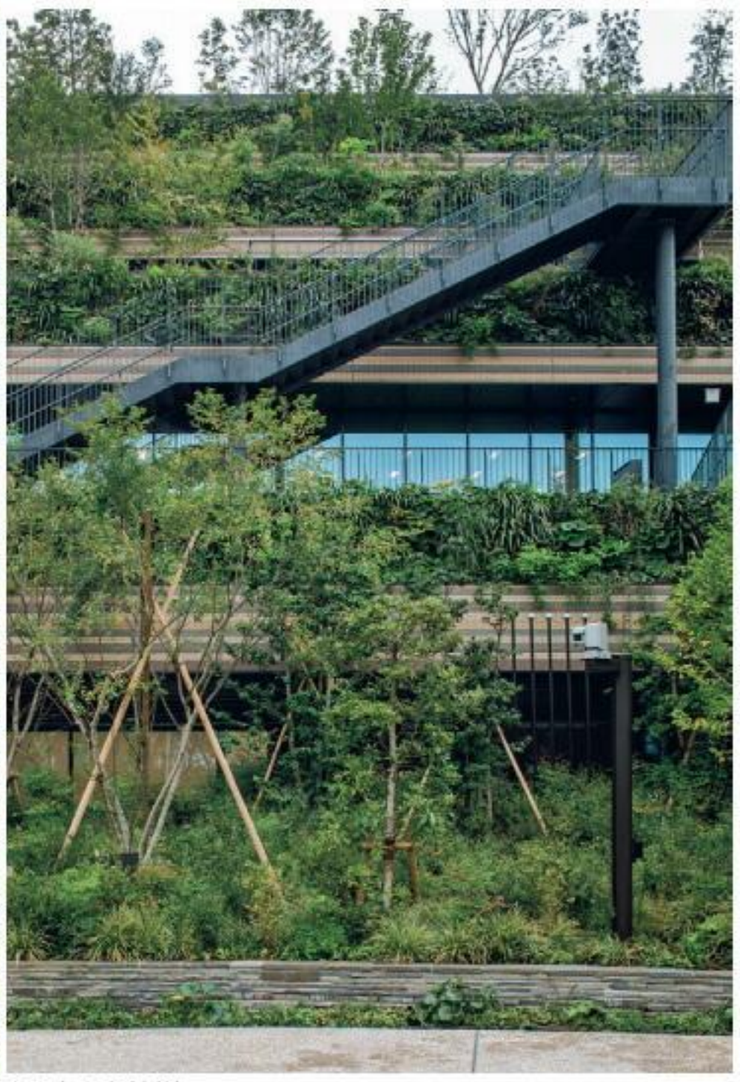
（横手真一郎／大成建設）

有機的・無機的デザイン

複雑に絡む関係者の思いを，より鮮明に形（建物）として表現する方法を模索した．コモレビの広場から低層部屋上に途切れることなく連続する緑のボリュームが，最も映えるような外装タイル壁面とのバランスを図った．高層部では，ボリュームを分節する縦フィンとガラスの折り重なりで生まれる美しい幾何学紋様を追求することで，優しい光をまとった外装となった．駅前からコモレビの広場を繋ぐパサージュでは，有機的な地層模様のタイル壁面と無機的な金属パネルの壁面をあえて対峙させることで「地形と都市の融合」を具象化し，三栄通りとコモレビの広場を直線的に繋ぐウォークは，ガラスの片持ち屋根にライン照明を加え，都市的でシンボリックな通路としてデザインした．低層オフィスには，樹皮のイメージを投影した柱や木目調の天井やルーバー壁といった有機的デザインを積極的に取り入れ，外濠の大地と緑に呼応する内装計画とした．

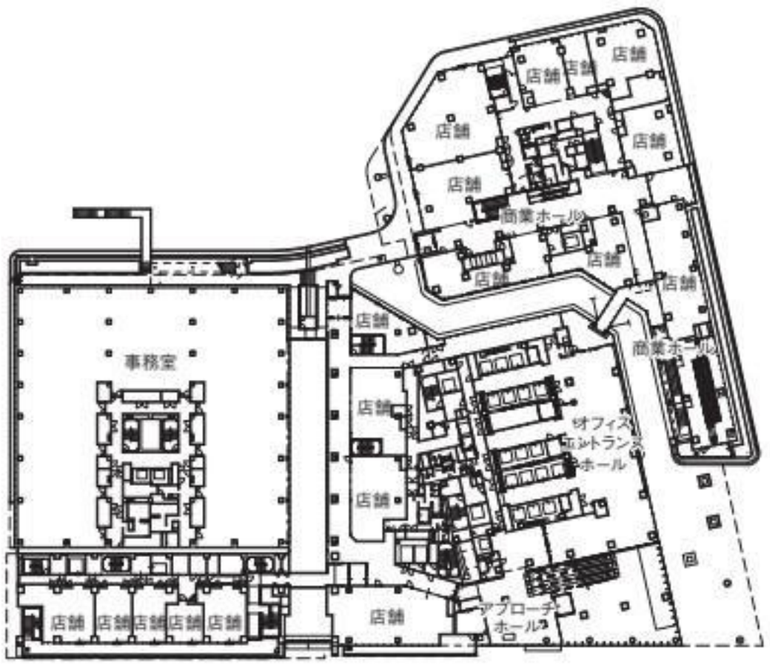
（真銅博司＋雨宮廣明／大成建設）

設計　基本計画　日本設計
基本設計・デザインディレクション：
日本設計・三菱地所設計共同企業体
実施設計：大成建設一級建築士事務所
施工　大成建設
敷地面積　17,931.82m^2／建築面積　10,309.36m^2
延床面積　139,330.85m^2
階数　地下3階　地上31階　塔屋1階
構造　鉄骨造　一部鉄骨鉄筋コンクリート造
一部鉄筋コンクリート造
工期　2016年9月～ 2020年7月
撮影　新建築社写真部／*撮影　エスエス 東京支店
（データシート207頁）

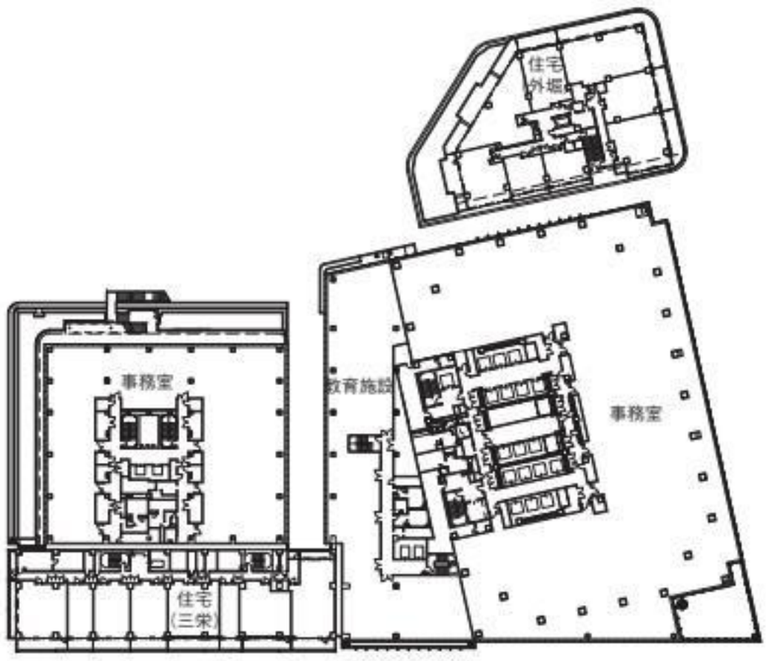


左：コモレビの広場から屋上テラスには武蔵野の雑木林を形成する木々を植樹.
右：屋上テラスは低層部に入居するオフィスや教育施設の外部空間となる.

左：アプローチホール．外濠の緑を借景として取り入れる．
右：オフィスエントランスホール．オフィスのサードプレイスとして，ベンチを設けた滞留空間を設置．

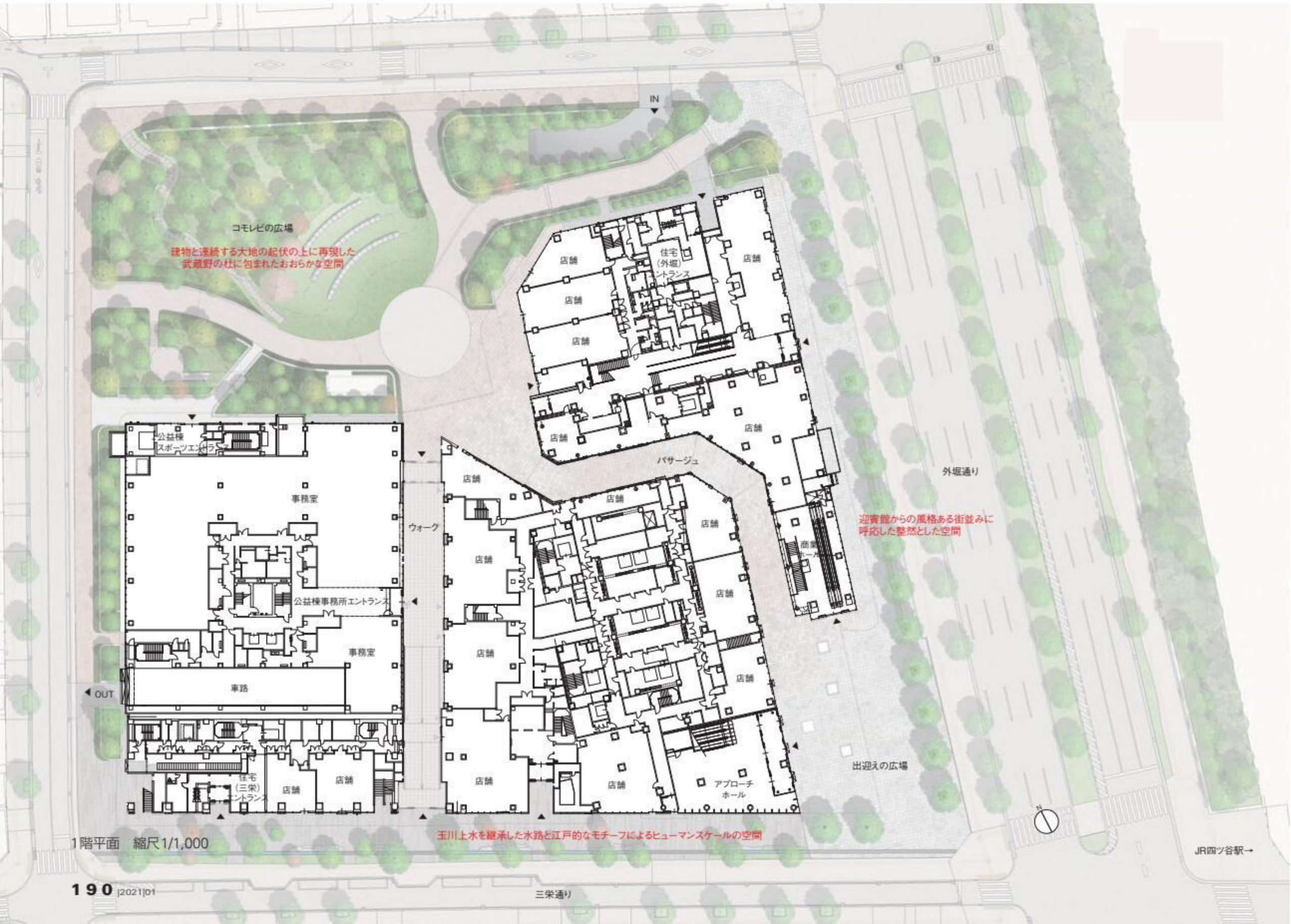


2階平面　縮尺1/2,000



4階平面

9階平面



1階平面　縮尺1/1,000

左上：出迎えの広場からコモレビの広場を繋ぐパサージュ．屋上テラスの地層の表現が内部に入り込む．左下：高層棟と公益棟との間に設けたウォーク．ガラス天井面にライン照明を配置．
右上：パサージュからコモレビの広場を見る．右下：出迎えの広場から四ツ谷駅方向を見る．非常時にはデジタルサイネージが防災用ビジョンの役割も兼ねる．

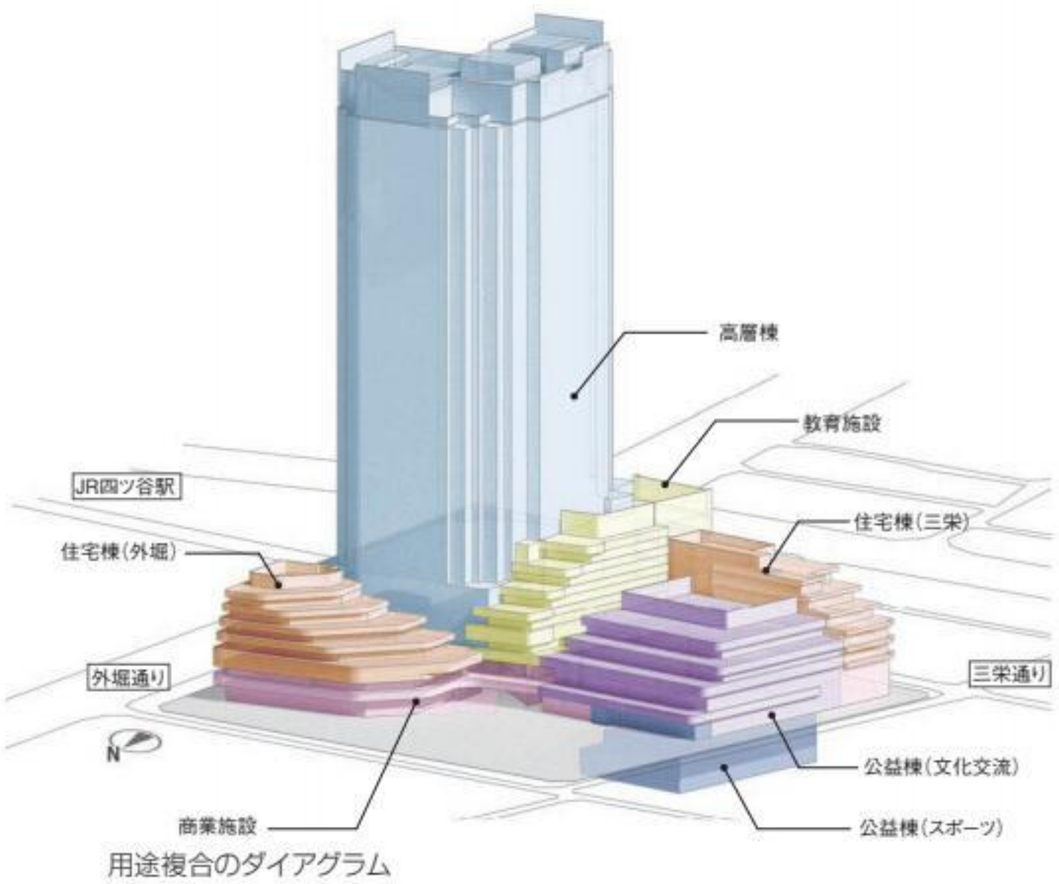
都市と融合する武蔵野の杜

四谷独自の歴史性・地域性からくる多様性を生かしつつ，街の機能や人と結びつく緑豊かな空間を創出することが，ランドスケープに与えられたテーマであった．

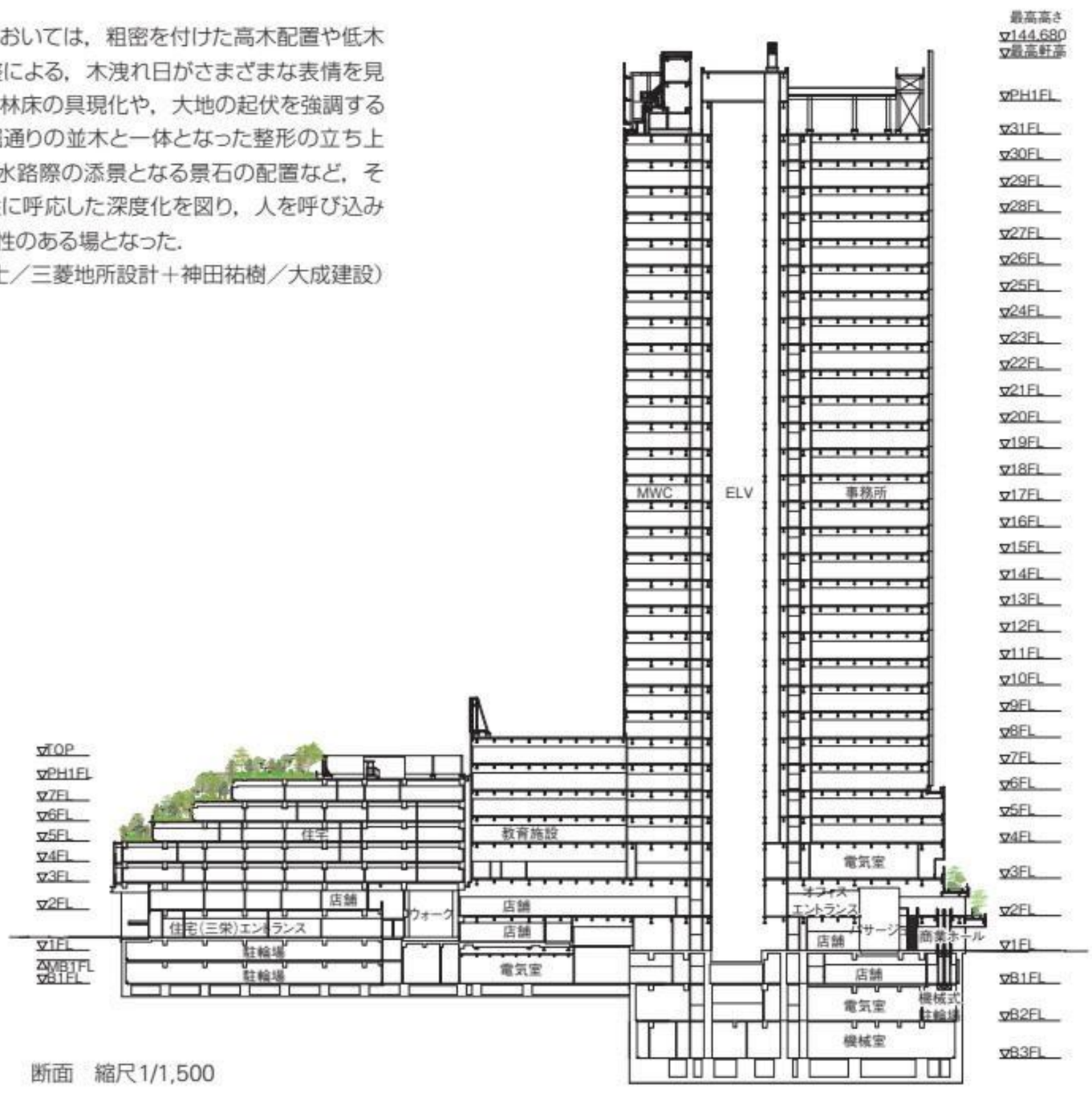
コモレビの広場には，外濠との修景の連続性を意識し，丘のように盛り上げた地形に沿って，低層部の屋上緑化へと繋がる「武蔵野の杜」を創出．天然芝の広場を取り囲むように武蔵野の雑木林の階層性と生物多様性を取り入れた明るい雑木林とした．三栄通り側は，玉川上水の記憶を継承した水路と江戸園芸文化を彷彿とさせる多様な植栽による賑わいある歩行空間とし，大きなユリノキ並木が続く外堀通り側には，整然としたタブノキ並木を設け，迎賓館から続く品格ある通りに応えた．

実施設計・施工においては，粗密を付けた高木配置や低木地被類混植の調整による，木洩れ日がさまざまな表情を見せる武蔵野の杜の林床の具現化や，大地の起伏を強調する三連の円弧，外堀通りの並木と一体となった整形の立ち上がり，三栄通りの水路際の添景となる景石の配置など，それぞれの空間特性に呼応した深度化を図り，人を呼び込み地域に対する親和性のある場となった．

（津久井敦士／三菱地所設計＋神田祐樹／大成建設）



用途複合のダイアグラム



断面　縮尺1/1,500

みずほ丸の内タワー・銀行会館・丸の内テラス

設計　**三菱地所設計**（全体共用部・丸の内テラス専有部）　**日本設計**（みずほ丸の内タワー専有部）　**久米設計**（銀行会館専有部）
施工　大林・大成・清水建設共同企業体（全体共用部・丸の内テラス専有部・銀行会館専有部）　清水建設（みずほ丸の内タワー専有部）
所在地　東京都千代田区
MIZUHO MARUNOUCHI TOWER・JAPANESE BANKERS ASSOCIATION・MARUNOUCHI TERRACE
architects: MITSUBISHI JISHO SEKKEI　NIHON SEKKEI　KUME SEKKEI

みずほ丸の内タワー（左）と丸の内テラス（右）の間に新たに設けた地上貫通通路「和田倉小径」を見る．以前は日本興業銀行（1974年，本誌7410），東京銀行協会ビルヂング（1993年），銀行会館（1965年）が建っていた敷地を一団地設計制度を用いて建て替えた．

永代通りより丸の内仲通りを見通す．手前に丸の内テラス，奥にみずほ丸の内タワー．日本興業銀行の壁面で閉ざされていた仲通り沿いを丸ビル立面やオープンサッシによる店舗，和田倉小径によって開いた．

統合と分断による「流れ」の再構築

旧建物の老朽化と大丸有地区のまちづくりの成熟に伴い，それぞれの建物機能と，就業者・来街者のニーズとの乖離が大きくなったため，旧建物を解体し一体的に開発することとなった．開発にあたっては大手町／丸の内エリアの結節点である敷地特性を活かし，周辺街区との関係性を高めるなど，大丸有地区のまちづくりに沿った計画が求められた．

隣接街区と一体的に整備した地上の貫通通路（和田倉小径）により新たに東西方向の繋がりを強め，賑わいと緑豊かな北側広場（丸テラ広場）で大手町エリアから丸の内エリアへの誘因性を高めた．また，地下鉄駅間を結ぶ地下貫通通路により既存地下通路の混雑緩和を図るなど，地上・地下それぞれのネットワークで新たな流れをつくり出し，就業者・来街者の利便性を高めた．

敷地は大丸有地区まちづくりガイドラインにおいて「金融・情報軸」に位置付けられており，金融拠点機能のさらなる集積により，国際金融拠点としての経済中枢機能の強化を図った．また，丸の内仲通りを軸として，賑わい・文化・憩いの機能を配置し，活力と魅力ある通り空間とした．

今回の開発により，丸の内1丁目では，建築基準法の容積率制度の導入（1970年）以前の絶対高さ制限（100尺）が適用された建物がすべて建て替わった．本地区の最終の1ピースを埋める上で，建物機能・ボリュームの統合や分断により周辺との関係性を見直し，都市のひと・ものの「流れ」が再構築され，エリア全体の付加価値を高める建築となった．

（野村和宣＋石橋和裕＋河畑淳司／三菱地所設計）

設計　三菱地所設計（全体共用部・丸の内テラス専有部）
日本設計（みずほ丸の内タワー専有部）
久米設計（銀行会館専有部）

施工　大林・大成・清水建設共同企業体（全体共用部・丸の内テラス専有部・銀行会館専有部）
清水建設（みずほ丸の内タワー専有部）

敷地面積　11,237.35m² ／建築面積　8,575.29m²

延床面積　180,878.40m²

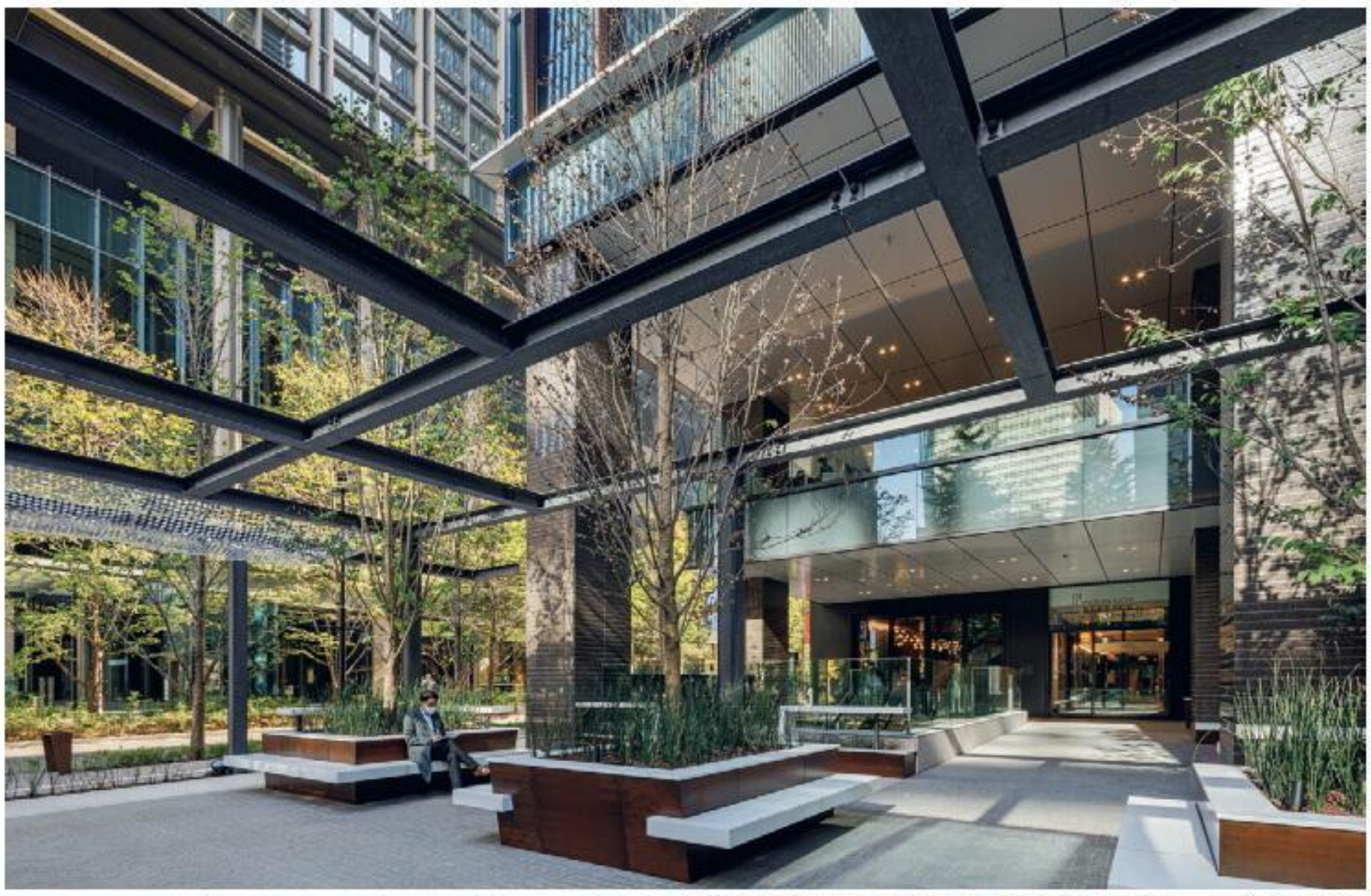
階数　みずほ丸の内タワー・銀行会館：
地下4階　地上29階　塔屋2階
丸の内テラス：地下4階　地上10階　塔屋1階

構造　地上：鉄骨造
地下：鉄骨鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造

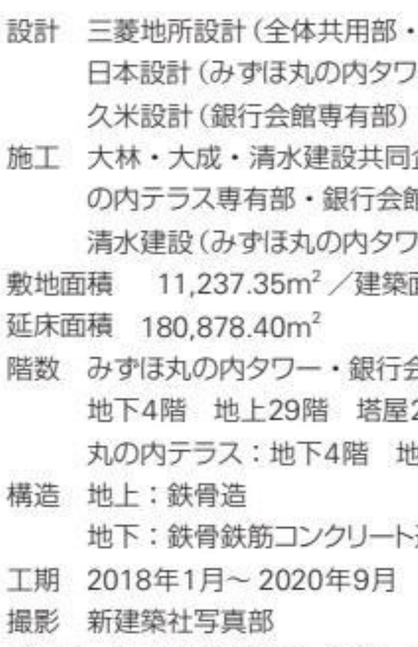
工期　2018年1月～ 2020年9月

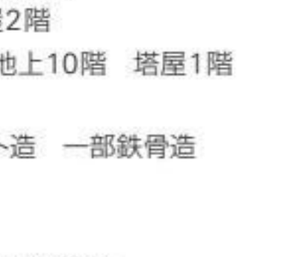
撮影　新建築社写真部

*提供　三菱地所設計（データシート186頁）

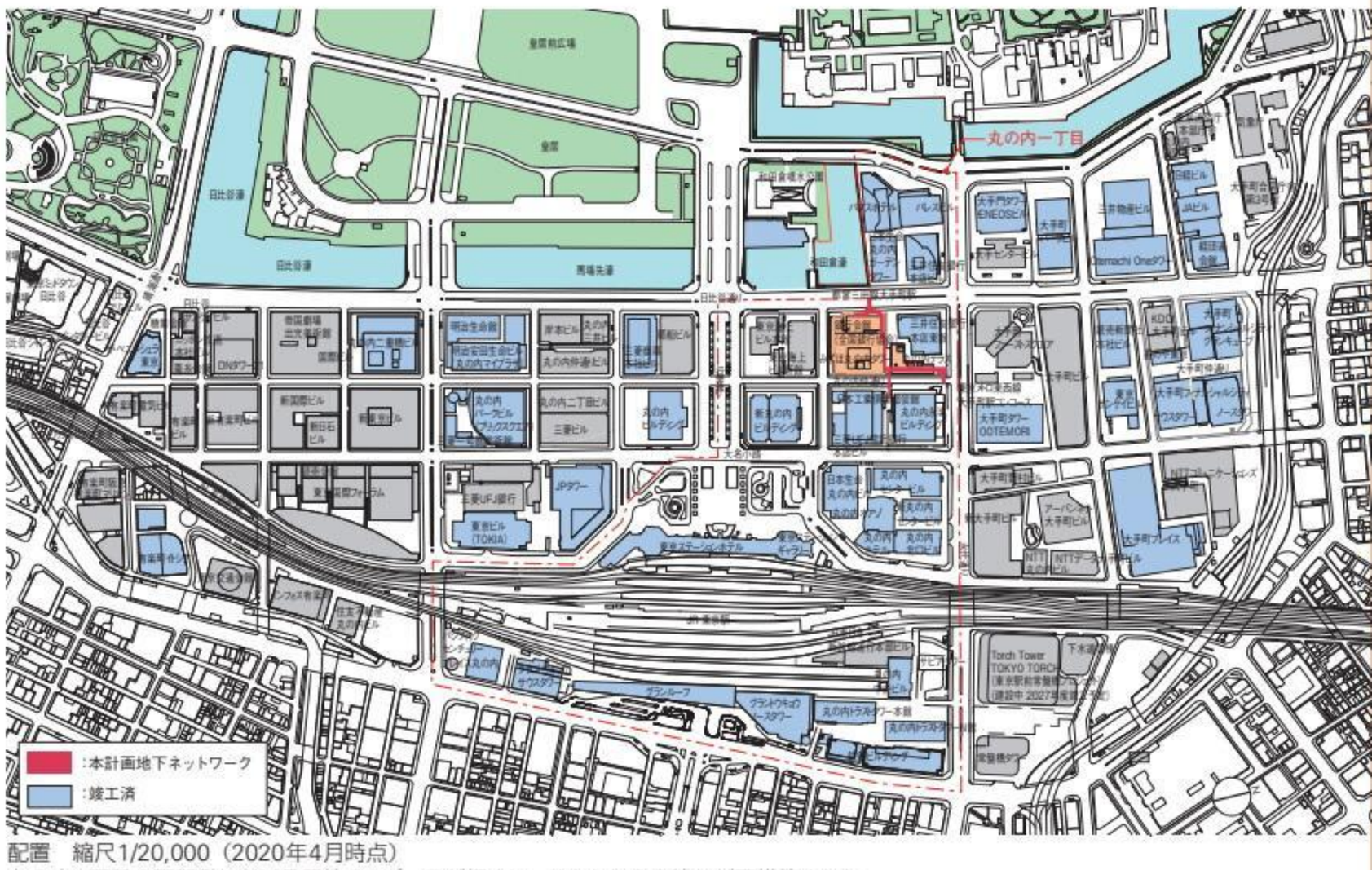


上：ファニチャーを設えた丸テラ広場．左下：和田倉小径から日比谷通り方向を見る．
右下：和田倉小径にも植栽を設け，オオテモリや仲通りから皇居の緑へと連続させる．





建て替え前の3棟．左：日本興業銀行．右上：東京銀行協会ビル．* 右下：銀行会館．*



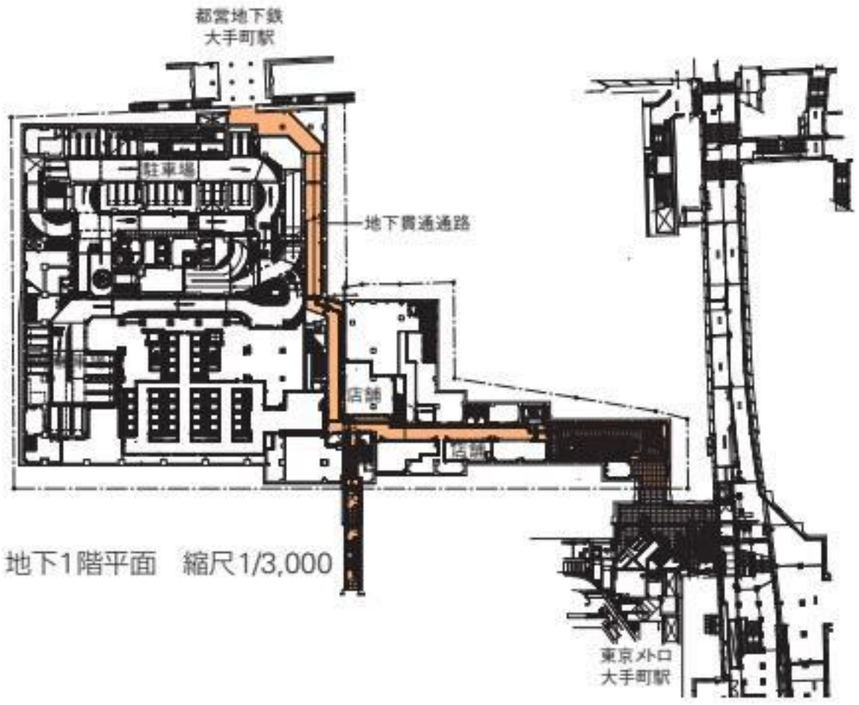
配置　縮尺1/20,000（2020年4月時点）
丸の内1丁目の再開発における最終の1ピースが埋まり，ひとともの流れが再構築された．
また業務機能を集積することで兜町へ繋がる永代通り沿いの金融軸を強化した．
（下絵出典：「大手町・丸の内・有楽町地区再開発動向」一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会製作）

日比谷通り沿いの西外観．通り沿いの低層部が銀行会館，タワー棟はみずほ銀行の内タワー．銀行会館では，ワークプレイスの機能強化と環境向上，フレキシビリティの確保のため，皇居和田倉濠に面した西側に大スパンの執務空間を確保．

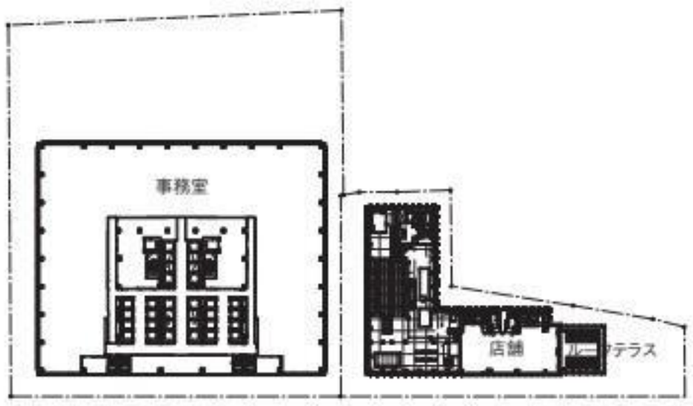
左：銀行会館会議室より日比谷通りを見る．中：エントランスロビーでは東京銀行集会所（1916年，設計：横河民輔）のマントルピースや渋沢栄一像の部材保存を行った．
右：バルコニーの部材保存を行い，東京銀行集会所の建物外形ラインを再現した．

拠点機能の更新と旧建物の歴史の継承

「銀行会館」は，銀行業界の団体である全国銀行協会の拠点として，金融のグローバル化・デジタル化に対応するための環境整備と中枢機能の強化及び関連団体の拠点機能の集約・再整備を図った．みずほ丸の内タワーと構造的に一体の建築としながら，独立性とセキュリティ確保のため，タワー下部にコアを配置し，外観上はタワーから雁行した低層のボリュームとした．ワークプレイスとしての機能強化と環境向上，変化に対応するフレキシビリティ確保を意図して，皇居和田倉濠に面する西側に大スパンの執務空間を確保した．会員銀行の職員を対象とした講演会やセミナーに利用する会議室を1階に配置した．また，大正5（1916）年竣工の旧東京銀行集会所から東京銀行協会ビルに受け継がれてきたマントルピースをエントランスホールやロビーに移築・復元するなど，各処に旧建物の部材を再生利用して，旧建物と歴史へのオマージュとしている．　（柿本英樹＋加舎尚樹／久米設計）

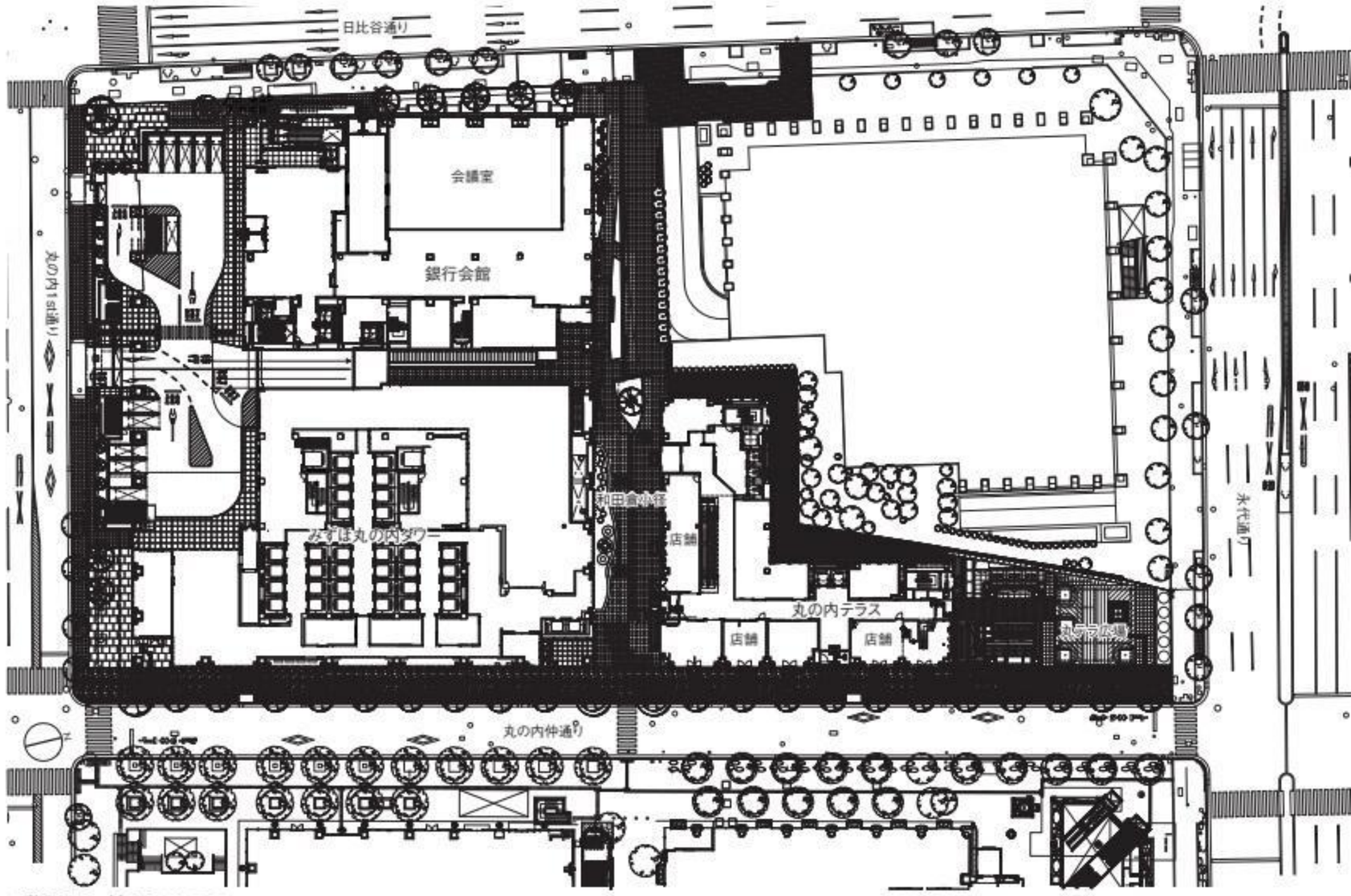


地下1階平面　縮尺1/3,000

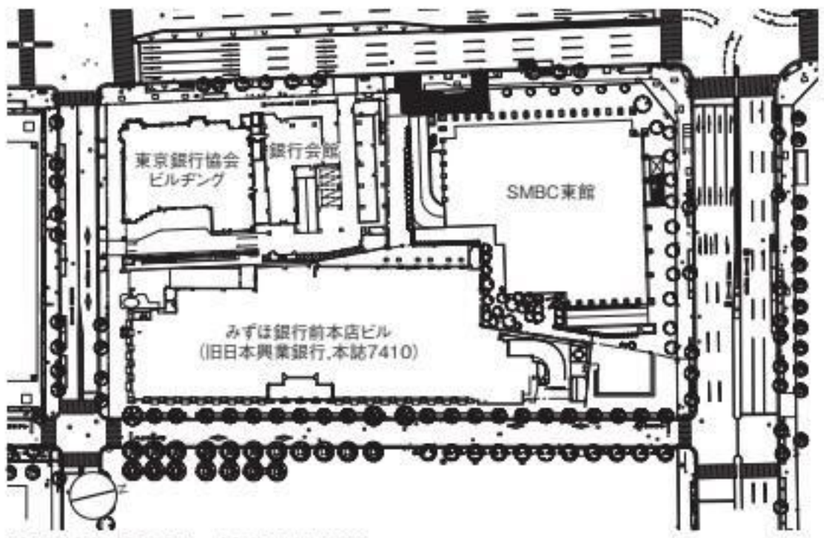


10階平面

上：南外観．右に丸の内仲通り．
下：丸の内1st通りから見る．銀行会館は，以前の銀行会館のファサードを参照した横フィンを用いた外装．みずほ丸の内タワーは3層を基準とした格子状のフィンを用いた外装．

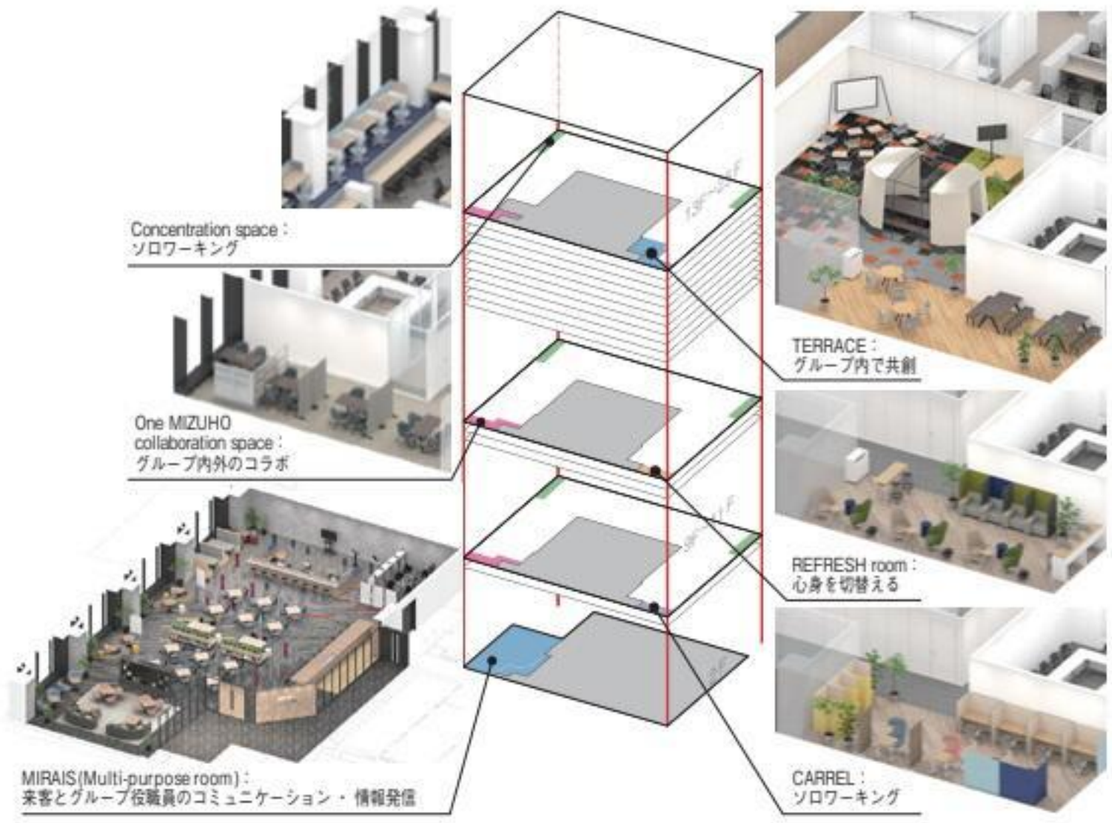


1階平面　縮尺1/1,500



建て替え前配置　縮尺1/4,000

地下貫通通路．天井はアルミルーバーを波型に加工し，流れを表現．



マチカドの構成ダイヤグラム
コミュニケーションを向上させるため，働く場所＋αが点在する．

偶発的な出会いと対話を促すヘッドオフィス

本社というひとつの都市の中で，多様な空間機能を包含し，出会いと対話を促す「マチカド」をワークプレイスのコンセプトとした．マチカドは，社員の動線上に設定しつつも空間は分散させることで，集中とリラックス，動と静のモードの切り替えを促すように配慮した．

社員がナレッジ共有・協働する「TERRACE」，社内外のコラボレーションを通じて新たな価値創造を発信するスペース「MIRAIS」等，数種の空間を各階に積み重ねて配置．

社員の「自ら働き方をデザインする」という行動様式を働く場を通じて後押しするとともに，オフィスに求められるリアルコミュニケーションの価値を最大化する環境づくりを目指した．

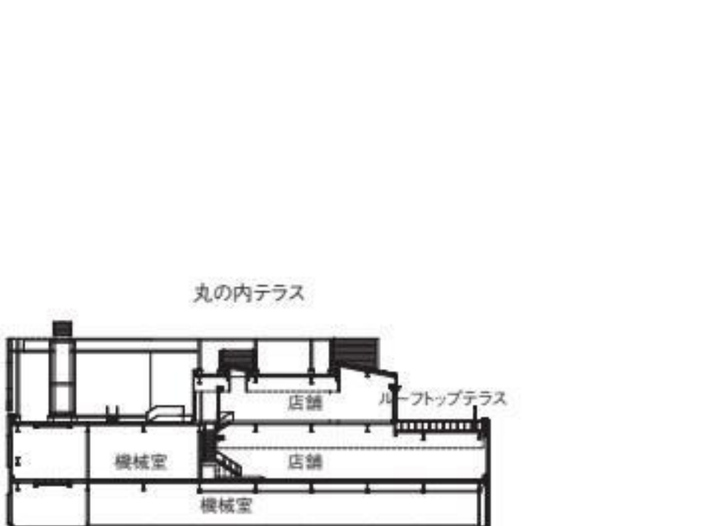
（田淵滋＋山本啓示＋堀田梨絵／日本設計）

上：みずほ丸の内タワー 2階のMIRAIS．
下：16 階のTERRACE．街角にあるテラスのように，自然と人が集まるオープンでカジュアルな共創空間．

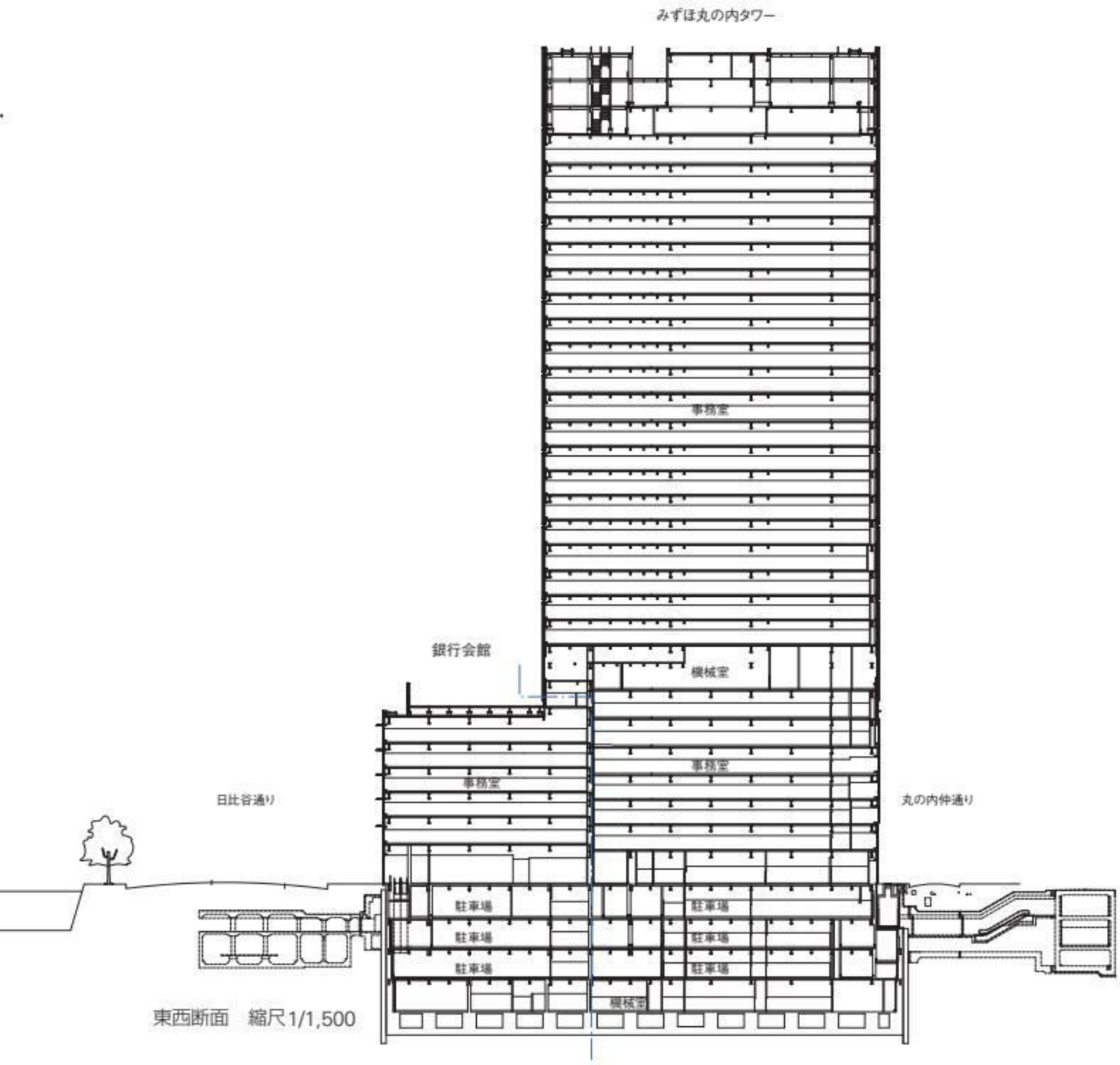
賑わいの核「丸の内テラス」

「丸の内テラス」は，地上10階建てと周辺開発建物と比べると小さいが，本計画区域の北側に位置し，また丸の内仲通りの最北端であることから，仲通りの賑わいを創出するような顔づくりが求められた．ランダムに配列された曲線状の縦フィンと千鳥に配列された凸凹アルミサッシのふたつのレイヤーを重ねた外装は，仲通りの並木が揺れる様子と人びとの賑わいを創出する．敷地北側には，フレームと緑が居心地のよい空間を創出する「丸テラ広場」を設置し，仲通りで行われているイベントと連携することを意図している．周辺開発建物と比べ，小さな「丸の内テラス」が，丸の内仲通りの新たな賑わいの核として，丸の内の歴史に新たな1ページを刻むことを願う．

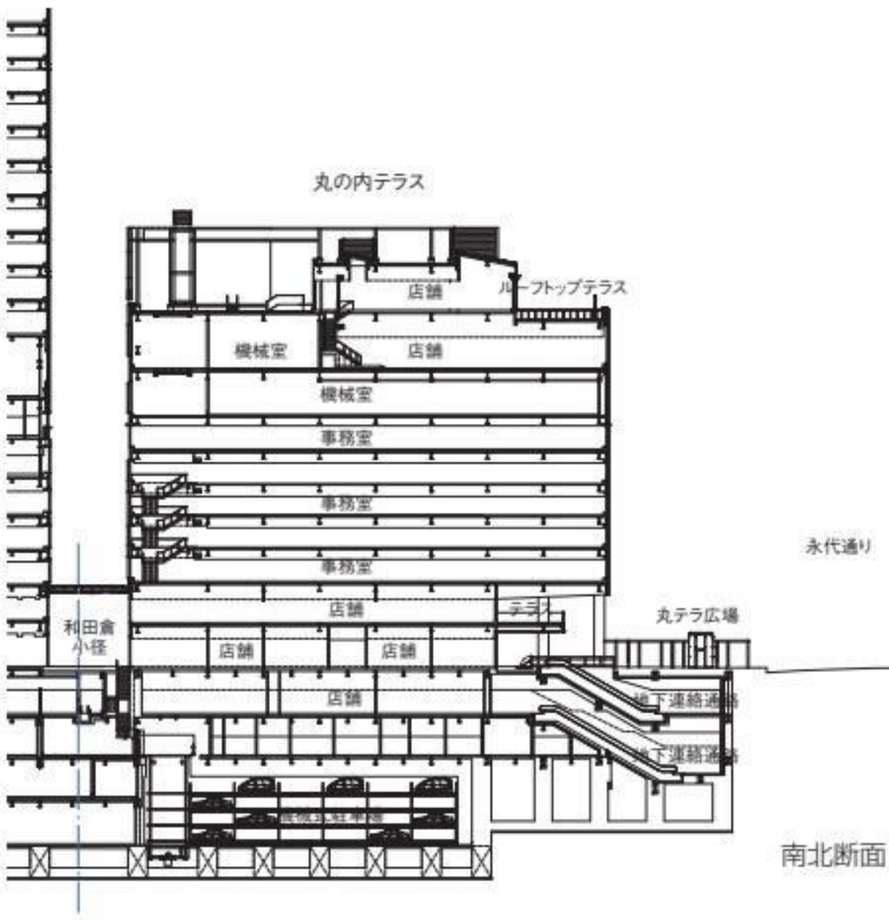
（野村和宣＋松井夏樹／三菱地所設計）



10階店舗に設けたルーフテラス．丸の内テラスは，中層階がプライベートクラブ，その他は店舗で構成．



東西断面　縮尺1/1,500



南北断面

谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館（本文64頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　石川県金沢市寺町5-1-18
主要用途　博物館
建主　金沢市

設計

建築　**谷口建築設計研究所**
担当／谷口吉生　高宮眞介
木藤美和子*　荒川照陽　中原日吉*
（*元所員）
構造　構造計画プラス・ワン
担当／金田勝徳　高橋寛和
擁壁設計　日本海コンサルタント
担当／領家秀志　森影篤史　野村尚樹
設備　森村設計
担当／村田博道　山村高広（機械）
松本尚樹（電気）
防災　安宅防災設計
担当／鈴木貴良
音響　永田音響設計
担当／小野朗
照明　岩井達弥光景デザイン
担当／岩井達弥　石井孝宜
造園　エキープ・エスパス
担当／田中喜一
サイン　キジュウロウ　ヤハギ
担当／矢萩喜従郎　松坂隆
和室再現調査協力　水澤工務店
担当／雨宮敏夫　竹内耕一郎
近藤祐介
監理　谷口建築設計研究所　構造計画プラス・ワン　日本海コンサルタント　森村設計　安宅防災設計　永田音響設計　岩井達弥光景デザイン　エキープ・エスパス　キジュウロウ　ヤハギ

施工

建築　清水・豊蔵・双建特定建設工事共同企業体
担当／三浦正之　会田悟史　足立伸樹
飯田伸吾
和室　水澤工務店
担当／黒野秀浩　内野桂太
空調　松下管工・協同設営特定建設工事共同企業体
担当／吉田裕
衛生　松下管工業
担当／中村忠志
電気　柿本・ワイディ特定建設工事共同企業体
担当／徳田康佑
昇降機　日本オーチス・エレベータ
担当／木本和信
展示　乃村工藝社
担当／池谷雄　鈴木章治

規模

敷地面積　2,032.64m²
建築面積　823.58m²
延床面積　1,570.39m²
地下1階　515.76m²
1階　462.56m²／2階　470.03m²
塔屋階　96.34m²
建蔽率　40.52%（許容：59.69%）
容積率　75.10%（許容：246.49%）
階数　地下1階　地上2階　塔屋1階

寸法

最高高　13,320mm
軒高　13,140mm
階高　地下1階：2,600mm／1階：3,550mm　2階：4,300mm
天井高　ラウンジ：7,410mm／ホール：6,600mm／企画展示室1：4,900mm／企画展示室2：4,200mm／常設展示室1：3,050mm／広縁・広間（平均）：2,984mm／茶室（平均）：2,649mm
主なスパン　4,200～5,900×4,150～4,400mm

敷地条件

地域地区　用途地域　近隣商業地域　第二種住居地域　準防火地域　伝統環境保存区域　寺社風景保全区域　夜間景観形成区域　照明環境形成地域　金沢市伝統環境保存区域（伝統的街並区域，川筋景観区域）　斜面緑地保全区域（区域B，C）　20m高度地区　法第22条区域　風致地区第4種地域
道路幅員　南16.26m
駐車台数　1台（車いす使用者用駐車施設）

構造

主体構造　鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
杭・基礎　直接基礎

設備

空調設備
空調方式　空冷ヒートポンプパッケージエアコン方式＋電気式床暖房
熱源　ガス＋電気（収蔵庫系統のみ）
衛生設備
給水　直結給水方式
給湯　電気温水器による局所方式
排水　汚水（公共下水道放流）　雨水（浸透＋既設公設桝および側溝へ接続）
電気設備
受電方式　6.6kV　高圧1回線受電方式

神奈川工科大学KAIT広場（本文82頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　神奈川県厚木市下荻野1030
主要用途　多目的広場
建主　学校法人幾徳学園

設計

建築　**石上純也建築設計事務所**
担当／石上純也　阿部妙子*
丁周磨*　萬代基介*　森田幸恵*
山田亨*　朝見将之**（*元所員　**石上純也建築設計事務所パートナー）
構造　佐藤淳構造設計事務所
担当／佐藤淳　古市渉平
高田雅之（RGB STRUCTURE）*
後藤裕晃*　福島佳浩*
構造基本計画　小西泰孝建築構造設計
構造解析協力　建築構造研究所
担当／大原和之　大津達郎
風洞実験　鹿島建設技術研究所
担当／鈴木雅靖　山本学　中山かほる
風応答解析　風工学研究所
担当／勝村章　普後良之　普後由佳
居住安全性の検証　FRONE　担当／材木裕居
設備　高砂熱学工業横浜支店　担当／三浦健司
電気　きんでん横浜支社　担当／三澤斉
雨水解析　ハイドロ総合技術研究所
担当／川崎重紀
監理　石上純也建築設計事務所
担当／石上純也　朝見将之
Federico Lepre
監理（構造）　佐藤淳構造設計事務所
担当／佐藤淳　古市渉平

施工

建築　鹿島建設横浜支店
担当／藤野喜則　鶴田素也　米満勝則
根本仁*　二宮龍聖*（*京浜設計所属）
本社協力／遠藤明裕　岩城英夫
佐々木正治　安井好広　川波大介
（BIM）
鉄骨　日南鉄構
担当／鹿島正　山下始　名雪貴晴
白石鉄工　担当／本田和明
イノマタ建設工業
担当／猪股哲也　萩原省一
設備　高砂熱学工業横浜支店
担当／三浦健司　渋谷稔
電気　きんでん横浜支社　担当／由田英樹

規模

敷地面積　129,335.04m²
建築面積　4,109.78m²
延床面積　1,376.42m²
1階　1,376.42m²
建蔽率　29.43%（許容：60%）
容積率　90.48%（許容：200%）
階数　地上1階

寸法

最高高　5,794mm
軒高　5,597mm
天井高　2,412mm

敷地条件

地域地区　第一種住居地域　準防火地域
道路幅員　東4.0～4.5m　西11.70～12.76m　南5.0～6.0m　北4.5～6.5m

構造

主体構造　鉄骨造
杭・基礎　鉄筋コンクリート地中梁　場所打ちコンクリート杭（全周回転オールケーシング工法）　地盤アンカー（KTB協会：KTB引張型SC永久アンカー工法）

工程

設計期間　2008年4月～2019年3月
施工期間　2019年4月～2020年12月

外部仕上げ

屋根　鉄板 t=12mmm＋アスファルト系塗膜防水＋透水性アスファルト t=30mm＋水性系カラー舗装材（N87）
外壁　鉄板 t=9mm＋弱溶剤ウレタン塗料（22-85A，5分艶）
開口部　窓：FLガラスt=6mm　テンパード　ア：強化ガラス t=12mm
外構　植栽：シロツメクサ　舗床：透水性アスファルト

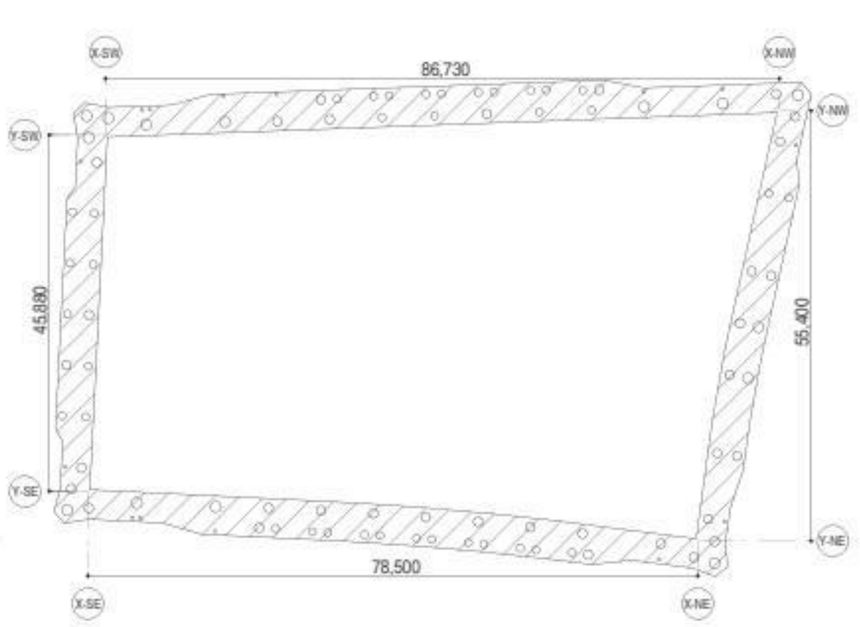
内部仕上げ

床　透水性アスファルト t=50mm＋水性系カラー舗装材（N77）
壁　鉄板 t=9mm＋弱溶剤ウレタン塗料（N93，3分艶）
天井　鉄板 t=12mm＋弱溶剤ウレタン塗料（N95，3分艶）

利用案内

現在，一般非公開
＊2021年4月から一般公開予定.
見学申込み　神奈川工科大学HPより
https://www.kait.jp（2021年3月公開）
問合せ　e-mail:kanzai@kait.jp

配置　縮尺1/8,000



基礎伏せ　縮尺1/1,500

設備容量　225kVA

防災設備

消火　消火器　広範囲2号消火栓
排煙　自然排煙＋機械排煙
その他　水景設備　砂式急速濾過＋塩素・銅イオン殺菌
昇降機　乗用兼車いす用エレベータ（1,000kg/15人乗り）×1台　人荷兼用エレベータ（1,200kg/16人乗り）×1台
特殊設備　融雪：電気式（エントランス部，横樋）　監視：小型集中管理装置　PAC集中管理コントローラー

工程

設計期間　2015年11月～2017年2月
施工期間　2017年6月～2019年5月

工事費

建築	1,317,600,000円
空調	141,134,400円
衛生	70,829,640円
電気	175,446,000円
昇降機	63,529,920円
総工費	1,768,539,960円

外部仕上げ

屋根　アスファルト防水（北川瀝青工業）　耐火デッキv50 t=1.2mm＋スタイロフォーム t=50mm＋塩化ビニルシート防水 t=1.2mm（北川瀝青工業）　亜鉛合金板防水平滑葺き t=0.7mm（銅金）
外壁　ブラジル産花崗岩ジャロSFレアル t=35mm WJ仕上げ（関ヶ原石材）　アルミパネルフッ素樹脂焼付け塗装 t=4mm（藤木サッシ）
開口部　アルミカーテンウォール フッ素樹脂焼付け塗装＋アルミパイプルーバー 電解二次着色（日海不二サッシ）　アルミガラリ フッ素樹脂焼付け塗装（日海不二サッシ）　アルミサッシ フッ素樹脂焼付け塗装（日海不二サッシ，三協立山）　ステンレスサッシ ビーズブラスト仕上げまたはフッ素樹脂焼付け塗装（三和タジマ）
外構　南アフリカ産花崗岩ラスティンバーグ t=30mm JP仕上げ（和田大理石工業）　洗出し舗装（イスルギ）

内部仕上げ

ラウンジ　ミュージアムショップ

床　インド産花崗岩インド黒 t=30mm JP仕上げ（和田大理石工業）
壁　ブラジル産花崗岩ジャロSFレアル t=35mm WJ仕上げ（関ヶ原石材）　ステンレス t=4mm ビーズブラスト仕上げ（菊川工業）
天井　岩綿吸音板

ホール　企画展示室　常設展示室1

床　複合フローリングホワイトオークUV塗装（中部フローリング）
壁　コンクリート打ち放し仕上げ フッ素樹脂クリア塗装　ガラスクロス＋EP（シンコール）　漆喰（イスルギ）
天井　岩綿吸音板

広縁　広間

床　イタリア産玄武岩バサルティーナ t=30mm 水磨き仕上げ（コアド）　京間畳 t=55mm　畳寄：アカマツ
壁　新京壁左官塗特注色（フッコー）
天井　スギ柾勾配天井　突板 L=6,000mm　竿：スギ柾猿頬

茶室

床　イタリア産玄武岩バサルティーナ t=30mm 水磨き仕上げ（コアド）　京間畳 t=55mm　畳寄：アカマツ
壁　新京壁左官塗特注色（フッコー）　腰壁：ヒシギ竹張
天井　スギ柾うづくり目透張 特注銅鈑打ち

主な使用機器

TOTO　UNION　クマヒラ　Takiya　ワン・バイ・ワン
展示照明器具　ヤマギワ

利用案内

開館時間　9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日　月曜日
入館料　常設展　一般310円（260円），65歳以上210円，高校生以下無料
＊（）は20名以上の団体料金
＊企画展は別途料金
問合せ　tel. 076-247-3031
URL　https://www.kanazawa-museum.jp/architecture/

谷口吉生（たにぐち・よしお）

1937年東京都生まれ／1960年慶應義塾大学工学部機械工学科卒業／1964年ハーバード大学建築学科（建築学修士）修了／1964～72年東京大学都市工学科丹下研究室および丹下健三・都市・建築設計研究所／1979年～谷口建築設計研究所所長

石上純也（いしがみ・じゅんや）

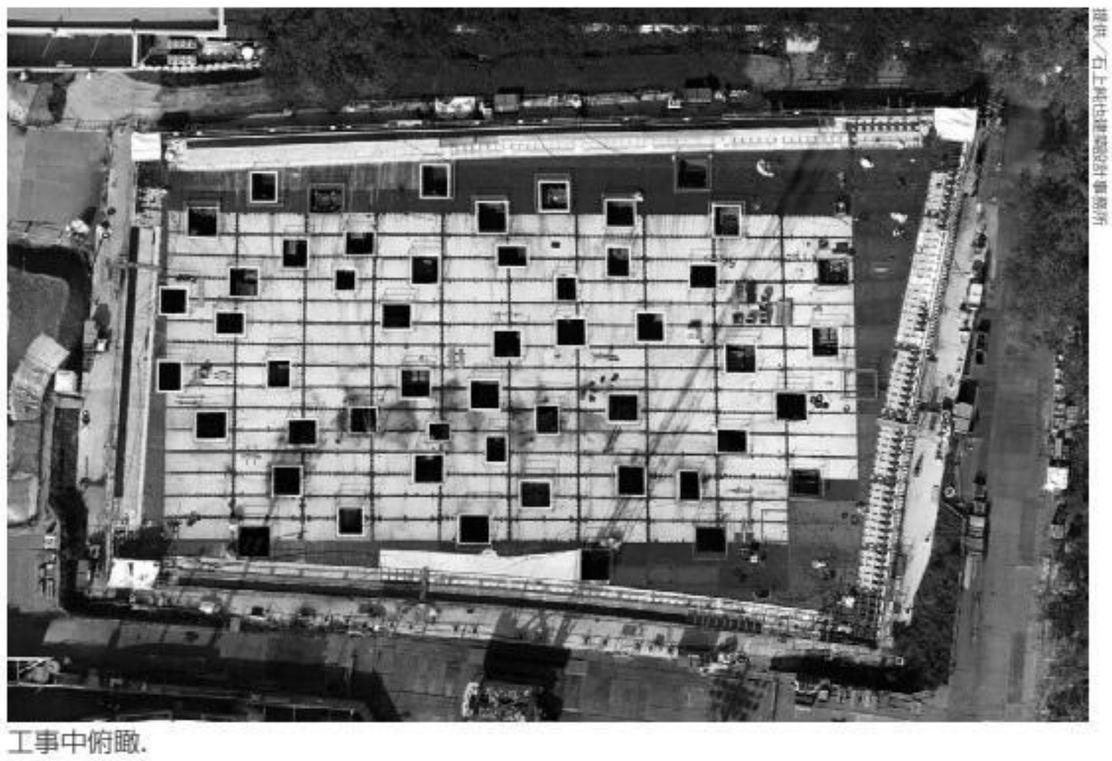
1974年神奈川県生まれ／2000年東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了／2000～04年妹島和世建築設計事務所／2004年石上純也建築設計事務所設立／2010～12年東北大学大学院特任准教授／2014年ハーバード大学デザイン大学院客員教授／2015年プリンストン大学大学院客員教授／2016年メンドリジオ建築アカデミー客員教授／2017年オスロ大学大学院客員教授，コロンビア大学大学院客員教授

朝見将之（あさみ・まさゆき）

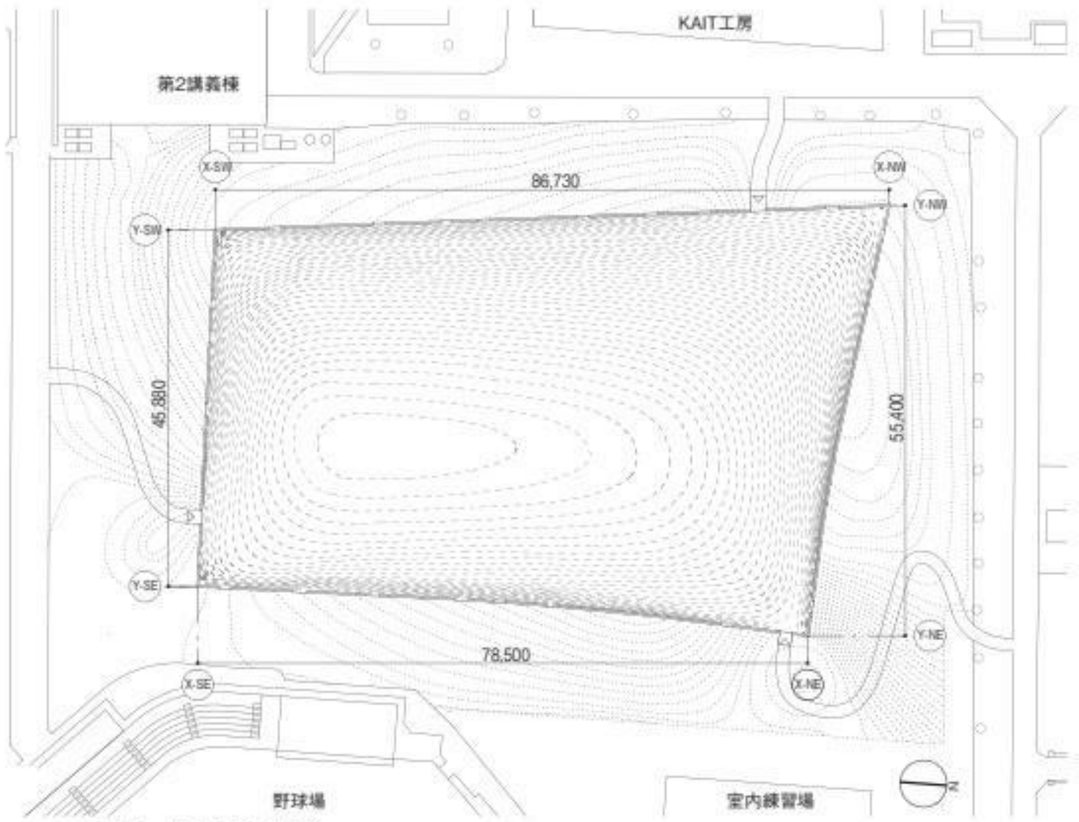
1989年広島県生まれ／2013年神戸大学工学部建築学科卒業／2014年Chelsea College of Arts, University of the Arts London. Graduate Diploma修了／2014～15年Imke Woelk und Partner ／2015年～石上純也建築設計事務所／2019年～同事務所パートナー

李沢男（り・さわお）

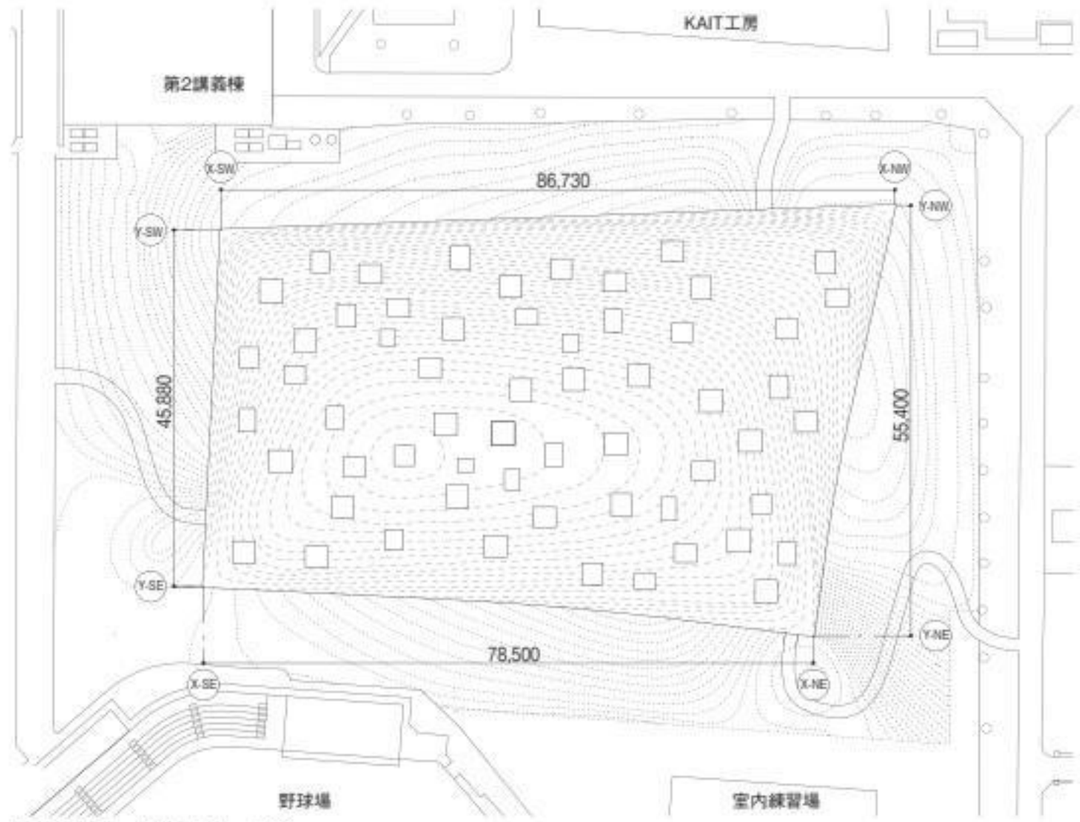
1987年中国山東省生まれ ／2011年Qingdao University of Technology QDC建築学科Bachelor's degree ／2015～16年東京藝術大学 美術学部研究生終了／2015年～石上純也建築設計事務所／2019年～同事務所パートナー



工事中俯瞰．



平面　縮尺1/1,500



屋根伏せ　縮尺1/1,500

白井屋ホテル（本文100頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　群馬県前橋市本町2-2-15
主要用途　ホテル
建主　マーズ
設計
建築　藤本壮介建築設計事務所
担当／藤本壮介　岩田正輝　中川俊之
高橋史朗　古澤泰　Ouhibi Nadir
北村友憲　Natasya Handajuwana
西川貴大　三ケ田早織　佐藤めぐみ
Francesco Zonca　友枝遥*
鈴木美南子*　藤井田仁*　藤井玄徳*
Li Qun*　Giorgio Castellano*
Giulia Curti*　Kim Seungtaek*（*元所員）
スペシャルルーム　Leandro Erlich Studio（共用部アート含む）
Jasper Morrison Ltd
Michele De Lucchi and AMDL CIRCLE
構造　石井設計
担当／伊佐俊昭
設備　石井設計
機械担当／高橋勝
電気担当／堀越裕
照明　LIGHTDESIGN
担当／東海林弘靖　黒田茜
植栽　SOLSO
担当／齊藤 太一　板垣 雄太
レストラン内装　エスキス
担当／甲斐晋介　奥見真希
サイン　nanilani
担当／村瀬隆明　久田幸弘　関根亮
テキスタイル　安東陽子デザイン
担当／安東陽子　山口かすみ
備品・インテリアスタイリング　長山智美
監理　藤本壮介建築設計事務所
担当／藤本壮介　中川俊之　高橋史朗
北村友憲　西川貴大
施工
建築　冬木工業
担当／下境 弘志　根岸幸秀　高橋祐介
設備・空調　ヤマニ熱工業　担当／松永初夫
電気　マルフク電気　担当／松本共泰
家具客室　seventh-code　担当／南部剛宏
ラウンジ家具　Think Green Produce
担当／川又祐介
Landscape Products
担当／金相和　佐々木達也　村上雄一
植栽　SOLSO　担当／齊藤太一　板垣雄太
サイン　フレンズ
担当／高根澤直　白石大智
アート　東京スタデオ
担当／白井伸樹　飯泉勉　福村孝
ボグシェフスカヤ・ニーナ　太田琴美
規模
敷地面積　本館：　812.98m²
新館：　778.08m²
建築面積　本館：　713.53m²
新館：　610.86m²
延床面積　本館：1,744.52m²
新館：　820.94m²
建蔽率　本館:87.76%（許容:90%）　新館:78.51%（許容：80%）
容積率　本館：212.03%（許容：600%）新館：103.83%（許容：600%）
階数　地下1階　地上4階(本館)，地上5階(新館)
寸法
最高高　本館：20,150mm／新館：19,300mm
軒高　本館：16,620mm／新館：19,300mm
階高　本館客室：3,600mm／新館客室：3,000mm
天井高　本館客室：3,130mm／新館客室：

YUBUNE（1階）（本文112頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　東京都新宿区新宿5-10-1 第2スカイビル1階
主要用途　物販店
建主　ネセサリー
設計
建築・監理　西沢立衛建築設計事務所
担当／西沢立衛　植田有紗　植松里緒
横山拓矢
構造協力　小山内博樹
照明協力　遠藤照明
担当／片山朋子
施工
建築　ルーツ
担当／増田隆士
アクリルパーティション　アサヒプラスチックス
担当／軸丸吉男
規模
延床面積　50.3m²
1階　50.3m²
階数　地上1階
（建物全体：地上10階　地下1階）
寸法
階高　5,200mm
天井高　4,900mm
構造
主体構造　鉄筋コンクリート造
工程
設計期間　2019年12月～2020年6月
施工期間　2020年7月～9月
外部仕上げ
外壁　既存まま
開口部　スチールサッシ（既存）　スチールテンパードア（既存）
サイン　SUSパネル＋塗装
内部仕上げ
床　テラゾータイル貼り 見切り材真鍮（既存まま）
壁　既存躯体＋EP
天井　PB t=12.5mm＋EP
パーティション　アクリル板 t=8mm
利用案内
営業時間　11:30 ～ 18:30
定休日　月・火曜日

西沢立衛（にしざわ・りゅうえ）

1966年東京都生まれ／1990年横浜国立大学大学院修士課程修了後，妹島和世建築設計事務所入所／1995年妹島和世と共にSANAA設立／1997年西沢立衛建築設計事務所設立／現在，横山国立大学大学院建築都市スクールY-GSA教授

三栄建設 鉄構事業本部新事務所（本文118頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　大阪府大阪市大正区南恩加島6-2-21
主要用途　事務所
建主　三栄建設
設計
竹中工務店
建築担当／小幡剛也　檜山知則　窪田龍二　瀬山充博　田中盛志　藤原治哉
平山朋史　篠直人　向山雅之
大矢知良　村田裕介
構造担当／野澤裕和　大野正人
内山元希　小林拓未
設備担当／松本健　世利公一　小玉直史
監理担当／松本忠史　石井肇
山田晃平　村上昇
施工
竹中工務店
建築担当／三木憲一　中江正人　菱沼卓
空調・衛生・電気担当／梅本武志
規模
敷地面積　95,156.50m²
建築面積　2,103.10m²（今回計画分）
延床面積　4,710.55m²（今回計画分）
1階　2,047.18m²／2階　1559.26m²
3階　1104.11m²
建蔽率　23.12%（許容：60%）
容積率　40.03%（許容：205.92%）
階数　地上3階
寸法
最高高　13,500mm
軒高　13,060mm
階高　3,800 ～ 4,300mm
天井高　2,700 ～ 11,870mm
敷地条件
地域地区　工業専用地域　法第22条区域
道路幅員　東39.92m　南7.15m　北6.02m
駐車台数　24台（今回計画分）
構造
主体構造　鉄骨造
杭・基礎　杭基礎
設備
空調設備
空調方式　空冷ヒートポンプビルマルチ方式
熱源　電気
衛生設備
給水　受水槽＋加圧給水方式
給湯　ガス瞬間湯沸中央方式（厨房，シャワー）　電気局所式（手洗い）
排水　汚水，雑排水合流方式
電気設備
受電方式　高圧1回線引込方式
設備容量　800kVA
契約電力　250kVA
予備電源　自家発電機（防災用）
防災設備
自火報　非常照明　誘導灯
消火　屋内消火栓設備　消火器
排煙　自然排煙
その他　厨房器具設備
昇降機　乗用エレベータ（11人乗り）×2台
工程
設計期間　2017年11月～2018年11月
施工期間　2018年11月～2020年4月（I期：建屋）　2020年4月～ 10月（II期：外構（既存解体含む））
外部仕上げ
屋根　シート断熱防水機械固定工法
外壁　アルミパネル t=3.0mm
開口部　アルミカーテンウォール　スチールマリオン
外構　高木：ケヤキ　オオシマザクラ　クスノキ　シラカシ　中木：シラカシ　ウバメガシ　ネズミモチ　低木：ハマヒサカキ　シャリンバイ　イヌツゲ　地被：コグマザサ　芝
内部仕上げ
エントランスホール
床　複層フローリング オーク t=15mm（中部フローリング）
壁　PBの上EP　一部耐震壁の上SOP，木練付け
天井　岩綿吸音板（ダイケン：ダイロートンギンガ）
従業員エントランス
床　陶磁器質タイル600角 t=10.3mm（名古屋モザイク工業：コットメント）
壁　PBの上，EP　アルミスクリーン　木毛セメント板（竹村工業）
天井　岩綿吸音板（ダイケン：ダイロートンギンガ）
カフェテリア
床　複層フローリング オーク t=15mm（中部フローリング）
壁　ガラススクリーン　アルミスクリーン
天井　鋼板スラブ直天の上SOP グラスウール t=25mm ガラスクロス張り　アルミエキスパンドメタル

小幡剛也（おばた・たけや）

1969年大阪府生まれ／1991年京都大学工学部建築学科卒業／1993年同大学大学院修了後，竹中工務店設計部入社／現在，同社設計部第三部長／2020年～神戸大学客員教授

瀬山充博（せやま・みつひろ）

1976年大阪府生まれ／1999年京都工芸繊維大学造形工学科卒業／2001年同大学大学院修了後，竹中工務店設計部入社／現在，同社設計部課長

田中盛志（たなか・せいじ）

1979年東京都生まれ／2002年東京工業大学建築学科卒業／2003年デルフト工科大学／2005年東京工業大学大学院修了後，竹中工務店設計部入社／現在，同社設計部主任

大野正人（おおの・まさひと）

1976年大阪府生まれ／2000年京都大学工学部建築学科卒業／2002年同大学大学院修了後，竹中工務店設計部入社／現在，同社設計部課長

2,650mm

敷地条件

地域地区　防火地域　準防火地域　前橋都市計画区域　駐車場整備地区
道路幅員　南27m　北7.6m

構造

主体構造　鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
杭・基礎　直接基礎（地盤改良）

設備

空調設備

空調方式　空冷ヒートポンプエアコン方式（ビル用マルチ・個別併用）

衛生設備

給水　直結増圧給水方式
給湯　中央給湯方式（ガス利用マルチ瞬間湯沸器）
排水　屋内汚水雑排水合流排水方式

電気設備

受電方式　高圧受電方式
設備容量　500kVA
排煙　自然排煙

工程

設計期間　2014年10月～2017年7月
施工期間　2017年8月～2020年5月

外部仕上げ

■本館

屋根　シート防水
外壁　弾性塗料（SK化研：セラミクリーン）
開口部　アームス（三協アルミ）
外構　レンガタイル（TLCアソシエイツ）

■新館

屋根　大林式緑化工法（大林環境技術研究所）
外壁　大林式緑化工法（大林環境技術研究所）
ガルバリウム張り（BLアートサイディング）
開口部　アームス（三協アルミ）
外構　レンガタイル（TLCアソシエイツ）

内部仕上げ

■本館

客室・共用部

床　カーペット（パシフィックテキスタイル：特注，東リ：FG7151）
壁・天井　EP塗装

ラウンジ

床　レンガタイル（TLCアソシエイツ）
壁・天井　EP塗装

レストラン

床　磁器タイル貼り（藤垣窯業：PSR-4052）
壁　磁器タイル貼り（ダイナワン：DNES-500B/H-JBLACK）
天井　不燃突板貼り（安多化粧合板）

■新館

客室・共用部

床　カーペット（東リ：FG7151）
壁・天井　EP塗装

利用案内

問合せ　tel. 027-231-4618
https://www.shiroiya.com/

藤本壮介（ふじもと・そうすけ）

1971年北海道生まれ／1994年東京大学工学部建築学科卒業／2000年藤本壮介建築設計事務所設立

HANEDA INNOVATION CITY I期（本文128頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　東京都大田区羽田空港1-1-4
主要用途　先端モビリティ開発センター（自動車整備工場・体験型商業施設）　研究開発オフィス　区施策活用スペース　会議研修センター　イベントホール　水素ステーション
建主　羽田みらい開発（鹿島建設，大和ハウス工業，京浜急行電鉄，日本空港ビルデング，空港施設，東日本旅客鉄道，東京モノレール，野村不動産パートナーズ，富士フイルム）

設計

KAJIMA DESIGN（**全体計画およびゾーンD・E・G・H**）
統括／仙波武士
建築担当／須都信義　大橋隆男　石井英樹　持田文彦　浅川毅郎　八下田知子　谷口勝之　内藤俊彦　杉山弘樹　槙枝潤一　石原大世　柴田作　石津翔太　田中重和　藤澤宏美　村井智美　河野陽子
構造担当／山口圭介　石川忠志　矢野貴大（元所員）　岡田純一
設備担当／滝村徹　横山淳一　八木崇　高橋賢伍　山本健太　阿部舜　太田和好　谷口和信　鈴木順一　木原勇信
監理担当／郷健一郎　小野雄一郎　遠藤智弘　藤井啓樹　松田義弘　山口博由　相川正　川越和則

大和ハウス工業（**ゾーンF・I・J・K・L**）
建築担当／畑秀和　渋谷晃彦　羽毛田真也　金ボラム　得上隆司　根本創太郎　福田衿奈　生田竜三　陳嘉琪　青木久　前園朋宏
構造担当／三嶋巧　藤川佳孝　塚本肇
設備担当／赤木誠志　赤尾成一郎　太田涼平
監理担当／川又憲一

ゾーンE（自動車整備および開発拠点）内装設計・監理　成瀬・猪熊建築設計事務所
担当／成瀬友梨　猪熊純　長谷川駿
照明デザイン　トモルデザイン・メグロ
担当／目黒朋美　永井律
サインデザイン　八島デザイン事務所
担当／八島紀明　前田成彦
外構デザイン　ランドスケープデザイン
担当／田嶋豊　櫻田武志（元所員）　髙橋大樹
サウンドデザイン　サウンドデザイン・ジャパン
担当／井口幹雄　田中千恵

施工

鹿島建設
建築担当／廣田裕介　池田和久　肥田泰明　田所隆利　中村浩章　横川由行　小田原聖
設備担当／舘澤直紀

大和ハウス工業
建築担当／小笠原勇一　権藤繁雄　光山浩正　中村貴彦　椋健一

規模

■全体（I期）

敷地面積　45,447.32m²
建築面積　21,140.42m²
延床面積　57,746.28m²
建蔽率　35.87%（許容：70%）
容積率　87.71%（許容：200%）
階数　地下1階　地上7階　塔屋1階

■ゾーンD（研究開発オフィス）

延床面積　7,984.46m²
1階　2,781.13m²／2階　2,763.44m²
3階　2,389.92m²
塔屋階　48.95m²
階数　地上3階　塔屋1階

■ゾーンE（先端モビリティセンター）

延床面積　3,258.37m²
1階　1,672.61m²／2階　1,505.16m²
3階　80.59m²
階数　地上3階

■ゾーンF（レンタカーオフィス）

延床面積　59.95m²
階数　地上1階

■ゾーンG（水素ステーション）

延床面積　272.17m²
階数　地上1階

■ゾーンH（イベントホール）

延床面積　4,562.74m²
1階　3,018.49m²／2階　1,544.24m²
階数　地上2階

■ゾーンI・J（会議研修センター・フードコート）

延床面積　18,320.35m²
1階　7,008.99m²／2階　3,963.32m²
3階　2,412.95m²／4階　2,101.50m²
5階　2,101.50m²／6階　688.98m²
7階　43.07m²
階数　地上7階

■ゾーンK（区施策活用スペース・ベンチャーオフィス）

延床面積　23,127.82m²
地下1階　752.16m²／1階　5,401.44m²
2階　4,440.57m²／3階　3,957.37m²
4階　4,066.37m²／5階　3,750.77m²
6階　759.11m²
階数　地下1階　地上6階

■ゾーンL（アーティストビレッジ）

延床面積　L1・L2：21.16m²
階数　地上1階

寸法

■ゾーンD（研究開発オフィス）

最高高　23,325mm
軒高　16,250mm
階高　事務室：4,500mm
天井高　事務室：3,000mm
主なスパン　6,200×7,200mm

■ゾーンE（先端モビリティセンター）

最高高　15,800mm
軒高　10,870mm
階高　1階整備工場：6,450mm
天井高　2階店舗エントランス：3,000mm
主なスパン　9,900×9,300mm

■ゾーンF（レンタカーオフィス）

最高高　4,300mm
軒高　3,600mm
天井高　レンタカーオフィス：2,700mm

■ゾーンG（水素ステーション）

最高高　5,945mm
軒高　4,520mm

■ゾーンH（イベントホール）

最高高　18,250mm
軒高　17,950mm
階高　6,750mm
天井高　劇場：12,700mm
主なスパン　4,600×5,700mm

■ゾーンI・J（会議研修センター・フードコート）

最高高　26,950mm
軒高　26,100mm
階高　1階会議室：5,800mm／2階ロビー：4,000mm／3～6階客室：3,200mm
天井高　大会議室：3,500mm／客室：2,500mm／客室廊下：2,150mm
主なスパン　10,800×6,000mm

■ゾーンK（区施策活用スペース）

最高高　32,950mm
軒高　31,750mm
階高　1階ラボ：5,800mm／2階ラボ：5,500mm／3～5階事務所：4,500mm／6階エネルギーセンター：6,500mm
天井高　1階：4,000mm／2階：3,500mm／3～5階事務所：（想定）3,000mm
主なスパン　10,100×9,600mm

■ゾーンL（アーティストビレッジ）

最高高　3,900mm
軒高　3,200mm
天井高　レンタカーオフィス：2,450mm

敷地条件

地域地区　準工業地域　準防火地域　航空法高さ制限　羽田空港跡地地区土地区画整備事業1街区3画地，1街区4画地　国家戦略特区　認定民間都市再生事業計画（国土交通大臣認定2018年／特定都市再生緊急整備地域内）
道路幅員　南19m　北31m　南西19m
駐車台数　277台

構造

主体構造　鉄骨造　一部鉄筋コンクリート造
杭・基礎　杭基礎（既製コンクリート杭　一部鋼管杭）

設備

■ゾーンD（研究開発オフィス）

空調設備

空調方式　個別空調　空冷ヒートポンプビル用マルチ（冷暖切替型）
熱源　空冷ヒートポンプモジュールチラー150kW×2台

衛生設備

給水　受水槽・加圧給水方式（上下水・雑用水）
給湯　局所式（貯湯式電気温水器）
排水　汚水・雑排水合流（建屋内）　汚水・雨水分流

電気設備

受電方式　特高電気室より高圧1回線受電
設備容量　2,050kVA
予備電源　ガスタービン発電機　500kVA

防災設備

防災　自動火災報知設備　誘導灯設備　非常放送設備　非常用照明
消火　スプリンクラー設備　連結送水管設備　移動式粉末消火設備　消火器
排煙　機械排煙（非常用エレベータ乗降ロビー）押出排煙
昇降機　非常用兼人荷用エレベータ（17人乗り）×1台　乗用エレベータ（17人乗り）×2台

■ゾーンE（先端モビリティセンター）

空調設備
空調方式　空冷ヒートポンプパッケージ空調機　ビル用マルチ
熱源　電気
衛生設備
給水　直結増圧方式
給湯　局所式（電気）
排水　汚水・雑排水合流（建屋内）　汚水・雨水分流
電気設備
受電方式　特高電気室より高圧1回線受電
設備容量　1,500kVA
予備電源　ディーゼル発電機 250kVA
防災設備
防災　自動火災報知設備　誘導灯設備　非常放送設備　非常用照明
消火　スプリンクラー設備　連結送水管設備　泡消火設備　消火器
排煙　自然排煙　機械排煙
昇降機　乗用兼人荷用エレベータ（20人乗り）×1台　乗用エレベータ（15人乗り）×1台，（9人乗り）×2台
■ゾーンF（レンタカーオフィス）
空調設備
空調方式　個別空調　空冷ヒートポンプパッケージ
衛生設備
給水　受水槽＋加圧給水方式
給湯　貯湯式電気温水器
■ゾーンG（水素ステーション）
空調設備
空調方式　個別空調　空冷ヒートポンプパッケージ
衛生設備
給水　受水槽＋加圧給水方式
給湯　貯湯式電気温水器
排水　汚水・雑排水合流（建屋内）　汚水・雨水分流
その他　防災用マンホールトイレ
電気設備
受電方式　特高電気室より高圧1回線受電
設備容量　475kVA
防災設備
防災　非常用照明
消火　消火器
■ゾーンH（イベントホール）
空調設備
空調方式　空冷ヒートポンプパッケージ　ビル用マルチ
熱源　電気
衛生設備
給水　上水：直結増圧方式　雑用水：雑用水槽＋ポンプ圧送方式
給湯　局所式（電気）
排水　汚水・雑排水合流（建屋内）　汚水・雨水分流
電気設備
受電方式　特高電気室より高圧1回線受電
設備容量　2,900kVA
予備電源　ガスタービン発電機500kVA
防災設備
防災　自動火災報知設備　誘導灯設備　非常放送設備　非常用照明
消火　スプリンクラー設備　連結送水管設備　泡消火設備　消火器
排煙　機械排煙
昇降機　乗用エレベータ（11人乗り）×2台
■ゾーンI・J（会議研修センター・フードコート）
空調設備
空調方式　空冷ヒートポンプパッケージ方式
衛生設備
給水　受水槽＋加圧給水方式
給湯　ガス給湯式中央給湯方式
排水　建屋内：汚水・雑排水合流方式　屋外：雨水分流方式
電気設備
設備容量　4100kVA（高圧）
予備電源　発電機750kVA
防災設備
消火　消火　スプリンクラー設備（湿式）　連結送水管設備
排煙　機械排煙　自然排煙
昇降機　乗用エレベータ（11人乗り）×1台，（15人乗り）×3台，（20人乗り）×1台，（24人乗り）×1台　非常用エレベータ（26人乗り）×1台
■ゾーンK（区施策活用スペース・ベンチャーオフィス）
空調設備
空調方式　外調機＋空冷ヒートポンプパッケージ方式
衛生設備
給水　受水槽＋加圧給水方式
排水　建屋内：汚水・雑排水合流方式　屋外：雨水分流方式
電気設備
設備容量　4100kVA（高圧）
予備電源　発電機750kVA
防災設備
消火　消火　スプリンクラー設備（湿式）　連結送水管設備
排煙　機械排煙　自然排煙
昇降機　乗用エレベータ（11人乗り）×1台，（15人乗り）×2台　非常用エレベータ（17人乗り）×1台　人荷用エレベータ（30人乗り）×1台
■ゾーンL（アーティストビレッジ）
給水　受水槽＋加圧給水方式
その他　屋外シンク　イベント盤

工程
設計期間　2017年6月～2018年11月（I期）
施工期間　2018年12月～2020年5月

外部仕上げ
屋根　アスファルト防水コンクリート押え　フッ素塗装ガルバリウム鋼板 t=0.8mm（三晃金属工業：三晃式丸馳折板I型）
外壁　プレキャストコンクリート版（富士セメント，高橋カーテンウォール，ヨシコン）　押し出し成形セメント板　アルミ切板 t=3mm フッ素樹脂焼付塗装　ALC板 t=100　タイルベース仕様の上，弾性複合塗材（ALC：クリオンCDR構法，クリオンDDDパネルタイル張用 面取3mm品）
開口部　アルミカーテンウォール　Low-E複層ガラス（LIXIL）　アルミサッシ（YKK AP）　ガラススクリーン
コリドー床　磁器質床タイル600×300mm（アドヴァン）
外構　透水性インターロッキングブロック（日本興業）　人研ぎベンチ
特殊環境音響　パイプスピーカー（サウンドデザイン・ジャパン）
サイン　コヤマ

内部仕上げ
■ゾーンD（研究開発オフィス）
事務室
床　OAフロア　タイルカーペット
壁　PB t=12.5＋12.5mmの上，EP塗装
天井　システム天井
■ゾーンE（先端モビリティセンター）
自動車整備工場
床　鉄筋コンクリートの上，硬質ウレタン系塗装
壁　木毛セメント板 t=20mmの上，EP塗装
天井　デッキ現し
サービス店舗
床　鉄筋コンクリートの上，タイルカーペット
壁　PB t=12.5mmの上，G-EP塗装
天井　デッキ現しの上，不燃吸音材張り
■ゾーンG（水素ステーション）
管理室
床　鉄筋コンクリートの上，タイルカーペット
壁　PB t=12.5mmの上，無機質壁紙
天井　ロックウール化粧吸音板
機械室
床　鉄筋コンクリートの上，塗床材
壁・天井　グラスウールボード
■ゾーンH（イベントホール）
ホール客席
床　鉄筋コンクリートの上，ビニル床タイル
壁　PB t=12.5＋12.5mmの上，GWボードガラスクロス包み
天井　PB t=15＋15mmの上，GWボードガラスクロス包み
楽屋
床　鉄筋コンクリートの上，タイルカーペット
壁　メラミン化粧板 t=6mm　ビニル壁紙
天井　PB t=12.5＋12.5mmの上，EP塗装
■ゾーンI・J（会議研修センター・フードコート）
会議室
床　OAフロア t=100mmの上，タイルカーペット
壁　PB t=12.5mmの上，化粧シート
天井　岩綿吸音板
ホテル客室
床　鉄筋コンクリートの上，タイルカーペット
壁・天井　PB t=12.5mmの上，クロス貼り
■ゾーンK（区施策活用スペース・ベンチャーオフィス）
ラボ
床　鉄筋コンクリートの上，ウレタン塗床
壁　PB現し
天井　天井現し
事務室
床　OAフロア t=100mmの上，タイルカーペット
壁　クロス貼り
天井　岩綿吸音板
■ゾーンF（レンタカーオフィス）
床　鉄筋コンクリートの上，タイルカーペット
壁　PB t=12.5mmの上，クロス貼り
天井　不燃化粧PB t=9.5mm
■ゾーンL（アーティストビレッジ）
床　鉄筋コンクリート 素地
壁・天井　PB t=12.5mm 素地

利用案内
営業時間　飲食施設：11:00 ～ 22:00　館内サービス：10:00 ～ 20:00

仙波武士（せんば・たけし）

1965年東京都生まれ／1990年横浜国立大学工学部建築学科卒業／1992年同大学大学院修士課程修了後，鹿島建設入社／2002～04年インゲンホーフェン・アーキテクツ／現在，鹿島建設建築設計本部建築設計統括グループグループリーダー

須都信義（すと・のぶよし）

1968年兵庫県生まれ／1992年京都大学工学部建築学科卒業／1992～93年パリ建築大学ラ・ヴィレット校／1995年京都大学大学院修士課程修了／1995～2006年北川原温建築都市研究所／2006年鹿島建設入社／2013～18年 KAJIMA DESIGN ASIA ／現在，鹿島建設建築設計本部建築設計統括グループチーフ

大橋隆男（おおはし・たかお）

1969年新潟県生まれ／1992年筑波大学芸術専門学群卒業後，鹿島建設入社／現在，同社建築設計本部建築設計統括グループチーフ

石井英樹（いしい・ひでき）
1968年千葉県生まれ／1991年東京工業大学工学部建築学科卒業／1993年同大学大学院修士課程修了後，鹿島建設入社／現在，同社建築設計本部建築設計統括グループチーフ

加藤篤史（かとう・あつし）

1968年富山県生まれ／1991年埼玉大学工学部建設工学科卒業後，鹿島建設入社／現在，同社開発事業本部事業部1事業部長

羽毛田真也（はけた・しんや）

1984年東京都生まれ／2008年早稲田大学理工学部建築学科卒業後，大和ハウス工業入社／現在，同社東京建築設計部主任技術者

クアパーク長湯（本文138頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　大分県竹田市直入町長湯3041-1
主要用途　温浴施設
建主　竹田市（クアハウス）　長湯ホットタブ（クアレストラン，クアホテル）

設計

建築　**坂茂建築設計**
担当／坂 茂　平賀信孝*　菅井啓太
中村有利　鈴木智紀（*元所員）
梶原彗太　曾宏文
構造　星野建築構造設計事務所（クアハウス，クアレストラン）
担当／星野修一　栗原晶子
陶器浩一　高橋俊也構造建築研究所（クアハウス屋根）
担当／陶器浩一　高橋俊也
ホルツストラ（クアホテル）
担当／稲山正弘
設備　知久設備計画研究所（クアハウス，クアレストラン）
担当／川村政治*　知久岳　峯田広大
クアハウス屋根架構形態生成プログラム
アンズスタジオ
担当／竹中司　桐本隆士
ランドスケープ　スタジオテラ
担当／石井秀幸　野田亜木子
杉山芳里*
ランドスケープ（プロポーザル時）　石川初
照明計画　岩井達弥光景デザイン（クアハウス）
担当／岩井達弥
積算　二葉積算（クアハウス）
担当／齋藤誠　浅沼豊一　田村憲明
ベイジングウェアデザイン　LIMIDEA
担当／森崇
サイン計画　まちづくりたけた
担当／友永英治　阿部珠美

監理
建築　坂茂建築設計
担当／坂 茂　平賀信孝*
菅井啓太　中村有利　鈴木智紀
構造　星野建築構造設計事務所（クアハウス，クアレストラン）
担当／星野修一　栗原晶子
陶器浩一　高橋俊也構造建築研究所（クアハウス屋根）
担当／陶器浩一　高橋俊也
設備　知久設備計画研究所（クアハウス，クアレストラン）
担当／川村政治*　知久岳　峯田広大
ランドスケープ　スタジオテラ
担当／石井秀幸　野田亜木子
杉山芳里*
照明計画　岩井達弥光景デザイン（クアハウス）
担当／岩井達弥

施工

■クアハウス
建築　森田建設
担当／岡村建一　古瀬智志　原口幸紀
江口健太郎　熊谷僚謙
設備　森田建設　担当／遠矢秀人
電気　河野電機　担当／奥森徳一
機械（空調・衛生）　協栄工業
担当／荒川貴章
土木　森田建設（クアハウス）
担当／前田英樹
造園　内山緑地　担当／日野仁洋

■クアレストラン
建築　藤和建設　担当／佐藤等　佐藤允崇
電気　竹田電気工事社　担当／阿南敬紀
九電工
担当／山口徹二　小石聡　永松優弥
機械　後藤製材所　担当／賀籠六尚樹
土井燃料
担当／安達友彦

クアホテル
建築　ペネッツ
担当／伊東政博　伊東哲也
電気　エニシード
担当／小出誠士　荒牧智之
機械（衛生）　清水設備　担当／清水寿也
清水吉宗
造園　安藤庭園　担当／安藤豊　安藤都
安藤遼一　安藤卓哉
土木　前田道路　担当／楢本一希

規模

■クアハウス
敷地面積　2,441.62m²
建築面積　559.64m²
延床面積　668.60m²
建蔽率　22.92%（許容：80%）
容積率　27.38%（許容：200%）
階数　地上2階
1階　481.07m² ／ 2階　187.53m²

■クアレストラン
敷地面積　551.08m²
建築面積　333.00m²
延床面積　243.03m²
建蔽率　60.43%（許容：80%）
容積率　44.10%（許容：200%）
階数 地上1階
1階　243.03m²

■クアホテル
敷地面積　2,178.97m²
建築面積　411.10m²
延床面積　439.58m²
建蔽率　18.87%（許容：80%）
容積率　20.17%（許容：200%）
階数 地上2階
1階　27.60m²または26.20m²/棟

寸法

■クアハウス
最高高　7,220mm
軒高　4,550mm
階高　多目的ホール：4,006.5mm
天井高　多目的ホール：3,010mm
主なスパン　5,000×4,500mm

■歩き湯
最高高　2,200mm
軒高　2,100mm
階高　浴槽：2,805mm
天井高　浴槽：平均2,505mm
主なスパン　1,675×4,000mm

■クアレストラン
最高高　4,230mm
軒高　3,600mm
階高　ホール：3,500mm
天井高　ホール：平均2,895mm
主なスパン　1,250×9,600mm

■クアホテル
最高高　4,700mm
軒高　2,960mm
階高　客室：2,360mm
天井高　客室：平均3,165mm
主なスパン　1,100×4,500mm

敷地条件
地域地区　都市計画区域外
道路幅員　東6m
駐車台数　50台

構造

■クアハウス
主体構造　鉄骨造　一部木造
杭・基礎　直接基礎

■クアレストラン
主体構造　木造
杭・基礎　直接基礎

■クアホテル
主体構造　PHPパネル造
杭・基礎　直接基礎

設備

■クアハウス
空調設備
空調方式　ヒートポンプ方式（電気）
熱源　空気熱源
衛生設備
給水　受水槽方式
給湯　温水循環方式（灯油）　電気温水器
排水　建物内分流　浄化槽設置
電気設備
受電方式　高圧受電方式
設備容量　300kVA
防災設備
排煙　自然排煙
その他　自動火災報知設備

■クアレストラン
空調設備
空調方式　ヒートポンプ方式（電気）
熱源　空気熱源
衛生設備
給水　受水槽方式
給湯　給湯器（LPGガス）　電気温水器
排水　建物内分流　浄化槽設置
電気設備
受電方式　高圧受電方式
設備容量　175kVA（クアホテル含む）
防災設備
排煙　自然排煙

■クアホテル
空調設備　ヒートポンプ方式（電気）
空調方式　空気熱源
衛生設備
給水　受水槽方式
給湯　給湯器（灯油）
排水　建物内分流，浄化槽設置
電気設備
受電方式　高圧受電方式
設備容量　175kVA（クアレストラン含む）
防災設備
排煙　自然排煙

工程

■クアハウス
設計期間　2016年3月～2017年4月
施工期間　2017年9月～2018年10月

■クアレストラン　クアホテル
設計期間　2018年1月～10月
施工期間　2018年11月～2019年5月

外部仕上げ

■クアハウス
屋根　B種膜（太陽工業）　丸太架構（翠豊）
外壁　スギ板 t=12mm WP
開口部　アルミ製建具　木製建具

■クアレストラン
屋根　カラーガルバリウム鋼板立平葺き
外壁　スギ板 t=12mm WP
開口部　木製カーテンウオール

■クアホテル
屋根　アスファルトシングル（OWENS CORNING）
外壁　スギ板 t=12mm WP
開口部　木製建具
外構　露天風呂：白モルタル仕上げ（渋谷製作所）
ベンチ　ケヤキ無垢材　脚部：ST FB-20
舗装　特殊モルタル土系舗装
飛石　臼杵石
植栽　シダレヤナギ　ジョウリョクヤマボウシ　ハイノキ　ヤマザクラ等

内部仕上げ

■クアハウス
浴室
床　白モルタル仕上げ（渋谷製作所）
壁　セメント系薄塗り仕上げ材（渋谷製作所）
天井　不燃膜（太陽工業）
ポーチ
床　コンクリート金ゴテ押えの上表面強化材
壁　スギ板 t=12mm WP
天井　不燃膜（太陽工業）

■クアレストラン
ホール
床　カラーコンクリート（ABC商会）
壁　漆喰塗装
天井　木毛セメント板 EP-G

■クアホテル
玄関
床　着色モルタル玉砂利埋込
壁・天井　シナ合板 UC
客室
床　無垢フローリング t=15mm UC
壁・天井　シナ合板 UC
浴室
床・壁　石き質タイル（LIXIL）
天井　化粧珪酸カルシウム板（A&Aマテリアル）
特記仕様　サイン製作　ヘソラボ
担当／西村和宏

主な使用機器

■クアハウス　クアレストラン　クアホテル
衛生器具（TOTO）

利用案内

■クアハウス
開館時間　10:00～21:00（最終入館20:30）
休館日　月2日間
入館料　大人500円　小学生200円
問合せ　tel. 0974-64-1444

坂 茂（ばん・しげる）

1957年東京都生まれ／1977～80年南カリフォルニア建築大学（SCI-ARC，ロサンゼルス）在学／1980～82年クーパー・ユニオン建築学部（ニューヨーク），84年卒業／1982～83年磯崎新アトリエ勤務／1985年坂茂建築設計設立／1995年NGO VAN（ボランタリー建築家機構）設立／1995～99年国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）コンサルタント／2001～08年慶應義塾大学環境情報学部教授／2011年～京都造形芸術大学教授／2019年～慶應義塾大学環境情報学部教授／2020年～東北大学災害科学国際研究所特任教授

平賀信孝（ひらが・のぶたか）

1949年東京都生まれ／1971年東京藝術大学建築科卒業／1971～80年笹川スエオ設計事務所／1980～87年芦原建築設計研究所／1987年アーキネットワーク設立／1998～2019年坂茂建築設計パートナー／2019～20年同相談役／2021年アーキネットワークにて設計活動再開

菅井啓太（すがい・けいた）

1974年鹿児島県生まれ／1997年横浜国立大学工学部建設学科建築学コース卒業／1999年同大学大学院工学研究科修士課程修了後，坂茂建築設計／現在，同パートナー

日貫一日（本文146頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

■安田邸
所在地　島根県邑智郡邑南町日貫3376
主要用途　簡易宿所
建主　一般社団法人弥禮
設計
建築・監理　dot architects
担当／家成俊勝　土井亘　寺田英史
アトリエ縁
担当／清水徹
ディレクション・グラフィックデザイン
UMA / design farm
担当／原田祐馬　西野亮介　高橋めぐみ
照明計画　NEW LIGHT POTTERY
家具・キッチン　アトリエカフエ
寝台　DESIGN OFFICE sukimono
ちゃぶ台　吉行良平　永田 幹
檜風呂　森重健一
金物　Atelier Tuareg
造園　GREEN SPACE
施工
建築　井野下建築　担当／井野下勝也
規模
敷地面積　1,139.22m²
建築面積　112.67m²
延床面積　103.92m²
1階　103.92m²
建蔽率　9.90%（許容：70%）
容積率　9.90%（許容：20%）
階数　地上1階
寸法
最高高　6,470mm
軒高　4,240mm
天井高　台所：3,135mm ／居間・寝室：2,690mm ／浴室：2,330mm
主なスパン　990×3,960mm
敷地条件
地域地区　無指定地域
道路幅員　西3.6m
構造
主体構造　木造
杭・基礎　石場立て
工程
設計期間　2017年5月～2018年3月
施工期間　2018年3月～8月
工事費
総工費　20,000,000円
外部仕上げ
屋根　既存石舟瓦　庇新設カラー鋼板
外壁　既存漆喰壁および板張り　新設カラー鋼板
開口部　既存木製建具・アルミサッシ　新設木製建具・アルミサッシ
外構　砕石敷 石舟瓦縁どめ　コンクリート平板敷き
内部仕上げ
玄関
床　コンクリート平板敷
壁　既存土壁掻き落としの上，土壁塗り直し
天井　既存船底天井
台所
床　三和土
壁　既存土壁掻き落としの上，土壁塗り直し
天井　スギ角材 目透かし貼り
居間
床　縁なし畳敷
壁　既存土壁掻き落としの上，土壁塗り直し
天井　既存格子天井
寝室1，2
床　ナラフローリング張り
壁　既存土壁掻き落としの上，土壁塗り直し／クロス貼り
天井　既存天井
浴室
床　コンクリート金ごて押え
壁　腰壁：タイル貼り　上部：ヒノキ縁甲板張り
天井　既存天井，一部リシン吹き付け
主な使用機器
衛生器具　TOTO　サンワカンパニー
建具金物　Kawajun
厨房機器　リンナイ　富士工業　茂工業
空調機器　ダイキン
利用案内
チェックイン　14:00～19:00
チェックアウト　8:00～11:00
宿泊料　1泊1名15,000円（4～12歳 7,500円）　上限60,000円（最大6名まで）
問合せ　https://hinuihitohi.jp/
tel. 090-3632-4902

■一揖（いちゆう）
所在地　島根県邑智郡邑南町日貫3376
主要用途　喫茶店
建主　一般社団法人弥禮
設計
建築　加藤正基
ディレクション・グラフィックデザイン
UMA / design farm
担当／原田祐馬　西野亮介　高橋めぐみ
施工
建築　井野下建築
担当／井野下秀次
規模
敷地面積　233.39m²
建築面積　66.78m²
延床面積　66.78m²
1階　66.78m²
建蔽率　28.62%（許容：70%）
容積率　28.62%（許容：20%）
階数　地上1階
寸法
最高高　4,210mm
軒高　2,820mm
天井高　3,740mm
主なスパン　1,970×3,980mm
敷地条件
地域地区　無指定地域
構造
主体構造　木造
設備
空調設備
空調方式　冷暖房方式/ルームエアコン
換気方式／第三種換気
衛生設備
給水　直結給水
給湯　電気温水器
排水　下水道直結
工程
設計期間　2017年7月～12月
施工期間　2018年1月～3月
工事費
建築　1,800,000円
空調　500,000円
衛生　1,000,000円
電気　700,000円
総工費　4,000,000円
外部仕上げ
屋根　既存トタン張り
外壁　既存金属サイディング張り
開口部　既存木製建具
外構　既存
内部仕上げ
客室
床　既存フローリング張り
壁　既存シナベニヤウッドワックス（オスモ）
天井　既存木板張り
厨房
床　塗装合板張り
壁　既存シナベニヤ ウッドワックス（オスモ）　アクリル板（クラレ：コモグラス）
天井　木下地 t=3mm アクリル板（クラレ：コモグラス）

dot architects

撮影：永井佑弥

家成俊勝，赤代武志により設立された建築家ユニット．大阪・北加賀屋にて，分野にとらわれない人々や組織が集まる「もうひとつの社会を実践するための協働スタジオ」コーポ北加賀屋を拠点に活動．設計，施工のプロセスにおいて専門家・非専門家に関わらずさまざまな人との協働を実践している．現在のメンバーは家成俊勝，赤代武志，土井亘，寺田英史，宮地敬子，池田藍，石田知弘の7名．

家成俊勝（いえなり・としかつ）
1974年兵庫県生まれ／1998年関西大学法学部法律学科卒業／2000年大阪工業技術専門学校卒業／2004年～ドットアーキテクツ共同主宰／現在，京都芸術大学教授

赤代武志（しゃくしろ・たけし）
1974年兵庫県生まれ／1997年神戸芸術工科大学芸術工学部環境デザイン学科卒業／1997～02年北村陸夫＋ズーム計画工房／2002～03年宮本佳明建築設計事務所／2004年～ドットアーキテクツ共同主宰／現在，大阪工業技術専門学校特任教員・京都芸術大学非常勤講師・大阪市立大学非常勤講師・神戸芸術工科大学非常勤講師

清水徹（しみず・とおる）

1977年富山県生まれ／2000年新潟大学工学部建設学科卒業／2002年同大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了後，歴史的建造物調査・企画「アトリエ縁」設立／雪だるま財団テクニカルフェロー／佐渡ヘリテージ協議会監事

加藤正基（かとう・まさき）

1986年広島県生まれ／2009年近畿大学理工学部建築学科卒業／2011年近畿大学大学院修士課程修了／2011～12年TERUHIRO YANAGIHARA STUDIO ／2013年フリーランス／2015年～京都芸術大学非常勤講師

UMA / design farm

撮影：Hideaki Hamada

2007年，原田祐馬により設立．大阪を拠点に文化や福祉，地域に関わるプロジェクトを中心に，グラフィック，空間，展覧会や企画開発などを通して，理念を可視化し新しい体験をつくりだすことを目指している．「共に考え，共につくる」を大切に，対話と実験を繰り返すデザインを実践．現在のメンバーは，原田祐馬，山副佳祐，西野亮介，津田祐果，平川かな江，岸木麻理子，高橋めぐみ，田中千晶の8人．

蒲郡園芸サポート施設
（本文154頁）

所在地　愛知県蒲郡市
主要用途　農業施設
建主　園芸ネット
設計
建築・監理　architecture WORKSHOP
担当／北山恒　工藤徹　江島史華
構造　佐藤淳構造設計事務所
担当／佐藤淳　朝原真知子
設備　ピロティ
施工
施設　丸七建設興業　担当／高橋弘明
温室　タカミハウス工業　担当／高見直輝
空調・衛生　小池商事
担当／稲吉功一　山田靖幸
電気　イトデン
担当／伊藤昭三　伊藤勇一郎
規模
敷地面積　4,941m²
施設面積　1,805m²
寸法
■壁面緑化プラント
最高高　5,500mm
軒高　3,240mm
主なスパン　10,700×10,700mm
■温室7
最高高　4,860mm
軒高　1,990mm
天井高　4,647mm
主なスパン　9,150×2,500mm
敷地条件
地域地区　市街化調整区域
道路幅員　東9.0m
構造
主体構造　緑化プラント：木造（一部鉄骨造）
その他温室：鉄骨造
杭・基礎　独立基礎
設備

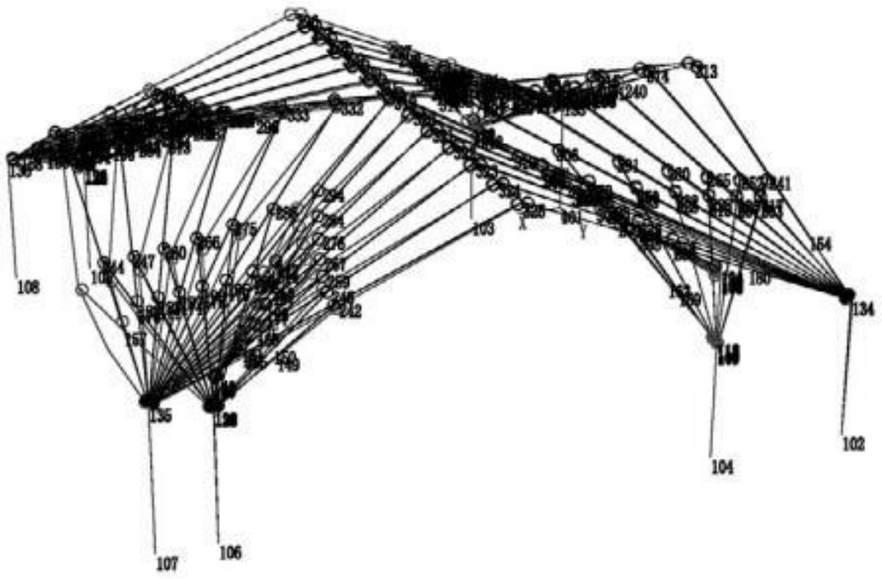
WAKKA（本文162頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

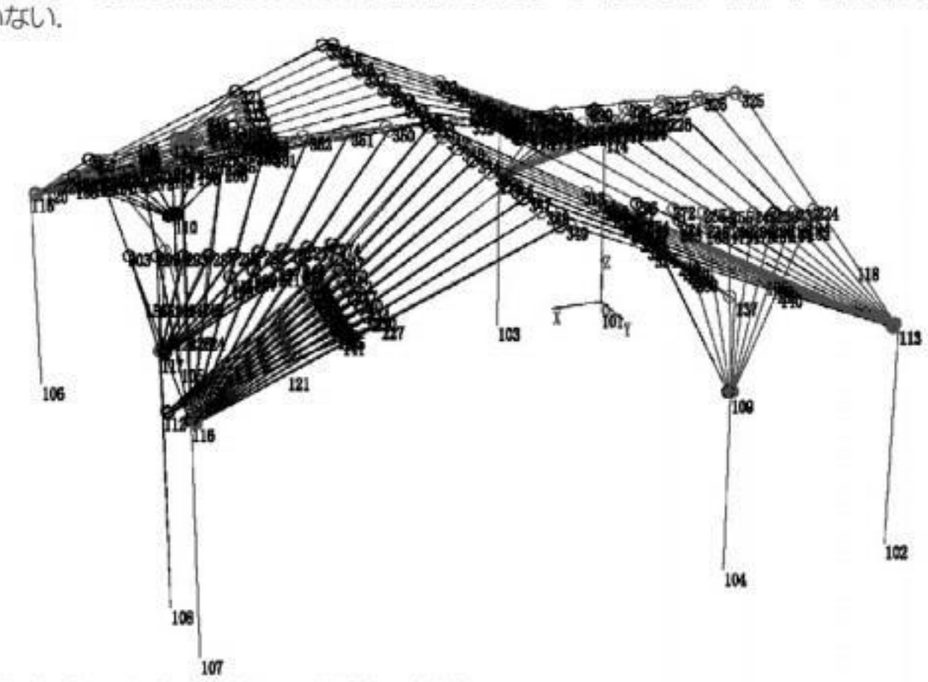
所在地　愛媛県今治市上浦町井口6691-1
主要用途　カフェ　簡易宿所　事務所
建主　わっか
設計
建築・設備・外構・監理　倉林貴彦建築設計事務所
担当／倉林貴彦
構造　KKSエンジニア
担当／坂本憲太郎
内装　倉林貴彦建築設計事務所
担当／倉林貴彦
LAND（家具設計も兼ねる）
担当／岩下将人
サイン　池田威秀
備品選定　小高久美子
植栽　叢
担当／小田康平
施工
建築　丸馬銘木
担当／渡邊直人　黒川数博
電気　ライオンデンキ
担当／加藤克利
衛生　協働設備工業
担当／岡本茂男
板金　今治板金
担当／寺本伸司
木製建具　田窪木工所
担当／田窪誠一郎
規模

空調設備
空調方式　ヒートポンプエアコン方式
熱源　ガス
衛生設備
給水　水道直結給水方式
排水　し尿浄化槽（合併）処理方式
電気設備
受電方式　引込み方式 単相3線式 100V/200V
設備容量　電力：6kVA　電灯：8kVA 40A
　　3相3線式 200V
契約電力　電力：30A　電灯：50A 10kVA
工程
設計期間　2019年9月～2020年3月
施工期間　2020年3月～9月
工事費
温室・施設　52,000,000円
空調　5,000,000円
衛生　3,200,000円
電気　1,300,000円
総工費　61,500,000円
外部仕上げ
屋根　温室用ビニル（住化積水フィルム：花野果SUN-X）　フッ素フィルム（AGCグリーンテック：エフクリーン）　ポリカーボネート波板（ダイプラ）
外壁　温室用ビニル　フッ素フィルム　ポリカーボネート波板
開口部　温室用ビニル　ポリカーボネート波板　アルミサッシ　木製サッシ
外構　コンクリート刷毛引き仕上げ　土
内部仕上げ
梱包所
床　コンクリート金ゴテ仕上げ
壁　ポリカーボネート波板　針葉樹合板
天井　ポリカーボネート波板
主な使用機器
TOTO　カクダイ　ヤンマー

2点提供／佐藤淳



緑化プラント座屈解析図1（形状調整前）
左下隅に下添えの扇子がひねられた様子が見える．上面の骨が一斉に孕む座屈が拘束できていない．



緑化プラント座屈解析図2（形状調整後）
下の要を下げて調整すると，立体効果で一斉に孕む座屈を拘束できている．すると左下の最縁部の骨のみが座屈する強いモード（変形）が検出されるようになる．

敷地面積　3,995.67m²
建築面積　765.74m²
延床面積　498.09m²
1階　417.09m² ／ 2階　81.00m²
建蔽率　19.16%
容積率　12.47%
階数　地上1階　一部地上2階
寸法
■管理棟
最高高　4,670mm
軒高　4,570mm
天井高　3,805mm
■回廊・水回り棟
最高高　3,390mm
軒高　3,320mm
天井高　3,050mm
■カフェ棟
最高高　5,120mm
軒高　5,000mm
階高　2,349mm
天井高　1階：3,600～4,200mm ／ 2階：2,200mm
■コテージ棟
最高高　4,568mm
軒高　3,927mm
天井高　2,428mm
■ドミトリー棟
最高高　3,710mm
軒高　3,615mm
天井高　3,064mm
敷地条件
地域地区　都市計画区域および準都市計画区域外
道路幅員　西4.0m
駐車台数　8台（敷地内駐車場）　24台（敷地外駐車場）
構造
主体構造　木造
杭・基礎　浅層改良の上，直接基礎
設備
空調設備
空調方式　ヒートポンプ式ルームエアコン
衛生設備
給水　直圧方式
給湯　ガス給湯方式
排水　公共下水道放流方式
電気設備
受電方式　低圧受電方式
防災設備
消火　消火器
警報　特定小規模施設用自動火災報知設備
避難　避難誘導灯　高輝度蓄光式誘導標識
排煙　自然排煙
工程
設計期間　2018年2月～2019年1月
施工期間　2019年2月～2020年3月
外部仕上げ
屋根　ガルバリウム鋼板竪ハゼ葺き　ガルバリウム鋼板折板葺き　FRP波板葺き
外壁　スギ板相決り縦張りの上，耐候性塗装
開口部　木製建具　アルミサッシ
外構　真砂土敷　芝生
内部仕上げ
■管理棟
床　スギ足場板　小上がり：琉球畳敷
壁　ヒノキ板本実縦張り t=12mm　ラーチ合板 t=12mm
天井　梁（ヒノキ製材）現し　構造用合板 t=12mm
■回廊・水回り棟
床　コンクリート金ゴテ仕上げ　タイル貼り　ナラフローリング t=12mm
壁・天井　PB t=12.5mmの上，クロス貼り
■カフェ棟
床　ヒノキ板 t=30mm
壁　スギ板 t=12mm 相決り縦張りの上，含浸系塗装
天井　スギ板 t=12mm 相決り張り
■コテージ棟
床　ナラフローリング t=12mm
壁　PB t=12.5mmの上，クロス貼り
天井　垂木（2×10材）現し　PB t=12.5mmの上，クロス貼り
■ドミトリー棟
床　コンクリート金ゴテ仕上げ
壁・天井　ラーチ合板 t=12mm
利用案内
カフェ営業時間　11:00～17:00（季節により変更あり）
休館日　火曜日（宿泊は無休）
問合せ　tel. 0897-72-8705
　　http://wakka.site

北山恒（きたやま・こう）

1950年香川県生まれ／1978年ワークショップ設立（共同主宰）／1980年横浜国立大学大学院修士課程修了／1995年architecture WORKSHOP設立／2001年横浜国立大学教授／2007年同大学大学院Y-GSA教授／現在，法政大学教授

工藤徹（くどう・とおる）

1974年千葉県生まれ／1997年多摩美術大学美術学部建築科卒業後，architectureWORKSHOP／2004年～同社パートナー

江島史華（えじま・ふみか）

1991年神奈川県生まれ／2014年横浜国立大学工学部建設学科建築学コース修了／2016年同大学大学院建築都市スクールY-GSA修了後，architecture WORKSHOP入社

佐藤淳（さとう・じゅん）

1970年愛知県生まれ／1995年東京大学大学院修了／1995～99年木村俊彦構造設計事務所／2000年佐藤淳構造設計事務所設立／2010年～東京大学AGC寄付講座特任准教授／2014年～東京大学新領域創成科学研究科准教授／2016年～スタンフォード大学客員教授

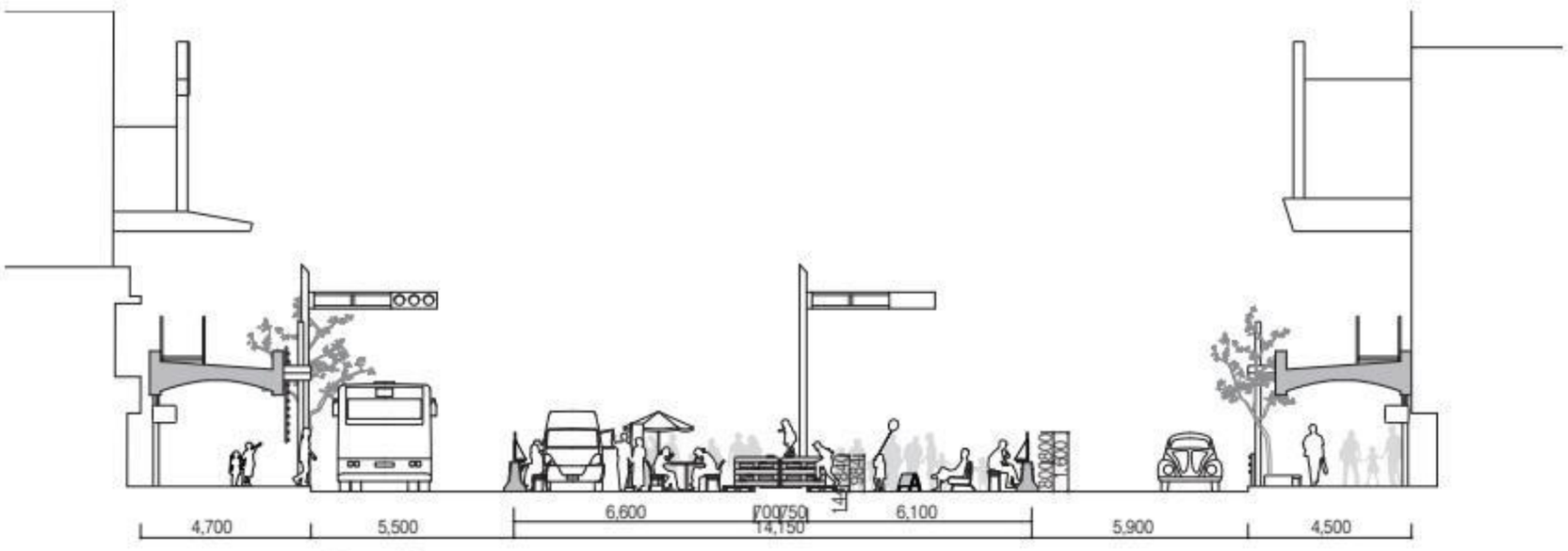
倉林貴彦（くらばやし・たかひこ）

1978年神奈川県生まれ／2002年東京工業大学工学部建築学科卒業／2003～04年デルフト工科大学留学／2005年東京工業大学大学院修士課程修了／2005～16年アトリエ・ワン／2016年倉林貴彦建築設計事務所開設

Yanagase PARK LINE 2020 （本文168頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　岐阜県岐阜市金町2～4丁目（県道151号の一部）
主要用途　仮設公共空間
建主　岐阜市
設計
総合プロデュース
柳ケ瀬を楽しいまちにする
担当／大前貴裕　末永三樹　土肥彩香
建築・監理
ミユキデザイン
担当／大前貴裕　末永三樹
大澤佳絵　田口沙也香
伊藤維建築設計事務所
担当／伊藤維　織大起
施工
建築　セルフビルド
規模
敷地面積　約4,500m²
道路　8車線中6車線使用（最大幅約16m）
敷地条件
地域地区　商業地域
道路幅員　26m
工程
設計期間　2020年9月～11月
施工期間　2020年11月10日～11月13日
開催期間　2020年11月11日～11月15日
外部仕上げ
中古ユーロパレット（ビンテージ品，PALLET DEPO）　ラワン合板 t=9mm（再利用材）　45mm角材（再利用材）　ヒノキ材（再利用材）　マツ材 t=30mm（再利用材）　105mm角柱材（再利用材）　30×40mm角材（新規購入材）　リアル人工芝ロール（岐阜市提供品，新規購入品）　ウォータータンクバリケード（岐阜市提供品）　カッティングシート（EUROPORT）　シナベニヤ t=3mm　ペンキ塗装　PEカラーロープ φ=9mm



Yanagase PARK LINE2020断面　縮尺1/300

大前貴裕（おおまえ・たかひろ）

1974年岐阜県生まれ／1997年名城大学理工学部建築学科卒業／2000～04年大建設計／2004～12年大建met／2011年～岐阜市商店街活性化プロデューサー／2012年ミユキデザイン一級建築士事務所設立／2013年～NPO法人ORGAN理事／2016年～名城大学理工学部建築学科非常勤講師／2016年～「柳ケ瀬を楽しいまちにする」取締役

末永三樹（すえなが・みき）

1977年岐阜県生まれ／2001年明治大学理工学部建築学科卒業／2001～04年 Atlantis associates Tokyo office／2004～12年大建設計／2012年ミユキデザイン一級建築士事務所設立／2013年～NPO法人ORGAN理事／2014年～ぎふメディアコスモス運営委員／2016年～「柳ケ瀬を楽しいまちにする」クリエイティブ・ディレクター

伊藤維（いとう・たもつ）

1985年岐阜県生まれ／2008年東京大学工学部建築学科卒業／2008年藤村龍至建築設計事務所（現RFA）／2008～14年シーラカンスK&H／2013年伊藤維建築設計事務所設立／2016年Harvard GSD M.Arch.Ⅱ修了／2017年Columbia GSAPP特任助教／2017～20年ETH Zurich建築学科助手／2020年SUTD建築学科特任助教

名古屋テレビ塔 （本文178頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　名古屋市中区錦3-6-15先
主要用途　ホテル　展示場　飲食店　事務所
建主　名古屋テレビ塔
設計
日建設計
統括／若林亮
建築担当／葛原定次*　石森秀一（*元所員）
構造担当／二宮利治　木村征也
清本莉七　榊原啓太　福間智之
設備担当／田中宏明　澤村晋次
酒井克彦　岸本拓也
監理担当／砂田竜男　中島正樹
山田富貴子　丸山拓也　後藤賢司
桐山宏之
都市計画担当／山本秀樹　青木優典
ホテル内装設計　5階：デザインクラブEMW
担当／中田朝之　深江章一
4階：ファムス
担当／福本祐樹　家次宏　グレコ香奈
施工
竹中工務店
担当／徳野亨　林康生　内藤有希
越野友裕　岡田秀明　下野耕一
規模
敷地面積　2,015.44m²
建築面積　1,226.48m²
延床面積　3,765.31m²
地下1階　122.97m²
1階　482.68m²／2階　697.76m²
3階　1,054.77m²／4階　1,114.61m²
5階　292.52m²
展望階　231.50m²／塔屋階　45.56m²
（展望・塔屋階は工作物のため，延床面積に含まず）
建蔽率　60.86%（許容：100%）
容積率　181.53%（許容：800%）
階数　地下1階　地上5階
寸法
最高高　180,000mm（建築物部分30,830mm）
軒高　30,140mm
階高　3階EVホール：3,700mm
天井高　会議室：2,600mm
主なスパン　6,500×6,500mm
敷地条件
地域地区　商業地域　都市計画区域内市街化区域　防火地域　緑化地域　駐車場整備地区　久屋大通都市景観形成地区　都市計画公園　都市機能誘導区域内　住居誘導区域外
道路幅員　東西112.17m（道路内建築物）
構造
主体構造　鉄骨造　一部鉄骨鉄筋コンクリート造
杭・基礎　直接基礎　基礎免震
設備
環境配慮技術
LED照明　高効率機器
空調設備
空調方式　電気式ヒートポンプパッケージ方式（テナントエリアはテナント工事）
衛生設備
給水　受水槽＋加圧給水ポンプ方式
給湯　電気式個別方式（テナントエリアはテナント工事）
排水　汚水雑排水合流方式
電気設備
受電方式　6.6kV高圧1回線受電
設備容量　1,350kVA
契約電力　600kW
予備電源　低圧ディーゼル発電機300kVA
防災設備
非常照明　誘導灯　非常放送　自動火災報知設備
消火　スプリンクラー設備　連結送水管　消火器（別途備品）
排煙　機械排煙（低層・高層2系統）
昇降機　新設：乗用エレベータ（30人乗り，105m/min）×1台　乗用エレベータ（24人乗り，105m/min）×1台　既設（展望用）：乗用エレベータ（20人乗り，60m/min）×1台　乗用エレベータ（16人乗り，60m/min）×1台
工程
設計期間　2015年3月～2019年1月
施工期間　2019年2月～2020年8月
外部仕上げ
屋根　ウレタンゴム系塗膜防水（ダイフレックス：DSX-1ゼロ）
外壁　既設：アルミカーテンウォール　EV棟：ECP版 t=60mm素地（ノザワ：アスロック）
開口部　MPGカーテンウォール（日本板硝子）
外構　磁気質タイル（ダイナワン：アフィヨンブラック）　インターロッキングブロック（太平洋プレコン：オーシャンエコスルー Gシリーズ）
内部仕上げ
1階エントランスホール
床　磁器質タイル（ダイナワン：アフィヨンブラック）
壁　ビニルクロス（サンゲツ：ハイグラフィカ）　内装薄塗材E（アイカ工業：ジョリパットイタリアートⅡ）
天井　直天（梁型・スラブ・設備類黒色塗装）
3階エレベーターホール
床　ビニルタイル（備前：デコリカDW）　一部既存人研ぎ仕上げ
壁　ビニルクロス（サンゲツ：ハイグラフィカ）　内装薄塗材E（アイカ工業：ジョリパットイタリアートⅡ）
天井　直天（梁型・スラブ下・設備類黒色塗装）
展望階スカイデッキ
床　タイルカーペット（サンゲツ：NT-709）
壁　既設タペストリーガラス
天井　ミラーガラス　一部PB EP
利用案内
開館時間　10:00～21:00
入館料　大人900円　中小生400円
問合せ　tel. 052-971-8546

若林亮（わかばやし・まこと）

1961年石川県生まれ／1985年豊橋技術科学大学建設工学系修士課程終了後，日建設計入社／現在，同社執行役員設計部門プリンシパル

石森秀一（いしもり・しゅういち）

1968年愛知県生まれ／2005年日建設計入社／現在，同社設計部門

木村征也（きむら・せいや）

1976年宮崎県生まれ／2002年東京工業大学理工学研究科建築学専攻終了後，日建設計入社／現在，同社エンジニアリング部門構造設計室アソシエイト

Hisaya-odori Park 久屋大通公園整備運営事業（本文172頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　愛知県名古屋市中区錦3-6-15先
主要用途　公園　飲食店　物販店
建主　三井不動産
設計
公募対象公園施設　大成建設一級建築士事務所
建築担当／網干和　田中英輔
田澤孝祐　藤澤信也
構造担当／藤山淳司　加藤芳明
武田基　天羽祥太
設備担当／岸野豊　岡部裕之
大山智子　桜井健二
特定公園施設　日建設計・大成建設一級建築士事務所
日建設計
ランドスケープ担当／西大輔
北山利彦　小嶋咲紀　吉川真由香
杉山茂樹　陳思多
大成建設一級建築士事務所
建築担当／大塚俊一郎　島田ひろみ
小西桃子
構造担当／ 加藤芳明　武田基
設備担当／岸野豊　岡部裕之
大山智子　桜井健二
設計協力　長谷部建築設計事務所
担当／長谷部等
施工
大成建設
建築担当／白木宏　坂神光則
三浦庸征　辰井永人　松井憲洋
岩城永幸　浦田祐一　渡部達也
谷口博亮　加藤徹平
空調・衛生・電気担当／勝登広
緒方智彦　江川彰三　若林將人
規模
敷地面積　48,752.79m²
建築面積　5,407.38m²
延床面積　8,136.29m²
階数　地上2階
寸法
最高高　11,950mm
軒高　11,120mm
階高　飲食店・物販店：4,200mm
天井高　飲食店・物販店：3,000～3,200mm
敷地条件
地域地区　商業地域　防火地域
道路幅員　道路内建築物
構造
主体構造　鉄骨造　一部鉄筋コンクリート造
杭・基礎　直接基礎
設備
空調設備
空調方式　個別空調方式
熱源　ガス
衛生設備
給水　直結給水方式
排水　雨水・汚水合流方式
電気設備
受電方式　1回線受電方式
防災設備
消火　消火器
排煙　自然排煙
その他　非常用照明　自動火災報知設備
工程
設計期間　2018年6月～2019年6月
施工期間　2019年6月～2020年9月
外部仕上げ
屋根　シート防水　アスファルト防水　金属屋根
外壁　金属サイディング　ALC（一部エイジング塗装）
開口部　アルミサッシ
外構　インターロッキング舗装　洗い出しアスファルト舗装

網干和（あぼし・ひとし）

1958年神奈川県生まれ／1983年日本大学大学院修士課程修了後，大成建設入社／現在，同社建築設計第三部専任部長

田中英輔（たなか・えいすけ）

1977年石川県生まれ／2002年早稲田大学大学院建設工学専攻修了後，大成建設入社／現在，同社建築設計第三部シニアアーキテクト

大塚俊一郎（おおつか・しゅんいちろう）

1967年三重県生まれ／1992年名古屋大学大学院修士課程修了後，大成建設入社／現在，同社名古屋支店設計部設計室長

西大輔（にし・だいすけ）

1977年富山県生まれ／2002年北海道大学工学研究科都市環境工学専攻修了後，日建設計入社／現在，同社ランドスケープ設計部ダイレクター

小嶋咲紀（こじま・さき）

1984年東京都生まれ／2009年立命館大学大学院理工学研究科修了後、日建設計入社／現在，同社ランドスケープ設計部

CO・MO・RE YOTSUYA（コモレ四谷）（本文184頁）

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　東京都新宿区四谷1-6-1～5
主要用途　事務所　物販店舗　飲食店　共同住宅　大学　集会場 他
発注者・プロジェクトマネージメント
都市再生機構
担当／永井正毅　永島達矢　松田一慶
細貝雄　目次雄徒　岡村良二
田中克典　石田健治　冨田周佑
澤西良太　大倉孝司　村尾駿
森田修平　福澤則久　中村倫一
鈴木智憲
設計
■基本計画　日本設計
■基本設計・デザインディレクション・工事監理
日本設計・三菱地所設計共同企業体
日本設計
統括／篠﨑淳
建築担当／小坂幹　常盤純代
河野建介　寺崎雅彦　前川朋子
濱本清佳　八戸莉代
構造担当／荻野雅士　向井裕貴
間室健一　田中敬人
コスト担当／柳泰彦　佐原壮一
都市計画担当／越川裕康　百武恭司
志摩陽一郎
工事監理担当／石井豊　水野敦
高橋浩史　中村宗寛
環境アセス担当／保利信哉　森田一也
柴田悠
内装管理担当／稲崎稔　雨宮朋恵
三菱地所設計
設備担当／中澤功　栗田篤志
宇多聡子　宇野貴郎*（*元社員）
安田健一　高西茂彰　中村駿介
ランドスケープ担当／植田直樹
津久井敦士　多田裕樹*
工事監理担当／磯崎学　松尾教徳
西垣和真
商環境・低層サインデザイン　乃村工藝社・ノムラプロダクツ
景観照明デザイン　シリウスライティングオフィス
担当／戸恒浩人　小林周平
■実施設計
大成建設一級建築士事務所
建築担当／横手真一郎　真銅博司
雨宮廣明　岩﨑利幸　勝又洋　丹羽貴之
東聖子　村元徹　清水悟　近藤香織
高橋洋二　小林久人
構造担当／新田隆雄　一色裕二
磯部共伸　青野英志　櫻井佑実
服部敦志　阪井由尚　山崎章子
設備担当／小野田修二　川崎賢哉
山口亮　小林徹也　賀上貴明
倉林陽子　松浦尚彦　吉田典彦
坂下泰士　安藤直也　小澤健司
冨田峻亮　藤原早織
インテリア担当／軽部能充　羯磨貴子
ランドスケープ担当／山下剛史
小池亘　神田祐樹
施工
大成建設
所長／甲斐中正司　麻生政司　原順
建築担当／森浩通　森澤徹　尾亦勇治
木村英揮　水落英樹　鈴木孝
大浦哲宜　佐々木一輝
設備担当／古屋仁則　土田武
渡辺博隆
空調　新菱冷熱工業　ダイダン
衛生　大成設備
電気　関電工　四電工
昇降機　三菱電機　東芝エレベータ
規模
敷地面積　17,931.82m²
建築面積　10,309.36m²
延床面積　139,330.85m²
地下1階　9,856.98m²
1階　8,943.54m²／2階　7,770.58m²
塔屋階　222.13m²
基準階　2,752.46m²
建蔽率　57.49%（許容：70%）
容積率　663.34%（許容：670%）
階数　地下3階　地上31階　塔屋1階
寸法
最高高　144,680mm
軒高　142,030mm
階高　事務所基準階：4,200mm
天井高　事務所基準階：2,800mm
主なスパン　7,200×7,200mm
敷地条件
地域地区　商業地域　近隣商業地域　第一種住居地域　四谷駅周辺地区地区計画　四谷駅前地区第一種市街地再開発事業
道路幅員　東40m　西12m　南12～13m　北12m
駐車台数　288台
構造
主体構造　地上：鉄骨造（一部，CFT柱）鉄筋コンクリート造　地下：鉄骨造　鉄骨鉄筋コンクリート造　鉄筋コンクリート造
杭・基礎　直接基礎　一部杭基礎
設備
環境配慮技術
Low-Eペアガラス　簡易エアフローウインドウ　高効率熱源機器　水蓄熱槽　外気冷房　CO_2濃度制御　照明制御（昼光制御・人感センサー制御）　太陽光発電　コージェネレーション　雨水・排水再利用
BPI：0.88　BEI：0.89
空調設備
空調方式　事務所：外調機＋水熱源パッケージエアコン　公益施設・教育施設：外調機＋ファンコイルユニット　店舗：ファンコイルユニット方式
熱源　ターボ冷凍機　ガス焚吸収式冷温水機（一部は廃熱投入型）　温水ボイラー　水蓄熱槽
衛生設備
給水　事務所：加圧給水方式＋高置水槽方式併用（上水・雑用水）　店舗：加圧給水方式　住宅：直結増圧給水方式
給湯　局所方式（貯湯式電気温水器）　公益施設シャワー室のみ局所方式（ガス給湯器）
排水　屋内分流方式(汚水・雑排水・厨房排水・機械排水・雨水)
電気設備
受電方式　特別高圧22kV本線・予備線受電
設備容量　特高変圧器　10MVA×2
契約電力　6,260kW（最大想定値）
予備電源　ガスタービン発電機（1台はデュアルフューエル対応）　2500kVA×2　UPS70kVA×1
防災設備
消火　スプリンクラー設備（湿式）　放水型スプリンクラー設備　不活性ガス消火設備（N2）　連結送水管　消防用水　簡易自動消火設備　消火器
排煙　機械排煙

その他　誘導灯　非常照明　自動火災報知設備　非常放送設備　非常コンセント設備　航空障害灯設備　緊急救助スペース照明設備　雷保護設備

昇降機　オフィス用エレベータ（24人乗り）×20台　住宅用エレベータ（13人乗り）×2台　非常用エレベータ×2台　その他×13台　エスカレータ×9台

特殊設備　厨房除外設備　中水処理設備　雨水処理設備　濾過設備　ディスポーザ設備

工程

設計期間　2014年9月～ 2016年8月
施工期間　2016年9月～ 2020年7月

外部仕上げ

屋根　アスファルト防水の上，保護コンクリート

外壁　塔屋部：ALC＋複層塗材　低層部：磁器質タイル（LIXIL：もろは）

開口部　高層部：アルミカーテンウォールユニット構法 陽極酸化皮膜電解二次着色 自然換気装置　アルミ縦フィン Low-E複層ガラス（LIXIL）
低層部：アルミカーテンウォールノックダウン構法　アルミサッシ 陽極酸化皮膜電解二次着色　Low-E複層ガラス（不二サッシ，YKK AP，三協立山）

外構　花崗岩（G343，G365，G648，グレーイッシュピンク）　透水性コンクリート舗装（新五色）　佐久鉄平石積み

内部仕上げ

高層棟1階アプローチホール

床　花崗岩 t=25mm（G343JB）

壁　アルミ積層複合板 t=4mm（三菱ケミカルインフラテック：アルポリック）　アルミルーバー 化粧塩化ビニルシート貼り（サンゲツ）

天井　アルミ積層複合板 t=4mm（三菱ケミカルインフラテック：アルポリック）　一部，化粧塩化ビニルシート貼り（サンゲツ）

高層棟2階オフィスエントランスホール・エレベータホール

床　花崗岩 t=25mm（サーフグレー JB）　タイル（リビエラ：ジャッロ／グリジオ）

壁　花崗岩 t=25，30mm（ニューインパラ本磨き・ニューインパラ小叩き仕上げ）　アルミカットパネル 特殊塗装（野村アーテック）

天井　アルミ積層複合板 t=4mm（三菱ケミカルインフラテック：アルポリック）一部，化粧塩化ビニルシート貼り（サンゲツ）

高層棟基準階オフィス

床　タイルカーペット（東リ）

壁　GB t=12.5＋12.5mm EP

天井　システム天井　岩綿吸音板 t=15mm

公益棟1階事務所エントランスホール

床　石タイル t=10mm（リビエラ）

壁　石タイル t=10mm(リビエラ) t=10.5mm（LIXIL）

天井　アルミ積層複合板 t=4mm（三菱ケミカルインフラテック：アルポリック）

小坂幹（こさか・もとき）

1963年北海道生まれ／1987年早稲田大学理工学部建築学科卒業／1987～88年IAESTE研修生としてフィンランド，トゥルク市役所建築課，LPR建築設計事務所にて勤務／1990年早稲田大学院理工学研究科修士課程修了／1990年～日本設計入社／2016年～工学院大学非常勤講師／現在，日本設計執行役員PM・CM部長

常盤純代（ときわ・すみよ）

1971年神奈川県生まれ／1995年東京理科大学工学部建築学科卒業／1997年同大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了後，日本設計入社／2016年～東京理科大学非常勤講師／現在，日本設計PM・CM部第1グループ長

横手真一郎（よこて・しんいちろう）

1966年福岡県生まれ／1990年京都大学工学部建築学科卒業／1992年同大学大学院修士課程修了後，大成建設入社／現在，同社設計本部建築設計第二部設計室長

真銅博司（しんどう・ひろし）

1968年大阪府生まれ／1991年横浜国立大学工学部建設学科卒業／1993年同大学大学院修士課程修了後，大成建設入社／現在，同社設計本部建築設計部シニア・アーキテクト

雨宮廣明（あめみや・ひろあき）

1981年山梨県生まれ／2004年日本大学理工学部建築学科卒業／2006年同大学大学院修士課程修了後，安井建築設計事務所入社／2014年大成建設入社／現在，同社設計本部建築設計第二部プロジェクト・アーキテクト

津久井敦士（つくい・あつし）

1977年群馬県生まれ／1999年日本大学農獣医学部農学科卒業／2011年～三菱地所設計／現在，同社都市環境計画部チーフプランナー

撮影／株式会社与那原

出迎えの広場の柱にも，照明により雫の表現がなされている．

●案内図は新建築Onlineへ
http://bit.ly/sk2101_map

所在地　東京都千代田区丸の内1-3-1,3,4

主要用途　事務所　店舗　駐車場

建主　みずほフィナンシャルグループ
全国銀行協会　三菱地所

設計

■全体共用部　丸の内テラス専有部

三菱地所設計

全体統括／野村和宣
（基本・実施設計／山極裕史）
プロジェクト統括／石橋和裕
■全体共用部
設計主管／河畑淳司
（基本・実施設計／住谷覚）
意匠担当／近藤久人　糟谷麻紘
（基本・実施設計／河畑淳司）
構造担当／溜正俊　上村勇人
土木担当／奥谷圭介　田代英久
神谷圭祐
ランドスケープ担当／佐藤雄紀
中条瑛子
DHC担当／片山一憲　兒玉和生
■丸の内テラス専有部
設計主管／松井夏樹
意匠担当／飯田貴大
■全体共用部・丸の内テラス専有部共通
電気担当／中澤功　沼部敬之　新原渉
岩田光平
機械担当／中村厚　兒玉和生
積算担当／山口政成　松本浩嗣
濱崎翔平
監理主管／大山高平
監理担当／吉瀬維昭　林信行
羽田野将生　米山周水　安井菜月
永村晴生　菊池保幸　関﨑義毅
■全体共用部
照明・ランドスケープ設計協力／
ソラ・アソシエイツ
担当／藤田久数　川村和広　三井敦史
塩井弘一

■みずほ丸の内タワー専有部

日本設計

意匠担当／山本啓示　堀田梨絵
隨行美穂
インテリア担当／田淵滋　魚野理恵子
佐藤春美　福田智美
構造担当／倉持博之
電気担当／高木昭博　大谷陽介
機械担当／本田公宏
監理担当／池辺哲也　多喜川健二
阿部靖

■銀行会館専有部

久米設計

統括／柿本英樹　磯矢孝
意匠担当／加舎尚樹　玄島雄太
インテリア担当／佐藤勝
電気担当／下田健也
機械担当／増田哲男　長澤秀作
監理担当／秋山耕一　石塚宏行
次藤伸　浅見政司
企画担当／出口賢一
事業コンサルティング担当／谷口強志
事業コンサルティング協力／
吉村総合計画鑑定
担当／吉村真行　岡田栄二

施工

■全体共用部・銀行会館専有部・丸の内テラス専有部

建築　大林・大成・清水建設共同企業体
総括所長／大川勝義

空調　高砂熱学工業

衛生　須賀工業（全体共用部）
斎久工業（銀行会館専有部・丸の内テラス専有部）

電気　きんでん

■みずほ丸の内タワー専有部

建築　清水建設　所長／竹村尚孝

空調　大気社　ダイダン　朝日工業社　新菱冷熱工業

衛生　須賀工業　日比谷総合設備

電気　関電工　九電工　四電工　東光電気工事　OKIクロステック

規模

敷地面積　11,237.35m²
建築面積　8,575.29m²
延床面積　180,878.40m²
地下1階　8,780.34m²
1階　8,074.76m²／2階　6,689.82m²
基準階　4,202.60m²（みずほ丸の内タワー）
2,134.53m²（銀行会館）
1,425.36m²（丸の内テラス）
建蔽率　76.32%（許容：100%）
容積率　1,332.23%（許容：1,333.20%
建築基準法第52条第14項に基づく容積率の許可）
階数　みずほ丸の内タワー・銀行会館：地下4階　地上29階　塔屋2階／丸の内テラス：地下4階　地上10階　塔屋1階

寸法

■みずほ丸の内タワー・銀行会館

最高高　149,700mm
軒高　138,885mm
階高　基準階事務室：4,400mm
天井高　基準階事務室：2,900mm
主なスパン　7,200×7,200mm

■丸の内テラス

最高高　56,650mm
軒高　51,900mm
主なスパン　7,200×7,200mm

敷地条件

地域地区　商業地域　防火地域　駐車場整備地区　地区計画区域
道路幅員　東9m　西36m　南17.4m　北36m
駐車台数　288台

構造

主体構造　地上：鉄骨造　地下：鉄骨鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
杭・基礎　直接基礎

設備

環境配慮技術　高性能Low-Eガラス　太陽光発電パネル　LED照明　クールルーフ
CASBEE　Sクラス（自己評価）

■みずほ丸の内タワー・銀行会館

BPI：0.90　BEI：0.78

■丸の内テラス

BPIm：0.89　BEIm：0.94

■全体共用部

空調設備

空調方式　地下貫通通路：空調機方式
その他：FCU＋外調機方式
熱源　地域熱供給会社より冷水・蒸気供給

衛生設備

給水　受水槽＋加圧給水方式
給湯　電気温水器
排水　屋内分流式・屋外合流式

電気設備

受電方式　22kVスポットネットワーク 3回線受電方式
設備容量　特高変圧器5,000kVA×3台
契約電力　5,600kW
予備電源　非常用発電機デュアルフューエルガスタービン2,500kVA×2台

防災設備

自動火災報知設備　非常放送設備　誘導灯設

備　非常用照明設備　無線通信補助設備　航空障害灯設備　緊急救助用スペース灯設備　総合操作盤
消火　屋内消火栓設備　スプリンクラー設備不活性ガス消火設備　NFシステム（閉鎖型水噴霧設備）　連結送水管設備　消防用水　フード等用簡易自動消火設備
排煙　機械排煙
昇降機　乗用エレベータ（15人乗り）×2台
特殊設備　厨房排水除害処理設備・中水設備・雨水再利用設備

■みずほ丸の内タワー専有部

空調設備
空調方式　ペアダクト方式
熱源　DHC　空冷ヒートポンプチラー
衛生設備
給水　受水槽　高置水槽方式
給湯　DHCによる熱交換　ヒートポンプ式給湯器　貯湯式電気温水器
排水　分流式
電気設備
受電方式　特高変電所（全共）からの高圧2回線受電
設備容量　16,590kVA
予備電源　デュアルフューエルガスタービン発電機3,000KVA×2台
防災設備
自動火災報知設備　非常放送設備　誘導灯設備　非常用照明設備
消火　スプリンクラー設備
排煙　機械排煙
その他　全館避難安全検証法による大臣認定
昇降機　乗用エレベータ（27人乗り）×34台
人荷用エレベータ（17人乗り）×1台
人荷用兼非常用エレベータ（44人乗り）×2台　小荷物用エレベータ×2台

■銀行会館専有部

空調設備
空調方式　全空気方式，外調機＋FCU方式（一部個別空調）
熱源　DHCより冷水・蒸気供給
衛生設備
給水　加圧給水方式（上水，雑用水の2系統供給）
給湯　局所給湯方式（電気温水器，厨房のみガス給湯器）
電気設備
受電方式　6.6kV 50Hz　特高変電所（全共）からの高圧2回線受電
受変電設備　アモルファス高圧変圧器　総容量2,500kVA
予備電源　デュアルフューエルガスタービン発電機1,000kVA×2台
電力監視設備　協会専用電力設備状態・警報監視　計量・計測
防災設備
自動火災報知設備　非常放送設備　誘導灯設備　非常用照明設備
消火　スプリンクラー設備
排煙　機械排煙
その他　全館避難安全検証法による大臣認定
昇降機　乗用エレベータ（24人乗り）×2台　乗用エレベータ（17人乗り）×1台　人荷用兼非常用エレベータ（26人乗り）×1台

■丸の内テラス専有部

空調設備
空調方式　事務所：PAC＋全熱交換器方式
商業：FCU＋外調機方式
熱源　地域熱供給会社より冷水・蒸気供給
衛生設備
給水　受水槽＋加圧給水方式
給湯　電気温水器　ガス給湯器
排水　屋内分流式・屋外合流式
電気設備
受電方式　6.6kV 50Hz　特高変電所（全共）からの高圧2回線受電
設備容量　3,300kVA
予備電源　ディーゼル発電機300kVA
防災設備
自動火災報知設備　非常放送設備　誘導灯設備　非常用照明設備
消火　屋内消火栓設備　スプリンクラー設備　フード等用簡易自動消火設備
排煙　機械排煙
昇降機　乗用エレベータ（15人乗り）×2台，（16人乗り）×1台，（17人乗り）×2台　人荷用兼非常用エレベータ（26人乗り）×1台

工程
設計期間　2014年9月～2017年2月
施工期間　2018年1月～2020年9月

外部仕上げ

■全体共用部
屋根　アスファルト防水コンクリート押え
外壁　花崗石打ち込みGRCパネル
開口部　アルミカーテンウォール フッ素樹脂焼付塗装
外構　花崗石張り　透水性舗装

■みずほ丸の内タワー・銀行会館車寄せ
床・外壁　花崗石張り
開口部　ステンレスカーテンウォール フッ素樹脂焼付塗装　MPGカーテンウォール
天井　アルミ樹脂複合板 フッ素樹脂焼付塗装

内部仕上げ

■全体共用部

地下貫通通路
床　花崗石張り t=30mm
壁　花崗石模様張り t=30,35mm　大理石張り t=30mm　珪酸カルシウム板 t=3，8，12mmの上，化粧シート貼り
天井　アルミルーバー 化粧シート貼り　PB t=12.5＋12.5mmの上，EP

■みずほ丸の内タワー専有部

エントランスホール
床　花崗石張り t=30mm
壁　大理石張り t=25mm
天井　アルミキャスト t=6mmの上，ウレタン樹脂塗装

事務室
床　OAフロア　タイルカーペット t=6.5mm
壁　PB t=12.5mm EP
天井　システム天井　岩綿吸音板　t=12mm

■銀行会館専有部

エントランスホール
床　花崗石張り t=30mm
壁　花崗岩張り，大理石張り 各t=30mm　アルミカットパネル　木ルーバー
天井　アルミカットパネル

■丸の内テラス専有部

エントランスホール
床　花崗石張り t=30mm
壁　PB t=12.5＋12.5mmの上，特殊塗装
天井　PB t=12.5＋12.5mmの上，EP

平田晃久（ひらた・あきひさ）
1971年大阪府生まれ／1994年京都大学工学部建築学科卒業／1997年同大学大学院工学研究科修士課程修了／1997～2005年伊東豊雄建築設計事務所／2005年平田晃久建築設計事務所設立／現在，京都大学教授

藤原徹平（ふじわら・てっぺい）
1975年神奈川県生まれ／2001年横浜国立大学大学院修了／2001～12年隈研吾建築都市設計事務所／2009年～フジワラテッペイアーキテクツラボ主宰／2010年～ドリフターズインターナショナル理事／2012年～横浜国立大学大学院Y-GSA准教授

髙橋一平（たかはし・いっぺい）
1977年東京都生まれ／2000年東北大学卒業／2002年横浜国立大学大学院修了／2002～09年西沢立衛建築設計事務所／2010年髙橋一平建築事務所設立／2011～20年横浜国立大学大学院助教／2018年～法政大学非常勤講師／2020年～横浜国立大学非常勤講師

松川昌平（まつかわ・しょうへい）
1974年石川県生まれ／1998年東京理科大学工学部建築学科卒業／2017年同大学工学研究科建築学専攻後期博士課程修了／2009～11年ハーバード大学GSD客員研究員および文化庁在外派遣員／2013～14年慶応義塾大学SFC環境情報学部専任講師／現在，同大学SFC環境情報学部准教授，博士（工学）

野村和宣（のむら・かずのり）

1964年東京都生まれ／1986年東京工業大学工学部建築学科卒業／1988年同大学大学院修士課程修了後，三菱地所入社／2001年～三菱地所設計／2018年東京工業大学大学院博士（工学）取得／現在，同社執行役員建築設計三部長

石橋和裕（いしばし・かずひろ）

1966年兵庫県生まれ／1990年東北大学工学部建築学科卒業／1992年東北大学大学院修士課程修了後，三菱地所入社／2001年～三菱地所設計／現在，同社建築設計三部ユニットリーダー

河畑淳司（かわばた・じゅんじ）
1976年奈良県生まれ／2000年大阪大学工学部建築工学科卒業／2002年同大学大学院工学研究科修士課程修了／2008年～三菱地所設計／2011～14年三菱地所都市計画事業室／2014年～三菱地所設計／現在，同社関西支店チーフアーキテクト

松井夏樹（まつい・なつき）
1987年東京都生まれ／2010年明治大学理工学部建築学科卒業／2012年同大学大学院理工学研究科修士課程修了／2012年～三菱地所設計／2020年～MITSUBISHI ESTATE LONDON LIMITED

田淵滋（たぶち・しげる）

1961年東京都生まれ／1985年武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科卒業／1987年武蔵野美術大学助手／1991年～日本設計／現在，同社インテリア設計部長

山本啓示（やまもと・さとし）
1967年島根県生まれ／1991年芝浦工業大学工学部建築学科卒／1993年同大学大学院建設工学専攻修士課程修了後，日本設計入社／現在，同社第一建築設計群主管

堀田梨絵（ほった・りえ）
1980年北海道生まれ／2005年東北大学工学部建築学科卒業／2007年同大学大学院都市建築学専攻修士課程修了／2015年～日本設計／現在，同社第一建築設計群主管

柿本英樹（かきもと・ひでき）

1964年福岡県生まれ／1987年京都大学工学部建築学科卒業／1989年同大学大学院修士課程修了後，久米建築事務所入社／1992年～久米設計／現在，同社建築設計部副統括部長

加舎尚樹（かや・なおき）
1975年京都府生まれ／2000年東京理科大学理工学部建築学科卒業後，久米設計入社／現在，同社建築設計部上席主査

佐藤勝（さとう・まさる）
1961年宮城県生まれ／1984年千葉大学工学部建築工学部卒業／1984～95年Knoll International Japan／1995年～久米設計／現在，同社インテリア設計部副部長

青柳創（あおやぎ・はじめ）
1980年大阪府生まれ／2003年筑波大学芸術専門学群卒業／2006年東京芸術大学大学院修士課程修了後，日建設計入社／現在，同社設計部門ダイレクター

PROFILE

案内図がwebに移行しました.

新建築のDATA SHEETの案内図はウェブページでご覧頂けるようになりました．新建築Onlineの各作品ページからはその場所へ直接リンクしています．専用案内図アドレスhttp://bit.ly/sk2101map（1月号）からもご覧頂け，その月に掲載された作品の場所を一覧できます．

新建築
2020年10月別冊

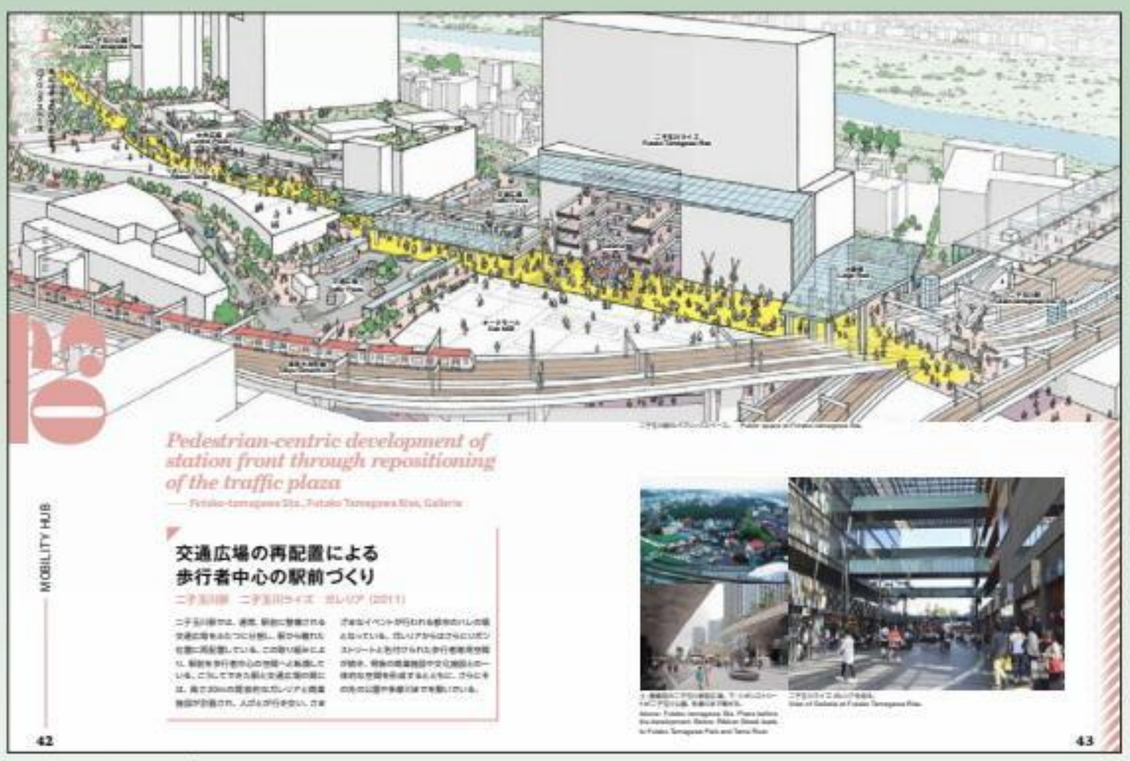
58 Public Spaces in Tokyo

Cooperative Design for
New Urban Infrastructures

豊富なイラストや写真で、東京のパブリックスペースを紐解きます!!

本書は，東京にある魅力的な58カ所のパブリックスペースをまとめた特集号です．東京に数多くあるパブリックスペースの中でも比較的新しく都心部にあるものを紹介し，高密度化した東京でいかにして良質なパブリックスペースが生まれたのか，そのつくられ方や仕組みを紐解きます．立場の異なる関係者が意見を擦り合わせることで，生き生きとした場所が実現されており，さまざまな想いが積み重なった協調型のデザイン（Cooperative Design）が実践されています．58のパブリックスペースの実例を紐解くことで，これからの日本・世界での都市づくりのヒントになるのではないでしょうか．

好評
発売中!!
定価：2,000円（税込）



■誌面イメージ

■誌面イメージ

ロマンスカーミュージアム開業記念～「Romancecar Memorial Parts Project vol.3」

(株)小田急エージェンシーは，ロマンスカーミュージアム（2021年4月開業予定）の開業記念として，「Romancecar Memorial Parts Project vol.3」の第1弾企画アイテムを発売した．「特急ロマンスカー・SE 3000形」の車両で実際に使用されていた座席シートなどの車内装備品を天童木工とコラボし，新たな役割を宿した4種類8アイテムを数量限定で販売する．

(株)小田急エージェンシー
se-memorial@odakyu-ag.co.jp
https://www.odakyu-ag.co.jp/

左上：SE・ウッド・ダイニングチェア．右上：Super Expressキッズチェア（大），左下：SE・ウッドハンガー．右下：SE・ロマンスウォッチ．

いい仕事は，いい雑談から．オフィスの雑談スポット「5 TSUBO CAFE」

プラスは，小林幹也氏によるデザインの「5 TSUBO CAFE（ゴツボカフェ）」をリニューアル発売する．オフィス内にて，従業員同士が雑談を交わす場所として機能し，組織のコミュニケーションの活性化を図ることを目的とした家型のユニット．オーク無垢材を使用したナチュラルな風合いや質感と家型のフォルムが，温かみのある空間を演出する．

プラス(株)お客様サービスセンター
0120-432-298
https://kagu.plus.co.jp/

5 TSUBO CAFE（2ユニットタイプ）．デジタルサイネージの設置（無償）で雑談のきっかけとなる情報提供をする．また，オプションのセレクトメニューとしてコーヒーをはじめとする飲食物，季節の飾りつけギフト，空間を演出する花やグリーンなども提供する．価格：298,000円～（1ユニット オープンタイプ，税別）．

機能的・精神的な満足感を見つめ直した，心豊かな生活空間をもたらす家具 アルフレックスジャパン2020年新製品発売

(株)アルフレックスジャパンは，国際的に活躍するデザイナーを起用した2020年の新製品8点と，人気のシリーズに新たに追加された3点，合計11点の製品を発表した．セルジオ・ブリオスキ氏によるソファ「CASTELLO（カステッロ）」は，イタリア語で城を意味する名の通り威風堂々とした佇まいのデザインが特徴．肩口から後頭部までをサポートするヘッドレストは，ハイバックのような心地よさをもたらすと共に，城壁を思わせる力強い水平ラインが，見た目にも風格を与えるデザイン．
初のコラボレーションとなるミラノ在住のデザイナー大城健作氏によるラウンジチェア「ELSA（エルザ）」は，複雑な曲面に沿って，シワひとつなく張り込まれたレザーの美しさが最大限に活きるよう設計された，立体感のあるフォルムと弾力ある柔らかな座り心地が特徴．
パトリック・ノルゲ デザインのチェア「LYS（リース）」は，百合の花をモチーフにしたフランス貴族の紋章を連想させる名にふさわしい優雅で量感のあるデザイン．大ぶりな馬蹄形の背が心地よく背中をホールドする．

(株)アルフレックスジャパン
0120-33-1951
https://www.arflex.co.jp/

CASTELLO．サイズ：w3,270×d1,150×h700×sh420mm.
価格：1,892,000円（税別）～．

ELSA．サイズ：w860×d855×h815×sh360mm.
価格：560,000円（税別）．

LYS．サイズ：w595×d550×h710×sh465mm.
価格：209,000円（税別）～．

TOPICS

新製品情報

天然木の木質壁・天井材ブランド「the wall」新樹種「アカシア」と「スモークユーカリ」追加

朝日ウッドテック（株）は，天然木の木質壁・天井材ブランド「the wall」の突き板シリーズに，新樹種「アカシア」と「スモークユーカリ」を追加し，また従来品の仕様にも変更を加えた．「アカシア」は，多彩な材色を持ち，光の入る角度によって色目が変わる．「スモークユーカリ」は，独自の処理を施して実現した黒褐色が空間に深みを与える．

アカシア．価格：15,600円/枚（税別）．

右：スモークユーカリ．価格：19,000円/枚（税別）．

朝日ウッドテック（株）
tel:06-6245-9238
https://www.woodtec.co.jp

浮遊感のあるフローティングデザイン住宅用壁掛トイレ「FD」発売予定

TOTO（株）は，住宅用壁掛トイレ「FD」を2月1日に発売する予定．便器から出ている給水管や電源コード，レバーハンドルをキャビネット内に納め，浮遊感のあるフローティングデザインを採用することで，ゆとりがあるスッキリした空間をつくることができる．カラーは，キャビネットカラー2色と天板カラー5色となっており，自由に組み合わせが可能．

価格：397,400円（税別）．

TOTO（株）
0120-03-1010
https://jp.toto.com

プロユーザー向け情報発信サイト「サンゲツスペースクリエーションパーク」開設

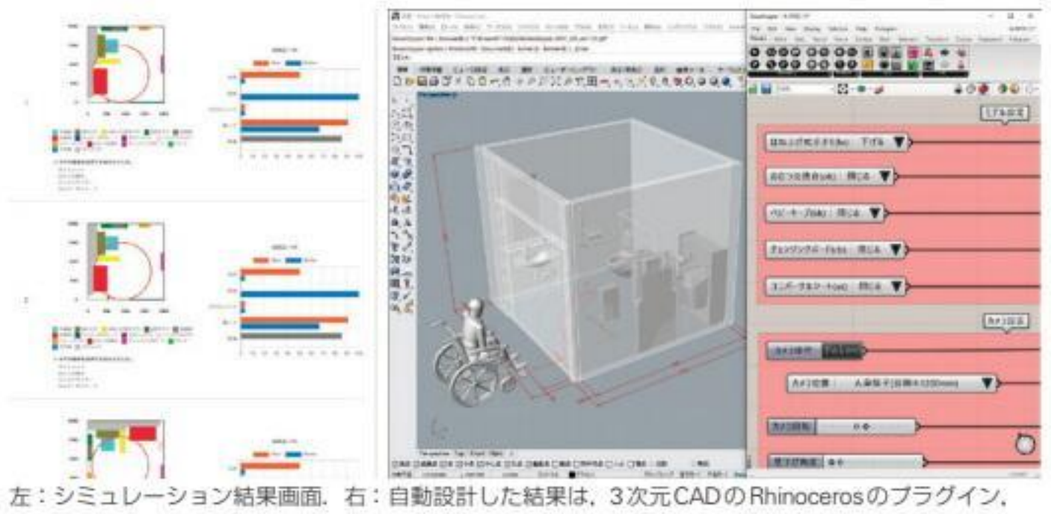
（株）サンゲツは，プロユーザー向け情報発信サイト「サンゲツスペースクリエーションパーク」を開設した．そこでは医療，福祉，教育，宿泊の施設ごとに商品や空間づくりのヒントを提案する．また，見本帳を閲覧できる「サンゲツ図書館」やオンラインイベントを開催する「イベント広場」など，街を織りなす建物を通じて情報を収集できる．

サンゲツスペースクリエーションパークのメインページ．

（株）サンゲツ
tel:052-564-3314
https://www.sangetsu.co.jp

パブリックトイレ空間を自動設計するクラウドサービス「A-SPEC」公開

（株）LIXILは，パブリックトイレ空間をクラウド上で自動設計するサービス「A-SPEC」を公開した．指定した空間に対して，クラウド上にある「A-SPEC」のプログラムがさまざまなシミュレーションを行い，数万件のアイデアからよりよいプランを提案する．プログラム内には，過去にLIXILが提案してきた設計ノウハウが随所に活かされている．



左：シミュレーション結果画面．右：自動設計した結果は，3次元CADのRhinocerosのプラグイン，Grasshopperに読み込むことで，空間内の視覚的なシミュレーションをすることもできる．

（株）LIXIL
0120-179-400
https://a-spec.lixil.com

抗ウイルス加工技術「ViralOff」を施した布地オフィスチェア５種発売

(株)イトーキは，2020年5月にスウェーデンのポリジン(株)が発表した抗ウイルス加工技術「ViralOff(バイラルオフ)」を施した布地のオフィスチェアを発売した．ラインナップは，「nort(ノートチェア)」，「nona(ノナチェア)」，「torte-R(トルテRチェア)」，「Monon(モノンチェア)」，「Eleck(エレックチェア)」の5つ．

(株)イトーキ
0120-164177
https://www.itoki.jp

nort.

海外製ビルトイン家電機器を体験できる東京ショールームをオープン

(株)ツナシマ商事は，東京ショールームをオープンした．「ASKO(アスコ)」，「Viking(バイキング)」，「BERTAZZONI(ベルタゾーニ)」といった海外製ビルトイン家電機器を実装したキッチン空間を展示．食洗機，オーブン，ガス調理器，冷蔵庫，洗濯機，乾燥機などを実際に体験しながら比較検討することができる．完全事前予約制．

(株)ツナシマ商事　東京ショールーム
tel:03-6712-5721
http://www.tsunashimashoji.co.jp

ショールーム内観．

カナダ・バンクーバーのブランドBOCCIの「Stemシリーズ」発売

スタジオノイ(株)は，カナダ・バンクーバーのブランドBOCCI(ボッチ)の「Stem(ステム)」シリーズを発売した．幹のような形状の真鍮管に好みのガラスグローブを取り付け，空間を彩ることができる照明．バリエーションは，フロア，サスペンド，ホリゾンタル，コラムの4種．仕上げは，ブラスとマッドブラックから選択できる．

28.6ホリゾンタル．
価格：995,000円(税別)．

スタジオノイ(株)
tel:03-5843-0260
https://www.studio-noi.com

高耐久性と抗菌性を実現した仕上げ材「Lisse」発売

フジワラ化学(株)は，仕上げ材「Lisse(リッセ)」を発売した．左官技術によって緻密に揃う細かい砂の粒が，滑らかで強固な表面を形成，高耐久性を実現．銀による抗菌性能も備える．ホルムアルデヒドの吸着・分解性能もあるため，住宅，店舗，公共施設など安心安全な室内空間づくりが求められる建物に使用することができる．

施工イメージ．価格：4,400円/m²(税別)．

フジワラ化学(株)
tel:0898-64-2421
https://www.fujiwara-chemical.co.jp

屋内高天井照明専用LEDランプ「LEDioc LEDアイランプSP」発売

岩崎電気(株)は，屋内高天井照明専用のLEDランプ「LEDioc LEDアイランプ SP(レディオック LEDアイランプ エスピー)」128Wを発売した．高効率なLEDパッケージの採用で，消費電力を約80%削減し，水銀ランプ700W相当の明るさを実現．色温度は5,000Kの昼白色タイプと2,700Kの電球色タイプの2種展開となっている．

価格：85,000円(税別)．

岩崎電気(株)
tel:048-554-1124
https://www.iwasaki.co.jp

スマートフォンなどで操作できるIoT機能付き「電動シャッター」発売

三協立山(株)・三協アルミ社は，「電動シャッター」をリニューアル発売した．スマートフォンやAIスピーカーから開閉操作可能なIoT機能を追加することで，外出先からの開閉が可能になり，急な天候変化への対応力が向上した．また，好みの開閉状態を再現できる「シーン」登録や設定した時刻に開閉する「タイマー操作」など，操作性も向上した．

サイズ：w2,600×h2,230mm．
価格:650,200円(本体のみ，税別)．

三協立山(株)　三協アルミ社
0120-53-7899
https://alumi.st-grp.co.jp

居室空間にも馴染みやすいマットな質感「PASS」シリーズに新色２色を追加

セラトレーディング(株)は，コンパクトな空間にも設置しやすいフラミニア社「PASS」シリーズの手洗器に新色のマットホワイト・ラバグレーを追加ラインアップした．奥行が220mmとコンパクトなので，前出を抑えてすっきりと設置できる．従来品揃えしていた光沢のあるホワイトに加え，質感のある2色が加わり，居室空間に馴染みやすくなった．

設置イメージ．

セラトレーディング(株)
tel:03-3796-6151
https://www.cera.co.jp

既設軽量シャッター用補強部材「耐風ガードLプラス」を発売

三和シヤッター工業(株)は，既設軽量シャッター用補強部材「耐風ガードLプラス」を発売した．店舗や倉庫の出入口，住宅用ガレージなどに設置されている軽量シャッターに追加設置することで，従来比の2倍の耐風圧800Paを確保する．また，同社製の軽量シャッターであれば手動式・電動式ともに設置でき，取付工事や工具が不要．

設置イメージ．

三和シヤッター工業(株)
tel:03-3346-3011
https://www.sanwa-ss.co.jp

新建築 バックナンバー

7 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝ WITH HARAJUKU

●作品19題
WITH HARAJUKU｜**竹中工務店＋伊東豊雄建築設計事務所**
UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店｜**藤本壮介建築設計事務所　渡辺建築事務所　大本組　スペース　佐藤可士和**（トータルプロデュース・コンセプトデザイン）　**ファーストリテイリング**
UNIQLO TOKYO｜**ヘルツォーク&ド・ムーロン　竹中工務店　乃村工藝社　佐藤可士和**（トータルクリエイティブディレクター）　**ファーストリテイリング**
都立多摩図書館　東京都公文書館｜**佐藤総合計画**
T-FIT HATCHOBORI｜**戸田建設一級建築士事務所**
上勝町ゼロ・ウェイスト センター｜**中村拓志／ NAP建築設計事務所**
佐賀城内エリアリノベーション　佐賀城公園 こころざしのもり／佐賀県庁 SAGA CHIKA・ODORIBA・サイン改修｜**馬場正尊＋加藤優一＋清水襟子／ Open A**（デザイン監修）
熊野の点と点と 山村，漁村，商店街における一連の試み
コウノイエ／くまの就労支援センター ヨリドコ／梶賀のあぶり場｜**多田正治アトリエ**
98WINEs Terroir　地域に開かれたワイナリー｜**S PLUS ONE ／坂野由美子**
下川町まちおこしセンター コモレビ｜**エスエーデザインオフィス**
本覚寺の森 観音霊園・観音堂｜**辻瞳／ヒットデザイン建築設計事務所＋三笠友洋／西日本工業大学**
AOYAMA花苑｜**y＋M design office**
HUG GARDEN ほしのさと Kids　ほしのさと day service center｜**髙橋勝建築設計事務所**
コンテナ町家｜**魚谷繁礼建築研究所**
日本の窓 木製サッシ十和田工場｜**東京組／津田大二郎　アルクデザイン／沼田直樹**
Lattice-Pod ／朝田善之助記念館｜**森田一弥＋小寺磨理子＋木村俊介／森田一弥建築設計事務所**
大雪渓酒造 花紋大雪渓｜**川上恵一／かわかみ建築設計室**
旧長井小学校第一校舎｜**鈴木建築設計事務所**
豊島区立トキワ荘マンガミュージアム｜**丹青社　丹青研究所 LAN　バウ・ビルト**
●記事｜新型コロナウイルス感染症の影響と対応　医療から建築を考える／医療資源をいかに活用・補充するか｜**中山茂樹**（日本医療福祉建築協会会長）／ Pandemic Readyでデザインする｜**堀賢**（順天堂大学大学院医学研究科教授）×**鳥山亜紀**（日本医療福祉建築協会理事，清水建設プリンシパル・プランナー）
●記事｜これからの実空間が担うもの｜**佐藤可士和**
●NEWS｜「岡山市新庁舎基本・実施設計業務委託」公募型プロポーザルで山下設計・丸川建築設計共同企業体が最適提案者／長野県「中野市市民会館リノベーション設計業務」公募型プロポーザルで環境デザイン研究所・宮本忠長建築設計事務所共同企業体を特定／山口県岩国市「（仮称）英語交流のまち推進センター整備基本計画策定業務」公募型プロポーザルで光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所が受託予定者　他
●EXHIBITION｜坂茂建築展――仮設住宅から美術館まで 岩元真明／マル秘展――めったに見られないデザイナー達の原画／まちをはかる――間地（まち）から紐解く都市の生態　伊藤孝仁／郊外住宅地再生フォーラム2020
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　林千晶　門脇耕三**
●福岡国際建築コンペティション応募要項

8 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝ AWAZUKU HOUSE

●作品18題
東京大学目白台インターナショナル・ビレッジ｜**東京大学キャンパス計画室（千葉学＋今井公太郎）　東京大学施設部　鴻池組**
TAKANAWA SITE｜**千葉学建築計画事務所**
AWAZUKU HOUSE｜**栗原健太郎＋岩月美穂／ studio velocity**
中央ラインハウス小金井｜**ワークショップ設計共同体（architecture WORKSHOP＋エアリアル＋木下道郎／ワークショップ）**
2020 ／はねとくも｜**モクチン企画**
南行徳 FROMM｜**冨永美保＋伊藤孝仁／ tomito architecture**
亀崎3軒長屋　レトロフィット&コンバージョン｜**久野紀光＋寺嶋利治／名古屋市立大学大学院芸術工学研究科久野研究室**
プラウド上原フォレスト｜**竹中工務店**
住宅地の集合住宅｜**河内建築設計事務所**
ミドリノオカテラス｜**末光弘和＋末光陽子＋永瀬智基／ SUEP.**
ニコタマテラス｜**奥野公章建築設計室**
セタガヤテラス｜**若松均建築設計事務所**
角花｜**川辺直哉建築設計事務所**
大池薬局ビル｜**裕建築計画**
双葉町のアパートメント｜**三木達郎＋本橋良介／ MMAAA**
早稲田大学107号館 所沢紺碧寮｜**山下設計　プレイスメディア**（ランドスケープ）
アネシス茶屋ヶ坂｜**清水建設**
横浜北仲ノット｜**KAJIMA DESIGN**
●記事｜新型コロナウイルス感染症の影響と対応　これからの「集まって住む」を考える／住まいを拡張する試み｜**篠原聡子**（建築家）／アフターコロナ / ウィズコロナ時代の住まいの幸福｜**島原万丈**（LIFULL HOME's総研所長）
●記事｜プロトタイプとしての建築｜**連勇太朗**
●記事｜これからのまちづくりとトイレのかたち　小さなパブリックトイレを大きな視点で考える
●NEWS｜徳島県，県営住宅新浜町団地建替事業「awaもくよんプロジェクト設計競技」で内野設計・島津臣志建築設計事務所・カワグチテイ建築計画JVが最優秀作品／鹿児島県「伊佐市新庁舎建設基本・実施設計等業務」公募型プロポーザルでシーラカンスアンドアソシエイツ・Dai建築DESIGN共同企業体が最優秀者／日本設計新社長に篠崎淳氏／大阪・関西万博会場デザインプロデューサーに藤本壮介氏／「黒石市立図書館整備設計業務」公募型プロポーザルでみかんぐみ・蟻塚学設計共同体が最優秀者／ 2019年度DOCOMOMO Japan選定作品発表――黒石ほるぷ子ども館など12件が選定／東京都がスマートシティ化先行実施エリアに大丸有，竹芝，豊洲地区を選定／第6回これからの建築士賞発表――富士見台トンネルなど6点が入賞／「001系 Laview」がブルーリボン賞を受賞　他
●EXHIBITION｜「公共建築はみんなの家である」展――伊東豊雄の4つの公共建築／作品のない展示室／九州等の豪雨について，防災学術連携体の緊急集会／「ウォーカブルなまちづくり」の本質に迫る！ vol.1――国土交通省都市局担当者が語る政策の意図とは／くらし方改革の本質「ワーク・ワーク・バランス」とは？
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　秋元雄史　門脇耕三**
●第14回 長谷工 住まいのデザイン コンペティション

9 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝ MIYASHITA PARK

●作品16題
横浜市役所｜**竹中工務店　槇総合計画事務所**
こども本の森 中之島｜**安藤忠雄建築研究所**
ウポポイ（民族共生象徴空間）国立アイヌ民族博物館｜**安東直＋海老原靖子＋松谷悟詞＋國眼一成／久米設計**
ウポポイ（民族共生象徴空間）国立民族共生公園 体験交流ホール｜**アトリエブンク＋総合設備計画**
東日本大震災・原子力災害伝承館｜**渡部和生／惟建築計画＋日本大学工学部空間デザイン研究室**
新風館｜**NTTファシリティーズ　隈研吾建築都市設計事務所**（デザイン監修）
THE HIRAMATSU京都｜**日建設計**（基本設計・実施設計監修）　**大林組**（実施設計）　**中村外二工務店**（内装デザイン監修）
ザ・ホテル青龍 京都清水（元 京都市立清水小学校）｜**東急設計コンサルタント**（基本設計）　**大林組**（実施設計）　**A.N.D.**（クリエイティブディレクション）
MIYASHITA PARK｜**竹中工務店　日建設計**（プロジェクトアーキテクト）
新宿住友ビルRE-INNOVATION PROJECT｜**住友不動産**（基本構想，総合監修）　**日建設計／芦田智之＋恩田聡＋村上博昭**（基本設計，実施設計）　**大成建設一級建築士事務所**（実施設計）
SOMPO美術館｜**大成建設一級建築士事務所**
Takanawa Gateway Fest しらなみ｜**ジェイアール東日本企画　永山祐子建築設計**（デザインアーキテクト）
NISSAN PAVILION｜**日産自動車グローバルデザイン本部　TBWA＼HAKUHODO　アーキセプトシティ　シービーアールイー　太陽工業　乃村工藝社　博展**
福島ロボットテストフィールド 研究棟｜**山本堀・URリンケージ設計共同体**
オービック御堂筋ビル｜**KAJIMA DESIGN**
戸田建設筑波技術研究所 環境技術実証棟　構造・施工実験棟　音響実験棟｜**戸田建設一級建築士事務所**
●建築論壇｜グラデーショナルな教育へ オンライン授業を経験して｜**倉方俊輔**（大阪市立大学准教授）　**杉田宗**（広島工業大学准教授）　**平瀬有人**（佐賀大学准教授）　**平野利樹**（東京大学特任講師）　**松川昌平**（慶應義塾大学准教授）
●記事｜横浜市役所とそのアーバニズム｜**槇文彦**
●NEWS｜長野県「松本平広域公園陸上競技場整備事業基本設計業務」公募型プロポーザルで青木淳・昭和設計共同体が最適候補者／長野県「御嶽山ビジターセンター（仮称）整備事業」公募型プロポーザルでyHa architectsが最適候補者／くまもとアートポリスプロジェクト「立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ 公開設計競技2020」で曽根拓也＋坂本達典＋内村梓＋前原竹二が最優秀賞／「橿原市新本庁舎建設基本・実施設計業務」公募型プロポーザルで東畑・NASCA設計共同体が契約候補者／「明治記念大磯邸園邸宅（20）設計業務」公募型プロポーザルで隈研吾建築都市設計事務所・建文設計共同体を特定／第15回日本構造デザイン賞発表――「ちぐさこども園」，「東急池上線旗の台駅」が受賞／第11回大林賞をオラファー・エリアソンが受賞　他
●EXHIBITION｜都市は自然｜**槇文彦　坪井みどり**／FUTURE MEMORY ／開校100年 きたれ，バウハウス――造形教育の基礎――／ MANGA都市TOKYO　ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム・特撮2020
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　林千晶　門脇耕三**
●第9回大東建託賃貸住宅コンペ応募要項

バックナンバーのお取り寄せは最寄りの書店へお申し込みください.
また，下記ウェブサイト，新建築.netからもご注文いただけます.

https://shinkenchiku.online

株式会社 新建築社　〒100-6017 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング17階
tel. 03-6205-4380（大代表） fax. 03-6250-4386

10 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝軽井沢風越学園

●作品19題
Otemachi One｜**日建設計**（都市計画・基本設計・実施設計）
KAJIMA DESIGN（実施設計） **スキッドモア・オーウィングズ・アンド・メリル（SOM）／小林・槇デザインワークショップ**（外装・オフィス共用部デザイン）
TOKYO MIDORI LABO.｜**湯浅友絵＋萬玉直子＋オンデザイン　DAISHIZEN**（企画）
浜町LAB.｜**大西麻貴＋百田有希／o＋h**
T-HOUSE New Balance｜**大西康隆＋オンデザイン　スキーマ建築計画**（建築意匠監修／内装設計）
東京ミズマチ　すみだリバーウォーク｜**オー・エヌ・オー大野設計**（東京ミズマチ） **東武鉄道・ユナイテッドデザイン・鹿島建設・東日本総合計画・ジェイアール総研エンジニアリング**（すみだリバーウォーク）
JR横浜タワー・JR横浜鶴屋町ビル｜**東日本旅客鉄道・JR東日本建築設計**
守口市立図書館｜SALHAUS
軽井沢風越学園｜**環境デザイン研究所**
こどもえんつくしダイニングホール棟　forestaカランころ｜**前田圭介／UID**
広野町こども園｜**関・空間設計＋生物建築舎設計共同体**
桃沢野外活動センター｜**光嶋裕介建築設計事務所**
石山公園の屋根｜**萬代基介建築設計事務所**
大井町駅前公衆便所｜**あかるい建築計画**
THE TOKYO TOILET｜**坂茂建築設計　片山正通／ワンダーウォール　田村奈穂　槇総合計画事務所　坂倉建築研究所　安藤忠雄建築研究所　大和ハウス工業**（実施設計）
千駄ヶ谷のトイレ｜SUPPOSE DESIGN OFFICE
MUNI KYOTO｜**安田アトリエ**
WORK x ation Site 軽井沢（ワーケーションサイト軽井沢）｜**田邉雄之建築設計事務所**
富士山・白糸ノ滝テラス SHIRAITO GENERAL STORE｜**水谷智充／千代田コンサルタント＋落合正行／日本大学**（富士山・白糸ノ滝テラス） **杉本将平／PEA.../落合建築設計事務所**（SHIRAITO GENERAL STORE）
mother's＋｜**竹中工務店**
●建築論壇｜時がつくる環境　アクロス福岡の25年とこれから　｜**村松映一**（村松映一建築計画室主宰，元竹中工務店代表取締役副社長）×**浅石優**（元日本設計プリンシパルデザイナー）×**田瀬理夫**（ブランタゴ代表）×**福田卓司**（日本設計取締役副社長）
●記事｜自然に建築を織り込む｜**エミリオ・アンバーツ**
●記事｜子どもたちの主体的な学びの空間｜**仙田満**（環境デザイン研究所）×**本城慎之介**（軽井沢風越学園理事長）
●NEWS｜三菱地所が「TOKYO TORCH（東京駅前常盤橋プロジェクト）」の計画概要を発表　他
●EXHIBITION｜記憶を結び，共生の未来をイメージする．没後20年 毛綱毅曠の建築脳｜**藤塚光政**／都市の未来を（コロナ禍を通して）考える／建築家 前田圭介の現場展｜**藤本寿徳**／杉並建築展2020 これからの価値―Values of the future―
●連載｜快適をデザインする照明技術　by コイズミ照明
第4回：「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」に見る，照明制御システム「DALI」と築く新たな空間の可能性
●FOCUS-IN｜場非住宅木造建築物の普及に向けて，大型木造プレカットネットワークを提供　「木構造デザイン」による設計から加工までのワンストップ・サポート
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　秋元雄史　門脇耕三**

11 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝宮島口旅客ターミナル

●作品19題
宮島口旅客ターミナル｜**乾久美子建築設計事務所**
那須塩原市図書館 みるる＋駅前広場｜**UAo**
東京ポートシティ竹芝｜**鹿島・久米設計工事監理業務共同企業体　KOHN PEDERSEN FOX ASSOCIATES　ホシノアーキテクツ　長谷工コーポレーション**
WATERS takeshiba｜**JR東日本建築設計**（タワー棟構造設計協力：清水建設一級建築士事務所）
●特集：木造特集
小郡幼稚園｜**竹原義二／無有建築工房**
Metsä Pavilion｜**Helin & Co**
カヤックガーデンオフィス＋Camp Pod｜**VUILD**
工学院大学附属中学校・高等学校屋内練習場｜**樫原徹建築設計事務所**
飯能商工会議所｜**野沢正光建築工房**
日刊木材新聞社新社屋｜**IKDS**
のだのこども園｜**水上哲也建築設計事務所**
大成建設技術センター 風のラボ｜**大成建設一級建築士事務所**
流通経済大学龍ケ崎キャンパス 佐伯記念武道館｜**清水建設**
高知学園大学｜**艸建築工房**
やはた幼稚園 保育ルーム｜**西澤高男＋山代悟＋ビルディングランドスケープ**
湖の駅　さめうらカヌーテラス｜**伊原慶＋和久田幸佑／TA＋A＋和久田幸佑建築設計事務所＋三愛設計 設計共同体**
ROBRA｜**三菱地所ホーム ORDER GRAN設計室＋スタジオ・クハラ・ヤギ＋KAP**
テクノ キューブ｜**ボラテック**
●建築論壇｜切断線から考える　磯崎新の1970年代 実務と理論 ｜**青木淳**（建築家）×**西沢大良**（建築家）　インタビュアー：**寺松康裕**（編集者）
●特集記事｜木造の多様な価値観を育てる｜**稲山正弘**（ホルツストラ代表）×**腰原幹雄**（team Timberize理事長）×**秋吉浩気**（VUILD CEO）
●NEWS｜三井不動産と竹中工務店が日本橋で地上17階建ての木造賃貸オフィスビル計画検討に着手／福島県大熊町「大熊町教育施設整備事業基本設計・実施設計業務委託」公募型プロポーザルに飯田善彦・鈴木弘人設計業務共同企業体が優先交渉権者／富山県「高岡テクノドーム別館（仮称）新築工事基本設計業務」で内藤廣建築設計事務所が最優秀者／茨城県行方市「霞ケ浦ふれあいランド再生整備事業」公募型プロポーザルでMOFF・高橋一平建築事務所・岡部工務店・常南グリーンシステムのコンソーシアムが優先交渉権者／鳥取県琴浦町「生涯学習センター改修工事基本設計業務」公募型プロポーザルで畝森・teco設計共同体が最優先交渉権者／日建設計新社長に大松敦氏／アジール・フロッタンを日本建築設計学会が修復と復元へ／福井県おおい町「スポーツ・文化体験交流合宿施設設計」公募型プロポーザルでジオ-グラフィック・デザイン・ラボが最優秀／大林組，新型コロナウイルス感染症対応のための仮設緊急病棟を開発　他
●EXHIBITION｜分離派建築会100年展 建築は芸術か？／建築と時間と妹島和世／特別展「工藝2020―自然と美のかたち―」／ソノアイダ@有楽町／日建連建築セミナー 「ふたつの予測不可能性」と「未体験な社会」
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　林千晶　門脇耕三**
●第14回 長谷工 住まいのデザイン コンペティション 追加告知

12 2020

定価＝本体 2,200 円＋税
表紙＝ところざわサクラタウン

●作品24題
小林古径記念美術館｜**宮本忠長建築設計事務所**
小林古径邸復原事業｜**吉田五十八**（元設計） **中川武／早稲田大学建築史研究室**（解体調査） **宮本忠長建築設計事務所**（復原設計）
ところざわサクラタウン｜**隈研吾建築都市設計事務所**（デザイン監修） **KAJIMA DESIGN**
KADOKAWA 所沢キャンパス｜**FLOOAT　オカムラ　SUPPOSE DESIGN OFFICE　ゲンスラー・アンド・アソシエイツ　ディー・サイン**
NIPPON・CHA! CHA! CHA! ／ Bridge Sprout ／ Fire Foodies Club ／ Lakeside Dancers Club｜**アトリエ・ワン**
銀座駅リニューアル｜**日建設計／向井一郎＋大場啓史＋須賀博之**
京橋エドグラン｜**日建設計／木村雅一＋三上愼司＋伊東宏和**
東京虎ノ門グローバルスクエア｜**日本設計／山﨑彰夫＋井上信次郎＋畑江未央＋高増拓実**（建築・構造） **三菱地所設計**（設備・土木）
日比谷OKUROJI｜**交建設計**（基本調査設計） **東鉄工業／AE**（実施設計） **SUPERBALL ／吉田裕一建築設計事務所**（環境デザイン／内装監理）
東京国際空港（羽田空港） 第2ターミナルビル本館南側国際線施設　国際線旅客ターミナルビル再拡張工事 II工区｜**梓・安井・PCPJ・東京国際空港第2ターミナル国際線施設設計監理共同企業体**
日亜化学工業 横浜研究所｜**妹島和世建築設計事務所**（北面ガラスファサード，1階エントランス，ランドスケープ） **竹中工務店**（本体建物）
LIXIL WINGビル HOSHI｜**三菱地所設計／小西隆文＋住谷覚＋李一純**
CIC Tokyo｜**CIC＋小堀哲夫建築設計事務所**
市川市役所 第1庁舎｜**山下設計　ブレイスメディア**（ランドスケープ）
近畿産業信用組合本店｜**大成建設関西支店一級建築士事務所**
愛知学院大学 名城公園キャンパス｜**大建設計**
ヒューリック両国リバーセンター｜**佐藤総合計画**
むさしのエコreゾート｜**武蔵野市**（基本計画） **水谷俊博建築設計事務所**（設計デザイン監修） **相和技術研究所**（実施設計）
兜町平和第5ビル／旧第一銀行本店附属新館再生｜SPEAC／**宮部浩幸＋吉村淳**（耐震補強・外装工事デザイン監修） **三菱地所設計**（耐震補強・外装工事設計） Claesson Koivisto Rune（内装デザイン監修） ADX（内装設計）
東京第8データセンター｜**NTTファシリティーズ**　Arup
●特集記事｜新型コロナウイルス感染症の影響と対応　これからの都市と郊外に向けて｜**饗庭伸**（首都大学東京教授）
●記事｜都市の資源へのアクセスとふるまい｜**塚本由晴　中島諒人**（鳥の劇場）
●NEWS｜滋賀県「伊勢遺跡整備に係る実施設計業務」公募型プロポーザルで平田晃久建築設計事務所が優秀者　他
●EXHIBITION｜M meets M　村野藤吾展 槇文彦展｜**小泉雅生**／藤森照信―自然と建築／生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪＋Under 35 Architects exhibition 2020　35歳以下の若手建築家による建築の展覧会｜**倉方俊輔**／CEATEC 2020
●連載｜快適をデザインする照明技術　by コイズミ照明
第5回：輝度をコントロールして魅力的な夜景を演出するボラード照明　「andon」「Ground Washer」
●月評｜**西沢大良　羽藤英二　秋元雄史　門脇耕三**

新建築 住宅特集 バックナンバー

バックナンバーのお取り寄せは最寄りの書店へお申し込みください。
また，下記ウェブサイトからもご注文いただけます。

https://shinkenchiku.online

株式会社 新建築社　〒100-6017　東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 17 階
tel. 03-6205-4380（大代表）　fax. 03-6205-4386

2020 8月号

定価＝本体 2,200 円+税

[特集] 庭――人と自然を繋ぐもの
Villa beside a Lake／**長谷川豪**　特集論考：**長谷川豪**　大地の家／**西口賢**　ササハウス／**矢部達也**　磐座の家／**中村拓志**　nの家／**田所克庸**　橋本の半納屋／**芦澤竜一**　蒲郡の住宅／**鈴木貴之**　PeacoQ／**前田圭介**　都市の縮景／**岸本和彦**　葉山の家／**八木正嗣＋八木このみ**　パサージュ・ボタニック／**高野邦彦＋千田友己＋千田藍**　神職の文庫／**武藤弘樹**　太宰府の家／**平野公平**　谷戸の家／**成島大輔＋中山史崇＋前田哲郎**
[MONTHLY REVIEW] 座談月評　**塚本由晴×平田晃久×増田信吾**
[特別記事] ウイルス・都市・住宅　変革の今、建築と人がもつべき想像力　**西沢大良×乾久美子×藤村龍至**
[特集記事] X年後の庭　住宅の庭のあり方とその実践を問う　**長谷川豪　栗原健太郎＋岩月美穂　西田司＋神永侑子＋鶴田爽　島田陽　井口浩　河内一泰　中村拓志　藤野高志　古森弘一＋橋迫弘平　五十嵐淳　前田圭介　武井誠＋鍋島千恵　川本敦史＋川本まゆみ　神家昭雄　大井鉄也**

2020 9月号

定価＝本体 2,200 円+税

[特集] これからの間取り・キッチン
――暮らしを豊かにする創造力
[特集企画　建築家のキッチン9題] **大西麻貴＋百田有希　長坂常　中山英之　武田清明　髙橋一平　菊地宏　手嶋保　谷尻誠　乾久美子＋市川竜吾**
[特集作品] ケーブルカー／**藤野高志**　神水公衆浴場／**西村浩＋竹味佑人＋黒岩裕樹**　特集論考：**西村浩**　住居No.23／**内藤廣**　稲沢長堤の家／**杉下均＋出口佳子**　泉の家／**川本敦史＋川本まゆみ**　善福寺の家／**青柳創＋青柳綾夏**　神戸のアトリエ付き住居／**山道拓人＋千葉元生＋西川日満里**　Sabo House／**倉林貴彦**　鈴木家／**木下昌大＋石黒大輔**　岸家／**田中亮平**　志摩の家／**野中あつみ＋三谷裕樹**　雑司が谷 高橋邸／**高橋朋之＋川口琢磨**　北小金のいえ／**白石圭＋中島壮＋橋本圭央**　五平柱の住宅／**小林佐絵子＋塩崎太伸**
[MONTHLY REVIEW] 座談月評　**塚本由晴×平田晃久×増田信吾**

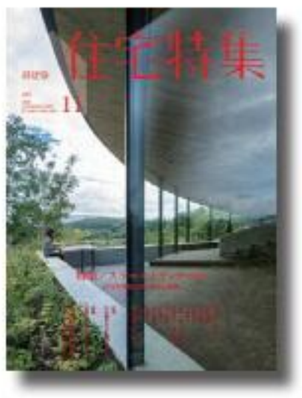
2020 10月号

定価＝本体 2,200 円+税

[特集作品13題] 瀬戸内の別荘／**千葉学**　森の離れ／**武井誠＋鍋島千恵**　特集論考1：**武井誠**　屏風絵の家／**早草睦恵**　軽井沢の住宅／**伊藤暁**　特集論考2：**伊藤暁**　泉涌寺道の町家／**森田一弥＋吉川青**　西橋詰町の長屋／**魚谷繁礼＋魚谷みわ子**　SETOYAMA／**森屋隆洋**　M-WALTZ／**船曳桜子＋大友和樹**　CLIFF HOUSE／**石原祥行**　森の小屋／**佐藤文＋鹿嶌信哉**　陽明館／**大島芳彦**　MAYA 鎌倉／**早坂直貴**　東峰村古民家ヴィラ あんたげ／**納谷学＋納谷新＋岡田祐介**
[小特集：移動可能な住宅のこれから] 特集論考3：**吉村靖孝**　半動産建築年表／**吉村靖孝**
[作品・プロジェクト6題] 動築1号器/2号器／**藤野高志**　1HrSBシステム／**坂茂**　アーキペラゴ豊中／**寺田雅史＋中山陽州**　GPT TAISHO＋XMH＋GTH／**吉村靖孝**
[MONTHLY REVIEW] 座談月評　**塚本由晴×平田晃久×増田信吾**

2020 11月号

定価＝本体 2,200 円+税



尾根の屋根／**長谷川豪**　オプティカルグラスのリヤド／**中村拓志**　美杉の舞台／**大室佑介**　森の図書館／**三井嶺**　大原の家／**森田一弥＋小寺磨理子**　ODYSSEY／**椎名英三＋椎名祐子**　月明と数寄／**川口通正**　魚沼の家／**伊礼智**　船頭小屋／**城戸崎博孝**　タープ／**加藤渓一**　西浦の家／**小泉誠**　House IT　三方吹抜けと密度／**神谷勇机＋石川翔一**
[第36回吉岡賞　結果発表] 審査員：**篠原聡子　藤本壮介**
[MONTHLY REVIEW] 座談月評　**塚本由晴×平田晃久×増田信吾**
[NEWS UP] 照明の光に反応する光触媒で抗菌・消臭・分解する無垢材フローリング　光触媒フローリング・壁板「エアー・ウォッシュ・フローリング(ひのき・すぎ)」
[記事] 住み継がれる住宅の行方 ブルーボックスハウス　文　**椎名英三**
[連載] 建築家自邸からの家学び　第22回 T2 Bldg.
企画・監修　**真壁智治**　協力　**石田敏明　石田章人　石田和久**　調査　**杉浦久子　昭和女子大学杉浦久子研究室**

2020 12月号

定価＝本体 2,200 円+税

[特集] 風と光のデザイン――自然を暮らしに息づかせる家具の家／**手塚貴晴＋手塚由比**　特集論考1：**手塚貴晴＋手塚由比**　House T／**谷尻誠＋濱谷明博**　特集論考2：**谷尻誠**　サクラと住宅／**神田篤宏＋佐野もも**　トンネルと台形／**五十嵐淳**　出窓の塔居／**藤貴彰＋藤悠子**　湯島の住宅／**武井良祐＋太田翔**　武蔵小山の住居／**島田陽**　箱の家164／**難波和彦**　特集対談：**難波和彦×川島範久**　高台の大窓／**根岸陽**　御影の家／**畑友洋**　富里の家／**五十嵐敏恭**　松橋の家／**中野晋治**　上井草の住宅／**川辺直哉**　Concrete Shell House／**井川充司**　吹上の家／**手嶋保**　でくさんち／**米田雅樹**
[MONTHLY REVIEW] 座談月評　**塚本由晴×平田晃久×増田信吾**
[NEWS] gallery IHA住宅建築賞2020発表／グッドデザイン特別賞発表／旧武基雄自邸を景観重要建築物等に指定／テイクアウトやテラス営業などのための道路占用許可基準の緩和措置を延長／ル・コルビュジエが改修した船「アジール・フロッタン」の復活プロジェクトを推進／新・国際芸術祭(仮称)の芸術監督が決定

2021 1月号

定価＝本体 2,200 円+税

[特集] 2021年 住宅のこれから――家をめぐる建築家の挑戦
[巻頭対談] 建築の想像力　**青木淳×西沢立衛**　司会：**百田有希**
[特集企画　最新住宅プロジェクト] **増田信吾＋大坪克亘　西沢立衛　妹島和世　秋吉浩気　平田晃久　村山徹＋加藤亜矢子　大西麻貴＋百田有希　萬代基介　長坂常　武田清明　西澤俊理＋Jovan Minic　渡辺菊眞　佐藤研吾**
[特集作品] Construction Site SHOCHIKUCHO HOUSE／**西沢立衛**　F／**青木淳**　24mm合板の家／**竹口健太郎＋山本麻子**　特集論考1：**竹口健太郎　山本麻子**　京都のアトリエ / 住居／**島田陽**　品川の家／**大石雅之**　谷中の公園のとなり／**宮崎晃吉**　特集論考2：**宮崎晃吉**　桜尾の座席／**彌田徹＋辻琢磨＋橋本健史**　アマカスハウス／**藤原徹平**　特集論考3：**藤原徹平**　博多の家／**横内敏人**　ARCHITEKTON／**スガショウタロウ**　Chocolate Cornet／**服部信康**　福神の森／**吉村理**
[MONTHLY REVIEW] 座談月評　**塚本由晴×平田晃久×増田信吾**

THE JAPAN ARCHITECT

ja バックナンバー

A4変型判／和英併記

バックナンバーのお取り寄せは最寄りの書店へお申し込みください.
下記ウェブサイトからもご注文いただけます.
https://shinkenchiku.online
株式会社 新建築社　東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル17階　〒100-6017
tel. 03-6205-4380　fax. 03-6205-4386

117号　2020 春号
Kunio Maekawa

本文 184頁　定価:本体¥3,000+税
日本のモダニズム建築を牽引した建築家・前川國男の特集です．ベルギー人建築家ヘラ・ファン・サンデ氏をゲストエディターに迎え，彼女の4本のエッセイや松隈洋氏との対談，22の建築と共に紹介します．

116号　2020 冬号
変化し続ける都市
Place + Urbanism

本文 128頁　定価:本体¥2,381+税
都市に着目した特集．『Place+Urbanism』シリーズの第1号．『変化し続ける都市』の特集です．世界の都市の21事例を通して産業構造の変化や環境問題などへ対応する21世紀の都市への「取り組み」を紹介します．

115号　2019 秋号
Manabu Chiba

本文 160頁　定価:本体¥2,381+税
建築家・千葉学の特集です．2001年の事務所設立から現在までの代表作，進行中のプロジェクトやプロボーザル案まで24作品を収録．
千葉学の建築を3つの手法――「平面図」「スタディ」「写真」に分け、3章構成で紹介します．

114号　2019 夏号
Hiroshi Nakamura & NAP

本文 160頁　定価:本体¥2,381+税
建築家・中村拓志の特集です．17年間にわたる作品を時系列で見通し，未発表作も含む31作品を収録．地域の風土や産業，敷地の地形や自然を読み解き，人びとの振る舞いや気持ちに寄り添い設計した建築を紹介します．

113号　2019 春号
再録　EXPO'70

本文 176頁　定価:本体¥2,381+税
JA113は，1970年に開催されたEXPO'70 OSAKAを詳細に伝えた『新建築』1970年5月号と英文版『JA』1970年5月，6月号から再録．2025大阪・関西万博に向けた可能性を探るひとつの手がかりとなることを意図しています．

112号　2019 冬号
YEARBOOK 2018
建築年鑑

本文 128頁　定価:本体¥2,381+税
JA112は，2018年に『新建築』『新建築住宅特集』誌上で発表された建築とその動向を読み解く特集です．建築を取り巻く社会や環境が年々複雑になっていくなかでの模索や挑戦．そうしてできたかたちを示すことを本誌のねらいとしています．

111号　2018 秋号
集合住宅の先へ
Living Together

本文 128頁　定価:本体¥2,381+税
JA111は，集合住宅のこれからを考える特集です．機能用途の分け隔てなく，暮らすことに関わる建築を俯瞰してみることで，集合住宅のこれからをめぐる本質的な問いを浮かび上がらせようという試みです．

＊品切れ

110号　2018 夏号
現場から見えること
Insights from Building Sites

本文 128頁　定価:本体¥2,381+税
JA110は，現場の特集です．現場とは建築が立ち上がる場所であり，建築の理念がかたちとなって現れるところです．17の近作と合わせて1950～80年代の建築の現場写真と言説を掲載し，建築家が生み出すモノと思考の関係を探ります．

109号　2018 春号
Kengo Kuma: a LAB for materials

本文 220頁
建築家・隈研吾の特集です．隈が常に探求してきたマテリアルの可能性，その探求成果を82のプロジェクトを通じて展観します．展覧会「くまのもの―隈研吾とささやく物質，かたる物質」公式図録です．

75号　Steel Structure Houses in Detail
空間表現のディテール 鋼構造住宅で考える
2009-秋号　128頁　定価:本体¥2,381+税

76号　建築年鑑
新建築住宅設計競技結果発表
2010-冬号　＊品切れ

77号　Contextual Algorithms
建築と都市のアルゴリズム
2010-春号　128頁　定価:本体¥2,381+税

78号　Redefining Collectivity
集合のつくり出すかたち
2010-夏号　＊品切れ

79号　石上純也
2010-秋号　＊品切れ

80号　建築年鑑
2011-冬号　144頁　定価:本体¥2,381+税

81号　三分一博志
2011-春号　208頁　特別定価：本体¥2,667+税

82号　日本の都市空間2011
2011-夏号　120頁　定価:本体¥2,381+税

83号　Emergent Spatial Frames
やわらかな骨格へ
新しい空間を実現する構造のアイデア
2011-秋号　128頁　定価:本体¥2,381+税

84号　建築年鑑
特集：3.11震災と建築家
2012-冬号　＊品切れ

85号　住宅の系譜
アトリエ・ワンの全42住宅
2012-春号　128頁　＊品切れ

86号　新世代建築家からの提起
2012-夏号　＊品切れ

87号　乾久美子
2012-秋号　＊品切れ

88号　建築年鑑
2013-冬号　128頁　定価:本体¥2,381+税

89号　木の建築
2013-春号　＊品切れ

90号　堀部安嗣
2013-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

91号　模型という建築
2013-秋号　128頁　定価:本体¥2,381+税

92号　建築年鑑
2014-冬号　128頁　定価:本体¥2,381+税

93号　篠原一男
2014-春号　144頁　定価:本体¥2,381+税

94号　住宅地から学ぶこと
2014-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

95号　若手構造家の思考
2014-秋号　＊品切れ

96号　建築年鑑
2015-冬号　128頁　定価:本体¥2,381+税

97号　曲線と曲面
2015-春号　128頁　定価:本体¥2,381+税

98号　ランドスケープ2015
2015-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

99号　家　妹島和世
2015-秋号　160頁　定価:本体¥2,381+税

100号　JA60年艦
2016-冬号　224頁　特別定価：本体¥2,593+税

101号　建築―時代―言説
2016-春号　128頁　定価:本体¥2,381+税

102号　若手建築家がつくる
家，そして彼らの仕事
2016-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

103号　まちのはじまり
2016-秋号　128頁　定価:本体¥2,381+税

104号　パブリックスペース
2017-冬号　128頁　定価:本体¥2,381+税

105号　MAKOTO TAKEI＋CHIE NABESHIMA
／TNA 2004-2016
2017-春号　160頁　定価:本体¥2,381+税

106号　都市へ向かう住宅
2017-夏号　128頁　定価:本体¥2,381+税

107号　ディテールの思考と挑戦
SPACE IN DETAIL
2017-秋号　128頁　定価:本体¥2,381+税

108号　平田晃久 2017→2003
Akihisa HIRATA
2018-冬号　160頁　定価:本体¥2,381+税

新建築1月号
広告目次

広告掲載企業

あ

荒川技研工業……5

か

元旦ビューティ工業……10

け

ケイミュー……1

し

シェルター……2

せ

セントラル硝子（コンペ告知・結果発表）
……22, 23, 25 ～ 31

そ

総合資格……表 2

て

寺岡オートドア……7

と

東西アス協組建築講演会……14

に

日新工業……16

日新工業（コンペ結果発表）……33 ～ 40

日本電気硝子（コンペ結果発表）……43 ～ 45

の

ノザワ……225

ひ

ピーエス……226

ふ

藤森鉄平石……225

も

木構造デザイン……表 4

森村金属……6

ゆ

ユニオン……12

ユニオンシステム……7

よ

吉野石膏……8

淀川製鋼所……4

る

ルイスポールセン ジャパン……20, 21

わ

YKK AP……表 3

求人広告掲載企業

あ

アルク設計事務所……225

新建築社ホームページ　https://shinkenchiku.online

『新建築』資料請求方法について

個人情報保護法に基づき、読者の皆様の個人情報保護を図るため、『新建築』では新建築社ホームページ上に広告掲載企業を閲覧できるようにし、各企業のホームページをリンクいたしました。資料請求をされる際は、各広告掲載企業へ直接資料請求を行ってください。

定期購読のご案内

新建築社では、毎号読者の皆様へ直接お届けする、便利な年間定期購読のお申し込みを受け付けております。
日本全国どこでも、送料無料にてお届けします。

定期購読料

新建築
毎月1日発売

12冊（1年間）
消費税込
送料無料

29,040円

新建築
住宅特集
毎月19日発売

12冊（1年間）
消費税込
送料無料

29,040円

■お申し込み方法

〈インターネットでのご注文〉
新建築オンラインショップからお申し込みができます。
詳細については、下記ホームページをご覧ください。
https://shinkenchiku.online

〈FAXでのご注文〉
ホームページからダウンロードした申込書（PDF）で受け付けております。
ご記入の上、弊社年間定期購読係までお送りください。
詳細はホームページをご覧いただくか、年間定期購読係にお問い合わせください。

＊送料は無料です。
＊特別定価の際の差額分は弊社で負担いたします。
＊臨時増刊、別冊は年間定期購読には含みません。

〈書店でのご注文〉
最寄りの書店にてお申し込みください。
＊お申し込み方法は書店によって異なります。書店に直接お尋ねください。
＊定期購読の取り扱いを行っていない書店もありますのでご注意ください。

■お願い

□お申し込みの際は、ご希望の購読開始の月号を明記してください。
□複数年でのお申し込みは受け付けておりません。購読のご継続については、弊社より別途ご案内いたします。
□お届け日は、地域によって書店での発売日より遅れることがあります。あらかじめご了承ください。

■個人情報利用目的について

年間定期購読のお申し込みに際し弊社が取得したお客様の個人情報は、定期購読に関する必要な業務（発送、継続のご案内等）の他、新刊や各種イベント（建築セミナー、展示会等）のご案内、また、お客様個人を識別できない統計資料の作成等に使用する場合があります。なお、弊社が取得したお客様の個人情報は、弊社の内部資料として厳重に保存、管理し、第三者に提供することはありません。

●お問い合わせ
〒 100-6017
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号　霞が関ビルディング17階
株式会社 新建築社
年間定期購読係（平日 9:30～17:30）
TEL：03-6205-4380　FAX：03-6205-4386

月評

ゲスト：**藤原徹平**

平田晃久

平田　日本の現代建築は，建築家同士の議論を通じて文化を形成してきた独特の歴史があり，長年『新建築』をはじめとした雑誌が議論の場としての役割を担ってきました．しかし現在，日本の建築メディアの役割が弱体化し，そのような場として機能しなくなってきています．そこでこの1年，対談ゲストを招き，扱うプロジェクトを絞って問題提起となる議論を展開できたらいいと思っています．

12月号はなかなか渋い号ですね．『新建築』には確かな建築だけでなく，そこから何かが始まりそうな不確かな建築がもっと載ってほしいと感じます．その中で，**ところざわサクラタウン**は他のプロジェクトと質を異にしていて興味をそそられます．建築としての良し悪しの判断ができる地平が揺らぎ，「こんなクレイジーなことが起こっているのか!」という驚きがありました．特異なクライアントや関係者との対話でポップアップしたことが，そのまま現出したような異常さというか．しかし誌面も隈さんのテキストもなぜか淡白です．そこで元隈事務所の藤原徹平さんに対談の相手をお願いしました．

藤原　まずこれがデザイン監修のプロジェクトであることに驚きました．隈さんの面白いところはデザインビルドでも監修でも無関係に隈さんのデザインにしてしまうところですが，とはいえ『新建築』としてはもっと取材して，面白い論考なり図面なりを引き出してほしかったという想いがあります．

平田　松岡正剛さんや荒俣宏さんといった，僕が学生の頃熱心に読んでいた（今も読みますが）方々の雰囲気ゆえか，隈さんが「建築を消す」ことをある不確かさの中で試みられていた1990年代を思い出しました．今でこそ安定した隈さんのやり方があるように見えますが，その頃の隈さんは，予想外の解がある論理的思考の結果出てくる魅力がありました．そういう意味で僕はM2（本誌9203）すら思い出してしまうのですが，これは的外れでしょうか．

藤原　僕がこの建築で感じたのは，たとえば長年にわたる石のトライアルや，中国のプロジェクトなどで実践してきた金属メッシュの表現，V&A Dundeeでようやく実現した多面体の表現，神社建築のディテールなど，ここ15年くらい，世界各地で多様な都市コンテクストに応答しながら育ててきた建築のトライアルが，自己コンテクスト化して建築に入り込んでいることです．M2の時は歴史言語を借りてきたポストモダンの表現だったけれど，今回は自分の言語的引き出しでランドスケープ的に表現されている面白さがあり，どこか余裕を感じます．

平田　たしかに．これまで隈さんが積み上げてこられた手法があるからこそ，こういう投げ出したような建築が成立していると感心します．ただここまで野蛮さを持った建築はこれまでなかったのではないでしょうか．それはKADOKAWAという特殊なクライアントや松岡さんや荒俣さんの存在に対して，隈さんがメディウムとして働いた結果のようにも思えます．ある意味で建築が消えているのかもしれないと．

藤原　以前，隈さんは素材と環境という2軸から建築をつくっていました．（『隈研吾／マテリアル・ストラクチュアのディテール』彰国社，2004年）．しかし今回は，周りの環境に応答した素材というわけではありません．巨大な石の塊，製造・オフィス棟の住宅地に面する側の真っ白な味気ない外壁，ひと山200mmのエキスパンドメタル，流造りと妻入りを組み合わせた神社の屋根など，自分のプロジェクトの中で，前景と背景のように応答関係をつくろうとしています．これまでのマテリアル・ストラクチャーの建築からなぜ離脱しようと考えたのか，そのあたりは論考から読み取れなかった．もしかしたら，サンパウロのJAPAN HOUSEやV&A Dundeeなどの海外の実践から，都市化のポピュリズム化にどう建築家が答えるべきかが見えてきたことによるのかもしれません．もうひとつ現地を見て思ったことは，2面が住宅地，1面が幹線道路を挟んで工場地帯，もう1面は雑木林という敷地に対する，割り切りのすごさです．神社と石の塊，一部の回遊動線だけ有機的に構えをつくって，あとはきわめてロードサイド的に解いています．

平田　誌面からは周りに何もない敷地かと思っていたのですが，現地に行くと周囲に武蔵野の森が残り，その断片が東所沢公園になっていて，ここも昔は森のような場所だったのではないかと思いました．基壇に駐車場を収め，その上の床はドライな石貼りなのですが，もう少し東所沢公園に連続する土のようなランドスケープでもよかったのではないかと思います．昭和天皇が皇居につくった，武蔵野の雑木林をそっくり移設した庭の，現代版みたいなものもあり得たかもしれません．

藤原　それは僕も感じました．隈さんが設計しただろうディテールを持つ地面から浮いたコンクリートの道が，東所沢公園から中央広場へ続きます．武蔵野の森の上に新しく石の床を浮かす，という関係性は，森舞台 登米町伝統芸能伝承館（本誌9609）から継承される切れ味のよいディテールです．森というレイヤーが公園から敷地まで基盤にあり，その上に第三の場所がレイヤーとして重なるという世界秩序が敷地全体で徹底できていれば，角川源義の武蔵野の森への思いや，アニメが神話や日本人の自然観と関わりがあることなど，もっとダイレクトに示せたかもしれません．惜しいことをしたと思いました．

平田　とはいえアニメとアニミズムとの連関を感じさせる全体構想や，リアルな本や文物に媒介された知を葬る墓のような石のマッス，神社といったものが，一見ばらばらでありながら，一段抽象度の高いレベルでは呼応し合っていて，とても興味深いです．他方でプランがとても控えめな感じです．松岡さんの言う「ランダムジオメトリーの多殻建築」がもっとも現れる4階平面は，アートギャラリーと本棚劇場の関係をもっと突き詰められるようにも見えます．

藤原　隈さんは非常にフレキシブルかつ効率がよい思考を組み立てます．自由にやれるところは徹底的に遊んで，やれないところはきわめて行儀よい．いつもその線引きの直感力には驚かされました．物流部分などまったく触れてなさそうな場所があるけれど，力を入れたミュージアムの石の塊と本棚ミュージアムできわめて効果的にサクラタウンの認知度を上げていて効率がよい．その極端さが面白い場所性をつくっています．もっとさらに両極に振り切るか，あるいは何もやらないところでもっと別種のバラック化をしていくか，次の展開を観てみたいです．

平田　全体計画のめりはりに関してはよく理解できます．この計画はある意味で超高層付きの再開発と相似です．上層の均質なオフィス部で稼いで基壇部に街とのインターフェースをつくるという定石を，ここでは横倒しにして物流機能とオフィスを均質なラーメン構造で安価につくり，それ以外を地域とのインターフェイスにしている．

一方，まちづくり，という観点ではかなり独創的な発想の転換がなされていますね．いわゆる周辺環境という意味合いでのコンテクストから導かれた計画ではない．それが素材と環境を2軸とするこれまでの手法から逸脱している理由かもしれません．また，普通のまちづくりであればインターフェイスとなる部分に店舗や交流施設などを設けて賑わいを生み出そうとします．しかしここには閉鎖的な石の砦と，神社という中に入れない建築があり，お店は脇役です．そしてそれゆえにこそ奇妙な聖地性が生まれ，直接的な連続性とは違う位相で，この場所との繋がりができている．賑わいを直接的に目指すがゆえに平準化した風景を生んでしまうまちづくりとは異なり，かなり特殊なアクティビティが許容される領域が生まれている．ともかくこれは一筋縄ではいかない問題提起的な建築ですね．

月評

髙橋一平

新しい建築とは何だろう．月評を通し改めて学びたい．

巻頭記事：これからの都市と郊外へ向けては，読むほどに，では建築に何が提示できるかの方へ関心が向いた．コロナ禍で，社会や人間と，建築や都市がずれているとみなされる現代的状況に対し，建築はずれを認め追いかけるのでなく，むしろ先回りして考え抜いた知恵を建築として提示し，誰かの前に突然現れ，建築から社会を導くという流れを取り戻すことの方が，建築における価値の現し方ではないか．新しい建築とはそういう時に現れるのではないか．

今号は，ページをぱらぱらと捲っただけでは各作品が持つ「趣味性」が強く印象に残り，うっかりすると多くを見落とす．作品が建築を通じ起こそうとした事件あるいはその本質が，建築家や事業主体による趣味や嗜好と取られても仕方ないほど，素材やディテールの拘りによってその表面が覆い隠されてしまっている．そのため作品を読んでも何だか他人ごとのようにしか覚えず一歩踏み込みづらい．読者の立場としても自身の関心を頼りに読むほかなくなる．これは建築という価値が堕落へ向かう道だ．一方，本誌を深く読み込むと，むしろ作品の登場順序に興味を抱いた．ページを捲るたび，新しい建築とは何であるのか一緒に模索しているようにも感じ，多くを学んだ．すなわち社会状況の行く先を追求する傍らで，では建築という価値は未だ自律的に存続し得るのか，という身近に切迫した危機への提起が，巧みな誌面構成によって炙り出されていたと言えるかもしれない．

まず，巻頭作品はなぜ小林古径と吉田五十八の復原と移築なのか．渋すぎるのではないか．**小林古径記念美術館**は新しい建築なのか．しかしここに本誌のポリシーを垣間見た．歴史性，伝統，知恵の蓄積こそ建築の真髄であり原点．いかなる災禍でも，社会が変容しようとも建築には揺るぎない価値が存在することが暗に示された．また，そう受け止めたい自分がいた．今まで建築に前衛性ばかり追い求めてきたが，この作品に深く安定した源流を感じ，一瞬すがる思いになった．伝統的建築がこの日本で壊されず移築され，新しい美術館と共に生まれ変わったことは，建築的価値の存続において新たな希望なのだ．

変わって次の**ところざわサクラタウン**は，建築が社会と共に堕落しつつある現代的状況の渦中を映し出す複雑な作品だ．この複雑性は設計主旨において「伝統」と「デジタル的創造」の「共振」と位置付けられているが，これを「巨石のミュージアム」なる隠喩を伴う建築の知覚と，設計プロセスとの関係に問題を置き換えると，学ぶところが多い．隈研吾さんのデジタル社会との葛藤は歴史が長い．1990年代後期では「建築を消す」と銘打ち，繊細な部材が等しく反復するルーバーや，反射により知覚を撹乱するガラス，石，木材の構築にデジタルの概念を重ね合わせ，先の建築像を明快に模索されていた．今作では，素材の「粗さ」によりデジタルへの抵抗を示す傍ら，外装パネルの割付がやはり視覚的錯乱を呼び起こし物質性がかえって消去されるようにも認識できたり，外観のオブジェクティブな主張にデジタルとは真逆の審美眼が投影されていたりと，対立的な試みがなされている．さらに複雑なのは，それがデザイン監修という立場の下，表層で操作されているため趣味にも映ることだ．近年のヨーロッパ現代建築はレンダリングがそのまま建ち現れたようなものが多い気がするが，全体としてそれと似た感触を覚えた．高度なデジタル設計プロセスにおいてモニターに映る高解像度なレンダリングを前に，その先の想像が乗り越えられない時がある．その時，伝統的な建築スタディと比べ，想像しながら設計するという知的な工程がひとつ抜けてしまう．ここでも，「粗さ」を追求する設計者の意思さえデジタル技術が呑み込み，暴走して建築が現れたのではないか．そのような現代建築のスタディに関わる問題に対しては，前向きに進むよりも技術の暴走を統制する力量を携えることで，建築という価値を人間の知性の現れとして存続させ得るのではないか．近頃は普通に外出した時にも，まるで隈さんが江戸の大工の生まれ変わりかと思うほど，爽快かつ適当に隈建築が建ち上がっていき，まさに「建築が消える」ように社会へ溶けゆくなりふりを興味深く眺めていたのだが，ここでは複雑さゆえ，旧来の建築的欲望が逆に露わとなったように見受けた．続くミュージアム内部でも，出版社大手の蔵書という尊い蓄積であり本質が，商業的演出により惜しげなく大衆に捧げられ，自らその価値を下げる様を目の当たりにしたようで居たたまれなくなった．また本棚ひとつとっても奇抜に映ることは，ひと昔前であればモダンで粋な精神に読み替えられたかもしれないが，価値観が多様化した社会状況においてはかえって趣味的に映る．このようにたとえ当事者の本意でなかったとしても，世界があたかも趣味で埋め尽くされたかのように認識されることによって，誰ものごとの本質を経験できなくなると想うと息が苦しい．

こうした文脈で，次の作品では建築の価値を再びそれ自体へと戻す意思が示され，気力を取り戻した．アトリエ・ワンによる複数の試み，特にBridge Sprout，Fire Foodies Club，Lakeside Dancers Clubの3作は，プログラムよりも建築それ自体の価値の方が，少しだけ早く社会へ姿を現していることにより，建築の自律的な価値が謳歌されている．新しい橋（かもしれない）物体が生じる瞬間を表現することや，巨大なフードや見慣れない形の木造建築が突然現れ，何らかの建築的な意味を示唆することが，次第に人を惹き付けていくという流れは，アトリエ・ワンによる過去数々の仮設建築による試みの意図を遡ってクリアに定義するものであった．Lakeside Dancers Clubでの設計主旨題目にある「箱舟」とは，建築という価値すら救うものかもしれない．他方で，仮設建築物は建築の存在価値を事件性と共に社会へ訴えかけるひとつの種だが，こうしたことを常設の建築を通して示すには何ができるだろうか．

以降頁は，再び「趣味の体現」がしばらく続く．とりわけ**銀座駅リニューアル**では，色彩，照明，ネオンサインなど，一貫した表面的な手法によって，銀座駅あるいは地下鉄の起源や，過去の痕跡が覆い尽くされ，地下鉄が社会基盤であるという本質さえ捩じ曲げられた．もはや地下鉄は遊園地の乗り物である．初めて地下鉄が開通した頃とは，どんな空気だったのだろうか．湿気や，カビや，焼け焦げたモーターのにおいが充満したトンネル，車輪や注意喚起の轟音，地下鉄が開通してもなお和装で訪れた女性が放つ和簞笥の香りなど，すべてが消えた．そんな起源を知ればきっと何か反応できるに違いない感性豊かな私たち人間には，天井に印刷された写真ミュージアムを見上げるだけでは何を尊ぶ余地もない．消費社会が生んだシミュラークルの循環も，AIの暴走も，同じように人間の感性を離れていったようだ．「誰にでも分かりやすい」空間を意図したとのことだが，地下鉄に乗ることとはその程度の経験だろうか．高齢の方，車いすや眼の見えない方だけでなく，想像力や感性が豊富な人や鈍感な人など，多面的に不特定な多数が利用する場所にふさわしいユニバーサルな設計があったはずだ．そうしたことへの想像力や知性が抜けた空間に思え残念に感じた．まずは公的事業者によるブランディング思想という，趣味世界への堕落の第一歩を批評可能とするプロセスが必要だ．

こうした混乱をよそに，**日亜化学工業 横浜研究所**のファサードは，建築という物質とその知覚を扱う哲学が誌面の判型と共に壮観に現れている（108～109頁）．ガラスという一見固そうな面材を捻るという操作によって，全体として外壁面が柔らかく感じられることの対比も知的だ．しかし，更新を続ける貫禄ある建築家の作品を前に，若い僕らも何か次の手を尽くさねば，と思う．新しい建築とは何だろう．

月評

松川昌平

1年間隔月で月評を書くこととなった．まず最初に簡単な自己紹介をすると，慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）でアルゴリズミックデザインという設計方法論の研究と実践を行っている．アルゴリズミックというとコンピュータを使って自動的に建築を生成しているというイメージがあるかもしれない．たしかに，アルゴリズムとは，ある問題を解くための手順のことなので，手順が明らかになりさえすれば，それをコンピュータプログラムに翻訳し，アルゴリズミックに建築を生成することはそれほど難しくない（難しいけど）．でも，本当に難しいのはその逆である．今のところコンピュータは勝手にアルゴリズムを考えてくれない．なので研究の大部分は，アルゴリズミックに建築を生成することよりも，建築をアルゴリズミックに観察すること，つまり，一見異なるように見える建築群の背後に潜む法則性を観察することに心血を注ぐことになる．

今回，せっかく貴重な機会をいただいたので，『新建築』という誌面を対象敷地として，掲載されている建築群をアルゴリズミックに観察するということに挑戦してみたい．なぜなら，多様な建築群を「同じ法則性＝〈かた〉から生成された異なる現れ＝〈かたち〉」として読むことができれば，そのプロセスを逆にして，まちや都市全体をより多様に生成することができるのではないかと考えるからだ．

たとえば，**KADOKAWA 所沢キャンパス**と**CIC Tokyo**は，どちらも外形が長方形のオフィスビルの内装ながら，一見すると対照的な印象を受ける．しかしCIC Tokyoの15階に採用されているボロノイ図の幾何学的な性質を読み解いていくと，両者は同じ法則性＝〈かた〉の異なる現れ＝〈かたち〉として見えてくる．

ボロノイ図とは平面上にある複数の点（母点という）の勢力図である．ある母点から少しずつ領域を広げていって他の母点から広がってきた領域と衝突する境界線がボロノイ図となる．あるボロノイ図にはドロネー図という双対図形が必ずひとつ存在する．ドロネー図とは，端的に言えば，ボロノイ図の母点同士を三角形状に結んでできる図形である．ボロノイ図とドロネー図は一方が決まれば他方が決まるといった相補的な関係になっている．

CIC Tokyoの15階においては，ボロノイ図がオフィスで必要とされる機能領域，ドロネー図が機能領域相互の関係性を表していると言えるだろう．おそらくスタディ段階では各機能領域を円形で表し，サークルパッキングの要領で機能領域の配置や関係性を動的に試行錯誤していったのだろう．そしてある程度配置が決まった段階で，円の中心を母点としたボロノイ図をその都度生成し，領域を隔てるインターフェイスに建築要素を割り当てていくというスタディを繰り返し行ったのではないだろうか．

ここでボロノイ図の各辺を直交グリッドに沿うように変形することを考える．詳しくは述べないが，ある条件を満たせば，ボロノイ図を長方形分割図に変形することができる．長方形分割図とは，長方形の外形を小さな長方形で隙間なく分割した図である．小さな長方形の中心を母点とすれば，隣接する長方形の母点同士を結んだ図形を描くことができる．このように得られた図形はボロノイ図に対するドロネー図のようなもので，長方形相互の隣接関係を表す（ここでは仮に隣接関係図と呼ぶ）．

このように見ると，CIC Tokyoと同じように，KADOKAWA 所沢キャンパスのプランニングも，長方形分割図を機能領域として，そして隣接関係図を機能領域相互の関係性として表現することができる．

そのような視点で改めてそれぞれのオフィスを観察してみると，KADOKAWA 所沢キャンパスは，部分的な機能領域の設えはシンプルだが，隣接する領域とのインターフェイスを極力オープンにすることで，視線の抜けを生み出し，全体として多様なオフィス風景をつくり出すことに成功している．対してCIC Tokyoは，部分的な機能領域の多様性は際立つものの，隣接する機能領域とのインターフェイスが比較的クローズドであるため，全体的なオフィス風景の単調さが少し気になった．ボロノイセルをオフセットしてつくられたように見える廊下部分も，「ROJI CONER」と同じようにボロノイセルとして配置した上で各セルからの関係性をより多様にしていくという方法もあったかもしれない（クローズドな部屋が与条件だったのかもしれないが）．

部分的な要素を数多く分割した上で，要素同士を関係付けて全体を構成するという意味では両者は共通している．しかし，部分は単純だけど全体の関係性が多様なKADOKAWA 所沢キャンパスと，全体の関係性は比較的単調だけど部分を多様にしたCIC Tokyoというように部分と全体の扱い方が異なるのだ．どちらも多様性を生み出せることには変わりはないが，あらゆる多様な生命がAGTCというたった4つの塩基の組み合わせからできているように，部分を単純に，そして関係性を多様にすることで，全体の多様性を創発させようとするような設計手法は，ワークプレイスに限らず一般的に有効な設計手法と言えるだろう．

そう考えると，**ところざわサクラタウン**の角川武蔵野ミュージアムの外観が，2万枚もの花崗岩で覆い尽くされていることもうなずける．全体の直方体から部分的に面を切り欠いていくだけでは大味になりがちな外観を，部分的な花崗岩を多数組み合わせることで全体的に多様なパターンを創発させようというわけだ．また，書院造の「違い棚」や「霞棚」をベースにしたユニット・シェルフを多数組み合わせるのも同じような狙いからだろう．隈さんの「デジタルな世界が陥りやすい，ツルツルでフラットへ向かうのではなく，粗さへと向かうという直感」がまさに形をなしている．

建築の部分を単純に関係性を多様にするという手法に意識的になれば，もう一段階メタな視点で，建築を部分として，まちや都市を全体として敷衍できるだろう．

ところざわサクラタウンの全体計画では，「コンセプトは「まち」をつくる．求められたのは「多様性」であった」とあるが，部分的な建築はどれも多様だが，ひとつひとつの建築が大きく，それらの関係性が少ないために，まち全体としてはやや単調に感じられた．

特集記事：**これからの都市と郊外に向けて**で書かれているような「ほぼすべての人が，長い時間の中でシナリオをカスタマイズしている」状態はコロナ禍に限った話ではないだろう．**記事**：**都市の資源へのアクセスとふるまい**の中で中島諒人さんが言うように「演劇は人間の身体的エネルギーを起点に，演じ手と観る人の想像力を媒介に，見えないものを見せる芸術」であるならば，「建築は人間や環境のエネルギーを起点に，つくり手と使い手の想像力を媒介に，見えないものを見せる芸術である」とパラフレーズできるかもしれない．

東京芸術祭2020野外劇 NIPPON・CHA! CHA! CHA! ／ **Bridge Sprout** ／ **Fire Foodies Club** ／ **Lakeside Dancers Club**の一連の建築群は，つくり手や使い手の想像力を媒介に，長い時間の中で部分的な建築をカスタマイズしていくことを通して，見えにくい全体的なまちや都市の多様性を見えるようにしていく試みとして共感することができた．部分としての建築を多様にしていくと同時に，全体としてのまちや都市も多様にしていくためには，ほぼすべての建築家が，長い時間の中で，継続的にまちや都市をカスタマイズし続けなければならないのであろう．

月評

青柳創
小野江綾
佐藤達保
吉川圭司

今年1年の月評では，組織に所属するU-40世代の青柳創，小野江綾，佐藤達保，吉川圭司の4名が毎月誌面内容を議論の上で，月ごとの執筆者を決める形式を取ります．今月は日建設計の青柳が担当し，日建設計Digital Design Lab.の中山和典と重ねた議論をベースにしました．

1972年の映画「フェリーニのローマ」．ネオレアリズモの視点で，急速な都市化に伴う道路インフラと自動車騒音の襲来が古来の街並みや人びとの結び付きを分断した憂いや，都市に生きる人びとの群像劇からローマ社会の荒廃ぶりを表現した作品です．オートバイに跨った暴走族が深夜のローマを疾駆するクライマックスのシーンでは，ライダー目線の動的な視点から街の建物が次々と捉えられ，ついには溶けて街全体が1枚の絵巻物のように繋がる様は，モビリティが都市に新たな視点を与えることを示唆しています．それから半世紀が経ち，100年に一度のモビリティ革命期とも呼ばれる現在，モビリティを取り巻く状況には大きな変化が起こり始めています．渋滞，交通事故，交通公害や地球温暖化問題といった，20世紀からのモータリゼーションが置き去りにしてきた諸問題に対してはEVや自動運転技術を発展させて解決を図り，これまでのモビリティに求められてきた早く多くを運ぶという価値観，そして周辺領域である都市空間や建築との境界の概念をも変えながら．日本の都市交通には鉄道を中心に発展してきた特徴があり，駅を中心に徒歩15分圏内の同心円状に不動産価値を決めるセオリーが，多くの街の性格とその広がりを画一的なものにしています．しかしモビリティ革命により，たとえばMaaS（Mobility as a Service）のような概念が都市に実装されれば，鉄道文化のよさを活かしながらそこにパーソナライズされた移動の選択肢が加わり，移動手段を超えた建築空間の延長としての機能（たとえばワークスペースとしてなど）が移動距離や時間の概念を変え，経済による画一的な開発者目線ではなく，ユーザー目線の特色を持った街の起点が生まれる動機となり得ます．結果として都市と郊外といったヒエラルキーすらシャッフルされるかもしれません．すでにスマートシティプロジェクトなどで都市と建築，モビリティの融合が始まっており，居住域やワークスペースの延長としてモビリティが捉えられ，空間を扱うことはもはや建築家の専門領域ではなくなりつつあります．モビリティ革命に端を発した動きにより都市やインフラ，建築のあり方は今後大きく揺さぶられることでしょう．

特集記事：これからの都市と郊外に向けてを読んで，コロナ渦のはっきりしない終わりに向けての動き出しが住まい方や働き方に多くの選択肢を生み，個々のシナリオのカスタマイズとしての変化を生んでいる状況と，モビリティ革命がもたらそうとする変化は大きくリンクするような気がしたのです．多少強引ですが冒頭から考察してきたモビリティとの関わりの中で新しいシナリオをつくり出す可能性を感じるプロジェクトについて，見ていきたいと思います．

ところざわサクラタウンは，居住地と働く場所，都心と郊外の二項対立を問い，20世紀的な都心や駅との関係とは異なる，狭く深い体験ができるニッチな価値観で人を呼ぶ新たな立地の可能性を示しています．また，ミュージアム内での松岡正剛氏の編集工学を基にした，フィジカルな本との出会いが新たな知的好奇心を生むための書棚レイアウトが体現するアソシエーションは，先の記事におけるカスタマイズと重なるものを感じます．しかし建物配置としては，複数用意されたコンテンツを繋ぐ場所としてのオープンスペースおよびそこへ向けての各施設の顔出しには，アソシエーションのような効果や，隈氏の言う「第三の場所」に見合った新しい活動が生まれる気配が感じられません．誌面の配置図表現も駅などの周辺環境との関係が読み取れず，「第三の場所」の立地的特性を表現できていない点も残念です．もともと出版業や印刷業は典型的な都市型工業で，交通の便のよい都心に零細企業が集中して同業集団を形成した住工混在の特徴を持っていましたが，都市の高密度化や，新たに流入する居住層との間の騒音問題等により工場の郊外移転が進み，地域との結び付きが次第に弱まりつつあります．それに対して「第三の場所」は今後のIoTや物流，モビリティ革命との相乗効果で，経済主義に偏った都市開発の中で失われつつある特色ある地域性や，フィジカルな人の繋がりを取り戻せる期待感のある企画だと感じます．将来的には「第三の場所」を起点にして，周辺地域も巻き込み，より面的な「第三の地域」へと発展することも期待したいです．

記事：都市の資源へのアクセスとふるまいでは，公園や広場と同様に道路も「施設」としているところが予見的です．特に自家用車を持たない人が多い都心では，物流の恩恵は誰もが受けているものの，交通事故のリスクの割には道路から「施設」としての公共サービスを十分に享受できているとは思えません．しかし今後MaaSの進歩によって都市の環境は快適で安全，クリーンになり，現状ほどはその幅員が必要なくなるであろう道路は公園などのように使える「施設」になり得ますし，災害時の物資輸送や帰宅困難者のための居場所など不足する都市機能に充てられる可能性もあります．今後の都市計画は既存の都市インフラの意味を問い直すことから始めるべきかもしれません．

東京虎ノ門グローバルスクエアや**ヒューリック両国リバーセンター**，**京橋エドグラン**はモビリティと建築との出会いに際しての敷地を超えた取り組みと，他の交通ネットワークと連携するハブにもなり得そうな点が興味深いです．しかしせっかくモビリティとの出会いによって獲得された視点が，建築提案へと昇華されていないのが残念です．20世紀初頭の自動車の大量生産が始まった時代に，アントニオ・サンテリアが「新都市」の中で公共インフラや都市交通との出会いが建築の姿を変容させ，その領域を広げるモチベーションになり得ることを示唆していますが，それから100年後のモビリティ革命期にある現在，モビリティとの関係における新たな建築のビジョンとはいかなるものでしょうか．

日比谷 OKUROJIは都市交通の軌道下である高架下を「施設」と捉えており，線的な街の展開に可能性を感じます．しかし通りを挟んだ対岸がホテルの裏側である状況を鑑みても，内廊下型で完結せずに通りとの関係がより意識されていれば，線を起点とした面的な街の広がりを誘発できたのではないでしょうか．意匠面では既存の土木躯体の見せ方が爽やかで，手の付け方がよく整理されています．同じくリノベーションの**兜町平和第5ビル／旧第一銀行本店附属新館再生**や，**むさしのエコreゾート**は引き算の例として，**東京第8データセンター**は足し算の例として，それぞれ足し引きの加減は絶妙でクールだと感じます．日本における既存ストックの活用レベルが上がっていることを頼もしく思う反面，最近のリノベーションにおける既存解釈は紋切型になりつつあり，若干飽きてきた感もあります．今後は型を超えた新しいリノベーションにおける創造を期待したいです．

最後に話をモビリティに戻しますが，先に挙げたむさしのエコreゾートが隣接する武蔵野クリーンセンターは改修により，工場の排熱を活かして災害時でも周辺の公共施設に電気と蒸気を供給できる地域エネルギー供給拠点の役割を担っています．これまではこのようなポテンシャルを持った施設は都心から離れているために未利用エネルギーの活用は難しいとされてきましたが，今後のモビリティ革命とスマートエネルギー社会を目指す中で，平常時，災害時のレジリエンスを動機とした郊外の「第三の地域」の起点となる可能性は大いにありそうです．

編集後記

10数年かけて竣工した神奈川工科大学KAIT広場（82頁）は，まるで雲や木漏れ日のような自然現象が建築で感じられるプロジェクトです．しかしそこで実現されているのは，空間体験と実際の距離の多元的な様子で，人の過ごし方，互いの関係がちょっとずらされ，人やものの集まり方がつくられているようでした．白井屋ホテル（100頁）は既存の構造と緑の丘により，街とランドスケープを建築で関係付け，谷口吉生さんは，谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館（64頁）で父，谷口吉郎との関係を，場所，時間を繋いだ建築として試みられています．他にも，三栄建設（118頁）やHANEDA INNOVATION CITY（128頁）ではデジタルテクノロジーを新たに建築に取り込み，日貫一日（146頁）などは地域の関わりを設計しています．掲載している他のプロジェクトでも，設計の対象が敷地に閉じることの不自由さから開放しようとする試みであるように思います．建築論壇の石上純也さんと藤本壮介さんの論文は，違う言葉で語られていますが，変化する時代の中で未だ変わらない建築の不自由さから次に向かおうとする試みが感じられます．
新型コロナ禍が収束することなく，新年を迎えました．今後どこまでの変化がもたらされるのか，まだ分かりませんが，一方で，建築で考えられること，可能性は広がっていると感じました．（ss）

神奈川工科大学KAIT広場では，石上純也さんからの「時間の変化が空間の質も変化させていく状態を見せたい」というリクエストをスタートに，誌面構成のやりとりを重ねました．写真は，時間によっても，立ち位置によっても，色，明暗，ムラ，距離，広さ……など空間の印象が細やかに変化していきます．選定する写真や順番で，伝わる空間のダイナミズムが変化するので，難しさと発見が共存する編集プロセスでした．石上事務所の誌面や表現を詰めていくプロセスは，建築をつくることに対する彼らのある種の執念にも通じるもので，その一旦を担うことの面白さを身を持って感じました．建築論壇で石上さんの言われる新しい「そと」のあり方が誌面を通して伝えられたらと思います．（n）

名古屋の大学で学んだ私にとって久屋大通公園は栄の街中で飲んだ後に一息つく場所でした．以前の久屋大通公園は木が鬱蒼とし，繁華街からは少し離れた場所にあり，ほとんど人が来ずに落ち着くことができる場所だったからです．「Hisaya-odori Park」（172頁）はそんな久屋大通公園の北エリアが生まれ変わった場所です．オープン直後に訪れた時，以前とは異なり多くの人が行き交う場所となっていました．こうした街の変化やリニアモーターカーの開通を控え，名古屋の街の人の流れも変わっていくのだろうか，そんなことを思いました．（fkd）

日本各地で行われているスマートシティ開発は，国土交通省によると，2010年ごろは「エネルギー」「消防・非常事態対応」など個別分野に特化した取り組みが多かったものの，近年はデータの利活用で複数分野に対応する事例が増えてきたそうです．HANEDA INNOVATION CITY I期（128頁）でも，自律走行バスなど先端モビリティの開発だけでなく，2023年のII期竣工時には健康医療分野の研究施設がオープンする予定です．また，羽田空港に隣接する立地を生かして，国内外に音楽や伝統などの日本文化を発信する計画がされていることも特徴的です．ロボティクスの研究開発から人の健康サポートまで，先端技術発信から文化発信まで，さまざまな挑戦を行う街づくりに今後も注目していきたいと思います．（ls）

作品・批評募集

［作品］
作品は，建物をはじめとして，まちづくりの計画から古建築の改修まで，「建築」にかかわるすべてを対象とします．氏名・年齢・所属・連絡先を明記の上，下記の資料をe-mailでお送りください（ファイルサイズは3MBまで）．

●写真
建物の外観・内観・ディテールなど，建物の概要が分かるスナップ写真をお送りください．
●図面
配置・平面・立面・断面，および主要ディテール等，建物が理解できる内容のものをお送りください．
●建築データ
建物の所在地・主要用途・竣工年・規模・構造・主要外装仕上げ・主要内装仕上げなど．
●設計主旨
建物についての簡単な説明．敷地条件，建主からの要望，その他与えられた諸条件などを含め，建築的にどのような解決策を考え，それを実現したかについてお書きください．

投稿作品の掲載については，掲載を決定した場合のみ，こちらからご連絡します．採否のお問合せには応じかねます．
また，お送りいただきました応募資料はご返却いたしませんのでご了承ください．

［宛先］新建築社 『新建築』編集部
tel. 03-6205-4381　fax. 03-6205-4387
e-mail　shinkenchiku@japan-architect.co.jp

Recommend

Competition・Symposium
コンテスト・設計競技・講演会

現在募集中のコンペ

第9回大東建託賃貸住宅コンペ
課題　アフターコロナの社会において、賃貸住宅はどう変わるか
主催　大東建託株式会社
審査員　千葉学　赤松佳珠子　横川正紀　小林克満　峠坂滋彦
ゲスト審査員　木下斉
応募締切　［アイデア部門］2021年1月6日（水）消印有効
送付のみ受付．持込み，バイク便は不可．
［新たな賃貸スタイル部門］2021年1月6日（水）
ウェブサイトの応募フォームよりご応募ください．
https://shinkenchiku.net/compe/kentaku-2020/
詳細は本誌2009 21-24頁参照．

第56回セントラル硝子国際建築設計競技
課題　交感する空間
主催　セントラル硝子株式会社
審査員　内藤廣　隈研吾　亀井忠夫　青木淳　賀持剛一　塚本由晴　巻幡良忠
応募締切　2021年8月31日（火）
日本国内からの送付は当日消印有効．
持込み，バイク便は不可．
http://www.cgco.co.jp/kyougi/
詳細は本誌22-23頁参照．

岩槻駅前ビル

埼玉トヨタショールーム

さいたま市立美園小学校

講談社桶川流通センター（42,845.57㎡）

設計スタッフ募集

■募集職種：一級建築士、構造・設備設計一級建築士
大学生・大学院生アルバイト

■給　　与：面接の上優遇．各種社会保険完備

■勤務時間：９：００～１８：００

■休　　日：土曜日隔週・日・祝日・夏季・年末年始

■勤 務 地：ＪＲ「浦和駅」徒歩４分

■連 絡 先：電話･メールにて連絡ください。面接日をお伝えします．

株式会社 アルク設計事務所
ARC | ARCHITECTURE'S REVOLUTIONARY COUNSEL
〒330-0064　さいたま市浦和区岸町７-１-２９プリミエタワーズ浦和岸町 1F
ＴＥＬ.０４８-８３４-２７７６　　arc@saitama.email.ne.jp

1970年、ノザワが世界ではじめて量産化に成功した

ASLOC

押出成形セメント板

不燃建材のリーダー
株式会社ノザワ
株式会社ノザワ
http://www.nozawa-kobe.co.jp
〒650-0035 神戸市中央区浪花町15番地
TEL(078)333-4111　FAX(078)393-7019

広告の掲載についてのお問い合わせは下記まで
株式会社 新建築社　広告部
tel. 03-6205-4382
e-mail　ad@japan-architect.co.jp
新建築 住宅特集 ja THE JAPAN ARCHITECT

自然からの贈りもの‥‥
鉄平石 販売・施工
創業明治38年 吉
藤森鉄平石株式会社
〒392-0004 長野県諏訪市諏訪１丁目13-8
TEL 0266(52)0255(代) FAX 0266(52)5579
URL http://www.teppei.co.jp

快適・省エネ・頑丈

PS HR-C は、風や音もなくカラダに自然。夏には自然除湿の効果により、心地よくしっとりとした涼しさが生まれます。

小さなエネルギーで連続運転により、快適性をもたらします。
自然エネルギーの有効利用にも活用できます。

除湿型放射冷暖房
PS HR-C

朝日村役場新庁舎（長野県）/設計：株式会社宮本忠長建築設計事務所　撮影：井上隆司

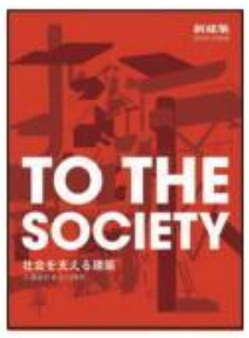
ピーエス株式会社
https://ps-group.co.jp　email：info@psk.co.jp

PS HR-C の快適性は、各地の情報センター **PSi** にて、ご体感いただけます。

新建築 住宅特集 別冊・臨時増刊・書籍

新建築住宅特集2019年3月別冊
木造住宅をSE構法でひらく
定価：本体1,852円+税
144頁／221×291mm

耐震構法であるSE構法を提供しているエヌ・シー・エヌ（NCN）の特集号。SE構法は、1995年の阪神・淡路大震災での木造建築の被害を憂慮した構造家の播繁氏の提案に端を発し、集成材と接合金物を使用した地震に強い木造住宅をつくる方法としてNCNによって開発されました。
NCNではSE構法の普及を通して、木造住宅の耐震化だけでなく、さまざまな方向へのオープン化（＝木造住宅をひらく）ということを当初から目指しています。
本特集号ではそういったNCNのSE構法による取り組みを紹介し、新しい木造住宅のあり方を探ります。



新建築 2019年4月別冊
TO THE SOCIETY
社会を支える建築 大建設計創立70周年

定価：本体2,778円+税
240頁／297×221mm

1948年創業の大建設計は、技術や性能に裏打ちされたプロジェクトを国内外問わず展開してきました。中でも、プラント施設や水族館などの専門性には定評があります。
本誌では、大建設計がこれまでに取り組んできた社会を支える建築を、6つの章に分け体系化しました。各章では大建OBと社員による座談会を収録。また、社会を支える建築の実現に向けて、どのような技術を用いて、どう工夫したのかを伝えるため、写真に図面を重ねその特徴を表現しました。豊富な図版で大建設計の70年にわたる経験と実績を紹介します。

新建築 2019年5月別冊
未来を考える6つのキーワード
対話から生まれる建築　山下設計100年への挑戦

定価：本体3,056円+税
日本語／296頁／182×257mm／B5版／平綴じ

2018年に創立90周年を迎えた山下設計の特集号。これまで山下設計は、社会・クライアントが抱えるさまざまな課題に対し、クライアントや協働デザイナー、施工者などの多くの関係者との「対話」を通し、その解決に向けた最善のアイデアを生み出してきました。本号では、そうしたアイデアを生み出してきた山下設計の設計プロセスに着目し、未来を考える上で不可欠な6つのテーマに沿って紹介します。

駅まち一体開発
TOD46の魅力

定価：本体2,000円+税
208頁／257×182mm／B5版／平綴じ

100年以上にわたり鉄道建設を基軸に国土と都市を発展させてきた日本では、TODという車に頼らない、公共交通機関の利用を前提に組み立てられた開発が多く見られます。渋谷駅や東京駅、新宿駅などの事例からは、都市計画レベルからヒューマンスケールな場の設えのレベルまで、さまざまなスケールでの工夫が読み取れます。本書ではその工夫を、5つのスケールに分類し、魅力的なTODの46の「レシピ」として、写真や図版などのビジュアルで紹介します。

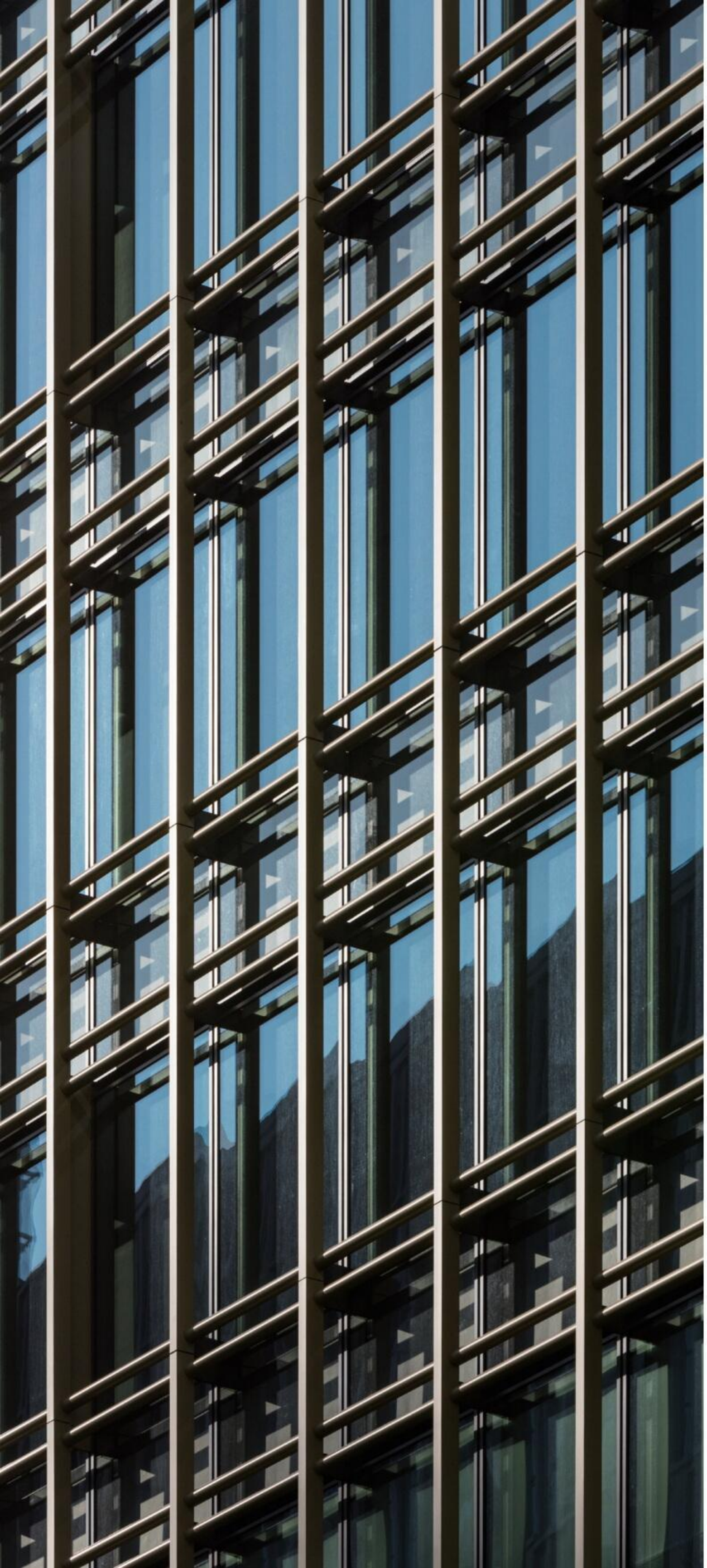
東京ミッドタウン日比谷
新たな街づくりの手法

定価：本体4,000円+税
日本語 + 英語／200頁／230×305mm／上製

2019年3月29日に開業1周年を迎えた「東京ミッドタウン日比谷」。1周年を記念して発行した本書では、日比谷に新たな賑わいをつくり出した「東京ミッドタウン日比谷」の街づくりのプロセスを紐解きます。
ここで実践された街づくりは、事業者である三井不動産だけではなく、地域の関係者や行政、有識者との意見交換や、さまざまなデザイナーが参加するチームの議論により、都市計画～ビジョンづくり～建築デザイン～施工に至るまでシームレスに検討がなされ、具現化したというプロセスがあります。完成した建築や街、そこで生まれている賑わいを撮り下ろしの写真で紹介。さらに、ここでのプロセスを、これからの都市再生における方策として詳細に紹介します。

詳細はWEBをご覧ください。 https://shinkenchiku.online

株式会社 新建築社
〒100-6017 東京都千代田区霞が関3-2-5　霞が関ビルディング17F
tel.03-6205-4380（代表） fax.03-6205-4386



FACADE DESIGN & ENGINEERING

アウター格子フレームが
日射遮蔽と美しい格子意匠に貢献する
自然換気装置を備えた
ユニタイズドカーテンウォール

東京虎ノ門グローバルスクエア

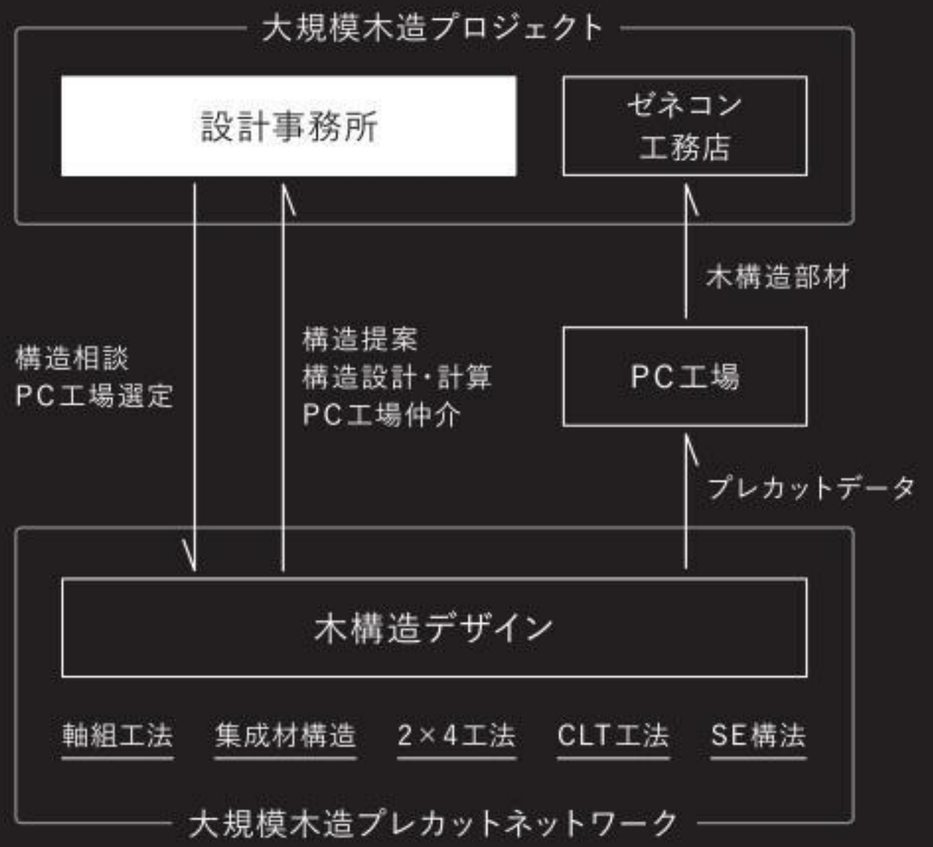
建築用途	事務所、店舗
所在地	東京都港区虎ノ門
事業主	虎ノ門駅前地区市街地再開発組合
設計・監理	日本設計・三菱地所設計 設計共同企業体
施工	竹中・西松 共同企業体
竣工年月	2020年6月

YKK AP株式会社
https://www.ykkap.co.jp

新建築
第九十六巻一号　二〇二一年一月一日発行　毎月一回一日発行

「探す」「知る」「相談する」

木構造デザインは、大規模木造建築の構造設計から、プレカットデータの作成までをワンストップで提供し、設計プロセスで生じる様々なニーズにお応えします。また、2020年10月より設計者・施工者と全国のプレカット工場をつなぐ、日本初の大規模木造専門のマッチングプラットフォーム〈大規模木造プレカットネットワーク〉をスタートしました。計画のネックとなりがちな、大規模木造に最適なプレカット工場を全国から探すことができ、大規模木造の計画をより円滑に進めることが可能となりました。



構造提案を無料で行っております。
木造としたい計画であれば、工法問わず提案可能です。
お気軽にお問い合わせください。

tsdesign.co.jp　大規模木造プレカットネットワーク 検索

株式会社 木構造デザイン　tel　03-6872-5788

発行：株式会社新建築社……東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング17階 〒100-6017……電話：(03)6205-4380／代表
© SHINKENCHIKU-SHA 2021
Printed in Japan

雑誌 04905-01

4910049050118
02200

ISSN 1342-5447

定価……二、四二〇円
本体二、二〇〇円